別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画								
事　項	記　入　欄							備　考
計　画　の　区　分	大学の収容定員に係る学則変更							
フ　リ　ガ　ナ 設　置　者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾘｯｷｮｳｶﾞｸｲﾝ 学校法人　立教学院							
フ　リ　ガ　ナ 大　学　の　名　称	ﾘｯｷｮｳﾀﾞｲｶﾞｸ 立教大学							
大　学　本　部　の　位　置	東京都豊島区西池袋三丁目３４番１号							
大　学　の　目　的	キリスト教に基づく人格の陶冶を旨とし，学校教育法（昭和22年法律第26号）により学術の理論及び応用を教授研究し，その深奥を究めること。							
新設学部等の目的	異文化コミュニケーション学部の教育目的の一つである「多様で「異なる」他者との共生」が可能となる環境をより充実させるとともに、過剰な志願倍率を是正し受験生のニーズに応えるため、収容定員を増加する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
		年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
	文学部							
	ｷﾘｽﾄ教学科	4	50	―	200	学士（文学）	昭和24年4月 第1年次	東京都豊島区西池袋三丁目３４番１号
	史学科	4	215	―	860	学士（文学）	昭和24年4月 第1年次	同上
	教育学科	4	101	―	404	学士（文学）	昭和37年4月 第1年次	同上
	文学科	4	552	―	2,208	学士（文学） 学士（学術）	平成18年4月 第1年次	同上
	経済学部							
	経済学科	4	332	―	1,328	学士 （経済学）	昭和24年4月 第1年次	同上
	会計ﾌｧｲﾅﾝｽ学科	4	176	―	704	学士 （経済学）	平成14年4月 第1年次	同上
	経済政策学科	4	176	―	704	学士 （経済学）	平成18年4月 第1年次	同上
	理学部							
	数学科	4	66	―	264	学士（理学）	昭和24年4月 第1年次	同上
	物理学科	4	77	―	308	学士（理学）	昭和24年4月 第1年次	同上
	化学科	4	77	―	308	学士（理学）	昭和24年4月 第1年次	同上
	生命理学科	4	72	―	288	学士（理学）	平成14年4月 第1年次	同上
	社会学部							
	社会学科	4	173	―	692	学士 （社会学）	昭和33年4月 第1年次	同上
	現代文化学科	4	173	―	692	学士 （社会学）	平成14年4月 第1年次	同上
	ﾒﾃﾞｨｱ社会学科	4	173	―	692	学士 （社会学）	平成18年4月 第1年次	同上
	法学部							
	法学科	4	360	―	1,440	学士（法学）	昭和34年4月 第1年次	同上
	政治学科	4	110	―	440	学士 （政治学）	平成8年4月 第1年次	同上
	国際ﾋﾞｼﾞﾈｽ法学科	4	115	―	460	学士（法学）	昭和63年4月 第1年次	同上

	観光学部								
	観光学科	4	195	—	780	学士（観光学）	平成10年4月第1年次	埼玉県新座市北野一丁目２番２６号	
	交流文化学科	4	175	—	700	学士（観光学）	平成18年4月第1年次	同上	
	ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学部								
	福祉学科	4	130	—	520	学士（ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学）	平成18年4月第1年次	同上	
	ｺﾐｭﾆﾃｨ政策学科	4	220	—	880	学士（ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学）	平成18年4月第1年次	同上	
	経営学部								
	経営学科	4	230	—	920	学士（経営学）	平成18年4月第1年次	東京都豊島区西池袋三丁目３４番１号	
	国際経営学科	4	155	—	620	学士（経営学）	平成18年4月第1年次	同上	
	現代心理学部								
	心理学科	4	143	—	572	学士（心理学）	平成18年4月第1年次	埼玉県新座市北野一丁目２番２６号	
	映像身体学科	4	176	—	704	学士（映像身体学）	平成18年4月第1年次	同上	
	異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部								
	異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	4	210 (145)	—	840 (580)	学士（異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学）	令和6年4月第1年次	東京都豊島区西池袋三丁目３４番１号	
	ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学部								
	ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学科	4	230	—	920	学士（ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学）	令和5年4月第1年次	埼玉県新座市北野一丁目２番２６号	
	計		4,862 (4,797)	—	19,448 (19,188)				

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	令和6年4月　名称変更予定 21世紀社会デザイン研究科　比較組織ネットワーク学専攻（M）（D） →社会デザイン研究科　社会デザイン学専攻（令和5年4月届出予定）

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
		講義	演習	実験・実習	計	
		－科目	－科目	－科目	－科目	－単位

教員		学部等の名称	専任教員等						兼任教員等
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
			人	人	人	人	人	人	人
	新	文学部	8	1	0	0	9	0	56
		ｷﾘｽﾄ教学科	(8)	(1)	(0)	(0)	(9)	(0)	(56)
		史学科	12	6	0	0	18	0	88
			(12)	(6)	(0)	(0)	(18)	(0)	(88)
		教育学科	12	1	0	0	13	0	74
			(12)	(1)	(0)	(0)	(13)	(0)	(74)
		文学科	29	9	0	7	45	0	175
			(29)	(9)	(0)	(7)	(45)	(0)	(175)
		経済学部	13	6	0	4	23	0	79
		経済学科	(13)	(6)	(0)	(4)	(23)	(0)	(79)
		会計ﾌｧｲﾅﾝｽ学科	7	5	0	2	14	0	79
			(7)	(5)	(0)	(2)	(14)	(0)	(79)
		経済政策学科	10	3	0	2	15	0	79
			(10)	(3)	(0)	(2)	(15)	(0)	(79)
		理学部	9	3	0	2	14	0	19
		数学科	(9)	(3)	(0)	(2)	(14)	(0)	(19)
		物理学科	9	5	0	9	23	0	55
			(9)	(5)	(0)	(9)	(23)	(0)	(55)
		化学科	10	3	0	5	18	0	17
			(10)	(3)	(0)	(5)	(18)	(0)	(17)
		生命理学科	9	4	0	7	20	0	28
			(9)	(4)	(0)	(7)	(20)	(0)	(28)

組織の概要										
	設置分	社会学部 社会学科	10 (10)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	98 (98)	
		現代文化学科	7 (7)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	99 (99)	
		ﾒﾃﾞｨｱ社会学科	10 (10)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	13 (13)	0 (0)	102 (102)	
		法学部 法学科	16 (16)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	21 (21)	0 (0)	90 (90)	
		政治学科	7 (7)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	11 (11)	0 (0)	90 (90)	
		国際ﾋﾞｼﾞﾈｽ法学科	11 (11)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	90 (90)	
		観光学部 観光学科	13 (13)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	69 (69)	
		交流文化学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	46 (46)	
		ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学部 福祉学科	9 (9)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	14 (14)	0 (0)	66 (66)	
		ｺﾐｭﾆﾃｨ政策学科	7 (7)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	16 (16)	0 (0)	62 (62)	
		経営学部 経営学科	10 (10)	4 (4)	0 (0)	4 (4)	18 (18)	0 (0)	68 (68)	
		国際経営学科	7 (7)	6 (6)	1 (1)	3 (3)	17 (17)	0 (0)	68 (68)	
		現代心理学部 心理学科	10 (10)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	54 (54)	
		映像身体学科	8 (8)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	50 (50)	
		異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部 異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	21 (21)	9 (9)	0 (0)	4 (4)	34 (34)	0 (0)	80 (80)	
		ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学部 ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学科	12 (12)	7 (7)	0 (0)	6 (6)	25 (25)	0 (0)	26 (26)	
		計	294 (294)	108 (108)	1 (1)	81 (81)	484 (484)	0 (0)	— (—)	
	既設分	学校・社会教育講座	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	78 (78)	
		全学共通ｶﾘｷｭﾗﾑ運営ｾﾝﾀｰ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	347 (347)	
		外国語教育ｾﾝﾀｰ	3 (3)	15 (15)	81 (81)	0 (0)	99 (99)	0 (0)	187 (187)	
		社会情報教育研究センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	
		日本語語教育ｾﾝﾀｰ	0 (0)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	24 (24)	
		グローバル教育センター	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
		大学教育開発・支援センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		立教学院史資料センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
		立教サービスラーニングセンター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		チャプレン室	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
		計	10 (10)	29 (29)	85 (85)	11 (11)	135 (135)	0 (0)	— (—)	
	合計		304 (304)	137 (137)	86 (86)	92 (92)	619 (619)	0 (0)	— (—)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
	事務職員	255 人 (255)	177 人 (177)	432 人 (432)	
	技術職員	24 人 (24)	1 人 (1)	25 人 (25)	
	図書館専門職員	23 人 (23)	3 人 (3)	26 人 (26)	
	その他の職員	0 人 (0)	0 人 (0)	0 人 (0)	
	計	302 人 (302)	181 人 (181)	483 人 (483)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	校舎敷地	115,858 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	115,858 ㎡
	運動場用地	125,853 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	125,853 ㎡
	小計	241,711 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	241,711 ㎡
	その他	16,234 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	16,234 ㎡
	合計	257,945 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	257,945 ㎡

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	182,706㎡ (176,406 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	182,706㎡ (176,406 ㎡)	完成年度については、新座キャンパス新棟建設が未着工のため仮の数値

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	143 室	142 室	69 室	21 室 (補助職員 人)	12 室 (補助職員 人)	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数
	大学全体	576 室

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点
	大学全体	2,121,474〔809,264〕 (2,049,598〔790,509〕)	21,038〔7,061〕 (21,038〔7,061〕)	77,090〔76,953〕 (77,090〔76,953〕)	65,921 (64,445)	968 (968)	0 (0)
	計	2,121,474〔809,264〕 (2,049,598〔790,509〕)	21,038〔7,061〕 (21,038〔7,061〕)	77,090〔76,953〕 (77,090〔76,953〕)	65,921 (64,445)	968 (968)	0 (0)

電子ジャーナル及び学術雑誌については、その大半が電子契約のみ又は冊子契約（所蔵）のみとなっており、必ずしも電子ジャーナルが学術雑誌の内数とならないため、それぞれ計上

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	大学全体
	21,554.99 ㎡	2,029	2,777,306	
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		
	13,450.03 ㎡	ジム、馬場、射撃場、テニスコート、プール、弓道場		

経費の見積り	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	教員１人当り研究費等		925千円	925千円	925千円	925千円	—	—
	共同研究費等		27,000千円	27,000千円	27,000千円	27,000千円	—	—
	図書購入費	688,807千円	688,807千円	688,807千円	688,807千円	688,807千円	—	—
	設備購入費	369,929千円	369,929千円	369,929千円	369,929千円	369,929千円	—	—

	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
文学部(教育学科初等教育専攻、ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ・ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ、NEXUSﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを除く)	1,328千円	1,128千円	1,128千円	1,128千円	— 千円	— 千円
文学部 教育学科初等教育専攻（NEXUSﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを除く）	1,328千円	1,128千円	1,138千円	1,128千円	— 千円	— 千円
文学部 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ・ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	2,050千円	1,850千円	1,850千円	1,850千円	— 千円	— 千円
文学部 NEXUSﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ（教育学科初等教育専攻を除く）	1,892千円	1,128千円	1,128千円	1,128千円	— 千円	— 千円
文学部 NEXUSﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ（教育学科初等教育専攻）	1,892千円	1,128千円	1,138千円	1,128千円	— 千円	— 千円

経費の見積り及び維持方法の概要	学生1人当り納付金						
		経済学部（NEXUSﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを除く） 法学部（NEXUSﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ、国際ﾋﾞｼﾞﾈｽ法学科ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｺｰｽを除く） 観光学部	1,321千円	1,121千円	1,121千円	1,121千円	― 千円	― 千円
		経済学部NEXUSﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 法学部NEXUSﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	1,881.5千円	1,121千円	1,121千円	1,121千円	― 千円	― 千円
		法学部 国際ﾋﾞｼﾞﾈｽ法学科ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｺｰｽ	1,421千円	1,221千円	1,221千円	1,221千円	― 千円	― 千円
		理学部 数学科	1,748千円	1,548千円	1,548千円	1,548千円	― 千円	― 千円
		理学部 物理学科	1,758千円	1,608千円	1,588千円	1,668千円	― 千円	― 千円
		理学部 化学科	1,788千円	1,628千円	1,548千円	1,628千円	― 千円	― 千円
		理学部 生命理学科	1,818千円	1,588千円	1,628千円	1,628千円	― 千円	― 千円
		社会学部（NEXUSﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを除く）	1,336千円	1,136千円	1,136千円	1,136千円	― 千円	― 千円
		社会学部 NEXUSﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	1,896.5千円	1,136千円	1,136千円	1,136千円	― 千円	― 千円
		ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学部 福祉学科（NEXUSﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを除く）	1,331千円	1,131千円	1,128千円	1,128千円	― 千円	― 千円
		ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学部 ｺﾐｭﾆﾃｨ政策学科（NEXUSﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを除く）	1,331千円	1,131千円	1,128千円	1,128千円	― 千円	― 千円
		ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学部 NEXUSﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	1,895千円	1,131千円	1,128千円	1,128千円	― 千円	― 千円
		経営学部（NEXUSﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを除く）	1,356千円	1,136千円	1,136千円	1,136千円	― 千円	― 千円
		経営学部 NEXUSﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	1,916.5千円	1,136千円	1,136千円	1,136千円	― 千円	― 千円
		現代心理学部 心理学科（NEXUSﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを除く）	1,380千円	1,180千円	1,180千円	1,180千円	― 千円	― 千円
		現代心理学部 心理学科 NEXUSﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	1,962.5千円	1,180千円	1,180千円	1,180千円	― 千円	― 千円
		現代心理学部 映像身体学科（NEXUSﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを除く）	1,405千円	1,205千円	1,205千円	1,205千円	― 千円	― 千円
		現代心理学部 映像身体学科 NEXUSﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	2,000千円	1,205千円	1,205千円	1,205千円	― 千円	― 千円
		異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部	1,338千円	1,131千円	1,131千円	1,129千円	― 千円	― 千円
		ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学部	1,405千円	1,205千円	1,205千円	1,205千円	― 千円	― 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	手数料収入、資産運用収入、寄付金収入、補助金収入等

大学の名称	立教大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学部						1.03		東京都豊島区西池袋三丁目34番1号	
キリスト教学科	4	50	－	198	学士（文学）	0.99	昭和24年度		令和４年度入学定員増（１人）
史学科	4	215	－	858	学士（文学）	1.03	昭和24年度		令和４年度入学定員増（１人）
教育学科	4	101	－	402	学士（文学）	1.14	昭和37年度		令和４年度入学定員増（１人）
文学科	4	552	－	2,178	学士（文学） 学士（学術）	1.02	平成18年度		令和４年度入学定員増（15人）
経済学部						1.02		同上	
経済学科	4	332	－	1,324	学士（経済学）	1.02	昭和24年度		令和４年度入学定員増（２人）
会計ﾌｧｲﾅﾝｽ学科	4	176	－	702	学士（経済学）	1.02	平成14年度		令和４年度入学定員増（１人）
経済政策学科	4	176	－	702	学士（経済学）	1.04	平成18年度		令和４年度入学定員増（１人）
理学部						1.01		同上	
数学科	4	66	－	264	学士（理学）	1.02	昭和24年度		
物理学科	4	77	－	308	学士（理学）	1.02	昭和24年度		
化学科	4	77	－	308	学士（理学）	0.98	昭和24年度		
生命理学科	4	72	－	288	学士（理学）	1.02	平成14年度		
社会学部						1.04		同上	
社会学科	4	173	－	686	学士（社会学）	1.05	昭和33年度		令和４年度入学定員増（３人）
現代文化学科	4	173	－	686	学士（社会学）	1.02	平成14年度		令和４年度入学定員増（３人）
メディア社会学科	4	173	－	686	学士（社会学）	1.06	平成18年度		令和４年度入学定員増（３人）
法学部						1.04		同上	
法学科	4	360	－	1,440	学士（法学）	0.97	昭和34年度		
政治学科	4	110	－	440	学士（政治学）	1.13	平成8年度		
国際ビジネス法学科	4	115	－	460	学士（法学）	1.20	昭和63年度		
観光学部						1.04		埼玉県新座市北野一丁目2番26号	
観光学科	4	195	－	780	学士（観光学）	1.06	平成10年度		
交流文化学科	4	175	－	700	学士（観光学）	1.03	平成18年度		
ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学部						1.01		同上	
福祉学科	4	130	－	592	学士（ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学）	1.01	平成18年度		令和５年度入学定員減（24人）
ｺﾐｭﾆﾃｨ政策学科	4	220	－	682	学士（ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学）	1.01	平成18年度		令和５年度入学定員増（66人）
ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学科	4	－	－	－	－	－	平成20年度		令和５年度より学生募集停止

	経営学部						1.03		東京都豊島区西池袋三丁目34番1号		
	経営学科	4	230	―	920	学士（経営学）	1.05	平成18年度			
	国際経営学科	4	155	―	620	学士（経営学）	1.00	平成18年度			
	現代心理学部						1.03		埼玉県新座市北野一丁目2番26号		
	心理学科	4	143	―	572	学士（心理学）	1.02	平成18年度			
	映像身体学科	4	176	―	704	学士（映像身体学）	1.04	平成18年度			
	異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部						1.08		東京都豊島区西池袋三丁目34番1号		
	異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	4	145	―	580	学士（異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学）	1.08	平成20年度			
	ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学部								埼玉県新座市北野一丁目2番26号		
	ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学科	4	230	―	230	学士（ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学）	―	令和5年度			令和５年度設置
	文学研究科								東京都豊島区西池袋三丁目34番1号		
	英米文学専攻(M)	2	18	―	36	修士（文学）	0.25	昭和26年度			
	英米文学専攻(D)	3	3	―	9	博士（文学）	0.78	昭和28年度			
	史学専攻(M)	2	15	―	30	修士（文学）	0.50	昭和33年度			
	史学専攻(D)	3	6	―	18	博士（文学）	0.67	昭和51年度			
	教育学専攻(M)	2	10	―	20	修士（教育学）	0.50	昭和44年度			
	教育学専攻(D)	3	3	―	9	博士（教育学）	0.89	昭和47年度			
	日本文学専攻(M)	2	20	―	40	修士（文学）	0.38	昭和35年度			
	日本文学専攻(D)	3	8	―	24	博士（文学）	0.71	昭和37年度			
	フランス文学専攻(M)	2	8	―	16	修士（文学）	0.31	昭和40年度			
	フランス文学専攻(D)	3	3	―	9	博士（文学）	0.33	昭和42年度			
	ドイツ文学専攻(M)	2	8	―	16	修士（文学）	0.44	昭和42年度			
	ドイツ文学専攻(D)	3	3	―	9	博士（文学）	0.33	昭和44年度			
	比較文明学専攻(M)	2	10	―	20	修士（比較文明学）	0.40	平成10年度			
	比較文明学専攻(D)	3	5	―	15	博士（比較文明学）	0.33	平成12年度			
	超域文化学専攻(M)	2	5	―	10	修士（文学）	0.37	昭和42年度			
	超域文化学専攻(D)	3	3	―	9	博士（文学）	0.11	昭和44年度			
既設大学等の状況	経済学研究科								同上		
	経済学専攻(M)	2	40	―	80	修士（経済学） 修士（会計学）	0.66	昭和26年度			
	経済学専攻(D)	3	10	―	30	博士（経済学） 博士（会計学）	0.43	昭和38年度			

理学研究科								同上	
物理学専攻(M)	2	20	―	40	修士（理学）	0.75	昭和28年度		
物理学専攻(D)	3	4	―	12	博士（理学）	0.50	昭和30年度		
化学専攻(M)	2	20	―	40	修士（理学）	1.00	昭和29年度		
化学専攻(D)	3	4	―	12	博士（理学）	0.00	昭和37年度		
数学専攻(M)	2	5	―	10	修士（理学）	0.40	昭和30年度		
数学専攻(D)	3	3	―	9	博士（理学）	0.22	昭和37年度		
生命理学専攻(M)	2	15	―	30	修士（理学）	1.17	平成8年度		
生命理学専攻(D)	3	4	―	12	博士（理学）	0.17	平成10年度		
社会学研究科								同上	
社会学専攻(M)	2	20	―	40	修士（社会学）	0.93	平成2年度		
社会学専攻(D)	3	10	―	30	博士（社会学）	0.60	平成9年度		
法学研究科								同上	
法学政治学専攻(M)	2	20	―	40	修士（法学） 修士（政治学）	0.45	平成18年度		
法学政治学専攻(D)	3	10	―	30	博士（法学） 博士（政治学）	0.13	平成18年度		
観光学研究科								埼玉県新座市北野一丁目2番26号	
観光学専攻(M)	2	20	―	40	修士（観光学）	0.55	平成10年度		
観光学専攻(D)	3	8	―	24	博士（観光学）	0.33	平成10年度		
ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学研究科								同上	
ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学専攻(M)	2	25	―	50	修士（ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学） 修士（ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学）	0.42	平成18年度		
ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学専攻(D)	3	5	―	15	博士（ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学） 博士（ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学）	0.93	平成16年度		
ﾋﾞｼﾞﾈｽﾃﾞｻﾞｲﾝ研究科								東京都豊島区西池袋三丁目34番1号	
ﾋﾞｼﾞﾈｽﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻(M)	2	90	―	180	修士（経営管理学）	1.10	平成14年度		
ﾋﾞｼﾞﾈｽﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻(D)	3	5	―	15	博士（経営管理学）	1.13	平成19年度		
21世紀社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ研究科								同上	
比較組織ﾈｯﾄﾜｰｸ学専攻(M)	2	50	―	100	修士（社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ学）	0.98	平成14年度		
比較組織ﾈｯﾄﾜｰｸ学専攻(D)	3	5	―	15	博士（社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ学）	0.47	平成19年度		
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究科								同上	
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻(M)	2	20	―	40	修士（異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学）	0.73	平成14年度		
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻(D)	3	5	―	15	博士（異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学）	1.20	平成16年度		

	経営学研究科								同上	
	経営学専攻(M)	2	10	―	20	修士（経営学）	2.25	平成18年度		
	経営学専攻(D)	3	5	―	15	博士（経営学）	0.67	平成18年度		
	国際経営学専攻(M)	2	50	―	100	修士（国際経営学） 修士（公共経営学）	0.52	平成23年度		
	現代心理学研究科								埼玉県新座市北野一丁目2番26号	
	心理学専攻(M)	2	10	―	20	修士（心理学）	0.25	平成18年度		
	心理学専攻(D)	3	3	―	9	博士（心理学）	0.33	平成18年度		
	臨床心理学専攻(M)	2	15	―	30	修士（臨床心理学）	0.90	平成18年度		
	臨床心理学専攻(D)	3	4	―	12	博士（臨床心理学）	0.25	平成18年度		
	映像身体学専攻(M)	2	15	―	30	修士（映像身体学）	0.30	平成20年度		
	映像身体学専攻(D)	3	4	―	12	博士（映像身体学）	0.08	平成22年度		
	キリスト教学研究科								東京都豊島区西池袋三丁目34番1号	
	キリスト教学専攻(M)	2	10	―	20	修士（神学） 修士（文学） 修士（実践神学）	0.85	平成21年度		
	キリスト教学専攻(D)	3	5	―	15	博士（神学） 博士（文学）	0.67	平成21年度		
	人工知能科学研究科								同上	
	人工知能科学専攻(M)	2	63	―	126	修士（人工知能科学）	0.91	令和2年度		
	人工知能科学専攻(D)	3	8	―	16	博士（人工知能科学）	0.75	令和4年度		
	ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学研究科								埼玉県新座市北野一丁目2番26号	
	ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学専攻(M)	2	10	―	10	修士（ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学）	－	令和5年度		令和５年度設置
	ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学専攻(D)	3	5	―	5	博士（ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学）	－	令和5年度		令和５年度設置
附属施設の概要	該当なし									

学校法人立教学院　設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度

立教大学

学　部	学 科	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員
文学部	キリスト教学科	50	－	200
	史学科	215	－	860
	教育学科	101	－	404
	文学科	552	－	2,208
経済学部	経済学科	332	－	1,328
	会計ファイナンス学科	176	－	704
	経済政策学科	176	－	704
理学部	数学科	66	－	264
	物理学科	77	－	308
	化学科	77	－	308
	生命理学科	72	－	288
社会学部	社会学科	173	－	692
	現代文化学科	173	－	692
	メディア社会学科	173	－	692
法学部	法学科	360	－	1,440
	政治学科	110	－	440
	国際ビジネス法学科	115	－	460
観光学部	観光学科	195	－	780
	交流文化学科	175	－	700
コミュニティ福祉学部	福祉学科	130	－	520
	コミュニティ政策学科	220	－	880
経営学部	経営学科	230	－	920
	国際経営学科	155	－	620
現代心理学部	心理学科	143	－	572
	映像身体学科	176	－	704
異文化コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	145	－	580
スポーツウエルネス学部	スポーツウエルネス学科	230	－	920
計		4,797	－	19,188

令和6年度

立教大学

学　部	学 科	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	変更の事由
文学部	キリスト教学科	50	－	200	
	史学科	215	－	860	
	教育学科	101	－	404	
	文学科	552	－	2,208	
経済学部	経済学科	332	－	1,328	
	会計ファイナンス学科	176	－	704	
	経済政策学科	176	－	704	
理学部	数学科	66	－	264	
	物理学科	77	－	308	
	化学科	77	－	308	
	生命理学科	72	－	288	
社会学部	社会学科	173	－	692	
	現代文化学科	173	－	692	
	メディア社会学科	173	－	692	
法学部	法学科	360	－	1,440	
	政治学科	110	－	440	
	国際ビジネス法学科	115	－	460	
観光学部	観光学科	195	－	780	
	交流文化学科	175	－	700	
コミュニティ福祉学部	福祉学科	130	－	520	
	コミュニティ政策学科	220	－	880	
経営学部	経営学科	230	－	920	
	国際経営学科	155	－	620	
現代心理学部	心理学科	143	－	572	
	映像身体学科	176	－	704	
異文化コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	210	－	840	定員変更（65）
スポーツウエルネス学部	スポーツウエルネス学科	230	－	920	
計		4,862	－	19,448	

令和5年度
立教大学大学院

研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
文学研究科	英米文学専攻(M)	18	－	36
	英米文学専攻(D)	3	－	9
	史学専攻(M)	15	－	30
	史学専攻(D)	6	－	18
	教育学専攻(M)	10	－	20
	教育学専攻(D)	3	－	9
	日本文学専攻(M)	20	－	40
	日本文学専攻(D)	8	－	24
	フランス文学専攻(M)	8	－	16
	フランス文学専攻(D)	3	－	9
	ドイツ文学専攻(M)	8	－	16
	ドイツ文学専攻(D)	3	－	9
	比較文明学専攻(M)	10	－	20
	比較文明学専攻(D)	5	－	15
	超域文化学専攻(M)	5	－	10
	超域文化学専攻(D)	3	－	9
経済学研究科	経済学専攻(M)	40	－	80
	経済学専攻(D)	5	－	15
理学研究科	物理学専攻(M)	20	－	40
	物理学専攻(D)	4	－	12
	化学専攻(M)	20	－	40
	化学専攻(D)	4	－	12
	数学専攻(M)	5	－	10
	数学専攻(D)	3	－	9
	生命理学専攻(M)	15	－	30
	生命理学専攻(D)	4	－	12
社会学研究科	社会学専攻(M)	20	－	40
	社会学専攻(D)	10	－	30
法学研究科	法学政治学専攻(M)	20	－	40
	法学政治学専攻(D)	8	－	24
観光学研究科	観光学専攻(M)	20	－	40
	観光学専攻(D)	8	－	24
ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学研究科	ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学専攻(M)	15	－	30
	ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学専攻(D)	5	－	15
ﾋﾞｼﾞﾈｽﾃﾞｻﾞｲﾝ研究科	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻(M)	90	－	180
	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻(D)	5	－	15

令和6年度
立教大学大学院

研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
文学研究科	英米文学専攻(M)	18	－	36	
	英米文学専攻(D)	3	－	9	
	史学専攻(M)	15	－	30	
	史学専攻(D)	6	－	18	
	教育学専攻(M)	10	－	20	
	教育学専攻(D)	3	－	9	
	日本文学専攻(M)	20	－	40	
	日本文学専攻(D)	8	－	24	
	フランス文学専攻(M)	8	－	16	
	フランス文学専攻(D)	3	－	9	
	ドイツ文学専攻(M)	8	－	16	
	ドイツ文学専攻(D)	3	－	9	
	比較文明学専攻(M)	10	－	20	
	比較文明学専攻(D)	5	－	15	
	超域文化学専攻(M)	5	－	10	
	超域文化学専攻(D)	3	－	9	
経済学研究科	経済学専攻(M)	40	－	80	
	経済学専攻(D)	5	－	15	
理学研究科	物理学専攻(M)	20	－	40	
	物理学専攻(D)	4	－	12	
	化学専攻(M)	20	－	40	
	化学専攻(D)	4	－	12	
	数学専攻(M)	5	－	10	
	数学専攻(D)	3	－	9	
	生命理学専攻(M)	15	－	30	
	生命理学専攻(D)	4	－	12	
社会学研究科	社会学専攻(M)	20	－	40	
	社会学専攻(D)	10	－	30	
法学研究科	法学政治学専攻(M)	20	－	40	
	法学政治学専攻(D)	8	－	24	
観光学研究科	観光学専攻(M)	20	－	40	
	観光学専攻(D)	8	－	24	
ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学研究科	ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学専攻(M)	15	－	30	
	ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学専攻(D)	5	－	15	
ﾋﾞｼﾞﾈｽﾃﾞｻﾞｲﾝ研究科	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻(M)	90	－	180	
	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻(D)	5	－	15	

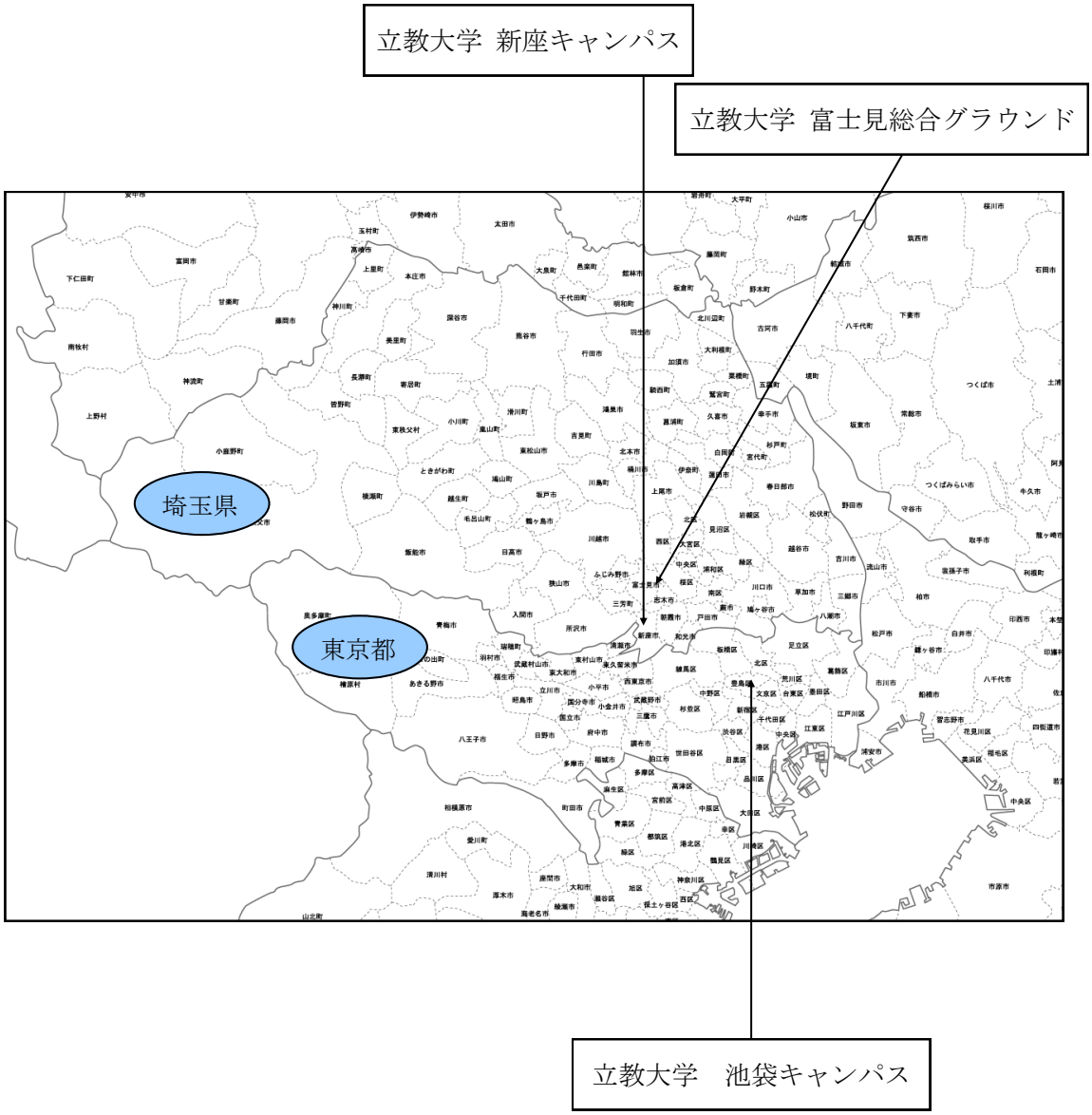
令和5年度
立教大学大学院

研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
21世紀社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ研究科	比較組織ﾈｯﾄﾜｰｸ学専攻(M)	50	－	100
	比較組織ﾈｯﾄﾜｰｸ学専攻(D)	5	－	15
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究科	異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻(M)	20	－	40
	異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻(D)	5	－	15
経営学研究科	経営学専攻(M)	10	－	20
	経営学専攻(D)	5	－	15
	国際経営学専攻(M)	50	－	100
現代心理学研究科	心理学専攻(M)	10	－	20
	心理学専攻(D)	3	－	9
	臨床心理学専攻(M)	15	－	30
	臨床心理学専攻(D)	4	－	12
	映像身体学専攻(M)	15	－	30
	映像身体学専攻(D)	4	－	12
キリスト教学研究科	キリスト教学専攻(M)	10	－	20
	キリスト教学専攻(D)	5	－	15
人工知能科学研究科	人工知能科学専攻 (M)	63	－	126
	人工知能科学専攻 (D)	8	－	24
スポーツウエルネス学研究科	スポーツウエルネス学専攻(M)	10	－	20
	スポーツウエルネス学専攻(D)	5	－	15
計		746	－	1,626

令和6年度
立教大学大学院

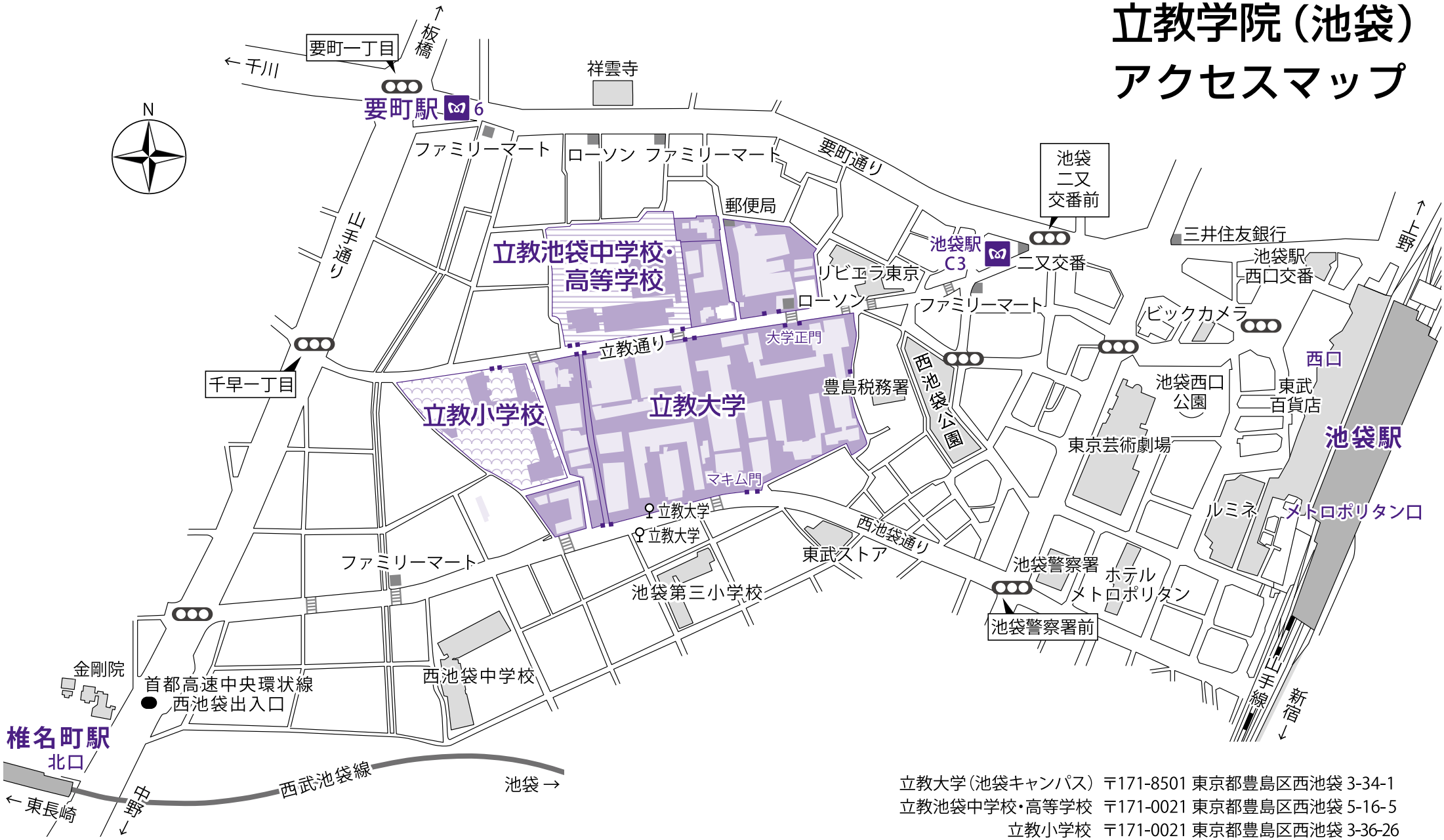
研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ研究科	社会デザイン学専攻(M)	50	－	100	研究科・専攻名称変更届出予定
	社会デザイン学専攻(D)	5	－	15	研究科・専攻名称変更届出予定
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究科	異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻(M)	20	－	40	
	異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻(D)	5	－	15	
経営学研究科	経営学専攻(M)	10	－	20	
	経営学専攻(D)	5	－	15	
	国際経営学専攻(M)	50	－	100	
現代心理学研究科	心理学専攻(M)	10	－	20	
	心理学専攻(D)	3	－	9	
	臨床心理学専攻(M)	15	－	30	
	臨床心理学専攻(D)	4	－	12	
	映像身体学専攻(M)	15	－	30	
	映像身体学専攻(D)	4	－	12	
キリスト教学研究科	キリスト教学専攻(M)	10	－	20	
	キリスト教学専攻(D)	5	－	15	
人工知能科学研究科	人工知能科学専攻 (M)	63	－	126	
	人工知能科学専攻 (D)	8	－	24	
スポーツウエルネス学研究科	スポーツウエルネス学専攻(M)	10	－	20	
	スポーツウエルネス学専攻(D)	5	－	15	
計		746	－	1,626	

（１） 都道府県内における位置関係の図面



学校法人

立教学院（池袋）アクセスマップ



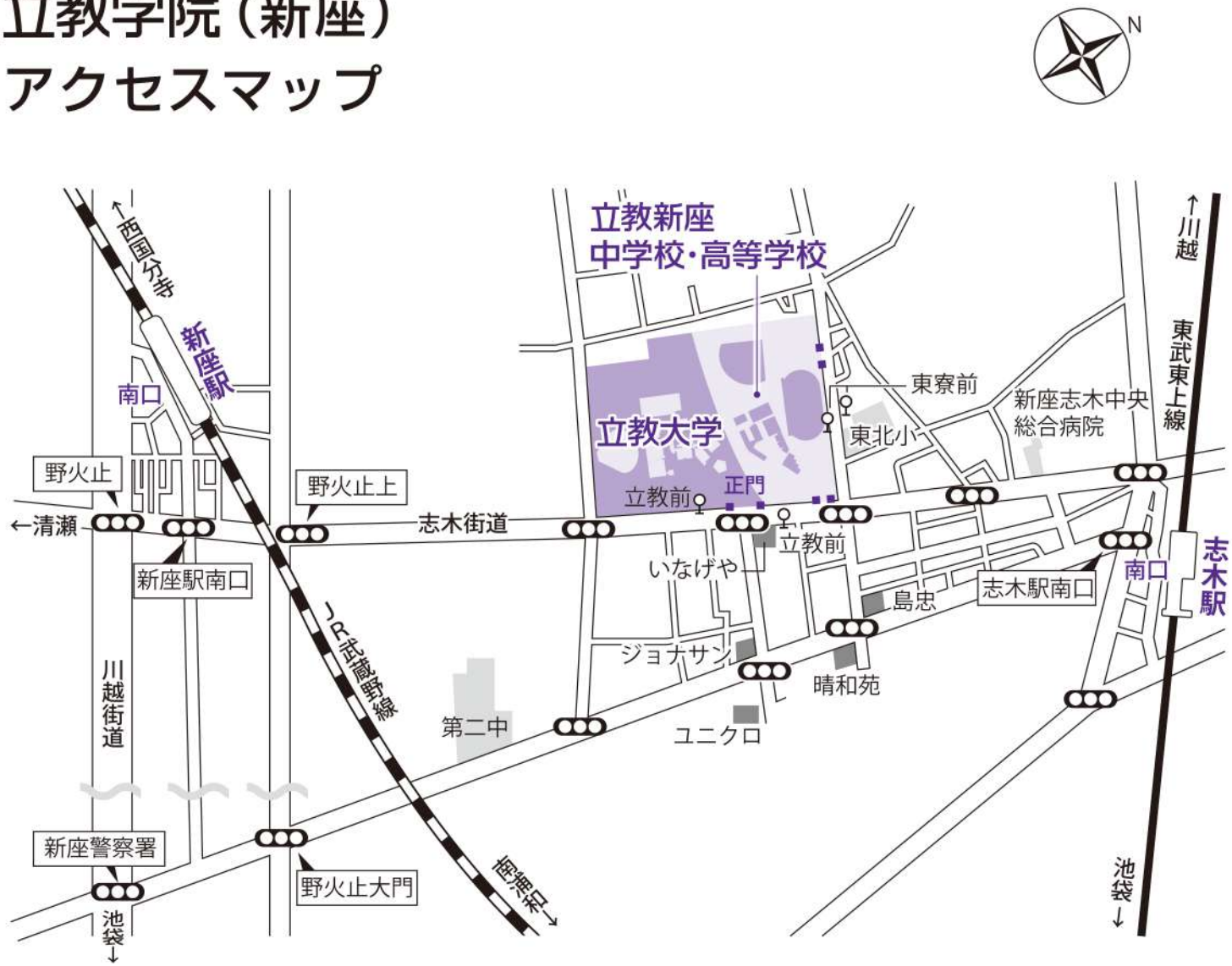
立教大学（池袋キャンパス）〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1
立教池袋中学校・高等学校 〒171-0021 東京都豊島区西池袋 5-16-5
立教小学校 〒171-0021 東京都豊島区西池袋 3-36-26

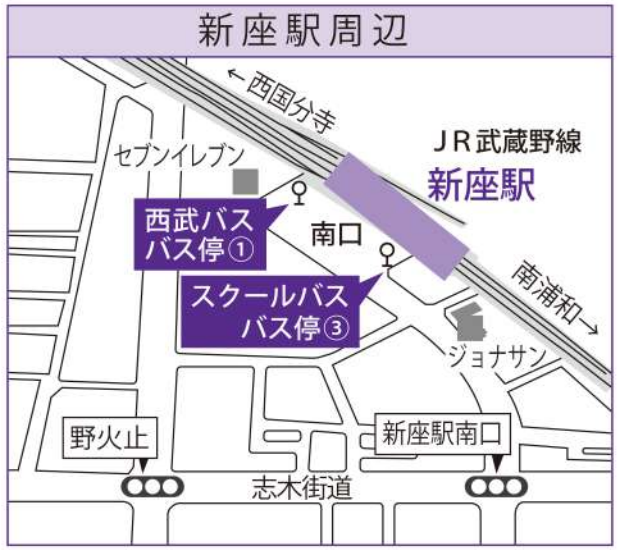
池 袋 駅	■ JR各線 ■ 東武東上線 ■ 西武池袋線 ■ 東京メトロ ： 丸ノ内線／有楽町線／副都心線 西口より大学正門まで徒歩 約 7分	要 町 駅	■ 東京メトロ ： 有楽町線／副都心線 6番出口より大学正門まで徒歩 約 6分	椎名町駅	■ 西武池袋線 北口よりマキム門まで徒歩 約12分

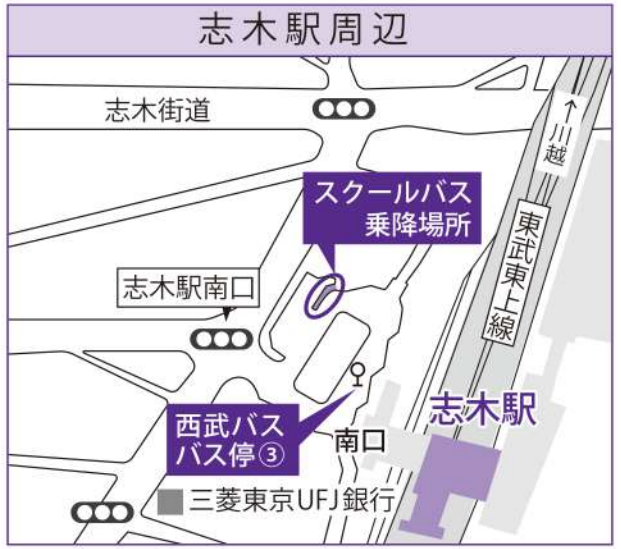
2021. 10

学校法人

立教学院（新座）
アクセスマップ







新座駅	■ JR武蔵野線　南口より ◎ 徒歩　正門まで約25分 ◎ スクールバス　約10分（運行時間 7：30～19：10 運賃無料）※ ◎ 西武バス　約10分　志木駅南口行（北野入口経由）「立教前」下車	志木駅	■ 東武東上線（東京メトロ有楽町線/副都心線相互乗り入れ）南口より ◎ 徒歩　正門まで約15分 ◎ スクールバス　南口より約 7分（運行時間 12：45～18：35 運賃無料）※ ◎ 西武バス　南口より約10分　清瀬駅北口行/所沢駅東口行「立教前」下車

※スクールバスの運行情報・時刻表はWebサイトでご確認ください。

立教大学（新座キャンパス）〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26
立教新座中学校・高等学校　〒352-8523 埼玉県新座市北野1-2-25

2020. 10

立教大学
富士見総合グラウンド
アクセスマップ

www.rikkyo.ac.jp
www.rikkyo.ac.jp/access/fujimi

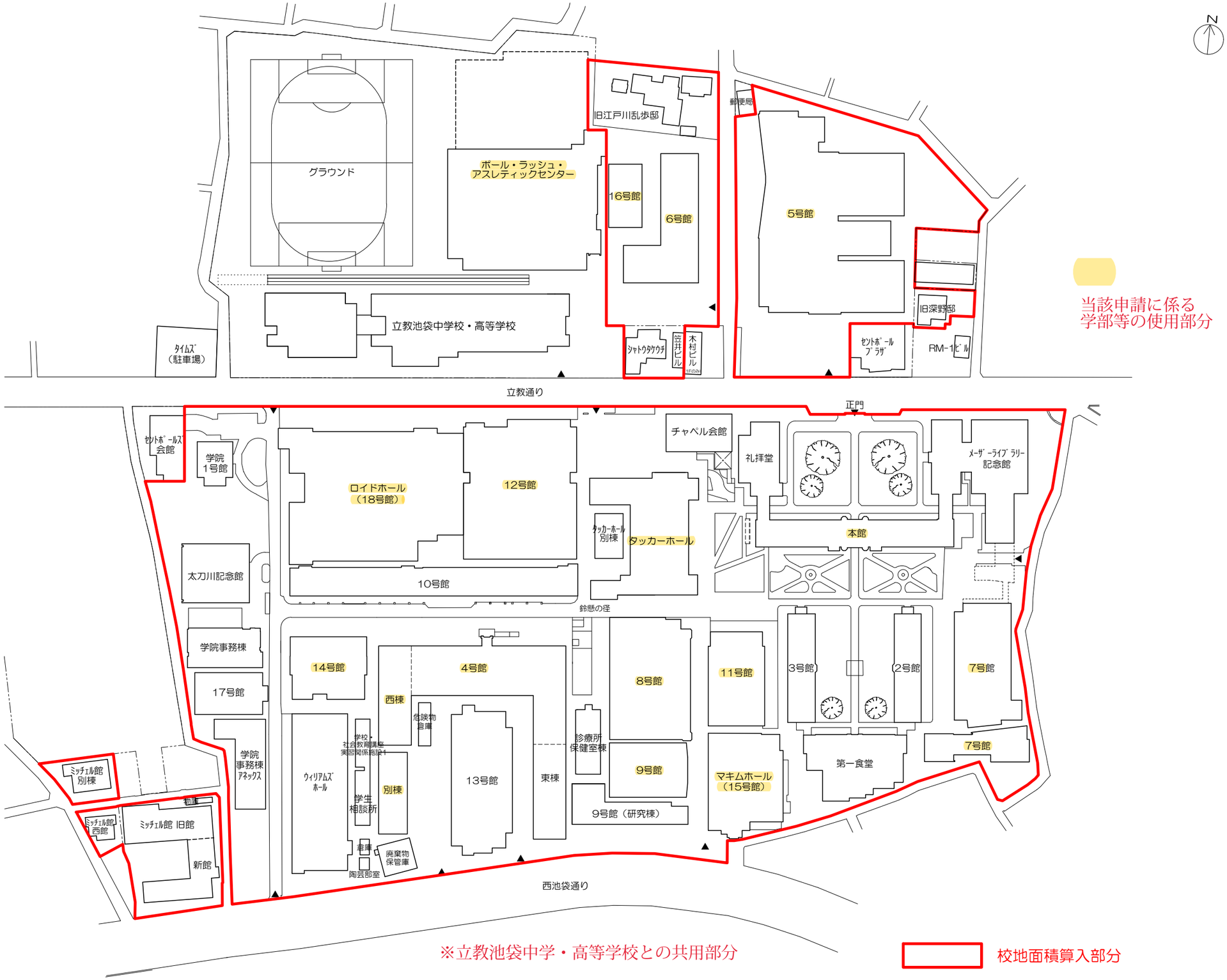


志木駅	■ 東武東上線（東京メトロ有楽町線/副都心線相互乗り入れ）南口下車
志木駅からのアクセス	■ スクールバス　約20分

立教大学富士見総合グラウンド　〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑1343-1　TEL：049-251-3338　（駐車場あり）

2013.05

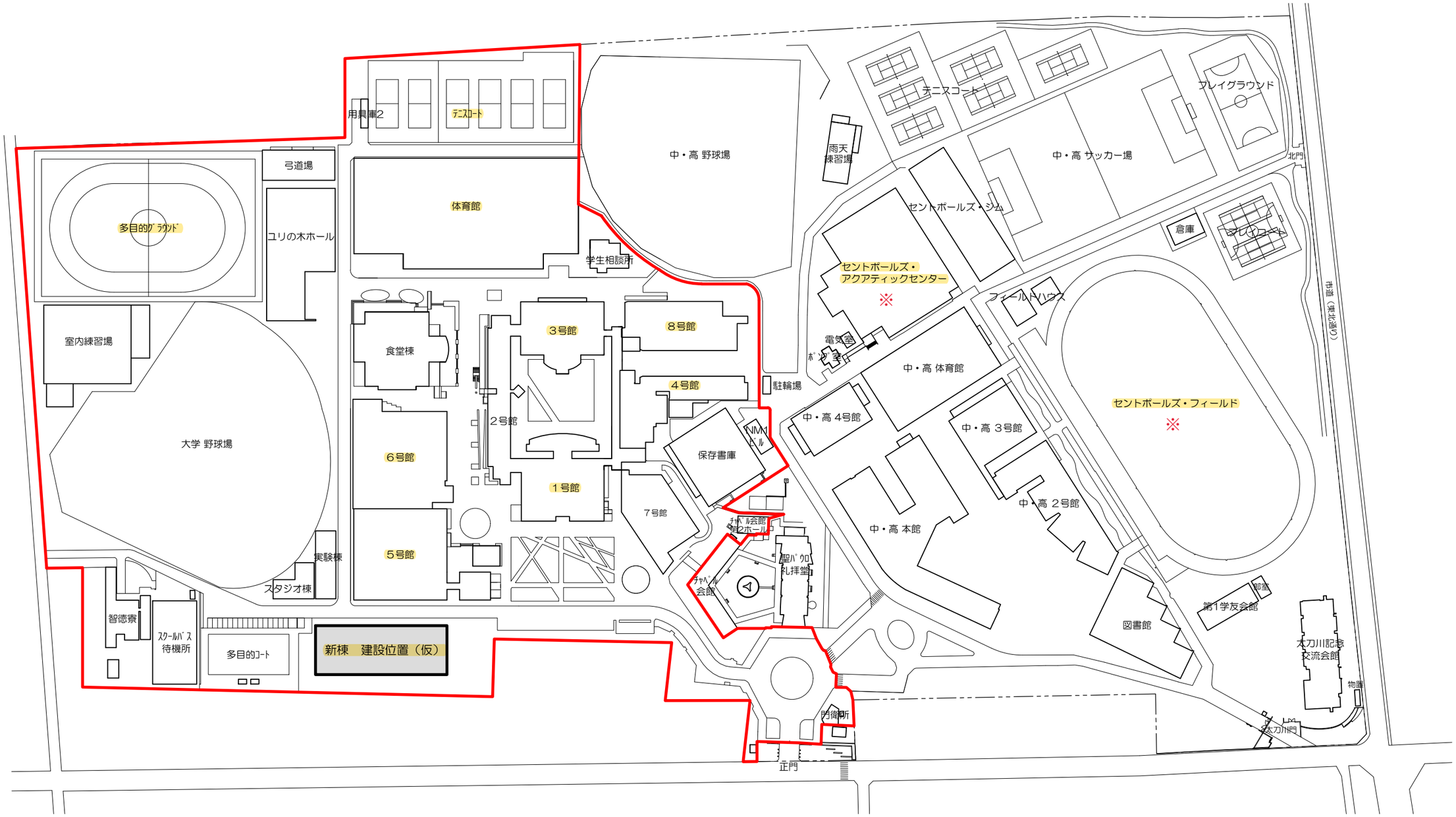
校地面積： 69,830㎡
校舎面積：126,230㎡



RIKKYO UNIVERSITY AND SCHOOLS		池袋キャンパス
		縮尺：1/1500（A3）

校地面積：101,271㎡
校舎面積： 50,176㎡（開設年度）
56,476㎡（完成年度）

当該申請に係る学部等の使用部分

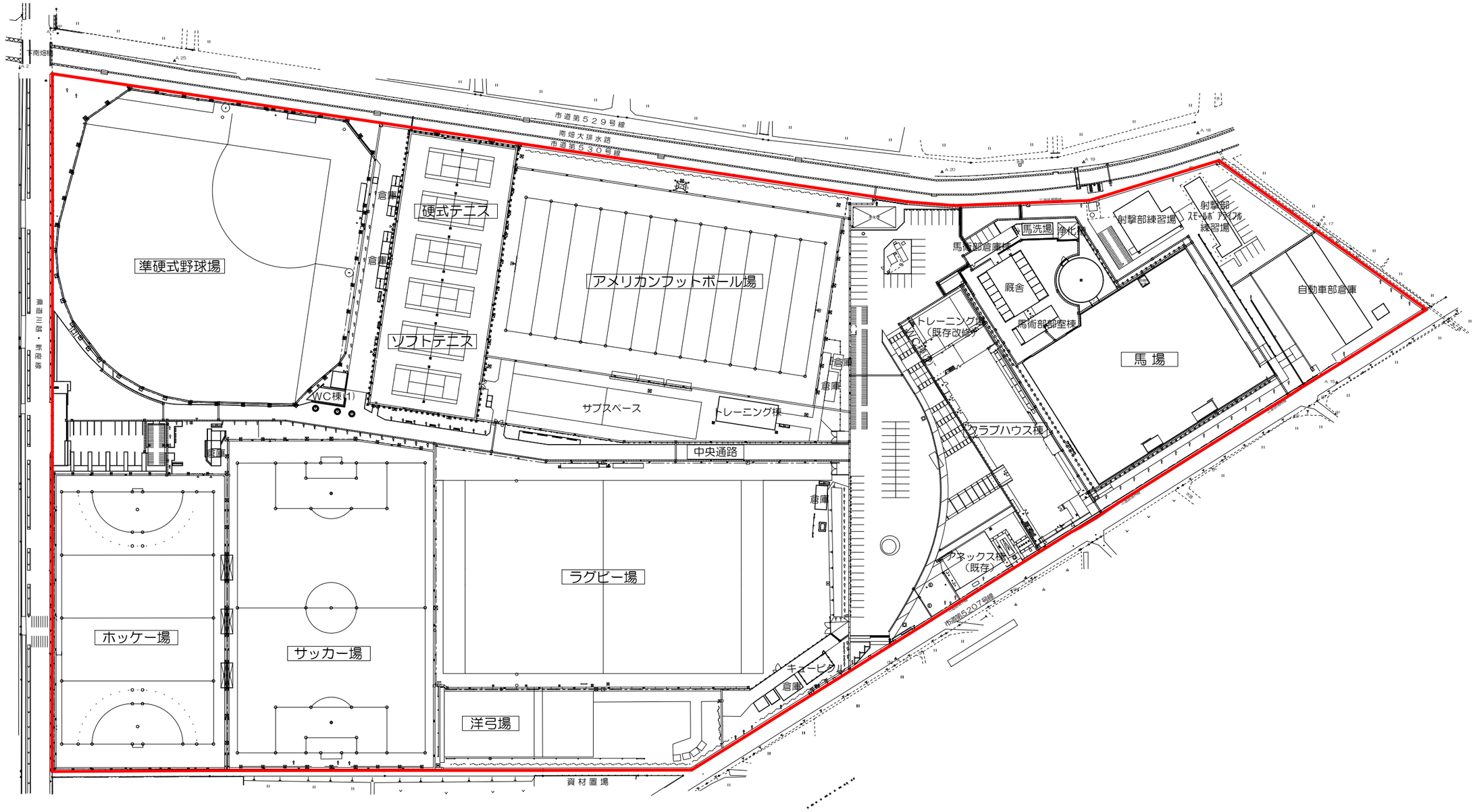


※立教新座中学・高等学校との共有部分

校地面積算入部分

RIKKYO UNIVERSITY AND SCHOOLS	新座キャンパス 縮尺：1/2000（A3）	—

校地面積：86,844㎡
校舎面積：　　0㎡



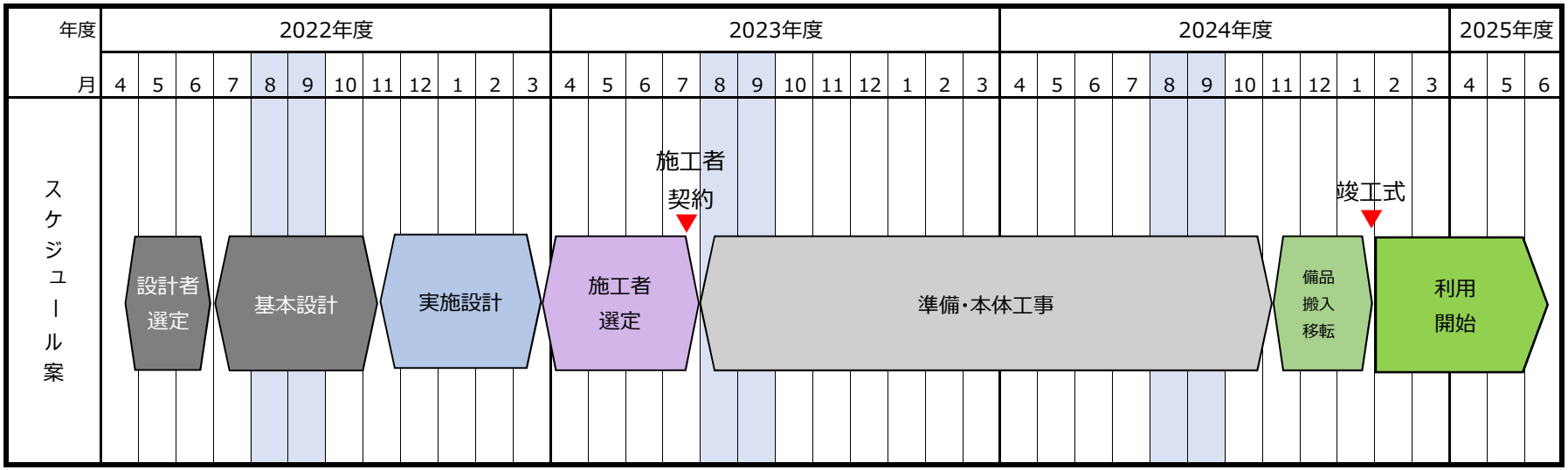
校地面積算入部分

RIKKYO UNIVERSITY AND SCHOOLS

富士見グラウンド

縮尺：1/1500（A3）

新座キャンパス　（仮称）新棟　建設スケジュール（案）



立教大学諸規程集

立教大学編

第 2 編　学則

立教大学学則

施行　昭和 24 年4月1日
改正　昭和 30 年4月1日
昭和 31 年4月1日
昭和 33 年4月1日
昭和 34 年4月1日
昭和 36 年4月1日
昭和 37 年4月1日
昭和 38 年4月1日
昭和 39 年4月1日
昭和 40 年4月1日
昭和 41 年4月1日
昭和 42 年4月1日
昭和 43 年4月1日
昭和 44 年4月1日
昭和 46 年4月1日
昭和 47 年4月1日
昭和 48 年4月1日
昭和 49 年4月1日
昭和 50 年4月1日
昭和 51 年4月1日
昭和 52 年4月1日
昭和 53 年4月1日
昭和 54 年4月1日
昭和 55 年4月1日
昭和 56 年4月1日
1982 年4月1日
1983 年4月1日
1984 年4月1日
1985 年4月1日
1986 年4月1日
1987 年4月1日
1988 年4月1日
1989 年4月1日
1990 年4月1日
1991 年4月1日
1991 年 10 月 11 日
1992 年4月1日
1993 年4月1日
1994 年4月1日
1995 年4月1日
1995 年4月 14 日
1996 年4月1日
1997 年4月1日
1998 年4月1日
1999 年4月1日
2000 年4月1日
2001 年4月1日
2002 年4月1日
2003 年4月1日
2004 年4月1日
2005 年4月1日
2006 年4月1日
2007 年4月1日
改正 2008 年4月1日
2009 年4月1日
2010 年4月1日
2011 年4月1日
2012 年4月1日
2013 年4月1日
2014 年4月1日
2015 年4月1日
2016 年4月1日
2017 年4月1日
2018 年4月1日
2019 年4月1日
2020 年4月1日
2021 年4月1日
2022 年4月1日
2023 年4月1日
2024 年4月1日

第１章　総　則

（目的）
第１条　本大学は，キリスト教に基づく人格の陶冶を旨とし，学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）により学術の理論及び応用を教授研究し，その深奥を究めることを目的とする。

２　学部ごとの,人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は,別表７のとおりとする。

（設置）
第２条　本大学に学部及び大学院を置く。

（学部，学科等）
第３条　本大学の学部，学科及びその収容定員は，次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員
文学部	キリスト教学科	50 名		200 名
	史学科	215 名		860 名
	教育学科	101 名		404 名
	文学科	552 名		2,208 名
	計	918 名		3,672 名
経済学部	経済学科	332 名		1,328 名
	会計ファイナンス学科	176 名		704 名
	経済政策学科	176 名		704 名
	計	684 名		2,736 名
理学部	数学科	66 名		264 名
	物理学科	77 名		308 名
	化学科	77 名		308 名
	生命理学科	72 名		288 名
	計	292 名		1,168 名
社会学部	社会学科	173 名		692 名
	現代文化学科	173 名		692 名
	メディア社会学科	173 名		692 名
	計	519 名		2,076 名
法学部	法学科	360 名		1,440 名
	政治学科	110 名		440 名
	国際ビジネス法学科	115 名		460 名
	計	585 名		2,340 名
観光学部	観光学科	195 名		780 名
	交流文化学科	175 名		700 名
	計	370 名		1,480 名
コミュニティ福祉学部	福祉学科	130 名		520 名
	コミュニティ政策学科	220 名		880 名
	スポーツウエルネス学科	募集停止		
	計	350 名		1,400 名
経営学部	経営学科	230 名		920 名
	国際経営学科	155 名		620 名
	計	385 名		1,540 名
現代心理学部	心理学科	143 名		572 名
	映像身体学科	176 名		704 名
	計	319 名		1,276 名
異文化コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	210 名		840 名
スポーツウエルネス学部	スポーツウエルネス学科	230 名		960 名
合計		4,862 名	0 名	19,448 名

（修業年限）
第４条　１年次から同一学部・学科・専修に在学する者の修業年限は４年とする。ただし，在学年数は８年を超えることができない。
２　２年次に編入学又は転部・転科した者の当該学部・学科の修業年限は３年とする。ただし，

在学年数は７年を超えることができない。
３　３年次に編入学又は転部・転科・転専修した者の当該学部・学科・専修の修業年限は２年とする。ただし，在学年数は６年を超えることができない。

４　第１項の規定にかかわらず，NEXUS プログラムに入学した者（異文化コミュニケーション学部に在学する者を除く。）の修業年限は，4.5 年（９学期）とする。ただし，在学年数は８年を超えることができない。

（学士の学位）
第５条　１年次から同一学部・学科・専修に４年以上在学して，所定の試験に合格し，所定の単位を修得した者には学士の学位を授与する。ただし，NEXUS プログラムに入学した者（異文化コミュニケーション学部に在学する者を除く。）の在学期間は 4.5 年（９学期）以上とする。
２　２年次に編入学又は転部・転科した場合，当該学部・学科に３年以上在学して，所定の試験に合格し，所定の単位を修得した者には学士の学位を授与する。
３　３年次に編入学又は転部・転科・転専修した場合，当該学部・学科・専修に２年以上在学して，所定の試験に合格し，所定の単位を修得した者には学士の学位を授与する。
４　学部・学科において授与する学士の学位の専攻分野名を次のとおりとする。

学　　部	学　　科	専 攻 分 野 名
文学部	キリスト教学科 史学科 教育学科	文学
	文学科	文学，学術
経済学部	経済学科 会計ファイナンス学科 経済政策学科	経済学
理学部	数学科 物理学科 化学科 生命理学科	理学
社会学部	社会学科 現代文化学科 メディア社会学科	社会学
法学部	法学科	法学
	政治学科	政治学
	国際ビジネス法学科	法学
観光学部	観光学科 交流文化学科	観光学
コミュニティ福祉学部	福祉学科 コミュニティ政策学科	コミュニティ福祉学
	スポーツウエルネス学科	スポーツウエルネス学
経営学部	経営学科 国際経営学科	経営学
現代心理学部	心理学科	心理学
	映像身体学科	映像身体学
異文化コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	異文化コミュニケーション学
スポーツウエルネス学部	スポーツウエルネス学科	スポーツウエルネス学

第５条の２　法学部法学科法曹コースは前２条の規定にかかわらず，３年以上在学し，所定の試験に合格し，所定の単位を優秀な成績をもって修得した者には学士の学位を授与する。
２　法学部法学科法曹コースの学修を許可された者は,別表８による登録料を指定された期間内に納めなければならない。

（学年）
第６条　学年は，４月１日に始まり，翌年３月 31 日に終わる。または９月 20 日に始まり,翌年９月 19 日に終わる。

（学期）
第７条　学年を分けて次の２期とする。
春学期　４月１日から９月 19 日まで
秋学期　９月 20 日から翌年３月 31 日まで

（休業日）
第８条　休業日は，次のとおりとする。
(1) 日 曜 日
(2) 国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)で規定する休日
(3) 本大学創立記念日　5月5日
(4) 春季休業　2月上旬から3月下旬まで
(5) 夏季休業　7月下旬から9月中旬まで
(6) 冬季休業　12 月下旬から翌年1月上旬まで
２　前項の休業日を変更し，又は臨時に休業日を定めることがある。

第２章　教育課程

第１節　単位

第９条　各授業科目の単位数は，１単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の基準により単位数を計算するものとする。
(1) 講義及び演習については，15 時間から 30 時間の授業をもって１単位とする。
(2) 輪講，実験，実習及び実技については，30 時間から 45 時間の授業をもって１単位とする。
２　前項の規定にかかわらず，卒業論文，卒業研究等の授業科目については，これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には，これらに必要な学修等を考慮して，単位数を定めることができる。
３　本大学は，第１項に規定する講義，演習，輪講，実験，実習及び実技による授業科目について，教育上有益と認めるときは，文部科学大臣が別に定めるところにより，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

第１０条　学生は，第 13 条から第 18 条の７に定める所定の授業科目を履修し，所定の単位を修得しなければならない。
２　授業科目は，全学共通科目及び専門教育科目は配当年次の指定科目を除き全年次において履修させる。

第１０条の２　本大学は，教育上有益と認めるときは，教授会の定めるところにより，学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を，60 単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
２　前項の規定は，学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

第１０条の３　本大学は，教育上有益と認めるときは，教授会の定めるところにより，学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を，本大学における授業科目の履修とみなし，単位を与えることができる。
２　前項により与えることのできる単位数は，前条第１項及び第２項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

第１０条の４　本大学は，教育上有益と認めるときは，教授会の定めるところにより，学生が本大学に入学する前に，大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を，本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
２　本大学は，教育上有益と認めるときは，教授会の定めるところにより，学生が本大学に入学する前に行った前条第１項に規定する学修を，本大学における授業科目の履修とみなし，単位を与えることができる。
３　前２項により修得したものとみなし，又は与えることのできる単位数は，編入学，転部等の場合を除き，本大学において修得した単位以外のものについては，第 10 条の２第１項及び第２項並びに前条第１項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

第１０条の５　第９条第３項に定める授業科目の履修により修得できる単位数は,第１３条から第１８条の７に定める所定の単位のうち,６０単位を上限として卒業に必要な単位とすることができる。

第１１条　小学校，中学校，高等学校教諭１種免許状取得希望者は，各学部・学科・専修に配置された教科に関する専門教育科目及び文学部教育学科に配置された小学校，中学校，高等学校教育職員免許状取得に必要な教職に関する専門教育科目を履修し,その単位を修得しなければならない。

２　本大学の各学部・学科・専攻・専修において取得できる教育職員免許状の種類及び免許教科は，次のとおりとする。

学部	学科	種類・教科		
		小学校教諭１種免許状	中学校教諭１種免許状	高等学校教諭１種免許状
文学部	キリスト教学科		社会 宗教	地理歴史，公民 宗教
	史学科		社会	地理歴史，公民
	教育学科			
	教育学専攻課程		社会	公民
	初等教育専攻課程	小学校		
	文学科			
	英米文学専修		英語	英語
	ドイツ文学専修		ドイツ語	ドイツ語
	フランス文学専修		フランス語	フランス語
	日本文学専修		国語	国語
	文芸・思想専修		国語	国語
経済学部	経済学科		社会（2018年度入学者まで）	地理歴史, 公民・商業（2018年度入学者まで）
	会計ファイナンス学科		社会（2018年度入学者まで）	公民（2018年度入学者まで），商業
	経済政策学科		社会	公民, 地理歴史・商業（2018年度入学者まで）
理学部	数学科		数学	数学，情報
	物理学科		理科	理科
	化学科		理科	理科
	生命理学科		理科	理科
社会学部	社会学科		社会	公民
	現代文化学科		社会	公民
	メディア社会学科		社会	公民
法学部	法学科		社会	地理歴史（2018年度入学者まで），公民
	政治学科		社会（2018年度入学者まで）	地理歴史, 公民（2018年度入学者まで）
	国際ビジネス法学科		社会（2018年度入学者まで）	地理歴史・公民（2018年度入学者まで）
観光学部	観光学科		社会（2018年度入学者まで）	地理歴史（2018年度入学者まで）
	交流文化学科		社会	地理歴史
コミュニティ福祉学部	福祉学科		社会（2018年度入学者まで）	公民（2018年度入学者まで），福祉（2022年度入学者まで）
	コミュニティ政策学科		社会	公民
	スポーツウエルネス学科（2022年度入学者まで）		保健体育	保健体育

経営学部 (2015 年度入学者まで)	経営学科		社会	公民
	国際経営学科		社会	公民
現代心理学部 (2015 年度入学者まで)	心理学科			公民
異文化コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科		英語	英語
スポーツウエルネス学部	スポーツウエルネス学科		保健体育	保健体育

3　削除

4　免許教科「情報」及び「福祉」は 2000 年度以降入学者が取得できる。

第１２条　学芸員の資格を取得しようとする者は，各学部・学科所定の単位のほか，第 19 条に定められた博物館に関する科目を履修し，その単位を修得しなければならない。
　博物館に関する科目及びその単位は,第 10 条に規定する授業科目及び単位には含まれない。
2　司書の資格及び司書教諭の資格を取得しようとする者は，第 19 条に定められた図書館に関する科目を履修し，その単位を修得しなければならない。
　図書館に関する科目及びその単位は,第 10 条に規定する授業科目及び単位には含まれない。
3　社会教育主事の資格を取得しようとする者は，第 19 条に定められた社会教育に関する科目を履修し，その単位を修得しなければならない。
　社会教育に関する科目及びその単位は，第 10 条に規定する授業科目及び単位には含まれない。

第２節　全学共通科目

第１３条　全学共通科目及びその単位並びに各学部における履修方法は,別表１のとおりとする。

第３節　文学部

第１４条　文学部の専門教育科目及びその単位並びに履修方法は，別表１のとおりとする。

第４節　経済学部

第１５条　経済学部の専門教育科目及びその単位並びに履修方法は，別表１のとおりとする。

第５節　理学部

第１６条　理学部の専門教育科目及びその単位並びに履修方法は，別表１のとおりとする。

第６節　社会学部

第１７条　社会学部の専門教育科目及びその単位並びに履修方法は，別表１のとおりとする。

第７節　法学部

第１８条　法学部の専門教育科目及びその単位並びに履修方法は，別表１のとおりとする。

第８節　観光学部

第１８条の２　観光学部の専門教育科目及びその単位並びに履修方法は，別表１のとおりとする。

第９節　コミュニティ福祉学部

第１８条の３　コミュニティ福祉学部の専門教育科目及びその単位並びに履修方法は,別表１のとおりとする。

第１０節　経営学部

第１８条の４　経営学部の専門教育科目及びその単位並びに履修方法は,別表１のとおりとする。

第１１節　現代心理学部

第１８条の５　現代心理学部の専門教育科目及びその単位並びに履修方法は,別表１のとおりとする。

第１２節　異文化コミュニケーション学部

第１８条の６　異文化コミュニケーション学部の専門教育科目及びその単位並びに履修方法は,別表１のとおりとする。

第１３節　スポーツウエルネス学部

第１８条の７　スポーツウエルネス学部の専門教育科目及びその単位並びに履修方法は,別表１のとおりとする。

第１４節　学芸員，司書，司書教諭及び社会教育主事

第１９条　本大学の全ての学部・大学院に在籍する学生の学芸員，司書，司書教諭及び社会教育主事の資格取得に必要な所定の科目及びその単位並びに履修方法は，別表１のとおりとする。

第１５節　日本語教育センター

第１９条の２　日本語教育センター科目及びその単位は，別表１のとおりとする。

第３章　試験

第２０条　削除

第２１条　試験は，各授業科目について行い，合格，不合格を定める。
２　試験成績は，100 点を満点とし，60 点以上を合格とし，60 点未満を不合格とする。
３　試験に合格した者には，その授業科目所定の単位を与える。

第２２条　忌引その他の事由により試験を受けることができなかった者のために,追試験を行うことがある。

第２３条　休学中は，試験を受けることができない。

第４章　入学，編入学，休学，復学，退学，再入学及び除籍

（入学）
第２４条　本大学の１年次に入学を許可する者は,次の各号の一に該当する者で選抜試験に合格し所定の手続を完了した者とする。
(1) 高等学校を卒業した者
(2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者
(3) 通常の課程以外の課程により前号に相当する学校教育を修了した者
(4) 外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
(5) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
(6) 文部科学大臣の指定した者（昭和 23 年文部省告示第 47 号）
(7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第１号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第２条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和 26 年文部省令第 13 号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
(8) その他相当の年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本大学において認めた者

第２４条の２　立教新座高等学校,立教池袋高等学校及び日本聖公会関係の各高等学校又は本大学の推薦入学者制度の指定を受けた高等学校の卒業者中当該学校長の推薦した者については,前条の規定にかかわらず選抜試験の一部又は全部を免除することができる。

（編入学）
第２５条　２年次以上に編入学又は転部・転科・転専修を許可する者は，別に定める本大学の編入学又は転部・転科・転専修の資格を有し，かつ，本大学で行う選抜試験に合格し所定の手続を完了した者とする。

第２６条　第 24 条による入学資格を有しない外国人であって在外公館の推薦ある者は，審査の上，学修を許可することがある。
２　前項により学修を許可された者は，第５条を除き本学則を準用する。

（入学期）
第２７条　入学期は，学年又は学期の初めとする。
２　第 50 条の２に規定する特別外国人学生の入学時期は，各年の 4 月 1 日又は 9 月 1 日とすることができる。
３　第 51 条の３に規定する短期プログラム受講生の受入時期は，別に定める細則による。

（入学志願手続）
第２８条　入学志願者は，入学願書，出身学校長証明の調査書，写真を提出し，かつ，別表２の１若しくは別表２の２による入学検定料を納めなければならない。

（入学手続）
第２９条　選抜試験に合格した者で本大学に入学しようとする者は，保証人を定め，所定の期日までに保証人届出書を提出し，その他指定された手続をしなければならない。
２　本大学は，前項の手続を完了した者に対して入学を許可する。

第３０条　保証人は，本人在学中に係る一切の事項についてその責に任じ，本人の父母又はこれに代わるべき者でなければならない。

第３１条　保証人が死亡し又は前条の要件を欠いた時は，遅滞なく新たな保証人を定め更に保証人届出書を提出しなければならない。

（休学及び復学）
第３２条　病気その他やむを得ない事由により満２か月以上就学することができないときは，保証人連署をもって願い出て許可を受け当該学期間休学することができる。なお，その事実を証明する書面の提出を求めることがある。
２　休学中の期間は，在学年数に算入しない。
３　休学回数は，通算して８回を超えることができない。
４　休学者は，第１項により休学した期間終了後，学期の初めにおいて復学する。

（退学）
第３３条　病気その他の事由により退学しようとする場合は，保証人連署をもって願い出て許可を受けなければならない。

（再入学）
第３４条　願いにより退学した者が再入学を願い出るときは，学年又は学期の初めにおいて原年次に入学を許可することがある。

第３５条　再入学を許可された者は，第 29 条に規定する手続をしなければならない。

（除籍）
第３６条　次の各号の一に該当する者は，除籍する。
(1) 第４条各項のただし書に定める在学年数を超えた者
(2) 学費を納めない者

第３６条の２　入学，編入学，休学，退学及び再入学の許可並びに除籍は，教授会の議を経て，総長がこれを行う。

第５章　留学

第３７条　本大学の学生が本大学との間にあらかじめ学生の相互交流を目的とする協定，又は本大学からの留学に関する協議が成立している外国の大学，又はこれに相当する高等教育機関等及び本学が認めた同等の大学，機関の授業科目を履修するため当該大学等への留学を希望する

ときは，審査の上，本人の教育上有益であると認める場合，これを許可することがある。
２　前項による留学は，本大学における学籍上の扱いを在学のままとする留学（以下在学留学という。）及び休学とする留学（以下休学留学という。）の２種とする。

第３８条　在学留学の許可を受けた者については，その許可を受けた期間を本大学における在学年数に算入する。

第３９条　在学留学の許可を得た者が，留学した大学等において修得した単位又は成果のうち，教授会が適当と認めたものは，第 10 条の２第２項に基づき，本大学の卒業に必要な単位として認定することがある。
２　休学留学の許可を得た者が，留学した大学等において修得した単位又は成果のうち，教授会が適当と認めたものは，第１０条の２第２項に基づき，本大学の単位として認定することがある。

第４０条　第 32 条の規定は，休学留学のための休学に準用する。

第６章　学費その他

第４１条　選抜試験に合格した者で本大学に入学しようとする者は，別表２の３及び別表２の４，又は別表２の３及び別表２の５による学費を指定された入学手続期間内に納めなければならない。
２　学生は，別表２の４による学費を毎学年授業開始後の指定の期日までに納めなければならない。
３　第１項及び前項に定める学費のうち授業料及び実験・実習費は，春学期・秋学期に分納するものとする。

第４２条　学費とは，入学金，授業料（在籍料を含む。）及び実験・実習費をいう。

第４３条　学費は，休学中も別に定める額を納めなければならない。

第４４条　学年の中途で退学する場合も，学費は別に定める額を納めなければならない。

第４５条　既に納めた学費その他の納入金は，次項及び第３項に定めた場合を除いて，返還しない。
２　選抜試験に合格し学費その他の納入金を納めた者のうち，やむを得ない事由により，所定の手続きに則り入学辞退願を提出した者については，入学金を除く学費その他の納入金を返還するものとする。
３　出願時に卒業見込みや所定単位修得見込みなどで選抜試験に合格し，学費その他の納入金を納めた後に，卒業不可や所定単位未修得などが確定し，入学資格要件を満たすことができなくなった者には，届け出により入学金を含む学費その他の納入金を返還するものとする。

第４６条　在学中の学費その他について変更のあった場合には，新たに定められた額に基づいて納めなければならない。

第４７条　教育職員免許状取得に必要な教職に関する専門科目及び学芸員・司書・司書教諭・社会教育主事の資格取得に必要な科目を履修する者は，別表３による受講料を納めなければならない。

第４８条　削除

第４９条　証明書等の交付を受ける者は，別表５による手数料を納めなければならない。

第５０条　学費滞納者には，当該年次の単位認定，研究指導の認定及び学位の授与を行わない。

第６章の２　特別外国人学生

（特別外国人学生）
第５０条の２　本大学と協定のある外国の大学から派遣される学生及び政府その他の機関から本大学に委託される外国人学生は，教授会等の審査の上，特別外国人学生として入学を許可することがある。

第５０条の３　入学を許可された特別外国人学生は，所定の手続をし，かつ，別に定める納入金を納めなければならない。

（単位の認定）
第５０条の４　特別外国人学生が履修した授業科目については,所定の単位を与えることができる。

（学則の準用）
第５０条の５　特別外国人学生については，第５条を除き本学則を準用する。

第５０条の６　前４条に定めるほか，特別外国人学生の受入に関して必要な事項は，立教大学学則及び立教大学大学院学則に定める特別外国人学生の受入に関する細則に定める。

第７章　科目等履修生・特別聴講学生・短期プログラム受講生

（科目等履修生）
第５１条　各学部及び全学共通科目所定の授業科目中その１授業科目又は数授業科目の学修を願い出る者に対して，選考の上，科目等履修生として学修を許可することがある。
２　教職課程，学芸員課程，司書課程及び社会教育主事課程の所定の授業科目の学修を願い出る者に対して，選考の上，科目等履修生として学修を許可することがある。
３　科目等履修生として学修を願い出る者は，別表６による選考料を納めなければならない。
４　科目等履修生が，その履修した授業科目に合格した場合には，所定の単位を与える。

（特別聴講学生）
第５１条の２　本大学と協定のある他大学学生及び他の教育機関の学生・生徒が，本大学の授業科目の学修を願い出るときは，特別聴講学生として許可することがある。
２　特別聴講学生が，その聴講した科目に合格した場合には，所定の単位を与える。

（短期プログラム受講生）
第５１条の３　主に海外の大学等の高等教育機関に在籍する学生で,各学部又はその他教育プログラムの提供が可能な組織が本学で実施する短期間の教育プログラムに参加を願い出る者に対して，短期プログラム受講生として受入を許可することがある。
２　短期プログラム受講生が履修した授業科目に合格した場合には,所定の単位を与えることができる。

（登録料及び受講料）
第５２条　第 51 条第１項及び第２項で科目等履修生として学修を許可された者は，別表６による登録料及び受講料を指定された期間内に納めなければならない。

第５３条　削除

（学則の準用）
第５４条　科目等履修生,特別聴講学生については，第５条を除き本学則を準用し，第 51 条,第 51 条の 2 及び第 52 条で規定した以外の事項については，別に定める細則による。

第５４条の２　短期プログラム受講生については，第５条及び第 36 条の 2 を除き本学則を準用し，第 51 条の 3 で規定した以外の事項については，別に定める細則による。

第８章　賞罰

第５５条　品行方正学業優等の者又は善行により本大学の名誉を揚げた者は，これを表彰する。

第５６条　本大学の規則に違反し，又は本大学の教育方針に背いた者は，これを懲戒する。
２　懲戒は，訓告，停学及び退学の３種とする。
３　退学は，次の各号の一に該当する者に対して行う。
(1) 学業を怠り成業の見込みのないと認められる者
(2) 性行不良で改善の見込みのないと認められる者
(3) 本大学の秩序を乱し，その他学生としての本分に著しく反した者
４　停学は，行為により以下の各号が適用される場合がある。
(1) 停学期間を在学年数に算入しない。
(2) 当該年度の卒業を認めない。

５　停学中は以下の各号が適用される。
(1) 停学中は，大学からの指示がある場合を除き，原則として大学に来ることはできない。
(2) 当該科目の授業時数の2分の1以上の期間にわたって停学であった場合は，当該科目の単位修得は認められない。
(3) 停学中は休学を願い出ることはできない。
(4) 停学中は第 37 条による留学はできない。

第５７条　賞罰は，教授会の議を経て，総長がこれを行う。

第９章　教職員組織

（職位）
第５８条　本大学に，次の職位を置く。
(1) 総長
(2) チャプレン長
(3) 研究科委員長
(4) 研究科専攻主任
(5) 学部長
(6) 学科長
(7) 全学共通カリキュラム運営センター部長
(8) 全学共通カリキュラム運営センター構想・運営チームリーダー
(9) 外国語教育研究センター長
(10) 学校・社会教育講座委員長
(11) 課程主任
(12) 削除
(13) 図書館長
(14) 学生部長
(15) キャリアセンター部長
(16) 教務部長
(17) 総長室長
(18) 人権・ハラスメント対策センター長
(19) 入学センター長
(20) 国際センター長
(21) メディアセンター長
(22) 総合研究センター長
(23) 削除
(24) ボランティアセンター長
(25) 大学教育開発・支援センター長
(26) リサーチ・イニシアティブセンター長
(27) 学生相談所長
(28) 日本語教育センター長
(29) グローバル教育センター長
(30) 国際化推進機構長
(31) 立教サービスラーニングセンター長
(32) グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター長
(33) しょうがい学生支援室長
(34) 事務長
(35) 課長
(36) 主幹
(37) 課長補佐
(38) 調査役

２　本大学に，次の職種を置く。
(1) チャプレン
(2) 教員　教授，准教授，特別専任教授，助教，講師，教育講師，特別任用教員，英語特定講師
(3) カウンセラー
(4) 職員　事務職員，司書職員，技能職員，医療技能職員，校務職員，嘱託，助手
(5) 実験技術員

（総長）
第５９条　総長は，大学を代表し，学長として校務を統括する。

（チャプレン長及びチャプレン）
第６０条　チャプレン長及びチャプレンは，本大学の礼拝を掌り，宗教教育，キリスト教活動及びその行事を主管する。

（研究科委員長）
第６０条の２　研究科委員長は，研究科を主管する。

（研究科専攻主任）
第６０条の３　研究科専攻主任は，研究科委員長の事項に関し研究科委員長を補佐する。

（学部長）
第６１条　学部長は，学部を主管する。

（全学共通カリキュラム運営センター部長）
第６２条　全学共通カリキュラム運営センター部長は，全学共通科目を主管する。

（外国語教育研究センター長）
第６２条の２　外国語教育研究センター長は，外国語教育研究センターを主管する。

（学校・社会教育講座委員長）
第６２条の３　学校・社会教育講座委員長は，学校・社会教育講座の運営を主管する。

（課程主任）
第６２条の４　課程主任は，その課程の運営を主管する。

第６２条の５　削除

（図書館長）
第６３条　図書館長は，図書館に関する事項を主管する。

（学生部長）
第６４条　学生部長は，学生の福祉厚生に関する事項を主管する。

（キャリアセンター部長）
第６５条　キャリアセンター部長は，学生のキャリア支援及び就職に関する事項を主管する。

（教務部長）
第６６条　教務部長は，教学に関する事項を主管する。

第６７条　削除

（総長室長）
第６８条　総長室長は，総長室に関する事項を主管する。

第６８条の２　削除

第６８条の３　削除

第６８条の４　削除

（人権・ハラスメント対策センター長）
第６８条の５　人権・ハラスメント対策センター長は，人権・ハラスメント対策センターに関する事項を主管する。

（入学センター長）
第６８条の６　入学センター長は，入学センターに関する事項を主管する。

（国際センター長）
第６８条の７　国際センター長は，国際センターに関する事項を主管する。

（メディアセンター長）
第６８条の８　メディアセンター長は，メディアセンターに関する事項を主管する。

（総合研究センター長）
第６８条の９　総合研究センター長は，各研究所を統括しこれを代表する。

第６８条の１０　削除

第６８条の１１　削除

（ボランティアセンター長）
第６８条の１２　ボランティアセンター長は，ボランティアセンターに関する事項を主管する。

第６８条の１３　削除

（大学教育開発・支援センター長）
第６８条の１４　大学教育開発・支援センター長は，大学教育開発・支援センターに関する事項を主管する。

（リサーチ・イニシアティブセンター長）
第６８条の１５　リサーチ・イニシアティブセンター長は，リサーチ・イニシアティブセンターに関する事項を主管する。

第６８条の１６　削除

第６８条の１７　削除
（学生相談所長）
第６８条の１８　学生相談所長は，学生相談所に関する事項を主管する。

（日本語教育センター長）
第６８条の１９　日本語教育センター長は，日本語教育センターに関する事項を主管する。

（グローバル教育センター長）
第６８条の２０　グローバル教育センター長は，グローバル教育センターに関する事項を主管する。

（国際化推進機構長）
第６８条の２１　国際化推進機構長は，国際化推進機構に関する事項を主管する。

（立教サービスラーニングセンター長）
第６８条の２２　立教サービスラーニングセンター長は,立教サービスラーニングセンターに関する事項を主管する。

（グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター長）
第６８条の２３　グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター長は，グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センターに関する事項を主管する。

（しょうがい学生支援室長）
第６８条の２４　しょうがい学生支援室長は，しょうがい学生支援室に関する事項を主管する。

（学科長等）
第６９条　学科長は，当該学科の事項（文学科においては，ＧＬＡＰを除く。）に関し学部長を補佐する。
２　全学共通カリキュラム運営センター構想・運営チームリーダーは，当該構想・運営チームの事項に関し全学共通カリキュラム運営センター部長及び全学共通カリキュラム運営センター副部長を補佐する。

（課長等）
第７０条　事務長，課長，主幹，課長補佐及び調査役は，上長を補佐し所管事項を掌る。

（教授）
第７１条　教授は，学生を教授し，その研究を指導し，又は研究に従事する。

（准教授）
第７２条　准教授は，学生を教授し，その研究を指導し，又は研究に従事する。

（特別専任教授）
第７２条の２　特別専任教授は，学生を教授し，その研究を指導し，又は研究に従事する。

（助教）
第７２条の３　助教は，学生を教授し，その研究を指導し，又は研究に従事する。

（講師）
第７２条の４　講師は，教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

（カウンセラー）
第７３条　カウンセラーは，学生の相談にあずかり助育に当る。

第７４条　削除

（教育講師）
第７４条の２　教育講師は，所属センター長等の指揮を受け教育に従事する。

（特別任用教員）
第７４条の３　特別任用教員は，学部長又は研究科委員長等の指揮を受け主に学部又は大学院の教育・研究に従事する。

（英語特定講師）
第７４条の４　英語特定講師は，外国語教育研究センター長等の指揮を受け教育に従事する。

第７４条の５　削除

（実験技術員）
第７５条　実験技術員は，教授，准教授，講師，特別専任教授及び助教の指揮により，研究及び教育を技術面から支援する。

（事務職員等）
第７６条　事務職員，司書職員，技能職員，医療技能職員，校務職員，嘱託及び助手は，その職制に基づく担当業務に従事する。

第１０章　教授会

第７７条　各学部に教授会を置く。
２　教授会は，当該学部の教授及び准教授をもって構成する。ただし，学部の定めるところにより専任講師をこれに加えることができる。
３　教授会は，学部内の人事，学部長の選挙，教育課程，試験，学生の入学，編入学，卒業，休学，退学，再入学，除籍，転部・転科及び賞罰その他学部に関する事項のほか，総長の諮問事項に関し審議する。
４　教授会に関する細則は，別にこれを定める。

第７７条の２　削除

第７７条の３　ＧＬＡＰについては，グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター委員会（「以下「ＧＬＡＰセンター委員会」という。）を第７７条第１項に規定する教授会とみなして，第１０条の２から第１０条の４まで，第３６条の２，第３９条，第５７条及び第７７条第３項の規定（学部長の選挙を除く。）を適用する。この場合において，第１０条の２第１項，第１０条の３第１項，第１０条の４第１項及び第２項，第３６条の２，第３９条，第５７条並びに第７７条３項の規定中「教授会」とあるのは「グローバル・リベラルアーツ・プログラム

運営センター委員会」と，同項中「学部」とあるのは「グローバル・リベラルアーツ・プログラム」とする。
２　前項のほか，ＧＬＡＰセンター委員会その他のＧＬＡＰの運営に関し必要な事項は，別に定める。

第７７条の４　日本語教育センターに所属する特別外国人学生については，日本語教育センター運営会議（「以下「運営会議」という。）を第７７条第１項に規定する教授会とみなして第５０条の２を適用する。この場合において，規定中「教授会」とあるのは「日本語教育センター運営会議」とする。
２　前項のほか，日本語教育センター運営会議その他の日本語教育センター科目の運営に関し必要な事項は，別に定める。

第１１章　附属施設

第１節　礼拝堂

第７８条　礼拝堂は，本大学の建学精神の象徴であって教職員及び学生が日本聖公会の信仰と法憲・法規に基づいてキリスト教生活を営むことを目的とする。

第７９条　礼拝堂においては，次の行事を行う。
(1) 礼　　拝
(2) 本学の諸式典
(3) キリスト教講演
(4) 聖書研究
(5) その他のキリスト教行事

第２節　図書館

第８０条　本大学図書館は，池袋図書館，新座図書館，及び新座保存書庫をもって構成する。

第８１条　本大学図書館所蔵の資料は，本学の教職員，学生及び本学図書館が特に定めた者の利用に供する。

第８２条　閲覧室の開架式による資料は自由閲覧とし，その他の資料は所定の手続によつて利用することができる。

第８３条　各図書館が所蔵する資料の貸出に関する細則は，別にこれを定める。

第８４条　各図書館の開館日及び開館時間に関する細則は，別にこれを定める。

第３節　診療所

第８５条　診療所は，教職員並びに学生の保健衛生思想の向上，疾病の予防並びに診療を行うことを目的とする。

第８６条　本診療所の目的達成のため，次の事業を行う。
(1) 定時並びに不定時健康診断の実施
(2) 治療の実施
(3) 保健衛生に関する講演会の開催
(4) その他必要と認めた事項

第８７条　本診療所の組織及びその他の細則は，別にこれを定める。

第４節　学生相談所

第８８条　学生相談所は，学生が当面する問題について，カウンセリングを行うことを目的とする。

第８９条　本相談所の組織及びその他の細則は，別にこれを定める。

第５節　研究所等

第９０条　この大学に，研究所，センターその他の附属教育研究機関（以下「研究所等」という。）を置く。

第９１条　前条の研究所等については，別に定める。

第１２章　改廃

（改廃）

第９２条　本学則の改廃は，順次，大学部長会，理事会の議を経て，総長が行う。

２　前項に係る主務官庁への届出又は申請は，主務官庁の定めるところによる。

附　則

本学則は，昭和 24 年４月１日から施行する。

附　則

本学則は，昭和 30 年４月１日から施行する。

附　則

本学則は，昭和 31 年４月１日から施行する。

附　則

本学則は，昭和 33 年４月１日から施行する。

附　則

本学則は，昭和 34 年４月１日から施行する。

附　則

本学則は，昭和 36 年４月１日から施行する。

附　則

本学則は，昭和 37 年４月１日から施行する。

附　則

本学則は，昭和 38 年４月１日から施行する。

附　則

本学則は，昭和 39 年４月１日から施行する。

附　則

本学則は，昭和 40 年４月１日から施行する。

附　則

本学則は，昭和 41 年４月１日から施行する。

附　則

本学則は，昭和 42 年４月１日から施行する。

附　則

本学則は，昭和 43 年４月１日から施行する。

附　則

本学則は，昭和 44 年４月１日から施行する。

附　則

本学則は，昭和 46 年４月１日から施行する。

附　則

本学則は，昭和 47 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，昭和 48 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，昭和 49 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，昭和 50 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，昭和 51 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，昭和 52 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，昭和 53 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，昭和 54 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，昭和 55 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，昭和 56 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，1982 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，1983 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，1984 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，1985 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，1986 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，1987 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，1988 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，1989 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，1990 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，1991 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，1991 年 10 月 11 日から施行し，1991 年７月１日から適用する。

附　則
本学則は，1992 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，1993 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，1994 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，1995 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，1995 年４月 14 日から施行する。

附　則
本学則は，1996 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，1997 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，1998 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，1999 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2000 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2001 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2002 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2003 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2004 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2005 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2006 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2007 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2008 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2009 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2010 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2011 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2012 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2013 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2014 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2015 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2016 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2017 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2018 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2019 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2020 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2021 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2022 年４月１日から施行する。

附　則
本学則は，2023 年４月１日から施行する。

別表１（第 13 条－第 19 条関係）

Ⅰ　全学共通科目

Ａ　総合系科目

１　選択科目

(1)　学びの精神

世界史の中のキリスト教	2	身体科学からの学び	2
思想を生み出すキリスト教	2	現代心理学からの学び	2
美術の中のキリスト教	2	アジア地域での平和構築	2
音楽の中のキリスト教	2	グローバル社会での平和構築	2
文学を生み出すキリスト教	2	大学生の学び・社会で学ぶこと	2
国際社会の中の宗教	2	人権とジェンダー	2
現代社会の中の宗教1	2	ライフマネジメントと学生生活	2
現代社会の中の宗教2	2	立教大学の歴史	2
人文学からの学び（文学）	2	西欧キリスト教社会における大学の誕生	2
人文学からの学び(思想・教育)	2	キャリアデザイン	2
人文学からの学び(史学)	2	キリスト教史に学ぶ多文化共生	2
芸術への扉	2	美と生命について:キリスト教の美学	2
グローバル経済社会を考える	2	愛について:キリスト教の倫理と哲学	2
学びの場としての社会	2	GL101	2
メディアからみる学び	2	University Education in the World	2
社会学からの学び	2	Economy and Society	2
法と政治の世界	2	Image Studies	2
経営学への招待	2	英語によるビジネスコミュニケーション入門	2
現代社会と観光	2	教養の扉をひらく	2
現代社会の諸相	2	多文化共生社会と大学	4
自然科学の探究	2		

(2)　多彩な学び

＜1. 人間の探究＞

聖書と人間	2	アフリカの文化とことば	2
聖書考古学	2	イタリアの文化とことば	2
ジェンダーとキリスト教	2	ドイツ語圏の文化	2
イスラームの世界	2	フランス語圏の文化	2
仏教の世界	2	スペイン語圏の文化	2
日本の宗教	2	中国語圏の文化	2
「宗教」とは何か	2	朝鮮語圏の文化	2
現代社会と人間	2	Japanese Ethnology	2
哲学への扉	2	立教ゼミナール1	2
論理的思考法	2	立教ゼミナール発展編1	2
教育と人間	2	睡眠文化論	2
歴史への扉	2	ボランティア論	2
地域研究への扉	2	World History	4
教育学への扉	2	現代社会における言葉の持つ意味	2
多文化の世界	2	立教学院とポールラッシュ	2
文化を生きる	2	哲学対話 in Rikkyo	2
日本文化と精神性	2	ジェンダー・宗教・社会	2
人権思想の根源	2	Religions in Asia	2
手話と人権を考える	2	Peace and Human Rights 1	1
点字から考える人権	2	Peace and Human Rights 2	1
アジアの文化とことば	2	International Humanities 1	2
ヨーロッパの文化とことば	2	International Humanities 2	2
ラテンアメリカの文化とことば	2	Introduction to Gender Studies	2
ロシア・東欧の文化とことば	2	多文化共生社会と日本	4
中東の文化とことば	2		

＜2. 社会への視点＞

入門・経済教室	2	Career and University Education in the Global World	2
世界経済と日本	2	Saitama Studies	2
統計情報で社会・経済を診断する	2	社会調査入門	2
景気・格差問題と統計情報	2	社会調査の技法	2
日本国憲法	2	データ分析入門	2
法と社会	2	データの科学	2
政治と社会	2	多変量解析入門	2
グローバル社会における法と政治	2	Introduction to Statistics 1	2
現代のビジネスを学ぶ	2	Introduction to Statistics 2	2
企業と社会	2	立教ゼミナール2	2
現代社会と環境	2	立教ゼミナール発展編2	2
情報と倫理	2	グローバルシティ・ソウルを読み解く	2
近代日本社会と人権	2	立教 OBOG の「社長の履歴書」	2
メディアと人間	2	RSL ゼミナール	2
文化と社会	2	異文化コミュニケーションを考える	2
現代社会の解読	2	SDGs×AI×経済×法	2
いのちの尊厳と福祉を考える	2	Nativeと学ぶ社会開発	2
コミュニティをデザインする	2	台湾から世界を考える	2
観光学への誘い	2	立教人から学ぶメディアの世界	2
シティズンシップを考える	2	大衆演劇の世界	2
デモクラシーとリベラルアーツ	2	グローバル資本主義とジェンダー	2
大学と現代社会	2	Knowledge, Design, and Innovation	2
日本の「多文化」政策を問い直す	2	Food Cultures and the Acceptance of Japanese	
世界の中のロシア	2	Food in the World	2
パレスチナ問題の歴史と現在	2	Humans and Other Animals	2
国際情勢を読み解く	2	Business Communication	2
ドイツ語圏の社会	2	Global and Japanese Political Economy 1	2
フランス語圏の社会	2	Global and Japanese Political Economy 2	2
スペイン語圏の社会	2	Japanese Society and Culture 1	2
中国語圏の社会	2	Japanese Society and Culture 2	2
朝鮮語圏の社会	2	Introduction to Sociology	2
Modern Japanese History1	2	Introduction to Tourism Studies	2
Modern Japanese History2	2	The Dignity of Life and Welfare	2
Politics & Economy1	2	Selected Topics in Intercultural Communication	2
Politics & Economy2	2	Knowledge and Society 1	1
Japan in Asia1	2	Knowledge and Society 2	1
Japan in Asia2	2	Learning and Teaching Today 1	1
Japanese Society1	2	Learning and Teaching Today 2	1
Japanese Society2	2	Introduction to International Cooperation	2
Tokyo Studies	2	Introduction to the Social Survey	2
Political Sociology	4	Introduction to the Multivariate Analysis	2
Economic Thought	4	SDGs と現代社会の課題とその関わり方入門	2
University in Modern Society	2		

＜3. 芸術・文化への招待＞

文学への扉	2	日本の美術	2
表象文化	2	日本の音楽	2
美術の歴史	2	都市と芸術	2
美術と社会	2	建築と文化	2
音楽の歴史	2	舞踊論	2
音楽と社会	2	映像と社会	2
美術論演習	2	身体表現と哲学	2
音楽論演習	2	日本の演劇	2
キリスト教美術	2	ドイツ語圏の文学	2
キリスト教音楽	2	フランス語圏の文学	2

スペイン語圏の文学	2	立教ゼミナール3	2
中国語圏の文学	2	立教ゼミナール発展編3	2
朝鮮語圏の文学	2	演芸の世界	2
Japanese Culture 1	2	The Psychology of Literature1	1
Japanese Culture 2	2	The Psychology of Literature2	1
Japanese Arts A	2	Exploring Children's Literature	2
Japanese Arts B	2	Techniques for reading and enjoying a	
Literature and Society	4	picturebook in English	2
Culture and Fine Arts	4	International Humanities 3	2

＜4. 心身への着目＞

認知・行動・身体	2	スポーツと文化	2
心の科学	2	レジャー・レクリエーションと現代社会	2
パーソナリティの心理	2	アウトドアの知恵に学ぶ	2
対人関係の心理	2	Japanese Mind	2
心の健康	2	Health and Wellness	4
身体パフォーマンス	2	立教ゼミナール4	2
ストレスマネジメント	2	立教ゼミナール発展編4	2
癒しの科学	2	いのちを健康で彩る智慧	2
スポーツの科学	2	Individual Differences in Psychology	2
健康の科学	2	Understanding Speech Sounds 1	1
栄養の科学	2	Understanding Speech Sounds 2	1
アンチエイジングの科学	2	Health Science	2
スポーツとメディア	2	Applied Data Science with the focus on Sport	
スポーツと社会	2	2nd Wellness	2

＜5. 自然の理解＞

数学の世界	2	地球環境の未来	2
宇宙の科学	2	自然と人間の共生	2
生命の科学	2	脳と心	2
物質の科学	2	オーダーメイド医療最前線	2
身近な物質の化学	2	大学と科学技術	2
化学と自然	2	Science Studies	2
化学と社会	2	Nature of the Earth	4
行動の科学	2	立教ゼミナール5	2
生命の歩み	2	宇宙から地球のみらいを考える	2
地球の理解	2	カーボンニュートラル人材育成講座	2
情報科学A	2	Understanding of Agricultural Science	2
情報科学B	2	Importance of Global Plant Health	2
自然環境の保全	2	Ecology：Environment and Sustainability 1	1
生物の多様性	2	Ecology：Environment and Sustainability 2	1

＜6. 知識の現場＞

GL102	2	アクティブ・リサーチ	2
GL103	2	国連ユースボランティア	12
GL104	2	陸前高田プロジェクト	2
GL111	2	海外インターンシップ1	1
GL201	2	海外インターンシップ2	2
GL202	2	ACE パートナー大学オンライン（SNU）	2
GL301	2	ACE パートナー大学オンライン（PKU）	2
GL302	2	ACE パートナー大学オンライン（NUS）	2
グローバル・イシュー各論	2	RSL-コミュニティ（池袋）	2
グローバル共通教養総論	2	RSL-コミュニティ（埼玉）	2
ソリューション・アプローチ（開発経済）	2	RSL-ローカル（南魚沼）	2
ソリューション・アプローチ（人道支援）	2	RSL-グローバル（フィリピン）	2
ソリューション・アプローチ（強制移転・移住）	2	国際的協働のための国内インターンシップ	2
ソリューション・アプローチ（紛争と平和）	2	国内実践グローバルインターンシップ	1

RSL-ローカル(地域共生)	2	RSL-グローカル B	2
RSL-グローカル A	2		

(3) スポーツ実習

スポーツプログラム1	1	スポーツスタディ2	2
スポーツプログラム2	1	スポーツスタディ3	2
スポーツプログラム3	1	スポーツスタディ4	2
スポーツプログラム4	1	スポーツスタディ e	2
スポーツスタディ1	2		

B 言語系科目

1 必修科目

英語 6

ドイツ語
フランス語
スペイン語
中国語
朝鮮語
ロシア語*
日本語*

} いずれか 1 言語選択,4

＊ ロシア語は，文学部，経済学部，社会学部，法学部，観光学部，コミュニティ福祉学部(コミュニティ政策学科・スポーツウエルネス学科)，現代心理学部、異文化コミュニケーション学部，スポーツウエルネス学部のみ選択可

*日本語は，留学生及び文学部の GLAP の学生のみ選択可。

*NEXUS プログラムの学生,PEACE プログラム(法学部,異文化コミュニケーション学部)の学生及び,法学部ビジネス法学科グローバルコース(外国人留学生書類選考入試)の留学生は,上記に変えて,必修科目として日本語 10 単位を修得する。

*NEXUS プログラムの学生は,学部カリキュラムの履修の前に,必修科目である日本語 10 単位を修得し,かつ,所定の成績を修める必要がある。

2 自由科目

＜英語＞

英語R	1	Current News through English Media	2
English Intensive A (Global World)	4	Japanese Studies through English	2
English Intensive B (Academic Language Skills)	4	Language and History	2
English Intensive C (Integrated Language Skills)	4	English through Movies A	2
English Intensive D (Intercultural Understanding)	4	English through Movies B	2
Self-directed and Reflective Language Learning	2	English through Movies C	2
Intercultural Studies	2	English through Movies D	2
English Communication 1	4	English through Movies E	2
English Communication 2	4	English through Movies F	2
Pleasure Reading	2	World Heritage Sites	2
Reading for Pleasure	2	World Cultures	2
Speech	2	English through Dramas	2
Debate	2	Advertisement English	2
Presentation	2	TOEFL 2 (vocabulary and grammar)	2
Current English 1 (reading)	2	TOEFL 2 (reading)	2
Current English 2 (reading)	2	TOEFL 2 (listening)	2
Current English 1 (listening)	2	TOEFL 2 (speaking and writing)	2
Current English 2 (listening)	2	TOEIC 1 (reading)	2

TOEIC 1 (listening)	2	University Lecture E	2
TOEIC 1 (vocabulary and grammar)	2	University Lecture F	2
TOEIC 2 (reading)	2	Introduction to Global Studies A：Humanities	2
TOEIC 2 (listening)	2	Introduction to Global Studies B：Social Science	2
TOEIC 2 (vocabulary and grammar)	2	Introduction to Global Studies C：Natural Science	2
IELTS	2	CLIL Seminars (Literature)	2
Study Abroad Preparation: IELTS 1 (Basic)	2	CLIL Seminars (Ecology)	2
Study Abroad Preparation: IELTS 2 (Intermediate)	2	CLIL Seminars (Japanology)	2
Study Abroad Preparation: IELTS 3 (Advanced)	2	CLIL Seminars (SDGs)	2
Multimodal Communication in English	2	CLIL Seminars (Psychology)	2
Business Speaking	2	CLIL Seminars (Tourism)	2
Lecture and Discussion A	4	CLIL Seminars (History)	2
Lecture and Discussion B	4	CLIL Seminars (Art)	2
Lecture and Discussion C	4	CLIL Seminars (Health and Wellness)	2
Lecture and Discussion D	4	CLIL Seminars (Globalization and Business)	2
Lecture and Discussion E	4	CLIL Seminars (Movies)	2
Lecture and Discussion F	4	Communication for Global Business	2
Lecture and Discussion G	4	Collaborative Business Projects	2
Lecture and Discussion H	4	英語海外文化研修	4
Discussion and Debate	2	ビクトリア夏ESL2	2
Advanced Academic Vocabulary	2	ハワイ夏ESL1	1
Current English 3 (comprehensive)	2	ダブリン夏ESL3	3
Academic Studies (advanced presentation)	2	ダブリン春ESL3	3
Academic Studies (advanced writing)	2	ビクトリア春ESL2	2
Career Studies (English for vocational purposes)	2	ハワイ春ESL1	1
University Lecture A	2	グリフィス春 ESL3	3
University Lecture B	2	オンライン海外語学研修科目(英語)	1
University Lecture C	2	短期語学研修科目(英語)	1
University Lecture D	2		

＜ドイツ語＞

言語情報処理論(ドイツ語)	2	ドイツ語海外言語文化研修(上級)	2
基礎ドイツ語入門	2	ドイツ語中級 1	2
基礎ドイツ語初級	2	ドイツ語中級 2	2
上級ドイツ語コミュニケーション 1	2	ドイツ語スタンダード 1	1
上級ドイツ語コミュニケーション 2	2	ドイツ語スタンダード 2	1
上級ドイツ語リスニング・リーディング 1	2	ドイツ語スタンダード 3	1
上級ドイツ語リスニング・リーディング 2	2	ドイツ語スタンダード 4	1
上級ドイツ語ライティング 1	2	ドイツ語総合1	2
上級ドイツ語ライティング 2	2	ドイツ語総合2	2
上級ドイツ語演習 1	2	ドイツ語総合3	2
上級ドイツ語演習 2	2	ドイツ語総合4	2
ドイツ語海外言語文化研修(中級)	2		

＜フランス語＞

言語情報処理論(フランス語)	2	上級フランス語演習 2	2
基礎フランス語入門	2	フランス語海外言語文化研修(中級)	2
基礎フランス語初級	2	フランス語海外言語文化研修(上級)	2
上級フランス語コミュニケーション 1	2	フランス語中級 1	2
上級フランス語コミュニケーション 2	2	フランス語中級 2	2
上級フランス語リスニング・リーディング 1	2	フランス語スタンダード 1	1
上級フランス語リスニング・リーディング 2	2	フランス語スタンダード 2	1
上級フランス語ライティング 1	2	フランス語スタンダード 3	1
上級フランス語ライティング 2	2	フランス語スタンダード 4	1
上級フランス語演習 1	2	フランス語総合 3	2

＜スペイン語＞

言語情報処理論(スペイン語)	2	上級スペイン語コミュニケーション 1	2
基礎スペイン語入門	2	上級スペイン語コミュニケーション 2	2
基礎スペイン語初級	2	上級スペイン語リスニング・リーディング 1	2

上級スペイン語リスニング・リーディング 2	2	スペイン語中級 1	2
上級スペイン語ライティング 1	2	スペイン語中級 2	2
上級スペイン語ライティング 2	2	スペイン語スタンダード 1	1
上級スペイン語演習 1	2	スペイン語スタンダード 2	1
上級スペイン語演習 2	2	スペイン語スタンダード 3	1
スペイン語海外言語文化研修（中級）	2	スペイン語スタンダード 4	1
スペイン語海外言語文化研修（上級）	2	スペイン語総合 5	2

＜中国語＞

言語情報処理論（中国語）	2	中国語海外言語文化研修（中級）	2
基礎中国語入門	2	中国語海外言語文化研修（上級）	2
基礎中国語初級	2	中国語海外言語文化研修春（中級）	2
上級中国語コミュニケーション 1	2	中国語海外言語文化研修春（上級）	2
上級中国語コミュニケーション 2	2	中国語中級 1	2
上級中国語リスニング・リーディング 1	2	中国語中級 2	2
上級中国語リスニング・リーディング 2	2	中国語スタンダード 1	1
上級中国語ライティング 1	2	中国語スタンダード 2	1
上級中国語ライティング 2	2	中国語スタンダード 3	1
上級中国語演習 1	2	中国語スタンダード 4	1
上級中国語演習 2	2		

＜朝鮮語＞

言語情報処理論（朝鮮語）	2	上級朝鮮語演習 2	2
基礎朝鮮語入門	2	朝鮮語海外言語文化研修（中級）	2
基礎朝鮮語初級	2	朝鮮語海外言語文化研修（上級）	2
上級朝鮮語コミュニケーション 1	2	朝鮮語中級 1	2
上級朝鮮語コミュニケーション 2	2	朝鮮語中級 2	2
上級朝鮮語リスニング・リーディング 1	2	朝鮮語スタンダード 1	1
上級朝鮮語リスニング・リーディング 2	2	朝鮮語スタンダード 2	1
上級朝鮮語ライティング 1	2	朝鮮語スタンダード 3	1
上級朝鮮語ライティング 2	2	朝鮮語スタンダード 4	1
上級朝鮮語演習 1	2		

＜ロシア語＞

ロシア語セミナー1	1	ロシア語セミナーA	1
ロシア語セミナー2	1	ロシア語セミナーB	1
基礎ロシア語入門	2	ロシア語セミナーC	1
基礎ロシア語初級	2	ロシア語セミナーD	1

＜ポルトガル語＞

ポルトガル語 1	1	ポルトガル語 3	1
ポルトガル語 2	1	ポルトガル語 4	1

＜日本語＞

日本語論文作成法	1	日本の社会と文化 A	2
日本の文化・社会 A	1	日本の社会と文化 B	2
日本の文化・社会 B	1	日本の社会と文化 C	2
日本の文化・社会 C	1	社会の中の日本語 A	2
日本語の諸相 A	1	社会の中の日本語 B	2
日本語の諸相 B	1	論文読解の技法	2
日本語論文読解	1	論文作成の技法	2
ビジネス日本語（文書）	1	キャリアの日本語 A	2
ビジネス日本語口頭A	1	キャリアの日本語 B	2
ビジネス日本語口頭B	1	ビジネスのための口頭運用力 A	2
キャリアジャパニーズ A	1	ビジネスのための口頭運用力 B	2
キャリアジャパニーズ B	1	ビジネスメールと文書	2

＜日本手話＞

日本手話 1	1	日本手話 3	1
日本手話 2	1	日本手話 4	1

総合系科目の選択科目については，各学部（文学部のＧＬＡＰを除く）とも下表に定める単位数を修得しなければならない。なお，必要単位数を超えて修得した単位についても，各学部が定めるところにより卒業要件単位として認められることがある。

履　修　区　分		必要単位	合計
学びの精神		4	18
多彩な学び	1　人間の探究 2　社会への視点 3　芸術・文化への招待 4　心身への着目 5　自然の理解 6　知識の現場	14	
スポーツ実習	スポーツプログラム スポーツスタディ		
＊法学部の学生は，「学びの精神」の「法と政治の世界」，「多彩な学び」「２　社会への視点」の「法と社会」「政治と社会」を履修しても卒業要件単位とはならない。			

［注意］　全学共通科目の開講科目・担当者一覧の備考欄に「＊＊学部所属学生履修不可」とある科目については，「＊＊学部」に所属する学生は履修できない。

言語系科目については，各学部とも英語及びそれ以外の１言語を修得しなければならない。各学部の言語系科目の卒業に必要な単位数は，表１に定めるとおりである。
また、PEACE プログラム,NEXUS プログラムの学生が卒業に必要な単位数は,表 2 及び表 3 に定めるとおりである。

表１

学　部	言　語	必　要　単　位
文学部 経済学部 社会学部 法学部 観光学部 コミュニティ福祉学部 （コミュニティ政策学科・スポーツウェルネス学科） ＊ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学科は募集停止 現代心理学部 異文化コミュニケーション学部 スポーツウエルネス学部	英語	6
	ドイツ語，フランス語，スペイン語，中国語，朝鮮語，ロシア語，日本語のうちいずれか１言語	4
理学部 経営学部 コミュニティ福祉学部（福祉学科）	英語	6
	ドイツ語，フランス語，スペイン語，中国語，朝鮮語，日本語のうちいずれか１言語	4

なお，言語系科目のうち日本語は，外国人留学生（文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修を除く。）及び文学部のＧＬＡＰの学生を対象とするものであり，他の言語にかえて４単位を限度として修得するものとする。

表２　PEACE プログラム学生

学部	言語	必要単位
法学部(＊) 異文化コミュニケーション学部	日本語	10
文学部(GLAP)	英語	6
	日本語	4

*) 法学部国際ビジネス法学科グローバルコース（外国人書類選考入試）の外国人留学生を含む。

表3 NEXUS プログラム学生

学部	言語	必要単位
文学部 経済学部 社会学部 法学部 経営学部 異文化コミュニケーション学部 コミュニティ福祉学部 現代心理学部 スポーツウエルネス学部	日本語	10

Ⅱ 文学部

A 文学部基幹科目（ＧＬＡＰを除く。）

1 必修科目

① 基幹科目A

人文学とキャリア形成 a	2	人文学とキャリア形成 b	2

2 選択科目

① 基幹科目B

インターンシップ	2	Humanities Study4（Literature）	2
海外フィールドスタディ＜1.海外EAP＞	4	Humanities Study5（Literature）	2
海外フィールドスタディ＜2.海外ASD＞	4	Humanities Study6（Literature）	2
海外フィールドスタディ＜3.海外SLV＞	4	SDGs 演習 1［環境思想］	2
ケンブリッジ・サマープログラム	6	SDGs 演習 2［対話スキルと合意形成法］	2
書道 1	1	SDGs 特論1［環境の文学］	2
書道 2	1	SDGs 特論2［緑の政治・経済］	2
SDGs フィールドワーク＜グローバル＞	2	SDGs 特論3［コミュニティ・地域づくり］	2
SDGs フィールドワーク＜ローカル＞	2	SDGs 特論4［人権と平等］	2
情報処理（PC プレゼンテーション）3a	2	人文情報・メディア学演習1［人文情報メディア基礎論（文献講読）］	2
情報処理（PC プレゼンテーション）3b	2		
情報処理（PC プレゼンテーション）3c	2	人文情報・メディア学演習2［人文情報メディア応用論（報告と対話）］	2
情報処理（PC プレゼンテーション）3d	2		
情報処理（PC プレゼンテーション）4a	2	人文情報・メディア学特論1［人文情報とメディア］	2
情報処理（PC プレゼンテーション）4b	2		
情報処理（PC プレゼンテーション）4c	2	人文情報・メディア学特論2［人文情報と社会］	2
情報処理（PC プレゼンテーション）4d	2		
Humanities Study1（History）	2	人文情報・メディア学特論3［電子メディア基礎論］	2
Humanities Study2（Education）	2	人文情報・メディア学特論4［電子メディア応用論］	2
Humanities Study3（Religion）	2		

② 基幹科目C

音楽と感性	2	倫理思想	2
言葉と感性	2	英米文学概論	2
デジタルアーカイブ論	2	ドイツ語圏文化概論 1	2
テキストマイニング論	2	ドイツ語圏文化概論 2	2
心理学 1	2	フランス文学・文化概論	2
心理学 2	2	日本語学概論 1	2
情報処理 1	2	日本語学概論 2	2
情報処理 2	2	漢文学概論	2
宗教思想 1	2	日本文学概論	2
（キリスト教と「知」）	2	文芸・思想概論	2
宗教思想 2	2	世界史概論 1	2
（欧米のキリスト教）		（海域・海洋世界）	

世界史概論 2	2	教育と福祉	2
(大陸世界)		教育と宗教	2
日本史概論 1	2	Humanities Lecture1(History)	2
日本史概論 2	2	Humanities Lecture2(Literature)	2
超域文化学概論	2	SDGs 入門	2
教育制度・政策論	2	人文情報・メディア学入門	2
家庭教育論	2		

③ 基幹科目D

ヘブライ語 1	2	英語文献講読 1	2
ヘブライ語 2	2	Japan in Asian Context	2
ギリシア語 1	2	Traditional Arts in Japan	2
ギリシア語 2	2	Postmodern Turn in Japanese Arts	2
ラテン語 1	2	Development of Gender Studies	2
ラテン語 2	2	Intellectual History of Japan	2
ドイツ語文献講読 1	2	Christianity in Japan	2
ドイツ語文献講読 2	2	Japanese Literature in the World	2
フランス語文献講読 1	2	Rethinking European Literatures	2
フランス語文献講読 2	2		

B 各学科専門教育科目

(1) キリスト教学科専門教育科目

1 必修科目

① 指定科目A

入門演習 A1a	2	キリスト教学基礎演習 A1a	2
入門演習 A1b	2	キリスト教学基礎演習 A1b	2
入門演習 A2a	2	キリスト教学基礎演習 A2a	2
入門演習 A2b	2	キリスト教学基礎演習 A2b	2

2 選択科目

① 指定科目B1

演習 A1	2	演習 A10	2
演習 A2	2	演習 A11	2
演習 A3	2	演習 A12	2
演習 A4	2	演習 A13	2
演習 A5	2	演習 A14	2
演習 A6	2	演習 A15	2
演習 A7	2	演習 A16	2
演習 A8	2	演習 A17	2
演習 A9	2	演習 A18	2

② 指定科目B2

フィールドワーク A1	2	ラテン語購読2	2
キリスト教学特論	2	ヘブライ語購読1	2
ヘブライ語購読2	2	ギリシア語購読1	2
ギリシア語購読2	2	ラテン語購読1	2

③ 指定科目C

キリスト教学入門講義 1 (聖書1)	2	キリスト教学入門講義 5 (宗教と文化1)	2
キリスト教学入門講義 2 (聖書2)	2	キリスト教学入門講義 6 (宗教と文化2)	2
キリスト教学入門講義 3 (キリスト教史1)	2	キリスト教学講義 1 (旧約聖書学1)	2
キリスト教学入門講義 4 (キリスト教史2)	2	キリスト教学講義 2 (旧約聖書学2)	2

キリスト教学講義 3 (新約聖書学1)	2	キリスト教学講義 19 (アジアの宗教1)	2
キリスト教学講義 4 (新約聖書学2)	2	キリスト教学講義 20 (アジアの宗教2)	2
キリスト教学講義 5 (キリスト教思想史1)	2	キリスト教学講義 21 (キリスト教と美術1)	2
キリスト教学講義 6 (キリスト教思想史2)	2	キリスト教学講義 22 (キリスト教と美術2)	2
キリスト教学講義 7 (比較宗教学1)	2	キリスト教学講義 23 (キリスト教と音楽1)	2
キリスト教学講義 8 (比較宗教学2)	2	キリスト教学講義 24 (キリスト教と音楽2)	2
キリスト教学講義 9 (神学思想1)	2	キリスト教学講義 25 (キリスト教美術史1)	2
キリスト教学講義 10 (神学思想2)	2	キリスト教学講義 26 (キリスト教美術史2)	2
キリスト教学講義 11 (キリスト教倫理学1)	2	キリスト教学講義 27 (キリスト教音楽学1)	2
キリスト教学講義 12 (キリスト教倫理学2)	2	キリスト教学講義 28 (キリスト教音楽学2)	2
キリスト教学講義 13 (宗教社会学)	2	キリスト教学講義 33 (キリスト教の礼拝1)	2
キリスト教学講義 14 (宗教心理学)	2	キリスト教学講義 34 (キリスト教の礼拝2)	2
キリスト教学講義 15 (キリスト教と教育1)	2	キリスト教学講義 35 (キリスト教と現代社会1)	2
キリスト教学講義 16 (キリスト教と教育2)	2	キリスト教学講義 36 (キリスト教と現代社会2)	2
キリスト教学講義 17 (アジアのキリスト教1)	2	キリスト教学講義 37 (日本キリスト教史)	2
キリスト教学講義 18 (アジアのキリスト教2)	2	キリスト教学講義 38 (日本宗教史)	2
		卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習	10

3　自由科目

世界史	2	経済学	2
日本史	2	法律学	2
社会学	2	政治学	2

4　随意科目

社会・地理歴史科教育法1	2	社会・公民科教育法2	2
社会・地理歴史科教育法演習1	2	社会・公民科教育法演習2	2
社会・地理歴史科教育法2	2	宗教科教育法1	2
社会・地理歴史科教育法演習2	2	宗教科教育法演習1	2
社会・公民科教育法1	2	宗教科教育法2	2
社会・公民科教育法演習1	2	宗教科教育法演習2	2

指定単位を超えて修得した全学共通科目・文学部基幹科目・指定科目，文学部他学科指定科目，他学部科目，５大学間単位互換制度による他大学の科目，大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目を自由科目の単位として卒業要件単位に算入することができる。ただし，他学部科目及び５大学間単位互換制度による他大学の科目はあわせて 16 単位まで，大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目はあわせて 8 単位まで卒業要件単位に算入することができる。

キリスト教学科は，全学共通科目 28 単位，必修科目 10 単位（うち基幹科目 2 単位），選択科目 58 単位（うち基幹科目 10 単位），自由科目 28 単位，計 124 単位以上を修得しなければならない。

(2) 史学科専門教育科目

［1］世界史学専修

1 必修科目

① 指定科目A

入門演習 G1a	2	入門演習 G2b	2
入門演習 G1b	2	入門演習 G2c	2
入門演習 G1c	2	卒業論文(制作)予備演習	2
入門演習 G2a	2		

2 選択科目

① 指定科目B1

演習 G1	2	演習 G13	2
演習 G2	2	演習 G14	2
演習 G3	2	演習 G15	2
演習 G4	2	演習 G16	2
演習 G5	2	演習 G17	2
演習 G6	2	演習 G18	2
演習 G7	2	演習 G19	2
演習 G8	2	演習 G20	2
演習 G9	2	演習 G21	2
演習 G10	2	演習 G22	2
演習 G11	2	演習 G23	2
演習 G12	2	演習 G24	2

② 指定科目B2

専門基礎1 (アジア・アフリカ系言語1)	2	専門基礎5 (アカデミックライティング)	2
専門基礎2 (アジア・アフリカ系言語2)	2	専門基礎6 (ヨーロッパ系言語2)	2
専門基礎3 (ヨーロッパ系言語1)	2	専門基礎7 (ヨーロッパ系言語3)	2
専門基礎4 (イングリッシュ・コンプリヘンジョン)	2		

③ 指定科目C

史学講義 1 (地中海世界1)	2	史学講義 11 (前近代における法と国家)	2
史学講義 2 (地中海世界2)	2	史学講義 13 (近代東アジア・ユーラシア1)	2
史学講義 3 (前近代ヨーロッパ1)	2	史学講義 14 (近代東アジア・ユーラシア2)	2
史学講義 4 (前近代ヨーロッパ2)	2	史学講義 15 (アジア海域1)	2
史学講義 5 (近代ヨーロッパ1)	2	史学講義 16 (アジア海域2)	2
史学講義 6 (近代ヨーロッパ2)	2	史学講義 17 (世界大戦とヨーロッパ)	2
史学講義 7 (グローバルヒストリー)	2	史学講義 18 (世界大戦とアジア)	2
史学講義 8 (地域からの歴史)	2	史学講義 19 (近現代における法と社会)	2
史学講義 9 (前近代東アジア・ユーラシア1)	2	史学講義 21 (社会史の方法)	2
史学講義 10 (前近代東アジア・ユーラシア2)	2	史学講義 22 (マイノリティと境界)	2

史学講義 23 (人間と都市)	2	史学講義 26 (信仰と知の歴史2)	2
史学講義 24 (人間と環境)	2	自然地理学 1 比較政治史 1	2 2
史学講義 25 (信仰と知の歴史1)	2	卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習	10

3　自由科目

社会学	2	法律学	2
経済学	2	政治学	2

4　随意科目

社会・地理歴史科教育法1	2	社会・公民科教育法1	2
社会・地理歴史科教育法演習1	2	社会・公民科教育法演習1	2
社会・地理歴史科教育法2	2	社会・公民科教育法2	2
社会・地理歴史科教育法演習2	2	社会・公民科教育法演習2	2

指定単位を超えて修得した全学共通科目・文学部基幹科目・指定科目，文学部他学科指定科目，他学部科目，５大学間単位互換制度による他大学の科目，大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目を自由科目の単位として卒業要件単位に算入することができる。ただし，他学部科目及び５大学間単位互換制度による他大学の科目はあわせて 16 単位まで，大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目はあわせて 8 単位まで卒業要件単位に算入することができる。

史学科世界史学専修は，全学共通科目 28 単位，必修科目 8 単位（うち基幹科目 2 単位），選択科目 60 単位（うち基幹科目 10 単位），自由科目 28 単位，計 124 単位以上を修得しなければならない。

［2］日本史学専修

1　必修科目

①　指定科目A

入門演習 G1d	2	入門演習 G2e	2
入門演習 G1e	2	入門演習 G2f	2
入門演習 G1f	2	卒業論文(制作)予備演習	2
入門演習 G2d	2		

2　選択科目

①　指定科目B1

演習 H1	2	演習 H13	2
演習 H2	2	演習 H14	2
演習 H3	2	演習 H15	2
演習 H4	2	演習 H16	2
演習 H5	2	演習 H17	2
演習 H6	2	演習 H18	2
演習 H7	2	演習 H19	2
演習 H8	2	演習 H20	2
演習 H9	2	演習 H21	2
演習 H10	2	演習 H22	2
演習 H11	2	演習 H23	2
演習 H12	2	演習 H24	2

②　指定科目B2

フィールドワーク H1a	2	専門基礎 10 (現代史料論)	2
フィールドワーク H1b	2		
フィールドワーク H2a	2	専門基礎 17 (古文書・古代)	2
フィールドワーク H2b	2		
専門基礎 9 (近代史料論)	2	専門基礎 18 (古文書・中世)	2

専門基礎 19 (古文書・近世)	2		

③ 指定科目C

史学講義 27 (古代日本とアジア1)	2	史学講義 41 (近代日本と世界)	2
史学講義 28 (古代日本とアジア2)	2	史学講義 42 (日本女性史)	2
史学講義 29 (律令制国家論1)	2	史学講義 43 (現代日本史論)	2
史学講義 30 (律令制国家論2)	2	史学講義 44 (現代日本と世界)	2
史学講義 31 (中世日本史論1)	2	史学講義 45 (伝統社会史論2)	2
史学講義 32 (中世日本史論2)	2	史学講義 46 (日本社会史論2)	2
史学講義 33 (中世日本と世界)	2	史学講義 47 (戦争と平和の歴史1)	2
史学講義 34 (中世国家と民衆)	2	史学講義 48 (戦争と平和の歴史2)	2
史学講義 35 (近世日本史論)	2	史学講義 49 (都市と村落)	2
史学講義 36 (伝統社会史論1)	2	史学講義 50 (日本の思想・文化)	2
史学講義 37 (近世日本と世界)	2	史学講義 51 (日本変動期史論1)	2
史学講義 38 (日本社会史論1)	2	史学講義 54 (史科学)	2
史学講義 39 (近代日本史論1)	2	自然地理学 2 比較政治史 2	2 2
史学講義 40 (近代日本史論2)	2	卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習	10

3 自由科目

社会学	2	法律学	2
経済学	2	政治学	2

4 随意科目

社会・地理歴史科教育法1	2	社会・公民科教育法1	2
社会・地理歴史科教育法演習1	2	社会・公民科教育法演習1	2
社会・地理歴史科教育法2	2	社会・公民科教育法2	2
社会・地理歴史科教育法演習2	2	社会・公民科教育法演習2	2

指定単位を超えて修得した全学共通科目・文学部基幹科目・指定科目,文学部他学科指定科目,他学部科目, 5大学間単位互換制度による他大学の科目,大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目を自由科目の単位として卒業要件単位に算入することができる。ただし,他学部科目及び5大学間単位互換制度による他大学の科目はあわせて 16 単位まで, 大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目はあわせて 8 単位まで卒業要件単位に算入することができる。

史学科日本史学専修は, 全学共通科目 28 単位, 必修科目 8 単位 (うち基幹科目 2 単位), 選択科目 60 単位 (うち基幹科目 10 単位), 自由科目 28 単位, 計 124 単位以上を修得しなければならない。

[3] 超域文化学専修

1 必修科目

① 指定科目A

入門演習 G1g	2	入門演習 G1i	2
入門演習 G1h	2	入門演習 G2g	2

入門演習 G2h	2	卒業論文(制作)予備演習	2
入門演習 G2i	2		

2 選択科目

① 指定科目B1

演習 I1	2	演習 I13	2
演習 I2	2	演習 I14	2
演習 I3	2	演習 I15	2
演習 I4	2	演習 I16	2
演習 I5	2	演習 I17	2
演習 I6	2	演習 I18	2
演習 I7	2	演習 I19	2
演習 I8	2	演習 I20	2
演習 I9	2	演習 I21	2
演習 I10	2	演習 I22	2
演習 I11	2	演習 I23	2
演習 I12	2	演習 I24	2

② 指定科目B2

フィールドワーク I1	2	専門基礎 16	2
フィールドワーク I2	2	(フィールドワーク方法論)	
専門基礎 13	2	宗教の多様性と社会	2
(アジア・アフリカ系言語 3)			
専門基礎 15	2		
(カルトグラフィ)			

③ 指定科目C

超域文化学講義 1	2	超域文化学講義 15	2
(文化人類学1)		(文化環境学1)	
超域文化学講義 2	2	超域文化学講義 16	2
(文化人類学2)		(文化環境学2)	
超域文化学講義 3	2	超域文化学講義 17	2
(地域研究論1)		(農耕牧畜論)	
超域文化学講義 4	2	超域文化学講義 18	2
(地域研究論2)		(考古学)	
超域文化学講義 5	2	超域文化学講義 19	2
(地域研究論3)		(都市空間論)	
超域文化学講義 7	2	超域文化学講義 20	2
(アメリカ社会史1)		(文化ダイナミクス論)	
超域文化学講義 8	2	超域文化学講義 21	2
(アメリカ社会史2)		(フォークロア1)	
超域文化学講義 9	2	超域文化学講義 22	2
(アメリカ社会史3)		(フォークロア2)	
超域文化学講義 11	2	超域文化学講義 23	2
(イスラーム複合社会史1)		(比較技術論)	
超域文化学講義 12	2	超域文化学講義 24	2
(イスラーム複合社会史2)		(人類生態学)	
超域文化学講義 13	2	地理学概説 1	2
(イスラーム複合社会論1)		地理学概説 2	2
超域文化学講義 14	2	地誌学 1	2
(イスラーム複合社会論2)		地誌学 2	2
		卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習	10

3 自由科目

社会学	2	法律学	2
経済学	2	政治学	2

4 随意科目

社会・地理歴史科教育法1	2	社会・地理歴史科教育法2	2
社会・地理歴史科教育法演習1	2	社会・地理歴史科教育法演習2	2

社会･公民科教育法1	2	社会･公民科教育法2	2
社会･公民科教育法演習1	2	社会･公民科教育法演習2	2

指定単位を超えて修得した全学共通科目･文学部基幹科目･指定科目,文学部他学科指定科目,他学部科目，５大学間単位互換制度による他大学の科目,大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目を自由科目の単位として卒業要件単位に算入することができる。ただし，他学部科目及び５大学間単位互換制度による他大学の科目はあわせて 16 単位まで，大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目はあわせて 8 単位まで卒業要件単位に算入することができる。

史学科超域文化学専修は，全学共通科目 28 単位，必修科目 8 単位（うち基幹科目 2 単位），選択科目 60 単位（うち基幹科目 10 単位），自由科目 28 単位，計 124 単位以上を修得しなければならない。

（3）教育学科専門教育科目

［１］教育学専攻課程

１ 必修科目

① 指定科目A

入門演習 J1a	2	入門演習 J2d	2
入門演習 J1b	2	教育学	2
入門演習 J1c	2	教育心理学 1	2
入門演習 J1d	2	教育社会学 1	2
入門演習 J2a	2	教育史 1	2
入門演習 J2b	2	教育哲学 1	2
入門演習 J2c	2		

２ 選択科目

① 指定科目B1

演習 J1	2	演習 J10	2
演習 J2	2	演習 J11	2
演習 J3	2	演習 J12	2
演習 J4	2	演習 J13	2
演習 J5	2	演習 J14	2
演習 J6	2	演習 J15	2
演習 J7	2	演習 J16	2
演習 J8	2	演習 J17	2
演習 J9	2	演習 J18	2

② 指定科目B2

教育調査実習 1	2	教育調査実習 4a	2
教育調査実習 2	2	教育調査実習 4b	2
教育調査実習 3a	2	教育実践研究	2
教育調査実習 3b	2		

③ 指定科目C

教育方法学	2	教育社会学 2	2
教育とメディア	2	教育史 2	2
特別活動の理論と方法	2	教育哲学 2	2
生徒指導･進路指導	2	社会教育･生涯学習論	2
教育相談	2	教育課程論	2
カウンセリング	2	国際教育論	2
道徳教育の理論と方法	2	環境教育論	2
幼児教育学	2	教育と表現	2
比較教育学 1	2	教育臨床論	2
比較教育学 2	2	教育臨床心理学	2
キリスト教と教育 1	2	発達心理学	2
キリスト教と教育 2	2	現代教育の諸問題 1	2
教育心理学 2	2	現代教育の諸問題 2	2

子ども文化論	2	英語科教育論	1
哲学的人間学	2	特別支援教育の理論と方法	2
国語科教育論	2	総合的な学習の時間の理論と方法	2
社会科教育論	2	人間と哲学1	2
算数科教育論	2	人間と哲学2	2
理科教育論	2	ICT活用の理論と方法(小学校)	2
生活科教育論	2	卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習	10
家庭科教育論	2		

3　自由科目

世界史	2	経済学	2
日本史	2	法律学	2
社会学	2	政治学	2

4　随意科目

社会・公民科教育法1	2	社会・公民科教育法2	2
社会・公民科教育法演習1	2	社会・公民科教育法演習2	2

指定単位を超えて修得した全学共通科目・文学部基幹科目・指定科目，文学部他学科指定科目，他学部科目，５大学間単位互換制度による他大学の科目，大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目を自由科目の単位として卒業要件単位に算入することができる。ただし，他学部科目及び５大学間単位互換制度による他大学の科目はあわせて 16 単位まで，大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目はあわせて 8 単位まで卒業要件単位に算入することができる。

教育学科教育学専攻課程は，全学共通科目 28 単位，必修科目 16 単位（うち基幹科目 2 単位），選択科目 52 単位（うち基幹科目 10 単位），自由科目 28 単位，計 124 単位以上を修得しなければならない。

［２］初等教育専攻課程

1　必修科目

①　指定科目A1

入門演習 J1a	2	入門演習 J2d	2
入門演習 J1b	2	教育学	2
入門演習 J1c	2	教育心理学 1	2
入門演習 J1d	2	教育社会学 1	2
入門演習 J2a	2	教育史 1	2
入門演習 J2b	2	教育哲学 1	2
入門演習 J2c	2		

②　指定科目A2

国語科教育法	2	音楽実技 2	1
社会科教育法	2	造形表現 1	1
算数科教育法	2	造形表現 2	1
理科教育法	2	体育実技	1
生活科教育法	2	教育方法学	2
家庭科教育法	2	特別活動の理論と方法	2
音楽科教育法	2	生徒指導・進路指導	2
図画工作科教育法	2	教育相談	2
英語科教育法	2	道徳教育の理論と方法	2
体育科教育法	2	教育課程論	2
教職実践演習(小学校)	2	特別支援教育の理論と方法	2
教職論	2	総合的な学習の時間の理論と方法	2
初等教育実習	5	ICT活用の理論と方法(小学校)	2
音楽実技 1	1		

2　選択科目

①　指定科目B1

演習 J1	2	演習 J2	2

演習 J3	2	演習 J11	2
演習 J4	2	演習 J12	2
演習 J5	2	演習 J13	2
演習 J6	2	演習 J14	2
演習 J7	2	演習 J15	2
演習 J8	2	演習 J16	2
演習 J9	2	演習 J17	2
演習 J10	2	演習 J18	2

② 指定科目B2

教育調査実習 1	2	教育調査実習 4a	2
教育調査実習 2	2	教育調査実習 4b	2
教育調査実習 3a	2	教育実践研究	2
教育調査実習 3b	2		

③ 指定科目C1

国語科教育論	2	生活科教育論	2
社会科教育論	2	家庭科教育論	2
算数科教育論	2	英語科教育論	1
理科教育論	2		

④ 指定科目C2

教育とメディア	2	環境教育論	2
カウンセリング	2	教育と表現	2
幼児教育学	2	教育臨床論	2
比較教育学 1	2	教育臨床心理学	2
比較教育学 2	2	発達心理学	2
キリスト教と教育 1	2	子ども文化論	2
キリスト教と教育 2	2	哲学的人間学	2
教育心理学 2	2	指定科目C1　超過履修分	
教育社会学 2	2	現代教育の諸問題 1	2
教育史 2	2	現代教育の諸問題 2	2
教育哲学 2	2	人間と哲学1	2
社会教育・生涯学習論	2	人間と哲学2	2
国際教育論	2	卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習	10

3　自由科目

世界史	2	経済学	2
日本史	2	法律学	2
社会学	2	政治学	2

指定単位を超えて修得した全学共通科目・文学部基幹科目・指定科目,文学部他学科指定科目,他学部科目，５大学間単位互換制度による他大学の科目,大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目を自由科目の単位として卒業要件単位に算入することができる。ただし，他学部科目及び５大学間単位互換制度による他大学の科目はあわせて 16 単位まで，大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目はあわせて 8 単位まで卒業要件単位に算入することができる。

教育学科初等教育専攻課程は,全学共通科目 28 単位,必修科目 67 単位(うち基幹科目 2 単位),選択科目 31 単位（うち基幹科目 10 単位），自由科目 8 単位，計 134 単位以上を修得しなければならない。

［３］中学校・高等学校の教育職員免許状に必要な教育の基礎的理解に関する科目等

①　必修科目

教職概論	2	特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	2
教育原論	2	教育方法論	2
教育制度論・教育課程論	2	ICT 活用の理論と方法	1
教育心理学	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
道徳教育の理論と方法	2	学校教育相談の理論と方法	2
特別支援教育の理論と方法	2	教職実践演習(中・高)	2

中・高教育実習事前指導	1	高校教育実習	2
中・高教育実習	4	教職特別演習	2

教育の基礎的理解に関する科目等については,中学校の教育職員免許状取得希望者について定めた科目を 28 単位,高等学校の教育職員免許状取得希望者について定めた科目を 24 単位修得しなければならない。

(4) 文学科専門教育科目

［1］英米文学専修

1　必修科目
①　指定科目A

入門講義 1	2	基礎演習 1g	2
入門講義 2	2	基礎演習 2a	2
入門演習 B1a	2	基礎演習 2b	2
入門演習 B1b	2	基礎演習 2c	2
入門演習 B1c	2	基礎演習 2d	2
入門演習 B1d	2	基礎演習 2e	2
入門演習 B1e	2	基礎演習 2f	2
入門演習 B1f	2	基礎演習 2g	2
入門演習 B1g	2	英語基礎演習 1a	2
入門演習 B2a	2	英語基礎演習 1b	2
入門演習 B2b	2	英語基礎演習 1c	2
入門演習 B2c	2	英語基礎演習 1d	2
入門演習 B2d	2	英語基礎演習 1e	2
入門演習 B2e	2	英語基礎演習 1f	2
入門演習 B2f	2	英語基礎演習 1g	2
入門演習 B2g	2	英語基礎演習 2a	2
基礎演習 1a	2	英語基礎演習 2b	2
基礎演習 1b	2	英語基礎演習 2c	2
基礎演習 1c	2	英語基礎演習 2d	2
基礎演習 1d	2	英語基礎演習 2e	2
基礎演習 1e	2	英語基礎演習 2f	2
基礎演習 1f	2	英語基礎演習 2g	2

2　選択科目
①　指定科目B1

演習 B1 (英語文学)	2	演習 B12 (英語文学)	2
演習 B2 (英語文学)	2	演習 B13 (英語文学)	2
演習 B3 (英語文学)	2	演習 B14 (英語文学)	2
演習 B4 (英語文学)	2	演習 B15 (英語文学)	2
演習 B5 (英語文学)	2	演習 B16 (英語文学)	2
演習 B6 (英語文学)	2	演習 B17 (英語学)	2
演習 B7 (英語文学)	2	演習 B18 (英語学)	2
演習 B8 (英語文学)	2	演習 B19 (英語学)	2
演習 B9 (英語文学)	2	演習 B20 (英語学)	2
演習 B10 (英語文学)	2	演習 B21 (英語文学)	2
演習 B11 (英語文学)	2	演習 B22 (英語文学)	2

演習 B23	2	演習 B27	2
(英語文学)		(英語学)	
演習 B24	2	演習 B28	2
(英語文学)		(英語学)	
演習 B25	2	演習 B29	2
(英語文学)		演習 B30	2
演習 B26	2		
(英語文学)			

② 指定科目B2

英語表現演習 1	2	英語表現演習 11	2
英語表現演習 2	2	英語表現演習 12	2
英語表現演習 3	2	英語表現演習 13	2
英語表現演習 4	2	英語表現演習 14	2
英語表現演習 5	2	英語表現演習 15	2
英語表現演習 6	2	英語表現演習 16	2
英語表現演習 7	2	英語表現演習 17	2
英語表現演習 8	2	英語表現演習 18	2
英語表現演習 9	2	英語表現演習 19	2
英語表現演習 10	2	英語表現演習 20	2

③ 指定科目C

文学講義 1	2	文学講義 20	2
(英語学概説1)		(児童文学)	
文学講義 2	2	文学講義 21	2
(英語学概説2)		(比較文学1)	
文学講義 3	2	文学講義 22	2
(イギリス文学概説1)		(比較文学2)	
文学講義 4	2	文学講義 23	2
(イギリス文学概説2)		(英語圏文学1)	
文学講義 5	2	文学講義 24	2
(アメリカ文学概説1)		(英語圏文学2)	
文学講義 6	2	文学講義 25	2
(アメリカ文学概説2)		(表象芸術1)	
文学講義 7	2	文学講義 26	2
(イギリス散文1)		(表象芸術2)	
文学講義 8	2	文学講義 27	2
(イギリス散文2)		(英語発達史1)	
文学講義 9	2	文学講義 28	2
(アメリカ散文1)		(英語発達史2)	
文学講義 10	2	文学講義 29	2
(アメリカ散文2)		(英語構造論1)	
文学講義 11	2	文学講義 30	2
(英米詩1)		(英語構造論2)	
文学講義 12	2	文学講義 31	2
(英米詩2)		(音声学1)	
文学講義 13	2	文学講義 32	2
(シェイクスピア1)		(音声学2)	
文学講義 14	2	文学講義 33	2
(シェイクスピア2)		(英米事情1)	
文学講義 15	2	文学講義 34	2
(文学批評・理論1)		(英米事情2)	
文学講義 16	2	文学講義 35	2
(文学批評・理論2)		(イギリス文化1)	
文学講義 17	2	文学講義 36	2
(英米演劇1)		(イギリス文化2)	
文学講義 18	2	文学講義 37	2
(英米演劇2)		(アメリカ文化1)	
文学講義 19	2	文学講義 38	2
(中世英文学)		(アメリカ文化2)	

文学講義 39	2	文学講義 42	2
(英語圏文化1)		(比較文化2)	
文学講義 40	2	卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習	10
(英語圏文化2)			
文学講義 41	2		
(比較文化1)			

3 自由科目

指定単位を超えて修得した全学共通科目・文学部基幹科目・指定科目,文学部他学科指定科目,他学部科目, 5大学間単位互換制度による他大学の科目,大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目を自由科目の単位として卒業要件単位に算入することができる。ただし,他学部科目及び5大学間単位互換制度による他大学の科目はあわせて 16 単位まで, 大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目はあわせて 8 単位まで卒業要件単位に算入することができる。

4 随意科目

英語科教育法1	2	英語科教育法2	2
英語科教育法演習1	2	英語科教育法演習2	2

文学科英米文学専修は, 全学共通科目 28 単位, 必修科目 18 単位 (うち基幹科目 2 単位), 選択科目 50 単位 (うち基幹科目 10 単位), 自由科目 28 単位, 計 124 単位以上を修得しなければならない。

[2] ドイツ文学専修

1 必修科目

① 指定科目A

入門演習 C1a	2	ドイツ語基礎演習 1a	2
入門演習 C1b	2	ドイツ語基礎演習 1b	2
入門演習 C1c	2	ドイツ語基礎演習 1c	2
入門演習 C2a	2	ドイツ語基礎演習 2a	2
入門演習 C2b	2	ドイツ語基礎演習 2b	2
入門演習 C2c	2	ドイツ語基礎演習 2c	2
ドイツ語入門 1a	2	ドイツ語基礎演習 3a	2
ドイツ語入門 1b	2	ドイツ語基礎演習 3b	2
ドイツ語入門 1c	2	ドイツ語基礎演習 3c	2
ドイツ語入門 2a	2	ドイツ語基礎演習 3d	2
ドイツ語入門 2b	2	ドイツ語基礎演習 4a	2
ドイツ語入門 2c	2	ドイツ語基礎演習 4b	2
ドイツ語入門 3a	2	ドイツ語基礎演習 4c	2
ドイツ語入門 3b	2	ドイツ語基礎演習 5a	2
ドイツ語入門 3c	2	ドイツ語基礎演習 5b	2
ドイツ語入門 4a	2	ドイツ語基礎演習 5c	2
ドイツ語入門 4b	2	ドイツ語基礎演習 5d	2
ドイツ語入門 4c	2		

2 選択科目

① 指定科目B1

演習 C1	2	演習 C7	2
(現代ドイツ語圏文化・ジェンダー文化)		(言語文化)	
演習 C2	2	演習 C8	2
(現代ドイツ語圏文化・ジェンダー文化)		(言語文化)	
演習 C3	2	演習 C9	2
(メディア文化・表象文化)		(伝承・物語)	
演習 C4	2	演習 C10	2
(メディア文化・表象文化)		(伝承・物語)	
演習 C5	2	演習 C11	2
(日独における越境の文化)		(比較文化)	
演習 C6	2	演習 C12	2
(日独における越境の文化)		(比較文化)	

② 指定科目B2

ドイツ語表現演習 1A（討論1）	2	ドイツ文学・文化演習 3（児童文学）	2
ドイツ語表現演習 1B（討論1）	2	ドイツ文学・文化演習 4（日独比較文化タンデム）	4
ドイツ語表現演習 2A（討論1）	2	ドイツ文学・文化演習 5（ドイツ文化論）	2
ドイツ語表現演習 2B（討論1）	2	ドイツ文学・文化演習 6（中・近世ドイツ語研究）	2
ドイツ語表現演習 3A（討論2）	2	ドイツ文学・文化演習 7（メディアのドイツ語）	2
ドイツ語表現演習 3B（討論2）	2	ドイツ文学・文化演習 8（検定ドイツ語）	2
ドイツ語表現演習 4A（討論3）	2	ドイツ文学・文化演習 101（日独比較文化）	2
ドイツ語表現演習 4B（討論3）	2	ドイツ文学・文化演習 103（メディア文化・表象文化）	2
ドイツ語表現演習 5（小論文）	2	ドイツ文学・文化演習 105（ドイツと異文化）	2
ドイツ語表現演習 6（小論文）	2	ドイツ文学・文化演習 107（言語文化）	2
ドイツ文学・文化演習 1（韻文）	2	ドイツ文学・文化演習 109（伝承・物語）	2
ドイツ文学・文化演習 2（思想・評論）	2	ドイツ文学・文化演習 111（比較文化）	2

③ 指定科目C

文学講義 101（ドイツの言語）	2	文学講義 114（ドイツの音楽・舞台芸術）	2
文学講義 103（東ドイツの文化）	2	文学講義 115（ドイツの生活文化）	2
文学講義 104（ドイツの言語論）	2	文学講義 116（ドイツのユダヤ系文化）	2
文学講義 105（インド・ゲルマン語の歴史）	2	文学講義 117（ドイツと異文化）	2
文学講義 106（ドイツ文学にみるジェンダー文化）	2	文学講義 118（ドイツ中世の文学・文化）	2
文学講義 107（ドイツのメディア論）	2	文学講義 157（ドイツの学術文化）	2
文学講義 108（日独文化交流）	2	文学講義 160（ドイツの児童文学）	2
文学講義 109（日独比較文化）	2	文学講義 161（バロックの文化）	2
文学講義 110（ドイツのメルヘン）	2	文学講義 162（ドイツの表象文化）	2
文学講義 111（ゲーテの時代）	2	文学講義 164（ドイツの映像文化）	2
文学講義 112（ドイツの近代社会と思想）	2	文学講義 168（ドイツ近世の文学・文化）	2
文学講義 113（ドイツの都市文化）	2	卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習	10

3 自由科目

指定単位を超えて修得した全学共通科目・文学部基幹科目・指定科目，文学部他学科指定科目，他学部科目，５大学間単位互換制度による他大学の科目，大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目を自由科目の単位として卒業要件単位に算入することができる。ただし，他学部科目及び５大学間単位互換制度による他大学の科目はあわせて 16 単位まで，大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目はあわせて 8 単位まで卒業要件単位に算入することができる。

4 随意科目

ドイツ語科教育法1	2	ドイツ語科教育法2	2
ドイツ語科教育法演習1	2	ドイツ語科教育法演習2	2

文学科ドイツ文学専修は，全学共通科目 28 単位，必修科目 24 単位（うち基幹科目 2 単位），選択科目 44 単位（うち基幹科目 10 単位），自由科目 28 単位，計 124 単位以上を修得しなければならない。

［3］フランス文学専修

1 必修科目

① 指定科目A

入門演習 D1a	2	フランス語入門 4c	2
入門演習 D1b	2	フランス語基礎演習 1a	2
入門演習 D1c	2	フランス語基礎演習 1b	2
入門演習 D2a	2	フランス語基礎演習 1c	2
入門演習 D2b	2	フランス語基礎演習 2a	2
入門演習 D2c	2	フランス語基礎演習 2b	2
フランス語入門 1a	2	フランス語基礎演習 2c	2
フランス語入門 1b	2	フランス語基礎演習 3a	2
フランス語入門 1c	2	フランス語基礎演習 3b	2
フランス語入門 2a	2	フランス語基礎演習 3c	2
フランス語入門 2b	2	フランス語基礎演習 4a	2
フランス語入門 2c	2	フランス語基礎演習 4b	2
フランス語入門 3a	2	フランス語基礎演習 4c	2
フランス語入門 3b	2	フランス語基礎演習 5a	2
フランス語入門 3c	2	フランス語基礎演習 5b	2
フランス語入門 4a	2	フランス語基礎演習 5c	2
フランス語入門 4b	2		

2 選択科目

① 指定科目B1

演習 D1	2	演習 D7	2
演習 D2	2	演習 D8	2
演習 D3	2	演習 D9	2
演習 D4	2	演習 D10	2
演習 D5	2	演習 D11	2
演習 D6	2	演習 D12	2

② 指定科目B2

フランス語表現演習 1 （資格のためのフランス語1）	2	フランス文学・文化演習 1 （フィクション1）	2
フランス語表現演習 2 （資格のためのフランス語2）	2	フランス文学・文化演習 2 （フィクション2）	2
フランス語表現演習 3 （コミュニカシオン1）	2	フランス文学・文化演習 3 （エッセー1）	2
フランス語表現演習 4 （コミュニカシオン2）	2	フランス文学・文化演習 4 （エッセー2）	2
フランス語表現演習 5 （コミュニカシオン3）	2	フランス文学・文化演習 5 （時事フランス語1）	2
フランス語表現演習 6 （コミュニカシオン4）	2	フランス文学・文化演習 6 （時事フランス語2）	2
フランス語表現演習 7 （ライティング1）	2	フランス文学・文化演習 7 （映像文化1）	2
フランス語表現演習 8 （ライティング2）	2	フランス文学・文化演習 8 （映像文化2）	2
フランス語表現演習 9 （パフォーマンス1）	2	フランス文学・文化演習 9 （フィクション3）	2
フランス語表現演習 10 （パフォーマンス2）	2	フランス文学・文化演習 10 （フィクション4）	2

③ 指定科目C

文学講義 201 (仏中世・ルネサンス文学)	2	文学講義 210 (表象文化論)	2
文学講義 202 (仏中世・ルネサンス思想)	2	文学講義 211 (フランス美術)	2
文学講義 203 (仏古典主義文学)	2	文学講義 212 (日仏比較)	2
文学講義 204 (仏近代社会)	2	文学講義 213 (ヨーロッパとフランス)	2
文学講義 205 (仏近・現代小説1)	2	文学講義 214 (仏詩・戯曲)	2
文学講義 206 (仏近・現代小説2)	2	文学講義 215 (フランス文化史)	2
文学講義 207 (フランス語圏文学)	2	文学講義 216 (仏現代社会)	2
文学講義 208 (フランス哲学)	2	文学講義 217 (フランス語学概説1)	2
文学講義 209 (フランス思想)	2	文学講義 218 (フランス語学概説2)	2
		卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習	10

3 自由科目

指定単位を超えて修得した全学共通科目・文学部基幹科目・指定科目，文学部他学科指定科目，他学部科目，５大学間単位互換制度による他大学の科目，大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目を自由科目の単位として卒業要件単位に算入することができる。ただし，他学部科目及び５大学間単位互換制度による他大学の科目はあわせて 16 単位まで，大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目はあわせて 8 単位まで卒業要件単位に算入することができる。

4 随意科目

フランス語科教育法1	2	フランス語科教育法2	2
フランス語科教育法演習1	2	フランス語科教育法演習2	2

文学科フランス文学専修は，全学共通科目 28 単位，必修科目 24 単位（うち基幹科目 2 単位），選択科目 44 単位（うち基幹科目 10 単位），自由科目 28 単位，計 124 単位以上を修得しなければならない。

［4］日本文学専修

1 必修科目

① 指定科目A

入門演習 E1a	2	入門演習 E2b	2
入門演習 E1b	2	入門演習 E2c	2
入門演習 E1c	2	入門演習 E2d	2
入門演習 E1d	2	入門演習 E2e	2
入門演習 E1e	2	日本文学研究法	2
入門演習 E2a	2		

2 選択科目

① 指定科目B1

演習 E1	2	演習 E11	2
演習 E2	2	演習 E12	2
演習 E3	2	演習 E13	2
演習 E4	2	演習 E14	2
演習 E5	2	演習 E15	2
演習 E6	2	演習 E16	2
演習 E7	2	演習 E17	2
演習 E8	2	演習 E18	2
演習 E9	2	演習 E19	2
演習 E10	2	演習 E20	2

演習 E21	2	演習 E29	2
演習 E22	2	演習 E30	2
演習 E23	2	演習 E31	2
演習 E24	2	演習 E32	2
演習 E25	2	演習 E33	2
演習 E26	2	演習 E34	2
演習 E27	2	演習 E35	2
演習 E28	2	演習 E36	2

② 指定科目B2

日本文学講読 1	2	漢文学講読 1	2
(古代)		(漢文)	
日本文学講読 2	2	漢文学講読 2	2
(古代)		(漢文)	
日本文学講読 3	2	漢文学講読 3	2
(中世)		(漢文)	
日本文学講読 4	2	漢文学講読 4	2
(中世)		(漢文)	
日本文学講読 5	2	卒業論文(制作)予備研究 1	2
(近世)		卒業論文(制作)予備研究 2	2
日本文学講読 6	2	研究小論文 1b	2
(近世)		研究小論文 2a	2
日本文学講読 7	2	研究小論文 2b	2
(和歌・俳諧)			
日本文学講読 8	2		
(和歌・俳諧)			

③ 指定科目C

文学講義 301	2	文学講義 317	2
(日本文学史・古代1)		(古代日本文学1)	
文学講義 302	2	文学講義 318	2
(日本文学史・古代2)		(古代日本文学2)	
文学講義 303	2	文学講義 319	2
(日本文学史・古代3)		(古代日本文学3)	
文学講義 304	2	文学講義 320	2
(日本文学史・古代4)		(古代日本文学4)	
文学講義 305	2	文学講義 321	2
(日本文学史・中世1)		(中世日本文学1)	
文学講義 306	2	文学講義 322	2
(日本文学史・中世2)		(中世日本文学2)	
文学講義 307	2	文学講義 323	2
(日本文学史・和歌・俳諧1)		(中世日本文学3)	
文学講義 308	2	文学講義 324	2
(日本文学史・和歌・俳諧2)		(中世日本文学4)	
文学講義 309	2	文学講義 325	2
(日本文学史・和歌・俳諧3)		(和歌・俳諧1)	
文学講義 310	2	文学講義 326	2
(日本文学史・和歌・俳諧4)		(和歌・俳諧2)	
文学講義 311	2	文学講義 327	2
(日本文学史・近世1)		(和歌・俳諧3)	
文学講義 312	2	文学講義 328	2
(日本文学史・近世2)		(和歌・俳諧4)	
文学講義 313	2	文学講義 329	2
(日本文学史・近現代1)		(近世日本文学1)	
文学講義 314	2	文学講義 330	2
(日本文学史・近現代2)		(近世日本文学2)	
文学講義 315	2	文学講義 331	2
(日本語史1)		(近現代日本文学1)	
文学講義 316	2	文学講義 332	2
(日本語史2)		(近現代日本文学2)	

文学講義 333 (近現代日本文学3)	2	文学講義 340 (日本語学4)	2
文学講義 334 (近現代日本文学4)	2	文学講義 341 (日本語学5)	2
文学講義 335 (近現代日本文学5)	2	文学講義 342 (日本語学6)	2
文学講義 336 (近現代日本文学6)	2	文学講義 343 (書誌学1)	2
文学講義 337 (日本語学1)	2	文学講義 344 (書誌学2)	2
文学講義 338 (日本語学2)	2	文学講義 345 (文献解読1)	2
文学講義 339 (日本語学3)	2	文学講義 346 (文献解読2)	2
		卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習	10

3 自由科目

指定単位を超えて修得した全学共通科目・文学部基幹科目・指定科目,文学部他学科指定科目,他学部科目, 5大学間単位互換制度による他大学の科目,大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目を自由科目の単位として卒業要件単位に算入することができる。ただし,他学部科目及び5大学間単位互換制度による他大学の科目はあわせて 16 単位まで, 大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目はあわせて 8 単位まで卒業要件単位に算入することができる。

4 随意科目

国語科教育法1	2	国語科教育法2	2
国語科教育法演習1	2	国語科教育法演習2	2

文学科日本文学専修は, 全学共通科目 28 単位, 必修科目 8 単位 (うち基幹科目 2 単位), 選択科目 60 単位 (うち基幹科目 10 単位), 自由科目 28 単位, 計 124 単位以上を修得しなければならない。

［5］文芸・思想専修

1 必修科目

① 指定科目A

入門演習 F1a	2	入門演習 F2b	2
入門演習 F1b	2	入門演習 F2c	2
入門演習 F1c	2	入門演習 F2d	2
入門演習 F1d	2	卒業論文(制作)予備演習	2
入門演習 F2a	2		

2 選択科目

① 指定科目B1

演習 F1	2	演習 F19	2
演習 F2	2	演習 F20	2
演習 F3	2	演習 F21	2
演習 F4	2	演習 F22	2
演習 F5	2	演習 F23	2
演習 F6	2	演習 F24	2
演習 F7	2	演習 F25	2
演習 F8	2	演習 F26	2
演習 F9	2	演習 F27	2
演習 F10	2	演習 F28	2
演習 F11	2	演習 F29	2
演習 F12	2	演習 F30	2
演習 F17	2	演習 F31	2
演習 F18	2	演習 F32	2

② 指定科目B2

文芸・思想文献講読 1	2	文芸・思想文献講読 3	2
文芸・思想文献講読 2	2	文芸・思想文献講読 4	2

③ 指定科目C

文学講義 401	2	文学講義 415	2
(文明批評論1)		(文芸編集論)	
文学講義 402	2	文学講義 416	2
(文明批評論2)		(演劇)	
文学講義 403	2	文学講義 417	2
(文芸評論1)		(現代歌謡論)	
文学講義 404	2	文学講義 418	2
(文芸評論2)		(世界文学論1)	
文学講義 405	2	文学講義 419	2
(文化翻訳論1)		(世界文学論2)	
文学講義 406	2	哲学講義 1	2
(文化翻訳論2)		(西洋哲学)	
文学講義 407	2	哲学講義 2	2
(マンガ/アニメ表現論1)		(東洋哲学)	
文学講義 408	2	哲学講義 3	2
(マンガ/アニメ表現論2)		(芸術論1)	
文学講義 409	2	哲学講義 4	2
(小説創作論1)		(芸術論2)	
文学講義 410	2	哲学講義 5	2
(小説創作論2)		(現代思想の諸問題1)	
文学講義 411	2	哲学講義 6	2
(詩創作論1)		(現代思想の諸問題2)	
文学講義 412	2	哲学講義 7	2
(詩創作論2)		(死生論)	
文学講義 413	2	哲学概論 1	2
(ジェンダー論)		哲学概論 2	2
文学講義 414	2	現代倫理	2
(広告文芸論)		卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習	10

3 自由科目

指定単位を超えて修得した全学共通科目・文学部基幹科目・指定科目, 文学部他学科指定科目, 他学部科目, 5大学間単位互換制度による他大学の科目, 大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目を自由科目の単位として卒業要件単位に算入することができる。ただし, 他学部科目及び5大学間単位互換制度による他大学の科目はあわせて 16 単位まで, 大学院文学研究科の科目及びキリスト教学研究科の科目はあわせて 8 単位まで卒業要件単位に算入することができる。

4 随意科目

国語科教育法1	2	国語科教育法2	2
国語科教育法演習1	2	国語科教育法演習2	2

文学科文芸・思想専修は, 全学共通科目 28 単位, 必修科目 8 単位 (うち基幹科目 2 単位), 選択科目 60 単位 (うち基幹科目 10 単位), 自由科目 28 単位, 計 124 単位以上を修得しなければならない。

[6] GLAP

1 必修科目

Tutorial 1	2	GL202	2
Tutorial 2	2	Second Year Seminar	2
Liberal Arts in Higher Education	4	Globalism and Humanities	4
GL111	2	Citizenship Education	4

International Business	4	Final Year Seminar 2	2
Final Year Seminar 1	2	Graduation Paper	8

2 選択科目

① 英語リベラルアーツ(ELA)科目

World History	4	Literature and Society	4
Culture and Fine Arts	4	Economic Thought	4
Political Sociology	4	Health and Wellness	4
Nature of the Earth	4		

② GLAP 夏季短期集中プログラム科目

University Education in the World	2	Career and University Education in the Global World	2
University in Modern Society	2		

③ 海外留学研修

Study Abroad 1	12	Study Abroad 2	12

④ Global Studies Electives

Global Studies Pre-Seminar	2	Cross-Fields Research	4

＜Global Studies Humanities＞

Humanites First Seminar	2	Seminar in Literature and Culture Studies 2	2
Christianity in Japan	2		
Japanese Literature in the World	2	Seminar in Literature and Culture Studies 3	2
Japan in Asian Context	2		
Rethinking European Literatures	2	Seminar in Literature and Culture Studies 4	2
Traditional Arts in Japan	2		
Postmodern Turn in Japanese Arts	2	Seminar in Literature and Culture Studies 5	2
Development of Gender Studies	2		
Intellectual History of Japan	2	Seminar in Literature and Culture Studies 6	2
Seminar in Literature and Culture Studies 1	2		

＜Global Studies Citizenship＞

Citizenship First Seminar	2	Area Studies – Africa, Islam and Asia	2
Principles of Sociology	2	Sociological Studies A	2
Global Sociology	2	Sociological Studies B	2
Global City	2	Sociological Studies C	2
Gender/Minority Studies	2	Sociological Studies D	2
International Relations	2	Sociology of Gender A	2
UN and International Organizations	2	Cultural Anthropology A	2
Civil Society Organization (NGO/NPO) and Corporate Social Responsibilities	2		

＜Global Studies Business＞

Business First Seminar	2	Business Project	2
Business and Society	2	Business Communication	2
Introduction to Finance	2	Marketing Communications and Penetrating the Japanese Market	2
Introduction to Accounting	2		
Introduction to Marketing	2	Intercultural Business Management	2
Corporate Finance and Valuation	2	Global Innovation Management	2
Financial Statement Analysis	2	International Human Resource Management	2
Marketing Research	2	Global Strategic Management	2
Advanced Business Project	4	Marketing Positioning Strategy	2

3 自由科目

GLAP は, 全学共通科目 10 単位, 必修科目 38 単位, 選択科目 60 単位(英語リベラルアーツ(ELA)科目を 20 単位, GLAP 夏季短期集中プログラム科目を 2 単位, 海外留学研修または Global Studies Electives を 38 単位), 自由科目 16 単位以上, 計 124 単位以上を修得しなければならない。なお, Global Studies Electives において Humanities, Citizenship, Business より 1 つのフィ

ールドを選択し，当該分野の科目を 14 単位以上修得しなければならない。

指定単位を超えて修得した選択科目，全学共通科目，各学部専門教育科目，5 大学間単位互換制度による他大学の科目及び留学認定科目を自由科目の単位として卒業要件単位に算入することができる。

Ⅲ　経済学部

(1) 経済学科専門教育科目

1 必修科目

① 必修科目

経済学1	2	経済学2	2

2 選択科目

① 基本選択科目

社会経済学1	2	初級ミクロ経済学2	2
社会経済学2	2	初級マクロ経済学1	2
初級ミクロ経済学1	2	初級マクロ経済学2	2

② 共通選択科目 1

基礎ゼミナール1	2	経済史2	2
基礎ゼミナール2	2	外書講読・英A	2
情報処理入門1	2	外書講読・英B	2
情報処理入門2	2	経営学1	2
統計学1	2	経営学2	2
統計学2	2	簿記1	2
経済数学入門	2	簿記2	2
経済史1	2		

③ 共通選択科目 2

応用社会経済学1	2	経済英語4	2
応用社会経済学2	2	経済英語5	2
中級ミクロ経済学	2	経済英語6	2
中級マクロ経済学	2	経済英語7	2
経済学史1	2	経済英語8	2
経済学史2	2	経済英語9	2
経済統計学1	2	Short-term Study Abroad Program in Economics(USA)	8
経済統計学2	2	Short-term Study Abroad Program in Economics(UK)	8
計量経済学1	2	Short-term Study Abroad Program in Economics(CAN)	6
計量経済学2	2	Short-term Study Abroad Program in Economics(CHN)	6
日本経済論1	2	Short-term Study Abroad Program in Economics(AUS)	6
日本経済論2	2	Short-term Study Abroad Program in Economics(PHL)	4
国際経済論	2	Japanese Economy1	2
世界経済論	2	Japanese Economy2	2
財政学1	2	Japanese Economic History1	2
財政学2	2	Japanese Economic History2	2
金融論1	2	Japanese Management1	2
金融論2	2	Japanese Management2	2
日本経済史1	2	Economics	2
日本経済史2	2	Statistics	2
経済情報処理A	2	Accounting1	2
経済情報処理B	2	Accounting2	2
経済英語1	2	Finance1	2
経済英語2	2	Finance2	2
経済英語3	2		

④ 学科選択科目

数理経済学	2	現代ヨーロッパ経済史	2
景気変動論1	2	経営史1	2
景気変動論2	2	経営史2	2
社会思想史	2	公共経済学1	2
現代社会思想	2	公共経済学2	2
欧州経済史	2	産業経済論1	2

産業経済論2	2	国際貿易論	2
労働経済論1	2	国際経済政策論	2
労働経済論2	2	経済政策論1	2
社会政策論1	2	経済政策論2	2
社会政策論2	2	租税論1	2
農業経済論	2	租税論2	2
農業政策論	2	地方財政論1	2
都市政策論1	2	地方財政論2	2
都市政策論2	2	証券経済論	2
環境経済学1	2	証券市場論	2
環境経済学2	2	外国為替論	2
開発経済学	2	国際金融論	2
アジア経済論	2	統計調査論1	2
アメリカ経済論	2	統計調査論2	2
アメリカ経済政策論	2		

3 自由科目

① 自由選択科目 1

アジア経済史1	2	会計政策論	2
アジア経済史2	2	環境会計論	2
アメリカ経済史	2	非営利会計論	2
現代アメリカ経済史	2	会計史1	2
中小企業論1	2	会計史2	2
中小企業論2	2	コーポレートファイナンス1	2
消費者政策論	2	コーポレートファイナンス2	2
生活経済論	2	金融工学	2
比較公共政策論1	2	ポートフォリオ論	2
比較公共政策論2	2	金融機関論	2
社会開発論	2	金融政策論	2
現代経済論	2	年金経済論	2
現代経済演習1	2	保険論	2
現代経済演習2	2	金融史	2
医療経済論	2	現代企業論1	2
福祉経済論	2	現代企業論2	2
流通経済論	2	国際経営論1	2
流通政策論	2	国際経営論2	2
EU経済論	2	マーケティング論1	2
地域経済統合論	2	マーケティング論2	2
中国経済論	2	コーポレートガバナンス論1	2
中国経済政策論	2	コーポレートガバナンス論2	2
国際政治経済学	2	企業法1	2
会計学1	2	企業法2	2
会計学2	2	ゼミナールA	4
中級簿記1	2	ゼミナールB	4
中級簿記2	2	ゼミナール(単年度)	4
ファイナンス基礎	2	外書講読・独A	2
経営分析論1	2	外書講読・独B	2
経営分析論2	2	外書講読・仏A	2
財務会計論1	2	外書講読・仏B	2
財務会計論2	2	データサイエンス概論	2
管理会計論1	2	調査実習	4
管理会計論2	2	経済地理学1	2
原価計算論1	2	経済地理学2	2
原価計算論2	2	課題解決演習A	2
会計監査論1	2	課題解決演習B	2
会計監査論2	2	課題解決演習C	2
租税法1	2	企画講座1	2
租税法2	2	企画講座2	2
上級簿記1	2	企画講座3	2
上級簿記2	2	企画講座4	2
国際会計論1	2	企画講座5	2
国際会計論2	2	インターンシップ	4
会計情報論1	2	キャリアデザイン論	2
会計情報論2	2	キャリアコンサルティング論	2
税務会計論	2	憲法1	2

憲法2	2	行政学2	2
民法1	2	地方自治論	2
民法2	2	労働法	4
経済法1	2	経済ビッグデータ解析入門	2
経済法2	2	機械学習入門	2
行政学1	2		

② 自由選択科目 2

日本史	2	自然地理学2	2
世界史	2	心理学1	2
政治学	2	心理学2	2
地誌学1	2	宗教思想1	2
地誌学2	2	宗教思想2	2
地理学概説1	2	哲学概論1	2
地理学概説2	2	哲学概論2	2
自然地理学1	2		

4 随意科目

社会・地理歴史科教育法 1	2	社会・公民科教育法 2	2
社会・地理歴史科教育法 2	2	社会・公民科教育法演習 1	2
社会・地理歴史科教育法演習 1	2	社会・公民科教育法演習 2	2
社会・地理歴史科教育法演習 2	2	商業科教育法 1	2
社会・公民科教育法 1	2	商業科教育法演習 1	2

経済学科は，全学共通科目 28 単位，専門教育必修科目を 4 単位，選択科目を 58 単位（基本選択科目を 8 単位，共通選択科目 1 を 14 単位，共通選択科目 2 を 12 単位，学科選択科目を 24 単位），自由科目を 34 単位以上，合計 124 単位以上を修得しなければならない。

ただし，全学共通科目で卒業要件単位数を超えて修得した単位・自由選択科目 2・他学部科目・５大学間単位互換制度・入学後の他大学認定科目における修得単位は 14 単位までを卒業要件単位に算入することができる。なお，自由選択科目 2・他学部科目・５大学間単位互換制度・入学後の他大学認定科目における修得単位は 8 単位を上限とする。

(2) 会計ファイナンス学科専門教育科目

1 必修科目

① 必修科目

簿記 1	2	会計学 2	2
簿記 2	2	経済学 1	2
会計学 1	2	経済学 2	2

2 選択科目

① 共通選択科目 1

基礎ゼミナール 1	2	外書講読・英 B	2
基礎ゼミナール 2	2	経営学 1	2
情報処理入門 1	2	経営学 2	2
情報処理入門 2	2	社会経済学 1	2
統計学 1	2	社会経済学 2	2
統計学 2	2	初級ミクロ経済学 1	2
経済数学入門	2	初級マクロ経済学 1	2
外書講読・英 A	2		

② 共通選択科目 2

中級簿記 1	2	金融論 2	2
中級簿記 2	2	景気変動論 1	2
ファイナンス基礎	2	景気変動論 2	2
経営分析論 1	2	初級ミクロ経済学 2	2
経営分析論 2	2	初級マクロ経済学 2	2
金融論 1	2	財務情報処理 A	2

財務情報処理 B	2	Short-term Study Abroad Program in Economics(AUS)	6
経済英語1	2	Short-term Study Abroad Program in Economics(PHL)	4
経済英語2	2	Japanese Economy1	2
経済英語3	2	Japanese Economy2	2
経済英語4	2	Japanese Economic History1	2
経済英語5	2	Japanese Economic History2	2
経済英語6	2	Japanese Management1	2
経済英語7	2	Japanese Management2	2
経済英語8	2	Economics	2
経済英語9	2	Statistics	2
Short-term Study Abroad Program in Economics(USA)	8	Accounting1	2
Short-term Study Abroad Program in Economics(UK)	8	Accounting2	2
Short-term Study Abroad Program in Economics(CAN)	6	Finance1	2
Short-term Study Abroad Program in Economics(CHN)	6	Finance2	2

③ 学科選択科目

A アカウンティング

財務会計論 1	2	上級簿記 2	2
財務会計論 2	2	国際会計論 1	2
管理会計論 1	2	国際会計論 2	2
管理会計論 2	2	会計情報論 1	2
原価計算論 1	2	会計情報論 2	2
原価計算論 2	2	税務会計論	2
会計監査論 1	2	会計政策論	2
会計監査論 2	2	環境会計論	2
租税法 1	2	非営利会計論	2
租税法 2	2	会計史 1	2
上級簿記 1	2	会計史 2	2

B ファイナンス

コーポレートファイナンス 1	2	金融工学	2
コーポレートファイナンス 2	2	ポートフォリオ論	2
証券経済論	2	金融機関論	2
証券市場論	2	金融政策論	2
外国為替論	2	年金経済論	2
国際金融論	2	保険論	2
計量経済学 1	2	金融史	2
計量経済学 2	2		

C マネジメント

経営史 1	2	マーケティング論 1	2
経営史 2	2	マーケティング論 2	2
現代企業論 1	2	コーポレート・ガバナンス論 1	2
現代企業論 2	2	コーポレート・ガバナンス論 2	2
国際経営論 1	2	企業法 1	2
国際経営論 2	2	企業法 2	2

3 自由科目

① 自由選択科目 1

経済史 1	2	日本経済史 2	2
経済史 2	2	経済政策論 1	2
経済学史 1	2	経済政策論 2	2
経済学史 2	2	財政学 1	2
経済統計学 1	2	財政学 2	2
経済統計学 2	2	国際貿易論	2
日本経済論 1	2	国際経済政策論	2
日本経済論 2	2	応用社会経済学 1	2
国際経済論	2	応用社会経済学 2	2
世界経済論	2	中級ミクロ経済学	2
日本経済史 1	2	中級マクロ経済学	2

公共経済学 1	2	比較公共政策論 1	2
公共経済学 2	2	比較公共政策論 2	2
現代経済論	2	社会開発論	2
現代経済演習1	2	医療経済論	2
現代経済演習2	2	福祉経済論	2
数理経済学	2	流通経済論	2
社会思想史	2	流通政策論	2
現代社会思想	2	ゼミナール A	4
EU 経済論	2	ゼミナール B	4
地域経済統合論	2	ゼミナール(単年度)	4
中国経済論	2	データサイエンス概論	2
中国経済政策論	2	統計調査論 1	2
国際政治経済学	2	統計調査論 2	2
欧州経済史	2	調査実習	4
現代ヨーロッパ経済史	2	外書講読・独 A	2
アジア経済史 1	2	外書講読・独 B	2
アジア経済史 2	2	外書講読・仏 A	2
アメリカ経済史	2	外書講読・仏 B	2
現代アメリカ経済史	2	経済地理学 1	2
産業経済論 1	2	経済地理学 2	2
産業経済論 2	2	課題解決演習 A	2
労働経済論 1	2	課題解決演習 B	2
労働経済論 2	2	課題解決演習 C	2
環境経済学 1	2	企画講座 1	2
環境経済学 2	2	企画講座 2	2
開発経済学	2	企画講座 3	2
アジア経済論	2	企画講座 4	2
アメリカ経済論	2	企画講座 5	2
アメリカ経済政策論	2	インターンシップ	4
租税論 1	2	キャリアデザイン論	2
租税論 2	2	キャリアコンサルティング論	2
地方財政論 1	2	憲法 1	2
地方財政論 2	2	憲法 2	2
社会政策論 1	2	民法 1	2
社会政策論 2	2	民法 2	2
農業経済論	2	経済法 1	2
農業政策論	2	経済法 2	2
都市政策論 1	2	行政学 1	2
都市政策論 2	2	行政学 2	2
中小企業論 1	2	地方自治論	2
中小企業論 2	2	労働法	4
消費者政策論	2	経済ビッグデータ解析入門	2
生活経済論	2	機械学習入門	2

② 自由選択科目 2

日本史	2	自然地理学 2	2
世界史	2	心理学 1	2
政治学	2	心理学 2	2
地誌学 1	2	宗教思想 1	2
地誌学 2	2	宗教思想 2	2
地理学概説 1	2	哲学概論 1	2
地理学概説 2	2	哲学概論 2	2
自然地理学 1	2		

4 随意科目

社会・公民科教育法 1	2	社会・公民科教育法演習1	2
社会・公民科教育法2	2	社会・公民科教育法演習2	2

商業科教育法1	2	商業科教育法演習1	2

会計ファイナンス学科は，全学共通科目 28 単位，専門教育必修科目を 12 単位，選択科目を 58 単位（共通選択科目 1 を 14 単位，共通選択科目 2 を 12 単位，学科選択科目を 32 単位），自由科目を 26 単位以上，合計 124 単位以上を修得しなければならない。

ただし，全学共通科目で卒業要件単位数を超えて修得した単位・自由選択科目 2・他学部科目・５大学間単位互換制度・入学後の他大学認定科目における修得単位は 14 単位までを卒業要件単位に算入することができる。なお，自由選択科目 2・他学部科目・５大学間単位互換制度・入学後の他大学認定科目における修得単位は８単位を上限とする。

（3）経済政策学科専門教育科目

1　必修科目

① 必修科目

経済学1	2	政策分析概論	2
経済学2	2		

2 選択科目

① 基本選択科目

社会経済学1	2	初級ミクロ経済学2	2
社会経済学2	2	初級マクロ経済学1	2
初級ミクロ経済学1	2	初級マクロ経済学2	2

② 共通選択科目 1

基礎ゼミナール1	2	経済史2	2
基礎ゼミナール2	2	外書講読・英A	2
情報処理入門1	2	外書講読・英B	2
情報処理入門2	2	経営学1	2
統計学1	2	経営学2	2
統計学2	2	簿記1	2
経済数学入門	2	簿記2	2
経済史1	2		

③ 共通選択科目 2

経済政策論1	2	経済英語9	2
経済政策論2	2	Short-term Study Abroad Program in Economics(USA)	8
財政学1	2	Short-term Study Abroad Program in Economics(UK)	8
財政学2	2	Short-term Study Abroad Program in Economics(CAN)	6
社会政策論1	2	Short-term Study Abroad Program in Economics(CHN)	6
社会政策論2	2	Short-term Study Abroad Program in Economics(AUS)	6
産業経済論1	2	Short-term Study Abroad Program in Economics(PHL)	4
産業経済論2	2	Japanese Economy1	2
国際経済論	2	Japanese Economy2	2
世界経済論	2	Japanese Economic History1	2
政策情報処理A	2	Japanese Economic History2	2
政策情報処理B	2	Japanese Management1	2
経済英語1	2	Japanese Management2	2
経済英語2	2	Economics	2
経済英語3	2	Statistics	2
経済英語4	2	Accounting1	2
経済英語5	2	Accounting2	2
経済英語6	2	Finance1	2
経済英語7	2	Finance2	2
経済英語8	2		

④ 学科選択科目

A 公共サービスと生活

租税論1	2	消費者政策論	2
租税論2	2	生活経済論	2
地方財政論1	2	比較公共政策論1	2
地方財政論2	2	比較公共政策論2	2
都市政策論1	2	租税法1	2
都市政策論2	2	租税法2	2
環境経済学1	2	公共経済学1	2
環境経済学2	2	公共経済学2	2

医療経済論	2	年金経済論	2
福祉経済論	2		

B 競争と規制

農業経済論	2	流通経済論	2
農業政策論	2	流通政策論	2
中小企業論1	2	現代企業論1	2
中小企業論2	2	現代企業論2	2
労働経済論1	2	金融機関論	2
労働経済論2	2	金融政策論	2

C グローバル化と地域

国際貿易論	2	外国為替論	2
国際経済政策論	2	国際金融論	2
開発経済学	2	社会開発論	2
アジア経済論	2	国際政治経済学	2

D 政策関連科目

金融論1	2	地域経済統合論	2
金融論2	2	中国経済論	2
日本経済論1	2	中国経済政策論	2
日本経済論2	2	憲法1	2
経済統計学1	2	憲法2	2
経済統計学2	2	経済法1	2
計量経済学1	2	経済法2	2
計量経済学2	2	行政学1	2
アメリカ経済論	2	行政学2	2
アメリカ経済政策論	2	地方自治論	2
EU経済論	2	労働法	4

3 自由科目

① 自由選択科目 1

経済学史1	2	財務会計論2	2
経済学史2	2	管理会計論1	2
日本経済史1	2	管理会計論2	2
日本経済史2	2	原価計算論1	2
証券経済論	2	原価計算論2	2
証券市場論	2	会計監査論1	2
景気変動論1	2	会計監査論2	2
景気変動論2	2	上級簿記1	2
応用社会経済学1	2	上級簿記2	2
応用社会経済学2	2	国際会計論1	2
中級ミクロ経済学	2	国際会計論2	2
中級マクロ経済学	2	会計情報論1	2
現代経済論	2	会計情報論2	2
現代経済演習1	2	税務会計論	2
現代経済演習2	2	会計政策論	2
数理経済学	2	環境会計論	2
社会思想史	2	非営利会計論	2
現代社会思想	2	会計史1	2
欧州経済史	2	会計史2	2
現代ヨーロッパ経済史	2	コーポレートファイナンス1	2
経営史1	2	コーポレートファイナンス2	2
経営史2	2	金融工学	2
アジア経済史1	2	ポートフォリオ論	2
アジア経済史2	2	保険論	2
アメリカ経済史	2	金融史	2
現代アメリカ経済史	2	国際経営論1	2
会計学1	2	国際経営論2	2
会計学2	2	マーケティング論1	2
中級簿記1	2	マーケティング論2	2
中級簿記2	2	コーポレートガバナンス論1	2
ファイナンス基礎	2	コーポレートガバナンス論2	2
経営分析論1	2	企業法1	2
経営分析論2	2	企業法2	2
財務会計論1	2	外書講読・独A	2

外書講読・独B	2	課題解決演習C	2
外書講読・仏A	2	企画講座1	2
外書講読・仏B	2	企画講座2	2
ゼミナールA	4	企画講座3	2
ゼミナールB	4	企画講座4	2
ゼミナール(単年度)	4	企画講座5	2
データサイエンス概論	2	インターンシップ	4
統計調査論1	2	キャリアデザイン論	2
統計調査論2	2	キャリアコンサルティング論	2
調査実習	4	民法1	2
経済地理学1	2	民法2	2
経済地理学2	2	経済ビッグデータ解析入門	2
課題解決演習A	2	機械学習入門	2
課題解決演習B	2		

② 自由選択科目 2

日本史	2	自然地理学2	2
世界史	2	心理学1	2
政治学	2	心理学2	2
地誌学1	2	宗教思想1	2
地誌学2	2	宗教思想2	2
地理学概説1	2	哲学概論1	2
地理学概説2	2	哲学概論2	2
自然地理学1	2		

4 随意科目

社会・地理歴史科教育法 1	2	社会・公民科教育法 2	2
社会・地理歴史科教育法 2	2	社会・公民科教育法演習 1	2
社会・地理歴史科教育法演習 1	2	社会・公民科教育法演習 2	2
社会・地理歴史科教育法演習 2	2	商業科教育法 1	2
社会・公民科教育法 1	2	商業科教育法演習 1	2

経済政策学科は，全学共通科目 28 単位，専門教育必修科目を 6 単位，選択科目を 64 単位（基本選択科目を 4 単位，共通選択科目 1 を 14 単位，共通選択科目 2 を 12 単位，学科選択科目を 34 単位），自由科目を 26 単位以上，合計 124 単位以上を修得しなければならない。

ただし，全学共通科目で卒業要件単位数を超えて修得した単位・自由選択科目 2・他学部科目・５大学間単位互換制度・入学後の他大学認定科目における修得単位は 14 単位までを卒業要件単位に算入することができる。なお，自由選択科目 2・他学部科目・５大学間単位互換制度・入学後の他大学認定科目における修得単位は 8 単位を上限とする。

Ⅳ 理学部

(1) 数学科専門教育科目

1 必修科目

線形代数学入門	2	計算機入門 2 演習		1
線形代数学入門演習	1	線形代数学 2		2
集合と写像	2	線形代数学 2 演習		1
線形代数学 1	2	群論入門		2
線形代数学 1 演習	1	群論入門演習		1
微分と積分入門	2	微分と積分 2		2
微分と積分入門演習	1	微分と積分 2 演習		1
微分と積分 1	2	微分と積分 3		2
微分と積分 1 演習	1	微分と積分 3 演習		1
計算機入門 1	2	数学講究	8 }	8
計算機入門 1 演習	1	応用数学講究	8 }	
計算機入門 2	2			

2 選択科目

① 専門選択科目1

代数学 1	2	代数学 1 演習	1

代数学２	2	解析学１演習	1
代数学２演習	1	解析学２	2
幾何学１	2	解析学２演習	1
幾何学１演習	1	情報数理１	2
幾何学２	2	情報数理１演習	1
幾何学２演習	1	情報数理２	2
解析学１	2	情報数理２演習	1

② 専門選択科目２

代数学３	2	幾何学４	2
幾何学３	2	解析学４	2
解析学３	2	情報数理４	2
情報数理３	2	現代数学概論	2
代数学４	2		

③ 専門選択科目３

整数論入門	2	代数学諸論４	2
微分方程式入門	2	代数学諸論５	2
数学セミナー1	2	代数学諸論６	2
数学セミナー2	2	幾何学諸論１	2
数学セミナー3	2	幾何学諸論２	2
数学セミナー4	2	幾何学諸論３	2
計算機１	2	幾何学諸論４	2
計算機２	2	幾何学諸論５	2
計算機３	2	幾何学諸論６	2
計算機４	2	解析学諸論１	2
確率と統計１	2	解析学諸論２	2
確率と統計２	2	解析学諸論３	2
情報科学１	2	解析学諸論４	2
情報科学２	2	解析学諸論５	2
情報科学３	2	解析学諸論６	2
情報科学４	2	確率論諸論１	2
情報科学６	2	確率論諸論２	2
計算機諸論１	2	確率論諸論３	2
計算機諸論２	2	確率論諸論４	2
計算機諸論３	2	統計数学諸論１	2
情報科学諸論１	2	統計数学諸論２	2
情報科学諸論２	2	統計数学諸論３	2
情報科学諸論３	2	統計数学諸論４	2
情報科学諸論４	2	科学英語１（数）	2
情報科学諸論６	2	科学英語２（数）	2
応用数学諸論１	2	物理学(数)	2
応用数学諸論２	2	線形代数学続論	2
応用数学諸論３	2	確率論序論1	2
応用数学諸論４	2	確率論序論2	2
応用数学諸論５	2	確率論序論3	2
応用数学諸論６	2	数理統計学序論1	2
代数学諸論１	2	数理統計学序論2	2
代数学諸論２	2	数理統計学序論3	2
代数学諸論３	2		

④ 学部共通科目

理学とキャリア	2	サイエンスコミュニケーション入門	2
理数教育企画	2	地学概説	2
科学史	2	理学とビジネスリーダーシップ（BL4）	2
数学ことはじめ	2	医学概論	2
科学の倫理	2	短期海外留学プログラム１	2
知的財産権概論	2	短期海外留学プログラム２	2

短期海外留学プログラム 3	2	短期海外留学プログラム 4	2

3　自由科目

① 数学科自由科目

情報産業論	2	情報科学 A	2
情報社会論	2	情報科学 B	2
情報と倫理	2		

4　随意科目

地学総合実験	1	数学科教育法演習 1	2
共通教育ゼミナール 1	2	数学科教育法演習 2	2
共通教育ゼミナール 2	2	情報科教育法 1	2
数学科教育法 1	2	情報科教育法演習 1	2
数学科教育法 2	2		

数学科は，全学共通科目 28 単位，専門教育科目必修科目を 40 単位，選択科目を 26 単位（専門選択科目 1 を 12 単位，専門選択科目 2 を 2 単位，専門選択科目 3 を 8 単位，学部共通科目を 4 単位），自由科目を 34 単位以上，計 128 単位以上を修得しなければならない。

自由科目には，指定単位数を超えて修得した専門選択科目 1～3 及び学部共通科目の単位を算入することができる。また，数学科自由科目，理学部他学科科目，他学部科目，言語自由科目（全学共通），指定単位数を超えて修得した総合系科目（全学共通），並びに 5 大学間単位互換制度による他大学の科目から，合わせて 16 単位までを算入することができる。

（2）物理学科専門教育科目

1 必修科目

物理学概論	2	解析力学	2
熱力学	2	波動と量子	2
力学 1	2	電磁気学 1	2
力学 2	2	電磁気学 2	2
微分積分 1	2	物理数学 1	2
微分積分 2	2	物理数学 2	2
線形代数 1	2	物理学演習 1	1
線形代数 2	2	物理学演習 2	1
基礎数学演習	1	基礎物理実験	2
基礎物理学演習 1	1	量子力学 1	2
基礎物理学演習 2	1	統計力学 1	2
コンピュータ実験 1	1	物理学演習 3	1
コンピュータ実験 2	1	物理学実験 1	4
化学実験(物)	1	卒業研究 1	4
生物学実験(物)	1	卒業研究 2	4

2 選択科目

① 専門選択科目 1

物理入門ゼミナール	2	量子光学	2
宇宙物理学序論 1	2	電磁気学3	2
宇宙物理学序論 2	2	物理学特別講義 1	2
物理計測論	2	物理学特別講義 2	2
流体力学	2	理論物理学講究 1（相対論）	2
エレクトロニクス	2	理論物理学講究 2（素粒子論）	2
情報処理	2	理論物理学講究 3（宇宙物理学）	2
JAXA 宇宙科学技術講義	2	理論物理学講究 5（数理物理学）	2
物理数学 3	2	理論物理学講究 6（統計物理学）	2
宇宙物理概論	2	原子核･放射線物理学講究 1（原子核物理学）	2
原子核概論	2	原子核･放射線物理学講究 2（天体核物理学）	2
宇宙地球系物理概論	2	原子核･放射線物理学講究 3（原子･分子物理学）	2
原子･分子･光物理概論	2	原子核･放射線物理学講究 4（放射線物理学）	2
素粒子概論	2	原子核･放射線物理学講究 5（ハドロン物理学）	2
物理数学特論	2	宇宙地球系物理学講究 1（宇宙放射線物理学）	2
物性物理学	2	宇宙地球系物理学講究 7（惑星大気物理学）	2

宇宙地球系物理学講究 8（惑星物理学）	2	物理学研究インターンシップ	2
宇宙地球系物理学講究 9（高エネルギー宇宙物理学）	2		

② 専門選択科目 2

化学(物)	2	科学英語 1（物）	2
生物学(物)	2	科学英語 2（物）	2

③ 専門選択科目 3

量子力学 2	2	物理学実験 2	4
統計力学 2	2	物理学演習 4	1

④ 学部共通科目

理学とキャリア	2	地学概説	2
理数教育企画	2	地学総合実験	1
科学史	2	理学とビジネスリーダーシップ(BL4)	2
数学ことはじめ	2	医学概論	2
科学の倫理	2	短期海外留学プログラム 1	2
知的財産権概論	2	短期海外留学プログラム 2	2
サイエンスコミュニケーション入門	2	短期海外留学プログラム 3	2
		短期海外留学プログラム 4	2

3 自由科目

4 随意科目

共通教育ゼミナール 1	2	理科教育法 2	2
共通教育ゼミナール 2	2	理科教育法演習 1	2
理科教育法 1	2	理科教育法演習 2	2

物理学科は，全学共通科目 28 単位，専門教育科目必修科目を 56 単位，選択科目を 24 単位（専門選択科目 1 を 12 単位，専門選択科目 2 を 4 単位，専門選択科目 3 を 4 単位，学部共通科目を 4 単位），自由科目を 16 単位以上，計 124 単位以上を修得しなければならない。

自由科目には，指定単位数を超えて修得した選択科目の単位を算入することができる。また，理学部他学科科目，他学部科目，言語自由科目（全学共通），並びに 5 大学間単位互換制度による他大学の科目の単位を算入することができる。

(3) 化学科専門教育科目

1 必修科目

物理化学入門	2	反応速度論	2
基礎化学実験	2	有機化学 2	2
有機化学入門	2	有機構造決定法	2
無機化学入門	2	分析化学入門	2
数学(化)	2	無機化学 1	2
分析化学 1	2	科学英語(化)	2
有機化学 1	2	化学実験 C	4
物理化学 1	2	化学実験 B	4
物理学 1(化)	2	輪講	2
化学実験 A	2	卒業研究	8
物理化学 2	2		

2 選択科目

① 専門選択科目

基礎物理学	2	無機化学 2	2
化学ゼミナール	2	有機化学演習	2
生物学(化)	2	物理化学演習	2
物理学 2	2	錯体化学 1	2
分析化学 2	2	分析化学 3	2
情報科学(化)	2	光物理化学	2
有機化学 3	2	分子動力学論	2

天然物有機化学	2	高分子物性	2
有機合成化学	2	化学の最前線	2
物性科学	2	研究実験 1	2
物理化学 3	2	研究実験 2	2
錯体化学 2	2	物理学実験(化)	2
分子軌道論	2	生物学実験(化)	1
高分子化学	2		

② 学部共通科目

理学とキャリア	2	地学概説	2
理数教育企画	2	地学総合実験	1
科学史	2	理学とビジネスリーダーシップ(BL4)	2
数学ことはじめ	2	医学概論	2
科学の倫理	2	短期海外留学プログラム 1	2
知的財産権概論	2	短期海外留学プログラム 2	2
サイエンスコミュニケーション入門	2	短期海外留学プログラム 3	2
		短期海外留学プログラム 4	2

3 自由科目

4 随意科目

共通教育ゼミナール 1	2	理科教育法 2	2
共通教育ゼミナール 2	2	理科教育法演習 1	2
理科教育法 1	2	理科教育法演習 2	2

化学科は，全学共通科目 28 単位，専門教育科目必修科目を 52 単位，選択科目を 28 単位（専門選択科目を 24 単位，学部共通科目を 4 単位），自由科目を 16 単位以上，計 124 単位以上を修得しなければならない。

自由科目には，指定単位数を超えて修得した選択科目の単位を算入することができる。また，理学部他学科科目，他学部科目，言語自由科目（全学共通），並びに 5 大学間単位互換制度による他大学の科目の単位を算入することができる。

(4) 生命理学科専門教育科目

1 必修科目

生命理学概論	2	基礎化学	2
生物学序論	2	分子生物学 2	2
化学序論	2	生物物理学 1	2
基礎情報科学	2	分子細胞学 2	2
生命理学基礎実験	2	生命理学実験 1	5
生物化学 1	2	分子生物学 3	2
分子細胞学 1	2	分子細胞学 3	2
物理学実験(生)	1	生命理学実験 2A	5
化学実験(生)	1	生命理学実験 2B	5
分子生物学 1	2	卒業研究	8
生物化学 2	2	輪講	2

2 選択科目

① 専門選択科目1

植物科学 1	2	分子発生生物学	2
動物科学	2	生命理学実験法	2
微生物科学	2	植物化学 2	2
生物物理学 2	2	科学英語 1(生)	2
分子神経学	2	生物統計学	2
分子免疫学	2		

② 専門選択科目2

物理学 1（生）	2	多様性の生物学	2
生命理学ゼミナール 1	2	生命理学ゼミナール 2	2
物理学 2	2	生命倫理	2

バイオテクノロジー	2	生命理学の最前線	2
科学英語 2(生)	2	生命理学特別演習 1	1
バイオインフォマティクス	2	生命理学特別演習 2	1

③ 学部共通科目

理学とキャリア	2	地学概説	2
理数教育企画	2	地学総合実験	1
科学史	2	理学とビジネスリーダーシップ(BL4)	2
数学ことはじめ	2	医学概論	2
科学の倫理	2	短期海外留学プログラム 1	2
知的財産権概論	2	短期海外留学プログラム 2	2
サイエンスコミュニケーション入門	2	短期海外留学プログラム 3	2
	2	短期海外留学プログラム 4	2

3 自由科目

4 随意科目

共通教育ゼミナール 1	2	理科教育法 2	2
共通教育ゼミナール 2	2	理科教育法演習 1	2
理科教育法 1	2	理科教育法演習 2	2

生命理学科は，全学共通科目 28 単位，専門教育科目必修科目を 57 単位，選択科目を 24 単位（専門選択科目 1 を 12 単位，専門選択科目 2 を 8 単位，学部共通科目を 4 単位），自由科目を 15 単位以上，計 124 単位以上を修得しなければならない。

自由科目には，指定単位数を超えて修得した選択科目の単位を算入することができる。また，理学部他学科科目，他学部科目，言語自由科目（全学共通），並びに 5 大学間単位互換制度による他大学の科目の単位を算入することができる。

V 社会学部

A 社会学部共通科目

1 必修科目

社会学原論 1	2	社会調査法 2	2
社会学原論 2	2	社会調査法 3	2
社会調査法 1	2	基礎演習	2

2 専門教育選択科目 1

① 社会学科科目

現代社会論	2	公共性の社会学	2
自己と他者の社会学	2	現代社会変動論	2
成熟社会論	2		

② 現代文化学科科目

文化の社会理論	2	環境社会論	2
都市社会論	2	現代文化論	2
グローバル社会論	2		

③ メディア社会学科科目

情報社会論	2	メディア・コミュニケーション論	2
メディア社会学	2	ジャーナリズム論	2

3 専門教育選択科目 2

① 領域横断科目

コミュニケーション論	2	グローバリゼーション論	2
ジェンダーの社会学	2	消費社会論	2
宗教社会学	2	文化の社会学	2
地域社会学	2	都市とメディア	2
現代社会と政策	2	文化表象論	2

流行論	2	現代社会研究 C	2
比較社会・文化論	2	現代社会研究 D	2
生命・身体の社会学	2	現代社会研究 E	2
開発・発展の社会学	2	現代社会研究 F	2
「人間の安全保障」と NGO	2	Sociological Studies A	2
紛争と和解・共生	2	Sociological Studies B	2
エスノメソドロジー	2	Sociological Studies C	2
教育社会学	2	Sociological Studies D	2
青年期の社会学	2	社会学古典文献講読	2
職業選択・キャリア形成論	2	災害の社会学	2
ダイバーシティとキャリア	2	東日本大震災RDYプロジェクト1	2
現代社会研究 A	2	東日本大震災RDYプロジェクト2	2
現代社会研究 B	2		

② 社会調査・情報処理系科目

フィールドスタディーズ	2	質的調査法	2
社会統計学	2	情報処理 1(入門)	2
多変量解析	2	情報処理 2(アプリケーション)	2
社会調査演習	4	情報処理 3(プログラミング)	2

③ 学部英語科目

Introduction to Sociology A	2	Writing Academic English A	2
Introduction to Sociology B	2	Writing Academic English B	2
Introduction to Sociology C	2	Writing Academic English C	2
Introduction to Sociology D	2	Writing Academic English D	2
Introduction to Sociology E	2	Writing Academic English E	2
Lecture & Discussion on Social Issues A	2	Global Study Program (Sydney)	6
Lecture & Discussion on Social Issues B	2	Sociology of Gender A	2
Lecture & Discussion on Social Issues C	2	Cultural Anthropology A	2
Lecture & Discussion on Culture A	2	Principles of Sociology	2
Lecture & Discussion on Culture B	2	Global City	2
Lecture & Discussion on Culture C	2	International Relations	2
Lecture & Discussion on Media and Communication A	2	Civil Society Organization(NGO/NPO) and Corporate Social Responsibilities	2
Lecture & Discussion on Media and Communication B	2	Global Sociology	2
		Gender/Minority studies	2
Lecture & Discussion on Media and Communication C	2	UN and International Organizations	2
		Area Studies – Africa, Islam and Asia	2

4 自由科目

① 隣接領域科目

現代史	2	社会言語学	2
政治学 A(政治学理論)	2	科学技術論	2
政治学 B(現代政治)	2	数理科学	2
現代経済	2	国際政治と紛争	2
国際関係論	2	国際政治	2
社会心理学	2	社会認識と哲学	2
文化人類学	2	情報社会と倫理	2

② その他

自主講座

B 各学科専門教育科目

(1) 社会学科専門教育科目

1 必修科目

専門演習 1	2		

2 専門教育選択科目 1

＜演習＞

専門演習 2	4		

＜卒業論文＞

卒業論文演習 1	2	卒業論文	8
卒業論文演習 2	2		

＜卒業研究＞

卒業研究 1	2	卒業研究 2	2

3 専門教育選択科目 2

＜理論と方法領域＞

社会学理論	2	シミュレーションの社会学	2
社会学史	2	データ対話型分析法	2
計量社会学	2		

＜自己と関係領域＞

アイデンティティ論	2	差別と偏見の社会学	2
相互行為論	2	セクシュアリティの社会学	2
逸脱の社会学	2		

＜生活と人生領域＞

家族社会学	2	保健・医療の社会学	2
ライフコース論	2	少子・高齢社会論	2
共生社会論	2		

＜公共性と政策領域＞

福祉の社会学	2	公共政策とガバナンス	2
平等と公正	2	NPO／NGOの社会学	2
社会問題の社会学	2		

＜構造と変動領域＞

労働社会学	2	社会人口学	2
社会階層論	2	歴史社会学	2
社会運動論	2		

＜その他＞

寄附講座	4		

4 自由科目

＜隣接科目＞

哲学概論 1	2	日本史	2
哲学概論 2	2	地理学概説 1	2
宗教思想 1	2	地理学概説 2	2
宗教思想 2	2	地誌学 1	2
世界史概論 1	2	地誌学 2	2
世界史概論 2	2	心理学 1	2
日本史概論 1	2	心理学 2	2
日本史概論 2	2	国際政治	4
世界史	2		

5 随意科目

社会・公民科教育法1	2	社会・公民科教育法演習1	2
社会・公民科教育法2	2	社会・公民科教育法演習2	2

社会学科は，全学共通科目 28 単位，必修科目を 14 単位（社会学部共通科目から 12 単位，学科科目から 2 単位），選択科目を，卒業論文による卒業の場合には社会学部共通科目から専門教育選択科目 1 を 12 単位（うち自学科科目から 6 単位），学科科目から 16 単位（演習 4 単位，卒業論文 12 単位）の計 28 単位，卒業研究による卒業の場合には社会学部共通科目から専門教育選択科目 1 を 12 単位(うち自学科科目から 6 単位),学科科目から卒業研究を 4 単位の計 16 単位，専門教育選択科目 2 を，卒業論文による卒業の場合には 22 単位，卒業研究による卒業の場合に 34 単位,そして自由科目を 32 単位以上,合計 124 単位以上を修得しなければならない。ただし，両者とも，卒業要件単位を超えて修得した専門教育選択科目 1・2，隣接領域科目及び隣接科目（制限なし）,社会学部他学科科目(32 単位まで)，次のもの【他学部科目，５大学間単位互換制度による他大学の科目，指定を超えて修得した全学共通科目】をあわせて 16 単位まで，及び留学単位認定科目(12 単位まで)を自由科目の単位として算入することができる。

(2) 現代文化学科専門教育科目

1 必修科目

＜演習＞

専門演習 1	2		

2 専門教育選択科目 1

＜演習＞

専門演習 2	4		

＜卒業論文＞

卒業論文演習 1	2	卒業論文	8
卒業論文演習 2	2		

＜卒業研究＞

卒業研究 1	2	卒業研究 2	2

3 専門教育選択科目 2

＜都市とコミュニティ領域＞

都市社会構造論	2	まちづくり論	2
グローバル都市論	2	都市生活誌	2
都市マイノリティ論	2	都市文化論	2
都市コミュニティ論	2		

＜グローバル化とエスニシティ領域＞

文化変容論	2	国際社会学	2
エスニシティ論	2	民族文化誌	2
マイグレーション論	2	エスノグラフィー論	2
多文化の社会理論	2		

＜環境とエコロジー領域＞

環境と文化	2	自然環境保全論	2
くらしの環境史	2	環境政策論	2
環境の思想	2	環境と人類	2
環境教育論	2		

＜価値とライフスタイル領域＞

消費文化論	2	セラピー文化論	2
アートの社会学	2	写真文化論	2
パフォーマンス文化論	2	生活文化論	2
ポピュラーカルチャー論	2		

＜その他＞

寄附講座	2		

4 自由科目

＜隣接科目＞

哲学概論 1	2	日本史	2
哲学概論 2	2	地理学概説 1	2
宗教思想 1	2	地理学概説 2	2
宗教思想 2	2	地誌学 1	2
世界史概論 1	2	地誌学 2	2
世界史概論 2	2	心理学 1	2
日本史概論 1	2	心理学 2	2
日本史概論 2	2	国際政治	4
世界史	2		

5 随意科目

社会・公民科教育法1	2	社会・公民科教育法演習1	2
社会・公民科教育法2	2	社会・公民科教育法演習2	2

現代文化学科は，全学共通科目 28 単位，必修科目を 14 単位（社会学部共通科目から 12 単位，学科科目から 2 単位），選択科目を，卒業論文による卒業の場合には社会学部共通科目から専門教育選択科目 1 を 12 単位（うち自学科科目から 6 単位），学科科目から 16 単位（演習 4 単位，卒業論文 12 単位）の計 28 単位，卒業研究による卒業の場合には社会学部共通科目から専門教育選択科目 1 を 12 単位（うち自学科科目から 6 単位），学科科目から卒業研究を 4 単位の計 16 単位，専門教育選択科目 2 を，卒業論文による卒業の場合には 22 単位，卒業研究による卒業の場合に 34 単位，そして自由科目を 32 単位以上，合計 124 単位以上を修得しなければならない。ただし，両者とも，卒業要件単位を超えて修得した専門教育選択科目 1・2，隣接領域科目及び隣接科目（制限なし），社会学部他学科科目(32 単位まで)，次のもの【他学部科目，５大学間単位互換制度による他大学の科目，指定を超えて修得した全学共通科目】をあわせて 16 単位まで，及び留学単位認定科目(12 単位まで)を自由科目の単位として算入することができる。

（3）メディア社会学科専門教育科目

1 必修科目

専門演習 1	2

2 専門教育選択科目 1

＜演習＞

専門演習 2	4

＜卒業論文＞

卒業論文演習 1	2	卒業論文	8
卒業論文演習 2	2		

＜卒業研究＞

卒業研究 1	2	卒業研究 2	2

3 専門教育選択科目 2

＜社会システムとテクノロジー領域(領域展開科目)＞

メディア・テクノロジー・社会	2	メディア産業論	2

＜社会システムとテクノロジー領域(領域応用科目)＞

コミュニケーション政策論	2	リスク・コミュニケーション論	2
グローバル・コミュニケーション論	2	出版産業論	2
web スタディーズ	2	視覚文化論	2

＜生活世界の経験と歴史領域(領域展開科目)＞

メディア史	2	メディア素養論	2

＜生活世界の経験と歴史領域(領域応用科目)＞

オーディエンス論	2	音楽社会学	2
若者とメディア	2	災害情報論	2

映像メディア論	2	メディア・環境・コミュニティ	2
広告・PR 論	2		

＜ジャーナリズムと公共性領域（領域展開科目）＞

情報法	2	比較ジャーナリズム史	2

＜ジャーナリズムと公共性領域（領域応用科目）＞

ニュースの社会学 1	2	ニュースの社会学 5	2
ニュースの社会学 2	2	ニュースの社会学 6	2
ニュースの社会学 3	2	世論調査論	2
ニュースの社会学 4	2		

＜実習・実践科目クラスター＞

メディア・調査実習入門1～4	2	今日のメディアとジャーナリズム	4
メディア・調査実習応用1～6	2	メディア社会特殊講義（1）	2
メディア・調査実習入門5～6	2	メディア社会特殊講義（2）	2
メディアインターンシップ入門	2	メディア社会特殊講義（3）	2

4 自由科目

＜隣接科目＞

哲学概論 1	2	日本史	2
哲学概論 2	2	地理学概説 1	2
宗教思想 1	2	地理学概説 2	2
宗教思想 2	2	地誌学 1	2
世界史概論 1	2	地誌学 2	2
世界史概論 2	2	心理学 1	2
日本史概論 1	2	心理学 2	2
日本史概論 2	2	国際政治	4
世界史	2		

5 随意科目

社会・公民科教育法1	2	社会・公民科教育法演習1	2
社会・公民科教育法2	2	社会・公民科教育法演習2	2

メディア社会学科は，全学共通科目 28 単位，必修科目を 14 単位（社会学部共通科目から 12 単位，学科科目から２単位），選択科目を，卒業論文による卒業の場合には社会学部共通科目から専門教育選択科目 1 を 12 単位（うち自学科科目から６単位），学科科目から 16 単位（演習４単位，卒業論文 12 単位）の計 28 単位，卒業研究による卒業の場合には社会学部共通科目から専門教育選択科目 1 を 12 単位（うち自学科科目から６単位），学科科目から卒業研究を４単位の計 16 単位，専門教育選択科目 2 を，卒業論文による卒業の場合には 22 単位，卒業研究による卒業の場合に 34 単位，そして自由科目を 32 単位以上，合計 124 単位以上を修得しなければならない。ただし，両者とも，卒業要件単位を超えて修得した専門教育選択科目 1・2，隣接領域科目及び隣接科目（制限なし），社会学部他学科科目（32 単位まで），次のもの【他学部科目，５大学間単位互換制度による他大学の科目，指定を超えて修得した全学共通科目】をあわせて 16 単位まで，及び留学単位認定科目（12 単位まで）を自由科目の単位として算入することができる。

C　国際社会コース

1 必修科目

＜社会学部共通科目＞

社会学原論 1	2	社会調査法 2	2
社会学原論 2	2	社会調査法 3	2
社会調査法 1	2	基礎演習	2

＜学科科目＞

Reading Sociology in English	2

2 専門教育選択科目 1

＜社会学部共通科目＞

現代社会論	2	グローバル社会論	2
自己と他者の社会学	2	環境社会論	2
成熟社会論	2	現代文化論	2
公共性の社会学	2	情報社会論	2
現代社会変動論	2	メディア社会学	2
文化の社会理論	2	メディア・コミュニケーション論	2
都市社会論	2	ジャーナリズム論	2

＜演習＞

専門演習 2	4		

＜卒業論文＞

卒業論文演習 1	2	卒業論文	8
卒業論文演習 2	2		

＜卒業研究＞

卒業研究 1	2	卒業研究 2	2

3 専門教育選択科目 2(コース指定選択科目)

＜社会学部共通科目(領域横断科目)＞

グローバリゼーション論	2	Sociological Studies C	2
消費社会論	2	Sociological Studies D	2
流行論	2	Global Study Program (Sydney)	6
比較社会・文化論	2	Sociology of Gender A	2
開発・発展の社会学	2	Cultural Anthropology A	2
「人間の安全保障」と NGO	2	Principles of Sociology	2
紛争と和解・共生	2	Global City	2
職業選択・キャリア形成論	2	International Relations	2
ダイバーシティとキャリア	2	Civil Society Organization(NGO/NPO) and Corporate Social Responsibilities	2
現代社会研究 A	2		
現代社会研究 B	2	Global Sociology	2
現代社会研究 C	2	Gender/Minority studies	2
現代社会研究 D	2	UN and International Organizations	2
Sociological Studies A	2	Area Studies – Africa, Islam and Asia	2
Sociological Studies B	2		

＜社会学部共通科目(隣接領域科目)＞

国際関係論	2	文化人類学	2

＜社会学部共通科目(社会調査・情報処理系科目)＞

社会統計学	2	社会調査演習	4
多変量解析	2	質的調査法	2

＜社会学科科目＞

少子・高齢社会論	2	社会階層論	2
共生社会論	2	社会運動論	2
公共政策とガバナンス	2	平等と公正	2
家族社会学	2	NPO/NGO の社会学	2
労働社会学	2	社会人口学	2
逸脱の社会学	2		

＜現代文化学科科目＞

国際社会学	2	環境教育論	2
消費文化論	2	エスノグラフィー論	2
民族文化誌	2	グローバル都市論	2
文化変容論	2	都市マイノリティ論	2
エスニシティ論	2	マイグレーション論	2

多文化の社会理論	2	ポピュラーカルチャー論	2
アートの社会学	2		

＜メディア社会学科科目＞

ニュースの社会学 1	2	比較ジャーナリズム史	2
若者とメディア	2	オーディエンス論	2
情報法	2	出版産業論	2
ニュースの社会学 2	2	視覚文化論	2
リスク・コミュニケーション論	2	メディア・環境・コミュニティ	2
グローバルコミュニケーション論	2		

4 専門教育選択科目 3

＜Introduction to Sociology＞

Introduction to Sociology A	2	Introducion to Sociology D	2
Introduction to Sociology B	2	Introducion to Sociology E	2
Introduction to Sociology C	2		

＜Lecture & Discussion on Sociology＞

Lecture & Discussion on Social Issues A	2	Lecture & Discussion on Media and Communication A	2
Lecture & Discussion on Social Issues B	2		
Lecture & Discussion on Social Issues C	2	Lecture & Discussion on Media and Communication B	2
Lecture & Discussion on Culture A	2		
Lecture & Discussion on Culture B	2	Lecture & Discussion on Media and Communication C	2
Lecture & Discussion on Culture C	2		

＜Writing Academic English＞

Writing Academic English A	2	Writing Academic English D	2
Writing Academic English B	2	Writing Academic English E	2
Writing Academic English C	2		

5 自由科目

① コース指定自由科目（社会学部）共通科目

＜領域横断科目＞

コミュニケーション論	2	エスノメソドロジー	2
ジェンダーの社会学	2	教育社会学	2
宗教社会学	2	青年期の社会学	2
地域社会学	2	現代社会研究 E	2
現代社会と政策	2	現代社会研究 F	2
文化の社会学	2	社会学古典文献講読	2
都市とメディア	2	災害の社会学	2
文化表象論	2	東日本大震災RDYプロジェクト1	2
生命・身体の社会学	2	東日本大震災RDYプロジェクト2	2

＜社会調査・情報処理系科目＞

フィールドスタディーズ	2	情報処理 2（アプリケーション）	2
情報処理 1（入門）	2	情報処理 3（プログラミング）	2

＜隣接領域科目＞

現代史	2	科学技術論	2
政治学 A（政治学理論）	2	数理科学	2
政治学 B（現代政治）	2	国際政治と紛争	2
現代経済	2	国際政治	2
社会心理学	2	社会認識と哲学	2
社会言語学	2	情報社会と倫理	2

② コース指定自由科目（学科科目）

社会学理論	2	計量社会学	2
社会学史	2	シミュレーションの社会学	2

データ対話型分析法	2	生活文化論	2
アイデンティティ論	2	メディア・テクノロジー・社会	2
相互行為論	2	コミュニケーション政策論	2
差別と偏見の社会学	2	災害情報論	2
セクシュアリティの社会学	2	メディア産業論	2
ライフコース論	2	メディア史	2
保健・医療の社会学	2	ニュースの社会学 3	2
福祉の社会学	2	ニュースの社会学 4	2
社会問題の社会学	2	ニュースの社会学 5	2
歴史社会学	2	ニュースの社会学 6	2
都市社会構造論	2	映像メディア論	2
都市コミュニティ論	2	広告・PR 論	2
まちづくり論	2	音楽社会学	2
都市生活誌	2	メディア素養論	2
都市文化論	2	web スタディーズ	2
環境と文化	2	世論調査論	2
くらしの環境史	2	今日のメディアとジャーナリズム	4
環境の思想	2	メディア社会特殊講義(1)	2
自然環境保全論	2	メディア社会特殊講義(2)	2
環境政策論	2	メディア社会特殊講義(3)	2
環境と人類	2	メディア・調査実習入門1～4	2
パフォーマンス文化論	2	メディア・調査実習応用1～6	2
セラピー文化論	2	メディア・調査実習入門5～6	2
写真文化論	2	メディアインターンシップ入門	2
＜その他＞			
寄附講座	2	寄附講座	4

③ 自由科目(隣接科目)

哲学概論 1	2	日本史	2
哲学概論 2	2	地理学概説 1	2
宗教思想 1	2	地理学概説 2	2
宗教思想 2	2	地誌学 1	2
世界史概論 1	2	地誌学 2	2
世界史概論 2	2	心理学 1	2
日本史概論 1	2	心理学 2	2
日本史概論 2	2	国際政治	4
世界史	2		

6 随意科目

社会・公民科教育法1	2	社会・公民科教育法演習1	2
社会・公民科教育法2	2	社会・公民科教育法演習2	2

国際社会コースは，全学共通科目 28 単位，必修科目を 14 単位(社会学部共通科目から 12 単位，学科科目から2単位)，選択科目を，卒業論文による卒業の場合には社会学部共通科目から専門教育選択科目 1 を 12 単位，学科科目から 16 単位(演習4単位，卒業論文 12 単位)の計 28 単位，卒業研究による卒業の場合には社会学部共通科目から専門教育選択科目 1 を12 単位，学科科目から卒業研究を4単位の計 16 単位，専門教育選択科目 2 を，卒業論文による卒業の場合には 14 単位，卒業研究による卒業の場合に 26 単位，専門教育選択科目 3 を8単位,そして自由科目を 32 単位以上，合計 124 単位以上を修得しなければならない。ただし，両者とも，卒業要件単位を超えて修得した専門教育選択科目 1･2･3，コース指定自由科目及び隣接科目(制限なし),次のもの【他学部科目，5大学間単位互換制度による他大学の科目，指定を超えて修得した全学共通科目】をあわせて 16 単位まで，及び留学単位認定科目(12 単位まで)を自由科目の単位として算入することができる。

Ⅵ　法学部

（1）法学科専門教育科目

1　選択科目

① 法学科A

法学入門	2	行政法 2	4
政治学入門	2	国際法 1	4
憲法(1)	4	国際法 2	4
憲法(2)	2	民事訴訟法(1)	4
民法(1)	2	民事訴訟法(2)	2
民法(2)	4	労働法	4
民法(3)	2	刑事学	4
刑法(1)	4	法哲学	4
刑法(2)	4	法社会学 1	2
商法(1)	4	法社会学 2	2
商法(2)	2	刑事訴訟法	4
比較憲法	2	民事執行・保全法	2
行政法 1	4		

② 法学科Ｂ　演習系科目　演習論文

社会調査法	2	行政学 1	2
民法(4)	4	行政学 2	2
商法(3)	2	日本政治論	4
商法(4)	2	ヨーロッパ政治論	4
金融取引法 1	2	アメリカ政治論	4
金融取引法 2	2	アジア政治論	4
倒産法	2	日本政治史	4
国際民事手続法	2	日本政治思想史(1)	2
国際私法(1)	2	日本政治思想史(2)	2
国際私法(2)	2	欧州政治思想史	4
国際ビジネス法総合・基礎	2	政治社会学	2
国際ビジネス法総合 1A	2	政治過程論 1	2
国際ビジネス法総合 1B	2	政治過程論 2	2
国際ビジネス法総合 2	2	比較政治理論	2
環境法 1	2	公共政策論	2
環境法 2	2	地方自治	2
少年法	2	比較政治 1	2
社会保障法	2	比較政治 2	2
経済法 1	2	比較政治 3	2
経済法 2	2	日本外交論	2
国際経済法	4	国際政治史	2
租税法 1	2	平和研究	2
租税法 2	2	政治学特殊講義	2
知的財産法	4	会計学	4
英米法 1	2	財政学	4
英米法 2	2	社会政策論	4
比較法	2	経済原論	4
外国法	2	統計学	4
法制史	2	社会科学情報処理	2
法政ゲートウェイ講義	2	キャリア意識の形成	2
法学特殊講義	2	法学部合同講義	6
法学特殊講義	4	法学部特別講義	2
現代政治理論	4	キャリアデザイン―インターンシップを通じた学修	2
国際政治	4	自治体長期インターンシップ A	2
環境政治	2	自治体長期インターンシップ B	2

海外研究論文	4	Fiduciary Law	2
Negotiation Basics	2	Financial Law	2
Introduction to Legal Studies A	2	Advanced Legal Writing A	2
Introduction to Legal Studies B	2	Advanced Legal Writing B	2
Contract A	2	基礎文献講読	2
Contract B	2	法学基礎演習	2
Torts	2	政治学基礎演習	2
Dispute Resolution	2	公務基礎演習	2
Civil Procedure	2	演習	2
Moot Court	2	演習	4
Corporate Law A	2	法政外国語演習	2
Corporate Law B	2	公務実践演習(文部科学行政)	2
International Business Law A	2	公務実践演習(人事行政)	2
International Business Law B	2	憲法発展演習	2
Cross-Border Litigation	2	行政法発展演習	2
Anglo-American Law A	2	民法発展演習	2
Anglo-American Law B	2	商法発展演習	2
Labor Law	2	民事訴訟法発展演習	2
Property	2	刑法発展演習	2
Intellectual Property Law	2	刑事訴訟法発展演習	2
Competition Law	2	演習論文	2

③ 法学部自由科目

情報処理入門	2	哲学概論 2	2
日本史概説	2	地理学概説 1	2
世界史概説	2	地理学概説 2	2
宗教思想 1	2	自然地理学 1	2
宗教思想 2	2	自然地理学 2	2
哲学的人間学	2	社会・地理歴史科教育法 1	2
倫理思想	2	社会・地理歴史科教育法 2	2
現代倫理	2	社会・地理歴史科教育法演習 1	2
地誌学 1	2	社会・地理歴史科教育法演習 2	2
地誌学 2	2	社会・公民科教育法 1	2
心理学 1	2	社会・公民科教育法 2	2
心理学 2	2	社会・公民科教育法演習 1	2
哲学概論 1	2	社会・公民科教育法演習 2	2

④ 法学部言語科目【随意科目】

法政リーディング&ライティング	2

法学科は，全学共通科目 28 単位以上，専門教育選択科目区分の科目を 80 単位，全学共通科目・専門教育の各科目で卒業要件単位数を超えて修得した科目並びに法学部自由科目・留学認定・他学部等・5 大学間単位互換制度の各科目から 16 単位，合計 124 単位を修得しなければならない。

(2) 政治学科専門教育科目

1 選択科目

① 政治学科A

法学入門	2	国際政治	4
政治学入門	2	行政学 1	2
憲法(1)	4	行政学 2	2
憲法(2)	2	日本政治論	4
民法概論	4	ヨーロッパ政治論	4
現代政治理論	4	アメリカ政治論	4

アジア政治論	4	比較憲法	2
日本政治史	4	地方自治	2
日本政治思想史(1)	2	比較政治 1	2
日本政治思想史(2)	2	比較政治 2	2
欧州政治思想史	4	比較政治 3	2
政治社会学	2	国際法 1	4
政治過程論 1	2	国際法 2	4
政治課程論 2	2	労働法	4
比較政治理論	2		

② 政治学科B 演習系科目 演習論文

民法(1)	4	英米法 1	2
民法(2)	4	英米法 2	2
民法(3)	2	法哲学	4
民法(4)	4	法社会学 1	2
刑法(1)	4	法社会学 2	2
刑法(2)	4	比較法	2
環境法 1	2	外国法	2
環境法 2	2	法制史	2
経済原論	4	法政ゲートウェイ講義	2
統計学	4	法学特殊講義	2
社会調査法	2	法学特殊講義	4
環境政治	2	会計学	4
公共政策論	2	財政学	4
日本外交論	2	社会政策論	4
国際政治史	2	社会科学情報処理	2
平和研究	2	キャリア意識の形成	2
政治学特殊講義	2	法学部合同講義	6
行政法 1	4	法学部特別講義	2
行政法 2	4	キャリアデザイン―インターンシップを通じた学修	2
商法(1)	4	自治体長期インターンシップ A	2
商法(2)	2	自治体長期インターンシップ B	2
商法(3)	2	海外研究論文	4
商法(4)	2	Negotiation Basics	2
金融取引法 1	2	Introduction to Legal Studies A	2
金融取引法 2	2	Introduction to Legal Studies B	2
民事訴訟法(1)	4	Contract A	2
民事訴訟法(2)	2	Contract B	2
国際民事手続法	2	Torts	2
倒産法	2	Dispute Resolution	2
民事執行・保全法	2	Civil Procedure	2
国際私法(1)	2	Moot Court	2
国際私法(2)	2	Corporate Law A	2
国際ビジネス法総合・基礎	2	Corporate Law B	2
国際ビジネス法総合 1A	2	International Business Law A	2
国際ビジネス法総合 1B	2	International Business Law B	2
国際ビジネス法総合 2	2	Cross-Border Litigation	2
刑事訴訟法	4	Anglo-American Law A	2
刑事学	4	Anglo-American Law B	2
少年法	2	Labor Law	2
社会保障法	2	Property	2
経済法 1	2	Intellectual Property Law	2
経済法 2	2	Competition Law	2
国際経済法	4	Fiduciary Law	2
租税法 1	2	Financial Law	2
租税法 2	2	Advanced Legal Writing A	2
知的財産法	4	Advanced Legal Writing B	2

基礎文献講読	2	憲法発展演習	2
法学基礎演習	2	行政法発展演習	2
政治学基礎演習	2	民法発展演習	2
公務基礎演習	2	商法発展演習	2
演習	2	民事訴訟法発展演習	2
演習	4	刑法発展演習	2
法政外国語演習	2	刑事訴訟法発展演習	2
公務実践演習(文部科学行政)	2	演習論文	2
公務実践演習(人事行政)	2		

③ 法学部自由科目

情報処理入門	2	哲学概論 2	2
日本史概説	2	地理学概説 1	2
世界史概説	2	地理学概説 2	2
宗教思想 1	2	自然地理学 1	2
宗教思想 2	2	自然地理学 2	2
哲学的人間学	2	社会・地理歴史科教育法 1	2
倫理思想	2	社会・地理歴史科教育法 2	2
現代倫理	2	社会・地理歴史科教育法演習 1	2
地誌学 1	2	社会・地理歴史科教育法演習 2	2
地誌学 2	2	社会・公民科教育法 1	2
心理学 1	2	社会・公民科教育法 2	2
心理学 2	2	社会・公民科教育法演習 1	2
哲学概論 1	2	社会・公民科教育法演習 2	2

④ 法学部言語科目【随意科目】

法政リーディング&ライティング	2

政治学科は，全学共通科目 28 単位以上，専門教育選択科目区分の科目を 80 単位，全学共通科目・専門教育の各科目で卒業要件単位数を超えて修得した科目並びに法学部自由科目・留学認定・他学部等・５大学間単位互換制度の各科目から 16 単位，合計 124 単位を修得しなければならない。

(3) 国際ビジネス法学科専門教育科目

1 選択科目

① 国際ビジネス法学科A

法学入門	2	国際私法(2)	2
政治学入門	2	国際ビジネス法総合・基礎	2
憲法(1)	4	国際ビジネス法総合 1A	2
憲法(2)	2	国際ビジネス法総合 1B	2
民法概論	4	国際ビジネス法総合 2	2
刑法(1)	4	労働法	4
刑法(2)	4	経済法 1	2
商法(1)	4	経済法 2	2
商法(2)	2	国際経済法	4
商法(3)	2	租税法 1	2
商法(4)	2	租税法 2	2
倒産法	2	知的財産法	4
民事執行・保全法	2	英米法 1	2
国際私法(1)	2	英米法 2	2

② 国際ビジネス法学科B 演習系科目 演習論文

民法(1)	4	比較憲法	2
民法(2)	4	行政法 1	4
民法(3)	2	行政法 2	4
民法(4)	4	国際法 1	4

国際法 2	4	統計学	4
環境法 1	2	社会調査法	2
環境法 2	2	社会科学情報処理	2
金融取引法 1	2	キャリア意識の形成	2
金融取引法 2	2	法学部合同講義	6
民事訴訟法(1)	4	法学部特別講義	2
民事訴訟法(2)	2	キャリデザイン―インターンシップを通じた学修	2
国際民事手続法	2	自治体長期インターンシップ A	2
刑事訴訟法	4	自治体長期インターンシップ B	2
刑事学	4	海外研究論文	4
少年法	2	Negotiation Basics	2
社会保障法	2	Introduction to Legal Studies A	2
法哲学	4	Introduction to Legal Studies B	2
法社会学 1	2	Contract A	2
法社会学 2	2	Contract B	2
比較法	2	Torts	2
外国法	2	Dispute Resolution	2
法制史	2	Civil Procedure	2
法政ゲートウェイ講義	2	Moot Court	2
法学特殊講義	2	Corporate Law A	2
法学特殊講義	4	Corporate Law B	2
現代政治理論	4	International Business Law A	2
国際政治	4	International Business Law B	2
環境政治	2	Cross-Border Litigation	2
行政学 1	2	Anglo-American Law A	2
行政学 2	2	Anglo-American Law B	2
日本政治論	4	Labor Law	2
ヨーロッパ政治論	4	Property	2
アメリカ政治論	4	Intellectual Property Law	2
アジア政治論	4	Competition Law	2
日本政治史	4	Fiduciary Law	2
日本政治思想史(1)	2	Financial Law	2
日本政治思想史(2)	2	Advanced Legal Writing A	2
欧州政治思想史	4	Advanced Legal Writing B	2
政治社会学	2	基礎文献講読	2
政治過程論 1	2	法学基礎演習	2
政治過程論 2	2	政治学基礎演習	2
比較政治理論	2	公務基礎演習	2
公共政策論	2	演習	2
地方自治	2	演習	4
比較政治 1	2	法政外国語演習	2
比較政治 2	2	公務実践演習(文部科学行政)	2
比較政治 3	2	公務実践演習(人事行政)	2
日本外交論	2	憲法発展演習	2
国際政治史	2	行政法発展演習	2
平和研究	2	民法発展演習	2
政治学特殊講義	2	商法発展演習	2
会計学	4	民事訴訟法発展演習	2
財政学	4	刑法発展演習	2
社会政策論	4	刑事訴訟法発展演習	2
経済原論	4	演習論文	2

③ 法学部自由科目

情報処理入門	2	宗教思想 1	2
日本史概説	2	宗教思想 2	2
世界史概説	2	哲学的人間学	2

倫理思想	2	自然地理学 1	2
現代倫理	2	自然地理学 2	2
地誌学 1	2	社会・地理歴史科教育法 1	2
地誌学 2	2	社会・地理歴史科教育法 2	2
心理学 1	2	社会・地理歴史科教育法演習 1	2
心理学 2	2	社会・地理歴史科教育法演習 2	2
哲学概論 1	2	社会・公民科教育法 1	2
哲学概論 2	2	社会・公民科教育法 2	2
地理学概説 1	2	社会・公民科教育法演習 1	2
地理学概説 2	2	社会・公民科教育法演習 2	2

④　法学部言語科目【随意科目】

法政リーディング&ライティング	2

国際ビジネス法学科は，全学共通科目 28 単位以上，専門教育選択科目区分の科目を 66 単位，全学共通科目・専門教育の各科目で卒業要件単位数を超えて修得した科目並びに法学部自由科目・留学認定・他学部等・５大学間単位互換制度の各科目から 30 単位，合計 124 単位を修得しなければならない。

（4）国際ビジネス法学科グローバルコース専門教育科目

1　選択科目

①　学びの精神

Law and Society in Japan A	2	Law and Society in Japan B	2

②　国際ビジネス法学科グローバルコースA

Introduction to Legal Studies A	2	Fiduciary Law	2
Introduction to Legal Studies B	2	Financial Law	2
Contract A	2	Advanced Legal Writing A	2
Contract B	2	Advanced Legal Writing B	2
Negotiation Basics	2	法学入門	2
Torts	2	民法概論	4
Legal Presentation	2	労働法	4
Legal Writing	2	経済法 1	2
Anglo-American Law A	2	経済法 2	2
Anglo-American Law B	2	国際経済法	4
Dispute Resolution	2	租税法 1	2
Labor Law	2	租税法 2	2
Property	2	商法(1)	4
International Business Law A	2	商法(2)	2
International Business Law B	2	商法(3)	2
法学部合同講義	6	商法(4)	2
Civil Procedure	2	知的財産法	4
Moot Court	2	国際私法(1)	2
Corporate Law A	2	国際私法(2)	2
Corporate Law B	2	国際ビジネス法総合・基礎	2
Intellectual Property Law	2	国際ビジネス法総合 1A	2
Competition Law	2	国際ビジネス法総合 1B	2
Cross-Border Litigation	2	国際ビジネス法総合 2	2

③ 国際ビジネス法学科グローバルコース B、演習系科目、演習論文

法学特殊講義	2	法学特殊講義	4

Contemporary Culture in Japn	2
Orientalism in Media	2
Religion and Society in Asia	2
Japan in Asia	2
Ethnicity and Globalization in Japan	2
Multiculturalism in Japan	2
Social Movements and Social Change	2
Tourism Study 1(Business)	2
Tourism Study 2(Society)	2
Tourism Study 3(Destination)	2
Tourism Study 4(Culture)	2
Japanese Economy 1	2
Japanese Economy 2	2
Japanese Economy History 1	2
Japanese Economy History 2	2
Marketing Management in Japan	2
Business and Society	2
Accounting 1	2
Accounting 2	2
Finance 1	2
Finance 2	2
政治学入門	2
憲法(1)	4
憲法(2)	2
民法(1)	4
民法(2)	4
民法(3)	2
民法(4)	4
刑法(1)	4
刑法(2)	4
民事訴訟法(1)	4
民事訴訟法(2)	2
刑事訴訟法	4
倒産法	2
民事執行・保全法	2
英米法 1	2
英米法 2	2
比較憲法	2
行政法 1	4
行政法 2	4
国際法 1	4
国際法 2	4
環境法 1	2
環境法 2	2
金融取引法 1	2
金融取引法 2	2
国際民事手続法	2
刑事学	4
少年法	2
社会保障法	2
法哲学	4
法社会学 1	2
法社会学 2	2
比較法	2
外国法	2
法制史	2
法政ゲートウェイ講義	2
現代政治理論	4
国際政治	4
環境政治	2
行政学 1	2
行政学 2	2
日本政治論	4
ヨーロッパ政治論	4
アメリカ政治論	4
アジア政治論	4
日本政治史	4
日本政治思想史(1)	2
日本政治思想史(2)	2
欧州政治思想史	4
政治社会学	2
政治過程論 1	2
政治過程論 2	2
比較政治理論	2
公共政策論	2
地方自治	2
比較政治 1	2
比較政治 2	2
比較政治 3	2
日本外交論	2
国際政治史	2
平和研究	2
政治学特殊講義	2
会計学	4
財政学	4
社会政策論	4
経済原論	4
統計学	4
社会調査法	2
社会科学情報処理	2
キャリア意識の形成	2
キャリアデザイン―インターンシップを通じた学修	2
自治体長期インターンシップ A	2
自治体長期インターンシップ B	2
法学部特別講義	2
海外研究論文	4
法学基礎演習	2
政治学基礎演習	2
公務基礎演習	2
演習	2
演習	4
法政外国語演習	2
公務実践演習（文部科学行政）	2
公務実践演習（人事行政）	2

憲法発展演習	2	民事訴訟法発展演習	2
行政法発展演習	2	刑法発展演習	2
民法発展演習	2	刑事訴訟法発展演習	2
商法発展演習	2	演習論文	2

④ 法学部自由科目

情報処理入門	2	哲学概論 2	2
日本史概説	2	地理学概説 1	2
世界史概説	2	地理学概説 2	2
宗教思想 1	2	自然地理学 1	2
宗教思想 2	2	自然地理学 2	2
哲学的人間学	2	社会･地理歴史科教育法1	2
倫理思想	2	社会･地理歴史科教育法2	2
現代倫理	2	社会･地理歴史科教育法演習1	2
地誌学 1	2	社会･地理歴史科教育法演習2	2
地誌学 2	2	社会･公民科教育法1	2
心理学 1	2	社会･公民科教育法2	2
心理学 2	2	社会･公民科教育法演習1	2
哲学概論 1	2	社会･公民科教育法演習2	2

⑤ 法学部言語科目【随意科目】

法政リーディング＆ライティング	2

国際ビジネス法学科グローバルコースは，全学共通科目 24 単位以上，学びの精神 4 単位，専門教育選択科目区分の科目を 66 単位，全学共通科目・専門教育の各科目で卒業要件単位数を超えて修得した科目並びに法学部自由科目・日本語教育センター科目（※）・留学認定・他学部等・５大学間単位互換制度の各科目から 30 単位,合計 124 単位を修得しなければならない。(※)PEACE プログラム生及び留学生（外国人書類選考入試）のみ履修可。

Ⅶ 観光学部

(1) 観光学科専門教育科目

1 必修科目

① 専門必修科目

観光学概論	2

2 選択科目

① 学科選択科目 1

基礎演習	2	観光経営学	2
観光史	2	観光行動論	2
観光事業論	2	マーケティング	2
観光経済学	2	観光地経営論	2

② 学科選択科目 2

観光政策･行政論	2	ホテル経営論	2
経営戦略論	2	旅行産業論	2
観光計画論	2	風土と観光	2
観光施設論	2	観光感性論	2
観光心理学	2	消費論	2
地域経済学	2		

③ 学科選択科目 3

国際観光政策論	2	ホテル運営論	2
投資計画論1	2	外食産業論	2
企業情報分析	2	観光交通論(鉄道等)	2
簿記論	2	観光交通論(国際航空)	2

旅行産業演習 1(A)	2	施設・空間造形論	2
旅行産業演習 1(B)	2	観光関連法	2
宿泊産業演習 1(A)	2	投資計画論2	2
宿泊産業演習 1(B)	2	旅行情報システム	2
エコツーリズム論	2	旅行業経営実務	2
都市観光論	2	農村観光論	2
市民参加とまちづくり	2	ヘリテージと観光	2
サービス・マネジメント	2	レジャー論	2
宿泊産業論	2	情報処理演習	2
ホテルアセットマネジメント論	2	地域経営論	2
コンベンション産業論	2	地域社会論	2
経営財務論	2	GIS 演習	2
都市型エンターテイメント論	2	観光デザイン論	2
旅行産業演習 2(A)	2	観光ビジネスプロジェクト A	2
旅行産業演習 2(B)	2	観光ビジネスプロジェクト B	2
宿泊産業演習 2(A)	2	観光リスクマネジメント	2
宿泊産業演習 2(B)	2	フィールドワーク論	2
政策評価論	2	宿泊ビジネスプロジェクト 1(A)	2
地域デザイン論	2	宿泊ビジネスプロジェクト 1(B)	2
環境・景観論	2	宿泊ビジネスプロジェクト 2(A)	2
都市計画論	2	宿泊ビジネスプロジェクト 2(B)	2

④ 他学科選択科目

他学科の学科選択科目 1・2・3

3 自由科目

① 学部自由科目

グローバル・スタディ・プログラム1	2	演習(3 年)B	2
グローバル・スタディ・プログラム2	2	卒業研究指導 A	2
Introduction to Tourism 1	2	卒業研究指導 B	2
Introduction to Tourism 2	2	卒業論文	6
Tourism Study 1 (Business)	2	観光インターンシップ A	1
Tourism Study 2 (Society)	2	観光インターンシップ B	1
Tourism Study 3 (Destination)	2	長期海外インターンシップ	10
Tourism Study 4 (Culture)	2	経団連インターンシップ	2
Current Trends in Tourism 1	2	観光ビジネス概論	2
Current Trends in Tourism 2	2	交通産業特論	2
観光特論(RT)	2	観光地づくり	2
演習(2 年)A	2	ガストロノミー(美食)と観光	2
演習(2 年)B	2	観光 IT 戦略論	2
演習(3 年)A	2		

② 関連基礎科目

データ情報処理	2	日本史 2	2
法学 1	2	外国史 1	2
法学 2	2	外国史 2	2
政治学	2	地誌学	2
経済学	2	生涯学習支援論 1	2
経営学	2	生涯学習支援論 2	2
社会学 1	2	生涯学習概論 1	2
社会学 2	2	生涯学習概論 2	2
心理学 1	2	社会教育経営論 1	2
心理学 2	2	社会教育経営論 2	2
地理学 1	2	自然地理学	2
地理学 2	2	文学	2
日本史 1	2	哲学	2

人類学	2	民法	2
美学	2		

観光学科は，全学共通科目 28 単位，専門必修科目を２単位，学科選択科目 1 を６単位，学科選択科目 2 を 10 単位，学科選択科目 3 を 30 単位，他学科選択科目を 14 単位，自由科目を 34 単位，合計 124 単位以上を修得しなければならない。ただし，指定単位を超えて修得した学科選択科目 1･2･3，他学科選択科目の全てを自由科目として卒業要件単位に算入することができる。また言語自由科目，指定単位数を超えて修得した全学共通科目，他学部科目，５大学間単位互換制度による他大学の科目は合わせて 20 単位までを自由科目として卒業要件単位に算入することができる。

（2）交流文化学科専門教育科目

1 必修科目

① 専門必修科目

観光学概論	2

2 選択科目

① 学科選択科目 1

基礎演習	2	観光地理学概論	2
観光人文学概論	2	観光文学概論	2
観光社会学概論	2	観光歴史学概論	2
観光人類学概論	2		

② 学科選択科目 2

観光社会学 1(都市)	2	観光地理学 4(文化)	2
観光社会学 2(移動)	2	観光地理学 5(自然環境)	2
観光社会学 3(ジェンダー)	2	観光地理学 6(日本地誌)	2
観光社会学 4(文化)	2	観光地理学 7(外国地誌 1)	2
観光社会学 5(メディア)	2	観光地理学 8(外国地誌 2)	2
観光社会学 6(若者)	2	観光地理学 9(外国地誌 3)	2
観光社会学 7(文化遺産)	2	観光地理学 10(外国地誌 4)	2
観光人類学 1(文化の表象)	2	観光文学 1(移動)	2
観光人類学 2(エスニシティ)	2	観光文学 2(SF)	2
観光人類学 3(民俗)	2	観光文学 3(紀行文)	2
観光人類学 4(宗教)	2	観光文学 4(トラベルライティング)	2
観光人類学 5(グローバリゼーション)	2	観光文学 5(思想)	2
観光人類学 6(コミュニティ)	2	観光歴史学 1(近世)	2
観光人類学 7(開発援助)	2	観光歴史学 2(近代)	2
観光人類学 8(生態)	2	観光歴史学 3(現代)	2
観光地理学 1(都市)	2	観光学講義	2
観光地理学 2(農村)	2	文献講読	2
観光地理学 3(リゾート地)	2	フィールドワーク論	2

③ 学科選択科目 3

観光と文化 1(芸術)	2	観光と社会 1(移動)	2
観光と文化 2(メディア)	2	観光と社会 2(交通)	2
観光と文化 3(ポップカルチャー)	2	観光と社会 3(政策)	2
観光と文化 4(スポーツ)	2	観光と社会 4(医療)	2
観光と文化 5(食)	2	観光と社会 5(環境)	2
観光と文化 6(風景)	2	観光と社会 6(国際関係)	2
観光と文化 7(産業)	2	観光と社会 7(国際協力)	2

④ 他学科選択科目

他学科の学科選択科目 1･2･3

3 自由科目

① 学部自由科目

グローバル･スタディ･プログラム1	2	Introduction to Tourism 1	2
グローバル･スタディ･プログラム2	2	Introduction to Tourism 2	2

Tourism Study 1 (Business)	2	卒業研究指導 B	2
Tourism Study 2 (Society)	2	卒業論文	6
Tourism Study 3 (Destination)	2	観光インターンシップ A	1
Tourism Study 4 (Culture)	2	観光インターンシップ B	1
Current Trends in Tourism 1	2	長期海外インターンシップ	10
Current Trends in Tourism 2	2	経団連インターンシップ	2
観光特論(RT)	2	観光ビジネス概論	2
演習(2 年)A	2	交通産業特論	2
演習(2 年)B	2	観光地づくり	2
演習(3 年)A	2	ガストロノミー(美食)と観光	2
演習(3 年)B	2	観光 IT 戦略論	2
卒業研究指導 A	2		

② 関連基礎科目

データ情報処理	2	外国史 2	2
法学 1	2	地誌学	2
法学 2	2	生涯学習概論 1	2
政治学	2	生涯学習概論 2	2
経済学	2	生涯学習支援論 1	2
経営学	2	生涯学習支援論 2	2
社会学 1	2	社会教育経営論 1	2
社会学 2	2	社会教育経営論 2	2
心理学 1	2	自然地理学	2
心理学 2	2	文学	2
地理学 1	2	哲学	2
地理学 2	2	人類学	2
日本史 1	2	美学	2
日本史 2	2	民法	2
外国史 1	2		

4 随意科目

社会・地理歴史科教育法 1	2	社会・地理歴史科教育法演習 1	2
社会・地理歴史科教育法 2	2	社会・地理歴史科教育法演習 2	2

交流文化学科は，全学共通科目 28 単位，専門必修科目を２単位，学科選択科目 1 を８単位，学科選択科目 2 を 30 単位，学科選択科目 3 を８単位,他学科選択科目 14 単位，自由科目を 34 単位，合計 124 単位以上を修得しなければならない。ただし，指定単位を超えて修得した学科選択科目 1・2・3,他学科選択科目の全てを自由科目として卒業要件単位に算入することができる。また言語自由科目，指定単位数を超えて修得した全学共通科目，他学部科目，５大学間単位互換制度による他大学の科目は合わせて 20 単位までを自由科目として卒業要件単位に算入することができる。

Ⅷ コミュニティ福祉学部

(1) 福祉学科専門教育科目

1 必修科目

社会福祉の原理と政策 1	2	社会福祉入門演習	2
基礎演習(学びの技法を含む)	2	社会問題のインターセクショナリティ	2

2 選択科目

① 専門基礎科目

異文化スタディ	2	ノーマライゼーション論	2
情報処理1	2	社会福祉とキャリア形成	2
情報処理2	2	家族をめぐる福祉問題	2

現代社会とケアシステム	2	児童福祉論	2
ソーシャルワークの理論と方法1	2	高齢者福祉論	2
メンタルヘルスと福祉	2	障害者福祉論	2
ソーシャルワークの基盤と専門職１	2	社会保障総論	2
ソーシャルワークの基盤と専門職２	2		

②専門応用科目

グローバル社会で活躍するための英語(福祉系)	2	Human Diversity and Social Justice in Social Work	2
現代コミュニティ福祉学特別講義（福祉系）	2	権利擁護を支える法制度	2
海外留学･海外インターンシップを目指す人への英語（福祉系）	2	社会福祉の原理と政策２	2
英語で学ぶ海外の福祉の現状	2	ソーシャルワークの理論と方法４	2
人権論	2	福祉マネジメント論	2
福祉文化論	2	福祉情報と ICT	2
社会福祉調査の基礎	2	ケアマネジメント論	2
ジェンダーとセクシュアリティ入門	2	福祉学特論	2
障害学入門	2	医療ソーシャルワーク実践論	2
社会福祉発達史１	2	支援者支援論:ストレスマネジメントを学ぶ	2
社会福祉発達史２	2	セルフヘルプグループ論	2
心理学理論と心理的支援	2	多文化ソーシャルワーク論	2
社会理論と社会システム	2	比較福祉国家論	2
医学概論	2	ケアの倫理と社会福祉	2
子ども理解と子育て支援論	2	社会福祉調査実践論	2
貧困に対する支援	2	災害福祉論	2
高齢者福祉実践論	2	居住福祉論	2
地域福祉論１	2	教育福祉論	2
地域福祉論２	2	ソーシャルワーク演習	2
女性福祉論	2	ソーシャルワーク演習（専門）１	3
保健医療と福祉	2	ソーシャルワーク実習指導１	1
発達障害支援論	2	インターンシップ	4
ソーシャルワークの理論と方法２	2	ソーシャルワーク実習指導２	4
ソーシャルワークの理論と方法３	2	ソーシャルワーク実習	5
社会保障論	2	ソーシャルワーク演習（専門）２	4
刑事司法と福祉	2	キャリア形成演習	4
		卒業研究	6
		卒業研究指導演習	2

③専門関連科目

心理学１	2	生涯学習支援論１	2
心理学２	2	生涯学習支援論２	2
生涯学習概論１	2	社会教育経営論１	2
生涯学習概論２	2	社会教育経営論２	2

福祉学科は，全学共通科目 28 単位以上，専門必修科目を８単位，専門基礎科目を 16 単位，専門応用科目を 50 単位、自由科目を 24 単位以上、合計 126 単位以上を別に定める方法に従って修得しなければならない。ただし，卒業要件単位を超えて修得した全学共通科目，選択科目，及び専門関連科目，他学部科目，他学科科目，５大学間単位互換制度による他大学の科目を自由科目として卒業要件単位に算入することができる。

(2) コミュニティ政策学科専門教育科目

1 必修科目

①必修科目（共通）

基礎演習（学びの技法を含む）	2	政策学演習 1A	2
コミュニティ政策学入門	2	政策学演習 1B	2
社会調査入門	2	講読演習 A	2
コミュニティ学演習 1A	2	講読演習 B	2
コミュニティ学演習 1B	2	社会調査実習	4

②必修科目（コミュニティ学専修）

コミュニティ学入門演習	2

③必修科目(政策学専修)

政策学入門演習	2

2 選択科目

①スタディスキル科目

統計学入門	2	情報処理 4	2
リサーチ・デザイン	2	異文化スタディ	2
質的リサーチ	2	グローバル社会で活躍するための英語（コミュニティ政策系）	2
データ分析入門	2	海外留学・海外インターンシップを目指す人への英語（コミュニティ政策系）	2
データ分析法	2	英語で学ぶコミュニティ政策	2
キャリアデザイン	2	現代コミュニティ福祉学特別講（コミュニティ政策系）	2
政策分析のメソドロジー	2	英語で学ぶ社会問題	2
情報処理 1	2		
情報処理 2	2		
情報処理 3	2		

② 専門基礎科目

コミュニティ福祉とキリスト教	2	コミュニティ開発論	2
少子高齢社会論	2	地方自治論	2
国際ＮＧＯ論	2	政策学の基礎知識	2
現代コミュニティ論	2	経営組織論	2
貧困と格差	2	コミュニティ人間形成論	2
コミュニティ・ビジネス	2	ボランティア・NPO 論	2
持続可能な福祉コミュニティ	2	若者政策	2
社会問題の社会学	2	日本近現代史	2
福祉社会論	2	地域社会と法	2
フィールドワーク入門	2	地域社会と経済	2
公共空間論	2	地域社会と政治	2
地域学への招待	2	地域社会と労働	2

③ 専門応用科目

Ａ コミュニティ学専修

現代キリスト教人間学	2	Global Society and Local Communities	2
いのちの倫理学	2	都市と地域	2
生活困窮者支援	2	シェアライフ論	2
日本の文化とコミュニティ	2	社会運動論	2
公共哲学	2	いのちの尊厳とジェンダー	2
コミュニティと福祉	2	差別論	2
まちづくり論	2	地球コミュニティ論	2
国際福祉論	2	家族社会学	2
社会開発論	2	コミュニティ心理学	2

国際平和論	2	村落社会論	2
ファシリテーション論	2	地域交通論	2
比較宗教学	2	現代環境論	2
アートとコミュニティ	2	地域地理学	2
現代生活学	2	ファンドレイジング論	2
国際経済論	2	インターンシップ	4
国際移動論	2	コミュニティ学演習 2A	2
多文化共生論	2	コミュニティ学演習 2B	2
自然災害論	2	卒業論文	6

B 政策学専修

政策科学	2	居住福祉	2
地方財政論	2	グローバリゼーション論	2
福祉経済学	2	協同組合論	2
行政学	2	NPO マネジメント論	2
政策過程論	2	社会思想史	2
市民教育論	2	マス・コミュニケーション論	2
自治体政策論	2	現代資本主義論	2
福祉政治学	2	ジェンダー政策論	2
パートナーシップ論	2	契約と法	2
社会的連帯経済論	2	政策法務	2
社会教育論	2	地域経営論	2
政策評価論	2	地方自治法	2
コミュニティ・オーガナイジング論	2	都市計画論	2
オンブズマンと市民参加	2	比較政治経済	2
サービスラーニング論	2	インターンシップ	4
Introduction to Local Governance	2	政策学演習 2A	2
福祉制度論	2	政策学演習 2B	2
経営戦略論	2	卒業論文	6

④ 専門関連科目

法学 1	2	心理学 2	2
法学 2	2	生涯学習概論 1	2
政治学	2	生涯学習概論 2	2
経済学	2	生涯学習支援論 1	2
社会学 1	2	生涯学習支援論 2	2
社会学 2	2	社会教育経営論 1	2
心理学 1	2	社会教育経営論 2	2

3 随意科目

社会･公民科教育法1	2	社会･公民科教育法演習1	2
社会･公民科教育法2	2	社会･公民科教育法演習2	2

コミュニティ政策学科コミュニティ学専修は全学共通科目を 28 単位以上、専門必修科目（共通）を 10 単位、専門必修科目（コミュニティ学専修）を 2 単位、スタディスキル科目を 6 単位、専門基礎科目を 18 単位、専門応用科目を 42 単位、自由科目を 20 単位以上、合計 126 単位以上を別に定める方法に従って修得しなければならない。

専門応用科目については、専修を問わず履修可能であるが、専門応用科目（コミュニティ学専修）から 28 単位以上を修得する必要がある。
卒業要件単位を超えて修得した全学共通科目と選択科目、専門関連科目、他学部科目、他学科科目、5 大学間単位互換制度による他大学の科目を自由科目として卒業要件単位に算入することができる。

なお、専門必修科目（共通）のうち、コミュニティ学演習 1A・B（政策学演習 1A・B）、講読演習 A・B、社会調査実習から 4 単位を選択必修とする。

コミュニティ政策学科政策学専修は全学共通科目を 28 単位以上、専門必修科目（共通）を 10 単位、専門必修科目（政策学専修）を 2 単位、スタディスキル科目を 6 単位、専門基礎科目を 18 単位、専門応用科目を 42 単位、自由科目を 20 単位以上、合計 126 単位以上を別に定める方法に従って修得しなければならない。

専門応用科目については、専修を問わず履修可能であるが、専門応用科目（政策学専修）から 28 単位以上を修得する必要がある。

卒業要件単位を超えて修得した全学共通科目と選択科目、専門関連科目、他学部科目、他学科科目、5 大学間単位互換制度による他大学の科目を自由科目として卒業要件単位に算入することができる。

なお、専門必修科目（共通）のうち、政策学演習 1A・B（コミュニティ学演習 1A・B)、講読演習 A・B、社会調査実習から 4 単位を選択必修とする。

【2023 年度以降　募集停止】
(3) スポーツウエルネス学科専門教育科目

1 必修科目

スポーツウエルネス学入門	2	スポーツウエルネスワークショップ B	2
基礎演習(学びの技法を含む)	2	スポーツウエルネスワークショップ C	2
運動方法学演習 1	2	卒業研究指導演習	2
運動方法学演習 2	2	卒業研究　ベイシックコース	2
運動方法学演習 9	2	卒業研究　アドバンストコース	8
スポーツウエルネスワークショップ A	2		

2 選択科目
① 学部共通科目

ノーマライゼーション論	2	コミュニティ福祉とキリスト教	2
情報処理 1	2	社会保障総論	2
情報処理 2	2	人間心理の深層	2
ウエルネス福祉演習	2	日本の文化と思想	2
キャリア形成論 1	2	発育・発達・加齢論	2
キャリア形成論 2	2	コミュニティ平和論	2
ウエルネス福祉論	2	家族心理学の基礎	2
現代キリスト教人間学	2	ファシリテーション論	2
社会調査法	2	ライフサイクルの心理学	2
社会福祉調査の基礎	2	リスクマネジメント論	2
人権論	2	セクノロジー	2
福祉文化論	2	グリーフスタディ	2
生涯スポーツ論	2	アジアの宗教と文化	2
情報処理 3	2	社会福祉発達史 1	2
情報処理 4	2	異文化スタディ	2
グローバル社会で活躍するための英語 1	2	社会福祉発達史 2	2
グローバル社会で活躍するための英語 2	2	地域コミュニティと生協	2
高齢社会システム論	2	現代コミュニティ福祉学特別講義 A	2
ジェンダー論	2	現代コミュニティ福祉学特別講義 B	2
障害学入門	2	心理学理論と心理的支援	2
家族社会学	2	社会理論と社会システム	2

② 学科科目
A 専門基礎科目

ウエルネス科学総論	2	運動方法学演習 3	2
運動処方・療法	2	運動方法学演習 4	2
生理学	2	運動方法学演習 5	2
運動生理学	2	運動方法学演習 6	2
スポーツ科学総論	2	運動方法学演習 7	2
介護概論	2	運動方法学演習 8	2
運動方法学	2	循環器検査・救急処置演習	2
解剖学	2		

B 専門基幹科目

アダプテッドスポーツ論	2	測定評価演習	2
トレーナー演習	2	余暇生活論	2
生活習慣病の科学	2	スポーツウエルネス心理学	2
身体文化論	2	ウエルネススポーツ医学	2
スポーツ政策	2	ストレングス・コンディショニング論	2
健康政策	2	海外留学・海外インターンを目指す人への英語(スポーツウエルネス系)	2
スポーツコーチ学	2	英語で学ぶスポーツマネジメント・スポーツビジネス	2
スポーツ社会学	2	International Society and Sport	2
運動・スポーツ栄養学	2		

C 専門展開科目

コミュニティスポーツ論	2	動作分析法演習	2
ウエルネスプロモーション論	2	スポーツコーチング演習	2
レクリエーション援助論	2	スポーツ倫理学	2
レクリエーション援助演習	2	バイオメカニクス	2
リハビリテーション論	2	スポーツマネジメント論	2
小児保健・精神保健	2	スポーツコーチング特論	2
ユニバーサルスポーツ援助技術演習	2	メンタルマネジメント	2
健康運動指導演習	2	公衆衛生学	2
障害者スポーツ論	2	インターンシップ	4
障害者スポーツ実践論	2	専門演習 1	2
スポーツビジネス論	2	専門演習 2	2
スポーツジャーナリズム	2		

① 専門関連科目

心理学 1	2	生涯学習支援論 1	2
心理学 2	2	生涯学習支援論 2	2
生涯学習概論 1	2	社会教育経営論 1	2
生涯学習概論 2	2	社会教育経営論 2	2

3 随意科目

保健体育科教育法 1	2	保健体育科教育法演習 1	2
保健体育科教育法 2	2	保健体育科教育法演習 2	2

スポーツウエルネス学科の卒業研究ベイシックコースは，全学共通科目 28 単位以上，必修科目を 16 単位，学部共通科目を 16 単位，専門基礎科目を 10 単位，専門基幹科目を 12 単位，専門展開科目を 22 単位，自由科目を 22 単位，合計 126 単位を別に定める方法に従って修得しなければならない。卒業研究アドバンストコースは，全学共通科目 28 単位以上，必修科目を 22 単位，学部共通科目を 16 単位，専門基礎科目を 10 単位，専門基幹科目を 10 単位，専門展開科目を 18 単位，自由科目を 22 単位，合計 126 単位を別に定める方法に従って修得しなければならない。ただし，いずれのコースにおいても，卒業要件単位を超えて修得した全学共通科目，選択科目，及び専門関連科目，他学部科目，他学科科目，５大学間単位互換制度による他大学の科目から 22 単位までを自由科目として卒業要件単位に算入することができる。

Ⅸ 経営学部

(1) 経営学科専門教育科目

1 必修科目

経営学入門	2	会計学入門	2
経済学入門	2		

2 選択科目

① 基礎科目

A ビジネス基礎

リーダーシップ入門(BL0)	2	グッド・ビジネス	2

B　コンセントレーション基礎

ビジネス概論A （マーケティング・マネジメント・コミュニケーション）	2	ビジネス概論B （会計学・ファイナンス・経済学）	2

C ビジネスリテラシー

ICTリテラシー	2	経営学のための数学	2
ビジネスリテラシー1	2	社会調査実習	4
ビジネスリテラシー2	2		

② 基幹科目

A BLP

BL1	2	BL3-B	2
BL2	2	BL3-C	2
BL3-A	2	BL4	2

B GBI

CSR	2	Business and Society	2
経営史	2	グッド・ビジネス・ワークショップ	2
ビジネスロー	2	Good Business Seminar	2
経営と社会	2	Basics in Business and Society	2
コーポレートガバナンス	2		
サステナビリティ&ビジネス	2		

③ コンセントレーション科目

サービス・マーケティング	2	コーポレート・ファイナンス	2
流通システム論	2	Financial Accounting	2
マーケティング・リサーチ	2	Finance	2
マーケティング・マネジメント	2	会計監査	2
Marketing Management in Japan	2	税務会計	2
Marketing Positioning Strategy	2	インベストメント	2
デジタル・トランスフォーメーション	2	ファイナンスのための数学	2
伝統産業とマーケティング	2	Corporate Finance and Valuation	2
消費者行動論	2	Language and Culture	2
マーケティング・コミュニケーション	2	Advanced Small Group Communication	2
リテイル・マーケティング	2	グローバリゼーションと地域	2
Modern Consumer Culture and Society	2	コミュニケーション・リサーチ	2
マーケティング・セオリー	2	Business Communication	2
データ・マイニング	2	Basics in Finance	2
組織と戦略	2	Basics in Accounting	2
経営と技術	2	Basics in Marketing	2
国際経営論	2	Intermediate Finance	2
経営と心理	2	Intermediate Accounting	2
組織行動論	2	Intermediate Marketing	2
マネジメントの理論	2	ワークショップ演習 A	2
経営戦略論	2	ワークショップ演習 B	2
異文化コミュニケーション論	2	ワークショップ演習 C	2
Introduction to Strategic Management	2	ワークショップ演習 D	2
Global Innovation Management	2	ワークショップ演習 E	2
クロスボーダーM&A戦略論（EY ストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社 寄附講座）	2	ワークショップ演習 F ワークショップ演習 G	2 2
人材マネジメント論	2	ワークショップ演習 H	2
組織マネジメント	2	ワークショップ演習 I	2
生産管理論	2	ワークショップ演習 J	2
比較組織論	2	2年次演習1	2
イノベーション・マネジメント	2	2年次演習2	2
Global Strategic Management	2	3年次演習1	2
Strategic Management	2	3年次演習2	2
ビジネスエコノミクス	2	卒論演習1	2
財務会計	2	卒論演習2	2
管理会計	2	卒業論文	4
財務諸表分析	2		

④ Global Study, Topics in Business

Global Study 1	2	Global Study 4	3
Global Study 2	2	Global Study 5	1
Global Study 3	3	Global Study 6	1

Global Study 7	1	Topics in Business 2	2
Global Study 8	1	Topics in Business 3	2
Global Study 9	8	Topics in Business 4	2
Global Study (Pre-departure)	1	Topics in Business 5	2
Topics in Business 1	2		

3 自由科目

① 企業人セミナー・自主講座

企業人セミナー1	2	経営学部特別講義 2	2
企業人セミナー2	2	経営学部特別講義 3	2
企業人セミナー3	2	経営学部特別講義 4	2
経営学部特別講義 1	2		

② インターンシップ・短期留学プログラム

Global Internship	4	Short－term Study Abroad Program 2	4
Long－term Global Internship	10	Sports Facility Management	2
Short－term Study Abroad Program 1	4		

③ 国際経営分野

Overseas EAP（海外EAP）	4	Penetrating the Japanese Market	
EAP 1	2	International Human Resource Management	2
EAP 2	6	Financial Statement Analysis	2
Business Project	2	Business Negotiation	2
Advanced Business Project	4	International Business Management	4
International Business – A	2	（Uvic Summer Prog）	
International Business – B	2	Argumentation and Debate	2
ESP－A	2	Japanese and East Asian	2
ESP－B	2	Business Environments	
Marketing Communications and	2	Intercultural Business Management	2

経営学科は，全学共通科目で 28 単位，専門教育科目で必修科目 6 単位，選択科目の基礎科目 4 単位，基幹科目 56 単位，自由科目 30 単位，合計 124 単位を修得しなければならない。なお，専門演習は 16 単位を限度として専門選択科目に算入する。

指定単位を超えて修得した専門選択科目，全学共通科目，他学部科目，5 大学間単位互換制度による他大学の科目の単位を自由科目の単位として卒業単位に算入することができる。ただし，全学共通科目，他学部科目，5 大学間単位互換制度による他大学科目から卒業単位に算入することができるのは，あわせて 12 単位までとする。

(2) 国際経営学科専門教育科目

1 必修科目

経営学入門	2	会計学入門	2
経済学入門	2		

2 選択科目

① 基礎科目

A ビジネス基礎

リーダーシップ入門(BL0)	2	International Business – A	2
グッド・ビジネス	2	International Business – B	2
国際経営論	2		

B コンセントレーション基礎

ビジネス概論A （マーケティング・マネジメント・コミュニケーション）	2	ビジネス概論B （会計学・ファイナンス・経済学）	2

C ビジネスリテラシー

ICTリテラシー	2	経営学のための数学	2
ビジネスリテラシー1	2	社会調査実習	4
ビジネスリテラシー2	2		

② 基幹科目

A BBL

Overseas EAP（海外EAP）	4	ESP－A	2
Introduction to BBL（BBL0）	2	ESP－B	2
EAP 1	2	Business Project	2
EAP 2	6	Advanced Business Project	4

B GBI

CSR	2	サステナビリティ&ビジネス	2
経営史	2	Business and Society	2
ビジネスロー	2	グッド・ビジネス・ワークショップ	2
経営と社会	2	Good Business Seminar	2
コーポレートガバナンス	2	Basics in Business and Society	2

③ コンセントレーション科目

Marketing Management in Japan	2	Business Communication	2
Marketing Positioning Strategy	2	Business Negotiation	2
マーケティング・マネジメント	2	Intercultural Business Management	2
伝統産業とマーケティング	2	Japanese and East Asian Business Environments	2
Modern Consumer Culture and Society	2	グローバリゼーションと地域	2
Marketing Communications and Penetrating the Japanese Market	2	マーケティング・コミュニケーション	2
		コミュニケーション・リサーチ	2
デジタル・トランスフォーメーション	2	Basics in Finance	2
Introduction to Strategic Management	2	Basics in Accounting	2
Global Innovation Management	2	Basics in Marketing	2
International Business Management （Uvic Summer Prog）	4	Intermediate Finance	2
		Intermediate Accounting	2
経営と心理	2	Intermediate Marketing	2
組織と戦略	2	ワークショップ演習 A	2
クロスボーダーM&A戦略論（EY ストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社 寄附講座）	2	ワークショップ演習 B	2
		ワークショップ演習 C	2
International Human Resource Management	2	ワークショップ演習 D	2
Global Strategic Management	2	ワークショップ演習 E	2
Strategic Management	2	ワークショップ演習 F	2
人材マネジメント論	2	ワークショップ演習 G	2
Financial Accounting	2	ワークショップ演習 H	2
Finance	2	ワークショップ演習 I	2
財務会計	2	ワークショップ演習J	2
インベストメント	2	2年次演習1	2
Financial Statement Analysis	2	2年次演習2	2
Corporate Finance and Valuation	2	3年次演習1	2
Language and Culture	2	3年次演習2	2
Advanced Small Group Communication	2	卒論演習1	2
Argumentation and Debate	2	卒論演習2	2
異文化コミュニケーション論	2	卒業論文	4
組織行動論	2		

④ Global Study, Topics in Business

Global Study 1	2	Global Study 9	8
Global Study 2	2	Global Study (Pre-departure)	1
Global Study 3	3	Topics in Business 1	2
Global Study 4	3	Topics in Business 2	2
Global Study 5	1	Topics in Business 3	2
Global Study 6	1	Topics in Business 4	2
Global Study 7	1	Topics in Business 5	2
Global Study 8	1		

3 自由科目

① 企業人セミナー・自主講座

企業人セミナー1	2	経営学部特別講義 2	2
企業人セミナー2	2	経営学部特別講義 3	2
企業人セミナー3	2	経営学部特別講義 4	2
経営学部特別講義 1	2		

② インターンシップ・短期留学プログラム

Global Internship	4	Short－term Study Abroad Program 2	4
Long－term Global Internship	10	Sports Facility Management	2
Short－term Study Abroad Program 1	4		

③ 経営分野

BL1	2	消費者行動論	2
BL2	2	流通システム論	2
BL3-A	2	マーケティング・リサーチ	2
BL3-B	2	経営と技術	2
BL3-C	2	マネジメントの理論	2
BL4	2	ビジネスエコノミクス	2
コーポレート・ファイナンス	2	財務諸表分析	2
マーケティング・セオリー	2	リテイル・マーケティング	2
データ・マイニング	2	組織マネジメント	2
管理会計	2	イノベーション・マネジメント	2
経営戦略論	2	会計監査	2
生産管理論	2	税務会計	2
比較組織論	2	ファイナンスのための数学	2
サービス・マーケティング	2		

国際経営学科は，全学共通科目で 28 単位，専門教育科目で必修科目 6 単位，選択科目の基礎科目 6 単位，基幹科目 54 単位，自由科目 30 単位，合計 124 単位を修得しなければならない。なお，専門演習は 16 単位を限度として専門選択科目に算入する。

指定単位を超えて修得した専門選択科目，全学共通科目，他学部科目，５大学間単位互換制度による他大学の科目の単位を自由科目の単位として卒業単位に算入することができる。ただし，全学共通科目，他学部科目，５大学間単位互換制度による他大学科目から卒業単位に算入することができるのは，あわせて 12 単位までとする。

X　現代心理学部

(1) 心理学科専門教育科目

1 必修科目

現代心理学入門	2	心理学実験実習1(心理学実験)	2
キャリアと心理学	2	心理学調査実習1	2
心理学概論1	2	心理学実験実習2(心理学実験)	1
心理学概論2	2	心理学調査実習2	1
心理学統計法1	2	心理学文献講読1	2
心理学統計法2	2	心理学文献講読2	2

2 選択科目

①学部コラボレーション科目

学部コラボレーション科目 1	2	学部コラボレーション科目 2	2

② 学科選択科目A

心理学演習 A1	2	心理学演習 F2	2
心理学演習 A2	2	心理学演習 G1	2
心理学演習 B1	2	心理学演習 G2	2
心理学演習 B2	2	心理学演習 H1	2
心理学演習 C1	2	心理学演習 H2	2
心理学演習 C2	2	心理学演習 I1	2
心理学演習 D1	2	心理学演習 I2	2
心理学演習 D2	2	心理学演習 J1	2
心理学演習 E1	2	心理学演習 J2	2
心理学演習 E2	2	心理学演習 K1	2
心理学演習 F1	2	心理学演習 K2	2

③ 学科選択科目B

知覚心理学(知覚・認知心理学)	2	認知心理学(知覚・認知心理学)	2
学習心理学(学習・言語心理学)	2	発達心理学	2

社会心理学(社会・集団・家族心理学)	2	教育心理学(教育・学校心理学)	2
産業・組織心理学	2	感情・人格心理学	2
臨床心理学概論	2	家族心理学(社会・集団・家族心理学)	2
生理心理学(神経・生理心理学)	2		

④ 学科選択科目C

心理学研究法 1	2	心理学研究法 3	2
心理学研究法 2	2	心理学研究法 4(心理的アセスメント)	2

⑤ 学科選択科目D

精神疾患とその治療	2	障害者・障害児心理学	2
心理学的支援法	2	健康・医療心理学	2
言語心理学(学習・言語心理学)	2	福祉心理学	2
児童心理学	2	人体の構造と機能及び疾病	2
消費者心理学	2	自己理解・他者理解の心理学	2
司法・犯罪心理学	2	行動分析学	2
コミュニティ心理学	2	比較認知科学	2
神経心理学(神経・生理心理学)	2	キャリアの心理学演習	2
心理学海外体験プログラム	2	社会調査概論	2
文化心理学	2	社会調査設計法	2
学校心理学(教育・学校心理学)	2	社会調査演習	4
社会病理学	2		

⑥ 学科選択科目 E

卒業論文	8	卒業論文指導演習 2	2
卒業論文指導演習 1	2		

3 自由科目

自由選択科目

心理学原書講読(入門)		短期海外留学プログラム	2
心理学英語文献講読演習 1		情報処理	2
心理学英語文献講読演習 2		公認心理師の職責	2
心理学英語表現演習 1		関係行政論	2
心理学英語表現演習 2		心理演習	2
英語心理学研究法演 1		心理実習	2
英語心理学研究法演習 2		観光心理学	2
英語心理学特講	2		

心理学科卒業論文選択者は，全学共通科目 28 単位，必修科目 22 単位，学部コラボレーション科目 2 単位，学科選択科目Ａ４単位，学科選択科目Ｂ10 単位，学科選択科目Ｃ４単位，学科選択科目Ｄ16 単位，学科選択科目Ｅ12 単位，自由科目 26 単位，合計 124 単位以上を修得しなければならない。

心理学科卒業論文非選択者は，全学共通科目 28 単位，必修科目 22 単位，学部コラボレーション科目 2 単位，学科選択科目Ａ４単位，学科選択科目Ｂ10 単位，学科選択科目Ｃ４単位，学科選択科目Ｄ16 単位，自由科目 38 単位，合計 124 単位以上を修得しなければならない。

自由科目は，上記科目のほか，指定単位を超えて修得した科目（全学共通科目，学部コラボレーション科目，学科選択科目），現代心理学部他学科科目，他学部科目，５大学間単位互換制度による他大学の科目である。

(2) 映像身体学科専門教育科目

1 必修科目

現代心理学入門		2映像身体学入門1	2
入門演習1		4映像身体学入門2	2
入門演習2		4映像身体学とキャリア	2

2 選択科目

① 学部コラボレーション科目

学部コラボレーション科目 1		学部コラボレーション科目 2	2

② 学科選択科目A

基礎演習 1	2	基礎演習 12	2
基礎演習 2	2	基礎演習 13	2
基礎演習 3	2	基礎演習 14	2
基礎演習 4	2	基礎演習 15	2
基礎演習 5	2	身体学文献講読 1	2
基礎演習 6	2	身体学文献講読 2	2
基礎演習 7	2	身体学文献講読 3	2
基礎演習 8	2	映像学文献講読 1	2
基礎演習 9	2	映像学文献講読 2	2
基礎演習 10	2	映像学文献講読 3	2
基礎演習 11	2	映像身体学文献講読	2

③ 学科選択科目B

専門演習 A1	2	専門演習 I1	2
専門演習 A2	2	専門演習 I2	2
専門演習 B1	2	専門演習 J1	2
専門演習 B2	2	専門演習 J2	2
専門演習 C1	2	専門演習 K1	2
専門演習 C2	2	専門演習 K2	2
専門演習 D1	2	専門演習 L1	2
専門演習 D2	2	専門演習 L2	2
専門演習 E1	2	専門演習 M1	2
専門演習 E2	2	専門演習 M2	2
専門演習 F1	2	専門演習 N1	2
専門演習 F2	2	専門演習 N2	2
専門演習 G1	2	専門演習 O1	2
専門演習 G2	2	専門演習 O2	2
専門演習 H1	2	専門演習 P1	2
専門演習 H2	2	専門演習 P2	2

④ 学科選択科目C

他者の現象学	2	戯曲シナリオ演習 1	2
アフォーダンス	2	戯曲シナリオ演習 2	2
フィルム・スタディーズの基礎	2	映像シナリオ演習 1	2
オートポイエーシス	2	映像シナリオ演習 2	2
養生論の思想	2	映像シナリオ演習 3	2
生命システム論	2	身体の思想	2
現代思想概説	2	現代演劇論 1	2
身体社会論	2	現代演劇論 2	2
映像社会論	2	比較舞踊論	2
生態心理学	2	パフォーマンスと身体	2
身体表現史	2	身体人類学	2
映像表現史	2	芸術人類学	2
生態心理学実験	2	メディア論	2
身体系ワークショップ 1	2	映像の思想	2
身体系ワークショップ 2	2	アメリカ映画論	2
身体系ワークショップ 3	2	ヨーロッパ映画論	2
身体系ワークショップ 4	2	日本映画論	2
身体系ワークショップ 5	2	アジア映画論	2
身体系ワークショップ 6	2	ドキュメンタリー映画論	2
身体系ワークショップ 7	2	写真映像論	2
映像系ワークショップ 1	2	イメージとメディア	2
映像系ワークショップ 2	2	芸術の思想	2
映像系ワークショップ 3	2	映像技術論 1	2
映像系ワークショップ 4	2	映像技術論 2	2
映像系ワークショップ 5	2	ファッションの思想	2
映像系ワークショップ 6	2	広告論	2
超域系ワークショップ 1	2	映像人類学	2

ジェンダー文化論	2	映像身体学特講 4	2
ポストコロニアル論	2	映像身体学特講 5	2
音の思想 1	2	映像身体学特講 6	2
音の思想 2	2	映像身体学特講 7	2
言語芸術論	2	映像身体学特講 8	2
視聴覚文化論	2	映像技術入門 A	2
認知科学	2	映像技術入門 B	2
アートの心理学	2	映像技術中級 1	2
芸能の理論と歴史	2	映像技術中級 2	2
映像身体学特講 1	2	舞台技術演習	2
映像身体学特講 2	2	都市の記憶と表象文化	2
映像身体学特講 3	2		

⑤ 学科選択科目D

卒業論文･卒業制作	8	卒業論文･卒業制作指導演習 2	2
卒業論文･卒業制作指導演習 1	2		

3 自由科目

自由選択科目

短期海外留学プログラム	2

映像身体学科は，全学共通科目 28 単位，必修科目 16 単位，学部コラボレーション科目 2 単位，学科選択科目A2 単位，学科選択科目Ｂ～D56 単位，自由科目 20 単位，合計 124 単位以上を修得しなければならない。

自由科目は，上記科目のほか，指定単位を超えて修得した科目（全学共通科目，学部コラボレーション科目，学科選択科目），現代心理学部他学科科目，他学部科目，５大学間単位互換制度による他大学の科目である。

ＸＩ　異文化コミュニケーション学部

(1) 異文化コミュニケーション学科一般専門教育科目

1 必修科目

① 学部必修科目

異文化コミュニケーション研究入門	2	基礎演習B	2
基礎演習A	2	Cultural Exchange	2

2 選択科目

① 学びの精神

College Life Planning A	2	College Life Planning B	2

② 基盤科目

コミュニケーションセミナー1(ドイツ語)	2	フランス語Lecture A	2
コミュニケーションセミナー1(フランス語)	2	フランス語Lecture B	2
コミュニケーションセミナー1(スペイン語)	2	スペイン語Lecture A	2
コミュニケーションセミナー1(中国語)	2	スペイン語Lecture B	2
コミュニケーションセミナー1(朝鮮語)	2	中国語Lecture A	2
コミュニケーションセミナー1(ロシア語)	2	中国語Lecture B	2
コミュニケーションセミナー2(ドイツ語)	2	朝鮮語Lecture A	2
コミュニケーションセミナー2(フランス語)	2	朝鮮語Lecture B	2
コミュニケーションセミナー2(スペイン語)	2	ビジネス日本語コミュニケーション演習	2
コミュニケーションセミナー2(中国語)	2	キャリア実践演習A	2
コミュニケーションセミナー2(朝鮮語)	2	キャリア実践演習B	2
コミュニケーションセミナー2(ロシア語)	2	諸言語特別演習A	2
コミュニケーションセミナー3A-R(英語)	4	諸言語特別演習B	2
コミュニケーションセミナー3B-R(ドイツ語)	4	海外留学研修A	12
コミュニケーションセミナー3B-R(フランス語)	4	海外留学研修B	14
コミュニケーションセミナー3B-R(スペイン語)	4	インターンシップ	2
コミュニケーションセミナー3B-R(中国語)	4	海外インターンシップ(CIC)A	2
コミュニケーションセミナー3B-R(朝鮮語)	4	海外インターンシップ(CIC)B	2
ドイツ語Lecture A	2	Seminar in English A	2
ドイツ語Lecture B	2	Seminar in English B	2

Seminar in English C	2	海外留学研修C1	12
Seminar in English D	2	海外留学研修C2	12
Seminar in English E	2	Study Abroad in Asia A	12
Seminar in English F	2	Study Abroad in Asia B	12
Seminar in English G	2	海外フィールドスタディA	2
Seminar in English H	2	海外フィールドスタディB	2
日本語コミュニケーションA	2	国内フィールドスタディA	2
日本語コミュニケーションB	2	国内フィールドスタディB	2
日本語コミュニケーションC	2	サービスラーニングA	2
日本語コミュニケーションD	2	サービスラーニングB	2
Japan Studies Program A	4	サービスラーニングC	2
Japan Studies Program B	2	言語研究調査法	2
Japan Studies Program C	2	異文化トレーニング演習	2
Japan Studies Program D	2	コミュニケーション研究調査法	2
Japan Studies Program E	4	フィールドワーク	2
Japan Studies Program F	2		

③ 基礎科目

異文化コミュニケーション概論	2	コミュニケーション研究概論	2
英語学概論	2	国際協力・開発学概論	2
日本語学概論A	2	カルチュラル・スタディーズ概論	2
日本語学概論B	2	グローバル化とジェンダー	2
コンピュータ・リテラシー	2	人間環境概論	2
文化人類学概論	2	多文化共生概論	2
視覚芸術概論	2	グローバル化と宗教	2
音楽学概論	2	メディアコミュニケーション概論	2
言語学概論	2	国際協力・紛争研究概論	2
通訳翻訳学概論	2		

④ 専門科目

対人コミュニケーション論	2	翻訳入門	2
集団コミュニケーション論	2	翻訳応用実践1	2
グローバル社会とコミュニケーション	2	翻訳応用実践2	2
非言語コミュニケーション論	2	通訳翻訳実習	2
説得コミュニケーション論	2	異文化コミュニケーション特論	2
バイリンガリズム研究	2	コミュニケーション・テクノロジーと社会	2
社会言語学	2	コミュニケーション特論	2
認知言語学	2	グローバル文化研究特論	2
語用論	2	カルチュラル・スタディーズ特論	2
通訳入門	2	グローバル化と思想	2
文化記号論	2	言語文化論	2
エスニシティとナショナリズム	2	グローバル化と言語	2
英語圏文学論	2	自然共生特論	2
間文化研究	2	人間環境特論	2
国際協力・開発学特論	2	グローバル研究調査法	2
宗教と文化	2	Teaching English to Speakers of Other Language: Basic Principles	2
国際協力・紛争研究特論	2		
音楽学特論	2	Communication and Citizenship	2
視覚芸術特論	2	Transcultural Cinema	2
人と移動	2	Contemporary Culture in Japan	2
多文化共生特論	2	Religions and Society in Asia	2
日本語学特論	2	Japan in Asia	2
心理言語学	2	Ethnicity and Glabalization in Japan	2
英語科教育研究	2	Multiculturalism in Japan	2
第1言語習得理論	2	Language Policy and Multilingualism	2
第2言語習得理論	2	Special Topics in ICC	2
外国語教育評価論	2	Social Movements and Social Change	2
日本語教授法A	2	Motivation in Language Learning	2
日本語教授法B	2	Intercultural Communication in the Language Classroom	2
日本語教育実習	4		
コミュニケーション文法	2	Advanced Seminar in Intercultural Communication	4
英語教育学	2		
英語コミュニケーション教育学	2	Language and Identity	4
言語研究特論	2	International Organizations and Sustainability	4
逐次通訳	2	Gender and Communication	4
同時通訳入門	2		

Globalization and Media	4	子どもの貧困	2
通訳翻訳特論	2	国際協力とビジネス	2

⑤ 専門演習・卒業研究

専門演習1	2	専門演習3	2
専門演習2	2	卒業研究	4

⑥卒業課題

卒業課題A	2	卒業課題B	2

異文化コミュニケーション学科一般学生は，全学共通科目 24 単位，学びの精神 4 単位，専門教育科目については学部必修科目 8 単位，基盤科目 20 単位，基礎科目 12 単位，専門科目 26 単位，更に，選択により以下の科目を修得し，合計 124 単位以上を修得しなければならない。

① 卒業研究選択者
専門演習・卒業研究 10 単位，自由科目 20 単位

② 卒業課題選択者
卒業課題 4 単位，自由科目 26 単位

自由科目には，指定単位を超えて修得した選択科目・全学共通科目・他学部科目・言語自由科目・５大学間単位互換制度による他大学の科目及び留学認定科目を算入することができる。

(2) 異文化コミュニケーション学科 DLP 専門教育科目

1 必修科目

① 学部必修科目

Academic Skills A	2	Cultural Exchange	2
Academic Skills B	2		
Overview of Intercultural Communication Studies	2		

② 専門演習・卒業研究・卒業課題

Advanced Seminar 1	2	Senior Research and Thesis	4
Advanced Seminar 2	2	Seminor Project A	2
Advanced Seminar 3	2	Seminor Project B	2

2 選択科目

① 学びの精神

College Life Planning A	2	College Life Planning B	2

② 基盤科目

Communication Seminar 1(German)	2	Seminar in English D	2
Communication Seminar 1(French)	2	Seminar in English E	2
Communication Seminar 1(Spanish)	2	Seminar in English F	2
Communication Seminar 1(Chinese)	2	Seminar in English G	2
Communication Seminar 1(Korean)	2	Seminar in English H	2
Communication Seminar 1 (Russian)	2	Lecture in German A	2
Communication Seminar 2(German)	2	Lecture in German B	2
Communication Seminar 2(French)	2	Lecture in French A	2
Communication Seminar 2(Spanish)	2	Lecture in French B	2
Communication Seminar 2(Chinese)	2	Lecture in Spanish A	2
Communication Seminar 2(Korean)	2	Lecture in Spanish B	2
Communication Seminar 2 (Russian)	2	Lecture in Chinese A	2
Communication Seminar 3A-R(English)	4	Lecture in Chinese B	2
Communication Seminar 3B-R(German)	4	Lecture in Korean A	2
Communication Seminar 3B-R(French)	4	Lecture in Korean B	2
Communication Seminar 3B-R(Spanish)	4	Overseas Study Program A	12
Communication Seminar 3B-R(Chinese)	4	Overseas Study Program B	14
Communication Seminar 3B-R(Korean)	4	Communication Seminar(Intensive) A	2
Seminar in English A	2	Communication Seminar(Intensive) B	2
Seminar in English B	2	Overseas Internship(CIC)A	2
Seminar in English C	2	Overseas Internship(CIC)B	2

Japan Studies Program A	4	Research Methods in Language Studies	2
Japan Studies Program E	4	Seminar in Intercultural Training	2
Japan Studies Program F	2	Research Methods in Communication Studies	2
Overseas Study Program C1	12	Fieldwork	2
Overseas Study Program C2	12	Study Abroad, Study Planning, and Career Development	2
Study Abroad in Asia A	12	Japanese Communication A	2
Study Abroad in Asia B	12	Japanese Communication B	2
Overseas Field Study A	2	Japanese Communication C	2
Overseas Field Study B	2	Japanese Communication D	2
Domestic Field Study A	2	Seminor in Japanese Language Business Communication	2
Domestic Field Study B	2		
Service Learning A	2		
Service Learning B	2		
Service Learning C	2		

③ 基礎科目

Introduction to Linguistics	2	Introduction to Cultural Studies	2
Introduction to Translation and Interpreting Studies	2	Introduction to International Development and Cooperation	2
Introduction to Communication	2	Introduction to the Study of English	2
Introduction to Intercultural Communication	2	Introduction to Cultural Anthropology	2
Introduction to Media Communication	2	Globalization and Gender	2

④ 専門科目

Psycholinguistics	2	グローバル社会とコミュニケーション	2
Sociolinguistics	2	非言語コミュニケーション論	2
Congnitive Linguistics	2	説得コミュニケーション論	2
Pragmatics	2	文化記号論	2
Theories of Second Language Acquisition	2	エスニシティとナショナリズム	2
Bilingualism	2	英語圏文学論	2
Measurement and Evaluation in Language Education	2	間文化研究	2
		国際協力・開発学特論	2
Teaching English to Speakers of Other Language: Basic Principles	2	宗教と文化	2
		国際協力・紛争研究特論	2
Introduction to Interpreting	2	音楽学特論	2
Consecutive Interpreting	2	視覚芸術特論	2
Introduction to Simultaneous Interpreting	2	人と移動	2
Introduction to Translation	2	多文化共生特論	2
Intermediate Translation 1	2	日本語学特論	2
Intermediate Translation 2	2	英語科教育研究	2
Translation and Interpreting Practicum	2	第1言語習得理論	2
Communication and Citizenship	2	日本語教授法A	2
Transcultural Cinema	2	日本語教授法B	2
Contemporary Culture in Japan	2	日本語教育実習	4
Religions Society in Asia	2	コミュニケーション文法	2
Japan in Asia	2	英語教育学	2
Ethnicity and Globalization in Japan	2	英語コミュニケーション教育学	2
Multiculturalism in Japan	2	言語研究特論	2
Language Policy and Multilingualism	2	異文化コミュニケーション特論	2
Special Topics in ICC	2	コミュニケーション・テクノロジーと社会	2
Social Movements and Social Change	2	コミュニケーション特論	2
Motivation in Language Learning	2	グローバル文化研究特論	2
Intercultural Communication in the Language Classroom	2	カルチュラル・スタディーズ特論	2
		グローバル化と思想	2
Advanced Seminar in Intercultural Communication	4	言語文化論	2
		グローバル化と言語	2
Language and Identity	4	自然共生特論	2
International Organizations and Sustainability	4	人間環境特論	2
Gender and Communication	4	グローバル研究調査法	2
Globalization and Media	4	Topics in Translation and Interepreting	2
対人コミュニケーション論	2	子どもの貧困	2
集団コミュニケーション論	2	国際協力とビジネス	2

⑤ 自由科目

Basic Seminar A	2	Basic Seminar B	2

ベーシックセミナーA	2	ベーシックセミナーB	2

異文化コミュニケーション学科 DLP 学生は，全学共通科目 24 単位，学びの精神 4 単位，専門教育科目については学部必修科目 8 単位，基盤科目 20 単位，基礎科目 12 単位，専門科目 26 単位，更に，選択により以下の科目を履修し，合計 124 単位以上を修得しなければならない。

① 卒業研究選択者
専門演習・卒業研究 10 単位，自由科目 20 単位
② 卒業課題選択者
卒業課題 4 単位，自由科目 26 単位
自由科目には，指定単位を超えて修得した選択科目・全学共通科目・他学部科目・言語自由科目・５大学間単位互換制度による他大学の科目及び留学認定科目を算入することができる。

(3) 異文化コミュニケーション学科 Transitional Bilingual Program in CIC 専門教育科目

1 必修科目
① 学部必修科目

Academic Skills A	2	Cultural Exchange	2
Academic Skills B	2		
Overview of Intercultural Communication Studies	2		

2 選択科目
① 学びの精神

College Life Planning A	2	College Life Planning B	2

② 基盤科目

コミュニケーションセミナー1(ドイツ語)	2	海外インターンシップ(CIC)A	2
コミュニケーションセミナー1(フランス語)	2	海外インターンシップ(CIC)B	2
コミュニケーションセミナー1(スペイン語)	2	Seminar in English A	2
コミュニケーションセミナー1(中国語)	2	Seminar in English B	2
コミュニケーションセミナー1(朝鮮語)	2	Seminar in English C	2
コミュニケーションセミナー1(ロシア語)	2	Seminar in English D	2
コミュニケーションセミナー2(ドイツ語)	2	Seminar in English E	2
コミュニケーションセミナー2(フランス語)	2	Seminar in English F	2
コミュニケーションセミナー2(スペイン語)	2	Seminar in English G	2
コミュニケーションセミナー2(中国語)	2	Seminar in English H	2
コミュニケーションセミナー2(朝鮮語)	2	日本語コミュニケーションA	2
コミュニケーションセミナー2(ロシア語)	2	日本語コミュニケーションB	2
コミュニケーションセミナー3A-R(英語)	4	日本語コミュニケーションC	2
コミュニケーションセミナー3B-R(ドイツ語)	4	日本語コミュニケーションD	2
コミュニケーションセミナー3B-R(フランス語)	4	Japan Studies Program A	4
コミュニケーションセミナー3B-R(スペイン語)	4	Japan Studies Program B	2
コミュニケーションセミナー3B-R(中国語)	4	Japan Studies Program C	2
コミュニケーションセミナー3B-R(朝鮮語)	4	Japan Studies Program D	2
ドイツ語Lecture A	2	Japan Studies Program E	4
ドイツ語Lecture B	2	Japan Studies Program F	2
フランス語Lecture A	2	海外留学研修C1	12
フランス語Lecture B	2	海外留学研修C2	12
スペイン語Lecture A	2	Study Abroad in Asia A	12
スペイン語Lecture B	2	Study Abroad in Asia B	12
中国語Lecture A	2	海外フィールドスタディA	2
中国語Lecture B	2	海外フィールドスタディB	2
朝鮮語Lecture A	2	国内フィールドスタディA	2
朝鮮語Lecture B	2	国内フィールドスタディB	2
ビジネス日本語コミュニケーション演習	2	サービスラーニングA	2
キャリア実践演習A	2	サービスラーニングB	2
キャリア実践演習B	2	サービスラーニングC	2
諸言語特別演習A	2	言語研究調査法	2
諸言語特別演習B	2	異文化トレーニング演習	2
海外留学研修A	12	コミュニケーション研究調査法	2
海外留学研修B	14	フィールドワーク	2
インターンシップ	2	留学、学びのデザイン、キャリア	2

③ 基礎科目

Introduction to Linguistics	2	Globalization and Gender	2
Introduction to Translation and Interpreting Studies	2	日本語学概論A	2
		日本語学概論B	2
Introduction to Communication	2	国際協力・紛争研究概論	2
Introduction to Intercultural Communication	2	人間環境概論	2
Introduction to Media Communication	2	多文化共生概論	2
Introduction to Cultural Studies	2	グローバル化と宗教	2
Introduction to International Development and Cooperation	2	視覚芸術概論	2
		音楽学概論	2
Introduction to the Study of English	2	コンピュータ・リテラシー	2
Introduction to Cultural Anthropology	2		

④ 専門科目

対人コミュニケーション論	2	翻訳応用実践2	2
集団コミュニケーション論	2	通訳翻訳実習	2
グローバル社会とコミュニケーション	2	異文化コミュニケーション特論	2
非言語コミュニケーション論	2	コミュニケーション・テクノロジーと社会	2
説得コミュニケーション論	2	コミュニケーション特論	2
バイリンガリズム研究	2	グローバル文化研究特論	2
社会言語学	2	カルチュラル・スタディーズ特論	2
認知言語学	2	グローバル化と思想	2
語用論	2	言語文化論	2
通訳入門	2	グローバル化と言語	2
文化記号論	2	自然共生特論	2
エスニシティとナショナリズム	2	人間環境特論	2
英語圏文学論	2	グローバル研究調査法	2
間文化研究	2	Teaching English to Speakers of Other Language: Basic Principles	2
国際協力・開発学特論	2		
宗教と文化	2	Communication and Citizenship	2
国際協力・紛争研究特論	2	Transcultural Cinema	2
音楽学特論	2	Contemporary Culture in Japan	2
視覚芸術特論	2	Religion and Society in Asia	2
人と移動	2	Japan in Asia	2
多文化共生特論	2	Ethnicity and Globalization in Japan	2
日本語学特論	2	Multiculturalism in Japan	2
心理言語学	2	Language Policy and Multilingualism	2
英語科教育研究	2	Special Topics in ICC	2
第1言語習得理論	2	Social Movements and Social Change	2
第2言語習得理論	2	Motivation in Language Learning	2
外国語教育評価論	2	Intercultural Communication in the Language Classroom	2
日本語教授法A	2		
日本語教授法B	2	Advanced Seminar in Intercultural Communication	4
日本語教育実習	4		
コミュニケーション文法	2	Language and Identity	4
英語教育学	2	International Organizations and Sustainability	4
英語コミュニケーション教育学	2	Gender and Communication	4
言語研究特論	2	Globalization and Media	
逐次通訳	2	通訳翻訳特論	2
同時通訳入門	2	子どもの貧困	2
翻訳入門	2	国際協力とビジネス	2
翻訳応用実践1	2		

⑤ 専門演習・卒業研究

専門演習1	2	専門演習3	2
専門演習2	2	卒業研究	4

⑥ 卒業課題

卒業課題 A	2	卒業課題 B	2

異文化コミュニケーション学科 Transitional Bilingual Program in CIC に属する学生は，全学共通科目 24 単位，学びの精神 4 単位，専門教育科目については学部必修科目 8 単位，基盤科

目 20 単位，基礎科目 12 単位，専門科目 26 単位，更に，選択により以下の科目を修得し，合計 124 単位以上を修得しなければならない。

① 卒業研究選択者

専門演習・卒業研究 10 単位，自由科目 20 単位

② 卒業課題選択者

卒業課題 4 単位，自由科目 26 単位

自由科目には，指定単位を超えて修得した選択科目・全学共通科目・他学部科目・言語自由科目・５大学間単位互換制度による他大学の科目及び留学認定科目を算入することができる。

(4) 異文化コミュニケーション学科 PEACE CIC 専門教育科目

1 必修科目

① 学びの精神

College Life Planning A	2	College Life Planning B	2

② 学部必修科目

Academic Skills A	2	Overview of Global Studies	2
Academic Skills B	2	Cultural Exchange	2
Overview of Language and Communication Studies	2		

2 選択科目

①PEACE 選択科目

Humanities Study1	2	Sociological Studies D	2
Humanities Study2	2	Sociology of Gender A	2
Humanities Study3	2	Cultural Anthropology A	2
Humanities Study4	2	Torts	2
Humanities Study5	2	Comparative Family Law	2
Humanities Study6	2	Introduction to Legal Studies A	2
Humanities Lecture1	2	Introduction to Legal Studies B	2
Humanities Lecture2	2	Contract A	2
Japanese Economy1	2	Contract B	2
Japanese Economy2	2	Comparative Constitutional Law	2
Japanese Economic History1	2	Criminal Procedure	2
Japanese Economic History2	2	Financial Statement Analysis	2
Accounting(Introductory)1	2	Tourism Study 1(Business)	2
Accounting(Introductory)2	2	Tourism Study 2(Society)	2
Finance(Introductory)1	2	Tourism Study 3(Destination)	2
Finance(Introductory)2	2	Tourism Study 4(Culture)	2
Sociological Studies A	2	Global Society and Local Communities	2
Sociological Studies B	2	Specialized Psychology Lecture	2
Sociological Studies C	2	Cultural Psychology	2

② 基盤科目

Communication Seminar 1 (German)	2	Communication Seminar 3B-R (Spanish)	4
Communication Seminar 1 (French)	2	Communication Seminar 3B-R (Chinese)	4
Communication Seminar 1 (Spanish)	2	Communication Seminar 3B-R (Korean)	4
Communication Seminar 1 (Chinese)	2	Lecture in German A	2
Communication Seminar 1 (Korean)	2	Lecture in German B	2
Communication Seminar 1 (Russian)	2	Lecture in French A	2
Communication Seminar 2 (German)	2	Lecture in French B	2
Communication Seminar 2 (French)	2	Lecture in Spanish A	2
Communication Seminar 2 (Spanish)	2	Lecture in Spanish B	2
Communication Seminar 2 (Chinese)	2	Lecture in Chinese A	2
Communication Seminar 2 (Korean)	2	Lecture in Chinese B	2
Communication Seminar 2 (Russian)	2	Lecture in Korean A	2
Communication Seminar 3B-R (German)	4	Lecture in Korean B	2
Communication Seminar 3B-R (French)	4	Service Learning C	2

Overseas Field Studies A	2	Japanese Communication B	2
Overseas Field Studies B	2	Japanese Communication C	2
Domestic Field Studies A	2	Japanese Communication D	2
Domestic Field Studies B	2	Seminar in Japanese Language Business Communication	2
Overseas Internship (CIC)A	4	Career Skills Development A	2
Overseas Internship (CIC)B	4	Career Skills Development B	2
Japan Studies Program A	2	Study Abroad, Study Planning, and Career Development	2
Japan Studies Program E	2		
Japan Studies Program F	2		
Japanese Communication A	2		

③ 基礎科目

Introduction to Linguistics	2	Introduction to Media Communication	2
Introduction to the Study of English	2	Introduction to Cultural Studies	2
Introduction to Translation and Interpreting Studies	2	Introduction to International Development and Cooperation	2
Introduction to Communication	2	Introduction to Cultural Anthropology	2
Introduction to Intercultural Communication	2	Globalization and Gender	2

④ 専門科目

Psycholinguistics	2	文化記号論	2
Sociolinguistics	2	第 1 言語習得理論	2
Cognitive Linguistics	2	英語教育学	2
Pragmatics	2	英語コミュニケーション教育学	2
Theories of Second Language Acquisition	2	英語科教育研究	2
Bilingualism	2	日本語学特論	2
Measurement and Evaluation in Language Education	2	日本語教授法 A	2
		日本語教授法 B	2
Teaching English to Speakers of Other Language: Basic Principles	2	日本語教育実習	4
		コミュニケーション文法	2
Motivation in Language Learning	2	言語研究特論	2
Intercultural Communication in the Language Classroom	2	非言語コミュニケーション論	2
		異文化コミュニケーション特論	2
Introduction to Interpreting	2	対人コミュニケーション論	2
Consecutive Interpreting	2	集団コミュニケーション論	2
Introduction to Simultaneous Interpreting	2	説得コミュニケーション論	2
Introduction to Translation	2	グローバル社会とコミュニケーション	2
Intermediate Translation 1	2	コミュニケーション・テクノロジーと社会	2
Intermediate Translation 2	2	コミュニケーション特論	2
Translation and Interpreting Practicum	2	グローバル文化研究特論	2
Communication and Citizenship	2	カルチュラル・スタディーズ特論	2
Transcultural Cinema	2	グローバル化と思想	2
Contemporary Culture in Japan	2	宗教と文化	2
Religion and Society in Asia	2	エスニシティとナショナリズム	2
Japan in Asia	2	人と移動	2
Ethnicity and Globalization in Japan	2	言語文化論	2
Multiculturalism in Japan	2	グローバル化と言語	2
Language Policy and Multilingualism	2	多文化共生特論	2
Social Movements and Social Change	2	国際協力・開発学特論	2
Advanced Seminar in Intercultural Communication	4	国際協力・紛争研究特論	2
Language and Identity	4	自然共生特論	2
International Organizations and Sustainability	4	人間環境特論	2
Gender and Communication	4	間文化研究	2
Globalization and Media	4	音楽学特論	2
Special Topics in ICC	2	視覚芸術特論	2

英語圏文学論	2	子どもの貧困	2
グローバル研究調査法	2	国際協力とビジネス	2
Topics in Translation and Interpreting	2		

⑤ 専門演習･卒業研究

Advanced Seminar 1	2	Advanced Seminar 3	2
Advanced Seminar 2	2	Senior Research and Thesis	4

⑥ 卒業課題

Senior Project A	2	Senior Project B	2

異文化コミュニケーション学科 PEACE CIC に属する学生は，全学共通科目 24 単位，学びの精神 4 単位，専門教育科目については学部必修科目 10 単位，PEACE 選択科目 10 単位，基盤科目 8 単位，基礎科目 12 単位，専門科目 26 単位，更に，選択により以下の科目を修得し，合計 124 単位以上を修得しなければならない。

① 卒業研究選択者
専門演習・卒業研究 10 単位，自由科目 20 単位
② 卒業課題選択者
卒業課題 4 単位，自由科目 26 単位
自由科目には，指定単位を超えて修得した選択科目・全学共通科目・他学部科目・言語自由科目・５大学間単位互換制度による他大学の科目及び留学認定科目を算入することができる。

ⅩⅡ　スポーツウエルネス学部

(1) スポーツウエルネス学科専門教育科目

1 必修科目

基礎演習(学びの技法を含む)	2	スポーツウエルネスワークショップ B	2
スポーツウエルネス学入門	2	スポーツウエルネスワークショップ C	2
スポーツマンシップ論	2	卒業研究指導演習	2
スポーツリーダーシップ論	2	卒業研究　ベイシックコース	2
スポーツウエルネスワークショップ A	2	卒業研究　アドバンストコース	8

2 選択科目

① 専門基礎科目

運動方法学演習１	2	ウエルネス科学総論	2
運動方法学演習２	2	スポーツ科学総論	2
運動方法学演習３	2	運動方法学	2
運動方法学演習４	2	生涯スポーツ論	2
運動方法学演習５	2	運動生理学	2
運動方法学演習６	2	生理学	2
運動方法学演習７	2		
運動方法学演習８	2	運動処方・療法	2
運動方法学演習９	2	解剖学１	2
運動方法学演習１０	2	解剖学２	2
運動方法学演習１１	2	アスレティックトレーナーの役割	2
運動方法学演習１２	2	ウエルネスと時間生物学	2
運動方法学演習１３	2	ウエルネス理解のための基礎生命科学	2
運動方法学演習１４	2	環境・サスティナビリティ論	2
運動方法学演習１５	2	ウエルネス理解のための細胞生物学	2
運動方法学演習１６	2	抗加齢医学とウエルネス	2
情報処理１	2	体育原理・体育史	2
情報処理２	2	スポーツ教育論	2
異文化スタディ	2	データサイエンス概論	2
キャリア形成論	2		

② 専門基幹科目

身体文化論	2	発育・発達・加齢論	2

スポーツウエルネス心理学（基礎）	2	ディショニング概論	
ストレングス･コンディショニング論(基礎)	2	測定と評価	2
運動・スポーツ栄養学（基礎）	2	スポーツ医学（外傷・障害）１	2
スポーツ社会学	2	スポーツ医学（外傷・障害）２	2
測定評価演習	2	コンディショニングの方法	2
アダプテッド・スポーツ論	2	アスレティックリハビリテーション実習１	2
ダイバーシティ・スポーツ論	2	スポーツと法	2
スポーツ政策	2	生物多様性と人間社会	2
健康政策	2	応用生命科学	2
スポーツコーチ学	2	学校保健・学校安全	2
コーチングスキル	2	スポーツデータ収集演習	2
スポーツ・健康産業論	2	インターンシップ	2
コンディショニングの実際	2	インターンシップ実習１	2
コンディショニング概論	2	インターンシップ実習２	2
アスレティックリハビリテーション&リコン	2		

③ 専門展開科目

レクリエーション援助論	2	運動処方・療法演習	2
レクリエーション援助演習	2	スポーツウエルネス心理学（応用）	2
メンタルマネジメント	2	運動・スポーツ栄養学（応用）	2
スポーツジャーナリズム	2	組織マネジメントサービス論	2
バイオメカニクス	2	スポーツ行政学	2
スポーツ倫理学	2	アスレティックリハビリテーション&リコン	
ウエルネスプロモーション論	2	ディショニング１	2
スポーツビジネス論	2	アスレティックリハビリテーション&リコン	
スポーツマネジメント論	2	ディショニング２	2
コミュニティスポーツ論	2	救急処置	2
障害者スポーツ論	2	ストレングス･コンディショニング論(応用)	2
小児保健・精神保健	2	スポーツ医学（内科）	2
公衆衛生学	2	アスレティックリハビリテーション実習２	2
ユニバーサルスポーツ援助技術演習	2	アスレティックリハビリテーション実習３	2
健康運動指導演習	2	アスレティックリハビリテーション実習４	2
障害者スポーツ実践論	2	運動障害と運動負荷試験	2
リハビリテーション論	2	スポーツ教材論	2
スポーツコーチング演習	2	学校運動部指導論	2
専門演習１	2	スポーツ人類学	2
専門演習２	2	スポーツ工学演習	2
スポーツコーチング特論	2	スポーツ哲学	2
動作分析法演習	2	スポーツデータ解析演習	2
ダイバーシティ・スポーツ演習	2	スポーツビジネスコミュニケーション演習	2
生活習慣病の科学	2		

④ 専門英語科目

Quantitative Research Methods in Sport and Exercise	2	Reading and Comprehension in Sport and Wellness (Advanced)	2
Reading and Comprehension in Sport and Wellness (Basic)	2	English Communication in Sport ２	2
English Communication in Sport １	2	English for Future Careers in Sport and Wellness	2
Introduction to Sport and Wellness Overseas	2	Contemporary Issues in Global Sports	2
International Society and Sport	2	Psychology of Well-Functioning and Performance	2
Comparative Sport Culture	2		
Motivational Psychology in Sports and Exercise	2		

⑤ 専門関連科目

心理学 1	2	生涯学習支援論 1	2
心理学 2	2	生涯学習支援論 2	2
生涯学習概論 1	2	社会教育経営論 1	2
生涯学習概論 2	2	社会教育経営論 2	2

3 随意科目

保健体育科教育法 1	2	保健体育科教育法演習 1	2
保健体育科教育法 2	2	保健体育科教育法演習 2	2

スポーツウエルネス学科の卒業研究ベイシックコースは、全学共通科目 28 単位以上、専門必修科目を 14 単位、卒業研究科目を 4 単位、専門基礎科目を 22 単位、専門基幹科目を 12 単位、専門展開科目を 22 単位、専門英語科目を 4 単位、自由科目を 20 単位以上、合計 126 単位以上を修得しなければならない。

卒業研究アドバンストコースは、全学共通科目 28 単位、専門必修科目を 14 単位、卒業研究科目を 10 単位、専門基礎科目を 22 単位、専門基幹科目を 10 単位、専門展開科目を 18 単位、専門英語科目を 4 単位、自由科目を 20 単位以上、合計 126 単位以上を修得しなければならない。

いずれのコースにおいても、卒業要件単位を超えて修得した全学共通科目、選択科目、及び専門関連科目、他学部科目、他学科科目、５大学間単位互換制度による他大学の科目を自由科目として卒業要件単位に算入することができる。

なお、専門基礎科目のうち、運動方法学演習１～運動方法学演習１６から、12 単位を選択必修とする。

ⅩⅢ　学芸員，司書，司書教諭及び社会教育主事

(1) 学芸員の資格取得に必要な博物館に関する科目

① 必修科目

生涯学習概論	2	博物館展示論	2
博物館概論	2	博物館教育論	2
博物館経営論	2	博物館情報･メディア論	2
博物館資料論	2	見学･学内実習	2
博物館資料保存論	2	博物館実習(館園実習)	1

② 選択必修科目

日本文化史 1	2	科学史	2
考古学 1	2	地学概説	2
美術史 1	2	物理学に該当する科目	
民俗学 1	2	化学に該当する科目	
博物館論演習	2	生物学に該当する科目	

本大学の全ての学部・大学院に在籍する学生で，学芸員の資格を取得しようとする者は，学芸員の資格取得に必要な博物館に関する科目から必修科目 10 科目 19 単位,選択必修科目２科目以上４単位以上，計 23 単位以上を修得しなければならない。

(2) 司書の資格取得に必要な図書館に関する科目

① 必修科目

生涯学習概論	2	児童サービス論	2
図書館概論	2	情報検索演習	2
図書館制度･経営論	2	情報サービス演習	2
図書館情報技術論	2	図書館情報資源概論	2
図書館サービス概論	2	情報資源組織論	2
情報サービス論	2	メタデータ演習	2

情報アーキテクチャ演習	2	図書館実習	2

② 選択必修科目

アーカイブス概論	2	図書・図書館史	2
図書館サービス特論	2	図書館施設論	2
図書館情報資源特論	2	図書館総合演習	2

③ 随意科目

学校経営と学校図書館	2

本大学の全ての学部・大学院に在籍する学生で，司書の資格を取得しようとする者は，司書の資格取得に必要な図書館に関する科目から必修科目 14 科目 28 単位，選択必修科目２科目以上４単位以上，計 32 単位以上を修得しなければならない。

(3) 司書教諭の資格取得に必要な学校図書館に関する科目

① 必修科目

学校経営と学校図書館	2	読書と豊かな人間性	2
図書館情報資源概論	2	情報メディアの活用	2
情報資源組織論	2	図書館概論	2
学習指導と学校図書館	2	情報サービス論	2

② 随意科目

図書館実習(司書教諭)	2	図書館サービス特論	2
図書・図書館史	2	図書館総合演習	2

本大学の全ての学部・大学院に在籍する学生で，司書教諭の資格を取得しようとする者は，司書教諭の資格取得に必要な学校図書館に関する科目から必修科目８科目 16 単位を修得し，かつ教育職員免許状を取得しなければならない。

(4) 社会教育主事の資格取得に必要な社会教育に関する科目

「池袋キャンパス開講科目」

① 必修科目

生涯学習概論 1	2	社会教育経営論 1	2
生涯学習概論 2	2	社会教育経営論 2	2
生涯学習支援論 1	2	社会教育実践演習	4
生涯学習支援論 2	2		

②選択必修科目

現代社会と社会教育	2	図書館概論	2
人権と社会教育	2	教育原論	2
家庭教育論	2	教育心理学	2
教育と福祉	2	教育社会学 1	2
博物館概論	2	教育社会学 2	2

「新座キャンパス開講科目」

① 必修科目

生涯学習概論 1	2	社会教育経営論 1	2
生涯学習概論 2	2	社会教育経営論 2	2
生涯学習支援論 1	2	社会教育実践演習	4
生涯学習支援論 2	2		

②選択必修科目

教育原論	2	ボランティア・NPO 論	2
教育心理学	2	現代コミュニティ論	2
発達心理学	2	コミュニティ開発論	2
ノーマライゼーション論	2	公共哲学	2
福祉文化論	2	コミュニティスポーツ論	2
障害者福祉論	2		

本大学の全ての学部・大学院に在籍する学生で，社会教育主事の資格を取得しようとする者は，

原則として所属するキャンパスで開設する社会教育主事の資格取得に必要な社会教育に関する科目から必修科目16単位,選択必修科目8単位以上,計24単位以上を修得しなければならない。

ⅩⅣ　日本語教育センター

1　日本語教育センター科目

日本語 J1－1	1	総合日本語6－8D6	1
日本語 J1－2	1	総合日本語6－8C7	1
日本語 J1－3	1	総合日本語6－8D7	1
日本語 J1－4	1	日本語 J7－1	1
日本語 J1－5	1	日本語 J7－2	1
日本語 J2－1	1	日本語 J7－3	1
日本語 J2－2	1	日本語 J7－4	1
日本語 J2－3	1	総合日本語4－6A	1
日本語 J2－4	1	総合日本語4－6B	1
日本語 J2－5	1	総合日本語4－6C	1
日本語 J3－1	1	総合日本語4－6D	1
日本語 J3－2	1	Business Japanese I1	1
日本語 J3－3	1	Business Japanese I2	1
日本語 J3－4	1	Business Japanese I3	1
日本語 J3－5	1	Business Japanese I4	1
日本語 J4－1	1	Business Japanese I5	1
日本語 J4－2	1	日本語 J0	3
日本語 J4－3	1	日本語 J1S	3
日本語 J4－4	1	日本語 J2S	3
日本語 J5－1	1	日本語 J3S	3
日本語 J5－2	1	日本語演習 1A	1
日本語 J5－3	1	日本語演習 1B	1
日本語 J5－4	1	日本語演習 2A	1
日本語 J6－1	1	日本語演習 2B	1
日本語 J6－2	1	日本語演習 3A	1
日本語 J6－3	1	日本語演習 3B	1
日本語 J6－4	1	Japanese Language and Japanese Culture A	1
総合日本語6－8A1	1	Japanese Language and Japanese Culture B	1
総合日本語6－8B1	1	Japanese Language and Japanese Society A	1
総合日本語6－8A2	1	Japanese Language and Japanese Society B	1
総合日本語6－8B2	1	漢字A	1
総合日本語6－8A3	1	漢字B	1
総合日本語6－8B3	1	Business Japanese A1	1
総合日本語6－8A4	1	Business Japanese A2	1
総合日本語6－8B4	1	Business Japanese A3	1
総合日本語6－8A5	1	Business Japanese A4	1
総合日本語6－8B5	1	Business Japanese A5	1
総合日本語6－8A6	1	法政リーディング＆ライティング	2
総合日本語6－8B6	1	日本語・日本文化社会講義 1A4	4
総合日本語6－8A7	1	日本語・日本文化社会講義 1B4	4
総合日本語6－8B7	1	日本語・日本文化社会講義 2A4	4
総合日本語6－8C1	1	日本語・日本文化社会講義 2B4	4
総合日本語6－8D1	1	日本語・日本文化社会講義 3A4	4
総合日本語6－8C2	1	日本語・日本文化社会講義 3B4	4
総合日本語6－8D2	1	日本語・日本文化社会講義 4A4	4
総合日本語6－8C3	1	日本語・日本文化社会講義 4B4	4
総合日本語6－8D3	1	オンライン日本語 1A1	1
総合日本語6－8C4	1	オンライン日本語 2A1	1
総合日本語6－8D4	1	日本語 J8－AA	2
総合日本語6－8C5	1	日本語 J8－AB	2
総合日本語6－8D5	1	日本語 J8－AC	2
総合日本語6－8C6	1	日本語 J8－BA	2

日本語 J8－BB	2	日本語 J8－EB	2
日本語 J8－C	2	日本語 J8－FA	2
日本語 J8－D	2	日本語 J8－FB	2
日本語 J8－EA	2	日本語 J8－G	2

表２の１（第 28 条関係）

入学検定料	35,000 円

別表２の２（第 28 条関係）
大学入学共通テスト利用入試及び外国人留学生入試（書類選考による募集制度），学校長推薦による募集制度（PEACE／NEXUS）及び英語トラック選抜制度（PEACE）の受験者

入学検定料	大学入学共通テスト利用入試	18,000 円
	外国人留学生入試(書類選考による募集制度	15,000 円
	学校長推薦による募集制度（PEACE、NEXUS）及び英語トラック選抜制度（PEACE）	10,000 円

別表２の３（第 41 条関係）

入学金	200,000 円

備　考　再入学の場合は，２分の１相当額を納めなければならない。

別表２の４(第 41 条関係)　（単位　円）

学部学科プログラム	学年	授業料	実験・実習費	合計
文学部	１年次	1,128,000	—	1,128,000
（教育学科初等教育専攻を除く）	２年次	1,128,000	—	1,128,000
	３年次	1,128,000	—	1,128,000
	４年次	1,128,000	—	1,128,000
	(*) ４年次	1,078,000	—	1,078,000
	(**) ４年次	1,078,000	—	1,078,000
	(***)４年次	1,028,000	—	1,028,000
文学部	１年次	1,128,000	—	1,128,000
教育学科初等教育専攻	２年次	1,128,000	—	1,128,000
	３年次	1,128,000	10,000	1,138,000
	４年次	1,128,000	—	1,128,000
	(*) ４年次	1,078,000	—	1,078,000

	(**) 4年次	1,078,000	—	1,078,000
文学部 グローバル ・リベラルアーツ ・プログラム	1年次 2年次 3年次 4年次 (*) 4年次	1,850,000 1,850,000 1,850,000 1,850,000 1,800,000	— — — — —	1,850,000 1,850,000 1,850,000 1,850,000 1,800,000
経済・法・観光学部 (国際ビジネス法学科グローバルコースを除く)	1年次 2年次 3年次 4年次 (*) 4年次 (**) 4年次 (***)4年次	1,121,000 1,121,000 1,121,000 1,121,000 1,071,000 1,071,000 1,021,000	— — — — — — —	1,121,000 1,121,000 1,121,000 1,121,000 1,071,000 1,071,000 1,021,000
法学部 (国際ビジネス法学科グローバルコース)	1年次 2年次	1,221,000 1,221,000	— —	1,221,000 1,221,000
社会学部	1年次 2年次 3年次 4年次 (*) 4年次 (**) 4年次 (***)4年次	1,121,000 1,121,000 1,121,000 1,121,000 1,071,000 1,071,000 1,021,000	15,000 15,000 15,000 15,000 15,000 15,000 15,000	1,136,000 1,136,000 1,136,000 1,136,000 1,086,000 1,086,000 1,036,000
理学部 数学科	1年次 2年次 3年次 4年次 (*) 4年次 (**)4年次	1,548,000 1,548,000 1,548,000 1,548,000 1,498,000 1,498,000	— — — — — —	1,548,000 1,548,000 1,548,000 1,548,000 1,498,000 1,498,000
理学部 物理学科	1年次 2年次 3年次 4年次 (*) 4年次 (**) 4年次	1,548,000 1,548,000 1,548,000 1,548,000 1,498,000 1,498,000	10,000 60,000 40,000 120,000 120,000 120,000	1,558,000 1,608,000 1,588,000 1,668,000 1,618,000 1,618,000

(単位　円)

学部学科プログラム	学年	授業料	実験・実習費	合計
理学部 化学科	1年次 2年次 3年次 4年次 (*) 4年次 (**) 4年次	1,548,000 1,548,000 1,548,000 1,548,000 1,498,000 1,498,000	40,000 80,000 — 80,000 80,000 80,000	1,588,000 1,628,000 1,548,000 1,628,000 1,578,000 1,578,000
理学部 生命理学科	1年次 2年次 3年次 4年次 (*) 4年次 (**) 4年次	1,548,000 1,548,000 1,548,000 1,548,000 1,498,000 1,498,000	70,000 40,000 80,000 80,000 80,000 —	1,618,000 1,588,000 1,628,000 1,628,000 1,578,000 1,498,000

コミュニティ福祉学部 福祉学科	1年次	1,128,000	3,000	1,131,000
	2年次	1,128,000	3,000	1,131,000
	3年次	1,128,000	—	1,128,000
	4年次	1,128,000	—	1,128,000
	(*) 4年次	1,078,000	—	1,078,000
	(**) 4年次	1,078,000	—	1,078,000
	(***) 4年次	1,028,000	—	1,028,000
コミュニティ福祉学部 ｺﾐｭﾆﾃｨ政策学科	1年次	1,128,000	3,000	1,131,000
	2年次	1,128,000	—	1,128,000
	3年次	1,128,000	—	1,128,000
	4年次	1,128,000	—	1,128,000
	(*)4年次	1,078,000	—	1,078,000
	(**)4年次	1,078,000	—	1,078,000
	(***)4年次	1,028,000	—	1,028,000
コミュニティ福祉学部 ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学科	2年次	1,128,000	15,000	1,143,000
	3年次	1,128,000	15,000	1,143,000
	4年次	1,128,000	15,000	1,143,000
	(*) 4年次	1,078,000	15,000	1,093,000
	(**) 4年次	1,078,000	15,000	1,093,000
経営学部	1年次	1,121,000	35,000	1,156,000
	2年次	1,121,000	15,000	1,136,000
	3年次	1,121,000	15,000	1,136,000
	4年次	1,121,000	15,000	1,136,000
	(*) 4年次	1,071,000	15,000	1,086,000
	(**) 4年次	1,071,000	15,000	1,086,000
現代心理学部 心理学科	1年次	1,165,000	15,000	1,180,000
	2年次	1,165,000	15,000	1,180,000
	3年次	1,165,000	15,000	1,180,000
	4年次	1,165,000	15,000	1,180,000
	(*) 4年次	1,115,000	15,000	1,130,000
	(**) 4年次	1,115,000	15,000	1,130,000

（単位　円）

学部学科プログラム	学年	授業料	実験・実習費	合計
現代心理学部 映像身体学科	1年次	1,190,000	15,000	1,205,000
	2年次	1,190,000	15,000	1,205,000
	3年次	1,190,000	15,000	1,205,000
	4年次	1,190,000	15,000	1,205,000
	(*) 4年次	1,140,000	15,000	1,155,000
	(**) 4年次	1,140,000	15,000	1,155,000
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部	1年次	1,128,000	10,000	1,138,000
	2年次	1,128,000	3,000	1,131,000
	3年次	1,128,000	3,000	1,131,000
	4年次	1,128,000	1,000	1,129,000
	(*) 4年次	1,078,000	1,000	1,079,000
	(**) 4年次	1,078,000	1,000	1,079,000

スポーツウエルネス学部	1年次	1,190,000	15,000	1,205,000

(*):2016～2019 年度入学者
(**):2015 年度入学者
(***):2012～2014 年度入学者

備　考

1　授業料は在籍料 120,000 円（半期 60,000 円）を含むものとし，休学の場合は在籍料のみ徴収する。

2　文学部教育学科初等教育専攻の者は実験・実習費 10,000 円を納めなければならない。

3　理学部において､履修要項の定めるところにより実験を履修しない者および在学留学中の者は実験・実習費は不要とする。同様に、物理学科、化学科、生命理学科のすべての年度入学者において、配当年次以外の年次に実験科目を履修する場合は、各実験科目に定められた金額を加えて徴収する。
理学部物理学科において、2015 年度以前入学者のうち 4 年次卒業研究として理論物理学を選択する者、2016 年度以降入学者のうち 4 年次卒業研究 1、2 として理論物理学を選択する者は、実験・実習費は不要とする。また、理学部物理学科において、3・4 年次配当の選択実験（物理学実験 2）を履修する者については 1 科目あたり 40,000 円を、2 年次必修科目の化学実験(物)･生物学実験(物)を 3 年次以降に履修する者については 1 科目あたり 20,000 円を、それぞれ徴収する。
理学部化学科において、2016 年度以降入学者のうち、3・4 年次に配当されている選択実験（研究実験 1，研究実験 2）を履修する者については 1 科目あたり 40,000 円を、物理学実験（化）を履修する者については 10,000 円を、生物学実験（化）を履修する者については 1 科目あたり 20,000 円を、それぞれ徴収する。
理学部生命理学科において、2016 年度以降入学者のうち、1 年次必修科目の物理学実験（生）を 2 年次以降に履修する者については 10,000 円を、化学実験（生）を 2 年次以降に履修する者については 20,000 円を履修年度ごとに徴収する。

4　コミュニティ福祉学部の「ソーシャルワーク実習指導１」若しくは「精神保健福祉援助実習指導１」を履修する者は，上記納入金に加えて実習登録費 3,000 円を，「ソーシャルワーク実習」を履修する者は，上記納入金に加えて実習費 62,000 円を，「精神保健福祉援助実習」を履修する者は，上記納入金に加えて実習費 50,000 円を納めなければならない。

5　NEXUS プログラム 4.5 年コースの 1 年次第 1 学期目の学費は，別表２の５に定める。

6　異文化コミュニケーション学部の海外留学研修を履修する者の授業料は，履修する年次の授業料を減免し，次の通りとする。(2022 年度以降入学者は大学間協定校へ留学する場合を除く)
2，3 年次　889,000 円
※新型コロナウイルス感染拡大に係る特例として，4 年次に海外留学研修を履修する者の授業料は，2020 年度入学者 889,000 円，2019 年度以前入学者 839,000 円とする。

別表２の５（第 41 条関係）
NEXUS プログラム 4.5 年コースの 1 年次第 1 学期目学費

（単位　円）

学部　学科	授業料
文学部	564,000
経済学部	560,500
社会学部	560,500
法学部	560,500
コミュニティ福祉学部	564,000
経営学部	560,500
現代心理学部 心理学科	582,500
現代心理学部 映像身体学科	595,000

スポーツウルネス学部	595,000

備　考
1　授業料は在籍料半期 60,000 円を含むものとし，休学の場合は在籍料のみ徴収する。
2　1年次第２学期目以降は，所属学部学科の授業料を適用する。
3　実験・実習費は、1年次第２学期目より，所属学部学科で定められた実験・実習費を徴収することとする。学部カリキュラムへの合流が１年次第２学期目より遅れる場合，学部カリキュラムに合流するまでの期間，実験・実習費は徴収しない。

別表３（第 47 条関係）

教育職員免許状取得に必要な教職に関する専門科目の受講料	35,000 円
学芸員の資格取得に必要な博物館に関する科目の受講料	35,000 円
司書の資格取得に必要な図書館に関する科目の受講料	35,000 円
司書教諭の資格取得に必要な学校図書館に関する科目の受講料	15,000 円
社会教育主事の資格取得に必要な社会教育に関する科目の受講料	30,000 円

備　考
1　社会教育主事の資格取得に必要な社会教育に関する科目の受講料は，次の学部・学科の学生に限り，20,000 円とする。
　文学部教育学科，観光学部，コミュニティ福祉学部，現代心理学部，スポーツウエルネス学部
2　大学院博士課程後期課程の大学院学生で，大学院博士前期課程（修士課程）在学時に別表３に掲げる各資格取得に係る受講登録をし，本学則中に定める当該資格取得に係る要件単位を修得しないまま空白の期間なくして後期課程に進学した者は，当該資格取得に係る受講料は不要とする。

別表４　　削除

別表５（第 49 条関係）

項　　目		邦　文	英　文
入学証明書	（1通につき）	300 円	400 円
退学証明書	（1通につき）	300 円	400 円
在学証明書	（1通につき）	300 円	400 円
卒業（見込）証明書	（1通につき）	300 円	400 円
成績証明書	（1通につき）	300 円	400 円
修了証明書	（1通につき）	300 円	
単位修得証明書	（1通につき）	300 円	
学力に関する証明書	（1通につき）	300 円	
教育職員免許状取得見込証明書	（1通につき）	300 円	
社会福祉士指定科目履修（見込）証明書	（1通につき）	300 円	
精神保健福祉士指定科目履修（見込）証明書	（1通につき）	300 円	
公認心理師試験卒業証明書・科目履修証明書	（1通につき）	300 円	
科目等履修証明書	（1通につき）	300 円	400 円
聴講証明書	（1通につき）	300 円	400 円
学士号証明書	（1通につき）	300 円	400 円
調査書	（1通につき）	300 円	
学生証再発行	（1通につき）	2,000 円	
通学定期乗車券発行控	（1通につき）	300 円	
科目等履修生証再発行	（1通につき）	2,000 円	
教育職員免許状大学一括申請手数料	（1通につき）	800 円	
学校図書館司書教諭講習申込手数料	（1通につき）	800 円	
学位記等再発行	（1通につき）	20,000 円	
その他の証明書	（1通につき）	300 円	400 円

別表６（第 51 条，第 52 条関係）

選考料	12,000 円

登　　録　　料	40,000 円（年額）
受　　講　　料（1 単位につき）	36,000 円

備　考

1　第 51 条第２項の規定による科目等履修生に限り選考料及び登録料は第２年目においてはこれを徴収しない。

2　本学の学部又は大学院研究科を卒業,修了したことがある者及び特別外国人学生として在籍したことがある者の選考料及び登録料については 2 分の 1 額とする。

3　他の教育研究機関との協定により科目等履修生を受け入れる場合，本表にかかわらず，当該協定に基づき選考料，登録料及び受講料を協定による金額とすることができる。

別表 7（第 1 条関係）

学部	教育研究上の目的
文学部	文学部は，世界の多様な文学・言語・文化・歴史・思想・教育に関するテキストや事象に触れる教育研究を通じて，幅広い人文的教養と深い人間理解に裏打ちされ，主体的な批評精神をもって社会に貢献できる人間を育てることを目的とする。
経済学部	経済学部は，教育研究を通じて，幅広い視野と柔軟な頭脳をもって，変動する経済社会に対応できる，自立的な思考能力をもった人材を社会に送り出すことを目的とする。
理学部	理学部は，教育と研究を通じて「科学の専門性を持った教養人」を育成することを目的とする。具体的には「科学の専門知識を有し，専門分野を中心とした領域での課題解決能力を発揮する人材」，「これらの知識や能力を大学院教育によって更に高度に発展させようという人材」，加えて，「自信と誇りを持って社会に出て，大学で学んだ科学的考え方を活用できる人材」の育成をする。
社会学部	建学の精神“PRO DEO ET PATRIA”（普遍的なる真理を探究し、私たちの世界、社会、隣人のために尽くす）にもとづき、社会学及び関連領域の学修をつうじて、社会の問題を発見し、分析し、提言できる人間を育てる。
法学部	法学部は，法学・政治学の教育研究を通じて，法曹・行政・企業・ジャーナリズム・政治・NPO など多様な分野でリーダーシップをとり，社会や組織の形成と発展を担う人材の育成を目的とする。
観光学部	観光学部は，観光関連分野に関する教育研究を通じて，広範囲で高度な学識を持ち，諸問題の解決を担う総合的な判断力と優れたリーダーシップを備えた有為な人材を育成することを目的とする。
コミュニティ福祉学部	コミュニティ福祉学部は，「いのちの尊厳のために(Vitae Dignitati)」という基本理念に立ち，教育研究を通じて，コミュニティを基盤とした福祉社会構築に貢献できる人材を養成することを目的とする。
経営学部	経営学部は，教育研究を通じて，価値観が多様化し急変する現代社会において，明確なビジョンと高潔さを有し，持続可能な社会の構築に向けて，経営学に関する専門知識を生かしつつリーダーシップを発揮する人材を育成することを目的とする。
現代心理学部	現代心理学部は「人間とは何か」という古くからの根本問題を，心，身体，映像に関する諸学の教育研究を通じて，サイエンス，フィロソフィ，アートが融合した，現

	代世界にふさわしい方法で探究することをその目的とする。
異文化コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学部は，変化を続ける世界の中で，複数の視点からものごとを考え，柔軟な思考力をもって実践的に問題と向き合うことによって，多様で「異なる」他者と共生し，持続可能な未来を創ることのできる人材を育成する。
スポーツウエルネス学部	「すべての人の生きる歓びのために」という基本理念に立ち、スポーツウエルネス学の教育研究活動を通じて、人間の可能性の追求と誰もが快適で活力に満ちたウエルネス社会の実現に寄与する人材を養成する。

別表８（第５条の２関係）

登録料	10,000円（年額）

（２）立教大学学則変更事項を記載した書類

◯変更の事由

2024 年４月から、異文化コミュニケーション学部の収容定員を増加するため。

◯変更点

①改正履歴

・改正履歴に「2024 年４月１日」を追加

②第３条（学部、学科等）

・表のうち、異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科を以下のとおり変更

→入学定員　210 名

→収容定員　840 名

・合計を以下のとおり変更

→入学定員　 4,862 名

→収容定員　19,448 名

③別表１（第 13 条－第 19 条関係）（授業科目等）

・「Ｘ　異文化コミュニケーション学部」の授業科目等を変更

（３）立教大学学則変更部分の新旧対照表

（新）	（旧）
施行　昭和 24 年４月１日	施行　昭和 24 年４月１日
（略）	（略）
2023 年４月１日	2023 年４月１日
2024 年４月１日	（新設）
第１章　総則	第１章　総則
（略）	（略）
（学部，学科等）	（学部，学科等）
第３条（略）	第３条（略）
＜表は P22 参照＞	＜表は P22 参照＞
附　則	附　則
（略）	（略）
附　則	附　則
本学則は，2023 年４月１日から施行する。	本学則は，2023 年４月１日から施行する。
附　則	
本学則は，2024 年４月１日から施行する。	（新設）
別表１（第 13 条－第 19 条関係）	別表１（第 13 条－第 19 条関係）
（略）	（略）
X　現代心理学部	X　現代心理学部
（略）	（略）
XI　異文化コミュニケーション学部	XI　異文化コミュニケーション学部
（1）異文化コミュニケーション学科一般専門教育科目	（1）異文化コミュニケーション学科一般専門教育科目
１　必修科目	１　必修科目
①　学部必修科目	①　学部必修科目
異文化コミュニケーション研究入門　2	言語・コミュニケーション研究入門　2
基礎演習A　2	基礎演習A　2
基礎演習B　2	基礎演習B　2
Cultural Exchange　2	Cultural Exchange　2
（削除）	グローバル研究入門　2
２　選択科目	２　選択科目
①　学びの精神	①　学びの精神
College Life Planning A　2	College Life Planning A　2
College Life Planning B　2	College Life Planning B　2
②　基盤科目	②　基盤科目

コミュニケーションセミナー1(ドイツ語)	2	コミュニケーションセミナー1B(ドイツ語)	2
コミュニケーションセミナー1(フランス語)	2	コミュニケーションセミナー1B(フランス語)	2
コミュニケーションセミナー1(スペイン語)	2	コミュニケーションセミナー1B(スペイン語)	2
コミュニケーションセミナー1(中国語)	2	コミュニケーションセミナー1B(中国語)	2
コミュニケーションセミナー1(朝鮮語)	2	コミュニケーションセミナー1B(朝鮮語)	2
コミュニケーションセミナー1(ロシア語)	2	コミュニケーションセミナー1B(ロシア語)	2
コミュニケーションセミナー2(ドイツ語)	2	コミュニケーションセミナー2D(ドイツ語)	2
コミュニケーションセミナー2(フランス語)	2	コミュニケーションセミナー2D(フランス語)	2
コミュニケーションセミナー2(スペイン語)	2	コミュニケーションセミナー2D(スペイン語)	2
コミュニケーションセミナー2(中国語)	2	コミュニケーションセミナー2D(中国語)	2
コミュニケーションセミナー2(朝鮮語)	2	コミュニケーションセミナー2D(朝鮮語)	2
コミュニケーションセミナー2(ロシア語)	2	コミュニケーションセミナー2D(ロシア語)	2
コミュニケーションセミナー3A-R(英語)	4	コミュニケーションセミナー3A-R(英語)	4
コミュニケーションセミナー3B-R(ドイツ語)	4	コミュニケーションセミナー3B-R(ドイツ語)	4
コミュニケーションセミナー3B-R(フランス語)	4	コミュニケーションセミナー3B-R(フランス語)	4
コミュニケーションセミナー3B-R(スペイン語)	4	コミュニケーションセミナー3B-R(スペイン語)	4
コミュニケーションセミナー3B-R(中国語)	4	コミュニケーションセミナー3B-R(中国語)	4
コミュニケーションセミナー3B-R(朝鮮語)	4	コミュニケーションセミナー3B-R(朝鮮語)	4
ドイツ語Lecture A	2	ドイツ語Lecture A	2
ドイツ語Lecture B	2	ドイツ語Lecture B	2
フランス語Lecture A	2	フランス語Lecture A	2
フランス語Lecture B	2	フランス語Lecture B	2
スペイン語Lecture A	2	スペイン語Lecture A	2
スペイン語Lecture B	2	スペイン語Lecture B	2
中国語Lecture A	2	中国語Lecture A	2
中国語Lecture B	2	中国語Lecture B	2
朝鮮語Lecture A	2	朝鮮語Lecture A	2
朝鮮語Lecture B	2	朝鮮語Lecture B	2
ビジネス日本語コミュニケーション演習	2	ビジネス日本語コミュニケーション演習	2
キャリア実践演習A	2	キャリア実践演習A	2
キャリア実践演習B	2	キャリア実践演習B	2
諸言語特別演習A	2	諸言語特別演習A	2
諸言語特別演習B	2	諸言語特別演習B	2
海外留学研修A	12	海外留学研修A	12
海外留学研修B	14	海外留学研修B	14
インターンシップ	2	インターンシップ	2
海外インターンシップ(CIC)A	2	海外インターンシップ(CIC)A	2
海外インターンシップ(CIC)B	2	海外インターンシップ(CIC)B	2
Seminar in English A	2	Seminar in English A	2
Seminar in English B	2	Seminar in English B	2
Seminar in English C	2	Seminar in English C	2
Seminar in English D	2	Seminar in English D	2
Seminar in English E	2	Seminar in English E	2
Seminar in English F	2	Seminar in English F	2
Seminar in English G	2	Seminar in English G	2
Seminar in English H	2	Seminar in English H	2
(削除)		Seminar in English I	2

(削除)		Seminar in English J	2
(削除)		Seminar in English K	2
(削除)		Seminar in English L	2
日本語コミュニケーションA	2	日本語コミュニケーションA	2
日本語コミュニケーションB	2	日本語コミュニケーションB	2
日本語コミュニケーションC	2	日本語コミュニケーションC	2
日本語コミュニケーションD	2	日本語コミュニケーションD	2
Japan Studies Program A	4	Japan Studies Program A	4
Japan Studies Program B	2	Japan Studies Program B	2
Japan Studies Program C	2	Japan Studies Program C	2
Japan Studies Program D	2	Japan Studies Program D	2
Japan Studies Program E	4	Japan Studies Program E	4
Japan Studies Program F	2	Japan Studies Program F	2
(削除)		Japan Studies Program G	2
(削除)		Japan Studies Program H	2
(削除)		Japan Studies Program I	2
(削除)		Japan Studies Program J	2
(削除)		Japan Studies Program K	2
(削除)		Japan Studies Program L	2
海外留学研修C1	12	海外留学研修C1	12
海外留学研修C2	12	海外留学研修C2	12
Study Abroad in Asia A	12	Study Abroad in Asia A	12
Study Abroad in Asia B	12	Study Abroad in Asia B	12
海外フィールドスタディA	2	海外フィールドスタディA	2
海外フィールドスタディB	2	海外フィールドスタディB	2
国内フィールドスタディA	2	国内フィールドスタディA	2
国内フィールドスタディB	2	国内フィールドスタディB	2
サービスラーニングA	2	サービスラーニングA	2
サービスラーニングB	2	サービスラーニングB	2
サービスラーニングC	2	サービスラーニングC	2
言語研究調査法	2	言語研究調査法	2
異文化トレーニング演習	2	異文化トレーニング演習	2
コミュニケーション研究調査法	2	コミュニケーション研究調査法	2
フィールドワーク	2	フィールドワーク	2
留学、学びのﾃﾞｻﾞｲﾝ、キャリア	2	(新設)	
③　基礎科目		③　基礎科目	
異文化コミュニケーション概論	2	異文化コミュニケーション概論	2
英語学概論	2	英語学概論	2
日本語学概論A	2	日本語学概論A	2
日本語学概論B	2	日本語学概論B	2
コンピュータ・リテラシー	2	コンピュータ・リテラシー	2
文化人類学概論	2	文化人類学概論	2
視覚芸術概論	2	視覚芸術概論	2
音楽学概論	2	音楽学概論	2
言語学概論	2	言語学概論	2
通訳翻訳学概論	2	通訳翻訳学概論	2
コミュニケーション研究概論	2	コミュニケーション研究概論	2

国際協力・開発学概論	2	国際協力・開発学概論	2
カルチュラル・スタディーズ概論	2	カルチュラル・スタディーズ概論	2
グローバル化とジェンダー	2	グローバル化とジェンダー	2
人間環境概論	2	人間環境概論	2
多文化共生概論	2	多文化共生概論	2
グローバル化と宗教	2	グローバル化と宗教	2
メディアコミュニケーション概論	2	メディアコミュニケーション概論	2
国際協力・紛争研究概論	2	国際協力・紛争研究概論	2
④　専門科目		④　専門科目	
対人コミュニケーション論	2	対人コミュニケーション論	2
集団コミュニケーション論	2	集団コミュニケーション論	2
グローバル社会とコミュニケーション	2	グローバル社会とコミュニケーション	2
非言語コミュニケーション論	2	非言語コミュニケーション論	2
説得コミュニケーション論	2	説得コミュニケーション論	2
バイリンガリズム研究	2	バイリンガリズム研究	2
社会言語学	2	社会言語学	2
認知言語学	2	認知言語学	2
語用論	2	語用論	2
通訳入門	2	通訳入門	2
文化記号論	2	文化記号論	2
エスニシティとナショナリズム	2	エスニシティとナショナリズム	2
英語圏文学論	2	英語圏文学論	2
間文化研究	2	間文化研究A	2
（削除）		間文化研究B	2
国際協力・開発学特論	2	国際協力・開発学特論	2
宗教と文化	2	宗教と文化	2
国際協力・紛争研究特論	2	国際協力・紛争研究特論	2
音楽学特論	2	音楽学特論	2
視覚芸術特論	2	視覚芸術特論	2
人と移動	2	人と移動	2
多文化共生特論	2	多文化共生特論	2
日本語学特論	2	日本語学特論	2
心理言語学	2	心理言語学	2
英語科教育研究	2	英語科教育研究	2
第1言語習得理論	2	第1言語習得理論	2
第2言語習得理論	2	第2言語習得理論	2
外国語教育評価論	2	外国語教育評価論	2
日本語教授法A	2	日本語教授法A	2
日本語教授法B	2	日本語教授法B	2
日本語教育実習	4	日本語教育実習	4
コミュニケーション文法	2	コミュニケーション文法	2
英語教育学	2	英語教育学	2
英語コミュニケーション教育学	2	英語コミュニケーション教育学	2
言語研究特論	2	言語研究特論	2
逐次通訳	2	逐次通訳	2
同時通訳入門	2	同時通訳入門	2
翻訳入門	2	翻訳入門	2

翻訳応用実践1	2	翻訳応用実践1	2
翻訳応用実践2	2	翻訳応用実践2	2
通訳翻訳実習	2	通訳翻訳実習	2
（削除）		通訳翻訳と多文化社会	2
（削除）		通訳翻訳の歴史	2
異文化コミュニケーション特論		異文化コミュニケーション特論A	2
（削除）		異文化コミュニケーション特論B	2
コミュニケーション・テクノロジーと社会	2	コミュニケーション・テクノロジーと社会	2
コミュニケーション特論	2	コミュニケーション特論	2
グローバル文化研究特論	2	グローバル文化研究特論	2
カルチュラル・スタディーズ特論	2	カルチュラル・スタディーズ特論	2
グローバル化と思想	2	グローバル化と思想	2
言語文化論	2	言語文化論	2
グローバル化と言語	2	グローバル化と言語	2
自然共生特論	2	自然共生特論	2
人間環境特論	2	人間環境特論	2
グローバル研究調査法	2	グローバル研究調査法	2
Teaching English to Speakers of Other Language: Basic Principles	2	Teaching English to Speakers of Other Language: Basic Principles	2
Communication and Citizenship	2	Communication and Citizenship	2
（削除）		Orientalism in Media	2
Transcultural Cinema	2	Transcultural Cinema	2
Contemporary Culture in Japan	2	Contemporary Culture in Japan	2
Religions and Society in Asia	2	Religions and Society in Asia	2
Japan in Asia	2	Japan in Asia	2
Ethnicity and Glabalization in Japan	2	Ethnicity and Glabalization in Japan	2
Multiculturalism in Japan	2	Multiculturalism in Japan	2
Language Policy and Multilingualism	2	Language Policy and Multilingualism	2
Special Topics in ICC	2	Special Topics in ICC A	2
（削除）		Special Topics in ICC B	2
（削除）		Special Topics in ICC C	2
Social Movements and Social Change	2	Social Movements and Social Change	2
Motivation in Language Learning	2	Motivation in Language Learning	2
Intercultural Communication in the Language Classroom	2	Intercultural Communication in the Language Classroom	2
Advanced Seminar in Intercultural Communication	4	Advanced Seminar in Intercultural Communication	4
Language and Identity	4	Language and Identity	4
International Organizations and Sustainability	4	International Organizations and Sustainability	4
Gender and Communication	4	Gender and Communication	4
Globalization and Media	4	Globalization and Media	4
通訳翻訳特論	2	（新設）	
子どもの貧困	2	（新設）	
国際協力とビジネス	2	（新設）	
⑤ 専門演習・卒業研究		⑤ 専門演習・卒業研究	
専門演習1	2	専門演習1	2
専門演習2	2	専門演習2	2

専門演習3	2
卒業研究	4
⑥卒業課題	
卒業課題A	2
卒業課題B	2

異文化コミュニケーション学科一般学生は，全学共通科目 24 単位，学びの精神 4 単位，専門教育科目については学部必修科目 8 単位，基盤科目 20 単位，基礎科目 12 単位，専門科目 26 単位，更に，選択により以下の科目を修得し，合計 124 単位以上を修得しなければならない。

① 卒業研究選択者

専門演習・卒業研究 10 単位，自由科目 20 単位

② 卒業課題選択者

卒業課題 4 単位，自由科目 26 単位

自由科目には，指定単位を超えて修得した選択科目・全学共通科目・他学部科目・言語自由科目・５大学間単位互換制度による他大学の科目及び留学認定科目を算入することができる。

(2) 異文化コミュニケーション学科 DLP 専門教育科目

1 必修科目

① 学部必修科目	
Academic Skills A	2
Academic Skills B	2
Overview of Intercultural Communication Studies	2
(削除)	
Cultural Exchange	2
② 専門演習・卒業研究・卒業課題	
Advanced Seminar 1	2
Advanced Seminar 2	2
Advanced Seminar 3	2
Senior Research and Thesis	4
Seminor Project A	2
Seminor Project B	2

2 選択科目

① 学びの精神	
College Life Planning A	2
College Life Planning B	2

専門演習3	2
卒業研究	4
⑥卒業課題	
卒業課題A	2
卒業課題B	2

異文化コミュニケーション学科一般学生は，全学共通科目 24 単位，学びの精神 4 単位，専門教育科目については学部必修科目 10 単位，基盤科目 22 単位，基礎科目 12 単位，専門科目 22 単位，更に，選択により以下の科目を修得し，合計 124 単位以上を修得しなければならない。

① 卒業研究選択者

専門演習・卒業研究 10 単位，自由科目 20 単位

② 卒業課題選択者

卒業課題 4 単位，自由科目 26 単位

自由科目には，指定単位を超えて修得した選択科目・全学共通科目・他学部科目・言語自由科目・５大学間単位互換制度による他大学の科目及び留学認定科目を算入することができる。

(2) 異文化コミュニケーション学科 DLP 専門教育科目

1 必修科目

① 学部必修科目	
Academic Skills A	2
Academic Skills B	2
Overview of Language and Communication Studies	2
Overview of Global Studies	2
Cultural Exchange	2
② 専門演習・卒業研究	
Advanced Seminar 1	2
Advanced Seminar 2	2
Advanced Seminar 3	2
Senior Research and Thesis	4
(新設)	
(新設)	

2 選択科目

① 学びの精神	
College Life Planning A	2
College Life Planning B	2

② 基盤科目		② 基盤科目	
Communication Seminar 1(German)	2	Communication Seminar 1B(German)	2
Communication Seminar 1(French)	2	Communication Seminar 1B(French)	2
Communication Seminar 1(Spanish)	2	Communication Seminar 1B(Spanish)	2
Communication Seminar 1(Chinese)	2	Communication Seminar 1B(Chinese)	2
Communication Seminar 1(Korean)	2	Communication Seminar 1B(Korean)	2
Communication Seminar 1(Russian)	2	Communication Seminar 1B (Russian)	2
Communication Seminar 2(German)	2	Communication Seminar 2D(German)	2
Communication Seminar 2(French)	2	Communication Seminar 2D(French)	2
Communication Seminar 2(Spanish)	2	Communication Seminar 2D(Spanish)	2
Communication Seminar 2(Chinese)	2	Communication Seminar 2D(Chinese)	2
Communication Seminar 2(Korean)	2	Communication Seminar 2D(Korean)	2
Communication Seminar 2 (Russian)	2	Communication Seminar 2D (Russian)	2
Communication Seminar 3A-R(English)	4	Communication Seminar 3A-R(English)	4
Communication Seminar 3B-R(German)	4	Communication Seminar 3B-R(German)	4
Communication Seminar 3B-R(French)	4	Communication Seminar 3B-R(French)	4
Communication Seminar 3B-R(Spanish)	4	Communication Seminar 3B-R(Spanish)	4
Communication Seminar 3B-R(Chinese)	4	Communication Seminar 3B-R(Chinese)	4
Communication Seminar 3B-R(Korean)	4	Communication Seminar 3B-R(Korean)	4
Seminar in English A	2	Seminar in English A	2
Seminar in English B	2	Seminar in English B	2
Seminar in English C	2	Seminar in English C	2
Seminar in English D	2	Seminar in English D	2
Seminar in English E	2	Seminar in English E	2
Seminar in English F	2	Seminar in English F	2
Seminar in English G	2	Seminar in English G	2
Seminar in English H	2	Seminar in English H	2
(削除)		Seminar in English I	2
(削除)		Seminar in English J	2
(削除)		Seminar in English K	2
(削除)		Seminar in English L	2
Lecture in German A	2	Lecture in German A	2
Lecture in German B	2	Lecture in German B	2
Lecture in French A	2	Lecture in French A	2
Lecture in French B	2	Lecture in French B	2
Lecture in Spanish A	2	Lecture in Spanish A	2
Lecture in Spanish B	2	Lecture in Spanish B	2
Lecture in Chinese A	2	Lecture in Chinese A	2
Lecture in Chinese B	2	Lecture in Chinese B	2
Lecture in Korean A	2	Lecture in Korean A	2
Lecture in Korean B	2	Lecture in Korean B	2
Overseas Study Program A	12	Overseas Study Program A	12
Overseas Study Program B	14	Overseas Study Program B	14
Communication Seminar(Intensive) A	2	Communication Seminar(Intensive) A	2
Communication Seminar(Intensive) B	2	Communication Seminar(Intensive) B	2
Overseas Internship(CIC)A	2	Overseas Internship(CIC)A	2
Overseas Internship(CIC)B	2	Overseas Internship(CIC)B	2

(削除)	2	Internship	2
Japan Studies Program A		(新設)	
Japan Studies Program E	4	Japan Studies Program E	4
Japan Studies Program F	2	Japan Studies Program F	2
(削除)		Japan Studies Program G	2
(削除)		Japan Studies Program H	2
(削除)		Japan Studies Program I	2
(削除)		Japan Studies Program J	2
(削除)		Japan Studies Program K	2
(削除)		Japan Studies Program L	2
Overseas Study Program C1	12	Overseas Study Program C1	12
Overseas Study Program C2	12	Overseas Study Program C2	12
Study Abroad in Asia A	12	Study Abroad in Asia A	12
Study Abroad in Asia B	12	Study Abroad in Asia B	12
Overseas Field Study A	2	Overseas Field Study A	2
Overseas Field Study B	2	Overseas Field Study B	2
Domestic Field Study A	2	Domestic Field Study A	2
Domestic Field Study B	2	Domestic Field Study B	2
Service Learning A	2	Service Learning A	2
Service Learning B	2	Service Learning B	2
Service Learning C	2	Service Learning C	2
Research Methods in Language Studies	2	Research Methods in Language Studies	2
Seminar in Intercultural Training	2	Seminar in Intercultural Training	2
Research Methods	2	Research Methods	2
in Communication Studies		in Communication Studies	
Fieldwork	2	Fieldwork	2
Study Abroad, Study Planning, and Career Development	2	(新設)	
Japanese Communication A	2	(新設)	
Japanese Communication B	2	(新設)	
Japanese Communication C	2	(新設)	
Japanese Communication D	2	(新設)	
Seminor in Japanese Language Business Communication	2	(新設)	
③ 基礎科目		③ 基礎科目	
Introduction to Linguistics	2	Introduction to Linguistics	2
Introduction to Translation and	2	Introduction to Translation and	2
Interpreting Studies		Interpreting Studies	
Introduction to Communication	2	Introduction to Communication	2
Introduction to Intercultural Communication	2	Introduction to Intercultural Communication	2
Introduction to Media Communication	2	Introduction to Media Communication	2
Introduction to Cultural Studies	2	Introduction to Cultural Studies	2
Introduction to International	2	Introduction to International	2
Development and Cooperation		Development and Cooperation	
Introduction to the Study of English	2	Introduction to the Study of English	2
Introduction to Cultural Anthropology	2	Introduction to Cultural Anthropology	2
Globalization and Gender	2	Globalization and Gender	2
④ 専門科目		④ 専門科目	

Psycholinguistics	2	Psycholinguistics	2
Sociolinguistics	2	Sociolinguistics	2
Congnitive Linguistics	2	Congnitive Linguistics	2
Pragmatics	2	Pragmatics	2
Theories of Second Language Acquisition	2	Theories of Second Language Acquisition	2
Bilingualism	2	Bilingualism	2
Measurement and Evaluation in Language Education	2	Measurement and Evaluation in Language Education	2
Teaching English to Speakers of Other Language: Basic Principles	2	Teaching English to Speakers of Other Language: Basic Principles	2
Introduction to Interpreting	2	Introduction to Interpreting	2
Consecutive Interpreting	2	Consecutive Interpreting	2
Introduction to Simultaneous Interpreting	2	Introduction to Simultaneous Interpreting	2
Introduction to Translation	2	Introduction to Translation	2
Intermediate Translation 1	2	Intermediate Translation 1	2
Intermediate Translation 2	2	Intermediate Translation 2	2
Translation and Interpreting Practicum	2	Translation and Interpreting Practicum	2
(削除)		Translation and Interpreting in Multicultural Society	2
(削除)		History of Translation and Interpreting	2
Communication and Citizenship	2	Communication and Citizenship	2
(削除)		Orientalism in Media	2
Transcultural Cinema	2	Transcultural Cinema	2
Contemporary Culture in Japan	2	Contemporary Culture in Japan	2
Religions and Society in Asia	2	Religions Society in Asia	2
Japan in Asia	2	Japan in Asia	2
Ethnicity and Globalization in Japan	2	Ethnicity and Globalization in Japan	2
Multiculturalism in Japan	2	Multiculturalism in Japan	2
Language Policy and Multilingualism	2	Language Policy and Multilingualism	2
Special Topics in ICC	2	Special Topics in ICC A	2
(削除)		Special Topics in ICC B	2
(削除)		Special Topics in ICC C	2
Social Movements and Social Change	2	Social Movements and Social Change	2
Motivation in Language Learning	2	Motivation in Language Learning	2
Intercultural Communication in the Language Classroom	2	Intercultural Communication in the Language Classroom	2
Advanced Seminar in Intercultural Communication	4	Advanced Seminar in Intercultural Communication	4
Language and Identity	4	Language and Identity	4
International Organizations and Sustainability	4	International Organizations and Sustainability	4
Gender and Communication	4	Gender and Communication	4
Globalization and Media	4	Globalization and Media	4
対人コミュニケーション論	2	対人コミュニケーション論	2
集団コミュニケーション論	2	集団コミュニケーション論	2
グローバル社会とコミュニケーション	2	グローバル社会とコミュニケーション	2
非言語コミュニケーション論	2	非言語コミュニケーション論	2
説得コミュニケーション論	2	説得コミュニケーション論	2

(削除)	
文化記号論	2
エスニシティとナショナリズム	2
英語圏文学論	2
間文化研究	2
(削除)	
国際協力・開発学特論	2
宗教と文化	2
国際協力・紛争研究特論	2
音楽学特論	2
視覚芸術特論	2
人と移動	2
多文化共生特論	2
日本語学特論	2
英語科教育研究	2
第1言語習得理論	2
日本語教授法A	2
日本語教授法B	2
日本語教育実習	4
コミュニケーション文法	2
英語教育学	2
英語コミュニケーション教育学	2
言語研究特論	2
異文化コミュニケーション特論	2
(削除)	
コミュニケーション・テクノロジーと社会	2
コミュニケーション特論	2
グローバル文化研究特論	2
カルチュラル・スタディーズ特論	2
グローバル化と思想	2
言語文化論	2
グローバル化と言語	2
自然共生特論	2
人間環境特論	2
グローバル研究調査法	2
Topics in Translation and Interepreting	2
子どもの貧困	2
国際協力とビジネス	2
⑤ 自由科目	
Basic Seminar A	2
Basic Seminar B	2
ベーシックセミナーA	2
ベーシックセミナーB	2
異文化コミュニケーション学科 DLP 学生は，全学共通科目 24 単位，学びの精神 4 単位，専門教	

通訳入門	2
文化記号論	2
エスニシティとナショナリズム	2
英語圏文学論	2
間文化研究A	2
間文化研究B	2
国際協力・開発学特論	2
宗教文化	2
国際協力・紛争研究特論	2
音楽学特論	2
視覚芸術特論	2
人と移動	2
多文化共生特論	2
日本語学特論	2
英語科教育研究	2
第1言語習得理論	2
日本語教授法A	2
日本語教授法B	2
日本語教育実習	4
コミュニケーション文法	2
英語教育学	2
英語コミュニケーション教育学	2
言語研究特論	2
異文化コミュニケーション特論A	2
異文化コミュニケーション特論B	2
コミュニケーション・テクノロジーと社会	2
コミュニケーション特論	2
グローバル文化研究特論	2
カルチュラル・スタディーズ特論	2
グローバル化と思想	2
言語文化論	2
グローバル化と言語	2
自然共生特論	2
人間環境特論	2
グローバル研究調査法	2
(新設)	
(新設)	
(新設)	
⑤ 自由科目	
Basic Seminar A	2
Basic Seminar B	2
ベーシックセミナーA	2
ベーシックセミナーB	2
異文化コミュニケーション学科 DLP 学生は，全学共通科目 24 単位，学びの精神 4 単位，専門教	

育科目については学部必修科目 8 単位，基盤科目 20 単位，基礎科目 12 単位，専門科目 26 単位，更に，選択により以下の科目を修得し，合計 124 単位以上を修得しなければならない。 ① 卒業研究選択者 専門演習・卒業研究 10 単位，自由科目 20 単位 ② 卒業課題選択者 卒業課題 4 単位，自由科目 26 単位 自由科目には，指定単位を超えて修得した選択科目・全学共通科目・他学部科目・言語自由科目・５大学間単位互換制度による他大学の科目及び留学認定科目を算入することができる。	育科目については学部必修科目 10 単位，専門演習・卒業研究 10 単位，基盤科目 22 単位，基礎科目 12 単位，専門科目 22 単位，自由科目 20 単位，合計 124 単位以上を修得しなければならない。 自由科目には，指定単位を超えて修得した選択科目・全学共通科目・他学部科目・言語自由科目・５大学間単位互換制度による他大学の科目及び留学認定科目を算入することができる。
（３）異文化コミュニケーション学科 Transitional Bilingual Program in CIC 専門教育科目	（３）異文化コミュニケーション学科 Transitional Bilingual Program in CIC 専門教育科目
1 必修科目	1 必修科目
① 学部必修科目	① 学部必修科目
Academic Skills A 2	Academic Skills A 2
Academic Skills B 2	Academic Skills B 2
Overview of Intercultural Communication Studies 2	Overview of Language and Communication Studies 2
(削除)	Overview of Global Studies 2
Cultural Exchange 2	Cultural Exchange 2
2 選択科目	2 選択科目
① 学びの精神	① 学びの精神
College Life Planning A 2	College Life Planning A 2
College Life Planning B 2	College Life Planning B 2
② 基盤科目	② 基盤科目
コミュニケーションセミナー1(ドイツ語) 2	コミュニケーションセミナー1B(ドイツ語) 2
コミュニケーションセミナー1(フランス語) 2	コミュニケーションセミナー1B(フランス語) 2
コミュニケーションセミナー1(スペイン語) 2	コミュニケーションセミナー1B(スペイン語) 2
コミュニケーションセミナー1(中国語) 2	コミュニケーションセミナー1B(中国語) 2
コミュニケーションセミナー1(朝鮮語) 2	コミュニケーションセミナー1B(朝鮮語) 2
コミュニケーションセミナー1(ロシア語) 2	コミュニケーションセミナー1B(ロシア語) 2
コミュニケーションセミナー2(ドイツ語) 2	コミュニケーションセミナー2D(ドイツ語) 2
コミュニケーションセミナー2(フランス語) 2	コミュニケーションセミナー2D(フランス語) 2
コミュニケーションセミナー2(スペイン語) 2	コミュニケーションセミナー2D(スペイン語) 2
コミュニケーションセミナー2(中国語) 2	コミュニケーションセミナー2D(中国語) 2
コミュニケーションセミナー2(朝鮮語) 2	コミュニケーションセミナー2D(朝鮮語) 2
コミュニケーションセミナー2(ロシア語) 2	コミュニケーションセミナー2D(ロシア語) 2

コミュニケーションセミナー3A-R(英語)	4	コミュニケーションセミナー3A-R(英語)	4
コミュニケーションセミナー3B-R(ドイツ語)	4	コミュニケーションセミナー3B-R(ドイツ語)	4
コミュニケーションセミナー3B-R(フランス語)	4	コミュニケーションセミナー3B-R(フランス語)	4
コミュニケーションセミナー3B-R(スペイン語)	4	コミュニケーションセミナー3B-R(スペイン語)	4
コミュニケーションセミナー3B-R(中国語)	4	コミュニケーションセミナー3B-R(中国語)	4
コミュニケーションセミナー3B-R(朝鮮語)	4	コミュニケーションセミナー3B-R(朝鮮語)	4
ドイツ語Lecture A	2	ドイツ語Lecture A	2
ドイツ語Lecture B	2	ドイツ語Lecture B	2
フランス語Lecture A	2	フランス語Lecture A	2
フランス語Lecture B	2	フランス語Lecture B	2
スペイン語Lecture A	2	スペイン語Lecture A	2
スペイン語Lecture B	2	スペイン語Lecture B	2
中国語Lecture A	2	中国語Lecture A	2
中国語Lecture B	2	中国語Lecture B	2
朝鮮語Lecture A	2	朝鮮語Lecture A	2
朝鮮語Lecture B	2	朝鮮語Lecture B	2
ビジネス日本語コミュニケーション演習	2	ビジネス日本語コミュニケーション演習	2
キャリア実践演習A	2	キャリア実践演習A	2
キャリア実践演習B	2	キャリア実践演習B	2
諸言語特別演習A	2	諸言語特別演習A	2
諸言語特別演習B	2	諸言語特別演習B	2
海外留学研修A	12	海外留学研修A	12
海外留学研修B	14	海外留学研修B	14
インターンシップ	2	インターンシップ	2
海外インターンシップ(CIC)A	2	海外インターンシップ(CIC)A	2
海外インターンシップ(CIC)B	2	海外インターンシップ(CIC)B	2
Seminar in English A	2	Seminar in English A	2
Seminar in English B	2	Seminar in English B	2
Seminar in English C	2	Seminar in English C	2
Seminar in English D	2	Seminar in English D	2
Seminar in English E	2	Seminar in English E	2
Seminar in English F	2	Seminar in English F	2
Seminar in English G	2	Seminar in English G	2
Seminar in English H	2	Seminar in English H	2
(削除)		Seminar in English I	2
(削除)		Seminar in English J	2
(削除)		Seminar in English K	2
(削除)		Seminar in English L	2
日本語コミュニケーションA	2	日本語コミュニケーションA	2
日本語コミュニケーションB	2	日本語コミュニケーションB	2
日本語コミュニケーションC	2	日本語コミュニケーションC	2
日本語コミュニケーションD	2	日本語コミュニケーションD	2
Japan Studies Program A	4	Japan Studies Program A	4
Japan Studies Program B	2	Japan Studies Program B	2
Japan Studies Program C	2	Japan Studies Program C	2
Japan Studies Program D	2	Japan Studies Program D	2
Japan Studies Program E	4	Japan Studies Program E	4

Japan Studies Program F	2	Japan Studies Program F	2
(削除)		Japan Studies Program G	2
(削除)		Japan Studies Program H	2
(削除)		Japan Studies Program I	2
(削除)		Japan Studies Program J	2
(削除)		Japan Studies Program K	2
(削除)		Japan Studies Program L	2
海外留学研修C1	12	海外留学研修C1	12
海外留学研修C2	12	海外留学研修C2	12
Study Abroad in Asia A	12	Study Abroad in Asia A	12
Study Abroad in Asia B	12	Study Abroad in Asia B	12
海外フィールドスタディA	2	海外フィールドスタディA	2
海外フィールドスタディB	2	海外フィールドスタディB	2
国内フィールドスタディA	2	国内フィールドスタディA	2
国内フィールドスタディB	2	国内フィールドスタディB	2
サービスラーニングA	2	サービスラーニングA	2
サービスラーニングB	2	サービスラーニングB	2
サービスラーニングC	2	サービスラーニングC	2
言語研究調査法	2	言語研究調査法	2
異文化トレーニング演習	2	異文化トレーニング演習	2
コミュニケーション研究調査法	2	コミュニケーション研究調査法	2
フィールドワーク	2	フィールドワーク	2
留学、学びのデザイン、キャリア	2	(新設)	
③　基礎科目		③　基礎科目	
Introduction to Linguistics	2	Introduction to Linguistics	2
Introduction to Translation and Interpreting Studies	2	Introduction to Translation and Interpreting Studies	2
Introduction to Communication	2	Introduction to Communication	2
Introduction to Intercultural Communication	2	Introduction to Intercultural Communication	2
Introduction to Media Communication	2	Introduction to Media Communication	2
Introduction to Cultural Studies	2	Introduction to Cultural Studies	2
Introduction to International Development and Cooperation	2	Introduction to International Development and Cooperation	2
Introduction to the Study of English	2	Introduction to the Study of English	2
Introduction to Cultural Anthropology	2	Introduction to Cultural Anthropology	2
Globalization and Gender	2	Globalization and Gender	2
日本語学概論A	2	日本語学概論A	2
日本語学概論B	2	日本語学概論B	2
国際協力・紛争研究概論	2	国際協力・紛争研究概論	2
人間環境概論	2	人間環境概論	2
多文化共生概論	2	多文化共生概論	2
グローバル化と宗教	2	グローバル化と宗教	2
視覚芸術概論	2	視覚芸術概論	2
音楽学概論	2	音楽学概論	2
コンピュータ・リテラシー	2	コンピュータ・リテラシー	2
④　専門科目		④　専門科目	

対人コミュニケーション論	2	対人コミュニケーション論	2
集団コミュニケーション論	2	集団コミュニケーション論	2
グローバル社会とコミュニケーション	2	グローバル社会とコミュニケーション	2
非言語コミュニケーション論	2	非言語コミュニケーション論	2
説得コミュニケーション論	2	説得コミュニケーション論	2
バイリンガリズム研究	2	バイリンガリズム研究	2
社会言語学	2	社会言語学	2
認知言語学	2	認知言語学	2
語用論	2	語用論	2
通訳入門	2	通訳入門	2
文化記号論	2	文化記号論	2
エスニシティとナショナリズム	2	エスニシティとナショナリズム	2
英語圏文学論	2	英語圏文学論	2
間文化研究	2	間文化研究A	2
(削除)		間文化研究B	2
国際協力・開発学特論	2	国際協力・開発学特論	2
宗教と文化	2	宗教と文化	2
国際協力・紛争研究特論	2	国際協力・紛争研究特論	2
音楽学特論	2	音楽学特論	2
視覚芸術特論	2	視覚芸術特論	2
人と移動	2	人と移動	2
多文化共生特論	2	多文化共生特論	2
日本語学特論	2	日本語学特論	2
心理言語学	2	心理言語学	2
英語科教育研究	2	英語科教育研究	2
第1言語習得理論	2	第1言語習得理論	2
第2言語習得理論	2	第2言語習得理論	2
外国語教育評価論	2	外国語教育評価論	2
日本語教授法A	2	日本語教授法A	2
日本語教授法B	2	日本語教授法B	2
日本語教育実習	4	日本語教育実習	4
コミュニケーション文法	2	コミュニケーション文法	2
英語教育学	2	英語教育学	2
英語コミュニケーション教育学	2	英語コミュニケーション教育学	2
言語研究特論	2	言語研究特論	2
逐次通訳	2	逐次通訳	2
同時通訳入門	2	同時通訳入門	2
翻訳入門	2	翻訳入門	2
翻訳応用実践1	2	翻訳応用実践1	2
翻訳応用実践2	2	翻訳応用実践2	2
通訳翻訳実習	2	通訳翻訳実習	2
(削除)		通訳翻訳と多文化社会	2
(削除)		通訳翻訳の歴史	2
異文化コミュニケーション特論	2	異文化コミュニケーション特論A	2
(削除)		異文化コミュニケーション特論B	2
コミュニケーション・テクノロジーと社会	2	コミュニケーション・テクノロジーと社会	2
コミュニケーション特論	2	コミュニケーション特論	2

グローバル文化研究特論	2	グローバル文化研究特論	2
カルチュラル・スタディーズ特論	2	カルチュラル・スタディーズ特論	2
グローバル化と思想	2	グローバル化と思想	2
言語文化論	2	言語文化論	2
グローバル化と言語	2	グローバル化と言語	2
自然共生特論	2	自然共生特論	2
人間環境特論	2	人間環境特論	2
グローバル研究調査法	2	グローバル研究調査法	2
Teaching English to Speakers of Other Language: Basic Principles	2	Teaching English to Speakers of Other Language: Basic Principles	2
Communication and Citizenship	2	Communication and Citizenship	2
(削除)		Orientalism in Media	2
Transcultural Cinema	2	Transcultural Cinema	2
Contemporary Culture in Japan	2	Contemporary Culture in Japan	2
Religion and Society in Asia	2	Religion and Society in Asia	2
Japan in Asia	2	Japan in Asia	2
Ethnicity and Globalization in Japan	2	Ethnicity and Globalization in Japan	2
Multiculturalism in Japan	2	Multiculturalism in Japan	2
Language Policy and Multilingualism	2	Language Policy and Multilingualism	2
Special Topics in ICC	2	Special Topics in ICC A	2
(削除)		Special Topics in ICC B	2
(削除)		Special Topics in ICC C	2
Social Movements and Social Change	2	Social Movements and Social Change	2
Motivation in Language Learning	2	Motivation in Language Learning	2
Intercultural Communication in the Language Classroom	2	Intercultural Communication in the Language Classroom	2
Advanced Seminar in Intercultural Communication	4	Advanced Seminar in Intercultural Communication	4
Language and Identity	4	Language and Identity	4
International Organizations and Sustainability	4	International Organizations and Sustainability	4
Gender and Communication	4	Gender and Communication	4
Globalization and Media	4	Globalization and Media	4
通訳翻訳特論	2	(新設)	
子どもの貧困	2	(新設)	
国際協力とビジネス	2	(新設)	
⑤ 専門演習・卒業研究		⑤ 専門演習・卒業研究	
専門演習1	2	専門演習1	2
専門演習2	2	専門演習2	2
専門演習3	2	専門演習3	2
卒業研究	4	卒業研究	4
⑥ 卒業課題		⑥ 卒業課題	
卒業課題 A	2	卒業課題 A	2
卒業課題 B	2	卒業課題 B	2
異文化コミュニケーション学科 Transitional		異文化コミュニケーション学科 Transitional	

Bilingual Program in CIC に属する学生は，全学共通科目 24 単位，学びの精神 4 単位，専門教育科目については学部必修科目 8 単位，基盤科目 20 単位，基礎科目 12 単位，専門科目 26 単位，更に，選択により以下の科目を修得し，合計 124 単位以上を修得しなければならない。 ① 卒業研究選択者 専門演習・卒業研究 10 単位，自由科目 20 単位 ② 卒業課題選択者 卒業課題 4 単位，自由科目 26 単位 自由科目には，指定単位を超えて修得した選択科目・全学共通科目・他学部科目・言語自由科目・５大学間単位互換制度による他大学の科目及び留学認定科目を算入することができる。	Bilingual Program in CIC に属する学生は，全学共通科目 24 単位，学びの精神 4 単位，専門教育科目については学部必修科目 10 単位，基盤科目 22 単位，基礎科目 12 単位，専門科目 22 単位，更に，選択により以下の科目を修得し，合計 124 単位以上を修得しなければならない。 ① 卒業研究選択者 専門演習・卒業研究 10 単位，自由科目 20 単位 ② 卒業課題選択者 卒業課題 4 単位，自由科目 26 単位 自由科目には，指定単位を超えて修得した選択科目・全学共通科目・他学部科目・言語自由科目・５大学間単位互換制度による他大学の科目及び留学認定科目を算入することができる。
（4）異文化コミュニケーション学科 PEACE CIC 専門教育科目 １ 必修科目 ① 学びの精神 College Life Planning A 2 College Life Planning B 2 ② 学部必修科目 Academic Skills A 2 Academic Skills B 2 Overview of Language and Communication Studies 2 Overview of Global Studies 2 Cultural Exchange 2 ２ 選択科目 ① PEACE 選択科目 Humanities Study1 2 Humanities Study2 2 Humanities Study3 2 Humanities Study4 2 Humanities Study5 2 Humanities Study6 2 Humanities Lecture1 2 Humanities Lecture2 2 Japanese Economy1 2 Japanese Economy2 2 Japanese Economic History1 2	（4）異文化コミュニケーション学科 PEACE CIC 専門教育科目 １ 必修科目 ① 学びの精神 College Life Planning A 2 College Life Planning B 2 ② 学部必修科目 Academic Skills A 2 Academic Skills B 2 Overview of Language and Communication Studies 2 Overview of Global Studies 2 Cultural Exchange 2 ２ 選択科目 ① PEACE 選択科目 Humanities Study1 2 Humanities Study2 2 Humanities Study3 2 Humanities Study4 2 Humanities Study5 2 Humanities Study6 2 Humanities Lecture1 2 Humanities Lecture2 2 Japanese Economy1 2 Japanese Economy2 2 Japanese Economic History1 2

Japanese Economic History2	2	Japanese Economic History2	2
Accounting (Introductory) 1	2	Accounting (Introductory) 1	2
Accounting (Introductory) 2	2	Accounting (Introductory) 2	2
Finance (Introductory) 1	2	Finance (Introductory) 1	2
Finance (Introductory) 2	2	Finance (Introductory) 2	2
Sociological Studies A	2	Sociological Studies A	2
Sociological Studies B	2	Sociological Studies B	2
Sociological Studies C	2	Sociological Studies C	2
Sociological Studies D	2	Sociological Studies D	2
Sociology of Gender A	2	Sociology of Gender A	2
Cultural Anthropology A	2	Cultural Anthropology A	2
Torts	2	Torts	2
Comparative Family Law	2	Comparative Family Law	2
Introduction to Legal Studies A	2	Introduction to Legal Studies A	2
Introduction to Legal Studies B	2	Introduction to Legal Studies B	2
Contract A	2	Contract A	2
Contract B	2	Contract B	2
Comparative Constitutional Law	2	Comparative Constitutional Law	2
Criminal Procedure	2	Criminal Procedure	2
Financial Statement Analysis	2	Financial Statement Analysis	2
Tourism Study 1 (Business)	2	Tourism Study 1 (Business)	2
Tourism Study 2 (Society)	2	Tourism Study 2 (Society)	2
Tourism Study 3 (Destination)	2	Tourism Study 3 (Destination)	2
Tourism Study 4 (Culture)	2	Tourism Study 4 (Culture)	2
Global Society and Local Communities	2	Global Society and Local Communities	2
Specialized Psychology Lecture	2	Specialized Psychology Lecture	2
Cultural Psychology	2	Cultural Psychology	2
② 基盤科目		② 基盤科目	
Communication Seminar 1 (German)	2	Communication Seminar 1B (German)	2
Communication Seminar 1 (French)	2	Communication Seminar 1B (French)	2
Communication Seminar 1 (Spanish)	2	Communication Seminar 1B (Spanish)	2
Communication Seminar 1 (Chinese)	2	Communication Seminar 1B (Chinese)	2
Communication Seminar 1 (Korean)	2	Communication Seminar 1B (Korean)	2
Communication Seminar 1 (Russian)	2	Communication Seminar 1B (Russian)	2
Communication Seminar 2 (German)	2	Communication Seminar 2D (German)	2
Communication Seminar 2 (French)	2	Communication Seminar 2D (French)	2
Communication Seminar 2 (Spanish)	2	Communication Seminar 2D (Spanish)	2
Communication Seminar 2 (Chinese)	2	Communication Seminar 2D (Chinese)	2
Communication Seminar 2 (Korean)	2	Communication Seminar 2D (Korean)	2
Communication Seminar 2 (Russian)	2	Communication Seminar 2D (Russian)	2

Communication Seminar 3B-R (German)	4	Communication Seminar 3B-R (German)	4
Communication Seminar 3B-R (French)	4	Communication Seminar 3B-R (French)	4
Communication Seminar 3B-R (Spanish)	4	Communication Seminar 3B-R (Spanish)	4
Communication Seminar 3B-R (Chinese)	4	Communication Seminar 3B-R (Chinese)	4
Communication Seminar 3B-R (Korean)	4	Communication Seminar 3B-R (Korean)	4
Lecture in German A	2	Lecture in German A	2
Lecture in German B	2	Lecture in German B	2
Lecture in French A	2	Lecture in French A	2
Lecture in French B	2	Lecture in French B	2
Lecture in Spanish A	2	Lecture in Spanish A	2
Lecture in Spanish B	2	Lecture in Spanish B	2
Lecture in Chinese A	2	Lecture in Chinese A	2
Lecture in Chinese B	2	Lecture in Chinese B	2
Lecture in Korean A	2	Lecture in Korean A	2
Lecture in Korean B	2	Lecture in Korean B	2
Service Learning C	2	Service Learning C	2
Overseas Field Studies A	2	Overseas Field Studies A	2
Overseas Field Studies B	2	Overseas Field Studies B	2
Domestic Field Studies A	2	Domestic Field Studies A	2
Domestic Field Studies B	2	Domestic Field Studies B	2
Overseas Internship (CIC)A	4	Overseas Internship (CIC)A	4
Overseas Internship (CIC)B	4	Overseas Internship (CIC)B	4
Japan Studies Program A	2	Japan Studies Program A	2
Japan Studies Program E	2	Japan Studies Program E	2
Japan Studies Program F	2	Japan Studies Program F	2
(削除)		Japan Studies Program J	2
(削除)		Japan Studies Program K	2
(削除)		Japan Studies Program L	2
Japanese Communication A	2	Japanese Communication A	2
Japanese Communication B	2	Japanese Communication B	2
Japanese Communication C	2	Japanese Communication C	2
Japanese Communication D	2	Japanese Communication D	2
Seminar in Japanese Language Business Communication	2	Seminar in Japanese Language Business Communication	2
Career Skills Development A	2	Career Skills Development A	2
Career Skills Development B	2	Career Skills Development B	2
Study Abroad, Study Planning, and CareerDevelopment	2	(新設)	
③ 基礎科目		③ 基礎科目	
Introduction to Linguistics	2	Introduction to Linguistics	2

Introduction to the Study of English	2	Introduction to the Study of English	2
Introduction to Translation and Interpreting Studies	2	Introduction to Translation and Interpreting Studies	2
Introduction to Communication	2	Introduction to Communication	2
Introduction to Intercultural Communication	2	Introduction to Intercultural Communication	2
Introduction to Media Communication	2	Introduction to Media Communication	2
Introduction to Cultural Studies	2	Introduction to Cultural Studies	2
Introduction to International Development and Cooperation	2	Introduction to International Development and Cooperation	2
Introduction to Cultural Anthropology	2	Introduction to Cultural Anthropology	2
Globalization and Gender	2	Globalization and Gender	2
④　専門科目		④　専門科目	
Psycholinguistics	2	Psycholinguistics	2
Sociolinguistics	2	Sociolinguistics	2
Cognitive Linguistics	2	Cognitive Linguistics	2
Pragmatics	2	Pragmatics	2
Theories of Second Language Acquisition	2	Theories of Second Language Acquisition	2
Bilingualism	2	Bilingualism	2
Measurement and Evaluation in Language Education	2	Measurement and Evaluation in Language Education	2
Teaching English to Speakers of Other Language: Basic Principles	2	Teaching English to Speakers of Other Language: Basic Principles	2
Motivation in Language Learning	2	Motivation in Language Learning	2
Intercultural Communication in the Language Classroom	2	Intercultural Communication in the Language Classroom	2
Introduction to Interpreting	2	Introduction to Interpreting	2
Consecutive Interpreting	2	Consecutive Interpreting	2
Introduction to Simultaneous Interpreting	2	Introduction to Simultaneous Interpreting	2
Introduction to Translation	2	Introduction to Translation	2
Intermediate Translation 1	2	Intermediate Translation 1	2
Intermediate Translation 2	2	Intermediate Translation 2	2
Translation and Interpreting Practicum	2	Translation and Interpreting Practicum	2
(削除)		Translation and Interpreting in Multicultural Society	2
(削除)		History of Translation and Interpreting	2
Communication and Citizenship	2	Communication and Citizenship	2
(削除)		Orientalism in Media	2
Transcultural Cinema	2	Transcultural Cinema	2
Contemporary Culture in Japan	2	Contemporary Culture in Japan	2
Religion and Society in Asia	2	Religion and Society in Asia	2

Japan in Asia	2	Japan in Asia	2
Ethnicity and Globalization in Japan	2	Ethnicity and Globalization in Japan	2
Multiculturalism in Japan	2	Multiculturalism in Japan	2
Language Policy and Multilingualism	2	Language Policy and Multilingualism	2
Social Movements and Social Change	2	Social Movements and Social Change	2
Advanced Seminar in Intercultural Communication	4	Advanced Seminar in Intercultural Communication	4
Language and Identity	4	Language and Identity	4
International Organizations and Sustainability	4	International Organizations and Sustainability	4
Gender and Communication	4	Gender and Communication	4
Globalization and Media	4	Globalization and Media	4
Special Topics in ICC	2	Special Topics in ICC A	2
(削除)		Special Topics in ICC B	2
(削除)		Special Topics in ICC C	2
文化記号論	2	文化記号論	2
第 1 言語習得理論	2	第 1 言語習得理論	2
英語教育学	2	英語教育学	2
英語コミュニケーション教育学	2	英語コミュニケーション教育学	2
英語科教育研究	2	英語科教育研究	2
日本語学特論	2	日本語学特論	2
日本語教授法 A	2	日本語教授法 A	2
日本語教授法 B	2	日本語教授法 B	2
日本語教育実習	4	日本語教育実習	4
コミュニケーション文法	2	コミュニケーション文法	2
言語研究特論	2	言語研究特論	2
非言語コミュニケーション論	2	非言語コミュニケーション論	2
異文化コミュニケーション特論	2	異文化コミュニケーション特論 A	2
(削除)		異文化コミュニケーション特論 B	2
対人コミュニケーション論	2	対人コミュニケーション論	2
集団コミュニケーション論	2	集団コミュニケーション論	2
説得コミュニケーション論	2	説得コミュニケーション論	2
グローバル社会とコミュニケーション	2	グローバル社会とコミュニケーション	2
コミュニケーション・テクノロジーと社会	2	コミュニケーション・テクノロジーと社会	2
コミュニケーション特論	2	コミュニケーション特論	2
グローバル文化研究特論	2	グローバル文化研究特論	2
カルチュラル・スタディーズ特論	2	カルチュラル・スタディーズ特論	2
グローバル化と思想	2	グローバル化と思想	2
宗教と文化	2	宗教と文化	2
エスニシティとナショナリズム	2	エスニシティとナショナリズム	2
人と移動	2	人と移動	2

言語文化論	2
グローバル化と言語	2
多文化共生特論	2
国際協力･開発学特論	2
国際協力･紛争研究特論	2
自然共生特論	2
人間環境特論	2
間文化研究	2
(削除)	
音楽学特論	2
視覚芸術特論	2
英語圏文学論	2
グローバル研究調査法	2
Topics in Translation and Interpreting	2
子どもの貧困	2
国際協力とビジネス	2
⑤ 専門演習・卒業研究	
Advanced Seminar 1	2
Advanced Seminar 2	2
Advanced Seminar 3	2
Senior Research and Thesis	4
⑥ 卒業課題	
Senior Project A	2
Senior Project B	2

異文化コミュニケーション学科 PEACE CIC に属する学生は，全学共通科目 24 単位，学びの精神 4 単位,専門教育科目については学部必修科目 10 単位，PEACE 選択科目 10 単位，基盤科目 8 単位，基礎科目 12 単位，専門科目 26 単位，更に，選択により以下の科目を修得し，合計 124 単位以上を修得しなければならない。

① 卒業研究選択者

専門演習・卒業研究 10 単位，自由科目 20 単位

② 卒業課題選択者

卒業課題 4 単位，自由科目 26 単位

自由科目には，指定単位を超えて修得した選択科目・全学共通科目・他学部科目・言語自由科目・５大学間単位互換制度による他大学の科目及び留学認定科目を算入することができる。

言語文化論	2
グローバル化と言語	2
多文化共生特論	2
国際協力･開発学特論	2
国際協力･紛争研究特論	2
自然共生特論	2
人間環境特論	2
間文化研究 A	2
間文化研究 B	2
音楽学特論	2
視覚芸術特論	2
英語圏文学論	2
グローバル研究調査法	2
(新設)	
(新設)	
(新設)	
⑤ 専門演習・卒業研究	
Advanced Seminar 1	2
Advanced Seminar 2	2
Advanced Seminar 3	2
Senior Research and Thesis	4
⑥ 卒業課題	
Senior Project A	2
Senior Project B	2

異文化コミュニケーション学科 PEACE CIC に属する学生は，全学共通科目 24 単位，学びの精神 4 単位,専門教育科目については学部必修科目 10 単位，PEACE 選択科目 10 単位，基盤科目 8 単位，基礎科目 12 単位，専門科目 26 単位，更に，選択により以下の科目を修得し，合計 124 単位以上を修得しなければならない。

① 卒業研究選択者

専門演習・卒業研究 10 単位，自由科目 20 単位

② 卒業課題選択者

卒業課題 4 単位，自由科目 26 単位

自由科目には，指定単位を超えて修得した選択科目・全学共通科目・他学部科目・言語自由科目・５大学間単位互換制度による他大学の科目及び留学認定科目を算入することができる。

（以下略）	（以下略）

立教大学大学学則第３条の表の変更部分の新旧対照表

（新）

第３条（学部，学科等）

学部	学科	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員
（略）	（略）	（略）		（略）
ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学部	（略）	（略）		（略）
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部	異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	210 名		840 名
	計	210 名		840 名
ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学部	ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学科	（略）		（略）
	計	（略）		（略）
合　　計		4,862 名	0 名	19,448 名

（旧）

第３条（学部，学科等）

学部	学科	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員
（略）	（略）	（略）		（略）
ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学部	（略）	（略）		（略）
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部	異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	145 名		580 名
	計	145 名		580 名
ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学部	ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学科	（略）		（略）
	計	（略）		（略）
合　　計		4,797 名	0 名	19,188 名

学則変更の趣旨等を記載した書類

ア　学則変更（収容定員変更）の内容

2024 年度からの収容定員を下表のとおりとする。

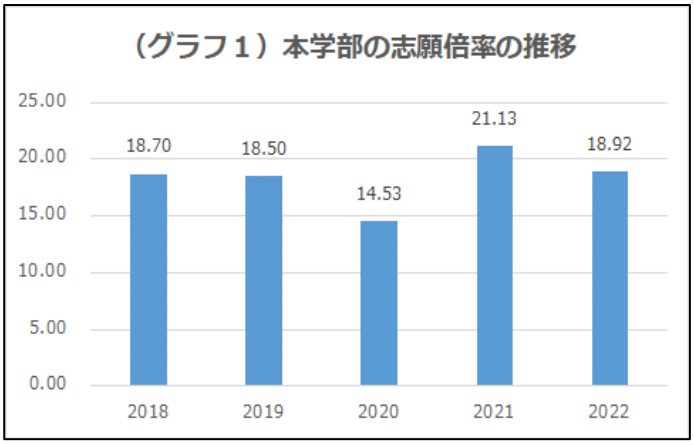
学部名	学科名	変更前	変更後	増減	備考
		収容定員	収容定員	収容定員	
文学部		3,672	3,672	0	
	キリスト教学科	200	200	0	
	史学科	860	860	0	
	教育学科	404	404	0	
	文学科	2,208	2,208	0	
経済学部		2,736	2,736	0	
	経済学科	1,328	1,328	0	
	会計ファイナンス学科	704	704	0	
	経済政策学科	704	704	0	
理学部		1,168	1,168	0	
	数学科	264	264	0	
	物理学科	308	308	0	
	化学科	308	308	0	
	生命理学科	288	288	0	
社会学部		2,076	2,076	0	
	社会学科	692	692	0	
	現代文化学科	692	692	0	
	メディア社会学科	692	692	0	
法学部		2,340	2,340	0	
	法学科	1,440	1,440	0	
	政治学科	440	440	0	
	国際ビジネス法学科	460	460	0	
観光学部		1,480	1,480	0	
	観光学科	780	780	0	
	交流文化学科	700	700	0	
コミュニティ福祉学部		1,400	1,400	0	
	福祉学科	520	520	0	
	コミュニティ政策学科	880	880	0	
	スポーツウエルネス学科	0	0	0	
経営学部		1,540	1,540	0	
	経営学科	920	920	0	
	国際経営学科	620	620	0	
現代心理学部		1,276	1,276	0	
	心理学科	572	572	0	
	映像身体学科	704	704	0	
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部		580	840	260	
	異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	580	840	260	
スポーツウエルネス学部		920	920	0	
	スポーツウエルネス学科	920	920	0	
合計		**19,188**	**19,448**	**260**	

イ　学則変更（収容定員変更）の必要性

本学部は、2008 年度の開設以来、教育研究上の目的である「変化を続ける世界の中で，複数の視点からものごとを考え，柔軟な思考力をもって実践的に問題と向き合うことによって，多様で「異なる」他者と共生し，持続可能な未来を創ることのできる人材を育成する。」を堅持しながら、言語、通訳翻訳、コミュニケーション及びグローバルスタディーズの各専門科目群の設定と教育における４つの柱（日本語を磨く・英語を磨く／英語＋１／知識と実践の往還／海外留学研修等）の設定、２つの言語（英語と日本語）と高度な専門知識を使った柔軟な問題対応ができることを目的とする DLP（Dual Language Pathway）の設置、積極的な日本人学生の海外派遣と外国人留学生の受入れ並びに実社会のあらゆる現場においてその時その状況に必要な実践力と対応力を柔軟に引き出す力を培うための授業科目の開講など、理論と経験の両軸から質の高い学びを構築してきている。また、本学は、スーパーグローバル大学創成支援事業や大学の世界展開力強化事業による補助金を活用しながら国際化を推進しているところであるが、本学部は 10 の学部（2022 年現在）の中で最も多くの外国人留学生を受け入れている**（資料１）**など、本学の国際化に最も貢献している教育研究組織の一つである。

本学部では、2008 年度の開設当初から「複数の視点」、「実践的な問題と向き合う」、「「異なる」他者と共生」等に着目しながら教育研究を行ってきたが、昨今、「社会や経済のグローバル化が進展する我が国においては、優秀な外国人留学生を獲得し、我が国の成長に生かすことや、個々の能力を高めグローバル化した社会で活躍する人材を育成することが喫緊の課題」**（資料２）**とされるなど、大学の国際化が社会から求められている。既述した本学部の教育研究上の目的、専門科目群、教育における４つの柱、日本人学生の海外派遣と外国人留学生の受入れ等は、正にこれらの課題の解決に資することができるものである。

また、学部名称に「国際」又は「グローバル」を付す学部数は、2018 年度の 61 から 2022 年度には 77 と増加しており**（資料３）**、高等教育機関によるこれらの教育研究に係る関心が高まっている。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、これらの学部における全国的な志願者数は減少しているが、新型コロナウイルス感染症の発生如何で上記の課題が解決することはなく、今後、志願者は復調することが見込まれる。なお、本学部の志願倍率は、2020 年度入試において減少したものの、直近５年間の平均で約 18 倍となっている**（グラフ１）**。これは、受験生のニーズを踏まえた教育研究を行っている証ではあるものの、適正なものとはいえず、過剰な倍率を是正し受験生のニーズに可能な限り応えるようにする必要がある。さらに、本学部は学内他学部と比較して収容定員が少ない**（表１）**。本学部の教育研究上の目的を達成するためには、学生の多様性の確保が必須であるため、外国人留学生の受入れ等を積極的に行っているところであるが、現在の収容定員では多様性の確保に限界がある。



本学部	文学部	経済学部	理学部
580	3,672	2,736	1,168
社会学部	法学部	観光学部	ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学部
2,076	2,340	1,480	1,400
経営学部	現代心理学部	ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学部	**（表１）**
1,540	1,276	920	※2023.4.1現在

加えて、本学の外国語教育カリキュラムを担う外国語教育研究センターの新設により、2024 年度から、本学部教員がこれまで以上に学部専門科目に注力できる環境が整うこととなる（**ウ（ウ）**で詳

述。）。

以上を踏まえ、本学部の定員を入学定員 145 人から 210 人に（65 人増）、収容定員 580 人から 840 人に（260 人増）増加することとする。

なお、本申請による収容定員の増加は、地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律（平成 30 年法律第 37 号）第 13 条第２号の規定を活用するものであり、特定地域内学部収容定員の増加に係る届出書類は別途提出済みである**（資料４）**。

ウ　学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（ア）教育課程の変更内容について

（４つの研究領域及び４つの履修モデルの維持）

本学部の教育課程の特徴の概念図は**資料５**のとおりである。本学部は「１学部１学科」であるため、学科間の障壁なく、４つの研究領域（言語、通訳翻訳、コミュニケーション及びグローバルスタディーズ）の科目を柔軟に履修することができる。そのため、一つの領域に軸足を置きつつも、自らの興味関心や卒業後の進路を踏まえて、他領域についても幅広く学べることが本学部の学びの特徴である。本申請による収容定員の増加後も、４つの研究領域が有機的に結びついた教育課程を展開することで、領域横断的な視点と高度な専門性をもって、複雑化する世界で生じている現実の諸問題に向き合い、共生社会の実現と持続に寄与できる人物を育成することとしており、以下を除いて大きな教育課程の変更は行わない。

また、本学部では、履修モデルを「一般」、「Dual Language Pathway（DLP）」、「Transitional Bilingual Program in CIC（TBP）」及び「Proactive, Ethical, Able, Collaborative, Engaged Program CIC（PEACE）」の４つに区分している。それぞれの概要は**表２**のとおりである。

（表２）

履修モデル	概　要
一般	一般的な日本人学生を対象とした教育プログラム
DLP	英語と日本語の２つの言語を駆使して４年間学んでいく教育プログラム
TBP	本学での学位取得を目的とした、外国人留学生を対象とした教育プログラム
PEACE	英語による授業科目のみで学位の取得が可能な教育プログラム

本申請による収容定員の増加後も、これらの履修モデルに変更はないが、一部の卒業要件を変更する。

（卒業要件単位数の変更）

現在の卒業要件単位表は**表３**のとおりである。本申請による収容定員の増加後の 2024 年度から、「学部必修科目」10 単位を８単位に、「基盤科目」22 単位を 20 単位に減らし、「専門科目」の要件単位数を４単位増やすこととする（「PEACE」を除く。）。この変更は、専門科目の卒業要件単位を増やすことで、４領域を有機的に結びつけた専門的な学び（とりわけ海外留学から帰国後の専門的な学び）をより一層促進するための措置であり、本申請による収容定員の増加前と比較して、同等以上の内容の担保が可能である。なお、表中の「※１」は全学共通カリキュラム運営センターが運営する全学共

（表３）科目区分／履修モデル		卒業要件単位数		
		一般、TBP		DLP
		「卒業研究」選択者	「卒業課題」選択者	
必修	言語A（英語）※1	6	6	6
	言語B（初修言語）※1	4	4	4
	学部必修科目	10	10	10
	専門演習・卒業研究	–	–	10
選択	学びの精神※1	4	4	4
	多彩な学び※1	14	14	14
	スポーツ実習※1			
	基盤科目	22	22	22
	基礎科目	12	12	12
	専門科目（一般）	22	22	12以上
	専門科目（DLP）	–	–	0~10
	専門演習・卒業研究	10	–	–
	卒業課題	–	4	–
自由※2	自由科目	20以上	制限なし	制限なし
合計		124以上	124以上	124以上

通科目から履修する。また、「※２」の「自由科目」は卒業要件単位に算入が可能であり、本学では算入が不可能なものを「随意科目」と称している。

（英語での卒業課題の開設）

本学部の学生は、「卒業研究」（「専門演習」の履修を含めて合計 10 単位）又は「卒業課題」（４単位）のいずれかを必ず履修することとしている。これまで、DLP に在籍する学生向けには、英語による「卒業研究」（Senior Research and Thesis 等）のみしか用意していなかったが、本申請による収容定員の増加に伴う学生のニーズの多様化に対応するため、英語による「卒業課題」（Senior Project）を新規開講する。

（留学事後研修科目の追加開講）

英語を使用言語とする授業科目「留学、学びのデザイン、キャリア（Study Abroad, Study Planning, and Career Development）」（区分：基盤科目）を新設する。学修目標は、①海外の大学における学び、現地での異文化コミュニケーション体験、帰国後の再適応について振り返り、互いに共有し、他者に伝えることを通して、留学中の学修成果の定着を図ること、②海外留学、異文化適応、多文化共生、異文化コミュニケーション等に関する文献を読み、留学先での体験的学習と関連づけることで、留学経験を内省し、自身の変化や成長を実感できるようになること、③留学経験及びその振り返りを通して得られた新たな気づきに基づいて、多様な背景をもつ他者と協働しながら、社会が直面する課題に積極的に関われるようになること及び④海外留学経験と学部での学びをより意識的に結びつけることで、残りの学生生活の過ごし方、学部での専門的な学びを深めるための履修計画（学びのデザイン）、卒業研究のテーマ及び卒業後の進路について具体的なイメージを持ち、実践できるようになることの４点である。学生が帰国時期に合わせて履修できるよう、週２回、７週間で展開し２単位を付与する。

現在、本学部の学生が行う留学には、留学期間（半期又は１年）、系列（学部間協定校、大学間協定校、パートナー大学等）、目的（アカデミック、ランゲージ、インターンシップ等）など、いくつかの選択肢があるが、本申請による収容定員の増加に伴って、留学へのニーズがさらに多様化することが予想される。この授業科目の新設により、多様化する留学へのニーズに対応するとともに、その教育効果を向上することができる。

（学部間協定校の拡充）

本学では世界 44 の国・地域と 261 の協定を締結しており、このうち、本学部では 17 の国・地域と 30 の協定を締結している**（資料６）**。本学部では原則海外留学を必須としているが、本申請による収容定員の増加後であっても、十分な協定数といえる。しかし、定員が増加する分、ニーズが多様になることは明らかである。学部間協定校を拡充して多様なニーズに応えるため、現在も協定校の開拓を継続しており、2024 年度までに協定数が派遣地域の多様性も見据えて、４校以上増加する見込みである。また、「海外インターンシップ」のための学部間協定校も、2024 年度までに１校増加する。

（授業科目の精選）

本学部では、原則として海外留学が必須となっているが、新型コロナウイルス感染症の影響によりそれが困難になった者のために、2020 年度以降、授業科目（「Seminar in English」及び「Japan Studies Program」）をそれぞれ６クラスずつ臨時に増設して対応していた。2024 年度からは、海外留学の実施に目途が立ったと判断し、原則として、増設したこれらの科目を削除する。ただし、抽選科目（１クラスの定員に限度を設けている科目）である「Seminar in English」については、本申請による収容定員の増加後、抽選漏れが多発しないよう、６クラスではなく４クラスの減少に留める。これ

により、「Seminar in English」 は 2019 年度以前の６クラスから、2024 年度以降は８クラスとなり、実質的に２クラス増設することになる。その他「間文化研究」、「異文化コミュニケーション特論」及び「Special Topics in ICC」は、これまでの学生の履修動向を踏まえ、１クラスでの開講とする**（資料７）**。

（全学共通科目）

本学では、全ての学部学生が履修することができる全学共通科目を開講し、全ての学部学生に 28 単位の修得を卒業要件として求めている。全学共通科目は、各学部ではなく全学共通カリキュラム運営センターが運営しているため、収容定員の増加による教育課程の変更はない。また、全学共通科目は、言語系科目（外国語のコミュニケーション能力と異文化対応能力を培うための科目群）と総合系科目（広い視野と総合的な判断力をベースに、現代に対応した総合的な知性と感性を養うための科目群）に大別されるが、前者のうち英語関連科目のみで 1,000 以上、後者で 700 以上（ともにシラバス検索結果／同一科目名称で複数開講している科目を含む。）の多種多様な科目を開講している。本申請により、開講科目の種類を増加させることはないが、少人数で開講している英語必修科目やスポーツ実習科目については、開講コマ数を増加する。

（イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容について

（少人数クラスによる指導体制の維持）

以下のとおり、導入教育の中核をなす「基礎演習」（区分：必修／学部必修科目）及び学びの集大成である「専門演習」（区分：必修又は選択／専門演習・卒業研究）の少人数クラスによる指導を維持することとし、本申請による収容定員の増加前と比較して、同等以上の内容を担保する。

本学では、１年次の春学期に、各学部が展開する少人数教育により、専門分野のテーマに触れながら、大学で学んでいく上で必要となる知識やスキルを身につけることとしている。本学部では、本学部で学ぶための基礎となる理論的思考や情報リテラシーを身につけ、コミュニケーション能力、情報発信・受信能力、問題解決能力を高めていく「基礎演習」（１クラス約 25 人）を必修科目として位置付けているが、本申請による収容定員の増加後は、クラス数を増加することにより、専任教員によるきめ細やかな指導を行うこととする。

また、３年次秋学期から卒業までの３学期間に少人数（１クラス約 10 人）で展開し、各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけ、「卒業研究」の執筆に必要な基礎的な研究方法などを身につける「専門演習」についても、「基礎演習」と同様の措置を採ることとしている。

さらに、学部必修科目である「Cultural Exchange」（区分：必修／学部必修科目）（１クラス約 30 人）、言語 B（初習言語）と同じ言語を使用する授業科目を履修することになる「コミュニケーションセミナー１／２」（区分：選択／基盤科目）（１クラス約25 人）及び留学前の準備科目である「コミュニケーションセミナー３A-R（英語）」（区分：選択／基盤科目）（１クラス約 25 人）についても、同様の措置を採ることとしている。

（対面、オンライン及び教室内外のフィールドワークを組み合わせた学修）

本学部では「理論と実践の往還」をカリキュラムの柱の一つに据えており、教室内外を問わず、理論と経験を常に結びつけたダイナミックな学びを推進することを方針に掲げている。「海外インターンシップ A（CIC）」（区分：選択／基盤科目）については新型コロナウイルス感染症への対応として設けた海外協定校とオンラインで共に学ぶ科目を継続して展開することとし、現地で学ぶ「海外インターンシップ B（CIC）」（区分：選択／基盤科目）と合わせて対面、オンラインの両方で学修できる設計とする。また、「サービスラーニング C」（区分：選択／基盤科目）は、本申請による収容定員の

増加を見据えて、2023 年度より豊島区での実習（地域・対面）と岩手県陸前高田市の生徒を対象とする実習（地方・オンライン）を組み合わせて実施する。これらに加えて、「国内フィールドスタディ」及び「海外フィールドスタディ」については、本申請による収容定員の増加に合わせて、フィールド科目間及び他科目との接続をより一層意識したプログラム展開を目指し、専門科目に「子どもの貧困」（区分：選択／専門科目）と「国際協力とビジネス」（区分：選択／専門科目）を新設する。両科目とも、国内と海外の課題を地続きに捉え、課題の背景や改善に向けた取り組みについて総合的に学ぶことを目的としており、フィールド科目間の接続や「知識と実践の往還」を推進する。この変更は、実施形態や実習の場所を多様化して「知識と実践の往還」を進めるための措置である。

（アカデミックアドバイザー）

本学では、全ての学部において、学生一人ひとりに対して担当者（専任教員）を定め、本学における学習全般に関する助言・指導や情報提供を行うこととしている。なお、本学部では、１年次及び２年次は学部の指定した担当教員（原則２年間同じ教員）が担当することとし、３年次及び４年次は、「専門演習１」履修開始前は原則として１年次及び２年次のアカデミックアドバイザーが、「専門演習１」履修開始後は同授業科目の担当教員が担当することとしており、定期的な面談・指導と、必要なときに個別相談に応じており、きめ細やかな指導体制を整えている**（資料８）**。本申請による収容定員の増加後も同様とする。

（ウ）教員組織の変更内容について

本学の全ての学部における教育課程は、全学共通科目と（学部）専門科目の２つに大別される**（表４）**。このうち、全学共通科目では言語系科目（10 単位）及び総合系科目（18 単位）の計 28 単位が卒業要件単位数となっており、言語系はさらに言語 A（英語）と言語 B（初習言語）に区分している（表参照）。

本学部は、設立当初、学部の専門科目と全学共通科目の言語教育の双方を担う教員で構成していた。しかし、次第に両立の困難さが課題となっていた。このような状況を踏まえ、外国語教育を通じて、主体的に深く考え、他者と協働しながら社会をよりよい場所へ変える力を育てることを目的とする外国語教育研究センターを 2020 年に４月に設置し、同センターが全学共通科目の言語系科目を担うこととなった。

表４	区分１	区分２	区分３	卒業要件単位数
全学共通科目	言語系科目	言語A		6
		言語B		4
	総合系科目	学びの精神		4
		多彩な学び	１．人間への探究	14
			２．社会への視点	
			３．芸術・文化への招待	
			４．心身への着目	
			５．自然の理解	
			６．知識の現場	
		スポーツ実習		

同センターの設置以降、外国語教育カリキュラム（全学共通科目の言語系科目）は、現行カリキュラムにおける課題等を共有し新たなカリキュラムを実現していくため、2023 年度までを一つの目安として、本学部所属教員と協働して運営していくこととなっている。同センターの設置により、2019 年度は学部として合計 219 コマの全学共通科目の担当を義務付けられていたものが、2020 年度には 97 コマとなり、本申請によって収容定員が増加する 2024 年度は、外国語教育カリキュラムの責任を原則として同センターが担うこととなっているため、22 コマとなる**（表５）**。2024 年度以降は、概ね同程度の割り当てとなるため、これまで以上に本学部の教員が学部専門科目に注力することができる。

（表５）

	2019 年度	2020 年度	2024 年度
本学部の専任教員数	37 人	38 人	34人
本学部への言語系科目の割り当て	210 コマ	88コマ	なし
本学部への総合系科目の割り当て	9コマ	9コマ	22 コマ
本学部への全学共通科目の割り当て（合計）	219 コマ	97 コマ	22 コマ
2019 年度を起点とした場合の増減	0	-122	-197

また、本学部と本学既設学部及び本学部と競合校（詳細は「学生確保の見通し等を記載した書類」参照）との S/T 比率（収容定員／専任教員）を比較した結果は**資料９及び資料 10** のとおりである。本学部他学部との比較では、本申請による収容定員の増加後において、本学部を含む11学部平均が40.18であるところ本学部は 24.71 であり、11 学部中２番目に良い数字となっている。また、競合校との比較では、本学部を含む６大学平均が約 26.97 であるところ本学部は 24.71 であり、６大学中３番目に良い数字、かつ、平均値を上回っている。

以上のことから、本学特有の事情により 2024 年度から本学部の教員が専門科目に今まで以上に注力できることになること、本学他学部及び競合校と比べると本申請による収容定員の増加後における本学部の S/T 比は比較的良好であると判断できることから、本申請前と比較して、同等以上の教員組織の担保が可能である。

（エ）大学全体の施設・設備の変更内容について

本学部が位置する池袋キャンパスは、校地面積 69,830 ㎡、校舎面積 126,230 ㎡を擁している。東京 23 区内という立地条件を踏まえると、新座キャンパスと比して校地面積は小さいものの、校舎面積は十分な面積である。池袋キャンパスの校舎面積は、大学設置基準で本学全体に求められる校舎面積（新座キャンパスに設置している学部を含む、全ての学部の収容定員から算出される校舎面積）を上回っており**（資料 11）**、本申請による収容定員の増加後も特段の支障は生じない。

また、本学には池袋図書館、新座図書館及び新座保存書庫に約 200 万冊の蔵書があるが、そのうち約６割が池袋図書館にある。合計で約 200 万冊の図書を所蔵していることに加え、所蔵図書は両キャンパス間で貸し出しが可能であるほか、池袋図書館は閲覧席約 1,500 席を有し、１階フロアに閲覧席、PC 利用席、キャレル席、書架といった基本機能を集め、２階フロアにはグループ学習室、多目的スタジオ、ラーニング・コモンズ機能を有した学習エリアを設けるなど、来館型の利用サービスとして１階と２階の機能を明確に区分することで、利用者の多様なニーズにも柔軟に対応し、学習・教育・研究を支えている**（資料 12）**。さらに、夏季休業期間や大学試験実施期間等を除いて、授業が展開される期間は平日最大で 8 時 30 分から 21 時 00 分まで開館しているほか、日曜日も開館することで利便性にも対応している。加えて、学内ネットワーク環境を通して、契約データベース等のオンライン情報資源へのアクセスや、学生向けのオンライン・レポート作成支援など、図書館に出向かなくても利用できる非来館型の利用サービスを整備している。

昨今の大学の国際化に対応した施設も整備している。日常的な異文化交流の促進や海外留学に向けた支援を目的とした「グローバルラウンジ」を池袋・新座の両キャンパスに設置しており、外国人留学生と外国語で会話を楽しむ「ワールドカフェ」、英語を使って学生同士で自由に交流できる「English Lounge」、外国人留学生が自国を紹介する「カントリーフェスタ」など、多彩なイベントを行っている。また、池袋キャンパスに主にイスラム圏からの留学生を想定した「祈りの部屋／Prayer Room」を設置している。さらに、日本アジアハラール協会による「ハラル認証」を取得したハラルフ

ードの食堂「東京ハラルデリ＆カフェ」を、両キャンパスに開設している**（資料 13）**。

以上のとおり、校地及び校舎は十分な面積を擁していること、本学の図書館は多くの図書を有していることに加え多様なニーズに対応できるサービスを行っていること、「グローバルラウンジ」を両キャンパスに設置しているほか、宗教的観点や食の観点から多様性に対応する施設を整備していることから、本申請による収容定員の増加後においても、収容定員の変更前と同等以上の質を担保することができ、教育研究活動及び授業内外の学生生活において支障が生じることはない。

学則変更の趣旨等を記載した書類（資料目次）

資料１	外国人留学生数（2022 年 10月20日現在）	…2
資料２	令和 3 年度文部科学白書（第５章該当部分抜粋）	…3
資料３	学部名称に「国際」又は「グローバル」を付す学部数の推移	…4
資料４	【学校法人立教学院・立教大学】特定地域内学部収容定員増加届出書類	…5
資料５	異文化コミュニケーション学部の教育課程の特徴	…12
資料６	立教大学協定校一覧　（2022.5.20 現在）	…13
資料７	授業科目（複数クラス）の精選	…15
資料８	2022 年度アカデミックアドバイザー制度について	…16
資料９	本学既設学部と異文化コミュニケーション学部（増加後）の ST 比	…18
資料 10	競合校と異文化コミュニケーション学部（増加後）の ST 比	…19
資料 11	大学設置基準における校地面積及び校舎面積と本学の校地面積及び校舎面積	…20
資料 12	2021 年度　立教大学図書館　統計・データ集	…22
資料 13	【本学ウェブサイト】国際化に対応した施設・設備	…27
資料 14	教育課程等の概要	…32

資料１　外国人留学生数（2022 年 10月20日現在）

学部名	2022 年度 収容定員	正規課程学生	特別外国人学生	合計
異文化コミュニケーション学部	580	79	43	122
文学部	3,672	79	22	101
経営学部	1,540	26	54	80
経済学部	2,736	64	5	69
法学部	2,340	48	16	64
社会学部	2,076	33	16	49
観光学部	1,480	25	12	37
コミュニティ福祉学部	1,672	26	3	29
理学部	1,168	17	6	23
現代心理学部	1,276	18	4	22

〇資料２　令和３年度文部科学白書（第５章該当部分抜粋）

１　書類等の題名

「学則の変更の趣旨等を記載した書類」資料２

２　出典

文部科学省ウェブサイト

３　書類等の利用範囲

第５章第４節

https://www.mext.go.jp/content/20220719-mxt_soseisk02-000024040_205.pdf

４　その他の説明

社会や経済のグローバル化が進展する我が国において、優秀な外国人留学生の獲得、個々の能力を高めグローバル化した社会で活躍する人材を育成すること等が喫緊の課題となっていることを示すため、上記資料を引用した。

資料３　学部名称に「国際」又は「グローバル」を付す学部数の推移

学部名	2018	2019	2020	2021	2022
国際文化学部	9	9	10	11	11
グローバル・コミュニケーション学部	5	5	5	5	5
国際経営学部	3	4	4	4	4
国際観光学部	3	3	3	3	4
国際学部	16	17	21	23	26
国際教養学部	14	14	13	13	13
国際コミュニケーション学部	6	7	7	7	7
国際関係学部	5	6	7	7	7
合計	61	65	70	73	77

※日本私立学校振興・共済事業団

「令和４（2022）年度私立大学・短期大学等入学志願動向」「５．主な学部別の志願者・入学者動向（大学）」から抽出

別記様式第１号

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

立教大学文学部，経済学部，社会学部，
異文化コミュニケーション学部及び情報社会デザイン学部
特定地域内学部収容定員増加　届出書

令和５年２月３日

文　部　科　学　大　臣　殿

学校法人立教学院　　理事長　福田　　裕昭

学校法人立教女学院　理事長　大澤　　眞木子

このたび，立教大学文学部，経済学部，社会学部，異文化コミュニケーション学部及び情報社会デザイン学部の特定地域内学部収容定員を増加させることについて，地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律施行令第４条第１項の規定により，別紙書類を添えて届け出ます。なお，届出の上は，確実に届出に係る計画を履行します。

本届出は，令和３年３月 23 日付の届出の内容を変更するものです。

適用を受けようとする除外規定及びその適用を受けることができる理由の概要	＜適用を受けようとする除外規定＞ 地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律第 13 条第２号 ＜適用を受けることができる理由の概要＞ 杉並区に所在する立教女学院短期大学を廃止して，適切に算定した数の範囲内で立教大学の１～４年次の特定地域内学部収容定員を増加させるため。			
特定地域内学部収容定員の変更の状況		学部等の名称	変更前	変更後
	増加させる学部等	立教大学		
		文学部(※１)	3,600 人	3,672 人
		キリスト教学科	196人	200人
		史学科	856人	860人
		教育学科	400人	404人
		文学科	2,148人	2,208人
		経済学部（※１）	2,720人	2,736人
		経済学科	1,320人	1,328人
		会計ファイナンス学科	700人	704人
		経済政策学科	700人	704人
		社会学部（※１）	2,040人	2,076人
		社会学科	680人	692人
		現代文化学科	680人	692人
		ﾒﾃﾞｨｱ社会学科	680人	692人
		異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部（※２）	580人	840人
		異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	580人	840人
		情報社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ学部（※３）	0人	816人
		情報社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	0人	816人
		（いずれも修業年限４年）		
	大学全体	－	13,988 人	15,188 人
特定地域内学部収容定員を増加させる時期	（※１）令和４年４月（文学部，経済学部及び社会学部） （※２）令和６年４月（異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部） （※３）令和７年４月（情報社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ学部）			
校舎の所在地	東京都豊島区西池袋 3-34-1（池袋キャンパス）			
学校教育法に基づく認可申請又は届出の状況	（※１）令和３年６月収容定員関係学則変更認可申請書提出済み（令和３年 10 月認可） （※２）令和５年３月収容定員関係学則変更認可申請書提出予定 （※３）令和６年３月末収容定員関係学則変更認可申請書提出予定 令和６年６月末情報社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ学部設置届出書提出予定			

（注）

1　記載内容を証する書類を添付すること。

2　特定地域外から特定地域内への校舎の移転その他学校教育法第４条第１項の規定により文部科学大臣の認可を受けなければならないこととされている事項以外の事項によって，特定地域内学部収容定員を増加させる場合は，同法の規定により届け出なければならない事項の例に準じて内容の分かる書類を添付すること。

別記様式第２号

（用紙　日本産業規格Ａ4縦型）

法第13条第１号・第２号　説明書

特定地域内学部等収容定員を減少させる学部等	大学の名称	立教女学院短期大学					
	学部等の名称	修業年限	入学定員（編入学定員）	減少前の特定地域内学部等収容定員（収容定員）	減少させる特定地域内学部等収容定員（収容定員）	減少後の特定地域内学部等収容定員（収容定員）	校舎の所在地
	現代コミュニケーション学科	2年	150人（-人）	300人（300人）	300人（300人）	0人（0人）	東京都杉並区久我山4-29-23
	幼児教育科	2年	150人（-人）	300人（300人）	300人（300人）	0人（0人）	
	減少させる事由	2018年4月に募集停止を行い，2020年3月末をもって在籍者が0名となったため。					
	予定時期	2020年７月					
特定地域内学部収容定員を増加させる学部等	大学の名称	立教大学					
	学部等の名称	修業年限	入学定員（編入学定員）	増加前の特定地域内学部収容定員(収容定員)	増加させる特定地域内学部収容定員（収容定員）	増加後の特定地域内学部収容定員（収容定員）	校舎の所在地
	文学部（※１）	４年	900人（-人）	3,600人（3,600人）	72人（72人）	3,672人（3,672人）	東京都豊島区西池袋3-34-1
	キリスト教学科		49人（-人）	196人（196人）	4人（4人）	200人（200人）	
	史学科		214人（-人）	856人（856人）	4人（4人）	860人（860人）	
	教育学科		100人（-人）	400人（400人）	4人（4人）	404人（404人）	
	文学科		537人（-人）	2,148人（2,148人）	60人（60人）	2,208人（2,208人）	
	経済学部（※１）	４年	680人（-人）	2,720人（2,720人）	16人（16人）	2,736人（2,736人）	同上
	経済学科		330人（-人）	1,320人（1,320人）	8人（8人）	1,328人（1,328人）	
	会計ファイナンス学科		175人（-人）	700人（700人）	4人（4人）	704人（704人）	
	経済政策学科		175人（-人）	700人（700人）	4人（4人）	704人（704人）	
	社会学部（※１）	４年	510人（-人）	2,040人（2,040人）	36人（36人）	2,076人（2,076人）	同上
	社会学科		170人（-人）	680人（680人）	12人（12人）	692人（692人）	
	現代文化学科		170人（-人）	680人（680人）	12人（12人）	692人（692人）	
	メディア社会学科		170人（-人）	680人（680人）	12人（12人）	692人（692人）	
	異文化コミュニケーション学部（※２）	４年	145人（-人）	580人（580人）	260人（260人）	840人（840人）	同上
	異文化コミュニケーション学科		145人（-人）	580人（580人）	260人（260人）	840人（840人）	

	情報社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ学部（※３） 情報社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	４年	0人（-人） 0人（-人）	0人（0人） 0人（0人）	816人（816人） 816人（816人）	816人（816人） 816人（816人）	同上
	増加させる事由	収容定員の増加及び学部の新設					
	予定時期	（※１）令和４年４月（文学部，経済学部及び社会学部） （※２）令和６年４月（異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部） （※３）令和７年４月（情報社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ学部）					

法第 13 条第２号の規定の適用を受けようとする場合のみ	合併・統廃合等，共同教育課程の別	■合併・統廃合等　　□共同教育課程
	協議の内容	「地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律」第 13 条第２号に基づき，学校法人立教女学院が設置する立教女学院短期大学の廃止に際し，同短期大学の収容定員を 600 名（年次あたり 300 名）減少させ，学校法人立教学院が設置する立教大学の収容定員を 1,200 名（年次あたり 300 名）増加させる。 また，学校法人立教女学院及び学校法人立教学院の創立者であるチャニング・ムーア・ウィリアムズ主教の意思を受け継ぎ，建学の精神であるキリスト教に基づく教育実践と，両法人の発展に資する相互協力・連携体制を構築するために，「学校法人立教女学院と学校法人立教学院との相互協力・連携協定書」を締結する。

2023 年 2 月
立 教 大 学

特定地域内学部収容定員増加届出書の変更点等について

【別記様式第１号】

◯理事長名

（変更点）

法人名	今回	令和３年３月 23 日付け届出
①立教学院	福田　　裕昭	戸井田　和彦
②立教女学院	大澤　眞木子	糸魚川　　順

（変更理由）

①令和４年８月１日付で理事長が交代したため。

②令和３年４月１日付で理事長が交代したため。

◯鑑文

今回	令和３年３月 23 日付け届出
（略）本届出は，令和３年３月 23 日付の届出の内容を変更するものです。	（略）本届出は，令和２年７月１日付の届出の内容を変更するものです。

（変更理由）

今回で２度目の変更届出となるため。なお、当初届出は令和２年７月１日付けで行ったが、令和３年３月 23 日付けで１回目の変更届出を行った。

◯特定地域内学部収容定員の変更の状況（学部等の名称）

（変更点）

変更届出	令和３年３月 23 日付け届出
情報社会デザイン学部（※３） 情報社会デザイン学科	情報社会デザイン学部（※２） 情報社会デザイン学科

（変更理由）

情報社会デザイン学部の開設時期を遅らせることに伴う表記の変更。

◯特定地域内学部収容定員を増加させる時期

（変更点）

今回	令和３年３月 23 日付け届出
（※２）令和６年４月（異文化コミュニケーション学部） （※３）令和７年４月（情報社会デザイン学部）	（※２）令和６年４月（異文化コミュニケーション学部及び情報社会デザイン学部） （追加）

（変更理由）

昨今の社会状況の変化及び大学に対する社会からの期待（環境教育、社会と連携した実践的（PBL）教育、遠隔授業の大胆な活用、文理横断教育等）に応えることができる学部とするため、オンラインの活用による遠隔授業の導入等のコロナ禍を踏まえた高等教育の変化への対応、教育未来創造会議、骨太の方針 2022 等で言及されているデジタル及びグリーン人材の育成、文理横断的な学びへの転換等について、時間をかけてより丁寧かつ慎重な検討を行った上で、設置することとしたいため。

また、令和４年 10 月の大学設置基準の改正に伴って新設された、教育課程等に係る特例制度の活用の可否について検討を行いたいため。

◯学校教育法に基づく認可申請又は届出の状況

（変更点）

変更届出	令和３年３月 23 日付け届出
（※１）令和３年６月収容定員関係学則変更認可申請書提出済（同年 10 月認可）	（※１）令和３年６月収容定員関係学則変更認可申請書提出予定
（※２）令和５年３月末収容定員関係学則変更認可申請書提出予定	（※２）令和５年３月末収容定員関係学則変更認可申請書提出予定 令和５年４月末情報社会デザイン学部設置届出書提出予定
（削除）	（追加）
（※３）令和６年３月末収容定員関係学則変更認可申請書提出予定 令和６年６月末情報社会デザイン学部設置届出書提出予定	

（変更理由）

【再掲】昨今の社会状況の変化及び大学に対する社会からの期待（環境教育、社会と連携した実践的（PBL）教育、遠隔授業の大胆な活用、文理横断教育等）に応えることができる学部とするため、オンラインの活用による遠隔授業の導入等のコロナ禍を踏まえた高等教育の変化への対応、教育未来創造会議、骨太の方針 2022 等で言及されているデジタル及びグリーン人材の育成、文理横断的な学びへの転換等について、時間をかけてより丁寧かつ慎重な検討を行った上で、設置することとしたいため。

また、令和４年 10 月の大学設置基準の改正に伴って新設された、教育課程等に係る特例制度の活用の可否について検討を行いたいため。

【別記様式第２号】

◯特定地域内学部収容定員を増加させる学部等（学部等の名称）

変更届出	令和３年３月 23 日付け届出
情報社会デザイン学部（※３） 情報社会デザイン学科	情報社会デザイン学部（※２） 情報社会デザイン学科

（変更理由）

情報社会デザイン学部の開設時期を遅らせることに伴う表記の変更。

◯特定地域内学部収容定員を増加させる学部等（予定時期）

今回	令和３年３月 23 日付け届出
（※２）令和６年４月（異文化コミュニケーション学部） （※３）令和７年４月（情報社会デザイン学部）	（※２）令和６年４月（異文化コミュニケーション学部及び情報社会デザイン学部）

（変更理由）

【再掲】昨今の社会状況の変化及び大学に対する社会からの期待（環境教育、社会と連携した実践的（PBL）教育、遠隔授業の大胆な活用、文理横断教育等）に応えることができる学部とするため、オンラインの活用による遠隔授業の導入等のコロナ禍を踏まえた高等教育の変化への対応、教育未来創造会議、骨太の方針 2022 等で言及されているデジタル及びグリーン人材の育成、文理横断的な学びへの転換等について、時間をかけてより丁寧かつ慎重な検討を行った上で、設置することとしたいため。

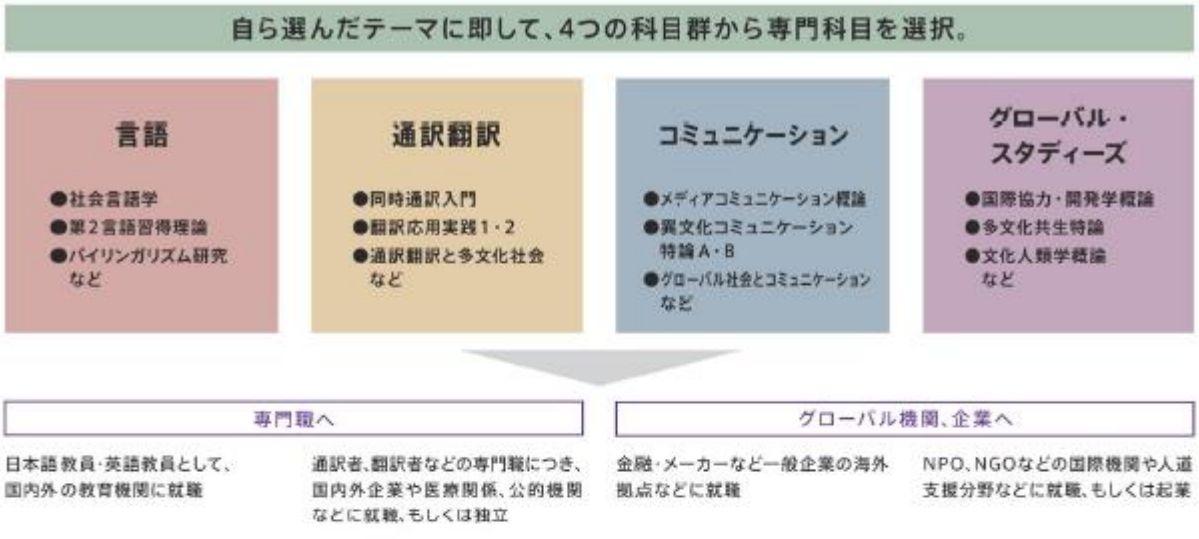
また、令和４年 10 月の大学設置基準の改正に伴って新設された、教育課程等に係る特例制度の活用の可否について検討を行いたいため。

【除外規定を受けることができることを証するための添付書類】

令和２年７月１日付届出書（当初届出）から変更なし。

資料５　異文化コミュニケーション学部の教育課程の特徴

カリキュラムの特徴



		1年次	2年次	3年次	4年次
共通	必修科目	●基礎演習A・B ●言語・コミュニケーション研究入門 ●グローバル研究入門	●Cultural Exchange		
	海外研修 [原則全員参加]		●海外留学研修A・B・C1（秋学期）	●海外留学研修C2	
選択科目	学びの精神	●College Life Planning A・B			
	発展科目	●コミュニケーションセミナー（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語）			
			●諸言語特別演習A・B		
		●日本語コミュニケーションA・B・C・D（原則留学生のみ履修可）		●ビジネス日本語コミュニケーション演習	
				●キャリア実践演習A・B（原則留学生のみ履修可）	
			●フィールドワーク	●海外インターンシップ（CIC）B　●海外フィールドスタディB	
			●サービスラーニングA		
		●海外フィールドスタディA　●サービスラーニングB・C　●インターンシップ　●海外インターンシップ（CIC）A			
	基礎科目	●言語学概論　●コミュニケーション研究概論　●国際協力・開発学概論　●通訳翻訳学概論　●グローバル化とジェンダー　●多文化共生概論			
	専門科目		●異文化トレーニング演習　●通訳入門　●国際協力・開発学特論　●グローバル研究調査法		
			●バイリンガリズム研究　●コミュニケーション特論　●視覚芸術特論　●宗教と文化		
				●グローバル化と言語　●英語科教育研究　●通訳翻訳実習	
	専門演習 卒業研究			●専門演習1	●専門演習2・3
					●卒業研究／卒業課題

※一部抜粋

※2023 年度学部パンフレット（P6）

立教大学協定校一覧 / Partner Universities and Institutions of Rikkyo University

As of May 20, 2022

協定数/ Number of Agreements : 261
協定校数/ Number of Universities and Institutions : 229
世界44か国・地域/ 44 countries and regions

Region	Country/Region	Name of Institutions (in English)	学校・機関名(in Japanese)	大学間協定(U)・学部間協定(C) Agreement between Universities(U) /Colleges(C)	協定詳細 Details of Agreement *Please see below	学生交換協定 Student Exchange Agreement
Africa	Liberia	Cuttington University	カチントン大学	U		
	Morocco	ISCAE	ISCAE経営大学	C	B	●
Asia	Bangladesh	BRAC	BRAC	U		
	Bangladesh	BRAC University	BRAC大学	U		
	Bangladesh	The Grameen Bank	グラミン銀行	U		
	Bangladesh	University of Dhaka	ダッカ大学	U		
	Brunei	Universiti Brunei Darussalam	ブルネイダルサラーム大学	C	I	●
	China	Beijing Foreign Studies University	北京外国語大学	C, U	A, T	●
	China	Beijing Normal University	北京師範大学	C	B	●
	China	Chinese Academy of Sciences	中国科学院昆明植物研究所	C	Sc	
	China	Chinese Academy of Social Sciences	中国社会科学院	U		
	China	East China Normal University	華東師範大学	U		●
	China	Jilin University	吉林大学	U		●
	China	Nanjing University	南京大学	U		●
	China	Nankai University	南開大学	U		●
	China	Renmin University of China	中国人民大学	U		●
	China	Shanxi University	山西大学	C, U	B	●
	China	Sun Yat-sen University	中山大学	C	T	●
	China	Tongji University	同済大学	C	So	●
	China	Tsinghua University	清華大学	C	I	●
	China	Xiamen University	厦門大学	U		●
	Hong Kong	Hong Kong Polytechnic University	香港理工大学	C	B	●
	Hong Kong	Lingnan University	嶺南大学	U	G	●
	Hong Kong	The Chinese University of Hong Kong	香港中文大学	U		●
	Indonesia	Bogor Agricultural University	ボゴール農科大学	U		
	Indonesia	Brawijaya University	ブラウィジャヤ大学	U		
	Indonesia	National Development Planning Agency, Republic of Indonesia (BAPPENAS	インドネシア国立開発企画庁	U		
	Indonesia	Padjadjaran University	パジャジャラン大学	U		●
	Indonesia	Sriwijaya University	スリウィジャヤ大学	U		
	Indonesia	Gadjah Mada University	ガジャマダ大学	U		
	Indonesia	Udayana University	ウダナヤ大学	U		
	Indonesia	University of Indonesia	インドネシア大学	C	T	●
	Israel	Tel Aviv University	テルアビブ大学	U		
	Korea	Ewha Womans University	梨花女子大学	C, U	E	●
	Korea	Chung-Ang University	韓国中央大学校	C	o	
	Korea	Hankuk University of Foreign Studies	韓国外国語大学	C	A, T	●
	Korea	Hanyang University	漢陽大学	C	T	●
	Korea	Korea University	高麗大学	U		●
	Korea	Kyung Hee University	慶熙大学	C	B	●
	Korea	Sogang University	西江大学	U		●
	Korea	Soongsil University	崇實大学	C		
	Korea	Sungkonghoe University	聖公会大学	C, U	I	●
	Korea	The University of Seoul	ソウル市立大学	C	O, So	●
	Korea	Yonsei University	延世大学	U		●
	Korea	University of North Koean Studies	北韓大学院大学	C	I	
	Laos	National University of Laos	ラオス国立大学	C	T	
	Malaysia	University of Malaya	マラヤ大学	C	T	●
	Malaysia	University of Sains Malaysia	マレーシア科学大学	C	T	
	Mongolia	National University of Mongolia	モンゴル国立大学	C	T	●
	Mongolia	Soyol Erdem University	モンゴル文化教育大学	U		
	Nepal	Tribhuvan University	トリブバン大学	U		●
	Philippines	Ateneo de Manila University	アテネオデマニラ大学	U		●
	Philippines	PBSP	PBSP	U		
	Philippines	Trinity University of Asia	アジアトリニティ大学	U		●
	Singapore	Nanyang Technological University	南洋理工大学	U		●
	Singapore	National University of Singapore	シンガポール国立大学	U		●
	Singapore	Singapore Management University	シンガポール経営大学	C	B, L	●
	Taiwan	Chang Gung University	長庚大学	C	B	●
	Taiwan	Fu Jen Catholic University	天主教輔仁大学	C, U	So	●
	Taiwan	National Chengchi University	国立政治大学	U		●
	Taiwan	National Cheng Kung University	国立成功大学	C	I	●
	Taiwan	National Dong Hwa University	国立東華大学	C	E	
	Taiwan	National Taipei University	国立台北大学	C	E	
	Taiwan	National Taiwan Normal University	国立台湾師範大学	C, U	I	●
	Taiwan	St. John's University	セントジョーンズ大学(聖約翰科技大學)	U		●
	Taiwan	Wenzao Ursuline University of Languages	文藻外語大学	C	I	●
	Thailand	Chiang Mai University	チェンマイ大学	C	T	●
	Thailand	Chulalongkorn University	チュラロンコン大学	C, U	T	●
	Thailand	Population and Community Development Association (PDA)	人口と地域開発協会	U		
	Thailand	Thammasat University	タマサート大学	C	T	●
	Vietnam	Foreign Trade University	貿易大学	C	B	●
	Vietnam	RMIT Vietnam	RMIT大学ベトナム校	U		●
	Vietnam	University of Social Sciences and Humanities, Vietnam National University - Hanoi	ベトナム国家大学ハノイ・社会科学人文科学大学	C	T	●
	Vietnam	University of Social Sciences and Humanities, Vietnam National University - Ho Chi Minh	ベトナム国家大学ホーチミン・社会科学人文科学大学	U		
Europe	Austria	University of Innsbruck	インスブルック大学	C	A	●
	Belgium	KU Leuven	ルーヴェン大学	U		●
	Czech Republic	Masaryk University	マサリク大学	C	I	●
	Denmark	Aarhus University	オーフス大学	C	B	●
	Denmark	Copenhagen Business School	コペンハーゲン経営大学	C	B	●
	Denmark	Roskilde University	ロスキレ大学	C	I	●
	Finland	Hanken School of Economics	ハンケン経済大学	U	B	●
	Finland	University of Turku	トゥルク大学	C, U	B	●
	France	EDHEC Business School	EDHEC経営大学	C	B	●
	France	France Business School	ESCEM経営大学	C	B	●
	France	IESEG School of Management	IESEG経営大学	C	B	●
	France	INALCO	INALCO(フランス東洋言語文化研究所)	U		●
	France	Panthéon-Assas University (Paris 2)	パリ第2大学	U		
	France	NEOMA Business School	NEOMA経営大学	C	B	●
	France	Jean Moulin University (Lyon 3)	リヨン第3大学	U		●
	France	Paris Diderot University (Paris 7)	パリ大学	U		●
	France	University of Marne-la-Vallée	ギュスターヴエッフェル大学	U		●
	France	University of Orleans	オルレアン大学	C	I	●
	Germany	Bergische University of Wuppertal	ヴッパータール大学	U		●
	Germany	Cologne Business School	ケルン経営大学	C	B	●
	Germany	EBS Business School	EBS経営大学	C	B	●
	Germany	University of Frankfurt	フランクフルト大学	C	A	●
	Germany	Humboldt University of Berlin	フンボルト大学	U		●
	Germany	University of Bonn	ボン大学	U		●
	Germany	University of Cologne	ケルン大学	C	A	●
	Germany	University of Erlangen-Nurnberg	エアランゲンニュルンベルグ大学	C	A	●
	Germany	University of Freiburg	フライブルグ大学	C	I	●
	Germany	University of Marburg	マールブルク大学	U		●
	Germany	University of Tubingen	テュービンゲン大学	C, U	B	●
	Greece	American College of Greece	ギリシャアメリカン大学	U	G	●
	Hungary	Eotvos Lorand University	エトヴェシュ・ロラーンド大学	C	I	●
	Ireland	Dublin City University	ダブリンシティ大学	U		●
	Italy	John Cabot University	ジョンカボット大学	U	G	●
	Italy	University of Verona	ヴェローナ大学	U		●
	Netherland	Leiden University	ライデン大学	U		●
	Netherland	Leiden University College	ライデンユニバーシティカレッジ	U	G	●
	Netherland	Radboud University Nijmegen	ラドバウド大学	C, U	B	●
	Netherland	Rotterdam Erasmus University	ロッテルダムエラスムス大学	U		●
	Netherland	University College Utrecht	ユニバーシティカレッジユトレヒト	U		●
	Netherland	ZUYD University of Applied Sciences	ゾイド応用科学大学	C, U	I	●
	Norway	BI Norwegian School of Management	BIノルウェー経営大学	C	B	●
	Norway	Norwegian School of Economics and Business Administration, NHH	NHHノルウェー経済大学	C	B	●
	Norway	University of Agder	アグデル大学	C	I	●
	Norway	Volda University College	ヴォルダ大学	U	G	●
	Poland	SWPS University of Social Sciences and Humanities	SWPS社会科学人文科学大学	C	I	●
	Poland	University of Warsaw	ワルシャワ大学	U		●
	Slovenia	University of Ljubljana	リュブリャナ大学	C	B, I	●
	Spain	Abat Oliba CEU University	アバットオリバCEU大学	C	I	●

Region	Country/Region	Name of Institutions (in English)	学校・機関名 (in Japanese)	大学間協定(U)・学部間協定(C) Agreement between Universities(U) /Colleges(C)	協定詳細 Details of Agreement *Please see below	学生交換協定 Student Exchange Agreement
	Spain	University of Alicante	アリカンテ大学	U		●
	Spain	University of Salamanca	サラマンカ大学	U		●
	Spain	University of Leon	レオン大学	U		●
	Spain	Autonomous University of Barcelona	バルセロナ自治大学	U		
	Spain	University of Seville	セビリア大学	U		●
	Spain	University of the Basque Country	バスク大学	C	I	●
	Sweden	Lund University	ルンド大学	C	B	●
	Sweden	Uppsala University	ウプサラ大学	C	B	●
	Switzerland	FHS St. Gallen, University of Applied Sciences	ザンクトガレン応用科学大学	U		●
	Switzerland	Zurich University of Applied Sciences	ZHAW経営大学	C	B	●
	Turkey	Sabanci University	サバンジュ大学	U		●
	U.K.	Aberystwyth University	アベリストウィス大学	U		●
	U.K.	The University of Manchester	マンチェスター大学	C	I	●
	U.K.	University of Cambridge	ケンブリッジ大学	C	A	●
	U.K.	University of Chichester	チチェスター大学	U		●
	U.K.	University of Essex	エセックス大学	U		●
	U.K.	University of Lincoln	リンカーン大学	U		●
	U.K.	University of Liverpool	リヴァプール大学	U		●
	U.K.	University of Sheffield	シェフィールド大学	U		●
	U.K.	University of Stirling	スターリング大学	C	B	●
	U.K.	University of Sussex	サセックス大学	U		●
	U.K.	York St John University	ヨークセントジョーン大学	C	I	●
North America	Canada	Douglas College	ダグラス大学	U		●
	Canada	HEC Montreal	モントリオール経営大学	C	B	●
	Canada	Memorial University of Newfoundland	ニューファンドランドメモリアル大学	U		●
	Canada	Queens University at Kingston	クイーンズ大学	C	B	●
	Canada	Saint Mary's University	セントメリーズ大学	U		●
	Canada	St. Thomas University	セントトーマス大学	U	G	●
	Canada	University of Sherbrooke	シェルブルック大学	U		●
	Canada	University of Quebec at Montreal	ケベック大学モントリオール校	C, U	B	●
	Canada	University of the Fraser Valley	フレーザーバレー大学	U		●
	Canada	University of Lethbridge	レスブリッジ大学	U	G	●
	Canada	University of Victoria	ヴィクトリア大学	C	B	●
	U.S.A	Arkansas State University	アーカンソー州立大学	U		●
	U.S.A	Augustana College	オーガスタナ大学	U	G	●
	U.S.A	Austin Peay State University	オースティンピー州立大学	C	I	●
	U.S.A	Beloit College	ベロイト大学	U		●
	U.S.A	California Polytechnic State University, San Luis Obispo	カリフォルニアポリテクニック州立大学サンルイスオビスポ校	U		●
	U.S.A	California State University, San Marcos	カリフォルニア州立大学サンマルコス校	C	B	●
	U.S.A	Clemson University	クレムソン大学	U		
	U.S.A	Columbia University	コロンビア大学	C	A	
	U.S.A	Cornell University	コーネル大学	U		●
	U.S.A	Eastern Kentucky University	イースタンケンタッキー大学	C	B	●
	U.S.A	Emory & Henry College	エモリーアンドヘンリー大学	U		●
	U.S.A	Jacksonville University	ジャクソンビル大学	U	G	●
	U.S.A	Kansas State University	カンザス州立大学	U	I	●
	U.S.A	Kent State University	ケント州立大学	U		●
	U.S.A	Kenyon College	ケニオン大学	U		
	U.S.A	Linfield College	リンフィールド大学	U	G	●
	U.S.A	Louisiana State University and Agricultural & Mechanical College	ルイジアナ州立大学	U		●
	U.S.A	Mercy College	マーシー大学	U		●
	U.S.A	Millikin University	ミリキン大学	U	G	●
	U.S.A	Montana State University	モンタナ州立大学	U		●
	U.S.A	Moravian College	モラヴィアン大学	U	G	●
	U.S.A	Nazareth College	ナザレス大学	U	G	●
	U.S.A	Northeastern Illinois University	ノースイースタンイリノイ大学	U		●
	U.S.A	Northeastern University	ノースイースタン大学	C	B	●
	U.S.A	Northern Arizona University	ノーザンアリゾナ大学	C, U	G, I	●
	U.S.A	City University of New York	ニューヨーク市立大学	C	B	●
	U.S.A	Pacific University	パシフィック大学	C	I	●
	U.S.A	Presbyterian College	プレスビテリアン大学	U	G	●
	U.S.A	Randolph-Macon College	ランドルフメーコン大学	U	G	●
	U.S.A	Rider University	ライダー大学	C	G	●
	U.S.A	San Diego State University	サンディエゴ州立大学	C	I	●
	U.S.A	St. Cloud State University	セントクラウド州立大学	C, U	B	●
	U.S.A	State University of New York, Geneseo	ニューヨーク州立大学ジェネセオ校	U	G	●
	U.S.A	Stockton University	ストックトン大学	U		●
	U.S.A	Texas State University, San Marcos	テキサス州立大学サンマルコス校	U		●
	U.S.A	The Ohio State University	オハイオ州立大学	C	B, I	●
	U.S.A	The University of Chicago	シカゴ大学	U		●
	U.S.A	The University of the South	サウス大学	U	G	●
	U.S.A	The University of West Alabama	ウェストアラバマ大学	U		●
	U.S.A	Trinity College	トリニティカレッジ	U	G	●
	U.S.A	Trinity University	トリニティユニバーシティ	U	G	●
	U.S.A	University of California, Santa Cruz	カリフォルニア大学サンタクルーズ校	U		●
	U.S.A	University of Central Oklahoma	セントラルオクラホマ大学	U		●
	U.S.A	University of Central Florida	セントラルフロリダ大学	C	T	●
	U.S.A	University of Dallas	ダラス大学	U		●
	U.S.A	University of Denver	デンバー大学	C	I	●
	U.S.A	University of Hawaii at Hilo	ハワイ大学ヒロ校	C	A, B	●
	U.S.A	University of Hawaii at Manoa	ハワイ大学マノア校	C	T	●
	U.S.A	University of Houston	ヒューストン大学	C	T	●
	U.S.A	University of Missouri, St. Louis	ミズーリ大学セントルイス校	C	B	●
	U.S.A	University of New Mexico	ニューメキシコ大学	U		●
	U.S.A	University of Oregon	オレゴン大学	U		●
	U.S.A	University of Tennessee at Chattanooga	テネシー大学チャッタヌーガ校	C	I	●
	U.S.A	University of Toledo	トレド大学	U		●
	U.S.A	University of Vermont	バーモント大学	U	G	●
	U.S.A	University of Virginia	ヴァージニア大学	U		●
	U.S.A	University of Washington	ワシントン大学	U		●
	U.S.A	University of West Florida	ウエストフロリダ大学	U		●
	U.S.A	Virginia Wesleyan University	ヴァージニアウェスレアン大学	U	G	●
	U.S.A	Western Michigan University	ウェスタンミシガン大学	U		●
	U.S.A	Wittenberg University	ウィッテンバーグ大学	U	G	●
Oceania	Australia	Curtin University	カーティン大学	U		●
	Australia	Deakin University	ディーキン大学	C	B	●
	Australia	LaTrobe University	ラトローブ大学	U		●
	Australia	Macquarie University	マッコリー大学	C	I	●
	Australia	Monash University	モナシュ大学	C	O, So	●
	Australia	Murdoch University	マードック大学	U		●
	Australia	Queensland University of Technology	クイーンズランド工科大学	C	B	●
	Australia	University of New South Wales	ニューサウスウェールズ大学	U		●
	Australia	University of South Australia	南オーストラリア大学	C, U	So	●
	Australia	University of Sydney	シドニー大学	C	I	●
	New Zealand	Victoria University of Wellington	ウェリントンヴィクトリア大学	U		●
Latin America	Mexico	Monterrey Institute of Technology	モンテレイ工科大学	U		●
	Brazil	University of San Paulo	サンパウロ大学	U		●
				C 86		199
				U 128		(●合計)
				C, U 15		

Name of College and Graduate School (in English)	学部・研究科名 (in Japanese)	凡例/Legend	協定詳細合計
Arts	文	A	9
Economics	経済	E	3
Sociology	社会	So	5
Law	法	L	1
Science	理	Sc	1
Business	経営	B	41
Intercultural Communication	異文化コミュニケーション	I	30
Tourism	観光	T	16
Community and Human Services	コミュニティ福祉	C	0
Contemporary Psychology	現代心理	CP	0
GLAP	GLAP	G	24
Others(Institutions)	その他(研究所など)	O	3

資料７　授業科目（複数クラス）の精選

◯履修モデル：一般／DLP

（クラス数）

授業科目名	2019	2020～2023	2024
①Seminar in English	6	12	8
②Japan Studies Program	6（2）	12（8）	6（2）
③間文化研究	–	2	1
④異文化コミュニケーション特論	2	2	1
⑤Special Topics in ICC	3	3	1

※①及び②は、海外留学が不可能な場合に対応するため 2020 年度からクラス数を増設したが、2024 年度は海外留学の実施に目途が立ったと判断し、クラス数を減少する。

ただし、①については、2020 年度以降、12 クラスで運営してきた４年間の履修動向を踏まえ、2020 年度からの増加分（６クラス）の全てを減少するのではなく、４クラスの減少に留める。

※②の（　）内の数字は DLP 対象のクラス数

※③～⑤については、これまでの履修動向を踏まえてクラス数を減少する。

◯履修モデル：TBP（2020 年度から履修モデル化）

（クラス数）

授業科目名	2020～2023	2024
①Seminar in English	12	8
②Japan Studies Program	12	6
③間文化研究	2	1
④異文化コミュニケーション特論	2	1
⑤Special Topics in ICC	3	1

※クラス数の減少における考え方は、「一般」と同様である。

◯履修モデル：PEACE（2022 年度から開始）

（クラス数）

授業科目名	2022～2023	2024
①Seminar in English	–	–
②Japan Studies Program	6	3
③間文化研究	2	1
④異文化コミュニケーション特論	2	1
⑤Special Topics in ICC	3	1

※①は PEACE 対象外

※その他のクラス数の減少における考え方は、「一般」と同様である。

2022 年 4 月 12 日
教授会資料

2022 年度　アカデミック・アドバイザーについて

○　アカデミック・アドバイザーの担当について

・（以下以外の学生は）学籍番号順に担当教員を決める
・5 年一貫入試入学の学生は各専門領域教員（松下、中田、池田、日下部）が担当
・ＤＬＰ学生については、ＤＬＰ委員会の委員（特任教員を含む）が担当
・留学生については、学部長・学科長および日本語教育担当教員（池田、丸山）が担当

○　面談メモの取り扱いについて

・アドバイザー教員がグーグルフォームに記入することで事務と共有する。
・特に必要な場合は、学部長の判断により、他専任教員によるフォームの閲覧を可とする。ただし、閲覧した個人情報の取り扱いについては、十分に注意する。
・学生には、入学に当たって本学のプライバシーポリシーを示し、教育上必要な情報を校務のために利用することについて理解を得ており、面談メモについても必要な範囲で教育指導に活用していくことは問題ない（個人情報保護委員会確認済み）。他方で、面談メモの内容も個人情報に該当し、開示等請求の対象となり得ることに留意すること。

○　2022 年度入学生対象、面談趣旨、実施方法およびスケジュール

入学後から留学出発前までに計 4 回の面談の実施をお願いいたします。面談はオンラインと対面のどちらで実施していただいても結構です。学生と相談の上、面談の実施方法を決定してください。

留学前までの学びが充実したものとなるよう、教員からの質問や助言を通して、学生が自ら考える機会を作るとともに、教員もまた学生の授業の印象などについて情報を得ることにより、カリキュラムやプログラムの改善のための手がかりを得ることができればと考えています。また、来年度はオンライン授業と対面授業が混在する形となりますので、学生の学習環境に問題がないかどうかについてもご確認いただければ幸いです。

先生方のご協力をお願いします。

ご参考までに、各回でアドバイザーから確認、助言していただきたい点は以下の通りです。

第 1 回：５月中旬（入学後１ヵ月経過）

・大学の授業・学習に慣れたかどうか、学習環境に問題はないか
・関心ある専門領域の確認
・レポート、テストなどの授業課題に対する助言
・留学の目的、計画について意識化

第 2 回：9 月末～10 月初旬頃（春学期の成績判明後、留学先を考える時期）

・春学期成績について本人の印象の確認
・秋学期の履修や目標、関心ある専門領域の確認
・留学先、目的、計画の具体化に向けての確認
（留学を希望しない場合→他言語圏留学の可能性／2 年秋学期の履修計画を助言）

第 3 回：12 月中旬頃（秋学期試験前、留学先決定前後）

・秋学期末のレポート、試験について動機づけ
・留学先決定状況の確認
・留学に向けての（特に学習／研究面での）準備について助言

第 4 回：2 年次 6 月頃（入学 1 年後の春学期試験前、留学準備時期）

・これまでの学びのふりかえり
・留学への動機、姿勢の確認、助言→3 年次以降の学びにつながる留学を
・（留学しない場合）秋学期履修について助言、確認

以上

資料９　本学既設学部と異文化コミュニケーション学部（増加後）の S/T 比

学部名	収容定員	教員数	S/T比
理学部	1,168	75	15.57
異文化コミュニケーション学部（増後）	840	34	24.71
スポーツウエルネス学部	920	25	36.80
文学部	3,672	85	43.20
経営学部	1,540	35	44.00
現代心理学部	1,276	29	44.00
コミュニティ福祉学部	1,400	30	46.67
法学部	2,340	50	46.80
観光学部	1,480	29	51.03
社会学部	2,076	40	51.90
経済学部	2,736	52	52.62
合計	19,448	484	40.18

資料 10　競合校と異文化コミュニケーション学部（増加後）の S/T 比

大学等名	収容定員	教員数	S/T比
青山学院大学国際政治学部国際コミュニケーション学科	296	14	21.14
法政大学国際文化学部	996	47	21.19
異文化コミュニケーション学部（増後）	840	34	24.71
早稲田大学国際教養学部	2,400	90	26.67
明治大学国際日本学部	1,600	49	32.65
上智大学総合グローバル学部	880	26	33.85
合計	7,012	260	26.97

※各大学のウェブサイト又は大学ポートレートから引用

資料 11　大学設置基準における校地面積及び校舎面積と本学の校地面積及び校舎面積

（１）大学設置基準における校地面積及び校舎面積と本学の校地面積及び校舎面積（一覧）

	大学設置基準	大学全体	池袋キャンパスのみ
校地面積	194,480 ㎡	257,945 ㎡	69,830 ㎡
校舎面積	87,898 ㎡	176,406 ㎡	126,230 ㎡

※池袋キャンパスのみで、大学設置基準における校舎面積を上回っている

（２）大学設置基準における校地面積及び校舎面積の算出方法

◯設置基準上の校地面積　⇒　収容定員合計×10　⇒　19,448×10=194,480

◯設置基準上の校地面積

・基準校舎面積　⇒　14,449.96（文学部）

学部名	収容定員数	学部の種類	算定式	基準校舎面積
文学部	3,672	文学関係	(3672-800) ×1322/400+4958	14,449.96
経済学部	2,736	経済学関係	(2736-800) ×1322/400+4958	11,356.48
理学部	1,168	理学関係	(1168-800) ×3140/400+8925	11,813.8
社会学部	2,076	社会学・社会福祉学関係	(2076-800) ×1322/400+4958	9,175.18
法学部	2,340	法学関係	(2340-800) ×1322/400+4958	10,047.7
観光学部	1,480	社会学・社会福祉学関係	(1,480-800)×1,322/400+4,958	7,205.4
コミュニティ福祉学部	1,400	社会学・社会福祉学関係	(1400-800) ×1322/400+4958	6,941
経営学部	1,540	経済学関係	(1540-800) ×1322/400+4958	7,403.7
現代心理学部	1,276	文学関係	(1,276-800) ×1,322/400+4,958	6,531.18
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部	840	文学関係	(840-800) ×1322/400+4958	5,123.3
スポーツウエルネス学部	920	体育関係	(920-800) ×1,983/400+6,280	7,414.9

・加算校舎面積　⇒　73,448（文学部を除く 10 学部の合計）

学部名	収容定員数	学部の種類	算定式	基準校舎面積
文学部	－	文学関係	－	－
経済学部	2,736	経済学関係	7768+((7768-7107) ×4	10,412
理学部	1,168	理学関係	大学設置基準別表第三ハをそのまま適用（1,200 人まで）	10,147
社会学部	2,076	社会学・社会福祉学関係	7768+(7768-7107)	8,429
法学部	2,340	法学関係	7768+(7768-7107) ×2	9,090
観光学部	1,480	社会学・社会福祉学関係	別表第三ハをそのまま適用（1,600 人まで）	6,446
コミュニティ福祉学部	1,400	社会学・社会福祉学関係	別表第三ハをそのまま適用（1,400 人まで）	5,785
経営学部	1,540	経済学関係	別表第三ハをそのまま適用（1,600 人まで）	6,446
現代心理学部	1,276	文学関係	別表第三ハをそのまま適用（1,400 人まで）	5,785
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部	840	文学関係	別表第三ハをそのまま適用（1,000 人まで）	4,462
スポーツウエルネス学部	920	体育関係	別表第三ハをそのまま適用（1,000 人まで）	6,446
			合計	73,448

・基準校舎面積と加算校舎面積の合計　⇒　87,898

2021年度　立教大学図書館　統計・データ集

2021年度は2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開館時間短縮やグループ学習スペース利用中止などの対応を継続したが、学内の制限レベル移行、対面授業の再開に合わせて段階的に開館時間、入館者数等、各種利用サービスの制限を緩和しつつ、開館を行なってきた。その結果、入館者数は多少回復したものの、2019年度以前の運用に戻るにはまだまだ遠い状況が続いており、2021年度統計数値にもそれが反映されていることをご承知おき頂きたい。

<利用者サービス統計>

■　開館日数

（日）

	2021年度
池袋図書館	310
新座図書館	309

■　入館者数

（人）

	2021年度		
	入館者数	1日平均	学外者
池袋図書館	298,786	964	0
新座図書館	59,769	193	0
計	358,555	—	0

注：2021年度も新型コロナウィルス感染症対策のため、学外者の利用を制限した。

■　館外貸出冊数

（冊）

	2021年度			
	貸出冊数			1日平均
	総冊数	うち自動貸出装置	うちMyLibraryによる延長	
池袋図書館	120,765	64,796	22,262	390
新座図書館	31,009	8,810	5,004	100
新座保存書庫	3,902	76	925	—
計	155,676	73,682	28,191	—

注．視聴覚資料含む

■　学内他館取寄せ件数

（件）

	2021年度	
	新座図書館・新座保存書庫	池袋図書館・新座保存書庫
池袋図書館	10,773	-
新座図書館	-	4,200
計	10,773	4,200

■　グループ学習室利用件数

（件）

	2021年度
池袋図書館	-
新座図書館	-
計	-

注：2021年度も新型コロナウィルス感染症対策のため、利用を制限した。

■ 複写枚数

（枚）

	2021年度
池袋図書館	190,736
新座図書館	14,262
計	204,998

注：マイクロ資料からの複写含む

■ 校友利用証の発行

（件）

	2021年度
池袋図書館	0
新座図書館	0
計	0

注：2021年度も新型コロナウィルス感染症対策のため、利用を制限した。

■ 学外相互協力

(1) 学外相互協力 （件）

		2021年度		
		文献複写＊	資料貸借＊	紹介状
池袋図書館	依頼	560	275	0
	受理	1,401	677	0
新座図書館	依頼	177	5	0
	受理	285	45	0

注1.*は「謝絶･キャンセル」を除外

注2.2021年度も新型コロナウィルス感染症対策のために紹介状の発行受付は原則中止とした。

(2) 山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム利用者

（人）

	2021年度	
	立教大学から	立教大学へ
青山学院大学	－	－
学習院大学	－	－
國學院大學	－	－
専修大学	－	－
東洋大学	－	－
法政大学	－	－
明治大学	－	－
明治学院大学	－	－
計	－	－

注：2021年度も新型コロナウィルス感染症対策のため、実施せず。

<リテラシー教育>

■ 図書館ガイダンス

2021年度	
春学期（4月）	新任教員ガイダンス（オンデマンド）
	春学期特別外国人学生ガイダンス（オンデマンド）
秋学期（9月）	秋学期特別外国人学生ガイダンス（オンデマンド）
	経営学研究科/異文化コミュニケーション研究科（オンデマンド）

※注：新型コロナウィルス感染症対策のため、2021年度も動画・パワーポイント等オンラインコンテンツに基づくオンデマンドでの実施。

■　図書館活用講座

開催回数 0回、参加者数 0名

	2021年度						
	池袋				新座		
レベル	1	2	3	計	オーダーメード	観光学部対象	計
回数	-	-	-	-	-	-	-
人数	-	-	-	-	-	-	-

注：新型コロナウィルス感染症対策により、2021年度も学修支援企画はオンラインコンテンツ活用に重点を置き、対面実施の活用講座は見送ることとなった。

■　授業内情報検索講習会

開催回数　40回、参加者数　711名（池袋　32回　537名、新座 8回　174名）

	2021年度							
	池袋				新座			
レベル	入門	発展	分野別	計	入門	発展	分野別	計
回数	9	13	10	32	5	1	2	8
人数	110	165	262	537	134	22	18	174

注1．入門編: 図書館の利用方法とREAD（ディスカバリーサービス）の使い方、RIKKYO Learning Style導入期に対応

発展編: データベースを使った情報検索ガイダンス、RIKKYO Learning Style形成期に対応

分野別: 入門編・発展編に当てはまらない、授業の目的に合った形で講習

注2．オンライン（Zoom）利用による講習会を継続展開。また、代替としてBlackboard公開のコンテンツの積極活用も案内した。

■　外部データベース講習会

講習	2021年度							
	池袋				新座			
	【春学期】		【秋学期】		【春学期】		【秋学期】	
	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数
EBSCOhost（日本語）	1	78	−	−	池袋と共催			
EBSCOhost（英語）	1	17	−	−				
東洋経済ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺﾝﾃﾝﾂ・ﾗｲﾌﾞﾗﾘｰ	−	−	1	30				
eol	−	−	1	33				
合計	2	95	2	63	−	−	−	−

注：新型コロナウィルス感染症対策により、2021年度も対面に替え、オンラインでのデータベース講習会を継続実施。海外系を含むデータベース3社（日・英各1回）を対象とし、国際センター、キャリアセンターとの協力により開催。

■　ラーニングアドバイザー相談件数

（件）

2021年度													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
池袋	5	11	20	39	—	6	15	21	26	15	—	—	158
新座	3	9	10	12	–	9	13	24	29	13	—	—	122

注1．8月・2～3月は長期休暇中のためサービスは実施せず

注2．2021年度も春学期はメール相談（ASK）とオンライン（Zoom)での相談を継続。秋学期11月からは、対面相談が再開され、対面相談・オンライン相談（Zoom）の併用運用が定着している。

<機関リポジトリ（立教大学学術リポジトリ「立教Roots」）>

■ 機関リポジトリ （件）

	2021年度
コンテンツ登録数（累積）	19,417
アクセス数（当該年度）	620,359
ダウンロード数（当該年度）	1,736,044

注：IRDBコンテンツ分析システム、及び、Wekoログ解析レポートより集計

（件）

博士学位論文	2021年度	
	累積数	年度内処理数
審査結果/要旨	301	36
論文全文公開数	208	32
論文の要約公開数	101	13

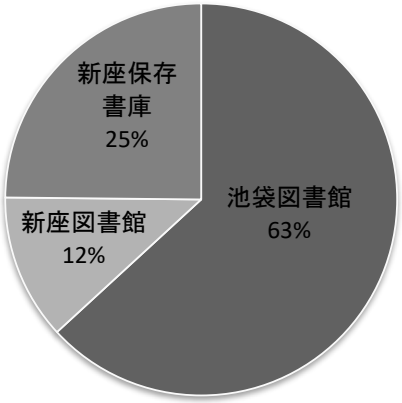
注：コンテンツ登録内数

<所蔵図書資料>

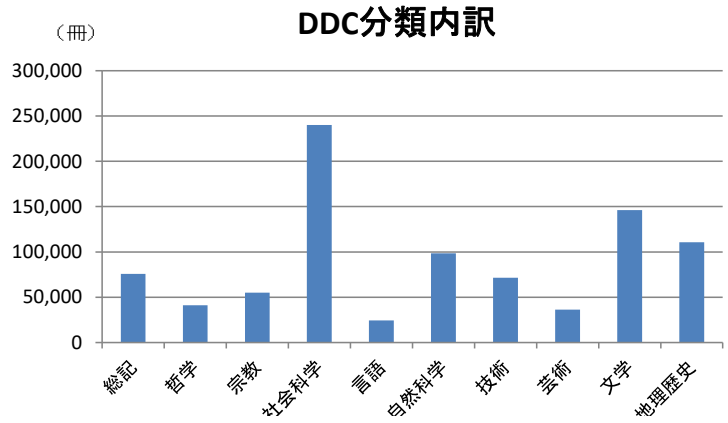
■ 蔵書冊数(視聴覚資料を除く)

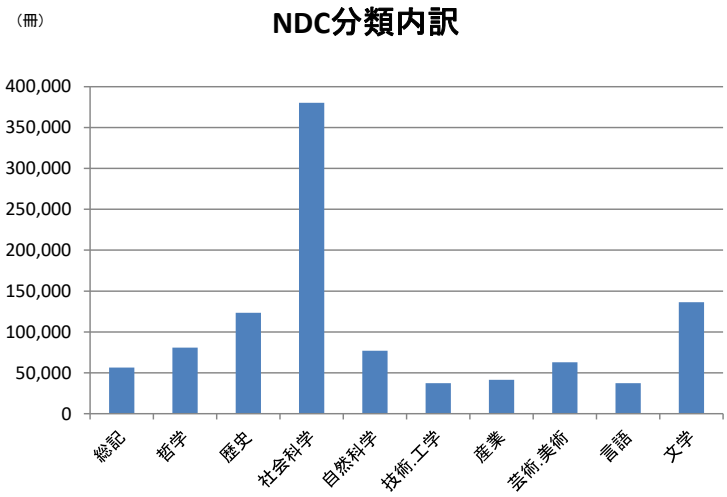
(1) 館別 （冊）

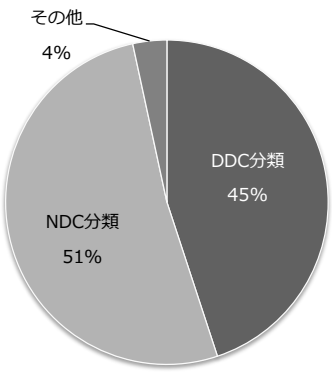
	2021年度末
池袋図書館	1,264,434
新座図書館	240,058
新座保存書庫	497,189
計	2,001,681



(2) 分類別







■　オンライン資料件数

2021年度		
電子ジャーナル	電子書籍	データベース
77,090	35,867	166

注：「文科省学術情報基盤実態調査（大学図書館編）」の種別による

■　年間受入図書資料

2021年度				
	図書* （冊）	雑誌 （種）	新聞 （種）	視聴覚資料（点）
池袋図書館	19,343	4,424	79	222
新座図書館	6,063	605	31	215
新座保存書庫	80	2	0	55
計	25,486	-	-	492

注：＊は製本雑誌含む

＜図書館施設＞

（2021年5月1日現在）

	用途別面積（㎡）							総面積	座席数（席）	所蔵可能冊数（冊）
	利用者ｻｰﾋﾞｽｽﾍﾟｰｽ				管理ｽﾍﾟｰｽ		その他			
	閲覧	視聴覚	情報端末	その他	書庫	事務				
池袋図書館	9,401	111	40	1,320	1,995	444	5,289	18,600	1,538	1,922,028
新座図書館	2,012	145	5	334	566	198	202	3,462	477	291,194
新座保存書庫	28	0	2	0	1,952	92	472	2,546	14	715,167
計	11,441	256	47	1,654	4,513	734	5,963	24,608	2,029	2,928,389

注１．「文部科学省　学術情報基盤実態調査(大学図書館編）」の算出方式による

注２．座席数については、上記の他に池袋図書館ラーニング・スクウェアに96席、新座図書館しおり内グループエリアに66席あり

■　利用者端末台数

（2021年5月1日現在）

	館内設置*1	貸出用*2	合計
池袋	297	368	665
新座	92	145	237
合計	401	513	902

注1．OPAC, CD-ROMサーバー専用端末除く

注2．メディアセンター管轄(館外利用可）で、「文部科学省学術情報基盤実態調査(大学図書館編)」の算出方式による





立教の世界展開力——世界で選ばれる大学へ／国際化に対応した施設・設備

立教大学

2023/01/17

RIKKYO GLOBAL

OVERVIEW

多様なバックグラウンドを持つ外国人留学生が安心して過ごせるように、またキャンパス内で学生たちが国籍を超えて交流できることを目的に、立教大学では国際化に対応したさまざまな施設・設備を整備しています。

グローバルラウンジ

日常的な異文化交流の促進や海外留学に向けた支援を目的とした「グローバルラウンジ」を、池袋・新座の両キャンパスに設置しています。同施設では、外国人留学生と外国語で会話を楽しむ「ワールドカフェ」、英語を使って学生同士で自由に交流できる「English Lounge」、外国人留学生が自国を紹介する「カントリーフェスタ」など多彩なイベントを開催。コロナ禍に

おいては、対面での国際交流が困難な中でも多くの学生にグローバル体験を提供できるよう、オンラインを活用した多様なイベント・取り組みを行っています。





祈りの部屋／Prayer Room



池袋キャンパスに「祈りの部屋／Prayer Room」（WANOMA／株式会社丹青社）を設置しています。主にイスラム圏からの留学生を想定していますが、特定の宗教に限定せずに利用可能です。

ハラル食堂



日本アジアハラール協会による「ハラル認証」を取得したハラルフードの食堂「東京ハラルデリ＆カフェ」を、2020年に新座キャンパスに、2022年には池袋キャンパスに開設しました。

国際交流ボランティア

外国人留学生のサポートを行う「国際交流ボランティア」制度を設けています。ボランティア活動を通して国際感覚や外国語運用能力を磨くことができます。

主な活動内容

- 交換留学生の来日時の出迎え・住民登録
- オリエンテーションサポート
- 日本語授業サポート
  （留学生が受講する日本語授業へのゲスト参加など）





- 留学生のバディ
  （Buddy＝グループを作り、留学生

※本記事は季刊「立教」262号（2022年11月発行）をもとに再構成したものです。バックナンバーの購入や定期購読のお申し込みはこちら
※記事の内容は取材時点のものであり、最新の情報とは異なる場合があります。

RELATED LINKS

立教から世界へ

CATEGORY

このカテゴリの他の記事を見る



RIKKYO GLOBAL

2023/01/17

立教の世界展開力——世界で選ばれる大学へ

立教大学



RIKKYO GLOBAL

2022/11/10

発展する海外インターンシッププログラム—現地経験とオンライン...

グローバル教育センター



RIKKYO GLOBAL

2022/10/28

興味に一直線！～海外で多彩な活動をする学生に聞いてみました～

三瓶 峻さん（経営学部国際経営学科4年次）、岡 望美さん（異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科4年次）、山本 彩由さん（社会学部社会学科4年次）

→ RIKKYO GLOBAL一覧へ戻る

Copyright © Rikkyo University. All Rights Reserved.

RIKKYO'S SOCIAL MEDIA

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科　一般）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部必修科目	基礎演習A	1前・後	2				○		8	2					
	基礎演習B	1前・後	2				○		8	2					
	異文化コミュニケーション研究入門	1前・後	2			○			13						オムニバス
	Cultural Exchange	2前	2				○		1	2		4			
	小計（4科目）	－	8	0	0	－			13	6	0	4	0		－
学びの精神	College Life Planning A	1前		2		○			1						
	College Life Planning B	1後		2		○						1			
	小計（2科目）	－	0	4	0	－			1	0	0	1	0		－
基盤科目	コミュニケーションセミナー1 （ドイツ語）	1前		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー1 （フランス語）	1前		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー1 （スペイン語）	1前		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー1 （中国語）	1前		2			○					1			
	コミュニケーションセミナー1 （朝鮮語）	1前		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー1 （ロシア語）	1前		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー2 （ドイツ語）	1後		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー2 （フランス語）	1後		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー2 （スペイン語）	1後		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー2 （中国語）	1後		2			○					1			
	コミュニケーションセミナー2 （朝鮮語）	1後		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー2 （ロシア語）	1後		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー3A-R(英語)	2前		2			○			2		3		兼1	
	コミュニケーションセミナー3B-R（ドイツ語）	2前		4			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー3B-R（フランス語）	2前		4			○							兼2	
	コミュニケーションセミナー3B-R（スペイン語）	2前		4			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー3B-R（中国語）	2前		4			○					1			
	コミュニケーションセミナー3B-R（朝鮮語）	2前		4			○							兼1	
	Seminar in English A	1・2・3・4前		2			○					1			
	Seminar in English B	1・2・3・4後		2			○					1			
	Seminar in English C	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Seminar in English D	1・2・3・4後		2			○			1					
	Seminar in English E	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Seminar in English F	1・2・3・4後		2			○					1			
	Seminar in English G	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Seminar in English H	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	ドイツ語Lecture A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	ドイツ語Lecture B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	フランス語Lecture A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	フランス語Lecture B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	スペイン語Lecture A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	スペイン語Lecture B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	中国語Lecture A	1・2・3・4前		2			○					1			
	中国語Lecture B	1・2・3・4後		2			○					1			
	朝鮮語Lecture A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	朝鮮語Lecture B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	日本語コミュニケーションA	1前		2			○							兼1	
	日本語コミュニケーションB	1後		2			○							兼1	
	日本語コミュニケーションC	1前		2			○							兼1	
	日本語コミュニケーションD	1後		2			○							兼1	
	ビジネス日本語コミュニケーション演習	3後		2			○							兼1	

	キャリア実践演習A	3前		2			○							兼1	
	キャリア実践演習B	3後		2			○							兼1	
	諸言語特別演習A	2・3・4後		2			○							兼1	
	諸言語特別演習B	2・3・4前		2			○							兼1	
	サービスラーニングA	1・2・3・4前		2				○	1			1			共同
	サービスラーニングB	1・2・3・4後		2				○	1			1			共同
	サービスラーニングC	1・2・3・4後		2				○		1					
	海外フィールドスタディA	1・2・3・4後		2				○	1						
	海外フィールドスタディB	1・2・3・4後		2				○	1						
	国内フィールドスタディA	1・2・3・4前		2				○	1						
	国内フィールドスタディB	1・2・3・4後		2				○	1						
	海外インターンシップ(CIC)A	1・2・3・4後		2				○	1						
	海外インターンシップ(CIC)B	3・4後		2				○	1						
	インターンシップ	1・2・3・4後		2				○						兼1	
	海外留学研修A	2後		12				○	2	1					
	海外留学研修B	2後		14				○	2	1					
	海外留学研修C1	2後		12				○	2	1					
	海外留学研修C2	3前		12				○	2	1					
	Study Abroad in Asia A	2・3・4後		12				○	2	1					
	Study Abroad in Asia B	3・4前		12				○	2	1					
	留学、学びのデザイン、キャリア	3前		2			○			1					
	Japan Studies Program A	1・2・3・4後		4		○								兼1	
	Japan Studies Program B	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	Japan Studies Program C	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	Japan Studies Program D	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	Japan Studies Program E	1・2・3・4前		4		○								兼1	
	Japan Studies Program F	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	言語研究調査法	2・3・4後		2		○								兼1	
	異文化トレーニング演習	2・3・4前		2			○							兼1	
	コミュニケーション研究調査法	2・3・4前		2		○								兼1	
	フィールドワーク	2・3・4後		2			○			1					
	小計（72科目）	－	0	220	0	－			8	4	0	4	0	兼33	－
基礎科目	言語学概論	1・2前		2		○			1						
	英語学概論	1・2後		2		○								兼1	
	日本語学概論A	1前		2		○			1						
	日本語学概論B	1後		2		○								兼1	
	通訳翻訳学概論	1・2後		2		○						1			
	コミュニケーション研究概論	1・2後		2		○			1						
	異文化コミュニケーション概論	2前		2		○			1						
	メディアコミュニケーション概論	1・2後		2		○								兼1	
	国際協力･開発学概論	1・2後		2		○				1					
	文化人類学概論	1・2前		2		○				1					
	カルチュラル･スタディーズ概論	1・2後		2		○								兼1	
	グローバル化とジェンダー	1・2前		2		○			1						
	国際協力･紛争研究概論	1・2後		2		○			1						
	人間環境概論	1・2前		2		○			1						
	多文化共生概論	1・2後		2		○								兼1	
	グローバル化と宗教	1・2後		2		○				1					
	視覚芸術概論	1・2・3前		2		○			1						
	音楽学概論	1・2・3後		2		○			1						
	コンピュータ･リテラシー	1・2前		2			○							兼1	
	小計（19科目）	－	0	38	0	－			9	3	0	1	0	兼6	－

専門科目	心理言語学	3前		2		○							兼1	
	社会言語学	3後		2		○							兼1	
	認知言語学	3・4前		2		○			1					
	語用論	3前		2		○							兼1	
	文化記号論	2・3・4前		2		○			1					
	第1言語習得理論	3前		2		○							兼1	
	第2言語習得理論	3後		2		○							兼1	
	バイリンガリズム研究	3前		2		○			1					
	英語教育学	2前		2		○							兼1	
	英語コミュニケーション教育学	3前		2			○						兼1	
	英語科教育研究	3後		2		○			1					
	外国語教育評価論	3後		2		○							兼1	
	日本語学特論	3・4後		2		○							兼1	
	日本語教授法A	2前		2		○			1					
	日本語教授法B	3前		2		○			1					
	日本語教育実習	3後		4				○	1				兼1	
	コミュニケーション文法	3後		2		○							兼1	
	言語研究特論	2・3・4後		2		○				1				
	通訳入門	2前		2			○		1					
	逐次通訳	3後		2			○						兼1	
	同時通訳入門	4前		2			○						兼1	
	翻訳入門	2前		2			○		1					
	翻訳応用実践1	3後		2			○						兼1	
	翻訳応用実践2	4前		2			○						兼1	
	通訳翻訳実習	4後		2				○				1		
	通訳翻訳特論	1・2・3・4前		2		○			1					
	非言語コミュニケーション論	1・2・3・4後		2		○				1				
	異文化コミュニケーション特論	3・4前		2		○			1					
	対人コミュニケーション論	3・4前		2		○							兼1	
	集団コミュニケーション論	3・4後		2		○				1				
	説得コミュニケーション論	3・4前		2		○			1					
	グローバル社会とコミュニケーション	3・4後		2		○			1					
	コミュニケーション･テクノロジーと社会	3・4前		2		○							兼1	
	コミュニケーション特論	3・4後		2		○							兼1	
	グローバル文化研究特論	2・3・4前		2		○							兼1	
	カルチュラル･スタディーズ特論	2・3・4前		2			○		1					
	グローバル化と思想	2・3・4後		2		○			1					
	宗教と文化	2・3・4後		2			○		1					
	エスニシティとナショナリズム	2・3・4前		2		○							兼1	
	人と移動	2・3・4後		2		○				1				
	言語文化論	2・3・4前		2		○				1				
	グローバル化と言語	3・4後		2		○			1					
	多文化共生特論	2・3・4前		2			○						兼1	
	国際協力･開発学特論	2・3・4前		2			○						兼1	
	国際協力･紛争研究特論	2・3・4前		2			○		1					
	自然共生特論	2・3・4前		2			○						兼1	
	人間環境特論	2・3・4後		2			○						兼1	
	間文化研究	2・3・4前		2		○			1					
	音楽学特論	2・3・4前		2		○			1					
	視覚芸術特論	2・3・4後		2		○			1					
	英語圏文学論	2・3・4前		2		○			1					
	グローバル研究調査法	2・3・4後		2		○							兼1	
	子どもの貧困	2・3・4前		2		○				1				
	国際協力とビジネス	2・3・4後		2		○			1					
	Teaching English to Speakers of Other Languages：Basic Principles	3・4前		2		○				1				
	Motivation in Language Learning	3・4後		2		○				1				
	Intercultural Communication in the Language Classroom	3・4後		2		○							兼1	
	Communication and Citizenship	3・4前		2		○							兼1	
	Transcultural Cinema	3・4前		2		○			1					

	Contemporary Culture in Japan	3・4前		2		○						1			
	Religion and Society in Asia	3・4後		2		○								兼1	
	Japan in Asia	3・4前		2		○								兼1	
	Ethnicity and Globalization In Japan	3・4前		2		○								兼1	
	Multiculturalism in Japan	3・4後		2		○								兼1	
	Language Policy and Multilingualism	3・4前		2		○								兼1	
	Social Movements and Social Change	3・4後		2		○								兼1	
	Advanced Seminar in Intercultural Communication	3・4前		4		○						1			
	Language and Identity	3・4後		4		○								兼1	
	International Organizations and Sustainability	3・4前		4		○				1					
	Gender and Communication	3・4後		4		○				1					
	Globalization and Media	3・4後		4		○						1			
	Special Topics in ICC	1・2・3・4休		2		○								兼1	
	小計（72科目）	－	0	156	0	－			19	6	0	3	0	兼30	－
専門演習・卒業研究／卒業課題	専門演習1	3前後		2			○		21	9					
	専門演習2	4前後		2			○		21	9					
	専門演習3	4前後		2			○		21	9					
	卒業研究	4前後		4			○		21	9					
	卒業課題A	4前後		2			○		2						
	卒業課題B	4前後		2			○		2						
	小計（6科目）	－	0	14	0	－			21	9	0	0	0		－
「一般」学部専門科目合計（175科目）		－	8	432	0	－			21	9	0	4	0	兼66	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科　Dual Language Pathway（DLP））

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部必修科目	Academic Skills A	1前・後	2				○					2			
	Academic Skills B	1前・後	2				○					2			
	Overview of Intercultural Communication Studies	1前・後	2			○			13						オムニバス
	Cultural Exchange	2前	2				○		1	2		4			
	小計（4科目）	－	8	0	0	－			13	2	0	4	0		－
学びの精神	College Life Planning A	1前		2		○			1						
	College Life Planning B	1後		2		○						1			
	小計（2科目）	－	0	4	0	－			1	0	0	1	0		－
基盤科目	Communication Seminar1 (German)	1前		2			○							兼1	
	Communication Seminar1 (French)	1前		2			○							兼1	
	Communication Seminar1 (Spanish)	1前		2			○							兼1	
	Communication Seminar1 (Chinese)	1前		2			○					1			
	Communication Seminar1 (Korean)	1前		2			○							兼1	
	Communication Seminar1 (Russian)	1前		2			○							兼1	
	Communication Seminar2 (German)	1後		2			○							兼1	
	Communication Seminar2 (French)	1後		2			○							兼1	
	Communication Seminar2 (Spanish)	1後		2			○							兼1	
	Communication Seminar2 (Chinese)	1後		2			○					1			
	Communication Seminar2 (Korean)	1後		2			○							兼1	
	Communication Seminar2 (Russian)	1後		2			○							兼1	
	Communication Seminar3A-R(English)	2前		2			○			2		3		兼1	
	Communication Seminar3B-R (German)	2前		4			○							兼1	
	Communication Seminar3B-R (French)	2前		4			○							兼2	
	Communication Seminar3B-R (Spanish)	2前		4			○							兼1	
	Communication Seminar3B-R (Chinese)	2前		4			○					1			
	Communication Seminar3B-R (Korean)	2前		4			○							兼1	
	Seminar in English A	1・2・3・4前		2			○					1			
	Seminar in English B	1・2・3・4後		2			○					1			
	Seminar in English C	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Seminar in English D	1・2・3・4後		2			○			1					
	Seminar in English E	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Seminar in English F	1・2・3・4後		2			○					1			
	Seminar in English G	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Seminar in English H	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	Lecture in German A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Lecture in German B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	Lecture in French A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Lecture in French B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	Lecture in Spanish A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Lecture in Spanish B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	Lecture in Chinese A	1・2・3・4前		2			○					1			
	Lecture in Chinese B	1・2・3・4後		2			○					1			
	Lecture in Korean A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Lecture in Korean B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	Overseas Study Program A	2後		12				○	2	1					
	Overseas Study Program B	2後		14				○	2	1					
	Overseas Study Program C1	2後		12				○	2	1					
	Overseas Study Program C2	3前		12				○	2	1					
	Study Abroad in Asia A	2・3・4後		12				○	2	1					

	Study Abroad in Asia B	3・4前		12				○	2	1					
	Study Abroad, Study Planning, and Career Development	3前		2			○			1					
	Communication Seminar (Intensive) A	2・3・4後		2			○							兼1	
	Communication Seminar (Intensive) B	2・3・4前		2			○							兼1	
	Service Learning A	1・2・3・4前		2				○	1			1			共同
	Service Learning B	1・2・3・4後		2				○	1			1			共同
	Service Learning C	1・2・3・4後		2				○		1					
	Overseas Field Studies A	1・2・3・4後		2				○	1						
	Overseas Field Studies B	1・2・3・4後		2				○	1						
	Domestic Field Studies A	1・2・3・4前		2				○	1						
	Domestic Field Studies B	1・2・3・4後		2				○	1						
	Overseas Internship (CIC)A	1・2・3・4後		2				○	1						
	Overseas Internship (CIC)B	3・4後		2				○	1						
	Japan Studies Program A	1・2・3・4後		4		○								兼1	
	Japan Studies Program E	1・2・3・4前		4		○								兼1	
	Japan Studies Program F	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	Research Methods in Language Studies	2・3・4後		2		○								兼1	
	Seminar in Intercultural Training	2・3・4前		2			○							兼1	
	Research Methods in Communication Studies	2・3・4前		2		○								兼1	
	Fieldwork	2・3・4後		2			○			1					
	Japanese Communication A	1前		2			○							兼1	
	Japanese Communication B	1後		2			○							兼1	
	Japanese Communication C	1前		2			○							兼1	
	Japanese Communication D	1後		2			○							兼1	
	Seminar in Japanese Language Business Communication	3後		2			○							兼1	
	小計（66科目）	－	0	208	0	－			8	4	0	4	0	兼29	－
基礎科目	Introduction to Linguistics	1・2前		2		○								兼1	
	Introduction to the Study of English	1・2後		2		○			1						
	Introduction to Translation and Interpreting Studies	1・2後		2		○						1			
	Introduction to Communication	1・2前		2		○				1					
	Introduction to Intercultural Communication	1・2後		2		○						1			
	Introduction to Media Communication	1・2後		2		○								兼1	
	Introduction to International Development and Cooperation	1・2前		2		○								兼1	
	Introduction to Cultural Anthropology	1・2後		2		○								兼1	
	Introduction to Cultural Studies	1・2前		2		○						1			
	Globalization and Gender	1・2前		2		○								兼1	
	小計（10科目）	－	0	20	0	－			1	1	0	3	0	兼5	－
専門科目（DLP科目）	Psycholinguistics	3前		2		○								兼1	
	Sociolinguistics	3後		2		○								兼1	
	Cognitive Linguistics	3・4前		2		○			1						
	Pragmatics	3前		2		○								兼1	
	Theories of Second Language Acquisition	3後		2		○								兼1	
	Bilingualism	3前		2		○			1						
	Measurement and Evaluation in Language Education	3後		2		○								兼1	
	Teaching English to Speakers of Other Languages：Basic Principles	3・4前		2		○				1					
	Motivation in Language Learning	3・4後		2		○				1					
	Intercultural Communication in the Language Classroom	3・4後		2		○								兼1	
	Introduction to Interpreting	2前		2			○		1						
	Consecutive Interpreting	3後		2			○							兼1	
	Introduction to Simultaneous Interpreting	4前		2			○							兼1	
	Introduction to Translation	2前		2			○		1						
	Intermediate Translation 1	3後		2			○							兼1	
	Intermediate Translation 2	4前		2			○							兼1	
	Translation and Interpreting Practicum	4後		2				○				1			
	Topics in Translation and Interpreting	1・2・3・4前		2		○			1						
	Communication and Citizenship	3・4前		2		○								兼1	
	Transcultural Cinema	3・4前		2		○			1						
	Contemporary Culture in Japan	3・4前		2		○						1			
	Religion and Society in Asia	3・4後		2		○								兼1	

	Japan in Asia	3・4前		2		○								兼1		
	Ethnicity and Globalization In Japan	3・4前		2		○								兼1		
	Multiculturalism in Japan	3・4後		2		○								兼1		
	Language Policy and Multilingualism	3・4前		2		○								兼1		
	Social Movements and Social Change	3・4後		2		○								兼1		
	Advanced Seminar in Intercultural Communication	3・4前		4		○						1				
	Language and Identity	3・4後		4		○								兼1		
	International Organizations and Sustainability	3・4前		4		○				1						
	Gender and Communication	3・4後		4		○				1						
	Globalization and Media	3・4後		4		○						1				
	Special Topics in ICC	1・2・3・4休		2		○								兼1		
	小計（33科目）	－	0	76	0	－			6	3	0	3	0	兼18	－	
専門科目（一般科目）	文化記号論	2・3・4前		2		○			1							
	第1言語習得理論	3前		2		○								兼1		
	英語教育学	2前		2		○								兼1		
	英語コミュニケーション教育学	3前		2			○							兼1		
	英語科教育研究	3後		2		○			1							
	日本語学特論	3・4後		2		○								兼1		
	日本語教授法A	2前		2		○			1							
	日本語教授法B	3前		2		○			1							
	日本語教育実習	3後		4				○	1					兼1		
	コミュニケーション文法	3後		2		○								兼1		
	言語研究特論	2・3・4後		2		○				1						
	非言語コミュニケーション論	1・2・3・4後		2		○				1						
	異文化コミュニケーション特論	3・4前		2		○			1							
	対人コミュニケーション論	3・4前		2		○								兼1		
	集団コミュニケーション論	3・4後		2		○				1						
	説得コミュニケーション論	3・4前		2		○			1							
	グローバル社会とコミュニケーション	3・4後		2		○			1							
	コミュニケーション･テクノロジーと社会	3・4前		2		○								兼1		
	コミュニケーション特論	3・4後		2		○								兼1		
	グローバル文化研究特論	2・3・4前		2		○								兼1		
	カルチュラル･スタディーズ特論	2・3・4前		2			○		1							
	グローバル化と思想	2・3・4後		2		○			1							
	宗教と文化	2・3・4後		2			○		1							
	エスニシティとナショナリズム	2・3・4前		2		○								兼1		
	人と移動	2・3・4後		2		○				1						
	言語文化論	2・3・4前		2		○				1						
	グローバル化と言語	3・4後		2		○			1							
	多文化共生特論	2・3・4前		2			○							兼1		
	国際協力･開発学特論	2・3・4前		2			○							兼1		
	国際協力･紛争研究特論	2・3・4前		2			○		1							
	自然共生特論	2・3・4前		2			○							兼1		
	人間環境特論	2・3・4後		2			○							兼1		
	間文化研究	2・3・4前		2		○			1							
	音楽学特論	2・3・4前		2		○			1							
	視覚芸術特論	2・3・4後		2		○			1							
	英語圏文学論	2・3・4前		2		○			1							
	グローバル研究調査法	2・3・4後		2		○								兼1		
	子どもの貧困	2・3・4前		2		○				1						
	国際協力とビジネス	2・3・4後		2		○			1							
	小計（39科目）	－	0	80	0	－			15	6	0	0	0	兼14	－	
専門演習・卒業研究／卒業課題	Advanced Seminar 1	3前後		2			○		21	9						
	Advanced Seminar 2	4前後		2			○		21	9						
	Advanced Seminar 3	4前後		2			○		21	9						
	Senior Research and Thesis	4前後		4			○		21	9						
	Senior Project A	4前後		2			○		2							
	Senior Project B	4前後		2			○		2							
	小計（6科目）	－	0	14	0	－			21	9	0	0	0		－	

自由科目	Basic Seminar A	2前		2			○					1			
	ベーシックセミナーA	1後		2			○		1						
	ベーシックセミナーB	2前		2			○		1						
	Basic Seminar B	2後		2			○					1			
	小計（4科目）	－	0	8	0	－			2	0	0	2	0		－
「DLP」学部専門科目合計（164科目）		－	8	410	0	－			21	9	0	4	0	兼62	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科　Transitional Bilingual Program in CIC（TBP））

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部必修科目	Academic Skills A	1前・後	2				○					2			
	Academic Skills B	1前・後	2				○					2			
	Overview of Intercultural Communication Studies	1前・後	2			○			13						オムニバス
	Cultural Exchange	2前	2				○		1	2		4			
	小計（4科目）	－	8	0	0	－			13	2	0	4	0		－
学びの精神	College Life Planning A	1前		2		○			1						
	College Life Planning B	1後		2		○						1			
	小計（2科目）	－	0	4	0	－			1	0	0	1	0		－
基盤科目	コミュニケーションセミナー1 （ドイツ語）	1前		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー1 （フランス語）	1前		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー1 （スペイン語）	1前		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー1 （中国語）	1前		2			○					1			
	コミュニケーションセミナー1 （朝鮮語）	1前		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー1 （ロシア語）	1前		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー2 （ドイツ語）	1後		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー2 （フランス語）	1後		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー2 （スペイン語）	1後		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー2 （中国語）	1後		2			○					1			
	コミュニケーションセミナー2 （朝鮮語）	1後		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー2 （ロシア語）	1後		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー3A-R(英語)	2前		2			○			2		3		兼1	
	コミュニケーションセミナー3B-R（ドイツ語）	2前		4			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー3B-R（フランス語）	2前		4			○							兼2	
	コミュニケーションセミナー3B-R（スペイン語）	2前		4			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー3B-R（中国語）	2前		4			○					1			
	コミュニケーションセミナー3B-R（朝鮮語）	2前		4			○							兼1	
	Seminar in English A	1・2・3・4前		2			○					1			
	Seminar in English B	1・2・3・4後		2			○					1			
	Seminar in English C	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Seminar in English D	1・2・3・4後		2			○			1					
	Seminar in English E	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Seminar in English F	1・2・3・4後		2			○					1			
	Seminar in English G	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Seminar in English H	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	ドイツ語Lecture A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	ドイツ語Lecture B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	フランス語Lecture A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	フランス語Lecture B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	スペイン語Lecture A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	スペイン語Lecture B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	中国語Lecture A	1・2・3・4前		2			○					1			
	中国語Lecture B	1・2・3・4後		2			○					1			
	朝鮮語Lecture A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	朝鮮語Lecture B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	日本語コミュニケーションA	1前		2			○							兼1	
	日本語コミュニケーションB	1後		2			○							兼1	
	日本語コミュニケーションC	1前		2			○							兼1	
	日本語コミュニケーションD	1後		2			○							兼1	
	ビジネス日本語コミュニケーション演習	3後		2			○							兼1	

	キャリア実践演習A	3前		2			○							兼1	
	キャリア実践演習B	3後		2			○							兼1	
	諸言語特別演習A	2・3・4後		2			○							兼1	
	諸言語特別演習B	2・3・4前		2			○							兼1	
	サービスラーニングA	1・2・3・4前		2				○	1			1			共同
	サービスラーニングB	1・2・3・4後		2				○	1			1			共同
	サービスラーニングC	1・2・3・4後		2				○		1					
	海外フィールドスタディA	1・2・3・4後		2				○	1						
	海外フィールドスタディB	1・2・3・4後		2				○	1						
	国内フィールドスタディA	1・2・3・4前		2				○	1						
	国内フィールドスタディB	1・2・3・4後		2				○	1						
	海外インターンシップ(CIC)A	1・2・3・4後		2				○	1						
	海外インターンシップ(CIC)B	3・4後		2				○	1						
	インターンシップ	1・2・3・4後		2				○						兼1	
	海外留学研修A	2後		12				○	2	1					
	海外留学研修B	2後		14				○	2	1					
	海外留学研修C1	2後		12				○	2	1					
	海外留学研修C2	3前		12				○	2	1					
	Study Abroad in Asia A	2・3・4後		12				○	2	1					
	Study Abroad in Asia B	3・4前		12				○	2	1					
	留学、学びのデザイン、キャリア	3前		2			○			1					
	Japan Studies Program A	1・2・3・4後		4		○								兼1	
	Japan Studies Program B	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	Japan Studies Program C	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	Japan Studies Program D	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	Japan Studies Program E	1・2・3・4前		4		○								兼1	
	Japan Studies Program F	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	言語研究調査法	2・3・4後		2		○								兼1	
	異文化トレーニング演習	2・3・4前		2			○							兼1	
	コミュニケーション研究調査法	2・3・4前		2		○								兼1	
	フィールドワーク	2・3・4後		2			○			1					
	小計（72科目）	－	0	220	0	－			8	4	0	4	0	兼33	－
基礎科目	Introduction to Linguistics	1・2前		2		○								兼1	
	Introduction to the Study of English	1・2後		2		○			1						
	Introduction to Translation and Interpreting Studies	1・2後		2		○						1			
	Introduction to Communication	1・2前		2		○				1					
	Introduction to Intercultural Communication	1・2後		2		○						1			
	Introduction to Media Communication	1・2後		2		○								兼1	
	Introduction to International Development and Cooperation	1・2前		2		○								兼1	
	Introduction to Cultural Anthropology	1・2後		2		○								兼1	
	Introduction to Cultural Studies	1・2前		2		○						1			
	Globalization and Gender	1・2前		2		○								兼1	
	日本語学概論A	1前		2		○			1						
	日本語学概論B	1後		2		○								兼1	
	国際協力･紛争研究概論	1・2後		2		○			1						
	人間環境概論	1・2前		2		○			1						
	多文化共生概論	1・2後		2		○								兼1	
	グローバル化と宗教	1・2後		2		○				1					
	視覚芸術概論	1・2・3前		2		○			1						
	音楽学概論	1・2・3後		2		○			1						
	コンピュータ･リテラシー	1・2前		2			○							兼1	
	小計（19科目）	－	0	38	0	－			6	2	0	3	0	兼8	－

専門科目	心理言語学	3前		2		○							兼1	
	社会言語学	3後		2		○							兼1	
	認知言語学	3・4前		2		○			1					
	語用論	3前		2		○							兼1	
	文化記号論	2・3・4前		2		○			1					
	第1言語習得理論	3前		2		○							兼1	
	第2言語習得理論	3後		2		○							兼1	
	バイリンガリズム研究	3前		2		○			1					
	英語教育学	2前		2		○							兼1	
	英語コミュニケーション教育学	3前		2			○						兼1	
	英語科教育研究	3後		2		○			1					
	外国語教育評価論	3後		2		○							兼1	
	日本語学特論	3・4後		2		○							兼1	
	日本語教授法A	2前		2		○			1					
	日本語教授法B	3前		2		○			1					
	日本語教育実習	3後		4				○	1				兼1	
	コミュニケーション文法	3後		2		○							兼1	
	言語研究特論	2・3・4後		2		○				1				
	通訳入門	2前		2			○		1					
	逐次通訳	3後		2			○						兼1	
	同時通訳入門	4前		2			○						兼1	
	翻訳入門	2前		2			○		1					
	翻訳応用実践1	3後		2			○						兼1	
	翻訳応用実践2	4前		2			○						兼1	
	通訳翻訳実習	4後		2				○				1		
	通訳翻訳特論	1・2・3・4前		2		○			1					
	非言語コミュニケーション論	1・2・3・4後		2		○				1				
	異文化コミュニケーション特論	3・4前		2		○			1					
	対人コミュニケーション論	3・4前		2		○							兼1	
	集団コミュニケーション論	3・4後		2		○				1				
	説得コミュニケーション論	3・4前		2		○			1					
	グローバル社会とコミュニケーション	3・4後		2		○			1					
	コミュニケーション･テクノロジーと社会	3・4前		2		○							兼1	
	コミュニケーション特論	3・4後		2		○							兼1	
	グローバル文化研究特論	2・3・4前		2		○							兼1	
	カルチュラル･スタディーズ特論	2・3・4前		2			○		1					
	グローバル化と思想	2・3・4後		2		○			1					
	宗教と文化	2・3・4後		2			○		1					
	エスニシティとナショナリズム	2・3・4前		2		○							兼1	
	人と移動	2・3・4後		2		○				1				
	言語文化論	2・3・4前		2		○				1				
	グローバル化と言語	3・4後		2		○			1					
	多文化共生特論	2・3・4前		2			○						兼1	
	国際協力･開発学特論	2・3・4前		2			○						兼1	
	国際協力･紛争研究特論	2・3・4前		2			○		1					
	自然共生特論	2・3・4前		2			○						兼1	
	人間環境特論	2・3・4後		2			○						兼1	
	間文化研究	2・3・4前		2		○			1					
	音楽学特論	2・3・4前		2		○			1					
	視覚芸術特論	2・3・4後		2		○			1					
	英語圏文学論	2・3・4前		2		○			1					
	グローバル研究調査法	2・3・4後		2		○							兼1	
	子どもの貧困	2・3・4前		2		○				1				
	国際協力とビジネス	2・3・4後		2		○			1					
	Teaching English to Speakers of Other Languages：Basic Principles	3・4前		2		○				1				
	Motivation in Language Learning	3・4後		2		○				1				
	Intercultural Communication in the Language Classroom	3・4後		2		○							兼1	
	Communication and Citizenship	3・4前		2		○							兼1	
	Transcultural Cinema	3・4前		2		○			1					

	Contemporary Culture in Japan	3・4前		2		○						1			
	Religion and Society in Asia	3・4後		2		○								兼1	
	Japan in Asia	3・4前		2		○								兼1	
	Ethnicity and Globalization In Japan	3・4前		2		○								兼1	
	Multiculturalism in Japan	3・4後		2		○								兼1	
	Language Policy and Multilingualism	3・4前		2		○								兼1	
	Social Movements and Social Change	3・4後		2		○								兼1	
	Advanced Seminar in Intercultural Communication	3・4前		4		○						1			
	Language and Identity	3・4後		4		○								兼1	
	International Organizations and Sustainability	3・4前		4		○				1					
	Gender and Communication	3・4後		4		○				1					
	Globalization and Media	3・4後		4		○						1			
	Special Topics in ICC	1・2・3・4休		2		○								兼1	
	小計（72科目）	－	0	156	0	－			19	6	0	3	0	兼30	－
専門演習・卒業研究／卒業課題	専門演習1	3前後		2			○		21	9					
	専門演習2	4前後		2			○		21	9					
	専門演習3	4前後		2			○		21	9					
	卒業研究	4前後		4			○		21	9					
	卒業課題A	4前後		2			○		2						
	卒業課題B	4前後		2			○		2						
	小計（6科目）	－	0	14	0	－			21	9	0	0	0		－
「TBP」学部専門科目合計（175科目）		－	8	432	0	－			21	9	0	4	0	兼68	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科　Proactive, Ethical, Able, Collaborative, Engaged Program (PEACE)　CIC）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学びの精神	College Life Planning A	1前		2		○			1						
	College Life Planning B	1後		2		○						1			
	小計（2科目）	－	0	4	0	－			1	0	0	1	0		－
学部必修科目	Academic Skills A	1前・後	2				○					2			
	Academic Skills B	1前・後	2				○					2			
	Overview of Language and Communication Studies	1前	2			○			13						オムニバス
	Overview of Global Studies	1後	2			○			1						
	Cultural Exchange	2前	2				○		1	2		4			
	小計（5科目）	－	10	0	0	－			13	2	0	4	0		－
PEACE選択科目	Humanities Studies 1	2・3・4		2		○								兼1	
	Humanities Studies 2	2・3・4		2		○								兼1	
	Humanities Studies 3	2・3・4		2		○								兼1	
	Humanities Studies 4	2・3・4		2		○						1			
	Humanities Studies 5	2・3・4		2		○						1			
	Humanities Studies 6	2・3・4		2		○						1			
	Humanities Lecture 1	2・3・4		2		○								兼1	
	Humanities Lecture 2	2・3・4		2		○						1			
	Japanese Economy 1	1・2・3・4		2		○			1						
	Japanese Economy 2	1・2・3・4		2		○			1						
	Japanese Economic History 1	1・2・3・4		2		○			1						
	Japanese Economic History 2	1・2・3・4		2		○			1						
	Sociological Studies A	2・3・4前		2		○								兼1	
	Sociological Studies B	2・3・4前		2		○								兼1	
	Sociological Studies C	2・3・4後		2		○								兼1	
	Sociological Studies D	2・3・4後		2		○								兼1	
	Sociology of Gender A	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	Cultural Anthropology A	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	Torts	1・2・3・4		2		○								兼1	
	Comparative Family Law	2・3・4		2		○								兼1	
	Introduction to Legal Studies A	1・2・3・4		2		○								兼1	
	Introduction to Legal Studies B	1・2・3・4		2		○								兼1	
	Contract A	1・2・3・4		2		○				1					
	Contract B	1・2・3・4		2		○				1					
	Conparative Constitutional Law	2・3・4		2		○				1					
	Criminal Procedure	2・3・4		2		○								兼2	
	Financial Statement Analysis	3・4		2		○			1						
	Tourism Study 1 (Business)	2・3・4		2		○			1						
	Tourism Study 2 (Society)	2・3・4		2		○						1			
	Tourism Study 3 (Destination)	2・3・4		2		○								兼1	
	Tourism Study 4 (Culture)	2・3・4		2		○						1			
	Global Society and Local Communities	2・3・4		2		○								兼1	
	Specialized Psychology Lecture	2・3・4		2		○				1					
	Cultural Psychology	2・3・4		2		○								兼1	
	Accounting(Introductory) 1	2・3・4前		2		○			1						
	Accounting(Introductory) 2	2・3・4後		2		○			1						
	Finance(Introductory) 1	2・3・4前		2		○			1						
	Finance(Introductory) 2	2・3・4後		2		○			1						
	小計（38科目）	－	0	76	0	－			4	2	0	2	0	兼15	－

基盤科目	Communication Seminar1 (German)	1前		2			○							兼1	
	Communication Seminar1 (French)	1前		2			○							兼1	
	Communication Seminar1 (Spanish)	1前		2			○							兼1	
	Communication Seminar1 (Chinese)	1前		2			○					1			
	Communication Seminar1 (Korean)	1前		2			○							兼1	
	Communication Seminar1 (Russian)	1前		2			○							兼1	
	Communication Seminar2 (German)	1後		2			○							兼1	
	Communication Seminar2 (French)	1後		2			○							兼1	
	Communication Seminar2 (Spanish)	1後		2			○							兼1	
	Communication Seminar2 (Chinese)	1後		2			○					1			
	Communication Seminar2 (Korean)	1後		2			○							兼1	
	Communication Seminar2 (Russian)	1後		2			○							兼1	
	Communication Seminar3B-R (German)	2前		4			○							兼1	
	Communication Seminar3B-R (French)	2前		4			○							兼2	
	Communication Seminar3B-R (Spanish)	2前		4			○							兼1	
	Communication Seminar3B-R (Chinese)	2前		4			○					1			
	Communication Seminar3B-R (Korean)	2前		4			○							兼1	
	Lecture in German A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Lecture in German B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	Lecture in French A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Lecture in French B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	Lecture in Spanish A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Lecture in Spanish B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	Lecture in Chinese A	1・2・3・4前		2			○					1			
	Lecture in Chinese B	1・2・3・4後		2			○					1			
	Lecture in Korean A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Lecture in Korean B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	Service Learning C	1・2・3・4後		2				○		1					
	Overseas Field Studies A	1・2・3・4後		2				○	1						
	Overseas Field Studies B	1・2・3・4後		2				○	1						
	Domestic Field Studies A	1・2・3・4前		2				○	1						
	Domestic Field Studies B	1・2・3・4後		2				○	1						
	Overseas Internship (CIC)A	1・2・3・4後		2				○	1						
	Overseas Internship (CIC)B	3・4後		2				○	1						
	Study Abroad, Study Planning, and Career Development	3前		2			○			1					
	Japan Studies Program A	1・2・3・4後		4		○								兼1	
	Japan Studies Program E	1・2・3・4前		4		○								兼1	
	Japan Studies Program F	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	Japanese Communication A	1前		2			○							兼1	
	Japanese Communication B	1後		2			○							兼1	
	Japanese Communication C	1前		2			○							兼1	
	Japanese Communication D	1後		2			○							兼1	
	Seminar in Japanese Language Business Communication	3後		2			○							兼1	
	Career Skills Development A	3前		2			○							兼1	
	Career Skills Development B	3後		2			○							兼1	
	小計（45科目）	－	0	104	0	－			4	1	0	1	0	兼20	－
基礎科目	Introduction to Linguistics	1・2前		2		○								兼1	
	Introduction to the Study of English	1・2後		2		○			1						
	Introduction to Translation and Interpreting Studies	1・2後		2		○						1			
	Introduction to Communication	1・2前		2		○				1					
	Introduction to Intercultural Communication	1・2後		2		○						1			
	Introduction to Media Communication	1・2後		2		○								兼1	
	Introduction to International Development and Cooperation	1・2前		2		○								兼1	
	Introduction to Cultural Anthropology	1・2後		2		○								兼1	
	Introduction to Cultural Studies	1・2前		2		○						1			
	Globalization and Gender	1・2前		2		○								兼1	
	小計（10科目）	－	0	20	0	－			1	1	0	3	0	兼5	－

専門科目DLP/一般	Psycholinguistics	3前		2		○							兼1	
	Sociolinguistics	3後		2		○							兼1	
	Cognitive Linguistics	3・4前		2		○			1					
	Pragmatics	3前		2		○							兼1	
	Theories of Second Language Acquisition	3後		2		○							兼1	
	Bilingualism	3前		2		○			1					
	Measurement and Evaluation in Language Education	3後		2		○							兼1	
	Teaching English to Speakers of Other Languages：Basic Principles	3・4前		2		○				1				
	Motivation in Language Learning	3・4後		2		○				1				
	Intercultural Communication in the Language Classroom	3・4後		2		○							兼1	
	Introduction to Interpreting	2前		2			○		1					
	Consecutive Interpreting	3後		2			○						兼1	
	Introduction to Simultaneous Interpreting	4前		2			○						兼1	
	Introduction to Translation	2前		2			○		1					
	Intermediate Translation 1	3後		2			○						兼1	
	Intermediate Translation 2	4前		2			○						兼1	
	Translation and Interpreting Practicum	4後		2				○				1		
	Topics in Translation and Interpreting	1・2・3・4前		2		○			1					
	Communication and Citizenship	3・4前		2		○							兼1	
	Transcultural Cinema	3・4前		2		○			1					
	Contemporary Culture in Japan	3・4前		2		○						1		
	Religion and Society in Asia	3・4後		2		○							兼1	
	Japan in Asia	3・4前		2		○							兼1	
	Ethnicity and Globalization In Japan	3・4前		2		○							兼1	
	Multiculturalism in Japan	3・4後		2		○							兼1	
	Language Policy and Multilingualism	3・4前		2		○							兼1	
	Social Movements and Social Change	3・4後		2		○							兼1	
	Advanced Seminar in Intercultural Communication	3・4前		4		○						1		
	Language and Identity	3・4後		4		○							兼1	
	International Organizations and Sustainability	3・4前		4		○				1				
	Gender and Communication	3・4後		4		○				1				
	Globalization and Media	3・4後		4		○						1		
	Special Topics in ICC	1・2・3・4休		2		○							兼1	
	文化記号論	2・3・4前		2		○			1					
	第1言語習得理論	3前		2		○							兼1	
	英語教育学	2前		2		○							兼1	
	英語コミュニケーション教育学	3前		2			○						兼1	
	英語科教育研究	3後		2		○			1					
	日本語学特論	3・4後		2		○							兼1	
	日本語教授法A	2前		2		○			1					
	日本語教授法B	3前		2		○			1					
	日本語教育実習	3後		4				○	1				兼1	
	コミュニケーション文法	3後		2		○							兼1	
	言語研究特論	2・3・4後		2		○				1				
	非言語コミュニケーション論	1・2・3・4後		2		○				1				
	異文化コミュニケーション特論	3・4前		2		○			1					
	対人コミュニケーション論	3・4前		2		○							兼1	
	集団コミュニケーション論	3・4後		2		○				1				
	説得コミュニケーション論	3・4前		2		○			1					
	グローバル社会とコミュニケーション	3・4後		2		○			1					
	コミュニケーション･テクノロジーと社会	3・4前		2		○							兼1	
	コミュニケーション特論	3・4後		2		○							兼1	
	グローバル文化研究特論	2・3・4前		2		○							兼1	
	カルチュラル･スタディーズ特論	2・3・4前		2			○		1					
	グローバル化と思想	2・3・4後		2		○			1					
	宗教と文化	2・3・4後		2			○		1					
	エスニシティとナショナリズム	2・3・4前		2		○							兼1	
	人と移動	2・3・4後		2		○				1				
	言語文化論	2・3・4前		2		○				1				

	グローバル化と言語	3・4後		2		○			1						
	多文化共生特論	2・3・4前		2			○							兼1	
	国際協力･開発学特論	2・3・4前		2			○							兼1	
	国際協力･紛争研究特論	2・3・4前		2			○		1						
	自然共生特論	2・3・4前		2			○							兼1	
	人間環境特論	2・3・4後		2			○							兼1	
	間文化研究	2・3・4前		2		○			1						
	音楽学特論	2・3・4前		2		○			1						
	視覚芸術特論	2・3・4後		2		○			1						
	英語圏文学論	2・3・4前		2		○			1						
	グローバル研究調査法	2・3・4後		2		○								兼1	
	子どもの貧困	2・3・4前		2		○				1					
	国際協力とビジネス	2・3・4後		2		○			1						
	小計（72科目）	－	0	156	0	－			19	6	0	3	0	兼30	－
専門演習・卒業研究／卒業課題	Advanced Seminar 1	3前後		2			○		21	9					
	Advanced Seminar 2	4前後		2			○		21	9					
	Advanced Seminar 3	4前後		2			○		21	9					
	Senior Research and Thesis	4前後		4			○		21	9					
	Senior Project A	4前後		2			○		2						
	Senior Project B	4前後		2			○		2						
	小計（6科目）	－	0	14	0	－			21	9	0	0	0		－
「PEACE」学部専門科目合計（178科目）		－	10	374	0	－			21	9	0	4	0	兼66	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教育課程等の概要

（異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科　全学共通科目）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通科目	学びの精神	世界史の中のキリスト教	1・2・3・4前		2		○								兼4	
		思想を生み出すキリスト教	1・2・3・4前・後		2		○								兼4	
		美術の中のキリスト教	1・2・3・4前・後		2		○								兼4	
		音楽の中のキリスト教	1・2・3・4前		2		○								兼2	
		文学を生み出すキリスト教	1・2・3・4前		2		○								兼3	
		国際社会の中の宗教	1・2・3・4前		2		○								兼4	
		現代社会の中の宗教１	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		現代社会の中の宗教２	1・2・3・4前・後		2		○								兼4	
		人文学からの学び（文学）	1・2・3・4前・後		2		○								兼5	
		人文学からの学び（思想・教育）	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		人文学からの学び（史学）	1・2・3・4前		2		○								兼3	
		芸術への扉	1・2・3・4前		2		○			1					兼3	
		グローバル経済社会を考える	1・2・3・4前・後		2		○								兼4	
		社会学からの学び	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		学びの場としての社会	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		メディアからみる学び	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		法と政治の世界	1・2・3・4前		2		○								兼3	
		経営学への招待	1・2・3・4前・後		2		○								兼4	
		現代社会と観光	1・2・3・4前		2		○								兼4	
		現代社会の諸相	1・2・3・4前		2		○								兼4	
		自然科学の探究	1・2・3・4前・後		2		○								兼17	オムニバス
		身体科学からの学び	1・2・3・4前・後		2		○								兼4	
		現代心理学からの学び	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		アジア地域での平和構築	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		グローバル社会での平和構築	1・2・3・4前		2		○								兼3	
		大学生の学び・社会で学ぶこと	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		人権とジェンダー	1・2・3・4前		2		○								兼2	
		ライフマネジメントと学生生活	1・2・3・4前		2		○								兼2	
		立教大学の歴史	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		西欧キリスト教社会における大学の誕生	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		キャリアデザイン	1・2・3・4前		2		○								兼3	
		キリスト教史に学ぶ多文化共生	1・2・3・4前・後		2		○								兼4	
		美と生命について：キリスト教の美学	1・2・3・4前・後		2		○								兼4	
		愛について：キリスト教の倫理と哲学	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		教養の扉をひらく	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		Economy and Society	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		University Education in the World	1・2・3・4前		2		○								兼1	集中
		多文化共生社会と大学―やさしい日本語	1・2・3・4後		4		○								兼1	
		Image　Studies	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		英語によるビジネスコミュニケーション入門	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		GL101	1・2・3・4前		2			○							兼18	
		小計（41科目）	―	0	84	0	―			1	0	0	0	0	兼130	―

全学共通科目	多彩な学び　1人間の探究	聖書と人間	1・2・3・4後		2		○								兼4	
		聖書考古学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		ジェンダーとキリスト教	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		イスラームの世界	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		「宗教」とは何か	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		現代社会と人間	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		哲学への扉	1・2・3・4前		2		○								兼2	
		論理的思考法	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		教育と人間	1・2・3・4後		2		○								兼2	
		歴史への扉	1・2・3・4前・後		2		○								兼5	
		地域研究への扉	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		多文化の世界	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		文化を生きる	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		人権思想の根源	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		手話と人権を考える	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		点字から考える人権	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		アジアの文化とことば	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		ヨーロッパの文化とことば	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		ラテンアメリカの文化とことば	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		ロシア・東欧の文化とことば	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		中東の文化とことば	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		アフリカの文化とことば	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		イタリアの文化とことば	1・2・3・4後		2		○								兼2	
		ドイツ語圏の文化	1・2・3・4前		2		○								兼2	
		フランス語圏の文化	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		スペイン語圏の文化	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		中国語圏の文化	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		朝鮮語圏の文化	1・2・3・4後		2		○								兼2	
		教育学への扉	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		現代社会における言葉の持つ意味	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		立教ゼミナール１	1・2・3・4前・後		2			○							兼3	
		立教ゼミナール発展編　1	1・2・3・4前・後		2			○							兼2	
		睡眠文化論	1・2・3・4後		2		○								兼2	オムニバス
		ボランティア論	1・2・3・4前		2		○								兼2	オムニバス
		哲学対話 in RIKKYO	1・2・3・4前・後		2		○								兼6	オムニバス
		仏教の世界	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		日本の宗教	1・2・3・4後		2		○								兼2	
		日本文化と精神性	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		立教学院とポール・ラッシュ	1・2・3・4前		2		○								兼3	オムニバス
		ジェンダー・宗教・社会	1・2・3・4後		2		○								兼2	オムニバス
		多文化共生社会と日本―やさしい日本語	1・2・3・4後		4		○			1						
		Japanese　Ethnology	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		World History	1・2・3・4前・後		4		○								兼1	
		Religions in Asia	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		Peace and Human Rights 1	1・2・3・4前・後		1		○								兼1	
		Peace and Human Rights 2	1・2・3・4前・後		1		○								兼1	
		International Humanities 1	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		International Humanities 2	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		Introduction to Gender Studies	1・2・3・4後		2			○					1		兼1	
		小計（49科目）	―	0	100	0		―		1	0	0	1	0	兼83	―
全学共通科目	多彩な学び　2社会への視点	入門・経済教室	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		統計情報で社会・経済を診断する	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		景気・格差問題と統計情報	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		法と社会	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		政治と社会	1・2・3・4後		2		○								兼2	
		グローバル社会における法と政治	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		現代のビジネスを学ぶ	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		企業と社会	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		現代社会と環境	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		情報と倫理	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		メディアと人間	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		文化と社会	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		現代社会の解読	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		いのちの尊厳と福祉を考える	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		コミュニティをデザインする	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		観光学への誘い	1・2・3・4後		2		○								兼2	
		異文化コミュニケーションを考える	1・2・3・4前・後		2		○			1	1					
		シティズンシップを考える	1・2・3・4後		2		○								兼2	
		デモクラシーとリベラルアーツ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		大学と現代社会	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		世界の中のロシア	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		ドイツ語圏の社会	1・2・3・4後		2		○			1					兼1	
		フランス語圏の社会	1・2・3・4前・後		2		○			1					兼2	
		スペイン語圏の社会	1・2・3・4前・後		2		○			1					兼1	
		中国語圏の社会	1・2・3・4前・後		2		○			1					兼1	
		朝鮮語圏の社会	1・2・3・4前・後		2		○			1					兼1	

		社会調査入門	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		社会調査の技法	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		データ分析入門	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		データの科学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		多変量解析入門	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		Introduction to Statistics 1	1・2・3・4前		2		○									兼2	
		Introduction to Statistics 2	1・2・3・4後		2		○									兼2	
		国際情勢を読み解く	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		パレスチナ問題の歴史と現在	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		立教ゼミナール２	1・2・3・4前・後		2			○			1					兼6	
		立教ゼミナール発展編　２	1・2・3・4前・後		2			○								兼8	
		RSLゼミナール	1・2・3・4後		2			○								兼1	
		Nativeと学ぶ社会開発	1・2・3・4後		2		○									兼2	オムニバス
		立教OBOGの「社長の履歴書」	1・2・3・4後		2		○									兼2	オムニバス
		グローバルシティ・ソウルを読み解く	1・2・3・4後		2		○									兼3	オムニバス
		Knowledge, Design, and Innovation	1・2・3・4前		2		○									兼2	オムニバス
		グローバル資本主義とジェンダー	1・2・3・4後		2		○									兼2	オムニバス
		大衆演劇の世界	1・2・3・4後		2		○			1						兼7	オムニバス、集中
		SDGs×AI×経済×法	1・2・3・4前		2		○									兼3	オムニバス
		世界経済と日本	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		日本国憲法	1・2・3・4前・後		2		○									兼3	
		近代日本社会と人権	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		日本の「多文化」政策を問い直す	1・2・3・4後		2		○				1					兼1	
		Modern Japanese History 1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
		Modern Japanese History 2	1・2・3・4前		2			○								兼1	
		Japanese Politics and Economy 1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
		Japanese Politics and Economy 2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
		Japanese Relations in Asia 1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
		Japanese Relations in Asia 2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
		Japanese Society 1	1・2・3・4後		2			○								兼2	
		Japanese Society 2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
		Tokyo Studies	1・2・3・4前・後		2			○								兼2	
		Humans and Other Animals	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		Food Cultures and the Acceptance of Japanese Food in the World	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		Political Sociology	1・2・3・4前		4		○									兼2	
		Economic Thought	1・2・3・4後		4		○									兼1	
		University in Modern Society	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		Career and University Education in the Global World	3・4前		2		○									兼1	集中
		Business Communication	1・2・3・4後		2			○								兼1	
		Global and Japanese Political Economy 1	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		Global and Japanese Political Economy 2	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		Introduction to Multivariate Analysis	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		Introduction to Sociology	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		Introduction to the Social Survey	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		Introduction to Tourism Studies	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		Japanese Society and Culture 1	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		Japanese Society and Culture 2	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		Knowledge and Society 1	1・2・3・4前・後		1		○									兼1	
		Knowledge and Society 2	1・2・3・4前・後		1		○									兼1	
		Learning and Teaching Today 1	1・2・3・4前		1		○									兼1	
		Learning and Teaching Today 2	1・2・3・4前		1		○									兼1	
		ＳＤＧｓと現代社会の課題とその関わり方入門	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		Selected Topics in Intercultural Communication	1・2・3・4前		2			○			1						
		The Dignity of Life and Welfare	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		Introduction to International Cooperation	1・2・3・4後		2		○				1					兼1	
		台湾から世界を考える	1・2・3・4前		2		○									兼2	オムニバス
		立教人から学ぶメディアの世界	1・2・3・4前		2		○									兼2	オムニバス
		小計（83科目）	—	0	166	0	—			7	5	0	0	0		兼117	—

全学共通科目	多彩な学び　3芸術・文化への招待	文学への扉	1・2・3・4前		2		○								兼5	
		表象文化	1・2・3・4前・後		2		○			1					兼6	
		美術の歴史	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		美術と社会	1・2・3・4後		2		○								兼3	
		音楽の歴史	1・2・3・4前・後		2		○			1					兼2	
		音楽と社会	1・2・3・4後		2		○			1					兼2	
		美術論演習	1・2・3・4前・後		2			○		1					兼2	
		音楽論演習	1・2・3・4前・後		2			○		2					兼1	
		キリスト教美術	1・2・3・4後		2		○			1					兼1	
		キリスト教音楽	1・2・3・4後		2		○								兼2	
		都市と芸術	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		建築と文化	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		舞踊論	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		映像と社会	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		身体表現と哲学	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		ドイツ語圏の文学	1・2・3・4後		2		○								兼2	
		フランス語圏の文学	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		スペイン語圏の文学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		中国語圏の文学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		朝鮮語圏の文学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		演芸の世界	1・2・3・4前		2		○			1					兼5	オムニバス
		立教ゼミナール３	1・2・3・4前・後		2			○							兼2	
		立教ゼミナール発展編　３	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		日本の美術	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		日本の音楽	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		日本の演劇	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		Japanese　Culture 1	1・2・3・4前・後		2			○							兼2	
		Japanese　Culture 2	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		Japanese Arts A	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		Japanese Arts B	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		Literature and Society	1・2・3・4後		4		○								兼1	
		Culture and Fine Arts	1・2・3・4前		4		○								兼1	
		Exploring Children's Literature	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		Techniques for Reading and Enjoying a Picturebook in English	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		International Humanities 3	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		The Psychology of Literature 1	1・2・3・4前・後		1		○								兼1	
		The Psychology of Literature 2	1・2・3・4前・後		1		○								兼1	
		小計（37科目）	—	0	76	0	—			4	0	0	0	0	兼60	—
全学共通科目	多彩な学び　4心身への着目	認知・行動・身体	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		心の科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		パーソナリティの心理	1・2・3・4後		2		○								兼3	
		対人関係の心理	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		心の健康	1・2・3・4前		2		○								兼2	
		身体パフォーマンス	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		ストレスマネジメント	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		癒しの科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		スポーツの科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		健康の科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		栄養の科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		アンチエイジングの科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		スポーツとメディア	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		スポーツと社会	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		スポーツと文化	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		レジャー・レクリエーションと現代社会	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		アウトドアの知恵に学ぶ	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		立教ゼミナール４	1・2・3・4後		2			○							兼2	
		立教ゼミナール発展編　４	1・2・3・4前・後		2			○							兼2	
		Japanese Mind	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		Individual Differences in Psychology	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		Applied Data Science with the focus on Sport and Wellness	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		Health Science	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		Health and Wellness	1・2・3・4後		4		○								兼1	
		Understanding Speech Sounds 1	1・2・3・4後		1		○								兼1	
		Understanding Speech Sounds 2	1・2・3・4後		1		○								兼1	
		いのちを健康で彩る智慧	1・2・3・4前		2		○								兼1	オムニバス
		小計（27科目）	—	0	54	0	—			0	0	0	0	0	兼36	—

全学共通科目	多彩な学び　5自然の理解	数学の世界	1・2・3・4前・後		2		○								兼4	
		宇宙の科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼4	
		生命の科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼5	
		物質の科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		身近な物質の化学	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		化学と自然	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		行動の科学	1・2・3・4後		2		○								兼2	
		生命の歩み	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		地球の理解	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		情報科学Ａ	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		情報科学Ｂ	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		自然環境の保全	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		生物の多様性	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		地球環境の未来	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		自然と人間の共生	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		脳と心	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		オーダーメイド医療最前線	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		大学と科学技術	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		化学と社会	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		宇宙から地球のみらいを考える	1・2・3後		2		○								兼1	
		立教ゼミナール５	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		Science Studies	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		Nature of the Earth	1・2・3・4前		4		○								兼1	
		Understanding of Agricultural Science	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		Importance of Global Plant Health	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		Ecology:Environment and Sustainability 1	1・2・3・4後		1		○								兼1	
		Ecology:Environment and Sustainability 2	1・2・3・4後		1		○								兼1	
		カーボンニュートラル人材育成講座	1・2・3・4後		2		○								兼2	オムニバス
		小計（28科目）	—	0	56	0	—			0	0	0	0	0	兼48	—
全学共通科目	多彩な学び　6知識の現場	GL111	1・2・3・4後		2			○							兼2	
		GL102	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		GL103	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		GL104	1・2・3・4後		2			○							兼2	
		GL201	1・2・3・4後		2			○							兼2	
		GL202	1・2・3・4前		2			○							兼2	
		GL301	1・2・3前・後		2				○						兼1	集中
		GL302	1・2・3前		2				○						兼1	
		グローバル共通教養総論	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		ソリューション・アプローチ（開発経済）	2・3・4前		2			○							兼1	
		ソリューション・アプローチ（強制移転・移住）	2・3・4前		2			○							兼1	
		グローバル・イシュー各論	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		ソリューション・アプローチ（人道支援）	2・3・4後		2			○							兼1	
		ソリューション・アプローチ（紛争と平和）	2・3・4後		2			○							兼1	
		アクティブ・リサーチ	2・3・4後		2				○						兼1	
		国連ユースボランティア	1・2・3・4後		12				○						兼1	
		陸前高田プロジェクト	1・2・3・4前		2				○						兼2	
		海外インターンシップ１	1・2・3後		1				○						兼1	集中
		海外インターンシップ２	1・2・3後		2				○						兼1	集中
		国内実践グローバルインターンシップ	1・2・3・4前・後		1				○						兼1	
		国際的協働のための国内インターンシップ	1・2・3・4後		2				○	1						
		ACEパートナー大学オンライン（SNU）	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		ACEパートナー大学オンライン（PKU）	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		ACEパートナー大学オンライン（NUS）	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		ACEパートナー大学オンライン（RIK）	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		RSL－コミュニティ（埼玉）	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		RSL－コミュニティ（池袋）	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		RSL－ローカル（南魚沼）	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		RSL－グローカルＡ	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		RSL－グローカルＢ	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		RSL－ローカル（地域共生）	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		RSL－グローバル（フィリピン）	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		小計（32科目）	—	0	72	0	—			1	0	0	0	0	兼20	—

全学共通科目	多彩な学び　スポーツプログラム	スポーツプログラム１（バドミントン）	1・2・3・4前・後		1				○						兼2		
		スポーツプログラム１（はじめてのバレエ）	1・2・3・4前・後		1				○						兼2		
		スポーツプログラム１（ダンス（初級））	1・2・3・4後		1				○						兼1		
		スポーツプログラム２（トレーニング初級）	1・2・3・4前・後		1				○						兼1		
		スポーツプログラム３（卓球）	1・2・3・4後		1				○						兼1		
		スポーツプログラム３（バスケットボール）	1・2・3・4前		1				○						兼1		
		スポーツプログラム３（バレーボール）	1・2・3・4前・後		1				○						兼2		
		スポーツプログラム３（フラッグフットボール）	1・2・3・4後		1				○						兼1		
		スポーツプログラム３（アルティメット）	1・2・3・4前		1				○						兼1		
		スポーツスタディ１（レクリエーショナルスポーツ）	1・2・3・4前・後		2				○						兼6		
		スポーツスタディ１（太極拳）	1・2・3・4前・後		2				○						兼2		
		スポーツスタディ１（日本文化と踊り）	1・2・3・4後		2				○						兼1		
		スポーツスタディ１（はじめてのマラソン）	1・2・3・4前		2				○						兼1		
		スポーツスタディ１（クライミング）	1・2・3・4前・後		2				○						兼3		
		スポーツスタディ１（バドミントン）	1・2・3・4前		2				○						兼1		
		スポーツスタディ１（アダプテッドスポーツ）	1・2・3・4前・後		2				○						兼1		
		スポーツスタディ１（はじめての柔道（日本語））	1・2・3・4後		2				○						兼1		
		スポーツスタディ１はじめての柔道（英語）	1・2・3・4後		2				○						兼1		
		スポーツスタディ１（ヒップホップ）	1・2・3・4前・後		2				○						兼1		
		スポーツスタディ１（はじめての器械運動）	1・2・3・4後		2				○						兼1		
		スポーツスタディ２（トレーニング）	1・2・3・4前・後		2				○						兼2		
		スポーツスタディ２（ボディシェイプ）	1・2・3・4前・後		2				○						兼1		
		スポーツスタディ２（ウォーターエクササイズ）	1・2・3・4前・後		2				○						兼2		
		スポーツスタディ２（東洋的フィットネス）	1・2・3・4前・後		2				○						兼1		
		スポーツスタディ２（ダイエットフィットネス）	1・2・3・4後		2				○						兼1		
		スポーツスタディ２（セルフケアエクササイズ）	1・2・3・4前・後		2				○						兼2		
		スポーツスタディ２（ボディコンディショニング）	1・2・3・4前・後		2				○						兼1		
		スポーツスタディ３（サッカー）	1・2・3・4前		2				○						兼1		
		スポーツスタディ３（サッカー&フットサル）	1・2・3・4前		2				○						兼1		
		スポーツスタディ３（フットサル）	1・2・3・4前・後		2				○						兼4		
		スポーツスタディ３（フットサル（インドア））	1・2・3・4前		2				○						兼1		
		スポーツスタディ３（初心者向けサッカー・フットサル&フィットネス）	1・2・3・4後		2				○						兼1		
		スポーツスタディ３（テニス）	1・2・3・4前・後		2				○						兼2		
		スポーツスタディ３（テニス（英語））	1・2・3・4前・後		2				○						兼1		
		スポーツスタディ３（ブラインドサッカー）	1・2・3・4前		2				○						兼1		
		スポーツスタディ３（ゴルフ）	1・2・3・4前・後		2				○						兼2		
		スポーツスタディ３（卓球）	1・2・3・4前・後		2				○						兼1		
		スポーツスタディ３（バスケットボール）	1・2・3・4前・後		2				○						兼2		
		スポーツスタディ３（ソフトボール）	1・2・3・4前		2				○						兼1		
		スポーツスタディ３（ハンドボール）	1・2・3・4前・後		2				○						兼2		
		スポーツスタディ４（ゴルフ）	1・2・3・4前		2				○						兼1		
		スポーツスタディ４（クライミング）	1・2・3・4前・後		2				○						兼1		
		スポーツスタディ４（馬術）	1・2・3・4後		2				○						兼2		
		スポーツスタディ４（スキーA）	1・2・3・4後		2				○						兼2		
		スポーツスタディ４（スキーB）	1・2・3・4後		2				○						兼1		
		スポーツスタディ４（はじめての和太鼓）	1・2・3・4前		2				○						兼2		
		スポーツスタディ４（ネイチャーキャンプ）	1・2・3・4前		2				○						兼2		
		スポーツスタディｅ	1・2・3・4前・後		2		○								兼2		
		小計（48科目）	—	0	87	0	—			0	0	0	0	0	兼52	—	
	全学共通科目言語系科目　必修科目（言語A／英語）	英語ディスカッション	1前		1				○						兼140		
		英語ディベート	1後		1				○						兼108		
		英語リーディング&ライティング１（R）	1前		1				○						兼117		
		英語リーディング&ライティング２（W）	1後		1				○						兼117		
		英語ｅラーニング	1前		1				○						兼36		
		英語プレゼンテーション	1後		1				○						兼103		
		上級英語１（リーディング&ライティング）	1前		2				○						兼27		
		上級英語２（プロジェクト英語）	1後		2				○						兼27		
		小計（8科目）	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	兼165	—	
	全学共通科目言語系科目　必修科目（言語B／ドイツ語）	ドイツ語基礎１	1前		2				○						兼15		
		ドイツ語基礎２	1後		2				○						兼15		
		小計（2科目）	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼15	—	

全学共通科目言語系科目（言語B／フランス語）必修科目	フランス語基礎１ フランス語基礎２	1前 1後		2 2				○ ○						兼15 兼15	
	小計（2科目）	—	0	4	0		－		0	0	0	0	0	兼15	—
全学共通科目言語系科目（言語B／スペイン語）必修科目	スペイン語基礎１ スペイン語基礎２	1前 1後		2 2				○ ○						兼20 兼20	
	小計（2科目）	—	0	4	0		－		0	0	0	0	0	兼20	—
全学共通科目言語系科目（言語B／中国語）必修科目	中国語基礎１ 中国語基礎２	1前 1後		2 2				○ ○						兼25 兼25	
	小計（2科目）	—	0	4	0		－		0	0	0	0	0	兼25	—
全学共通科目言語系科目（言語B／朝鮮語）必修科目	朝鮮語基礎１ 朝鮮語基礎２	1前 1後		2 2				○ ○						兼21 兼21	
	小計（2科目）	—	0	4	0		－		0	0	0	0	0	兼21	—
全学共通科目言語系科目（言語B／ロシア語）必修科目	ロシア語基礎１ ロシア語基礎２	1前 1後		2 2				○ ○						兼3 兼3	
	小計（2科目）	—	0	4	0		－		0	0	0	0	0	兼3	—
全学共通科目言語系科目日本語必修科目（言語B）	大学生の日本語A 大学生の日本語B 大学生の日本語C 大学生の日本語D	1前 1前 1後 1後		1 1 1 1				○ ○ ○ ○						兼6 兼7 兼5 兼7	
	小計（4科目）	—	0	4	0		－		0	0	0	0	0	兼15	—

全学共通科目言語系科目自由科目（英語）インテンシブモジュール／コース	English Intensive A (Global World)	2・3・4前		4				○						兼5	
	English Intensive B (Academic Language Skills)	2・3・4前		4				○						兼4	
	English Intensive C (Integrated Language Skills)	2・3・4後		4				○						兼4	
	English Intensive D (Intercultural Understanding)	2・3・4後		4				○						兼5	
	Intercultural Studies	2・3・4前		2				○						兼1	
	Self-directed and Reflective Language Learning	2・3・4前		2				○						兼1	
	小計（6科目）	—	0	20	0		−		0	0	0	0	0	兼17	—
全学共通科目言語系科目自由科目（英語）インディペンデント・モジュール／コース	English Communication 1	2・3・4前・後		4				○						兼8	
	English Communication 2	2・3・4前・後		4				○						兼7	
	Pleasure Reading	2・3・4前		2				○						兼2	
	Reading for Pleasure	2・3・4前		2				○						兼2	
	Speech	2・3・4前・後		2				○						兼2	
	Debate	2・3・4前・後		2				○						兼1	
	Presentation	2・3・4前・後		2				○						兼3	
	Current English 1 (reading)	2・3・4前・後		2				○						兼4	
	Current English 2 (reading)	2・3・4前・後		2				○						兼5	
	Current English 1 (listening)	2・3・4前・後		2				○						兼4	
	Current English 2 (listening)	2・3・4前・後		2				○						兼5	
	Japanese Studies through English	2・3・4前・後		2				○						兼5	
	Language and History	2・3・4前		2				○						兼1	
	English through Movies A	2・3・4前		2				○						兼1	
	English through Movies B	2・3・4前		2				○						兼1	
	English through Movies C	2・3・4前		2				○						兼1	
	World Cultures	2・3・4後		2				○						兼1	
	World Heritage Sites	2・3・4前		2				○						兼1	
	English through Dramas	2・3・4後		2				○						兼1	
	Advertisement English	2・3・4後		2				○						兼1	
	English through Movies D	2・3・4後		2				○						兼1	
	English through Movies E	2・3・4後		2				○						兼1	
	English through Movies F	2・3・4後		2				○						兼1	
	Multimodal Communication in English	2・3・4前		2				○						兼1	
	Business Speaking	2・3・4後		2				○						兼1	
	Current News through English Media	2・3・4前・後		2				○						兼3	
	TOEFL 2 (vocabulary and grammar)	2・3・4前・後		2				○						兼1	
	TOEFL 2 (reading)	2・3・4前・後		2				○						兼3	
	TOEFL 2 (listening)	2・3・4前・後		2				○						兼3	
	TOEFL 2 (speaking and writing)	2・3・4前・後		2				○						兼4	
	TOEIC 1 (reading)	2・3・4前・後		2				○						兼8	
	TOEIC 1 (listening)	2・3・4前・後		2				○						兼9	
	TOEIC 1 (vocabulary and grammar)	2・3・4前・後		2				○						兼9	
	TOEIC 2 (reading)	2・3・4前・後		2				○						兼5	
	TOEIC 2 (listening)	2・3・4前・後		2				○						兼5	
	TOEIC 2 (vocabulary and grammar)	2・3・4前・後		2				○						兼4	
	IELTS	2・3・4前		2				○						兼1	
	Study Abroad Preparation: IELTS1(Basic)	2・3・4前・後		2				○						兼1	
	小計（38科目）	—	0	80	0		−		0	0	0	0	0	兼58	—
全学共通科目言語系科目自由科目（英語）アドバンスト・モジュール／コース	Lecture and Discussion A	2・3・4前		4				○						兼1	
	Lecture and Discussion D	2・3・4前		4				○						兼1	
	Lecture and Discussion E	2・3・4後		4				○						兼1	
	Lecture and Discussion F	2・3・4後		4				○						兼1	
	Lecture and Discussion G	2・3・4後		4				○						兼1	
	Lecture and Discussion H	2・3・4後		4				○						兼1	
	Discussion and Debate	2・3・4前・後		2				○						兼3	
	Advanced Academic Vocabulary	2・3・4前・後		2				○						兼2	
	Current English 3 (Comprehensive)	2・3・4前・後		2				○						兼4	
	Academic Studies (advanced presentation)	2・3・4前・後		2				○						兼3	
	Academic Studies (advanced writing)	2・3・4前・後		2				○						兼3	
	Career Studies (English for vocational purposes)	2・3・4前・後		2				○						兼4	
	Introduction to Global Studies A:Humanities	2・3・4前		2				○						兼1	
	Introduction to Global Studies B:Social Science	2・3・4前		2				○						兼1	
	Introduction to Global Studies C:Natural Science	2・3・4前		2				○						兼1	
	Communication for Global Business	2・3・4前		2				○						兼1	
	Collaborative Business Projects	2・3・4前		2				○						兼1	
	Study Abroad Preparation: IELTS2(Intermediate)	2・3・4前・後		2				○						兼1	
	小計（18科目）	—	0	48	0		−		0	0	0	0	0	兼26	—

全学共通科目言語系科目 自由科目（英語）オナーズ・モジュール／コース	University Lecture A	2・3・4前		2				○						兼1	
	University Lecture C	2・3・4前		2				○						兼1	
	CLIL Seminars:Ecology	2・3・4後		2				○						兼1	
	CLIL Seminars:Japanology	2・3・4後		2				○						兼1	
	CLIL Seminars:Literature	2・3・4前		2				○						兼1	
	CLIL Seminars:SDGS	2・3・4後		2				○						兼1	
	CLIL Seminars:Globalization and Business	2・3・4前		2				○						兼1	
	CLIL Seminars:History	2・3・4後		2				○						兼1	
	CLIL Seminars:Art	2・3・4前		2				○						兼1	
	CLIL Seminars:Movies	2・3・4前		2				○						兼1	
	CLIL Seminars:Tourism	2・3・4後		2				○						兼1	
	CLIL Seminars:Health and Wellness	2・3・4前		2				○						兼1	
	CLIL Seminars:Psychology	2・3・4後		2				○						兼1	
	Study Abroad Preparation: IELTS3(Advanced)	2・3・4前		2				○						兼1	
	小計（14科目）	―	0	28	0		―		0	0	0	0	0	兼14	―
全学共通科目言語系科目 自由科目（英語）国際交流制度短期英語研修プログラム インディペンデント・モジュール／コース（英語）	ビクトリア夏ESL2	1・2・3・4前		2				○						兼1	集中
	ハワイ夏ESL1	1・2・3・4前		1				○						兼1	集中
	ダブリン春ESL3	1・2・3後		3				○						兼1	集中
	ビクトリア春ESL2	1・2・3後		2				○						兼1	集中
	ダブリン夏ESL3	1・2・3・4前		3				○						兼1	集中
	ハワイ春ESL1	1・2・3後		1				○						兼1	集中
	グリフィス春ESL3	1・2・3後		3				○						兼1	集中
	短期語学研修科目(英語)	1・2・3・4前・後		1				○						兼2	集中
	ｵﾝﾗｲﾝ海外語学研修科目(英語)	1・2・3・4前・後		1				○						兼2	集中
	小計（9科目）	―	0	17	0		―		0	0	0	0	0	兼11	―
全学共通科目言語系科目 自由科目（ドイツ語）基礎科目群（中級レベル）	ドイツ語中級１	2・3・4前		2				○						兼6	共同
	ドイツ語中級２	2・3・4後		2				○						兼7	共同
	ドイツ語スタンダード１	2・3・4前		1				○						兼2	
	ドイツ語スタンダード２	2・3・4前		1				○						兼3	
	ドイツ語スタンダード３	2・3・4後		1				○						兼3	
	ドイツ語スタンダード４	2・3・4後		1				○						兼3	
	小計（6科目）	―	0	8	0		―		0	0	0	0	0	兼11	―
全学共通科目言語系科目 自由科目（ドイツ語）コア科目群（上級レベル）	上級ドイツ語コミュニケーション１	2・3・4前		2				○						兼2	
	上級ドイツ語コミュニケーション２	2・3・4後		2				○						兼2	
	上級ドイツ語ライティング１	2・3・4前		2				○						兼2	
	上級ドイツ語ライティング２	2・3・4後		2				○						兼2	
	上級ドイツ語リスニング・リーディング１	2・3・4前		2				○						兼2	
	上級ドイツ語リスニング・リーディング２	2・3・4後		2				○						兼2	
	上級ドイツ語演習１	2・3・4前		2				○						兼2	
	上級ドイツ語演習２	2・3・4後		2				○						兼2	
	ドイツ語総合１	2・3・4前		2				○						兼1	
	ドイツ語総合２	2・3・4後		2				○						兼1	
	ドイツ語総合３	2・3・4前		2				○						兼1	
	ドイツ語総合４	2・3・4後		2				○						兼1	
	小計（12科目）	―	0	24	0		―		0	0	0	0	0	兼5	―

ドイツ語入門科目	全学共通科目言語系科目 自由科目（ドイツ語）	基礎ドイツ語入門	2・3・4前		2				○					兼6	
		基礎ドイツ語初級	2・3・4後		2				○					兼6	
		小計（2科目）	—	0	4	0		ー		0	0	0	0	0	兼6	ー
海外言語文化研修	全学共通科目言語系科目 自由科目（ドイツ語）	ドイツ語海外言語文化研修（中級）	1・2・3・4前		2				○					兼1	
		ドイツ語海外言語文化研修（上級）	2・3・4前		2				○					兼1	
		小計（2科目）	—	0	4	0		ー		0	0	0	0	0	兼1	ー
基礎科目群（中級レベル）	全学共通科目言語系科目 自由科目（フランス語）	フランス語中級１	2・3・4前		2				○					兼6	共同
		フランス語中級２	2・3・4後		2				○					兼6	共同
		フランス語スタンダード１	2・3・4前		1				○					兼2	
		フランス語スタンダード２	2・3・4前		1				○					兼2	
		フランス語スタンダード３	2・3・4後		1				○					兼2	
		フランス語スタンダード４	2・3・4後		1				○					兼2	
		小計（6科目）	—	0	8	0		ー		0	0	0	0	0	兼8	ー
コア科目群（上級レベル）	全学共通科目言語系科目 自由科目（フランス語）	上級フランス語コミュニケーション１	2・3・4前		2				○					兼2	
		上級フランス語コミュニケーション２	2・3・4後		2				○					兼2	
		上級フランス語ライティング１	2・3・4前		2				○					兼2	
		上級フランス語ライティング２	2・3・4後		2				○					兼2	
		上級フランス語リスニング・リーディング１	2・3・4前		2				○					兼2	
		上級フランス語リスニング・リーディング２	2・3・4後		2				○					兼2	
		上級フランス語演習１	2・3・4前		2				○					兼2	
		上級フランス語演習２	2・3・4後		2				○					兼2	
		フランス語総合３	2・3・4前		2				○					兼1	
		小計（9科目）	—	0	18	0		ー		0	0	0	0	0	兼8	ー
情報処理論（中級レベル）	全学共通科目言語系科目 自由科目（フランス語） 言語	言語情報処理論（フランス語）	1・2・3・4前		2				○					兼1	
		小計（1科目）	—	0	2	0		ー		0	0	0	0	0	兼1	ー

全学共通科目言語系科目 自由科目（フランス語） フランス語入門科目	基礎フランス語入門	2・3・4前		2				○						兼8	
	基礎フランス語初級	2・3・4後		2				○						兼8	
	小計（2科目）	—	0	4	0		－		0	0	0	0	0	兼6	—
全学共通科目言語系科目 自由科目（フランス語） 海外言語文化研修	フランス語海外言語文化研修（中級）	1・2・3・4前		2				○						兼1	
	フランス語海外言語文化研修（上級）	2・3・4前		2				○						兼1	
	小計（2科目）	—	0	4	0		－		0	0	0	0	0	兼1	—
全学共通科目言語系科目 自由科目（スペイン語） 基礎科目群（中級レベル）	スペイン語中級１	2・3・4前		2				○						兼5	共同
	スペイン語中級２	2・3・4後		2				○						兼5	共同
	スペイン語スタンダード１	2・3・4前		1				○						兼4	
	スペイン語スタンダード２	2・3・4前		1				○						兼3	
	スペイン語スタンダード３	2・3・4後		1				○						兼3	
	スペイン語スタンダード４	2・3・4後		1				○						兼2	
	小計（6科目）	—	0	8	0		－		0	0	0	0	0	兼8	—
全学共通科目言語系科目 自由科目（スペイン語） コア科目群（上級レベル）	上級スペイン語コミュニケーション１	2・3・4前		2				○						兼1	
	上級スペイン語コミュニケーション２	2・3・4後		2				○						兼1	
	上級スペイン語ライティング１	2・3・4前		2				○						兼2	
	上級スペイン語ライティング２	2・3・4後		2				○						兼2	
	上級スペイン語リスニング・リーディング１	2・3・4前		2				○						兼1	
	上級スペイン語リスニング・リーディング２	2・3・4後		2				○						兼1	
	上級スペイン語演習１	2・3・4前		2				○						兼1	
	上級スペイン語演習２	2・3・4後		2				○						兼1	
	スペイン語総合５	2・3・4後		2				○						兼1	
	小計（9科目）	—	0	18	0		－		0	0	0	0	0	兼4	—
全学共通科目言語系科目 自由科目（スペイン語） 言語情報処理論（中級レベル）	言語情報処理論（スペイン語）	1・2・3・4前・後		2				○						兼2	
	小計（1科目）	—	0	2	0		－		0	0	0	0	0	兼2	—

全学共通科目言語系科目 自由科目（スペイン語） スペイン語入門科目	基礎スペイン語入門	2・3・4前		2				○						兼14	
	基礎スペイン語初級	2・3・4後		2				○						兼14	
	小計（2科目）	—	0	4	0	−			0	0	0	0	0	兼14	—
全学共通科目言語系科目 自由科目（スペイン語） 海外言語文化研修	スペイン語海外言語文化研修（中級）	1・2・3後		2				○						兼1	
	スペイン語海外言語文化研修（上級）	2・3後		2				○						兼1	
	小計（2科目）	—	0	4	0	−			0	0	0	0	0	兼1	—
全学共通科目言語系科目 自由科目（中国語） 基礎科目群（中級レベル）	中国語中級１	2・3・4前		2				○						兼6	
	中国語中級２	2・3・4後		2				○						兼6	
	中国語スタンダード１	2・3・4前		1				○						兼3	
	中国語スタンダード２	2・3・4前		1				○						兼4	
	中国語スタンダード３	2・3・4後		1				○						兼3	
	中国語スタンダード４	2・3・4後		1				○						兼4	
	小計（6科目）	—	0	8	0	−			0	0	0	0	0	兼13	—
全学共通科目言語系科目 自由科目（中国語） コア科目群（上級レベル）	上級中国語コミュニケーション１	2・3・4前		2				○						兼2	
	上級中国語コミュニケーション２	2・3・4後		2				○						兼2	
	上級中国語ライティング１	2・3・4前		2				○						兼1	
	上級中国語ライティング２	2・3・4後		2				○						兼1	
	上級中国語リスニング・リーディング１	2・3・4前		2				○						兼1	
	上級中国語リスニング・リーディング２	2・3・4後		2				○						兼1	
	上級中国語演習１	2・3・4前		2				○						兼2	
	上級中国語演習２	2・3・4後		2				○						兼2	
	小計（8科目）	—	0	16	0	−			0	0	0	0	0	兼2	—
全学共通科目言語系科目 自由科目（中国語） 言語情報処理論（中級レベル）	言語情報処理論（中国語）	1・2・3・4前・後		2				○						兼1	
	小計（1科目）	—	0	2	0	−			0	0	0	0	0	兼1	—

全学共通科目言語系科目 自由科目（中国語） 中国語入門科目	基礎中国語入門	2・3・4前		2				○						兼8	
	基礎中国語初級	2・3・4後		2				○						兼8	
	小計（2科目）	―	0	4	0	―			0	0	0	0	0	兼8	―
全学共通科目言語系科目 自由科目（中国語） 海外言語文化研修	中国語海外言語文化研修（中級）	1・2・3・4前		2				○						兼1	
	中国語海外言語文化研修春（中級）	1・2・3後		2				○						兼1	
	中国語海外言語文化研修（上級）	2・3・4前		2				○						兼1	
	中国語海外言語文化研修春（上級）	2・3後		2				○						兼1	
	小計（4科目）	―	0	8	0	―			0	0	0	0	0	兼1	―
全学共通科目言語系科目 自由科目（朝鮮語） 基礎科目群（中級レベル）	朝鮮語中級１	2・3・4前		2				○						兼8	共同
	朝鮮語中級２	2・3・4後		2				○						兼8	共同
	朝鮮語スタンダード１	2・3・4前		1				○						兼3	
	朝鮮語スタンダード２	2・3・4前		1				○						兼3	
	朝鮮語スタンダード３	2・3・4後		1				○						兼3	
	朝鮮語スタンダード４	2・3・4後		1				○						兼3	
	小計（6科目）	―	0	8	0	―			0	0	0	0	0	兼14	―
全学共通科目言語系科目 自由科目（朝鮮語） コア科目群（上級レベル）	上級朝鮮語コミュニケーション１	2・3・4前		2				○						兼1	
	上級朝鮮語コミュニケーション２	2・3・4後		2				○						兼2	
	上級朝鮮語ライティング１	2・3・4前		2				○						兼2	
	上級朝鮮語ライティング２	2・3・4後		2				○						兼2	
	上級朝鮮語リスニング・リーディング１	2・3・4前		2				○						兼2	
	上級朝鮮語リスニング・リーディング２	2・3・4後		2				○						兼2	
	上級朝鮮語演習１	2・3・4前		2				○						兼1	
	上級朝鮮語演習２	2・3・4後		2				○						兼1	
	小計（8科目）	―	0	16	0	―			0	0	0	0	0	兼7	―
全学共通科目言語系科目 自由科目（朝鮮語）言語情報 処理論（中級レベル）	言語情報処理論（朝鮮語）	1・2・3・4後		2				○						兼2	
	小計（1科目）	―	0	2	0	―			0	0	0	0	0	兼2	―
全学共通科目言語系科目 自由科目（朝鮮語） 朝鮮語入門科目	基礎朝鮮語入門	2・3・4前		2				○						兼12	
	基礎朝鮮語初級	2・3・4後		2				○						兼12	
	小計（2科目）	―	0	4	0	―			0	0	0	0	0	兼12	―

全学共通科目言語系科目 自由科目（朝鮮語） 海外言語文化研修	朝鮮語海外言語文化研修（中級） 朝鮮語海外言語文化研修（上級）	1・2・3・4前 2・3・4前		2 2				○ ○						兼1 兼1	
	小計（2科目）	—	0	4	0	−			0	0	0	0	0	兼1	—
全学共通科目言語系科目 自由科目（ロシア語） 自由科目	ロシア語セミナーA ロシア語セミナーB ロシア語セミナーC ロシア語セミナーD ロシア語セミナー１ ロシア語セミナー２	2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後		1 1 1 1 1 1				○ ○ ○ ○ ○ ○						兼2 兼2 兼1 兼1 兼1 兼1	
	小計（6科目）	—	0	6	0	−			0	0	0	0	0	兼4	—
全学共通科目言語系科目 自由科目（ロシア語） 基礎からのロシア語	基礎ロシア語入門 基礎ロシア語初級	2・3・4前 2・3・4後		2 2				○ ○						兼3 兼3	
	小計（2科目）	—	0	4	0	−			0	0	0	0	0	兼3	—
全学共通科目言語系科目 自由科目（ポルトガル語）	ポルトガル語１ ポルトガル語２ ポルトガル語３ ポルトガル語４	2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後		1 1 1 1				○ ○ ○ ○						兼1 兼1 兼1 兼1	
	小計（4科目）	—	0	4	0	−			0	0	0	0	0	兼1	—
全学共通科目言語系科目 自由科目（日本手話） 入門レベル	日本手話　1	1・2・3・4前		1				○						兼3	共同
	小計（1科目）	—	0	1	0	−			0	0	0	0	0	兼3	—
全学共通科目言語系科目 自由科目（日本手話） 初級レベル	日本手話　2	1・2・3・4後		1				○						兼3	共同
	小計（1科目）	—	0	1	0	−			0	0	0	0	0	兼3	—

中級レベル（日本手話）自由科目 全学共通科目言語系科目	日本手話　3 日本手話　4	1・2・3・4前 1・2・3・4後		1 1				○ ○						兼3 兼3	共同 共同
	小計（2科目）	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼3	—
自由科目（日本語）全学共通科目言語系科目	日本の社会と文化Ａ	2・3・4前		2				○						兼1	
	日本の社会と文化Ｂ	2・3・4後		2				○						兼1	
	日本の社会と文化Ｃ	2・3・4後		2				○						兼1	
	社会の中の日本語Ａ	2・3・4前		2				○						兼1	
	社会の中の日本語Ｂ	2・3・4後		2				○						兼1	
	論文読解の技法	2・3・4前		2				○						兼2	
	論文作成の技法	2・3・4後		2				○						兼2	
	キャリアの日本語Ａ	2・3・4前・後		2				○						兼2	
	キャリアの日本語Ｂ	2・3・4前・後		2				○						兼2	
	ビジネスのための口頭運用力Ａ	2・3・4前・後		2				○						兼3	
	ビジネスのための口頭運用力Ｂ	2・3・4前・後		2				○						兼1	
	ビジネスメールと文書	2・3・4前・後		2				○						兼2	
	小計（12科目）	—	0	24	0	—			0	0	0	0	0	兼11	—
全学共通科目合計（584科目）		—	0	1152	0	—			11	5	0	1	0	兼865	—

学位又は称号	学士（異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
（一般） 全学共通科目24単位，学びの精神4単位，専門教育科目については学部必修科目８単位，基盤科目20単位，基礎科目12単位，専門科目26単位，更に，選択により以下の科目を修得し，合計124単位以上を修得しなければならない。 ① 卒業研究選択者 専門演習・卒業研究10単位，自由科目20単位 ② 卒業課題選択者 卒業課題4単位，自由科目26単位 （DLP） 全学共通科目24単位，学びの精神4単位，専門教育科目については学部必修科目８単位，基盤科目20単位，基礎科目12単位，専門科目26単位，更に，選択により以下の科目を修得し，合計124単位以上を修得しなければならない。 ① 卒業研究選択者 専門演習・卒業研究10単位，自由科目20単位 ② 卒業課題選択者 卒業課題4単位，自由科目26単位 （Transitional Bilingual Program in CIC） 全学共通科目24単位，学びの精神4単位，専門教育科目については学部必修科目８単位，基盤科目20単位，基礎科目12単位，専門科目26単位，更に，選択により以下の科目を修得し，合計124単位以上を修得しなければならない。 ① 卒業研究選択者 専門演習・卒業研究10単位，自由科目20単位 ② 卒業課題選択者 卒業課題4単位，自由科目26単位 （PEACE CIC） 全学共通科目24単位，学びの精神4単位，専門教育科目については学部必修科目10単位，PEACE選択科目10単位，基盤科目８単位，基礎科目12単位，専門科目26単位，更に，選択により以下の科目を修得し，合計124単位以上を修得しなければならない。 ① 卒業研究選択者 専門演習・卒業研究10単位，自由科目20単位 ② 卒業課題選択者 卒業課題4単位，自由科目26単位 （共通） 自由科目には，指定単位を超えて修得した選択科目・全学共通科目・他学部科目・言語自由科目・５大学間単位互換制度による他大学の科目及び留学認定科目を算入することができる。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	14週
	１時限の授業時間	100分

学生の確保の見通し等を記載した書類

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア　設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

◯現状

本学は、リベラルアーツに基づく教育を標榜している。この「リベラルアーツに基づく教育」の目標とは、「その学びを通じて、学ぶ者が＜世界を読み解く力＞を、そして、＜世界を変えていく力＞を身につけることができるようにすること」にある**（資料１**（P5）**）**。これを実現するためには、例えば、本学において学んだ学生が、そのキャンパス内にいながら多元的な環境に身を置き、多様な価値観に触れることができること等が必要である。そして、大学が、留学生と日本人学生がキャンパスに集い、異なる価値観を、相手に合わせて日本語やそれ以外の言語を通じてぶつけ合える環境を用意することが不可欠である。

以上のような理念に基づき、本学では、2014 年 10 月に 10 年間を見据えた国際化戦略として、RikkyoGlobal24（以下「RG24」という。）を策定した。また、同年にRG24を踏まえた構想が、スーパーグローバル大学創成支援事業（以下「TGU」という。）に採択された。採択以来、全学生に占める外国人留学生の割合、日本人学生に占める留学経験者の割合など、自ら設定した目標値を達成できるよう、学内の様々な国際化を進めてきた結果、2020 年度の中間評価では総括評価が「A」（これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。）となったところである。

◯課題

上記のとおり、国際化の推進に向けて努力を続けていたが、2019 年度の終わり（2020 年春）から世界的に拡大した新型コロナウイルスの脅威は、海外大学との国際交流等の本学における国際化の推進に深刻な影響を与えており**（資料２）**、新型コロナウイルスの世界的な蔓延前に想定した状況とは異なるものになっている。この現状を打破し、海外大学との国際交流等の水準を、新型コロナウイルスの世界的な蔓延前の状態に戻しつつ、これまで以上に「留学生と日本人学生がキャンパスに集い、異なる価値観を、相手に合わせて日本語やそれ以外の言語を通じてぶつけ合える環境」を整備するためには、外国人留学生数、留学経験者数の増加その他の国際化推進に向けた取組みを継続し続ける必要がある。

イ　地域・社会的動向等の現状把握・分析

◯現状

（地域的な現状：東京都「国際都市戦略プロジェクト」推進方針）

東京都は、2022 年 6 月に「国際都市戦略プロジェクト」推進方針を公表し、「「世界から選ばれる都市」の実現に向けては、①都の政策を世界に効果的に伝える、②海外諸都市や大使館とのつながりを強化する及び③国際展開を担う人材を育てる等の取組が必要である。」（目的（P3））としているほか、**表１**の内容に言及している**（資料３）**。

（表１）

内容（東京都：「国際都市戦略プロジェクト」推進方針）	掲載箇所
世界から選ばれる都市・東京の実現 （学ぶ人から選ばれる　⇒　国際的に活躍する人が育つ都市）	位置づけ（P4）

グローバルな視点を持つ人材充実の必要性 （日本で学ぶ外国人学生及び留学生の数は高等教育に在籍する全学生の 5%にとどまる）	東京を取り巻く状況（② グローバル化への対応の必要性）（P9）
東京の国際展開力強化のため、語学力や国際経験のある人材を“育てる”ことが喫緊の課題	世界から見た日本・東京～各種ランキングより～（P15）
日本語教室・語学学校等の利用・受講料金が高いなど／多言語での情報発信が少ないなど	世界からみた東京・日本～在住外国人や訪日観光客への調査より～（P18）
強みを伸ばし弱みを克服する上で必要な方向性 （多言語による受入環境（教育、医療等）の充実／学校における英語教育のさらなる充実・改善／語学力の向上、国際的に活躍できる人材の育成）	東京・日本の強み・弱み（P19）
③育てる（国際的に活躍する人が育つ都市） （海外から多くの高度人材を受入／豊かな国際感覚を身に付けグローバルに活躍する人材を輩出）	国際展開力を高めるための取組の全体像（P21）
外国人が快適に暮らし働ける環境整備（日本語教育の推進体制構築） （地域における外国人等に向けた日本語教育の推進体制構築を支援／日本語教室のデータベースを活用し、各地域の日本語教室について情報発信）	国際展開力を高めるための取組②海外と東京をつなぐ環境づくり（P29）

（社会的な現状①：教育未来創造会議）

教育未来創造会議が 2022 年 5 月 10 日に公表した第一次提言では、「グローバル化の一層の進展への対応を図る。」（Ⅱ．基本的考え方－２．ありたい社会像（P9））としているほか、「高度外国人材の育成・活躍推進」及び「コロナ禍で停滞した国際的な学生交流の再構築」を言及している（Ⅲ．具体的方策－１．未来を支える人材をはぐくむ大学等の機能強化－（４）グローバル人材の育成・活躍推進（P19））。また、9 月 29 日に開催された第４回の配布資料２（P2）では、「コロナ後のグローバル社会を見据えた人への投資について」として、「①コロナ後の新たな留学生受入れ・派遣計画」、「②卒業後の留学生等の活躍に向けた環境整備」及び「③教育の国際化の促進」を主な論点案として挙げている。さらに、2023 年 3 月 17 日に開催された第５回の配布資料２－２では、コロナ後の新たな留学生派遣・受入れ方策、留学生の卒業後の活躍に向けた環境整備及び教育の国際化の推進の３つについて、それぞれ、今後の方向性及び具体的方策に言及している**（資料４）**。

（社会的な現状②：中央教育審議会）

2023 年 3 月 8 日に中央教育審議会が公表した「次期教育振興基本計画について（答申）」では、５つの基本的方針の一つとして「①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成」を掲げ、「(グローバル人材の育成)」（P13）として、「グローバルな立場から社会の持続的な発展を生み出す人材として、地球規模の諸課題を自らに関わる問題として捉え、世界を舞台に国際的なルール形成をリードしたり、社会経済的な課題解決に参画したりするグローバル・リーダーや、グローバルな視点を持って地域社会の活性化を担う人材の育成を推進していく必要がある。」（P13）、「コロナ禍で激減した日本人学生・生徒の海外留学や、より若年段階からの国際的な交流活動の推進、外国人留学生の受入れ環境、大学等のグローバル化の基盤・ルールの整備、外国語教育の充実、外国人への教育の充実、国際理解教育の推進などを図っていく必要がある。」（P14）等としている**（資料５）**。

（社会的な現状③：日本経済団体連合会（経団連））

経団連が 2022 年 10 月 11 日に公表した「「次期教育振興基本計画」策定に向けた提言」では、「Ⅲ.

優先的に取り組むべき教育政策の施策」として「３．グローバル教育・海外留学」（P12）を掲げ、「海外大学との教育連携の推進」（P12）の具体的な取組みとして、「学生の留学支援を強化」（P13）、「学生の英語力強化に取り組みつつ、英語による教育プログラムの充実」（P13）等を挙げているほか、**表２**の内容に言及している**（資料６）**。

（表２）

内容（経団連：「次期教育振興基本計画」策定に向けた提言）	掲載箇所
国・地域などの多様性を尊重しつつ、社会課題の解決や人々の Well-being の向上に貢献する人材の育成がより一層求められている。	はじめに（P1）
(d) 6ヵ月以上、海外に留学する大学生数を３万人(←2020 年度約 900 人)	Ⅰ．－２．「指標」および「目標値」の設定（P3）
先を見通せない変化の激しい時代においては、自らの頭で主体的に考え、実社会の中から課題を見つけ出し、想像力・創造力を発揮しながら、新たな価値を生み出していくことが重要	Ⅱ．１．理念（P3,4）
グローバル化が進展し、かつ誰一人取り残されない包摂的な社会の実現が重要となるなかで、課題解決にあたっては、多様な個性や価値観・考えをもった集団において、他者と連携・協働することが求められている。	Ⅱ．１．理念（P4）
企業は今、グローバル・ビジネスで打ち勝つため、他者を尊重し協調しながらリーダーシップを発揮できる人材や果敢にチャレンジする人材など、「主体性・積極性に富んだ人材」を求めているほか、課題設定力を有し創造力・発想力が豊かな人材や、高度な専門性や特定の分野での強みを持った人材など、いわゆる「尖った人材」の採用を強化する傾向にある。	Ⅱ．３．－【方針〔A〕】（P5）

◯課題

（コロナ禍で停滞した国際的な取組みの回復）

TGU 採択校として、自ら設定した目標値（全学生に占める外国人留学生の割合、日本人学生に占める留学経験者の割合等）の達成に向けて邁進してきているが、新型コロナウイルスの蔓延により、外国人留学生数等に甚大な影響が生じている。本学において学んだ学生が、そのキャンパス内にいながら多元的な環境に身を置くこと、多様な価値観に触れること等を実現するため、また、教育未来創造会議がいう「人材交流の活性化及び多様性のあるイノベーション人材の育成強化を図り、新たな価値を持続的に創出する社会」**（資料４**（第４回配布資料 P1）**）**の構築や、中央教育審議会が言う「グローバルな立場から社会の持続的な発展を生み出す人材」**（資料５**（P13）**）**を育成するためには、一刻も早くあらゆる国際的な取組みをコロナ禍前の状態に戻すことが喫緊の課題である。

（多様な価値観を尊重できる人材等の育成）

本学では、「グローバル時代を生きていく力を獲得するためには、画一的な、教育を提供する側の視点で作られた教育から脱却し、高等教育機関として、多様な価値観を持つ多様な人々が集まり、新たな価値が創造される場となることが必要」**（資料１**（P6）**）**であるという認識の下、「人と人、想いと想いをつなぎ、実りある未来へと、強く道を拓いてゆける人材」**（資料１**（P3）**）**の輩出を目指している。また、経団連は「グローバル化が進展し、かつ誰一人取り残されない包摂的な社会の実現が重要となるなかで、課題解決にあたっては、多様な個性や価値観・考えをもった集団において、他者と連携・協働することが求められている。」**（表２）**としている。これらを実現するためには、日本人学生の海外派遣、外国人留学生の受入れ等を行いながら、「多様な個性や価値観・考えをもった集団において、他

者と連携・協働する」ことができる人材等を育成する必要がある。

（外国人留学生を含む来日外国人への支援）

近い将来に、コロナ禍による外国人の新規入国制限が完全に撤廃された場合、多くの外国人が様々な目的で来日することが予想される。これは「多様な価値観を尊重できる人材等の育成」に資する動きになるため歓迎すべきであるが、支援がなければ外国人が日本に定着することが難しく、「高度外国人材の育成・活躍推進」が進まない可能性が高い。また、日本が「世界から選ばれる」ためには、日本人学生の語学力、国際経験の向上に向けた取り組み（外国語による授業科目の設置、実渡航及びオンラインによる国際交流の増加等）や外国人が快適に暮らし働ける環境整備（日本語教育の推進等）が必要である。

ウ　新設学科等の趣旨目的，教育内容，定員設定等

◯本学部の教育研究上の目的

教育研究上の目的は「変化を続ける世界の中で，複数の視点からものごとを考え，柔軟な思考力をもって実践的に問題と向き合うことによって，多様で「異なる」他者と共生し，持続可能な未来を創ることのできる人材を育成する。」と学則**（資料７）**において規定している。この目的に基づき、以下「**◯本学部の教育内容**」に記載する教育を行っているところである。

上記の本学としての認識及び本学部の教育目的は、教育未来創造会議や経団連が言及している内容に合致することに加え、以下に記載する**（方針）**に基づく、**（専門科目群）**における４つの柱、**（特色ある教育科目群）**としての DLP（Dual Language Pathway）、**（日本人学生の海外派遣及び外国人留学生の受入れ）**及び**（現場での実践）**における実社会のあらゆる現場においてその時その状況に必要な実践力と対応力を柔軟に引き出す力を培うための授業科目の開講等の取組みは、課題として挙げた「コロナ禍で停滞した国際的な取組みの回復」、「多様な価値観を尊重できる人材等の育成」及び「留学生を含む来日外国人への支援」の解決に大いに寄与することができる。

また、本学部では、履修モデルを「一般」、「Dual Language Pathway（DLP）」、「Transitional Bilingual Program in CIC（TBP）」及び「Proactive, Ethical, Able, Collaborative, Engaged Program CIC（PEACE）」の４つに区分している。それぞれの概要は**表３**のとおりである。

（表３）

履修モデル	概　要
一般	一般的な日本人学生を対象とした教育プログラム
DLP	英語と日本語の２つの言語を駆使して４年間学んでいく教育プログラム
TBP	本学での学位取得を目的とした、外国人留学生を対象とした教育プログラム
PEACE	英語による授業科目のみで学位の取得が可能な教育プログラム

◯本学部の教育内容

（方針）

学位授与の方針**（資料８）**には、本学部の専門科目を通じて得られる学修成果として**表４**の８項目を挙げているほか、この方針に基づく教育課程編成の方針を定め、学修成果と科目の関係を明示している**（資料９）**。

（表４）

①	論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。
②	自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。

③	グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。
④	多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、それを踏まえて行動することができる。
⑤	日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。
⑥	異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。
⑦	教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。
⑧	文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことできる。

（専門科目群）（資料 10）

本学部では、異文化コミュニケーション研究の基礎を学ぶ研究基礎科目の上にお互いが相互に関連し合った専門科目群（言語研究、通訳翻訳研究、コミュニケーション研究及びグローバル・スタディーズ）を設置し、複数の視点からものごとを考え、柔軟な思考力をもって実践的に問題に向かい合うことができる知識、知恵、行動力を身に付けるために、**表5**の４つの柱を立てている**（資料 11）**。

（表5）

1．日本語を磨く・英語を磨く	日本で学ぶ以上、日本語は重要である。1 年次の「基礎演習」で、日本語力を訓練し、論理的思考力と自己表現力を磨く。また、「Dual Language Pathway」では、英語で学び、議論し、レポートを書くことで、高い英語の運用力を磨く。
2．英語＋1	言語は世界へ飛び出し活躍するための道具である。国際共通語である英語に加え、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、ロシア語のいずれかを選択して学ぶ。
3．知識と実践の往還	「通訳翻訳実習」、「日本語教育実習」、「フィールドワーク」などの実習型の科目を設置し、教室で学んだ知識を現場での実践に結び付ける力を身につける。
4．海外留学研修・Dual Language Pathway	原則全員が参加する 2 年次秋学期の「海外留学研修」や、英語で展開されている科目を主に履修して卒業する「Dual Language Pathway」を設置し、教室での学びだけに終わらない多様な仕組みをカリキュラムに組み込んでいる。

これら４つを柱に、理論と実践を充実させる科目が設置され、両者が有機的に結びつき、学生が自ら選んだ研究領域（言語研究、通訳翻訳研究、コミュニケーション研究及びグローバル・スタディーズ）に即して科目を選択することで、専門性を深めるとともに、自ら行動する力を身につけていくことができる。また、本学部を卒業した学生は、専門職（日本語教員、英語教員等）に就く、又はグローバル機関、企業（金融・メーカー等の海外拠点への就職、NPO、NGO 等の国際機関や人道支援分野等に就職又は起業）に就職して、活躍することが期待される。なお、指定された科目を履修することで修了証が授与される、「日本語教員養成プログラム」及び「通訳・翻訳者養成プログラム」を設置している。

（特色ある教育プログラムーDLP（Dual Language Pathway））

英語と日本語、２つの言語と高度な専門知識を使って、柔軟に問題対応ができる人材の育成を目指

して、日本語で考察、理解、発信する力に加え、国際共通語である英語で読み、議論し、発信する力を身に付け、現実に根差した実践的スキルを駆使できるようになるための、４年間のプログラムである**（表６）（資料 12）**。なお、入試を個別に行うとともに（定員 15 人）、学部設置の英語で展開している専門科目を中心に履修し、同時に日本語で展開している授業科目も学生の興味関心に応じて履修することになる。

（表６）

DLP の特色	DLP 科目例
①「Academic Skills」で英語によるレポート作成など基礎的スキルを学び、学部教育科目を英語で履修することで、海外の大学で英語による専門科目の授業を受けられる水準を目指す。	・Academic Skills A,B ・Overview of Language and Communication Studies ・Overview of Global Studies ・Introduction to International Development and Cooperation ・Introduction to Intercultural Communication ・Communication and Citizenship ・Multiculturalism in Japan ・Bilingualism ・Teaching English to Speakers of Other Languages: Basic Principles ・Translation and Interpreting Practicum ・Ethnicity and Globalization in Japan
②「ベーシックセミナー」で日本語でのアカデミックスキルを学び、自身の関心のある研究領域にある学びを日英両言語で深めるため、日本語による科目も卒業要件単位として認定する。	
③英語による卒業研究（論文）は必修とする。	
④２年次秋学期には、学部間協定大学への１年間の留学など、長期留学を目指す。	

（日本人学生の海外派遣及び外国人留学生の受入れ）（資料 13）

本学部では、原則として全ての学生が留学を経験する（授業科目「海外留学研修」を履修）。留学先は、アジア、北アメリカ、オセアニア、ヨーロッパなど、約 19 か国 47 校（2022 年１月時点）の提携先大学となる。これに加え、大学間協定を締結している、世界 26 か国・地域の 95 校（2022 年１月時点）へ留学することも可能である。なお、2017 年度から 2021 年度までに派遣した学生は、**表７**のとおり合計で 387 人である。新型コロナウイルスの影響により、2020 年度は 0 人、2021 年度もそれ以前と比べると数が半減しているが、派遣期間が６か月以上の割合が 2017 年度から 2021 年度までで最も高くなっており（59.5%）、経団連が求めている「６ヵ月以上、海外に留学する大学生数を３万人」という目標に貢献できている。

（表７）

期間	2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		５か年合計
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
３か月以上	1	84	3	75	0	91	0	0	4	17	275
６か月以上	1	36	0	36	0	14	0	0	0	25	112
合計	2	120	3	111	0	105	0	0	4	42	387
6か月以上の割合	50.0%	30.0%	0.0%	32.4%	–	13.3%	–	–	0.0%	59.5%	28.9%

また、外国人留学生の受入れも積極的に行っており、直近５年間で外国人留学生入試（本学での学位取得を目的とする者が対象）によって受入れた学生数は**表８**のとおりである。派遣と同様、2020 年度には志願者が減少したものの、2021 年度には復調しており、６年間で平均して約 18 人を受け入れている。なお、この入試の出願資格は、（１）出願時に日本国籍を有しない者、（２）国の内外を問わず、学校教育における 12 年以上の課程を修了した者（「飛級」により通常の課程を 12 年未満で修了した者

及び 2023 年３月までに修了見込みの者を含む)、（３）学校教育における第７～12 学年の課程のうち、外国において、外国の学校教育制度に基づく課程によって、通算して５学年以上を修了した者（「飛級」により５学年以上に相当する課程を５年未満で修了した者及び 2023 年３月までに修了見込みの者を含む）並びに（４）IELTS（Academic Module）または TOEFL iBT を受験し、スコアを提出できる者の４つである。さらに、協定校からの交換留学等によっても外国人留学生を受け入れている。直近３年の受け入れ人数は、2022 年度 43 人、2021 年度３人及び 2020 年度 0 人である。

（表８）

	2017年度			2018年度			2019年度			2020年度			2021年度			2022年度			入学者平均
	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	
外国人留学生入試	42	25	20	67	24	16	86	22	18	64	21	14	95	24	20	93	26	18	17.67

（現場での実践）

本学部では、海外フィールドスタディ、国内フィールドスタディ、海外インターンシップ、English Camp、立教日本語教室、RiCoLaS(立教コミュニティー翻訳通訳サービス)など、実社会のあらゆる現場においてその時その状況に必要な実践力と対応力を柔軟に引き出す力を培うための実践を伴う学びを正課・正課外の両面で推進している**（資料 14）**。

海外フィールドスタディ（正課科目）では、毎年夏季休業期間に２週間程度、海外のフィールドに滞在し、異なる生活や文化、この国が抱える社会課題などについて、体験を通して学ぶ。これまでモンゴル、タイ、マレーシア、ルワンダ、バングラデシュ等での実践がある。コロナ禍でもオンラインでのフィールドスタディを実現した。国内フィールドスタディ（正課科目）では、日本国内のフィールドに複数回足を運び、そこに潜む課題を当事者の立場に接近して理解すること、日本の課題と海外の課題を結びつけて理解することを目指す。また、それらの課題を一方的な支援ではなく、双方向に協力して解決するための実践力を身につける。これまで「国際協力」「草の根で平和を創る人々」をテーマに展開した。

海外インターンシップ（正課科目）は、対面型、オンライン型の２つの実践型プログラムを用意している。対面型は、精華大学（中国）、天主教輔仁大学（台湾）、モンゴル文化教育大学（モンゴル）、ダルサラーム大学（ブルネイ）で行い、海外に数週間滞在し、現地の学生の日本語学習を支援する。オンライン型は、マードック大学（オーストラリア）の学生の日本語学習を支援することを通じて日本語教育について学ぶ。

English Camp は、豊島区の小中学生及び岩手県陸前高田市の中学生を対象に、本学部の日本人学生と外国人人留学生が共に英語で様々なアクティビティを企画し、英語の楽しさに触れるきっかけづくりを支援している。2020 年度からは、「サービスラーニング C」として正課科目となり、学びの実践の場として取り組んでいる。

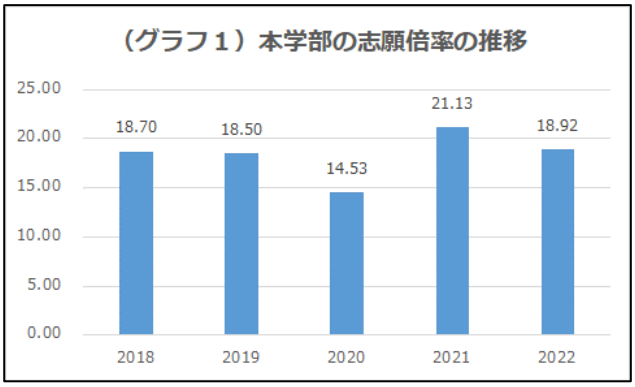
立教日本語教室は、豊島区と連携して日本語学習支援を行うものであり、サービスラーニング（正課科目）として、教室での学びと実践の両輪で展開している。なお、「日本語教員養成プログラム」の選択必修科目となっている。

RiCoLaS（立教コミュニティー翻訳通訳サービス）は、「通訳・翻訳者養成プログラム」で学ぶ学生を中心とした翻訳・通訳の訓練生が学内外の実際のプロジェクトに取り組むサービスラーニングのプログラム（正課外）である。教室で習得した知識やスキルを現実社会で適用できるものに転換させることで学生の翻訳・通訳サービス提供能力を向上させること、クライアントとの関わりやサービスの自己評価などを通して学生が積極的に自らのキャリア形成を計画すること及び学内外コミュニティー

の課題解決に向けた取り組みに貢献することで学生が自らの社会的役割や責任を認識するようになることを目標としている。

◯本学部の定員設定

・収容定員の増加が必要な理由



本学部	文学部	経済学部	理学部
580	3,672	2,736	1,168
社会学部	法学部	観光学部	ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学部
2,076	2,340	1,480	1,400
経営学部	現代心理学部	ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学部	**（表９）**
1,540	1,276	920	※2023.4.1現在

本学部では、2008 年度の開設当初から「複数の視点」、「実践的な問題と向き合う」、「「異なる」他者と共生」等に着目しながら教育研究を行ってきたが、昨今、「社会や経済のグローバル化が進展する我が国においては、優秀な外国人留学生を獲得し、我が国の成長に生かすことや、個々の能力を高めグローバル化した社会で活躍する人材を育成することが喫緊の課題」**（資料 15）**とされるなど、大学の国際化が社会から求められている。学部名称に「国際」又は「グローバル」を付す学部数は、2018 年度の 61 から 2022 年度には 77 と増加しており（後述）、高等教育機関によるこれらの教育研究に係る関心が高まっている。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、これらの学部における全国的な志願者数は減少しているが、新型コロナウイルス感染症の発生如何で上記の課題が解決することはなく、今後、志願者は復調することが見込まれる。なお、本学部の志願倍率は、2020 年度入試において減少したものの、直近５年間の平均で約 18 倍となっている**（グラフ１）**（後述）。これは、受験生のニーズを踏まえた教育研究を行っている証ではあるものの、適正なものとはいえず、過剰な倍率を是正し受験生のニーズに可能な限り応えるようにする必要がある。さらに、本学部の収容定員は学内他学部と比較して収容定員が少ない**（表９）**。本学部の教育研究上の目的を達成するためには、学生の多様性の確保が必須であるため、外国人留学生の受入れ等を積極的に行っているところであるが、現在の収容定員では多様性の確保に限界がある。

表10	区分１	区分２	区分３	卒業要件単位数
全学共通科目	言語系科目	言語A		6
		言語B		4
	総合系科目	学びの精神		4
		多彩な学び	１．人間への探究	14
			２．社会への視点	
			３．芸術・文化への招待	
			４．心身への着目	
			５．自然の理解	
			６．知識の現場	
		スポーツ実習		

また、本学の全ての学部における教育課程は、全学共通科目と（学部）専門科目の２つに大別される**（表 10）**。このうち、全学共通科目では言語系科目（10 単位）及び総合系科目（18 単位）の計 28 単位が卒業要件単位数となっており、言語系はさらに言語 A（英語）と言語 B（初習言語）に区分している。本学部は、設立当初、学部の専門科目と全学共通科目の言語教育の双方を担う教員で構成されていた。しかし、次第に両立の困難さが課題となっていた。このような状況を踏まえ、外国語教育を通じて、主体的に深く考え、他者と協働しながら社会をよりよい場所へ変える力を育てることを目的とする外国語教育研究センターを 2020 年４月に設置し、同センターが全学共通科目の言語系科目を担うこととなった。同センターの設置以降、外国語教育カリキュラム（全学共通科目の言語系科目）は、現行カリキュラムにおける課題等を共有

し新たなカリキュラムを実現していくため、2023 年度までを一つの目安として、本学部所属教員と協働して運営していくこととなっている。同センターの設置により、2019 年度は学部として合計 219 コマの全学共通科目の担当を義務付けられていたものが、2020 年度には 97 コマとなり、本申請によって収容定員が増加する 2024 年度は、外国語教育カリキュラムの責任を原則として同センターが担うこととなっているため、22 コマとなる**（表 11）**。2024 年度以降は、概ね同程度の割り当てとなるため、これまで以上に本学部の教員が学部専門科目に注力することができる。

（表 11）

	2019 年度	2020 年度	2024 年度
本学部の専任教員数	37 人	38 人	34人
本学部への言語系科目の割り当て	210 コマ	88コマ	なし
本学部への総合系科目の割り当て	9 コマ	9 コマ	22 コマ
本学部への全学共通科目の割り当て（合計）	219 コマ	97 コマ	22 コマ
2019 年度を起点とした場合の増減	0	-122	-197

以上を踏まえ、本学部の定員を入学定員 145 人から 210 人に（65 人増）、収容定員 580 人から 840 人に（260 人増）増加することとする。

なお、本申請による収容定員の増加は、地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律（平成 30 年法律第 37 号）第 13 条第２号の規定を活用するものであり、特定地域内学部収容定員の増加に係る届出書類は別途提出済みである**（資料 16）**。

・増加する定員数の妥当性

本申請により増加する人数の設定に際しては、①本学部は東京都豊島区の池袋キャンパスに設置しているため特定地域内の学部収容定員の増加にあたること、②本学の既設学部及び競合校と比較して ST 比を著しく悪化させないこと及び③大学設置基準で求められる校地校舎面積を踏まえることの３点を勘案し、妥当であると判断した。

①については、**資料 16** のとおり 1,200 人の収容定員を、本申請による収容定員の増加、外国人留学生の受入れを促進するための教育プログラムを対象とした収容定員の増加（2022 年度から）及び新学部の設置（2025 年度開設予定）に振り分ける必要があったため、これら３者を総合的に検討した。

②については、収容定員増加後の本学部と本学既設学部及び競合校とのS/T比率（収容定員／専任教員）を比較した**（資料 17,18）**。その結果、本学部他学部との比較では、本申請による収容定員の増加後において、本学部を含む 11 学部平均が 40.18 であるところ本学部は 24.71 であり、11 学部中２番目に良い数字となっている。また、競合校との比較では、本学部を含む６大学平均が約 26.97 であるところ本学部は 24.71 であり、６大学中３番目に良い数字、かつ、平均値を上回っている。これらを踏まえ、本申請による収容定員の増加後も、増加前と同等以上の教育研究内容が担保できると判断した。

③については、池袋キャンパスの校地校舎面積を大学設置基準で求められる校地校舎面積と比較して検討した。東京 23 区内という立地条件を踏まえると、新座キャンパスと比して校地面積は小さいものの、校舎面積は十分な面積であり、大学設置基準で本学全体に求められる校舎面積（新座キャンパスに設置している学部を含む、全ての学部の収容定員から算出される校舎面積）を池袋キャンパスの校舎面積のみで上回っている**（資料 19）**。このため、本申請による収容定員の増加後も特段の支障は生じないと判断した。

◯入学金，授業料等の学生納付金の額と設定根拠

・現行及び収容定員増加後

入学金、授業料等の学生納付金の額の設定は、**表 12** のとおり、現行と同様とする。また、この金額は、本学が設置している他の人文・社会科学系学部と同水準で設定している**（資料 20）**。

（表 12）

	入学金	授業料等の学生納付金（諸会費を除く）				総額
		1年次	2年次	3年次	4年次	
現行 (海外留学研修履修者)	200,000	1,138,000	1,131,000 (892,000)	1,131,000	1,138,000	4,738,000 (4,499,000)
収容定員増加後 (海外留学研修履修者)	200,000	1,138,000	1,131,000 (892,000)	1,131,000	1,138,000	4,738,000 (4,499,000)

上記のほか、諸会費として（学生健康保険互助組合費として）3,500 円／年の徴収を行う。

なお、海外留学研修は、原則として本学部の全員が参加するプログラムであり、履修者の学費は、大学間協定校へ留学する場合を除き、学費を 1,131,000 円から 892,000 円へ減額する。

以上のことから、本学部の学生納付金は、既設の人文・社会科学系学部と同水準であり、教育研究内容を踏まえると、学生納付金の設定は適切なものであると判断している。

・競合校の状況

本学部の競合校は、**資料 21** に記載の５校を想定している。入学金と授業料の状況は**資料 21** のとおりである。競合校ではこのほかに、学生健康保険互助組合費、傷害保険料、学会費や父母会費など、諸会費を数千円～40,000 円程度徴収している。入学金は、(A) 大学が 240,000 円と他校より高く設定しているが、それ以外の４校と本学は同額の 200,000 円で設定している。競合校を含めた６校で比較すると、本学は６校中４番目に高い金額となっており、極端に高い又は低い金額でないことから、学生納付金の設定は適切であると判断している。

エ　学生確保の見通し

Ａ．学生確保の見通しの調査結果

◯調査の概要

過去５年間（2018～2022 年度入試）における、本学の志願者数、受験者数、合格者数及び入学者数の推移を調査した。また、志願者、受験者及び合格者については延べ人数、実人数及び実人数のうち他学科を併願している者の状況を集計し、問題なく定員を充足する見込みであることを確認した。なお、アスリート選抜入試**（資料 22）**については、第一次選考時点では出願学科が決定していないため、志願者数・受験者数からは除いて集計を行った。

◯調査結果

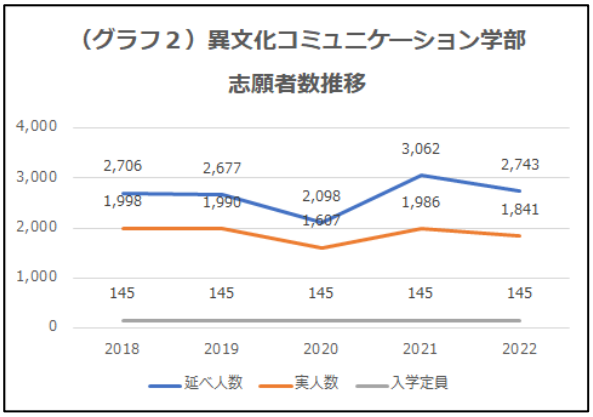
本学部における志願者数、受験者数、合格者数及び入学者数の推移は**表 13,14** 及び**グラフ２**のとおりである。過去５年間、入学定員に対して延べ人数で約 14.5～約 21.1 倍、実人数でも約 11.1～約 13.8 倍の志願者数で推移していることから、本申請による収容定員増加後も問題なく定員を充足する見込みである。

（表 13）

入学年度	志願者			受験者			合格者			入学者	定員
	延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	実人数	充足率
2018	2,706	1,998	1,098	2,665	1,775	1,044	354	321	84	152	1.05
2019	2,677	1,990	1,023	2,626	1,965	995	292	274	59	145	1.00
2020	2,098	1,607	793	2,059	1,583	773	364	339	103	148	1.02
2021	3,062	1,986	871	2,990	1,962	859	431	364	122	144	0.99
2022	2,743	1,841	847	2,679	1,802	829	468	413	123	164	1.13

（表 14）

入学年度	志願者／入学定員（145）	
	延べ人数	実人数
2018	18.66	13.78
2019	18.46	13.72
2020	14.47	11.08
2021	21.12	13.70
2022	18.92	12.70



◯外国人留学生のこれまでの受入れ実績と今後の受入れ見込み

本学では、国際交流の一環として、交換留学制度とは別に、本学での教育を希望する外国人留学生を選抜することを目的に外国人留学生入試を実施している。本学部の外国人留学生における募集制度は２種類あり、筆記試験及び面接による募集制度では、外国人留学生を提出書類や日本語試験、面接等の内容により、多面的・総合的に評価する入試を実施している。また、書類選考による募集制度では、外国人留学生を、提出書類及び日本留学試験の成績等の内容により、多面的・総合的に評価する入試を実施している。今後も継続してこの２つの募集制度で外国人留学生入試を実施する見込みである。募集人員は２つの募集制度を合わせて 12 人程度に設定しているが、過去５年間の志願者数（延べ人数）は約 5.3 倍～約 7.9 倍の範囲で推移している**（表 15）**ことから、近年の志願者は安定して確保できており、今後も問題なく定員を充足する見込みである。さらに、本学部では、2016 年度より海外高等学校への指定校推薦制度を導入している。現在、上海にある２校と協定を締結し、これまで９名（2023 年度入学予定を含む。）の学生を受け入れている（９月入学）ほか、2024 年度にはさらに１校追加する予定である。

（表 15）

入学年度	2018	2019	2020	2021	2022
志願者	67	86	64	95	93
志願者／募集人員	5.58	7.17	5.33	7.92	7.75
入学者	16	18	14	20	18

また、本学の学士課程に在籍する正規課程学生（学位の取得を目的とした外国人留学生）及び特別外国人学生（協定校からの交換留学等）の人数（2022 年 10 月 20 日現在）を降順で並べると**表 16** のとおりとなる。収容定員を踏まえると、本学部は多くの外国人留学生を受け入れており、「留学生と日本人学生がキャンパスに集い、異なる価値観を、相手に合わせて日本語やそれ以外の言語を通じてぶつ

け合える環境」を整備してきた実績がある。

（表 16）

学部名	2022 年度 収容定員	正規課程学生	特別外国人学生	合計
異文化コミュニケーション学部	580	79	43	122
文学部	3,672	79	22	101
経営学部	1,540	26	54	80
経済学部	2,736	64	5	69
法学部	2,340	48	16	64
社会学部	2,076	33	16	49
観光学部	1,480	25	12	37
コミュニティ福祉学部	1,672	26	3	29
理学部	1,168	17	6	23
現代心理学部	1,276	18	4	22

Ｂ．新設学部等の分野の動向

◯同分野を有する近隣大学の志願動向

人文科学、社会科学、自然科学等の分類が困難であるため、都内の私立大学において、学部名に「コミュニケーション」、「国際」等を含む 12 大学 17 学部（本学部及び「競合校」として挙げた５大学を含む。）の 2018 年度～2022 年度の志願動向等を調査した（調査対象学部名は**資料 23** 参照）。結果は**表 17** のとおりである。

（表 17）

	2018	2019	2020	2021	2022
志願者	56,305	68,556	58,714	53,424	52,949
受験者	54,205	64,987	55,491	51,254	50,516
合格者	11,002	12,441	13,280	14,161	15,770
入学者	4,867	4,996	5,073	4,895	5,199

※私大連データライブラリから抽出

◯分野の動向を踏まえた定員充足の根拠

学部名に「コミュニケーション」、「国際」等を含む学部は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響もあり、志願者は 2019 年度をピークに減少傾向にある。しかし、入学者は、2022 年度が直近５年間で最も多い人数となっている。また、後述するとおり、本学部は、直近５年間で志願者が最も減少した 2020 年度においても志願倍率は 10 倍、実質倍率は５倍を超えており、安定して志願者及び入学者を確保し続けている。

以上のことから、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により志願者数の増減はあるものの、入学者数は増加傾向にあり、教育研究内容に国際関連分野を含む学部に対する受験生のニーズは高いと見込まれること、本学部は直近５年間で多くの志願者数等を確保し続けていることから、本申請による収容定員の増加後も、定員を充足することは十分に可能であるといえる。

Ｃ．中長期的な 18 歳人口の全国的，地域的動向等

◯各種統計調査の結果

中央教育審議会大学分科会大学振興部会で使用されている資料**（資料 24）**によると、「18 歳人口は、

平成 21～令和 2 年までほぼ横ばいで推移するが、令和 3 年から再び減少局面に突入し、令和 22 年には約 88 万人まで減少することが予測されている。」とされており、全国的に 18 歳人口の減少には歯止めがかかっていない。また、本学における入学者の主な出身都道府県は、東京、埼玉、千葉及び神奈川の１都３県であるが、生徒数（第３学年及び第４学年。全ての科を含む。）は、いずれも減少傾向にある（**資料 25**）。

しかし、大学（学部）への進学者数の推移を見ると、東京、埼玉、千葉及び神奈川の１都３県では、一転して右肩上がりで増加しており、2021 年度は 2018 年度から約 6,000 人も増加している（**資料 26**）。

◯18 歳人口の全国的，地域的動向等を踏まえた定員充足の根拠

18 歳人口については、全国的（１都３県を含む。）に減少傾向が続いているものの、大学（学部）への進学者の推移を見ると、本学における入学者の主な出身都道府県である、東京、埼玉、千葉及び神奈川では、いずれも右肩上がりで増加している。本学では、志願者の約８割が東京、埼玉、千葉及び神奈川の出身者であるため、全国的な 18 歳人口の減少に関わらず、入学者を確保できることが見込まれる。よって、本申請による収容定員の増加後も、十分な定員充足が可能であるといえる。

Ｄ．競合校の状況

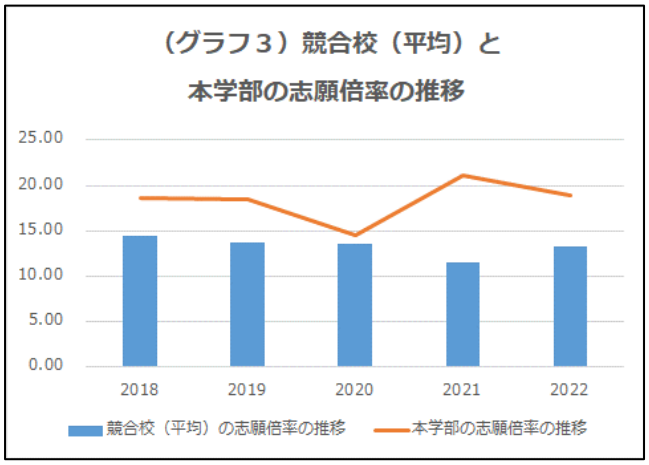
◯競合校とその妥当性

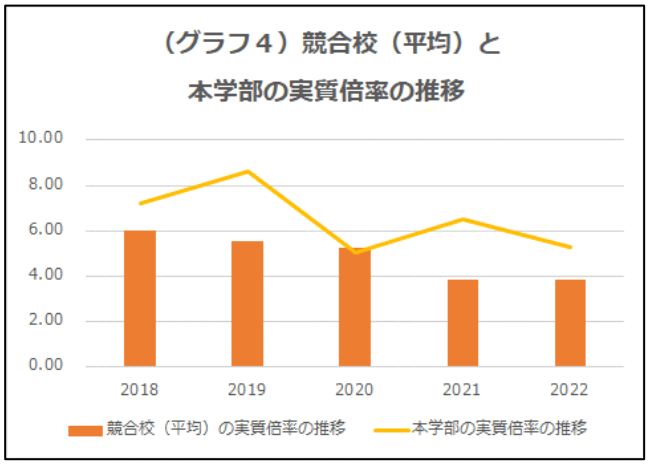
本学部では、言語研究、通訳翻訳研究、コミュニケーション研究及びグローバル・スタディーズの４つの領域を柱に、理論と実践を充実させる科目を設置しており、競合校としては、本学部と分野が近い、あるいは重なっている**資料 27** の５大学を想定している。特に、（A）大学及び（E）大学については、留学を必修としている点が本学部と共通している。また、2022 年度入試の分析資料（**資料 28**）によれば、**資料 27** に記載の人数の受験者が本学部と各大学を、併願していたことがわかっている。

以上のような学問分野、受験生の併願状況のほか、いずれの大学も首都圏にキャンパスを擁する点からも、**資料 27** の５大学を競合校として挙げることは妥当であると言える。

◯競合校における入学志願状況等

本学部及び競合校（計６大学）の 2018 年度～2022 年度における入学志願状況等は**資料 29** のとおりである（**資料 29** は、５月１日現在の数値であり、当該年度の９月入学者が反映されていないため、他の資料と数字が一致しないことがある。）。志願倍率は、2021 年度は新型コロナウイルス感染症の影響からか直近５年間で最低となっているものの、10 倍以上を維持している（**グラフ３**）。実質倍率についても約４倍以上を維持しており、競合校に対する受験生のニーズは高いといえる（**グラフ４**）。



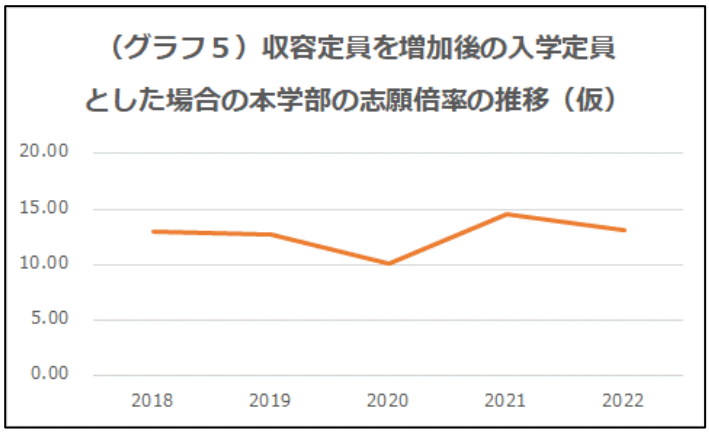


また、競合校の一般選抜・共通テスト（大学入試センター試験）利用入試に限定した志願者の状況は**資料 30** のとおりである。過去５年間において、募集人員に対する志願者数が最も少なかった大学で

も、募集人員の約 7.6 倍、多かった大学では約 29.0 倍の志願者がいる状況である。

以上のことから、本学部における言語研究、通訳翻訳研究、コミュニケーション研究及びグローバル・スタディーズといった教育研究分野と類似の教育研究分野に対する受験生のニーズは高いと考えられる。

〇競合校の状況を踏まえた定員充足の妥当性



既述のとおり、本学部における教育研究分野と類似の教育研究分野に対する受験生のニーズが高いことは、本学及び競合校の志願者等の状況で明らかである。また、本学の直近５年間の状況は、競合校と比べて、志願倍率及び実質倍率ともに同程度又は高い状況となっている。さらに、仮に入学定員を 210 人（本申請による増加後と同じ人数）とした場合でも、志願倍率は 10 倍を超えている**（グラフ５）**。加えて、2022 年度入試の分析資料**（資料 28）**によれば、競合校５校と本学を併願し、両大学に合格した受験者のうち、本学を入学先として選択した学生の数が多かったのは５校中３校だった。教育研究の分野が近い大学の中でも、本学を選択する受験生の層を一定数確保できていることがわかる。

以上のことから、本学部は安定した志願者数の確保と定員充足を担保できる状況にある。

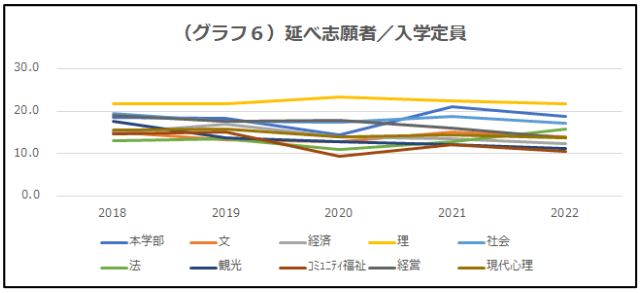
Ｅ．既設学部等の学生確保の状況

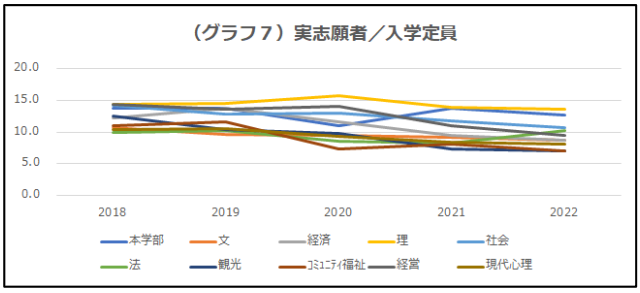
本学における既設学部の志願者数、受験者数、合格者数及び入学者数の推移は**資料 31** のとおりである。過去５年間、入学定員に対して延べ人数は 9.5 倍～23.4 倍**（表 18 及びグラフ６）**、実人数でも 7.0 倍～15.7 倍**（表 19 及びグラフ７）**の志願者数で推移している。2021 年度入学者の一般選抜における、新型コロナウイルス感染症の流行や入試制度の大幅な変更等による受験控えなどの受験生の減少要因がある中、志願者は充分に確保できている。合格者のうち、およそ４割の受験生が本学へ入学しており、安定して入学者を確保できている状態といえる。

以上のことから、今後も問題なく志願者を確保でき、定員を充足する見込みである。

（表 18）

	延べ志願者数／入学定員									
入学年度	本学部	文	経済	理	社会	法	観光	ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉	経営	現代心理
2018	18.7	15.2	14.9	21.8	19.6	13.1	17.6	14.7	19.1	15.6
2019	18.5	13.3	16.9	21.7	17.7	13.6	13.8	15.3	17.6	15.7
2020	14.5	12.9	13.9	23.4	17.4	11.1	12.8	9.5	18.0	13.9
2021	21.1	15.1	13.4	22.4	18.8	12.8	12.1	12.2	16.1	14.4
2022	18.9	14.1	12.4	21.9	17.1	15.8	11.1	10.6	13.7	13.8





（表 19）

	実志願者数／入学定員									
入学年度	本学部	文	経済	理	社会	法	観光	ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉	経営	現代心理
2018	13.8	10.8	12.2	14.4	14.3	10.0	12.6	11.0	14.4	10.4
2019	13.7	9.7	13.8	14.5	12.9	10.2	10.4	11.6	13.6	10.5
2020	11.1	9.4	11.6	15.7	13.1	8.5	9.7	7.4	14.0	9.3
2021	13.7	9.2	9.5	13.9	11.7	8.3	7.4	8.1	11.0	8.4
2022	12.7	8.7	8.7	13.6	10.7	10.3	7.0	7.1	9.5	8.1

オ　学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

学生確保に向けた取り組みは以下のとおりである。2022 年度はコロナ禍の影響で、従来実施していた高校訪問（各高校進路指導担当教員への訪問）等の取り組みは中止や見直しをせざるをえなかったが、入学センターや学部を中心に取組みが進められている。2023 年度以降は可能な限りコロナ禍前の実施形態に戻し、収容定員変更後の学生確保に向けた取組みを行う。

（大学案内、大学ウェブサイト内の専用ページ、学部案内、学部独自のウェブサイト）

大学案内で学部の紹介を行うとともに、大学ウェブサイトにも学部専用ページを設け、随時情報提供を行っており、積極的に学部の広報を行っている。

また、本学部は学部案内のほか、学部独自のウェブサイトを公開しているが、収容定員変更後の学生確保を念頭において、これらを刷新する。学部案内については、「「ちがい」から、その先へ」という学部スローガンを掲げ、学部教育目標、教育内容、教育方法、履修モデル、特長ある活動、卒業後の進路等に関する情報を簡潔かつ体系的に理解できる内容・デザインの学部案内を作成中である。完成後は下記入試広報活動で活用する。学部独自のウェブサイトについては、学部の活動を詳細かつ即時的に伝える等ウェブサイトならではの活用を予定している**（資料 32）**。

（高校教員向け入試広報活動、進学相談会・大学説明会）

毎年１回、高校教員を対象とした説明会を開催している。2022 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、オンライン形式での説明会を 6 月 11 日に開催した。教育の特色、入試結果、入試制度、キャリア・就職の特長等大学の紹介を行うとともに、本学部４年生による講演を行った。2022 年度は 173 回の視聴があった（2022 年 7 月 7 日現在）。収容定員変更後の学生確保に向けて、2023 年度以降も同様の取り組みを行う。

また、年間通じてイベント会場や高校で開催される進学相談会に参加し、受験生や保護者等からの個別相談を受け、必要に応じてパンフレットなどを配付するとともに、高校・予備校等を訪問し、教室等で本学の取り組みについて説明した。2022 年度における進学相談会への参加及び高校・予備校等への訪問は、459 件（2022 年 12 月末現在）であった。収容定員変更後の学生確保に向けて、2023 年度

以降も同様の取り組みを行う。

（オープンキャンパス）

本学は例年 8 月上旬に３日間オープンキャンパスを開催している。2022 年度のオープンキャンパスは新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、来場形式とオンライン形式のハイブリッド型イベントとして開催し、参加者数は合計で 27,187 名であった**（資料 33）**。来場形式のプログラムとして体験系コンテンツのキャンパスツアーを８月前半に７日間実施し、オンライン形式のプログラムについては、8 月 1 日～31 日の間、オンデマンド方式とライブ方式で実施した。また、本学部で実施したオンデマンド配信及び LIVE 授業は**資料 34** のとおりである。他学部と１回あたりの視聴回数を比較すると、オンデマンド配信では 11 学部中７番目、LIVE 授業は 11 学部中３番目に多かった**（資料 35）**。視聴回数は収容定員に比例すると考えられるが、本学部は 11 学部中最も少ない収容定員であるにもかかわらず一定の視聴者数があった。これは、本学部に対する受験生のニーズが反映されていると考えられる。なお、本学では、外部業者にオープンキャンパスの分析を依頼し、次年度以降の取組みに活かすこととしている**（資料 36）**。

2023 年度は可能な限りコロナ禍前の実施形態に戻し、来場型プログラムをメインとしたオープンキャンパスを開催する。具体的には①本学部の特設コーナーを設けて教育理念や特色、入試制度について紹介する、②本学部は日本語による授業と英語による授業を体験できる企画を用意し、生徒や保護者が本学部の教育内容、教育方法の特長について、体験を通して理解する機会を設ける。また、③本学部の実践と理論を往還する様々な活動をポスター発表の形態で、インタラクティブに紹介する機会を設ける。さらに、④時間や場所の制約等で来場できない生徒や保護者のためにオンデマンド動画の配信も予定している**（資料 37）**。

（高等学校在学中の生徒や保護者を対象とした入試広報活動）

「秋のオープンキャンパス」と銘打ったオンラインイベントを開催し、本学の特長について説明するとともに、YouTube ライブのチャット機能を利用して参加者から質問を受け付け、本学の学生が回答した。2022 年度の視聴回数は 1,026 回（2022 年 12 月 3 日現在）であった。また、学生による受験生・高校生向けの個別オンライン相談会も実施し、104 人が参加した。進学相談会や大学説明会等でも、既に本学の中で最も質問や問い合わせが多く、受験生からの志望度が高い本学部であるが、収容定員変更後の学生確保に向けては、入試にも関連する特筆すべき内容として一段と積極的に広報することを予定している。

（学部公開講演会、イベント等）

本学部は、本学部の専門領域の教育内容や研究成果を広く社会に知らせることを目的として「言語や社会や文化を＜つなぐ＞：世界と切り結ぶ異文化コミュニケーション」というタイトルで公開講演会を実施している**（資料 38）**。2022 年度は３回実施し、合計約 220人が参加した。2023 年度も複数回の開催を予定している。また、例年秋にキャリアシンポジウムを開催している。2022 年度は本学部の教員による基調対談、卒業生と在校生によるパネルディスカッション、在校生によるポスター発表を行った。一般に公開し企業の方が多く来場されるが、2022 年度は本学部への進学に関心をもつ高校生の参加があった。2023 年度以降はこの取り組みも学生確保のための機会に活用したい。さらに、高校のプロジェクト型授業の一環として本学部に協力要請があった場合は、積極的に応答するようにしている。2022 年度は細田学園高校よりインタビューの依頼があり、最終的に同校生徒と本学部学生（日本人学生と特別外国人留学生（特外生／協定校からの交換留学等））との協働イベントを開催する運びになった**（資料 39）**。その成果は「全国高校生プロジェクトアワード」で報告された。このような

取組みも、学生確保にむけた取組みの機会と考え、積極的に取り組むこととする。

（２）人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

◯本学部の教育研究上の目的

既述のとおり、本学の教育研究上の目的は、「変化を続ける世界の中で，複数の視点からものごとを考え，柔軟な思考力をもって実践的に問題と向き合うことによって，多様で「異なる」他者と共生し，持続可能な未来を創ることのできる人材を育成する。」である。

◯本学部において養成する人材像

教育研究上の目的に掲げているとおり「変化を続ける世界の中で，複数の視点からものごとを考え，柔軟な思考力をもって実践的に問題と向き合うことによって，多様で「異なる」他者と共生し，持続可能な未来を創ることのできる人材」である。また、学位授与方針において、本学部における８つの学修成果を掲げている（**（１）ウ「◯本学部の教育研究上の目的」**参照）。

②上記①が社会的，地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

◯社会的な人材需要の動向等

（独立行政法人労働政策研究・研修機構の調査研究）

独立行政法人労働政策研究・研修機構は、「日本企業のグローバル戦略に関する研究」と題する報告書を、2019 年３月、2020 年３月及び 2022 年３月と３度にわたって公表している。新型コロナウイルスについては、2019 年 12 月初旬に中国の武漢市で第１例目の感染者が報告され、2020 年 1 月 15 日に我が国最初の感染者が確認されているため、2019 年及び 2020 年の報告書はコロナ禍以前の最新の状況を反映していると考えられる。

2019 年の報告書**（資料 40）**では、調査の目的を「わが国企業が現在、どのような認識からいかなるグローバル戦略を選択し、その際、どういった課題を抱えているのかを探ること」（P1）とし、東京証券取引所一部・二部に上場する企業 2,608 社にアンケートを行い、その調査結果をまとめている。この報告書では、「国際的な能力を持った「グローバル人材」」（P47）という表現があるものの、詳細な定義がなされていない。しかし、アンケート調査票のうち、「貴社の日本国内におけるグローバル化への対応についてお尋ねします」とした問 12 から問 14 までのうち、問 12 では選択肢として表の 10 の要素が示されている（P90）**（表 20）**ことから、これら 10 の要素がこの報告書でいう「グローバル人材」として必要なものだと認識していることが窺える。この問いに対する回答のうち、８割を超えて選択されたのが「コミュニケーション能力」（82.5%）、８割弱が「チャレンジ精神」（78.9%）、「主体性・積極性」（77.2%）、以下過半数を超えたのが「責任感･使命感」（67.8%）、「協調性･柔軟性」（61.4%）及び「英語の能力」（55.0%）であった（P28）。

（表 20）

問１２ 以下の要素のなかで、貴社の新入社員に必要だと思われるものはありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください（○はいくつでも）。			
1　英語の能力	2　英語以外の語学力	3　ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力	4　主体性・積極性
5　協調性・柔軟性	6　責任感・使命感	7　チャレンジ精神	8　体力
9　異文化に対する理解	１０　日本人としてのｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨｰ		※報告書の内容を基に作成

これらの項目は**表 21** のとおり本学部の学位授与の方針が掲げる８つの学修成果に対応しているため、

本学部の人材の養成に関する目的等は、社会的な人材需要の動向を踏まえたものであるといえる。

（表 21）

学位授与方針に掲げる学修成果	問 12 の 10 の要素
①論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。	4
②自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。	3,5,9,10
③グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。	1,2
④多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、それを踏まえて行動することができる。	1,2,4
⑤日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	1,2,3,5,9
⑥異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	1,2,3,5,7,9
⑦教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	4
⑧文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことできる。	1,2,3,4,5,6,7,9

2020 年の報告書**（資料 41）**は、上場企業９社（A～I 社）から、（１）人員構成と採用、（２）人材育成及び（３）グローバル化への対応に係るヒアリング結果を基に作成されている（P５）。「グローバル人材」については、「グローバル人材の定義は一つの企業内でも統一的な見解を共有していない場合があり、ましてや企業を超えて統一的な像は結ばれていなかった。」としているものの、複数の企業で挙げられた特徴として「グローバル人材とはコア人材と重複するイメージを持ち、多様性を尊重し、言語と異文化理解の能力をもつ、国際的にリーダーシップを発揮できる人材活用能力に長けた人材」としている（P23）。また、ヒアリング結果による A～I 社が考える「グローバル人材」は**表 22** のとおりである。

（表 22）

	「グローバル人材」に関する各社の見解（P23～25）
A 社	日本国内でのマネジメントを基礎としつつ、海外でも現地の人材と**コミュニケーション**をとって**異文化を理解**しながらマネジメントすることができる人材
B 社	**国、地域を越えて活躍**し、将来、グループ全体の経営を担うことが期待される人材
C 社	・ビジネスを推進する普遍的な力を持っている人材 ・**どのような場面でも課題をみつけ、成果をあげられる**人材
D 社	・コア人材を指す「A 人材」であることに、海外での経験が加わった人材 ・海外展開した先でのマネジメント能力が必須
E 社	海外関連の業務に就く、実際に海外に赴いて業務に携わる人材
F 社	・グローバルな司令塔としての役割を持つ人材 ・海外に派遣される、または駐在した際に、**現地で起こってくる問題にきちんと対処することができる**人材
G 社	異文化・多国籍など**多様な価値観を持つ人の立場を尊重し、共有ができる国際感覚とコミュニケーション能力**を備え、自らの信念に基づいて行動できる人材
H 社	今後の海外展開に求められる能力である、**広い視野と他の人が思いつかないような発想**を持つ人材
I 社	**多様性を受容**して、成果を出せる人材

※この報告書では、「コア人材」を、「ほぼ将来の経営を担うことができる人材」としている。(P16)

「コミュニケーション」及び「異文化理解」は、2019 年の報告書にある 10 の要素と同じ内容であるとともに、「国、地域を超えて活躍」するためには必須条件である。また、「多様な価値観」及び「多様性」は、10 の要素の「協調性・柔軟性」とほぼ同義である。さらに、課題や問題への対応力が挙げられているが、これらは上記の学位授与の方針に掲げる学修成果の⑦⑧に該当する。以上のことから、2020 年の報告書におけるヒアリング結果からも、本学部の人材の養成に関する目的等は、社会的な人材需要の動向を踏まえたものであるといえる。

（日本貿易振興機構（JETRO）のアンケート調査）

JETRO では、2021 年 11 月 4 日～2021 年 12 月 7 日にかけて、海外ビジネスに関心が高い日本企業 13,456 社にアンケート調査を行っている**（資料 42）**。アンケートの結果からは、現地の市場開拓を行う人材、語学スキル等を備えた人材、顧客とのやりとり等を行う人材等の不足が挙げられている（P21）。既述したように、本学部の学位授与方針に掲げる学修成果は、これら不足しているとされる人材に求められている能力を含んでいるため、この点からも本学部の人材の養成に関する目的等は、社会的な人材需要の動向を踏まえたものであるといえる。

◯地域的な人材需要の動向等

（情報サービス、旅館・ホテル業）

全国的な傾向ではあるが、株式会社帝国データバンクが公表している「人手不足に対する企業の動向調査（2022 年 10 月）」**（資料 43）**によると、人手不足と回答した企業は、「コロナ禍以降で最高を更新」（P1）しており、なかでも、情報サービス業は全体で最も高く、旅館・ホテル業は全体で２番目に高い割合となっている（P2）。新型コロナウイルスの水際対策の緩和や政府による「全国旅行支援」の影響が見られ、同旨の新聞報道も見られる**（資料 44）**。また、東京都に限ってみると、同社が公表している「人手不足に対する企業の動向調査（東京都）（2018 年 3 月）」**（資料 45）**は、「正社員が不足している企業は 50.8％と５割に達した。」（P1）としているほか、「業種細分類別に見ると、「情報サービス」（76.9％）」（P2）が最も高く、2022 年の全国を対象とした調査と同じ結果となっている。さらに、東京都は「観光関連産業の需要回復に向けた人材確保支援事業」**（資料 46）**を新規事業として行うこととしており、全国的な人手不足の傾向は、東京都においても類似の傾向にあるといえる。

（教員）

東京都教育委員会は、東京型グローバル人材育成モデルの実施に向けたガイドラインとして「東京グローバル人材育成方針」（令和４年３月）を公表し**（資料 47）**、「英語力を基盤とした様々な資質・能力を、小・中・高等学校を通して身に付けることが必要です。」（P2）とした上で、小・中・高等学校を通して育成すべき育成すべき資質・能力を４つの TARGET として設定した（P3）。また、中学校英語における「少人数・習熟度別指導ガイドライン」の策定（2014 年度）、「英語教育推進リーダー」の加配（2016 年度）、都独自教材「Welcome to Tokyo」Beginner 及び日本語版(Elementary 及び Basic)の作成（2017 年度）、都内において英語の体験ができる TOKYO GLOBAL GATEWAY の開設（2018 年度）、プレテストの実施を含む中学校英語スピーキングテストの開始（2022 年度）など、これまで一貫して英語教育や国際教育の充実を図ってきている（P8）。

一方で、2023 年度採用に係る東京都公立学校教員採用候補者選考結果**（資料 48）**を見ると、志願者数（全体）が 7,911 人となっており、2018 年度の 13,335 人の約半分になった。また、受験倍率（全体）は 2018 年度の 4.4 倍から 2.1 倍に、受験倍率（中・高共通）は 2018 年度の 7.1 倍から 2.9 倍に著しく減少している。こうした状況を踏まえ、東京都教育委員会は、2023 年 1 月に一層の教員確保を図るた

めの方策を公表しており**（資料 49）**、教員の確保が喫緊の課題となっている。

（本学部卒業生の就職実績）

後述するとおり、学士課程段階であるため、必ずしも全員が特定の業種に就職しているわけではないが、業種別でみると「情報」及び「サービス」への就職実績は、直近５年間の上位２業種であるため**（表 23）**、本申請は人材需要の動向を踏まえたものであるといえる。また、本学部では、所定の科目を履修すれば英語の中学校教諭及び高等学校教諭の１種免許状（いずれも英語）が取得できる。東京都教育委員会の「東京グローバル人材育成方針」が掲げる「４つの TARGET」（主体的に学び続ける態度と総合的な英語力の育成／国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力の育成／世界の中の一員としての自覚と自己の確立／多文化共生の精神の涵養と協働する力の育成）は、本学部の学位授与の方針に掲げる学修成果と連関するものであるため**（資料 50）**、同方針が目指すグローバル人材の育成を担う人材を輩出することが可能である。

◯外国人留学生に対する人材需要

我が国では、日本経済全体の活性化を目的として、幅広い産業で需要が高まっている高度外国人材の活用を政策の一つの柱としており、留学生の就職支援に係るプラットフォームの構築や留学生の受け入れ環境支援を進めている**（資料 51）**。高度外国人材は海外展開のキーパーソンと位置付けられているが、一般の企業において外国人の活用を検討する場合、「出入国管理法及び難民認定」が定める在留資格のうち「専門的・技術的分野」に相当する業務を担うことが想定されており、その中でも最も多いのが「技術・人文知識・国際業務」であるとされている。そして、「技術・人文知識・国際業務」で働く例として通訳、私企業の語学教師、マーケティング業務従事者等が挙げられている**（資料 52）**。これらは、本学部の専門領域である言語研究、通訳翻訳研究、コミュニケーション研究及びグローバル・スタディーズが生かされる領域であり、本学部で学ぶ留学生は、卒業後日本社会に求められる人材であると言える。

留学生は海外展開のキーパーソンとなるだけでなく、国内の多文化共生社会を推進するキーパーソンにもなる。本学部は、「サービスラーニング」（正課の授業科目）で、地域連携活動を行っているが、その一環として留学生が近隣の中学校の外国につながる生徒の言語支援（ウィスパリング、日本語学習支援）にあたっている。また、近隣の中学生や地方（陸前高田市）からの要請に応える形で実施している English Camp では、留学生が日本の中学生のための英語学習の機会を作るなどしており、社会的な人材需要が確認できる。本学部で学ぶ留学生は、企業、行政、教育機関等の海外展開でも、国内の多文化共生社会の創出においても需要がある人材である。

◯直近５年間の就職実績及び増加後の入学定員（210 人）の規模の妥当性

本学部の直近５年間の就職率（卒業生（進学、留学準備等を除く。）に占める就職者の割合）は、平均すると 95%となっている**（表 24）**。これは、本学部の教育研究内容及び卒業生が社会から評価されていることの証左であり、本申請による収容定員の増加後も、この状況に変化が生じる特段の要因はないと思われる。学士課程段階であるため、必ずしも全員が学修した専門分野と同様の業種に就職するわけではなく、幅広い業種に就職している。直近５年間の業種別就職先は、多い順に、サービス、情報、製造業、卸・小売、運輸・通信等となる**（表 23 及びグラフ８）**。なお、直近５年間の、本学部を含む全ての学部における業種別就職先上位５種は、サービス、情報、製造業、卸・小売及び金融・保険の順位が変わるのみとなっている**（表 25）**。**表 25** を踏まえると、（金融・保険の代わりに）運輸・通信及び放送・広告が上位に入る場合があることが本学部の特徴といえる。

「サービス」では国内外のホテル経営等の宿泊業や旅行業を展開している企業、「情報」では国内に

ありながら社内公用語を英語としてインターネット事業を展開している企業、世界規模でインターネットを経由した小売り事業を展開している企業、「製造業」では我が国の主要産業である自動車製造や電気機器の製造を行う企業、食品製造、医薬品製造等を行う外資系企業、「卸・小売」ではグローバルに多角的な事業活動を展開する商社等に、多くの卒業生が就職している。

また、「運輸・通信」はコロナ禍により 2020 年度及び 2021 年度は数が激減したものの、2019 年度には航空会社、空港関連業務を行っている企業、水運業を行っている企業に多くの卒業生が就職しており、「サービス」に次いで２番目に多い業種となった。コロナ禍終息後には、反動による人材需要の拡大が見込まれる。2020 年度に本学部で３番目に多い業種となった「放送・広告」では世界的なマーケティングコミュニケーションネットワークと連携しアジアに展開している企業、複数の海外事業会社を設立している企業、ライツマネジメント等の事業を世界の各地域で独自に発展させ事業展開している企業、国際共同制作による番組、ドキュメンタリー映画の製作を行う企業等に多くの卒業生が就職している。

以上のように、１．本学部の目的である「変化を続ける世界の中で，複数の視点からものごとを考え，柔軟な思考力をもって実践的に問題と向き合うことによって，多様で「異なる」他者と共生し，持続可能な未来を創ることのできる人材を育成する。」は、企業が求める「グローバル人材」の要素を含む内容であること、２．直近５年間の就職率が示すように、本学の教育研究及び卒業生が社会から評価されていること、３．多くの卒業生が、本学部での学修成果を活かし、国内に留まらず国外で事業を展開している企業に就職できていること、４．**（１）アイウ**で既述したように地域・社会的動向等の現状把握・分析を踏まえた課題解決に、本学部が大いに寄与できることが見込まれること、５．**（１）エD**で既述したように仮に入学定員を 210 人（本申請による増加後と同じ人数）とした場合でも、志願倍率は 10 倍を超えていること及び６．本学部の卒業生は、キャンパスのある東京都において人材が不足していると思われる業種への就職実績があることから、本申請における入学定員の増加規模（入学定員 65 人増／収容定員 260 人増）は、これまでの実績を踏まえ、かつ、社会的及び地域的な人材需要の動向を踏まえたものとして妥当であるといえる。

（表23）

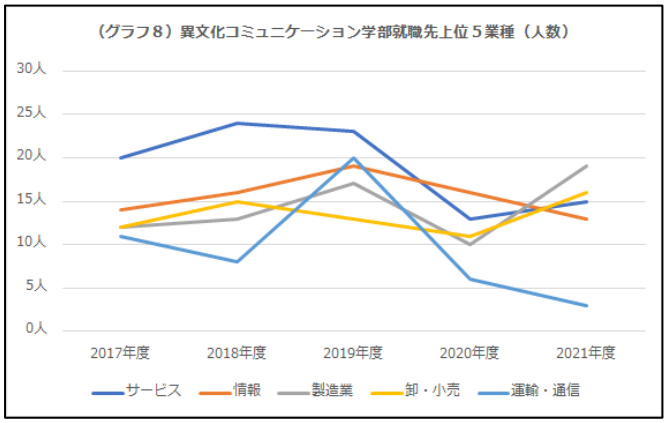
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	計
サービス	20	24	23	13	15	95
情報	14	16	19	16	13	78
製造業	12	13	17	10	19	71
卸・小売	12	15	13	11	16	67
運輸・通信	11	8	20	6	3	48
放送・広告	5	5	9	13	7	39
金融・保険	6	11	4	5	9	35
教育	4	2	3	10	4	23
不動産・電気・ガス	3	3	4	3	8	21
公務	5	3	2	4	2	16
農業・林業・水産・鉱業・建設	2	6	2	2	3	15
起業	0	0	0	0	1	1
業種不明	0	0	0	0	3	3
分類不能	1	1	1	0	0	3

※3月卒業及び9月卒業の数値

（表24）

	2017年度卒	2018年度卒	2019年度卒	2020年度卒	2021年度卒	計
対象者	107	131	144	125	148	655
進学（留学含む）	7	16	7	15	19	64
進学・不明除く	97	112	122	101	110	542
就職	95	107	117	93	103	515
就職率	97.9%	95.5%	95.9%	92.1%	93.6%	95.0%

※3月卒業及び9月卒業の数値



（表25）

本学部	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
1位	サービス	サービス	サービス	情報	製造業
2位	情報	情報	運輸・通信	サービス	卸・小売
3位	製造業	卸・小売	情報	放送・広告	サービス
4位	卸・小売	製造業	製造業	卸・小売	情報
5位	運輸・通信	金融・保険	卸・小売	製造業	金融・保険

全10学部	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
1位	金融・保険	サービス	情報	サービス	情報
2位	サービス	情報	サービス	情報	サービス
3位	製造業	製造業	製造業	金融・保険	金融・保険
4位	情報	金融・保険	金融・保険	製造業	製造業
5位	卸・小売	卸・小売	卸・小売	卸・小売	卸・小売

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料目次）

資料１	大学運営の基本方針（抜粋）	… 4
資料２	留学生数の推移（2022 年 10 月 13 日国際化推進会議資料）（抜粋）	… 11
資料３	「国際都市戦略プロジェクト」推進方針（東京都政策企画局）（抜粋）	… 12
資料４	教育未来創造会議関連資料	… 22
資料５	次期教育振興基本計画について（答申）（抜粋）	… 31
資料６	「次期教育振興基本計画」策定に向けた提言（抜粋）	… 36
資料７	学則別表７（教育研究上の目的）	… 44
資料８	学位授与の方針	… 46
資料９	教育課程編成の方針	… 51
資料 10	専門科目群（デジタルパンフレット）	… 68
資料 11	教育の特色（４つの柱）（ウェブサイト）	… 69
資料 12	Dual Language Pathway（DLP）（デジタルパンフレット）	… 70
資料 13	日本人学生の海外派遣及び外国人留学生の受入れ（デジタルパンフレット）	… 71
資料 14	現場での実践（デジタルパンフレット）	… 75
資料 15	令和 3 年度文部科学白書（第５章該当部分抜粋）	… 78
資料 16	【学校法人立教学院・立教大学】特定地域内学部収容定員増加届出書類	… 79
資料 17	本学既設学部と異文化コミュニケーション学部（増加後）の ST 比	… 86
資料 18	競合校と異文化コミュニケーション学部（増加後）の ST 比	… 87
資料 19	大学設置基準における校地面積及び校舎面積と本学の校地面積及び校舎面積	… 88

資料 20	学則別表２の４（学費）	… 90
資料 21	競合校との学生納付金比較	… 94
資料 22	アスリート選抜入試概要	… 95
資料 23	都内私立大学で学部名に「国際」等を含む学部一覧	… 96
資料 24	中教審大学振興部会【第７回／参考資料 1】 18 歳人口と高等教育機関への進学率等の推移	… 97
資料 25	東京、埼玉、千葉及び神奈川の生徒数の推移	… 98
資料 26	東京、埼玉、千葉及び神奈川の進学者数の推移	… 99
資料 27	競合校の教育研究分野、留学の有無、併願者	… 100
資料 28	異文化コミュニケーション学部受験者の併願状況（私立大学）	… 101
資料 29	本学部及び競合校（計６大学）の 2018 年度～2022 年度における 入学志願状況等	… 102
資料 30	競合校の一般選抜・共通テスト（大学入試センター試験）利用入試志願者 （募集人員）	… 103
資料 31	既設学部の志願者数・受験者数・合格者数及び入学者数の推移	… 104
資料 32	大学案内等の URL 一覧	… 111
資料 33	2022 年度オープンキャンパス参加者数	… 112
資料 34	2022 年度オープンキャンパスにおけるオンデマンド配信及び LIVE 授業 （異文化コミュニケーション学部）	… 113
資料 35	オンデマンド配信及び LIVE 授業における１回あたりの視聴回数 （2022 年度オープンキャンパス）	… 114
資料 36	2022 年度オープンキャンパス分析報告書	… 115
資料 37	2023 年度オープンキャンパスの「開催内容・日程」	… 135
資料 38	公開講演会	… 139
資料 39	細田学園高等学校との協働イベント	… 150
資料 40	日本企業のグローバル戦略に関する研究 （独立行政法人労働政策研究・研修機構（190329））（抜粋）	… 151

資料 41	日本企業のグローバル戦略に関する研究(2) （独立行政法人労働政策研究・研修機構（200307））（抜粋）	… 158
資料 42	2021 年度 日本企業の海外事業展開に関するアンケート調査（JETRO） （抜粋）	… 164
資料 43	人手不足に対する企業の動向調査（2022 年 10 月）	… 168
資料 44	日経新聞記事（2022 年 10 月 21 日）	… 174
資料 45	人手不足に対する企業の動向調査（東京都）	… 175
資料 46	観光関連産業の需要回復に向けた人材確保支援（東京都）	… 180
資料 47	東京グローバル人人材育成指針（東京都教育委員会） （令和４年３月）（抜粋）	… 182
資料 48	公立学校教員採用候補者選考結果（東京都）	… 189
資料 49	教員確保策充実の方向性について（東京都教育委員会）	… 191
資料 50	学位授与の方針の学修成果と「東京グローバル人材育成方針」が掲げる 「４つの TARGET」との関係	… 194
資料 51	外国人留学生の就職関係（文部科学省）	… 195
資料 52	新輸出大国コンソーシアム事業　高度外国人材活用資料集（JETRO）（抜粋）	… 197

立教大学

大学運営の基本方針

－＜ALL 立教＞で迎える立教 150 周年－

（2021 年度～2024 年度）

2021 年 7 月 1 日

総長　西原　廉太

目次

Ⅰ．「大学運営の基本方針」の位置づけ …… 3

Ⅱ．「大学運営の基本方針」の理念・目的 …… 3

1．創立者チャニング・ムーア・ウィリアムズと「建学の精神」 …… 3
2．PRO DEO ET PATRIA － 教育理念の再確認 － …… 4
3．「リベラルアーツ」をめぐって ― 立教大学としての再定義 ― …… 5
4．COVID-19 後のプロアクティブな新しい大学モデル …… 6
5．多様な価値観が集まるキャンパスへ―“diversity”の“inclusion”への質的進化 …… 6
6．「立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言」とその意味 …… 7
7．「全体最適」と「部分最適」のバランスを重視した「ガバナンス改革」 …… 9
8．＜ALL 立教＞で迎える立教 150 周年 …… 9

Ⅲ．重点政策 …… 10

1．RIKKYO Learning Style の発展 …… 10
2．新しい教学構想 …… 11

Ⅳ．教育発展 …… 12

1．学士課程教育の展開　－ニューノーマル下で展開する授業のあり方－ …… 12
2．大学院教育の展開 …… 12
3．グローバル・リベラルアーツ・プログラム（GLAP）の展開 …… 13
4．一貫連携教育の充実 …… 13
5．大学間連携の強化 …… 14
6．教学支援機能の充実と強化 …… 14
（1）FD・SD の推進 …… 14
（2）図書館機能の拡充 …… 15
7．その他の取り組み …… 15
（1）学修成果の評価方法の検討 …… 15
（2）立教セカンドステージ大学（RSSC）の展開 …… 15
（3）認証評価への対応 …… 15

Ⅴ．研究活動の活性化 …… 16

1．学術研究活動全般の質的強化と充実 …… 16
2．研究支援制度の拡充 …… 16
3．産学官連携の推進 …… 17

Ⅵ. 学生支援 …… 17

1．学生支援の方向性 …… 17
2．奨学金の充実 …… 18
3．学生サポート体制の整備 …… 18
（1）ピア・サポートの推進 …… 18
（2）しょうがい学生支援の展開 …… 18
（3）健康的なキャンパスの創造 …… 18
4．キャリア支援の充実 …… 19
5．課外活動の支援充実 …… 20

Ⅶ. 社会連携／社会貢献 …… 20

1．社会連携／社会貢献の方向性 …… 20
2．SDGs の連携強化 …… 21

Ⅷ. 国際化　－国際化事業の展開－ …… 21

Ⅸ. 入試　－入試制度の継続的見直し－ …… 22

Ⅹ. 広報・ブランディング　－広報強化－ …… 23

Ⅺ. 大学運営基盤の整備 …… 24

1．ガバナンス強化・危機管理体制の充実 …… 24
2．教学運営・支援体制の整備 …… 24
3．財政運営 …… 25
4．キャンパスの発展・整備 …… 25
5．情報戦略の推進 …… 26
6．創立 150 周年記念事業の推進と募金活動への貢献 …… 26

Ⅰ.「大学運営の基本方針」の位置づけ

本文書は、総長在任期間中（2021 年 4 月～2025 年 3 月）の 4 年間の大学運営における基本方針です。策定にあたっては、本方針の理念・目的を明確化した上で、本学の教学発展における「重点政策」、および各領域（教育発展、研究活動、学生支援、社会連携／社会貢献、国際化、入試、広報・ブランディング、大学運営基盤）における方針を示しています。また、大学の質を対外的に保証し、社会からの要請に応えていくという基本姿勢を示すという観点から、認証評価、および私立大学ガバナンス・コードの内容にも留意しつつ作成しています。

そして、本方針に基づく各事業の 5 か年計画を、関係部局と協議のうえ 2021 年 12 月までに「中期計画」として取りまとめます。中期計画には、中期目標を定め、戦略的に予算配分を行う重点事業を設定します。また、中期計画を着実に推進するため、予算編成と連動した単年度事業計画を策定します。各事業については、その目的と成果、課題などを確認しながら推進し、定期的に評価を行っていきます。このように「大学運営の基本方針」は、「中期計画」「単年度事業計画」と一体的に管理・運用することを想定しています。

なお、「大学運営の基本方針」は、2015 年度に策定された「RIKKYO VISION 2024－Lead the Way－」の基本理念「人と人、想いと想いをつなぎ、実りある未来へと、強く道を拓いてゆける人材を輩出する」を引き継ぎます。また、2018 年度に策定された「総合発展基本構想 2018－2024」に基づく事業は、原則として継続することとし、各事業の具体的な進捗や成果を確認したうえで、見直しが必要な場合にはこれを図り、中期計画にて示します。さらに、今後の推進に大きな課題が見受けられ、抜本的な展開の見直しが必要と判断した事業は、改めて部長会にて情報を共有し、その継続の妥当性を含め審議を行います。

Ⅱ.「大学運営の基本方針」の理念・目的

1．創立者チャニング・ムーア・ウィリアムズと「建学の精神」

米国聖公会宣教師、チャニング・ムーア・ウィリアムズの「ミッション」とは何であったのでしょうか。1859 年、長崎にウィリアムズ主教が来日した時、そこにはまだ「切支丹禁令」の高札が立っていました。禁教令が廃されたのは、立教が創設される前年、1873 年のことです。ウィリアムズ主教が日本で活動を開始した時、ウィリアムズが願った教育に対する基本的需要は、日本には存在しなかったのです。

現代の教育関係者の多くは、学校を始めるに際し、まず市場の需要を調べ、その後で、それを支える教員や施設を調達するという順序を、何の疑いもなく選択するでしょう。しかしながら、学校教育とは、若い者たちに、如何としても伝えたいことがあり、教えることこそが自らの「ミッション」（使命）であると確信する者によって始まったということを、歴史は教えてくれています。事実、ウィリアムズの約 7 年にも及ぶ長崎での見通しのない生活と、

という意味において理解してきました。

この教育理念は、教員と学生、そして職員との協働的営為があって初めて実現できるものです。本学の各学部の英語表記は、すべて“College”です。“College”とは、12、13 世紀に修道院から派生したもので、教員と学生が共に祈り、共に生活し、共に学ぶ空間のことでした。オックスフォード大学、ケンブリッジ大学が、“College”の源流です。現在、本学は残念ながら全寮制ではありませんが、私たちは、“College”の本来的理念を大切にしながら、学生たちに、真理を探究する無限の旅を提供したいのです。人類が築きあげてきた「知」の体系に対する深い造詣と、これを現実の世界、社会の中で適応していく力を持ちうる「ひと」を生み育てる「場」として、私たちの「立教大学」は存在しています。古典から現代、現代から未来へと至る有機的な「知」の礎と連鎖を了解し、これらを自らの具体的な現実や経験と共鳴させて意味を引き出し、さらに内在化させることで、確かな世界観、人間観、価値観を形成させることこそが、私たち、「立教大学」の使命、ミッションです。この「建学の精神」を再確認しつつ、時間と空間を超えて、人と人をつなぎ、世界につながる大学であることを、未来に向かって宣言していきたいと願います。

3．「リベラルアーツ」をめぐって ― 立教大学としての再定義 ―

ウィリアムズ主教の出身大学は、米国でハーバード大学についで二番目に古いウィリアム・アンド・メアリー大学でした。ウィリアム・アンド・メアリー大学は、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学型のリベラルアーツ教育を徹底していた College でした。したがって、ウィリアムズ主教が創設した本学も、英国型の伝統的なリベラルアーツ教育を規範とするものとなりました。築地から池袋に移転する発展期においても、英国型リベラルアーツ教育は、本学の教育方針の基軸であり続けました。それは、池袋キャンパスの、正門から始まる赤煉瓦建物群のキャンパス・デザインにも見事に表現されています。

「リベラルアーツ」に基づく教育の本来的目標とは、その学びを通じて、学ぶ者が＜世界を読み解く力＞を、そして、＜世界を変えていく力＞を身につけることができるようにすることにあり、その規範的理解を、本学はこれからも変えることはありません。しかし、近年、他大学も「リベラルアーツ」という言葉を積極的に使用するようになり、「立教大学の語るところのリベラルアーツ」とは何かを、「現状」とも接続させながら学内外に対して説明する必要に迫られているのも事実です。本学においても、「リベラルアーツ」という言葉が、ある意味一人歩きし、共通認識のないまま、曖昧なスローガンと化していると言っても過言ではありません。

リベラルアーツ教育とは、専門と分離された単なる初年次教育ではありません。本学しか語り得ない、私たちの「ミッション」と直結する「リベラルアーツ教育」とは何かを、今一度、全学で確認、共有する必要があります。この点については、本基本方針Ⅲ.1.において改めて確認をしたいと思います。

4．COVID-19 後のプロアクティブな新しい大学モデル

今般の COVID-19 は世界的パンデミックであり、文字通りのパラダイム変換、すなわち、時代の、社会の意識枠そのものがスライドするものでした。その中で、日本はもちろん、世界中の「大学」というもののあり方が劇的に変わっていくことは必至です。これまで私たちが取り組んできたのは、半ば強制的な「オンライン化」でしたが、その可能性を実感していくならば、これまでの、いわゆる大学のキャンパス・教室・時限という空間的・時間的・物理的枠組みが無意味化され、解体されていくことも十分に想定されます。オンラインの可能性を追求することとは、同時に、キャンパスでしかできないことは何か、キャンパスでの学びと生活の価値と意味とは何かを、あらためて明確に確認することでもあります。本学では、オンラインかオンサイトかといった二者択一的議論ではなく、オンラインとオンサイトを有機的に組み合わせた高等教育を豊かに展開することに注力します。

いわゆる「箱物」型大学教育そのものが問われていく中で、私たち、「立教大学」には、COVID-19 後のプロアクティブな新しい大学モデル、新たな大学教育の枠組みを、積極的に提示していく使命（ミッション）があります。COVID-19 は、オンラインというツールを使いながら、時間も空間も選ばず、多様な人々が多様な形態で高等教育を受けることのできるインフラを、一気に国内に、また、世界に据えることとなりました。私たちは、既定の教学方針を再設定し、COVID-19 後に登場する新しい大学教育の形を構想しなければなりません。

また、今般の COVID-19 の蔓延により、本学の国際化戦略における 2 大重要政策である、「海外への学生派遣の拡大」「外国人留学生の受け入れの拡大」のいずれもが大きな影響を受けることとなり、これまでの国際化戦略を大きく見直す必要が出てきました。バーチャルとリアルのハイブリッドを前提に、「派遣」「受入」拡大というフレームを捉えていきます。オンラインを積極的に活用することにより、国内でグローバルに発揮できるスキルや知識を得られる仕組みを作ります。明確な国際化戦略のもと、グローバルなアトモスフィアを醸し出すキャンパス空間の実現を目指します。このような多様なプログラムを通して、本学は、COVID-19 時代における新たな国際化デザインを、先駆的に構想し、提案します。

5．多様な価値観が集まるキャンパスへ―“diversity”の“inclusion”への質的進化

現在、大学に対しては、18 歳で入学する日本人を主な対象として想定するという従来のモデルから脱却し、社会人や留学生、しょうがいのある学生など、多様な属性、背景を持つ人々を積極的に受け入れ、自由に学びができるような体制や環境を整えていくことが求められています。組織の中に、多様な構成員が存在する「多様性」（diversity）環境への取り組みは、本学をはじめとして、多くの大学でその重要性が認識されてきました。個々人がその可能性を最大限に活かし、グローバル時代を生きていく力を獲得するためには、画一的な、教育を提供する側の視点で作られた教育から脱却し、高等教育機関として、多様な価値観を持

つ多様な人々が集まり、新たな価値が創造される場となることが必要です。本学も、こうした、多様な価値観が集まるキャンパスにおいて、学生一人ひとりの特性を伸ばし、新たなリテラシーにも対応した、多様で柔軟な教育プログラムを提供するため、迅速なプログラム編成を可能とすることをはじめとして、ガバナンスを含め、あらゆる既存の制度の再検証を行います。

本学は、こうした、“diversity”をデフォルトとして踏まえつつ、今後、それをさらに、“inclusion”の次元へと進化させていきます。“inclusion”とは多様な人々が対等に関わり合いながら、一つの有機体的共同体（コミュニオン）を形成している状態を意味します。2015 年に開催された「世界教育フォーラム」では、全ての人々にとって包括的（inclusive）で、公平な質の高い教育と生涯学習の促進を目標に、“inclusion”を 2030 年に向けた新たな教育開発ビジョンとして設定しています。“diversity”から“inclusion”の状態へとさらに歩みを進めていく上で、本学にはそれを先導する社会的役割が求められていきます。今後、“inclusion”を、本学の創造的変革におけるキーワードの一つとします。

6．「立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言」とその意味

1874 年、東京・築地にウィリアムズ主教が立教大学（「立教学校」）を創設した時に、ウィリアムズ主教は、当時の「実利主義」や知識、技術を物質的な繁栄と立身出世の道具とする日本の風潮とは明確な一線を画して、立教を「キリスト教に基づく真の人間教育を行う場」と位置づけました。それ以来、本学は、一貫して、一人ひとりの「人間の尊厳」を大切にし、他者の痛みに敏感に共感できる者たちを生み育てることを、「建学の精神」の根幹としてきました。

2005 年に、当時の押見輝男総長は、この精神の核は、教育を大学の中で自己完結することなく、積極的に社会に出てゆき、多くの人々と協働（collaborate）すること、特に病気、しょうがい、災害など、困難な生活を送っている人々や社会的に弱者とされている人々に目を向け、他者を傷つけず、自他共に生きる社会の実現を目指すことにあるとして、「立教ヒューマン・コラボレーション宣言」を提示しました。

本学が「立教ヒューマン・コラボレーション宣言」を打ち出してからすでに 16 年を経ましたが、この間、学生部・学生相談所、大学チャプレン室、人権・ハラスメント対策センター、ボランティアセンター、ジェンダーフォーラムに加え、しょうがい学生支援室、立教サービスラーニングセンター、共生社会研究センター、東日本大震災復興支援諸活動など、立教においてこのヒューマン・コラボレーションを具体化する動きは深化、進展してきました。

また、2008 年には「キャンパス・ハラスメント防止宣言」を定め、学生および教職員からなるすべての構成員の間で、個人的属性および人格にかかわる事項などに関して、人を傷つけるような発言や行動を行い、その人に不利益や損害を与え、人権を侵害する「キャンパス・ハラスメント」を一切許さないことを宣言しています。この個人的属性には、性別・性自認・

資料２　留学生数の推移（2022 年 10 月 13 日国際化推進会議資料抜粋）

１）全学生に占める外国人留学生の割合

- **現状**

協定校からの受け入れ（特別外国人学生、以下「特外」）は、新型コロナウイルスによる入国制限の緩和を受けて、2022 年度に大幅に回復している（表中*1)。

一方、短期受入プログラムについては、学部によるこれまでの取り組みがコロナ禍により大幅に縮小している。さらに、短期日本語プログラムは、2021 年度からオンラインによる受け入れを開始し、2022 年度はオンラインによる夏季受け入れを終えたところであるが、秋季に計画していた協定校からの団体受け入れは日本での感染等の状況から参加が見送りとなるなど、まだ回復の途上にある（表中*2)。

＜留学生数推移＞

内訳		2019	2020	2021	2022	2023 (TGU 目標値)
正規	学部	461	461	447	426	
	院	298	290	291	290	
特外		391	79	49	297*1	
短プロ		272	0	53	21*2	
総合計		1,422	830	840	1,013	1,400 (2,170)

＊２：2022 年度速報値（2022 年 10 月時点)。

〇資料３　「国際都市戦略プロジェクト」推進方針（東京都政策企画局）（抜粋）

１　書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料３

２　出典

東京都ウェブサイト

３　書類等の利用範囲

「国際都市戦略プロジェクト」推進方針（P3, 4, 9, 15, 18, 19, 21, 29）

https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/diplomacy/2022/06/images/housin05.pdf

４　その他の説明

異文化コミュニケーション学部の収容定員の増加が、地域・社会的動向等に即していることを説明するため、上記資料を引用した。

○資料４　教育未来創造会議関連資料

１　書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料４

２　出典

内閣官房ウェブサイト

３　書類等の利用範囲

我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）（P9, 19 等）

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/pdf/220510honbun.pdf

教育未来創造会議第４回資料２

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/dai4/siryou2.pdf

教育未来創造会議第５回資料２－２（目次）

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/dai5/siryou2-2.pdf

４　その他の説明

異文化コミュニケーション学部の収容定員の増加が、地域・社会的動向等に即していることを説明するため、上記資料を引用した。

○資料５　次期教育振興基本計画について（答申）（抜粋）

１　書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料５

２　出典

文部科学省ウェブサイト

３　書類等の利用範囲

次期教育振興基本計画について（答申）（P13, 14 等）

https://www.mext.go.jp/content/20230308-mxt_soseisk02-000028073_1.pdf

４　その他の説明

異文化コミュニケーション学部の収容定員の増加が、地域・社会的動向等に即していることを説明するため、上記資料を引用した。

〇資料６　「次期教育振興基本計画」に向けた提言（抜粋）

１　書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料６

２　出典

一般社団法人日本経済団体連合会ウェブサイト

３　書類等の利用範囲

「次期教育振興基本計画」に向けた提言（P1, 3, 4, 5, 12, 13 等）

https://www.keidanren.or.jp/policy/2022/088_honbun.pdf

４　その他の説明

異文化コミュニケーション学部の収容定員の増加が、地域・社会的動向等に即していることを説明するため、上記資料を引用した。

別表４　削除

別表５（第49条関係）

項　　目		邦　文	英　文
入学証明書	（1通につき）	300円	400円
退学証明書	（1通につき）	300円	400円
在学証明書	（1通につき）	300円	400円
卒業（見込）証明書	（1通につき）	300円	400円
成績証明書	（1通につき）	300円	400円
修了証明書	（1通につき）	300円	
単位修得証明書	（1通につき）	300円	
学力に関する証明書	（1通につき）	300円	
教育職員免許状取得見込証明書	（1通につき）	300円	
社会福祉士指定科目履修（見込）証明書	（1通につき）	300円	
精神保健福祉士指定科目履修（見込）証明書	（1通につき）	300円	
公認心理師試験卒業証明書・科目履修証明書	（1通につき）	300円	
科目等履修証明書	（1通につき）	300円	400円
聴講証明書	（1通につき）	300円	400円
学士号証明書	（1通につき）	300円	400円
調査書	（1通につき）	300円	
学生証再発行	（1通につき）	2,000円	
通学定期乗車券発行控	（1通につき）	300円	
科目等履修生証再発行	（1通につき）	2,000円	
教育職員免許状大学一括申請手数料	（1通につき）	800円	
学校図書館司書教諭講習申込手数料	（1通につき）	800円	
学位記等再発行	（1通につき）	20,000円	
その他の証明書	（1通につき）	300円	400円

別表６（第51条，第52条関係）

選　　考　　料	12,000円
登　　録　　料	40,000円（年額）
受　　講　　料（1単位につき）	36,000円

備　考

1　第51条第２項の規定による科目等履修生に限り選考料及び登録料は第２年目においてはこれを徴収しない。

2　本学の学部又は大学院研究科を卒業，修了したことがある者及び特別外国人学生として在籍したことがある者の選考料及び登録料については２分の１額とする。

3　他の教育研究機関との協定により科目等履修生を受け入れる場合，本表にかかわらず，当該協定に基づき選考料，登録料及び受講料を協定による金額とすることができる。

別表７（第１条関係）

学部	教育研究上の目的
文学部	文学部は，世界の多様な文学・言語・文化・歴史・思想・教育に関するテキストや事象に触れる教育研究を通じて，幅広い人文的教養と深い人間理解に裏打ちされ，主体的な批評精神をもって社会に貢献できる人間を育てることを目的とする。
経済学部	経済学部は，教育研究を通じて，幅広い視野と柔軟な頭脳をもって，変動する経済社会に対応できる，自立的な思考能力をもった人材を社会に送り出すことを目的とする。
理学部	理学部は，教育と研究を通じて「科学の専門性を持った教養人」を育成することを目的とする。具体的には「科学の専門知識を有し，専門分野を中心とした領域での課題解決能力を発揮する人材」，「これらの知識や能力を大学院教育によって更に高度に

	発展させようという人材」，加えて，「自信と誇りを持って社会に出て，大学で学んだ科学的考え方を活用できる人材」の育成をする。
社会学部	建学の精神“PRO DEO ET PATRIA”（普遍的なる真理を探究し、私たちの世界、社会、隣人のために尽くす）にもとづき、社会学及び関連領域の学修をつうじて、社会の問題を発見し、分析し、提言できる人間を育てる。
法学部	法学部は，法学・政治学の教育研究を通じて，法曹・行政・企業・ジャーナリズム・政治・NPOなど多様な分野でリーダーシップをとり，社会や組織の形成と発展を担う人材の育成を目的とする。
観光学部	観光学部は，観光関連分野に関する教育研究を通じて，広範囲で高度な学識を持ち，諸問題の解決を担う総合的な判断力と優れたリーダーシップを備えた有為な人材を育成することを目的とする。
コミュニティ福祉学部	コミュニティ福祉学部は，「いのちの尊厳のために(Vitae Dignitati)」という基本理念に立ち，教育研究を通じて，コミュニティを基盤とした福祉社会構築に貢献できる人材を養成することを目的とする。
経営学部	経営学部は，教育研究を通じて，価値観が多様化し急変する現代社会において，明確なビジョンと高潔さを有し，持続可能な社会の構築に向けて，経営学に関する専門知識を生かしつつリーダーシップを発揮する人材を育成することを目的とする。
現代心理学部	現代心理学部は「人間とは何か」という古くからの根本問題を，心，身体，映像に関する諸学の教育研究を通じて，サイエンス，フィロソフィ，アートが融合した，現代世界にふさわしい方法で探究することをその目的とする。
異文化コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学部は，変化を続ける世界の中で，複数の視点からものごとを考え，柔軟な思考力をもって実践的に問題と向き合うことによって，多様で「異なる」他者と共生し，持続可能な未来を創ることのできる人材を育成する。

別表８（第5条の2関係）

登録料	10,000円（年額）

異文化コミュニケーション学部・異文化コミュニケーション研究科の教育目的と各種方針

立教大学の教育目的と各種方針

異文化コミュニケーション学部の教育目的と各種方針

異文化コミュニケーション研究科の教育目的と各種方針

異文化コミュニケーション学部の教育目的と各種方針

異文化コミュニケーション学部　学位授与方針

教育目的

変化を続ける世界の中で、複数の視点からものごとを考え、柔軟な思考力をもって実践的に問題と向き合うことによって、多様で「異なる」他者と共生し、持続可能な未来を創ることのできる人材を育成する。

学修成果

「学士（異文化コミュニケーション学）」を授与される学生は、以下のような能力を有する。
※各項目の（　）内は全学の学修成果項目との関係性を記載

1. 論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。(主に、「3. 自己を理解し発展させる力」「6. 表現力」と関連)
2. 自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。(主に、「3. 自己を理解し発展させる力」「5. 他者を理解する姿勢」「6. 表現力」と関連)
3. グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語（英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語、ロシア語のいずれか）で適切なコミュニケーションができる。一つの外国語については、高度な言語運用を行うことができる。もう一つの外国語については、日常レベルで通用する言語運用を行うことができる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力をもち、実社会のコミュニケーションに対応できる。PEACE CICの学生は、高度な英語運用能力をもって大学での学修を英語ですすめることができ、また、日本での社会生活に必要な日本語運用能力を身につけ適切なコミュニケーションができる。（主に「6. 表現力」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連）
4. 多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、それを踏まえて行動することができる。（主に「3. 他者を理解する姿勢」「8. 国際性」、その他「2. 専門性」「9. 社会的実践力」と関連）
5. 日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。（主に「3. 他者を理解する姿勢」「8. 国際性」、その他「9. 社会的実践力」と関連）
6. 異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。（主に「2. 専門性」、その他「5. 他者を理解する姿勢」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連）
7. 教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。（主に「9. 社会的実践力」、その他「3. 自己を理解し発展させる力」「7. リーダーシップ」と関連）
8. 文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことできる。（主に「5. 他者を理解する姿勢」、その他「4. キャリア展望を確立する力」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」、その他「1. リベラルアーツの素養」と関連）

さらに全学共通科目により、

9. 言語Aの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。さらに、英語圏の文化のみならず、英語を通して得た国際的な知見によって、多様な文化を理解し、対応できる。また、自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎が身につく。また、NEXUSプログラムにより入学した学生については、言語Bと合わせて大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。PEACE CICの学生は、言語Bと合わせて言語Aとして日本語を学び、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。
10. 言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多元的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。PEACE CICの学生は、言語Aとあわせて、言語Bとしても日本語を学び、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。

11. 学びの精神では、立教大学設立理念の一端に触れ、自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけ、大学での講義科目受講の包括的スキルを体得する。
12. 多彩な学びでは、学問的知見の多様性と豊饒性を理解し、他の諸学問の成果を交錯させることで、世界を複眼的に解読する柔軟な知性を涵養する。また、スポーツ実習では、心身の健康増進を目的とした科学的知識を理解し、スポーツの実践をとおした体力の維持・向上、運動習慣を醸成する。

学修環境

上記のような学修成果をもたらすために、以下のような学修環境を提供する。（NEXUSプログラムを含む）

1. 統一シラバスによる1年次「基礎演習」において、日本語によるコミュニケーション能力を向上させる機会と場を提供する。
2. 1年次「College Life Planning」（NEXUSプログラムの学生をのぞく）において、学部での4年間の学びを自らが考え、デザインする機会と場を提供する。
3. 英語で行う専門教育科目を数多く提供する。
4. 言語科目は少人数制で展開する。
5. 多様な言語での講義科目を展開する。
6. 立教大学で学ぶ留学生等との意見交換を通して体験的に学ぶ科目を提供する。
7. 2年次秋学期に半期間、学生全員を対象とした「海外留学研修」を実施する。留学先での学修言語は、英語、スペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語の中から選択できる。
8. 2年次秋学期の「海外留学研修」を4年間の学びの中に位置づけ、その意義について考えると同時に、自分のキャリアについても意識を高めていくための科目として1年次春学期・秋学期には「College Life Planning」（NEXUSプログラムの学生をのぞく）を、2年次春学期には「Cultural Exchange」を設置する。
9. 留学生に対しては、「海外留学研修」、「Japan Studies Program」を提供し、そのどちらかを選択可能とする。
10. 通訳・翻訳、英語や日本語の教育実習については、実践的に体験を通して学ぶことができる科目を提供する。
11. 4年間にわたり専任教員がアカデミックアドバイザーとして、学修上のアドバイスを適宜与える。
12. 学生が各自、自分のキャリアについて考える機会とするため、学部特性に合致したインターンシップを提供する。
13. 学部独自で海外の大学と協定を結び、学生が長期にわたり海外留学できる機会を提供する。
14. 学生が教室での学びを教室の外での学びにつなげ、社会や地域に貢献できる機会を提供するため、サービスラーニング科目を設置する。
15. 世界および日本の多様な文化や価値観に触れ、柔軟な思考力と想像力を養い、また社会問題などの改善に取り組むプロセスを学ぶために、海外および国内フィールドスタディ科目を提供する。
16. 3・4年次には「専門演習」を少人数で展開し、学生が自ら選んだテーマで「卒業研究」を完成させるために、深く学ぶ機会を提供する。
17. 英語教員免許（中学校1種、高等学校1種）が取得できるプログラムを提供する。
18. 「日本語教員養成プログラム」、「通訳・翻訳者養成プログラム」を設置し、修了者には修了証を授与する。

【５年一貫プログラム】
上記に加えて、以下の学修環境を提供する。

19. 学部卒業後、大学院へ進学し、高度な専門知識をもって社会で活躍することを目指す学生のために、博士前期課程進学後１年で前期課程を修了することができる「５年一貫プログラム」を、「通訳翻訳」、「英語教育」、「日本語教育」、「国際協力」の４コースについて設置する。同プログラム学生については、学部４年次に、博士前期課程の科目を履修する機会を与える。
20. ５年一貫プログラムの学生に対しては、４年間にわたり、各コースの専門領域の専任教員が、アカデミックアドバイザーとして、学習、研究、進路についてのアドバイスを与える。

全学共通科目の学修環境

Dual Language Pathway

専門科目を主に英語で履修するDual Language Pathwa y では、上記1～19に加え、以下の学修環境を提供する。

1. 上記１の基礎演習に代わり、ＤＬＰでは、1年次の「Academic Skills」において、学部専門科目を英語で修得していくために必要なアカデミック・スキルを向上させる機会と場を提供する。
2. 2年次秋学期の海外留学研修では、学部間協定大学への1年間の留学を推奨し、1年間に渡る海外大学での講義履修を経験する機会と場を提供する。
3. 学部基礎科目群、専門科目群に多様な英語で展開する科目を置き、英語で展開する授業を履修して卒業する機会を提供する。
4. 3・4年次には「Advanced Seminar」を履修し、学生が自ら選んだテーマで、英語で「卒業研究」を完成させるために、深く学ぶ機会を提供する。

PEACE CIC

専門科目を主に英語で履修するPEACE CICでは、上記1～19に加え、以下の学修環境を提供する。

1. 上記１の基礎演習に代わり、PEACE CICでは、1年次の「Academic Skills」において、学部専門科目を英語で修得していくために必要なアカデミック・スキルを向上させる機会と場を提供する。
2. 学部基礎科目群、専門科目群に多様な英語で展開する科目を置き、英語で展開する授業を履修して卒業する機会を提供する。
3. 3・4年次には「Advanced Seminar」を履修し、学生が自ら選んだテーマで、英語で「Senior Research and Thesis」を完成させるために、深く学ぶ機会を提供する。「Advanced Seminar」を履修しない学生には、「Senior Project」を履修し、英語で、学部専門領域に関連したレポートをまとめることで、学びを深める機会を提供する。

異文化コミュニケーション学部　教育課程編成の方針 ＋

異文化コミュニケーション学部（Dual Language Pathway）教育課程編成の方針 ＋

- 異文化コミュニケーション学部（PEACE CIC）教育課程編成の方針
- 異文化コミュニケーション学部　入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）
- 異文化コミュニケーション学部として求める教員像と教員組織の編成方針

異文化コミュニケーション研究科の教育目的と各種方針

- 異文化コミュニケーション研究科　学位授与方針
- 異文化コミュニケーション研究科　教育課程編成の方針
- 異文化コミュニケーション研究科　入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）
- 異文化コミュニケーション研究科として求める教員像と教員組織の編成方針

RELATED LINKS

→ 異文化コミュニケーション学部のページはこちら

→ 大学院研究科一覧はこちら

Copyright © Rikkyo University. All Rights Reserved.

RIKKYO'S SOCIAL MEDIA

異文化コミュニケーション学部・異文化コミュニケーション研究科の教育目的と各種方針

立教大学の教育目的と各種方針

異文化コミュニケーション学部の教育目的と各種方針

異文化コミュニケーション研究科の教育目的と各種方針

異文化コミュニケーション学部の教育目的と各種方針

異文化コミュニケーション学部　学位授与方針

異文化コミュニケーション学部　教育課程編成の方針

異文化コミュニケーション学部の教育目的

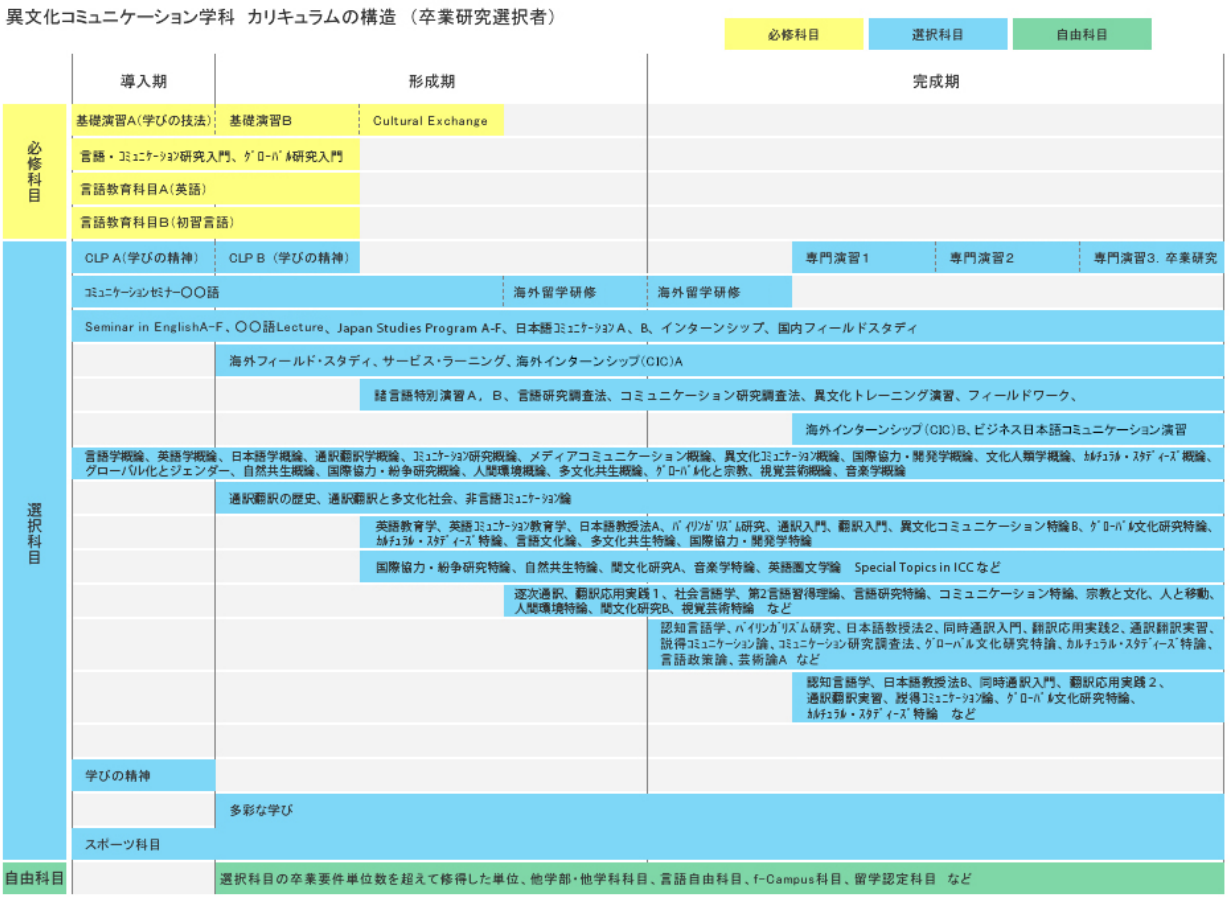
変化を続ける世界の中で、複数の視点からものごとを考え、柔軟な思考力をもって実践的に問題と向き合うことによって、多様で「異なる」他者と共生し、持続可能な未来を創ることのできる人材を育成する。

教育課程の編成と特色

異文化コミュニケーション学科の教育課程は、学士課程における修業年限4年間を「導入期」「形成期」「完成期」の3期に区分し編成している。各期のねらいは以下のとおりである。

- 導入期は、「学びの精神」、「学びの技法」、言語教育科目、学科での学びの多様性や興味深さに触れるための入門科目、4年間の学びを自らがデザインする機会となる「College Life Planning A，B」などで構成し、大学で学ぶために必要なアカデミック・スキルを身につけるとともに、学科での学びの体系について理解を深める。なお、NEXUSプログラムでは、標準0.5年間〔1学期間〕の日本語集中履修期間を設け、言語Aおよび言語Bにおける日本語、ならびに平易な日本語を用いて実施する「学びの精神」の履修をとおして、学ぶための姿勢と基礎的な知識・技法を身につける。
- 形成期は、学科で展開する「言語研究」「コミュニケーション研究」「通訳翻訳研究」「グローバル研究」の基礎となる科目群、「海外留学研修」、「インターンシップ」、「多彩な学び」「スポーツ科目」などで構成し、学科での学びの基礎や幅広い教養を身につけるとともに、体験を通して実践的に学ぶことを通して、自らが深めていく方向性を定める。
- 完成期は、「専門演習」、「卒業研究」、学科の専門科目などで構成し、導入期、形成期での学びを通して自らが選択した学問領域についての知識を深めながら、1つのテーマについて自律的に学ぶことを通して成果物を完成させる。

異文化コミュニケーション学科のカリキュラムの構造



教育課程の構成

異文化コミュニケーション学科の教育課程の卒業要件は124単位であり、履修区分に応じて以下の科目群に分けられている。

1. 必修科目（20単位）は、以下の科目区分で構成する。DLP およびPEACE　CICについては別記する。
   ・言語教育科目（言語A）6単位
   ・言語教育科目（言語B）4単位
   ・学びの技法（基礎演習A）2単位
   ・学部必修科目　8単位

2. 選択科目（卒業研究選択者　84単位、卒業課題選択者　78単位）は、以下の科目区分で構成する。
   ・学びの精神　4単位
   ・多彩な学び・スポーツ科目　14単位
   ・学部基盤科目　22単位
   ・学部基礎科目　12単位
   ・学部専門科目　22単位
   ・専門演習・卒業研究　10単位（卒業研究選択者のみ）
   ・卒業課題　4単位（卒業課題選択者のみ）

3. 自由科目　20単位（ただし、卒業課題選択者は　26単位）は、選択科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位、他学部・他学科科目、言語自由科目、5大学間単位互換制度（f-Campus）、留学認定科目などから構成する。
   ＊DLPの学生は、卒業研究を選択することが必修。

- 異文化コミュニケーション学科では、「1年次：大学で学ぶためのアカデミック・スキルを身につけるとともに、学科での4年間の学びを自らが描き、考える」、「2年次春学期：言語の運用能力を集中的に向上させるとともに、学科の様々な学問領域の基礎を学ぶ」、「2年次秋学期：海外留学研修という実践の場で異文化コミュニケーションを巡る諸問題を把握し、考えていく力を伸ばす」、「3年次以降：学生自らが興味関心のあるテーマを探し、見つけ、深めていく」というように、初年次から卒業までの一貫した教育課程を編成している。学科には、「言語研究関連科目群」、「通訳翻訳研究関連科目群」、「コミュニケーション研究関連科目群」、「グローバル研究関連科目群」というお互いが相互に関連し合った専門科目群が「理解する」と「実践する」という2つの柱に基づいて設置されており、両者が有機的に結びつくことで、「異なる」他者と共生し、持続可能な未来を創る知識と実践力、自ら行動する力を身につけていく。
- 言語教育科目では、必修科目として言語A（英語）と言語B（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語・日本語（留学生のみ）から1言語を選択）の2言語を課している。ただし、NEXUSプログラムでは言語Aと言語Bともに、日本語を課す。さらに学修を深め、新しい言語に挑戦するための言語自由科目（10言語）を開講している。少人数クラスでの「聞く・話す・読む・書く」の基本的技能の訓練を通じて、当該言語による専門的または日常的なコミュニケーションを可能にし、異文化対応能力を育成する。
- 学びの技法では、大学における学問を修めるうえで必要なスキルの向上を目的とする。学部の専門領域に即して、スチューデント・スキル及びスタディ・スキルの向上、情報リテラシーの理解、論文作成上の倫理やルール等を少人数の演習形式で実施する。
- 学びの精神は、大学で学ぶこと、また立教大学での学びの意味について理解する科目群である。宗教、人権、大学、また特色ある学部教育をキーワードに据え、立教大学ならではの多様な主題を交えた科目を配置する。
- 多彩な学びは、広範な学問分野を俯瞰した、多彩な科目群である。人文学、社会科学、自然科学、スポーツ人間科学に依拠しながらもその枠を超えた、幅広い知識と教養、総合的な判断力を養う科目を配置する。スポーツ実習は、スポーツの実践をとおして健康の維持向上を図る科目群である。運動技術の向上を目指すスポーツプログラム、実践に加えて歴史的、文化的背景を身につけるスポーツスタディを配置する。

「学部・学科の学修成果」と、科目群もしくは科目との関係

1. 論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。
   「基礎演習A,B」、「College Life Planning A,B」、「専門演習」など
2. 自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。
   「Cultural Exchange」、「異文化トレーニング演習」、「社会言語学」など
3. グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語（英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語、ロシア語のいずれか）でコミュニケーションができる。一つの外国語については、高度な言語運用を行うことができる。もう一つの外国語については、日常レベルで通用する言語運用を行うことができる。
   「コミュニケーションセミナー」、「諸言語特別演習」、「Seminar in English」、「〇〇語 Lecture」など
4. 多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。
   「日本語教授法」、「英語コミュニケーション教育学」、「社会言語学」、「バイリンガリズム研究」など
5. 日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。
   「多文化共生概論」、「通訳入門」、「逐次通訳」、「翻訳入門」、「翻訳応用実践」など
6. 異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。
   「国際協力・開発学特論」、「異文化コミュニケーション特論」、「国際協力・紛争研究特論」、「対人コミュニケーション論」など
7. 教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。
   「海外留学研修」、「海外フィールドスタディ」、「サービスラーニング」、「インターンシップ」、「日本語教育実習」、「通訳翻訳実習」など
8. 文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことできる。
   「言語文化論」、「グローバル文化研究特論」、「多文化共生特論」、「人間環境特論」
9. 言語Aの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。さらに、英語圏の文化のみならず、英語を通して得た国際的な知見によって、多様な文化を理解し、対応できる。また、自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎が身につく。ただし、NEXUSプログラムでは、言語Bと合わせて言語A（日本語）の学修によって、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力が身につく。
10. 言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多元的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。
11. 学びの精神では、立教大学設立理念の一端に触れ、自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけ、大学での講義科目受講の包括的スキルを体得する。
12. 多彩な学びでは、学問的知見の多様性と豊饒性を理解し、他の諸学問の成果を交錯させることで、世界を複眼的に解読する柔軟な知性を涵養する。また、スポーツ実習では、心身の健康増進を目的とした科学的知識を理解し、スポーツの実践をとおした体力の維持・向上、運動習慣を醸成する。

学修成果と科目の関係

異文化コミュニケーション学部（Dual Language Pathway）教育課程編成の方針

異文化コミュニケーション学部（PEACE CIC）教育課程編成の方針

異文化コミュニケーション学部　入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

異文化コミュニケーション学部として求める教員像と教員組織の編成方針

異文化コミュニケーション研究科の教育目的と各種方針

異文化コミュニケーション研究科　学位授与方針

異文化コミュニケーション研究科　教育課程編成の方針

異文化コミュニケーション研究科　入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

異文化コミュニケーション研究科として求める教員像と教員組織の編成方針

RELATED LINKS

異文化コミュニケーション学部のページはこちら

大学院研究科一覧はこちら

Copyright © Rikkyo University. All Rights Reserved.

RIKKYO'S SOCIAL MEDIA

カリキュラム・マップ

異文化コミュニケーション学部の教育目的
変化を続ける世界の中で、複数の視点からものごとを考え、柔軟な思考力をもって実践的に問題と向き合うことによって、多様で「異なる」他者と共生し、持続可能な未来を創ることのできる人材を育成する。

学修成果
「学士（異文化コミュニケーション学）」を授与される学生は、以下のような能力を有する。※各項目の（）内は全学の学修成果項目との関係性を記載 ① 論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。（主に、「3. 自己を理解し発展させる力」「6. 表現力」と関連） ② 自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。（主に、「3. 自己を理解し発展させる力」「5. 他者を理解する姿勢」「6. 表現力」と関連） ③ グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語（英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語、ロシア語のいずれか）でコミュニケーションすることができる。一つの外国語については、高度な言語運用を行うことができる。もう一つの外国語については、日常レベルで通用する言語運用を行うことができる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力をもち、実社会のコミュニケーションに対応できる。（主に「6. 表現力」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連） ④ 多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。（主に「3. 他者を理解する姿勢」「8. 国際性」、その他「2. 専門性」「9. 社会的実践力」と関連） ⑤ 日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。（主に「3. 他者を理解する姿勢」「8. 国際性」、その他「9. 社会的実践力」と関連） ⑥ 異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。（主に「2. 専門性」、その他「5. 他者を理解する姿勢」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連） ⑦ 教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。（主に「9. 社会的実践力」、その他「3. 自己を理解し発展させる力」「7. リーダーシップ」と関連） ⑧ 文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことできる。（主に「5. 他者を理解する姿勢」、その他「1. リベラルアーツの素養」「4. キャリア展望を確立する力」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連）

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 （◎＝強く関連、 ○＝関連、 △＝やや関連）							
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語（英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか）でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5）日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6）異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7）教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8）文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことできる。
言語・コミュニケーション研究入門 Overview of Language and Communication	必修科目	1	異文化コミュニケーション学部所属の教員の多様な研究分野に触れることにより、言語・コミュニケーションの研究について基本的な知識と多元的な視点を持つことができる。それを通じて、この学部でなにをどのように学ぶのか、履修者が自ら考え判断することができる。	△			○		◎		◎
グローバル研究入門 Overview of Global Studies	必修科目	1	異文化コミュニケーション学部所属の教員の多様な研究分野に触れることにより、グローバル・スタディーズの研究について基本的な知識と多元的な視点を持つことができる。それを通じて、この学部でなにをどのように学ぶのか、履修者が自ら考え判断することができる。	△			△		◎		◎
基礎演習A Academic Skills A	必修科目	1	異文化コミュニケーション学部で学ぶための基礎となる文献読解力、リサーチスキル、批判的思考力を身につけ、論理的な文章を組み立てることができる。また、グループ活動を通して自分の意見を客観的に分析し相手に伝え、他者の意見を積極的に理解していく姿勢を身につけることで、他者と協力的に討議することができる。	◎	◎		△				○
基礎演習B Academic Skills B	必修科目	1	異文化コミュニケーション学部で学ぶための基礎となる文献読解力、リサーチスキル、批判的思考力を深化させ、データや論拠を用いながら自らの論を展開したレポートを作成することができる。また、他者と共に調べ、話し合い、学ぶことにより学びの対象への理解を深めるとともに、その成果を論理的かつ効果的に発表することができる。	◎	◎		△				○
Cultural Exchange	必修科目	2	多様な国からの学生と共同学習を実施することにより、多様な文化的知識を身につけ、異なる文化に対して理解し、受容することができる。実践的な異文化コミュニケーション対応能力を修得し、自ら使うことができる。	○	◎		○	○	△		◎
College Life Planning A	選択科目 基盤科目	1～4	本学部での学びの礎を築くため、キャリアプラン・留学などの取組みについて理解し、それを留学計画やキャリアプランを立てる際に活かすことができる。また、それらの取組みを4年間の学びの中に位置づけ、学部での学びを自らデザインすることができる。	○	○					◎	
College Life Planning B	選択科目 基盤科目	1～4	本学部での学びの礎を築くため、キャリアプラン・留学などの取組みについて理解を深め、それを使うことができる。また、それらの取組みを4年間の学びの中に位置づけ、卒業後の人生にどう結び付けていくかを考えることができる。	○	○					◎	
コミュニケーションセミナー1B（ドイツ語）	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの基盤となる文法、表現、語彙を理解し、それを使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー1B（フランス語）	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの基盤となる文法、表現、語彙を理解し、それを使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー1B（スペイン語）	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの基盤となる文法、表現、語彙を理解し、それを使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー1B（中国語）	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの基盤となる文法、表現、語彙を理解し、それを使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー1B（朝鮮語）	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの基盤となる文法、表現、語彙を理解し、それを使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー1B（ロシア語）	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの基盤となる文法、表現、語彙を理解し、それを使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー2D（ドイツ語）	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの文法、表現、語彙を全般的に理解し、それを発展的に使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー2D（フランス語）	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの文法、表現、語彙を全般的に理解し、それを発展的に使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー2D（スペイン語）	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの文法、表現、語彙を全般的に理解し、それを発展的に使うことができる。	○	○	◎	△				○

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 （◎＝強く関連、 ○＝関連、 △＝やや関連）							
科目名	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語（英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか）でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5）日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6）異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7）教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8）文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことできる。
コミュニケーションセミナー2D（中国語）	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの文法、表現、語彙を全般的に理解し、それを発展的に使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー2D（朝鮮語）	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの文法、表現、語彙を全般的に理解し、それを発展的に使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー2D（ロシア語）	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの文法、表現、語彙を全般的に理解し、それを発展的に使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー3B-R（ドイツ語）	選択科目 基盤科目	2～4	主に留学準備を目的とし、継続的に中級レベルの文法、表現、語彙を学習し、それを使うことができる。	○	○	◎	△			○	○
コミュニケーションセミナー3B-R（フランス語）	選択科目 基盤科目	2～4	主に留学準備を目的とし、継続的に中級レベルの文法、表現、語彙を学習し、それを使うことができる。	○	○	◎	△			○	○
コミュニケーションセミナー3B-R（スペイン語）	選択科目 基盤科目	2～4	主に留学準備を目的とし、継続的に中級レベルの文法、表現、語彙を学習し、それを使うことができる。	○	○	◎	△			○	○
コミュニケーションセミナー3B-R（中国語）	選択科目 基盤科目	2～4	主に留学準備を目的とし、継続的に中級レベルの文法、表現、語彙を学習し、それを使うことができる。	○	○	◎	△			○	○
コミュニケーションセミナー3B-R（朝鮮語）	選択科目 基盤科目	2～4	主に留学準備を目的とし、継続的に中級レベルの文法、表現、語彙を学習し、それを使うことができる。	○	○	◎	△			○	○
コミュニケーションセミナー3A-R（英語）	選択科目 基盤科目	2～4	英語圏の文化や思考法について学び、それを説明し、受容することができる。英語を通して他者の考えを理解し、英語で論理的に自らの意志を伝えることができる。英語コミュニケーションの様々な状況において、英語を適切に使用することができる。	◎	◎	◎					○
Seminar in English A	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English B	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English C	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English D	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English E	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English F	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English G	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English H	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English I	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English J	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English K	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English L	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
ドイツ語Lecture A	選択科目 基盤科目	1～4	ドイツ語を通してドイツ語圏の地域、社会、文化等を理解し、ドイツ語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 （◎＝強く関連、 ○＝関連、 △＝やや関連）							
科目名	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語（英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか）でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5）日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6）異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7）教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8）文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことできる。
ドイツ語Lecture B	選択科目 基盤科目	1～4	ドイツ語を通してドイツ語圏の地域、社会、文化等を理解し、ドイツ語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
フランス語Lecture A	選択科目 基盤科目	1～4	フランス語を通してフランス語圏の地域、社会、文化等を理解し、フランス語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
フランス語Lecture B	選択科目 基盤科目	1～4	フランス語を通してフランス語圏の地域、社会、文化等を理解し、フランス語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
スペイン語Lecture A	選択科目 基盤科目	1～4	スペイン語を通してスペイン語圏の地域、社会、文化等を理解し、スペイン語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
スペイン語Lecture B	選択科目 基盤科目	1～4	スペイン語を通してスペイン語圏の地域、社会、文化等を理解し、スペイン語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
中国語Lecture A	選択科目 基盤科目	1～4	中国語を通して中国語圏の地域、社会、文化等を理解し、中国語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
中国語Lecture B	選択科目 基盤科目	1～4	中国語を通して中国語圏の地域、社会、文化等を理解し、中国語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
朝鮮語Lecture A	選択科目 基盤科目	1～4	朝鮮語を通して朝鮮語圏の地域、社会、文化等を理解し、朝鮮語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
朝鮮語Lecture B	選択科目 基盤科目	1～4	朝鮮語を通して朝鮮語圏の地域、社会、文化等を理解し、朝鮮語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
コミュニケーションセミナー 日本語6A	選択科目 基盤科目	1～4	大学の日本語での講義を十分理解し、自分の意見を相手に伝えるために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
コミュニケーションセミナー 日本語6B	選択科目 基盤科目	1～4	大学の日本語での講義を十分理解し、自分の意見を相手に伝えるために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
コミュニケーションセミナー 日本語6C	選択科目 基盤科目	1～4	大学の日本語での講義を十分理解し、自分の意見を相手に伝えるために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
コミュニケーションセミナー 日本語6D	選択科目 基盤科目	1～4	大学の日本語での講義を十分理解し、自分の意見を相手に伝えるために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
コミュニケーションセミナー 日本語6E	選択科目 基盤科目	1～4	大学の日本語での講義を十分理解し、自分の意見を相手に伝えるために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
コミュニケーションセミナー 日本語6F	選択科目 基盤科目	1～4	大学の日本語での講義を十分理解し、自分の意見を相手に伝えるために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
コミュニケーションセミナー 日本語6G	選択科目 基盤科目	1～4	大学の日本語での講義を十分理解し、自分の意見を相手に伝えるために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
コミュニケーションセミナー 日本語6H	選択科目 基盤科目	1～4	大学の日本語での講義を十分理解し、自分の意見を相手に伝えるために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
コミュニケーションセミナー 日本語4-5A	選択科目 基盤科目	1～4	日本語を通して、日本の社会、文化等を理解し、日本語を用いてそれらについて議論することができる。	○	◎	◎		○			
コミュニケーションセミナー 日本語4-5B	選択科目 基盤科目	1～4	日本語を通して、日本の社会、文化等を理解し、日本語を用いてそれらについて議論することができる。	○	◎	◎		○			
日本語コミュニケーションA	選択科目 基盤科目	1～4	「相手の話を理解する」「自分の意見を明確に相手に伝える」ために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
日本語コミュニケーションB	選択科目 基盤科目	1～4	「相手の話を理解する」「自分の意見を明確に相手に伝える」ために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
日本語コミュニケーションC	選択科目 基盤科目	1～4	「相手の話を理解する」「自分の意見を明確に相手に伝える」ために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 （◎＝強く関連、 ○＝関連、 △＝やや関連）							
科目名	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し，的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語（英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか）でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5）日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6）異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7）教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8）文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことできる。
日本語コミュニケーションD	選択科目 基盤科目	1～4	「相手の話を理解する」「自分の意見を明確に相手に伝える」ために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
ビジネス日本語コミュニケーション演習	選択科目 基盤科目	3･4	敬語を含む待遇表現や電話応対など、ビジネス場面で必要とされる日本語スキルを修得し、自ら使うことができる。場面に応じた適切な日本語使用の必要性、重要性について認識し、日本語を適切に使用することができる。	◎	◎			○		○	
キャリア実践演習A	選択科目 基盤科目	2～4	日本の就職活動への理解を深め、必要な準備について学習することで、卒業後のキャリア目標を設定できる。講義・個人ワーク・グループワークを通じて、「目指したい自分」や「働きたい企業」を見つけることができる。	◎	◎	△		○		○	○
キャリア実践演習B	選択科目 基盤科目	2～4	日本の就職活動で求められるスキルを実践を通して身につけることができる。エントリーシートの書き方、集団、個人面接のスキル、筆記試験についての対策などを行うことができる。	◎	◎	△		○		○	○
諸言語特別演習A	選択科目 基盤科目	2～4	異文化コミュニケーション学部で常に学ぶことができる言語以外の外国語を集中的に学び、様々な言語の知識を身につけ、それを自ら使うことができるようになる。同時に、言語の背景にある文化的知識を学び、それを説明し、受容することができる。	△	△	◎	◎				○
諸言語特別演習B	選択科目 基盤科目	2～4	異文化コミュニケーション学部で常に学ぶことができる言語以外の外国語を集中的に学び、様々な言語の知識を身につけ、それを自ら使うことができるようになる。同時に、言語の背景にある文化的知識を学び、それを説明し、受容することができる。	△	△	◎	◎				○
サービスラーニングA	選択科目 基盤科目	1～4	地域連携活動としての豊島区内の中学校および本学内における現場での入り込みによる支援や学習サポートを通して、異なる生活や文化などさまざまなバックグラウンドをもつ生徒との交流を実践することで、異文化社会そのものの理解や自己のコミュニケーション能力を身につけることができる。	○	◎	◎	○	◎	△	◎	◎
サービスラーニングB	選択科目 基盤科目	1～4	地域連携活動としての豊島区内の中学校および本学内における現場での入り込みによる支援や学習サポートを通して、異なる生活や文化などさまざまなバックグラウンドをもつ生徒との交流を年間にわたり実践することで、異文化社会そのものの理解や自己のコミュニケーション能力を身につけることができる。	○	◎	◎	○	◎	△	◎	◎
サービスラーニングC	選択科目 基盤科目	1～4	多様な国からの学生と共に地域連携活動として行っている豊島区内の小中学生対象の英語活動を通して、自己のコミュニケーション能力を高めるとともに、生徒の年齢や学習段階等を考慮に入れた言語活動、また、異文化コミュニケーションの実践の場としての活動を企画、体験し、理論と実践を結び付けることができる。	○	◎	◎	◎	○	△	◎	◎
海外フィールドスタディA	選択科目 基盤科目	1～4	海外のフィールドにおいて、異なる生活や文化、その国が抱える社会問題などを体験を通じて理解し、受容することができる。そしてその国の人々との交流、対話、協働を通し、異文化社会における自己のコミュニケーション能力を身につけることができる。	○	◎				△	◎	◎
海外フィールドスタディB	選択科目 基盤科目	1～4	海外のフィールドにおいて、自らの専門性を土台にしながら社会の諸問題に実践的に取り組むことを通して、ある課題の解決／改善に取り組むプロセスを組み立て実行できるようになる。そしてその国の人々との交流、対話、協働を通し、異文化社会における自己のコミュニケーション能力を身につけることができる。	○	◎				◎	◎	◎
国内フィールドスタディA	選択科目 基盤科目	1～4	国内のフィールドにおいて、困難な状況を生きる人びとへの共感力を培うことができる。国際協力の課題を海外の他者の課題として考えるのではなく、日本の課題と海外の課題のつながりとして理解することができる。	○	◎				◎	◎	◎
国内フィールドスタディB	選択科目 基盤科目	1～4	国際協力の課題を一方的な支援として解決するのではなく、双方向に協力して解決する思考を身につけることができる。	○	◎				◎	◎	◎
海外インターンシップ(CIC) A	選択科目 基盤科目	1～4	Zoomを利用したオンラインによる日本語教育実習を行い、海外における日本語教育の現場への理解を深めると同時に、「オンラインによる日本語指導、学習者対応についての事前学習⇒実際の学生に指導⇒振り返り」を行うことで、実践的教授スキルを身につけることができる。	○	○	○	◎	◎		◎	○
海外インターンシップ(CIC) B	選択科目 基盤科目	3･4	海外の大学をフィールドにした日本語教育実習を行い、海外における日本語教育の現場への理解を深めると同時に、教案、教材作成を行ったうえで、実際の学生に授業を行い、振り返りを行うことで、実践的な日本語教育を行う力を身につけることができるようになる。	○	○	○	◎	◎		◎	○
インターンシップ	選択科目 基盤科目	1～4	企業やNGO、公的機関において、実務の中で自らの知識やスキルを実践的に用いる経験を通して、社会人・職業人としての基礎知識や心構えを身につけることができる。さらに、自らの職業適性や将来の職業選択について具体的に考える機会を持ち、それを自らの卒業後の進路決定に役立てることができる。	◎	◎	△					
海外留学研修A	選択科目 基盤科目	2･3	英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語いずれかの言語圏への留学を通して、当該言語の語学力を高めるとともに、異文化対応能力を身につけ、それを自ら使うことができる。異文化を自ら経験することを通して、異文化理解や異文化コミュニケーションの価値を認識し、感じることができる。		◎	◎				◎	○
海外留学研修B	選択科目 基盤科目	2･3	英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語いずれかの言語圏への留学を通して、当該言語の語学力を高めるとともに、異文化対応能力を身につけ、それを自ら使うことができる。異文化を自ら経験することを通して、異文化理解や異文化コミュニケーションの価値を認識し、感じることができる。		◎	◎				◎	○
海外留学研修C1	選択科目 基盤科目	2･3	英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語いずれかの言語圏への留学を通して、当該言語の語学力を高めるとともに、異文化対応能力を身につけ、それを自ら使うことができる。異文化を自ら経験することを通して、異文化理解や異文化コミュニケーションの価値を認識し、感じることができる。		◎	◎				◎	○
海外留学研修C2	選択科目 基盤科目	2･3	英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語いずれかの言語圏への留学を通して、当該言語の語学力を高めるとともに、異文化対応能力を身につけ、それを自ら使うことができる。異文化を自ら経験することを通して、異文化理解や異文化コミュニケーションの価値を認識し、感じることができる。		◎	◎				◎	○
Japan Studies Program A	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
Japan Studies Program B	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 （◎＝強く関連、 ○＝関連、 △＝やや関連）							
科目名	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語（英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか）でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5）日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6）異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7）教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8）文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことできる。
Japan Studies Program C	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
Japan Studies Program D	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
Japan Studies Program E	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
Japan Studies Program F	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
Japan Studies Program G	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
Japan Studies Program H	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
Japan Studies Program I	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
Japan Studies Program J	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
Japan Studies Program K	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
Japan Studies Program L	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
言語研究調査法	選択科目 基盤／専門科目	2～4	言語研究を行う際に必要となるツールや、調査・実験の計画方法、データの処理や分析方法などについて学び、自らの調査や研究に応用することができる。質的分析・量的分析の特徴を理解し、言語の諸現象について論理的に説明することができる。	◎	△		○			○	
異文化トレーニング演習	選択科目 基盤／専門科目	2～4	文化背景を異にする人々が円滑にコミュニケーションを行うために開発された異文化研修プログラムの体験学習を通して、異文化コミュニケーション能力を養い、あわせて異文化トレーニングプログラムの計画や実践の基礎的能力を身につけ、それを自ら使用することができる。	○	◎	○	△	◎	◎	◎	◎
コミュニケーション研究調査法	選択科目 基盤／専門科目	2～4	多様なアプローチからのコミュニケーション研究方法論の基本的な考え方や、強みと限界について説明することができる。さらに、卒業研究のテーマに適切な研究方法を選び、それにしたがって研究を進めることができるようになる。	◎	△	△	△	△	◎	○	△
フィールドワーク	選択科目 基盤／専門科目	2～4	対象となる人々の生活に参加しつつ他者の「ものの見方」を理解しようとするという、独特の研究方法であるフィールドワークについての基本的知識を獲得するとともに、その方法を実習を通して理解し、自分の研究に活用できるようになる。	○	◎				◎	◎	○
言語学概論 Introduction to Linguistics	選択科目 基礎科目	1～4	言語の構造と機能に関する基礎知識を持ち、身近な言語現象に関して言語学的な観点から説明することができる。言語の多様性について理解し、母語や学習している言語、その他様々な言語の特徴を対比してその違いと共通点について考えることができる。	◎	○						
英語学概論 Introduction to the Study of English	選択科目 基礎科目	1～4	英語の仕組みと運用の諸相について、日本語と対比することができる。英語コミュニケーションの理解を深め、自ら使うことができる。特に世界語としての英語のバラエティについて学び、分析することができる。異文化・異言語の人々とのコミュニケーションをはかるために必要な英語力について認識を高め、それを自ら使用することができる。また、授業内レポートや課題図書レポートのディスカッションやプレゼンテーションを通して、内容を批判的に考察し、意見を述べることができる。	◎	◎	○	○		○		○
日本語学概論A	選択科目 基礎科目	1～4	日本語を母語としない人々に日本語を教える際に必要な日本語の特色を理解し、説明することができる。音声、音韻、文法など様々な日本語の特徴を知り、他の言語と比較することができる。	○	○				○	○	
日本語学概論B	選択科目 基礎科目	1～4	日本語を母語としない人々に日本語を教える際に必要な日本語の特色を理解し、説明することができる。語彙、文字表記、語用論的規範など様々な日本語の特徴を知り、他の言語と比較することができる。	○	○				○	○	
通訳翻訳学概論 Introduction to Translation and Interpreting Studies	選択科目 基礎科目	1～4	異言語・異文化間コミュニケーションにおける仲介行為としての通訳翻訳という視点から、現代社会における通訳翻訳のさまざまな実践状況および主要な課題について理解し、説明することができる。通訳翻訳研究における基本的な用語と概念を理解し、説明することができる。	△				○	△	○	○
コミュニケーション研究概論 Introduction to Communication	選択科目 基礎科目	1～4	コミュニケーションにかんする基礎的な理論およびモデルを理解し、説明することができる。同時に、コミュニケーション学と隣接分野との共通点や相違点を理解し、説明することができる。日常的に行っているコミュニケーションを以前とは異なった視点で観察したり、より自覚的にコミュニケーションに向き合えるようになる。	○	○				◎		◎
異文化コミュニケーション概論 Introduction to Intercultural Communication	選択科目 基礎科目	2～4	（異）文化の概念を単なる国民国家の枠組みで捉えることなく、「我々」と「彼ら」の境界線はどのような文脈で立ち上がってくるのかという視点で、多角的に異文化コミュニケーションの諸相を説明することができる。言語と非言語、コミュニケーション実践と意味付け、アイデンティティ、ステレオタイプ、異文化適応などをテーマに、異文化コミュニケーションの基本概念や理論について理解し、説明することができる。	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 （◎＝強く関連、 ○＝関連、 △＝やや関連）							
科目名	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し，的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語（英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか）でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5）日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6）異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7）教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8）文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことできる。
メディアコミュニケーション概論 Introduction to Media Communication	選択科目 基礎科目	1～4	マスメディアやソーシャルメディアなど様々なメディアを媒介としたコミュニケーションの特徴を理解し、説明することができる。現代社会におけるメディアを媒介としたコミュニケーションの役割や可能性について多角的視点から考察できるようになる。自らもメディア（とりわけソーシャル・メディア）の参加者の一人としてメディアにより自覚的にかかわることができるようになる。	○	◎				◎	○	○
国際協力・開発学概論 Introduction to International Development and Cooperation	選択科目 基礎科目	1～4	国際協力の基本的な考え方と方法、および日本が国際協力を展開するようになった経緯を理解することができる。身近なことから国際協力が実践できることを発見し、学生として何ができるかを具体的に考えることができる。	○	○				◎	○	○
文化人類学概論 Introduction to Cultural Anthropology	選択科目 基礎科目	1～4	人間の文化についての総合的学問である文化人類学の基本的知識を獲得し、その目的と意図を理解し、説明することができる。また、文化人類学的な思考法を身につけ、周囲の社会現象を把握する際に活用することができる。	○	◎		△	△	◎	○	◎
カルチュラル・スタディーズ概論 Introduction to Cultural Studies	選択科目 基礎科目	1～4	様々な文化的表現（文学、音楽、メディア等）がどのように社会と結びついているかを考えようとする学際的な領域であるカルチュラルスタディーズについて基本的理解を獲得し、説明することができるようになる。また、周囲に存在する様々な文化的表現を社会的な問題と結び付けて把握することができるようになる。	○	◎				◎	○	◎
グローバル化とジェンダー Globalization and Gender	選択科目 基礎科目	1～4	グローバル化している現代社会における新たなジェンダーの概念と男女関係の変化、そして、「フェミニズム」という社会運動を多文化主義の観点から理解し、説明することができる。グローバル文化やメディア・テキストが生産、拡大、正当化する性差別と偏見、またはグローバル化によって瓦解する伝統的なジェンダー規範と役割、性抑圧的な人間関係を社会的・歴史的背景とともに分析することができる。	○	○		○		◎		◎
国際協力・紛争研究概論	選択科目 基礎科目	1～4	国際紛争、地域紛争を理解するための基本的概念と基礎知識を獲得することができる。武力紛争により困難な状況を生きる人びとに対する共感力を身につける。	○	○				◎	○	○
人間環境概論	選択科目 基礎科目	1～4	現代世界が抱える環境、文化、人権、ジェンダーなどをめぐる諸問題を理解した上で、未来に向けて、人間と周囲の自然環境、人間と人間の関係の持続可能なあり方を探るための考察力や問題解決能力を身に着けることができる。	○					○	○	◎
多文化共生概論	選択科目 基礎科目	1～4	日本における多文化共生の実践例を学ぶ。多文化共生の実践現場における現状を課題を知ることにより、具体的に解決策を模索できるようになる。多様な背景をもつ他者とどのように共存できるかについて考察を深める。		○		○	○	○	○	◎
グローバル化と宗教	選択科目 基礎科目	1～4	宗教・信仰が人々の生活とどのように結びついているかを学び、それを踏まえ文化圏を超えて拡がった宗教が、各地に根付く過程で経た変容と、受容側の社会、生活、文化に与えた影響について考察し、説明できる。また、グローバル社会における宗教のあり方について、具体的な事例の分析を通じ、自分の考えを述べることができる。	○	◎		△		△	△	◎
視覚芸術概論	選択科目 基礎科目	1～4	美術、舞台芸術、映像等の視覚に関わる幅広い芸術の諸領域を対象とする。さまざまな時代・作家・作品について、その表現の特性や固有性知り、歴史的・社会的・文化的背景等を考慮しながら分析することができる。また、多角的な視点から自分の考えを述べることができる。	◎	△	○	△			○	◎
音楽学概論	選択科目 基礎科目	1～4	音楽の歴史的変遷を学び、社会的・思想的・文化的関わりを多角的に考察する。音楽がなぜ音楽としてなりたつのか、人は何を音楽と認識するのか、多様な解釈を学び、自ら考える力を修得する。	◎	○	△	△			○	◎
コンピュータ・リテラシー	選択科目 基礎科目	1～4	言語教育および言語研究に必要なコンピュータ・スキルを学び、使うことができる。具体的には、基本的なソフトウエアが使いこなせるようになるとともに、学生管理や教材開発、データの分析などに必要なソフトウエアの使い方、その知識を身に着け、実際に必要な場面で活用できるようになる。	△					○	○	○
心理言語学	選択科目 専門科目	2～4	Students will examine and be able to explain the study of how humans comprehend, represent, and acquire language. Students will analyze and be able to illustrate the cognitive, social, and neural processes involved in language use.	○	○					△	
社会言語学	選択科目 専門科目	2～4	ことばと文化・社会の関係について学ぶ。文化の違いによる言語運用の特徴、社会変化による言語変化、話者の社会化による言語発達、話者の属性や場面による言語運用の多様性などについて、言語実態や言語意識の調査・分析を学び、ことばの働きに対する洞察力を養い、身近な言語現象を社会言語学的視点で考察することができるようになる。	◎	○	△	○	○	○	◎	◎
認知言語学	選択科目 専門科目	3・4	人間が事象をどのように意味づけ、切り取り、環境世界を構築してゆくかという認知プロセスは、ことばに何らかの形で反映されているということを理解する。我々が世界をどのように分類し、概念化するかの仕組みを、ことばの中に表れるメタファー、プロトタイプ、図と地、視点、構文等の現象を手がかりに分析し、語ることができる。	◎	○						
語用論	選択科目 専門科目	2～4	言語使用の認知的・社会的・文化的側面についてより深く理解し、説明することができる。場面に応じた適切な言語使用とは何かについて考察し、言語コミュニケーションの意義を認識し、自ら事象にあてはめ分析することができる。	◎	◎	○	○		○		○
文化記号論	選択科目 専門科目	2～4	記号論的な視点を学びながら、様々な文化現象を記号とみなす試みを考察し、記号とは何か、意味とは何か、文化とは何か、といった問題を検討することによって、論理的・批判的思考能力を養い、自らそれらを使用して意見を述べることができる。	◎	○				○		○
第１言語習得理論	選択科目 専門科目	2～4	主に発達心理学、言語心理学、認知言語学、認知心理学、生成文法などの分野の、言語の獲得にかかわる基本的理論を理解し、説明することができる。人間が第一言語を習得する過程を、音声、語彙、統語、コミュニケーションなど各側面について理解し、実際のデータを用いて分析することができる。	◎		△	○	○		○	△
第２言語習得理論	選択科目 専門科目	2～4	第2言語習得のメカニズムについて理解し、述べることができる。第2言語習得の理論構築の歴史を概観しながら代表的な理論やモデルについて説明することができる。さらに、最新の第2言語習得研究の動向を常に意識し、それらの内容について正確に理解し、自らの研究へと発展させることができる。	◎	○		○			○	
バイリンガリズム研究	選択科目 専門科目	2～4	バイリンガリズム（二言語併用）について、言語学・心理学的視点および教育学的視点から理解することができる。二言語併用者の言語能力、言語習得ならびに言語使用の特徴、知能や思考・認知能力、バイリンガル教育の種類や方法、効果などについて理解し、具体的事例を挙げながら説明することができる。	◎	○	△	◎	◎	○	○	○

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 （◎＝強く関連、 ○＝関連、 △＝やや関連）							
科目名	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し，的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語（英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか）でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5）日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6）異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7）教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8）文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことできる。
英語教育学	選択科目 専門科目	2～4	そもそも英語とはどのような言語なのか、なぜ世界の共通語になったのか、日本人は歴史的に英語とどのように接して来たのか、世界にはどのような英語教授法があるのか、日本にとって英語はどのような言語であり、戦後はどのようにして教えられてきたのか、ヨーロッパではどのようにして英語を教えているのか、日本の英語教育の問題点は何か、今後の日本の英語教育はどのように変わるのか、など根源的な事柄について理解できる			○	◎	○		○	◎
英語コミュニケーション教育学	選択科目 専門科目	2～4	英語によるコミュニケーションを想定した多面的な言語活動のための教授法を理解・習得して授業に活かすことができる。英語クラスにおけるコミュニケーション活動練習のための授業案を書き、それに基づいて授業の準備をし、実際に教えることができる。	◎	◎		◎		◎	◎	◎
英語科教育研究	選択科目 専門科目	3･4	英語教育はどのような学問領域から成り立っているのか、英語はこれまでどのように教えられてきたのか、コミュニケーション中心の教え方とはどのようなものなのか、今後日本では英語をどう教えるべきか、教員の役割とは何か、学習者はどう学習しているのか、語彙や文法とは何か、どう教えるべきか、教材はどのようにして作られているのか、どのように教科書で英語を教えればよいのか、などが理解でき、実践できるようになる。				◎	○		◎	○
外国語教育評価論	選択科目 専門科目	2～4	言語テストの種類、測定方法、測定尺度、テストの信頼性と妥当性などを理解し、説明することができる。得られたデータを分析・解釈する手法を身につけ、それを自ら使うことができる。	○	△		○			○	
日本語学特論	選択科目 専門科目	3･4	外国語、第2言語、継承語としての日本語を巡る様々なトピックを学ぶことにより、日本語を母語としない人々に日本語を教える際に役立つ知識を身につけ、それを実際の教育に用いることができる。	○	○		○	○		○	○
日本語教授法A	選択科目 専門科目	2～4	母語ではなく1つの言語としての日本語の諸特性を理解し、説明することができる。日本語を母語としない人に日本語をどう効果的に教えるかを理解し、具体的に述べることができる。教材分析、教授法の比較、教案作成、問題作成などをすることができる。	○	○		◎	◎		◎	○
日本語教授法B	選択科目 専門科目	3･4	外国語として日本語を教える現場にはどのような課題が存在するのかについて学び，実践的にその課題に取り組み，問題を解決していく方法を知り，それが使えるようになる。多様な学習者のニーズに対応する方法やストラテジーについて学び，実際に支援ができる。言語政策の観点から日本語教育について考えることができる。	○	○		◎	◎		◎	○
日本語教育実習	選択科目 専門科目	3･4	具体的な学生のレベルを想定し、教材作成、教案作成をすることができる。学生間での模擬授業を経て、最終的には実際の学生に授業を行い、その結果を相互で評価し、個々人の教授スキルを改善することができる。	○	○	○	◎	◎		◎	○
コミュニケーション文法	選択科目 専門科目	2～4	英語における各種文法構造が、実際のコミュニケーションの場面（フォーマルvsインフォーマル、書き言葉vs話し言葉等）や変種においてどのように異なるかについて語用論的、社会言語学的、文法論的観点から理解できる。自然発話や書き言葉コーパス等のデータの分析に基づき、その変化や違いについて理論的に説明できる。	◎	◎	○	○		○		○
言語研究特論	選択科目 専門科目	2～4	言語学で学んだことなどを発展させながら、言語哲学や神経心理学・失語症研究といった分野で論じられている様々なトピックの議論を通じて、言葉・心・脳の関係について考察する。	◎	○		△			○	△
通訳入門	選択科目 専門科目	2～4	アクティブリスニング、パブリックスピーキング、ノートテイキングなしの通訳、ノートテイキングに関する初歩的なスキルを習得し、簡単なスピーチを逐次通訳することができる。通訳学の基本的な概念や理論を理解し、説明できる。	△		◎		◎	△	○	◎
逐次通訳	選択科目 専門科目	2～4	ノートテイキングをもとに一般的な内容のスピーチを正確に逐次通訳することができる。やや専門的なスピーチの通訳の準備を効果的・効率的に行うことができる。通訳学の理論や研究成果を参照しながら、自律的な通訳練習が行える。	△		◎		◎	△	○	◎
同時通訳入門	選択科目 専門科目	3･4	準備をもとに、専門的な内容のスピーチを正確に逐次通訳することができる。同時通訳における基本的方略を学び、準備をもとに、一般的な内容のスピーチを同時通訳することができる。通訳学の理論や研究成果を参照しながら、他の学生や自らの通訳パフォーマンスの評価ができる。	△		◎		◎	△	○	◎
翻訳入門	選択科目 専門科目	2～4	翻訳学の基本的な用語、概念、理論を理解し、説明できる。一般的な内容のテクストを分析し、コミュニケーションの目的に合わせた方法に基づき、目標言語に翻訳することができる。基本的な翻訳ツールの使用法について理解し、説明できる。	△		◎		◎	△	○	◎
翻訳応用実践1	選択科目 専門科目	2～4	ビジネス翻訳、字幕翻訳、ニュース翻訳など特定専門領域の翻訳実習を通して、各領域で必要な知識やスキルについて理解し、説明できる。基本的な翻訳ツールを使用できる。翻訳学の理論や研究成果を参照しながら、他の学生や自らの翻訳の評価ができる。	△		◎		◎	△	○	◎
翻訳応用実践2	選択科目 専門科目	3･4	技術翻訳など特定専門領域の幅をさらに広げた翻訳実習を通して、各領域に必要な知識やスキルの習得方法について理解し、説明できる。翻訳プロジェクト管理における基本的な用語や概念を理解し、小規模の翻訳プロジェクトを管理できる。初歩的な翻訳エディティングができる。	△		◎		◎	△	○	◎
通訳翻訳実習	選択科目 専門科目	3･4	通訳翻訳クラス内で習得した知識とスキルをもとに、グループまたは個人で地域や学内における実際の通訳・翻訳プロジェクトに取り組むことで、コミュニケーションの仲介者としての役割を果たし、依頼者、ユーザー、同僚と効果的な意思疎通ができる。	△		◎		◎	△	◎	◎
通訳翻訳と多文化社会	選択科目 専門科目	1～4	行政、福祉、医療、司法の場における音声および手話通訳の現状を学ぶことによって、多文化多言語社会におけるコミュニケーションの課題について理解し、説明することができる。	○				○	◎	○	○
通訳翻訳の歴史	選択科目 専門科目	1～4	通商、外交、紛争、植民統治、布教など歴史におけるさまざまな異文化・異言語接触の状況で通訳者・翻訳者が果たした役割とその現代的意義について理解し、説明できる。	○				○	◎	○	○
非言語コミュニケーション論	選択科目 専門科目	1～4	非言語コミュニケーションに関する理論や概念を用いて、実際のコミュニケーションにおける非言語メッセージの特性・機能・意味を説明できるようになる。また、実際のコミュニケーション状況において、非言語コミュニケーションをより多角的に観察したり、自覚的に実践したりできるようになる。	◎	◎	△	△	○	○	◎	○
異文化コミュニケーション特論A	選択科目 専門科目	2～4	文化・人・コミュニケーションの関係を軸に、社会的問題のみならず、常識の範疇で捉えられてきたような現象にも目を向け、その背後にある構造をミクロとマクロの視点から読み解き、説明することができる。異文化コミュニケーションに関わる具体的なテーマ（例えば、日本社会における多文化共生の実践など）を取り上げ検証することで、異質性といかに向き合うかについて考え理解を深め、議論することができる。	◎	◎	△	△	○	◎	◎	◎

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 （◎＝強く関連、 ○＝関連、 △＝やや関連）							
科目名	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し，的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語（英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか）でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5）日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6）異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7）教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8）文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことできる。
異文化コミュニケーション特論B	選択科目 専門科目	2～4	文化・人・コミュニケーションの関係を軸に、社会的問題のみならず、常識の範疇で捉えられてきたような現象にも目を向け、その背後にある構造をミクロとマクロの視点から読み解き、説明することができる。異文化コミュニケーションに関わる具体的なテーマ（例えば、日本社会における多文化共生の実践など）を取り上げ検証することで、異質性といかに向き合うかについて考え理解を深め、議論することができる。	◎	◎	△	△	○	◎	◎	◎
対人コミュニケーション論	選択科目 専門科目	3･4	対人関係に密接に関わっているコミュニケーションについて、日常生活でみられる身近な現象をもとに考えることができる。自己、他者、アイデンティティ、自己開示、帰属意識、ステレオタイプなど対人コミュニケーションに関わる基礎概念を学び、友人間、家族間、世代間、異性間、医師／患者間など、様々な人間関係にコミュニケーションがどのように関与しているか理解を深め、自らの言葉で説明することができる。	◎	◎	△	△	◎	◎	◎	◎
集団コミュニケーション論	選択科目 専門科目	3･4	集団コミュニケーション研究において鍵となる用語・概念・理論の学習や、ケース・スタディを通して、集団コミュニケーションに対する理解を深め、説明することができる。具体的には、集団内の人間関係、役割、交渉などの側面に焦点を当て、集団内及び集団間コミュニケーションの実態や問題点を自ら考え、語ることができるようになる。	◎	◎	△	△	◎	◎	◎	◎
説得コミュニケーション論	選択科目 専門科目	3･4	説得コミュニケーション研究において鍵となる用語・概念・理論の学習や、ケース・スタディーを通して、説得コミュニケーションに対する理解を深め、説明することができる。具体的には、「コミュニケーションが社会で持つ力」や「力がコミュニケーションに与える影響」など説得をめぐる諸問題について考え、討議することで、説得コミュニケーションにより自覚的にかかわることができるようになる。	◎	◎				◎	○	◎
グローバル社会とコミュニケーション	選択科目 専門科目	3･4	グローバル化が進む現在において私たちが直面しているコミュニケーションを巡る諸々の問題や課題を分析・討議することで、現代社会における国境を越えた交流について多角的な視点から考察できるようになる。	◎	◎	○	△	◎	◎	◎	◎
コミュニケーション･テクノロジーと社会	選択科目 専門科目	3･4	コミュニケーション・テクノロジーが歴史的にどのように発達し、どのような変化を社会にもたらしたのかを理論と事例研究の双方から理解し、説明することできる。また、テクノロジーが私たちのコミュニケーションのあり方に及ぼす（及ぼしうる）影響についても多角的な視点から考察できるようになる。	◎	◎				◎	○	◎
コミュニケーション特論	選択科目 専門科目	2～4	コミュニケーションに関係する特定のトピックに焦点を当て、コミュニケーション学の立場から掘り下げて考察していくことによって、地域的アイデンティティー、エスニシティー、ジェンダー、セクシュアリティーなど、様々な社会文化的領域に位置づけられる現象とコミュニケーションとの関わり、特にコミュニケーションがそれらをどのように作り出しているのかについて的確に理解し表現することができる。	○	○				◎		○
グローバル文化研究特論	選択科目 専門科目	2～4	グローバル化における「文化」の機能について理解し、説明することができる。また、文化圏を超えて提供される「グローバル文化」の生成及び各地での受容とその影響について、具体例を用いて分析し、考察することができる。	○	◎		△			△	○
カルチュラル・スタディーズ特論	選択科目 専門科目	2～4	文化の国境を越えた移動によって起きる混交・流用・発明がどのような文化的多様性を生み出しているか、また文化の生成がどのように民族的・人種的・階級的アイデンティティの構築に結びついていくかを、カルチュラルスタディーズの観点から理解し説明できるようになる。	○	◎				◎	○	◎
グローバル化と思想	選択科目 専門科目	2～4	テクノロジーの発展とともにヒト、モノ、カネ、思想などが飛躍的な速度で行き交うようになったプロセスを学びながら、近代化以降の世界の実情を、その肯定的側面と否定的側面を思考する可能性を含めて、相互影響と受容の観点から多角的に考察することができる。	○			○		◎		◎
宗教と文化	選択科目 専門科目	3･4	異文化間のコミュニケーションを行うために欠かすことができない、目に見えない世界との交信、超越的な力、神（神々）の存在を含む「宗教」についてその全体像を理解し、宗教文化の意義や意味を知ることができる。	○	○				○		◎
エスニシティとナショナリズム	選択科目 専門科目	2～4	近代民族国家の形成とともに時代的背景をもって生み出されたナショナリズムと、その展開に関連しつつ、社会の内外に形成された諸集団の集団的自己認識としてのエスニシティのあり方、および相互関係を学ぶことができる。そこから社会の少数者を尊重する意義を学び取ることができる。	◎	◎			◎	○	○	◎
人と移動	選択科目 専門科目	2～4	国境にとらわれない前近代の時代の人の移動から、国境にとらわれざるをえない時代の移動までを視野に入れ、移動の要因がどのように生み出されてきたかを、侵略、植民地支配、内戦、紛争や様々な経済的背景に至るまで広い視野を持って知り、そこで生まれる特徴的な文化・社会の営みについて学ぶことができる。	◎	◎			◎	○	○	◎
言語文化論	選択科目 専門科目	2～4	ある国や地域の人々が言葉によって培ってきた思想や文化を鑑賞・分析することによって、人間の営みの多様性を理解し、自文化を相対化する視点を獲得することができる。また、言語や文化の衝突や受容が生み出す諸問題や創造性を理解し、考察できる。	○	◎	△	◎	○	○	○	◎
グローバル化と言語	選択科目 専門科目	3･4	国家や地域、民族の文化的アイデンティティの基盤としての言語が、政治的・歴史的に構築されてきた過程について理解し、説明することができる。グローバル化に伴って変容する言語とアイデンティティ（言語権、ナショナリズムなど）の関係等、近・現代の言語・民族・国家をめぐる諸問題について、分析、考察することができる。	◎	○		◎	◎	○	○	○
多文化共生特論	選択科目 専門科目	2～4	さまざまな文化の並立する世界を認識し、文化の差異によってもたらされる現象を具体的に述べることができる。また、多元的で異なる文化が互いに尊重されながら共生するための方策について、客観的に論じることができる。	○	◎		◎	○	◎	○	◎
国際協力・開発学特論	選択科目 専門科目	2～4	グローバル化する現代世界が抱える戦争、貧困、環境破壊、性の格差などの諸問題に対して、国際協力や国際開発学がどのように向き合い、問題解決を図っているのか、さらには、そこに、どのような構造的課題があるのかを理解することができる。	○	○				◎	○	◎
国際協力・紛争研究特論	選択科目 専門科目	2～4	世界各地の地域紛争の具体例を学ぶことを通じ、多様かつ複雑な紛争の要因を理解することができるようになる。国際社会が地域紛争に対してどのような役割を果たし、協力ができるのかについて、考察を深める。	○	○				◎	○	○
自然共生特論	選択科目 専門科目	2～4	人間を取り巻く自然環境と人間が築き上げてきた文化をめぐる関係をどのように理解すればいいのかに関して、見取り図を手に入れて、考察するための能力を身に着けることができる。	○	◎						△
人間環境特論	選択科目 専門科目	2～4	人間の安全を、国家や社会との関係だけではなく、それが成り立つ自然環境を含めて理解できるようになる。個人や社会の安全を軍事や政治社会の側面からのみ捉えるのではなく、環境破壊、災害、感染症、テロなど国境を越える脅威からいかに確保できるのかについて包括的に考察する。	○	○				◎		○

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 （◎＝強く関連、 ○＝関連、 △＝やや関連）							
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語（英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか）でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5）日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6）異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7）教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8）文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことできる。
間文化研究A	選択科目 専門科目	2～4	さまざまな文化の交流や衝突、あるいは融合といった現象を具体例に則して学び、説明することができる。文化の変容のあり方を多角的に理解し、自ら意見を述べることができる。	◎	◎		○	○	◎	○	◎
間文化研究B	選択科目 専門科目	2～4	さまざまな文化の交流や衝突、あるいは融合といった現象を具体例に則して学び、説明することができる。文化の変容のあり方を多角的に理解し、自ら意見を述べることができる。	◎	◎		○	○	◎	○	◎
音楽学特論	選択科目 専門科目	2～4	音楽の歴史的変遷を学び、社会的・思想的・文化的関わりを具体的に考察する。音楽のしくみを根源から理解するとともに、個と全体の関係性や、普遍性と独創性のせめぎ合いについて、他分野の方法や価値観と照らしつつ理論化する。	◎	○	△	△			○	◎
視覚芸術特論	選択科目 専門科目	2～4	美術、舞台芸術、映像等の視覚に関わる幅広い芸術の諸領域を対象とする。さまざまな時代・作家・作品について、文化・社会・政治・ジェンダー等の視点から深く探究し、多様な方法論を知るとともに、自ら多角的な視覚的な芸術の分析や考察ができる。	◎	○	△	△			○	◎
英語圏文学論	選択科目 専門科目	2～4	英語圏の文学について学び、詩、小説、戯曲などに表現される人間の営みについて考えることにより、その地域への理解を深め、文学を批評的に分析し論じることができるようになる。	○	○						
グローバル研究調査法	選択科目 専門科目	2～4	グローバル文化研究、国際協力・開発学、サステナビリティー学の研究を進めるために、文化の境界を越えて行われる調査研究には何が必要であるのかという課題を含めて、調査の手法について学び、身に着けることができる。	○	○				◎	◎	○
Special Topics in ICC A	選択科目 専門科目	1～4	「言語研究」「通訳翻訳研究」「コミュニケーション研究」「グローバル研究」における特定のテーマについて深い知識を獲得し、英語で自らの意見を述べたり、討議をすることができる。	◎		○	○		◎		◎
Special Topics in ICC B	選択科目 専門科目	1～4	「言語研究」「通訳翻訳研究」「コミュニケーション研究」「グローバル研究」における特定のテーマについて深い知識を獲得し、英語で自らの意見を述べたり、討議をすることができる。	◎		○	○		◎		◎
Special Topics in ICC C	選択科目 専門科目	1～4	「言語研究」「通訳翻訳研究」「コミュニケーション研究」「グローバル研究」における特定のテーマについて深い知識を獲得し、英語で自らの意見を述べたり、討議をすることができる。	◎		○	○		◎		◎
Teaching English to Speakers of Other Languages : Basic Principles	選択科目 専門科目	2～4	Students will understand and be able to explain the origins of and primary influences on modern-day TESOL contexts. Students will be able to distinguish and illustrate the differences among approaches to TESOL. Students will consolidate the course content to produce a solid belief in how to approach a TESOL classroom.	○	○		△			◎	△
Motivation in Language Learning	選択科目 専門科目	2～4	Students will understand and be able to explain the different components of motivation and explain their influence on language learning and language teaching. Further, students will be able to identify the antecedents of achievement motivation development, how they are related to a learner's choices and persistence, and the effects of parents, teachers, and peers.	◎	◎		△			◎	△
Intercultural Communication in the Language Classroom	選択科目 専門科目	2～4	Students will understand and be able to explain the incorporation of intercultural communication in a language learning classroom. Students will be able to identify the roles of the teacher, learners, and course materials regarding the incorporation of intercultural communication and the practical implications of doing so.	◎	◎		◎	○	○	◎	○
Communication and Citizenship	選択科目 専門科目	2～4	市民概念の形成、市民社会の変遷、シティズンシップ教育等におけるコミュニケーションの役割を理解し、説明することができる。コミュニケーションの理論・方法を援用しながら、市民運動や市民権をめぐる論争等を多角的に分析することができるようになる。自らも一人の市民としてコミュニケーションにより自覚的にかかわることができるようになる。	○	○	○			◎	○	◎
Orientalism in Media	選択科目 専門科目	2～4	新聞、雑誌、映画、テレビドラマなど、多様な分野やジャンルのメディア・テクストにおける西欧のオリエンタリズムとジャパニズムの背景と影響を分析することができる。中東アジアにとどまらず、アジアや非西欧社会全般にわたって普遍的なものと見なされてる西欧中心的世界観と秩序意識、差別的地域観、常識化された不都合と偏見、オリエンタリズムを批判的に考察することができる。	◎	◎			◎			◎
Transcultural Cinema	選択科目 専門科目	2～4	映画とは、排他的な伝統文化や国境によって決められる民族文化とは異なるトランスカルチャー、又は芸術様式であることを理解し、様々な地域のグローバル社会において制作された映画やフィルム・プラクティスを、共存社会のための文化的実践として考察し、分析することができる。映画に再現されている文化的多様性、地域と国家を越えた普遍的価値、文化的ハイブリッドを批評的に分析し論じることができる。	◎	◎			◎			◎
Contemporary Culture in Japan	選択科目 専門科目	2～4	Students will gain insight into contemporary Japan by exploring the cultural and historical context of social issues such as immigration, gender relations, work patterns, stress, declining birthrate, nuclear power, and environmentalism, as well as cultural topics such as anime, literature, fashion, cinema, and food. Through these topics students will better understand Japan's place in the world and how Japanese culture will adapt to globalization.	◎	○			◎			○
Religion and Society in Asia	選択科目 専門科目	2～4	アジア圏において宗教がどのように諸地域の文化的慣習や人びとの日常生活と結びついているかを理解し、自らの意見を述べることができる。また、日本における様々な信仰や宗教的実践を、アジアにおける宗教文化という幅広い文脈の中で考察し、論じることができる。	○	◎	◎		○			
Japan in Asia	選択科目 専門科目	2～4	Japan's relations with its Northeast Asian neighbors have come to be defined in part by wars of historical interpretation as seen in political exchanges as well as in history textbooks, museums, and social culture. Students will be able to examine these differences in diverse contexts to gain a broader understanding of Japan's modern relations with its Asian neighbors.	○	△		◎		◎		
Ethnicity and Globalization in Japan	選択科目 専門科目	2～4	日本社会におけるグロバリゼーションと人種差別主義、そして、単一民族主義に基づく集団的アイデンティティを考察し、分析することができる。移住労働者と少数民族集団などの人種的マイノリティーが日常生活に感じる疎外感と社会的孤立、主流社会による統合・差別政策、文化的共存に対し多様な立場を見せる社会集団の葛藤と社会調和を模索する過程を分析し論じることができる。	◎	◎			◎			◎
Multiculturalism in Japan	選択科目 専門科目	2～4	多文化共生・多文化主義に関連する理論や概念を用いて、日本社会における多文化的状況について理解するとともに、その課題について多様な側面から考察することができるようになる。	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 （◎＝強く関連、 ○＝関連、 △＝やや関連）							
科目名	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し，的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語（英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか）でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5）日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6）異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7）教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8）文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことできる。
Language Policy and Multilingualism	選択科目 専門科目	2～4	Students will be able to understand language situations and policies in various countries and areas in the world such as official language policy, policy towards minority and immigrants, and foreign language teaching policy. They will be able to explain these policies as well as well as such issues as language conflict, multilingualism, language maintenance, language rights, and endangered languages. Students will be able to deepen their knowledge and understanding of the relationship between language and society/culture.	○	○		○				◎
Social Movements and Social Change	選択科目 専門科目	2～4	Students will be able to apply key models and theories in the study of social movements to analyze and assess the role and impact of social movements in contemporary societies. They will also develop a better understanding of the cultural and communicative dimensions of social movements.	○	○		△		◎	○	◎
Advanced Seminar in Intercultural Communication	選択科目 専門科目	3・4	基礎科目で学んだ内容を踏まえながら、異文化コミュニケーションを巡る諸問題をさらに深く掘り下げて学ぶことで、文化・人・コミュニケーションの関係性を理論的な視野と歴史的な視野の双方を立って考察することができる。	○	○				◎		◎
Language and Identity	選択科目 専門科目	3・4	アイデンティティ形成と言語の関係性を理解するとともに、アイデンティティが構築、表出、交渉される具体的な過程をジェンダー、セクシュアリティ、人種、民族、階級、地域性といった社会的要因と関係づけながら多面的に考察することができる。	○	○		◎				◎
International Organizations and Sustainability	選択科目 専門科目	3・4	Students will be able to understand key theories and conceptual models underlying the analysis of international development and sustainability. They will also develop a better understanding of the emergence, growth, and proliferation of international organizations, the factors that have contributed to their development, and their efforts at local, regional, national, and transnational levels.	○		○			◎	◎	◎
Gender and Communication	選択科目 専門科目	3・4	Students will be able to apply key concepts and theories in gender studies to everyday experiences. They will also develop a deeper understanding of the ways in which particular images of femininity and masculinity and differences between them are constructed, maintained, and challenged through one's body and communication.	○	○	○			◎	○	◎
Globalization and Media	選択科目 専門科目	3・4	Students will be able to engage with various concepts and subjects concerning media theory and global cultural flows and use them to contextualize and parse contemporary global media flows. They will also develop a deeper understanding of the real, imaginary, and symbolic power dynamics that constitute their own media environments.	○		○			◎	○	◎
専門演習1	選択科目 専門演習・卒業研究	3・4	各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで「卒業研究」のテーマを設定することができる。また，「卒業研究」の調査執筆に必要となる基礎的な事項（研究方法など）を獲得することができる。	◎			○		◎		◎
専門演習2	選択科目 専門演習・卒業研究	4	自ら設定したテーマについて研究計画を立て，先行研究文献の調査，研究方法の検討、データの収集・整理など，「卒業研究」の執筆を計画的に進めることができる。	◎			○		◎		◎
専門演習3	選択科目 専門演習・卒業研究	4	自ら設定したテーマについて調査執筆を継続し、期限までに質・量ともに「卒業研究」に求められる基準を十分に満たした成果物を完成させることができる。	◎			○		◎		◎
卒業研究	選択科目 専門演習・卒業研究	4	「言語研究」「通訳翻訳研究」「コミュニケーション研究」「グローバル研究」の中から各自が選択した卒業研究を完成させることができる。	◎			○		◎		◎
卒業課題A	選択科目 卒業課題	4	「言語研究」「通訳翻訳研究」「コミュニケーション研究」「グローバル研究」にかんする幅広い知識や技能を身につけ、異文化コミュニケーション学部を卒業し社会に出るにふさわしい識見を獲得することができる。	◎			○		◎		◎
卒業課題B	選択科目 卒業課題	4	「言語研究」「通訳翻訳研究」「コミュニケーション研究」「グローバル研究」にかんする幅広い知識や技能を身につけ、異文化コミュニケーション学部を卒業し社会に出るにふさわしい識見を獲得することができる。	◎			○		◎		◎
ベーシックセミナーA Basic Seminar A	自由科目	1・2	異文化コミュニケーション学部で学ぶための基礎となる文献読解力、リサーチスキル、批判的思考力を身につけ、論理的な文章を組み立てることができる。また、グループ活動を通して自分の意見を客観的に分析し相手に伝え、他者の意見を積極的に理解していく姿勢を身につけることで、他者と協力的に討議することができる。	◎	◎		△				○
ベーシックセミナーB Basic Seminar B	自由科目	2	異文化コミュニケーション学部で学ぶための基礎となる文献読解力、リサーチスキル、批判的思考力を深化させ、データや論拠を用いながら自らの論を展開したレポートを作成することができる。また、他者と共に調べ、話し合い、学ぶことにより学びの対象への理解を深めるとともに、その成果を論理的かつ効果的に発表することができる。	◎	◎		△				○
Humanities Study1 （History）	選択科目 PEACE選択科目	2～4	人文学に含まれる諸テーマについて、文献資料の読解に基づいて理解を深めるとともに、必要となる研究方法及び研究態度について学び、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○						○
Humanities Study2 （Education）	選択科目 PEACE選択科目	2～4	人文学に含まれる諸テーマについて、文献資料の読解に基づいて理解を深めるとともに、必要となる研究方法及び研究態度について学び、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○						○
Humanities Study3 （Religion）	選択科目 PEACE選択科目	2～4	人文学に含まれる諸テーマについて、文献資料の読解に基づいて理解を深めるとともに、必要となる研究方法及び研究態度について学び、自らの調査や研究に応用することができる。。	○	○						○
Humanities Study4 （Literature）	選択科目 PEACE選択科目	2～4	人文学に含まれる諸テーマについて、文献資料の読解に基づいて理解を深めるとともに、必要となる研究方法及び研究態度について学び、自らの調査や研究に応用することができる。。	○	○						○
Humanities Study5 （Literature）	選択科目 PEACE選択科目	2～4	人文学に含まれる諸テーマについて、文献資料の読解に基づいて理解を深めるとともに、必要となる研究方法及び研究態度について学び、自らの調査や研究に応用することができる。。	○	○						○

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 （◎＝強く関連、 ○＝関連、 △＝やや関連）							
科目名	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し，的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語（英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか）でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5）日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6）異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7）教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8）文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことできる。
Humanities Study6 （Literature）	選択科目 PEACE選択科目	2～4	人文学に含まれる諸テーマについて、文献資料の読解に基づいて理解を深めるとともに、必要となる研究方法及び研究態度について学び、自らの調査や研究に応用することができる。。	○	○						○
Humanities Lecture1 （History）	選択科目 PEACE選択科目	2～4	人文学に含まれる諸テーマについて、講義および指定された学習課題を通じて理解を深めるとともに、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○						○
Humanities Lecture2 （Literature）	選択科目 PEACE選択科目	2～4	人文学に含まれる諸テーマについて、講義および指定された学習課題を通じて理解を深めるとともに、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○						○
Japanese Economy1	選択科目 PEACE選択科目	1～4	関連する理論，概念，用語の検討を通して、主要な日本経済の事象を理解できるようになる。	○	○						○
Japanese Economy2	選択科目 PEACE選択科目	1～4	関連する理論，概念，用語の検討を通して、主要な日本経済の事象を理解できるようになる。	○	○						○
Japanese Economic History 1	選択科目 PEACE選択科目	1～4	近世日本史上の経済的事件と現代の日本経済・社会への影響について理解できるようになる。	○	○						○
Japanese Economic History 2	選択科目 PEACE選択科目	1～4	近代以降の日本史上の経済的事件と現代の日本経済・社会への影響について理解できるようになる。	○	○						○
Studies of Contemporary Society A	選択科目 PEACE選択科目	2～4	現代社会および社会学理論の最前線のトピックを学び、現代社会に対する考察を深め、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○						○
Studies of Contemporary Society B	選択科目 PEACE選択科目	2～4	現代社会および社会学理論の最前線のトピックを学び、現代社会に対する考察を深め、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○						○
Studies of Contemporary Society C	選択科目 PEACE選択科目	2～4	現代社会および社会学理論の最前線のトピックを学び、現代社会に対する考察を深め、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○						○
Studies of Contemporary Society D	選択科目 PEACE選択科目	2～4	現代社会および社会学理論の最前線のトピックを学び、現代社会に対する考察を深め、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○						○
Sociology of Gender A	選択科目 PEACE選択科目	1～4	ジェンダー理論を学ぶことで、公私の領域における男女間の不平等や役割分担の固定化について批判的に考える力を養うことができる。	○	○						○
Cultural AnthropologyA	選択科目 PEACE選択科目	1～4	文化人類学の基礎的理論を学習することで、多様な地域における習慣や儀礼、社会組織のあり方についてグローバルな視点から考える力を養うことができる。	○	○		△		○	○	◎
Torts	選択科目 PEACE選択科目	3・4	By learning the basics of Japanese tort law from a comparative perspective (with a particular emphasis on the United States, England, France, and Germany), students will be able to develop a better understanding of the nature and functions of tort law and apply the law to analyze legal problems.	○	○						○
Comparative Family Law	選択科目 PEACE選択科目	3・4	By learning the basics of Japanese family law from a comparative perspective, students will be able to develop a better understanding of the diverse and changing conceptions of "family," "marriage," and other related concepts.	○	○						○
Introduction to Legal Studies A	選択科目 PEACE選択科目	3・4	法学諸分野の基本的な知識を身につけ、具体的な社会問題や課題を法学の観点から考えることができる。	○	○						○
Introduction to Legal Studies B	選択科目 PEACE選択科目	3・4	法学諸分野の基本的な知識を身につけ、具体的な社会問題や課題を法学の観点から考えることができる。	○	○						○
Contract A	選択科目 PEACE選択科目		By acquiring a basic knowledge of Japanese contract law, students will be able to observe their everyday life through a legal lens, make a better value judgment, and develop their logical thinking skills.	○	○						○
Contract B	選択科目 PEACE選択科目		By acquiring a basic knowledge of Japanese contract law, students will be able to observe their daily life through a legal lens, make a better value judgment, and develop their logical thinking skills.	○	○						○

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 （◎＝強く関連、 ○＝関連、 △＝やや関連）							
科目名	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語（英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか）でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5）日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6）異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7）教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8）文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことできる。
Comparative Constitutional Law	選択科目 PEACE選択科目		By learning the major components of Japanese Constitution and its interrelationships with Japanese society through various case studies, students will be able to consider the roles of constitutional law and the legal justice system in resolving conflicts that arise in the society.	○	○						○
Financial Statement Analysis	選択科目 PEACE選択科目	3～4	Students will be able to read and anlayzie annual reports and detailed financial statements.	○	○						
Tourism Study 1（Business）	選択科目 PEACE選択科目	2	英語で世界の観光事情（ビシネス）およびグローバルな観光の展開に関する知識を習得し、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○						○
Tourism Study 2（Society）	選択科目 PEACE選択科目	2	英語で世界の観光事情（社会）およびグローバルな観光の展開に関する知識を習得し、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○				△		○
Tourism Study 3 （Destination）	選択科目 PEACE選択科目	3	英語で世界の観光事情（観光地）およびグローバルな観光の展開に関する知識を習得し、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○						○
Tourism Study 4（Culture）	選択科目 PEACE選択科目	3	英語で世界の観光事情（文化）およびグローバルな観光の展開に関する知識を習得し、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○						○
Global Society and Local Communities（新設）	選択科目 PEACE選択科目		By examining the impact of globalization on communities around the world from political, economic, and social perspectives , students will be able to better understand the relationship between global conditions and changes and various problems in local communities.	○	○						○
Specialized Psychology lecture in English	選択科目 PEACE選択科目	2～4	英語を使用言語として、基礎心理学、応用心理学、臨床心理学の領域の特色ある研究内容に触れ、多角的な視点から心理学への理解を深め、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○						○
Cultural Psychology	選択科目 PEACE選択科目	2～4	ヒトが自然環境や社会的環境の中で築いてきた文化的な仕組み、枠組に関する歴史的側面や多様性について学び、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○		△		△		○

資料 10　専門科目群

異文化コミュニケーションを多角的に学ぶ専門科目群

異文化コミュニケーション学部では、異文化コミュニケーション研究の基礎を学ぶ研究基礎科目の上にお互いが相互に関連し合った専門科目群を設置しています。4つの領域を柱に、理論と実践を充実させる科目が設置され、両者が有機的に結びつき、学生が自ら選んだテーマに即して科目を選択することで、自ら行動する力を身につけていくことができます。

カリキュラムの特徴

自ら選んだテーマに即して、4つの科目群から専門科目を選択。

言語
- ●社会言語学
- ●第2言語習得理論
- ●バイリンガリズム研究
- など

通訳翻訳
- ●同時通訳入門
- ●翻訳応用実践1・2
- ●通訳翻訳と多文化社会
- など

コミュニケーション
- ●メディアコミュニケーション概論
- ●異文化コミュニケーション特論A・B
- ●グローバル社会とコミュニケーション
- など

グローバル・スタディーズ
- ●国際協力・開発学概論
- ●多文化共生特論
- ●文化人類学概論
- など

専門職へ

日本語教員・英語教員として、国内外の教育機関に就職

通訳者、翻訳者などの専門職につき、国内外企業や医療関係、公的機関などに就職、もしくは独立

グローバル機関、企業へ

金融・メーカーなど一般企業の海外拠点などに就職

NPO、NGOなどの国際機関や人道支援分野などに就職、もしくは起業

		1年次	2年次	3年次	4年次
共通	必修科目	●基礎演習A・B ●言語・コミュニケーション研究入門 ●グローバル研究入門	●Cultural Exchange		
	海外研修（原則全員参加）		●海外留学研修A・B・C1（秋学期）	●海外留学研修C2	
選択科目	学びの精神	●College Life Planning A・B			
	基礎科目	●コミュニケーションセミナー（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語）			
			●諸言語特別演習A・B		
		●日本語コミュニケーションA・B・C・D（原則留学生のみ履修可）		●ビジネス日本語コミュニケーション演習	
				●キャリア日本語演習A・B（原則留学生のみ履修可）	
			●フィールドワーク	●海外インターンシップ（CIC）B　●海外フィールドスタディB	
			●サービスラーニングA		
		●海外フィールドスタディA　●サービスラーニングB・C　●インターンシップ　●海外インターンシップ（CIC）A			
	基礎科目	●言語学概論　●コミュニケーション研究概論　●国際協力・開発学概論　●通訳翻訳学概論　●グローバル化とジェンダー　●多文化共生概論			
	専門科目		●異文化トレーニング演習　●通訳入門　●国際協力・開発学特論　●グローバル研究調査法		
			●バイリンガリズム研究　●コミュニケーション特論　●視覚芸術特論　●宗教と文化		
				●グローバル化と言語　●英語科教育研究　●通訳翻訳実習	
	専門演習 卒業研究			●専門演習1	●専門演習2・3
					●卒業研究／卒業課題

※一部抜粋

※異文化コミュニケーション学部　学部案内 2023（P6）

資料 11　教育の特色（４つの柱）

教育の特色

「異なる」他者と共生し、持続可能な未来を創る知識と実践を結びつけていくための４つの柱。

異文化コミュニケーション学科は、複数の視点からものごとを考え、柔軟な思考力をもって実践的に問題に向かい合うことのできる知識、知恵、行動力を身につけるため、次の４つの柱を立ててカリキュラムを編成しています。

1 日本語を磨く・英語を磨く

日本で学ぶ以上、日本語は重要。1年次の「基礎演習」で、日本語力を訓練し、論理的思考力と自己表現力を磨きます。また、「Dual Language Pathway」では、英語で学び、議論し、レポートを書くことで、高い英語の運用力を磨きます。

2 英語＋1

言語は世界へ飛び出し活躍するための道具です。国際共通語である英語に加え、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、ロシア語のいずれかを選択し学びます。

3 知識と実践の往還

「通訳翻訳実習」、「日本語教育実習」、「フィールドワーク」などの実習型の科目を設置し、教室で学んだ知識を現場での実践に結び付ける力を身につけていきます。

4 海外留学研修・Dual Language Pathway

原則全員が参加する2年次秋学期の「海外留学研修」や英語で展開されている科目を履修して卒業する「Dual Language Pathway」を設置し、教室での学びだけに終わらない多様な仕組みをカリキュラムに組み込んでいます。

※異文化コミュニケーション学部ウェブサイト（教育の特色）

資料 12　Dual Language Pathway (DLP)

真のグローバル人材を育てる“Dual Language Pathway”

英語と日本語、2つの言語と高度な専門知識を使って、柔軟に問題対応ができる人材を育成するDual Language Pathway(DLP)。日本語で考察、理解、発信する力に加え、国際共通語である英語で読み、議論し、発信する力を身につけ、現実に根ざした実践的スキルを駆使できるようになるための4年間のプログラムです。DLPは定員15名、入試も個別に行います。学部設置の英語で展開されている専門科目を中心に履修、同時に日本語で展開されている科目も学生の興味関心に応じて履修します。少人数制で切磋琢磨するプログラムで、これからの世界に求められる「本当のグローバル人材」へ。ここでしか得られない価値を身につけてください。



DLP 履修の特色

1. 「Academic Skills」で英語によるレポート作成など基礎的スキルを学び、学部教育科目を英語で履修することで、海外の大学で英語による専門科目の授業を受けられる水準を目指します。
2. 「ベーシックセミナー」で日本語でのアカデミックスキルを学び、自身の関心のある研究領域における学びを日英両言語で深めるため、日本語による科目(10単位+α)も卒業要件単位として認定しています。
3. 卒業研究(論文)は必修。英語で論文を完成させます。
4. 2年次秋学期には、学部間協定大学への1年間の留学など、長期留学を目指します。

DLP 科目例

- Academic Skills A, B
- Overview of Language and Communication Studies
- Overview of Global Studies
- Introduction to International Development and Cooperation
- Introduction to Intercultural Communication
- Communication and Citizenship
- Multiculturalism in Japan
- Bilingualism
- Teaching English to Speakers of Other Languages : Basic Principles
- Translation and Interpreting Practicum
- Ethnicity and Globalization in Japan

※異文化コミュニケーション学部　学部案内 2023（P7）

資料 13　日本人学生の海外派遣及び外国人留学生の受入れ

異文化コミュニケーション学部では、すべての学生が「海外留学研修」を体験します。
異なる文化の中に身を置くことで、他者の考え方を知るだけでなく、
自国の文化、そして自分自身について深く見つめ直すきっかけとなります。



現地の友だちをつくり アメリカ文化を満喫

ウエストフロリダ大学は車がないとどこにも行けない小さな街にありますが、ルームメイトをはじめ、現地で知り合った友だちがいろいろな場所に連れて行ってくれ、アメリカ文化を体験しています。コロナ禍の影響で留学が延期となりましたが、諦めずに留学の道を探りました。航空系の仕事に憧れていましたが、留学を通して国際協力にも興味を持ち始めました。

アメリカに留学

1967年創立。コンピューターサイエンスから心理学まで幅広く学べる州立総合大学

在学中の活動やそのコミュニティを通して、世界を変える人材を育成することを大学のビジョンとしている。キャンパスはアメリカフロリダ州西部、ペンサコーラ市の森林地帯に位置しており、アウトドアスポーツやレクリエーション活動も盛んに行われる。

UNIVERSITY of WEST FLORIDA

海外留学研修先：
ウエストフロリダ大学
University of West Florida
大学間協定校

大西 羅允
異文化コミュニケーション学部4年
愛知県立御津高等学校出身



韓国を深く理解し 日韓の架け橋に

私は韓国にルーツを持ち、高校生の頃から韓国語を勉強し、いつか韓国に住んでみたいと考えていました。授業はすべてオンラインになってしまいましたが、現地で暮らしたことで、韓国文化を体験できました。授業では、自分の意見を持ち、積極的に発言する学生が多く、その姿勢に圧倒されました。将来は、日韓の架け橋となるような仕事に就きたいと思っています。

韓国に留学

学外の市民団体と密接なネットワークを形成し、韓国社会にも影響力のある大学

聖公会大学は、ソウル郊外にあるキリスト教系私立大学。「NGO大学」とも呼ばれるほど、学外の市民団体と多様なネットワークを形成している。人文・社会学系の学びをはじめとして、日本語学専攻もあるため日本語を学ぶ現地学生との交流も活発に行われている。

성공회대학교

海外留学研修先：
聖公会大学
Sungkonghoe University
学部間協定校

福田 涼乃
異文化コミュニケーション学部4年
関東国際高等学校（東京都）出身







多様な人たちと交流し
新たな視点を吸収

国際的に活躍する両親のようになりたいと思い、国際開発学などで評価の高いマンチェスター大学に留学しました。この大学での多様な人たちとの出会いを通じて、新しいモノの見方を得られました。議論主体の授業も受けていておもしろいです。将来はコンサルタントを目指していて、留学中に経験の幅を広げられるようインターンに挑戦できればと考えています。

英国に留学

英国最大級にして、卓越した教育と研究で知られる全英屈指の名門大学

英国第二の都市マンチェスターを拠点とし、多様な学問分野で質の高い教育を実践。英国の研究型国立大学群である「ラッセル・グループ」に所属しており、現在までに数多くのノーベル賞受賞者を輩出し世界からも注目を集めている。

MANCHESTER 1824 The University of Manchester

海外留学研修先
マンチェスター大学
The University of Manchester
学部間協定校

堀 純華
異文化コミュニケーション学部4年
品川エトワール女子高等学校(東京都)出身

海外に出て
日本の良さを再発見

留学が延期となったことで、留学先を考え直し、タイに行くことに決めました。タイには日系企業が多く、将来、日本の企業に就職するときに、タイでの経験が大きな財産になると思ったからです。授業はほぼオンラインなのでキャンパスには行けないのですが、友だちもでき、直接会って遊ぶこともあります。タイに来てみて、日本の良さも再発見できました。

タイに留学

首都バンコクの中心部に位置し、タイ王国で最も古い歴史を持つ国立総合大学

1917年に国王によって創立されたタイ王国初の公立大学で、学問知識だけでなく道徳や社会的責任を身につけた人材の育成を目標としている。国内最大の教育機関として多彩な学部・研究施設を持ち、都市の中心にありながら広く落ち着いた環境で学ぶことができる。

Chula Chulalongkorn University

海外留学研修先
チュラロンコン大学
Chulalongkorn University
大学間協定校





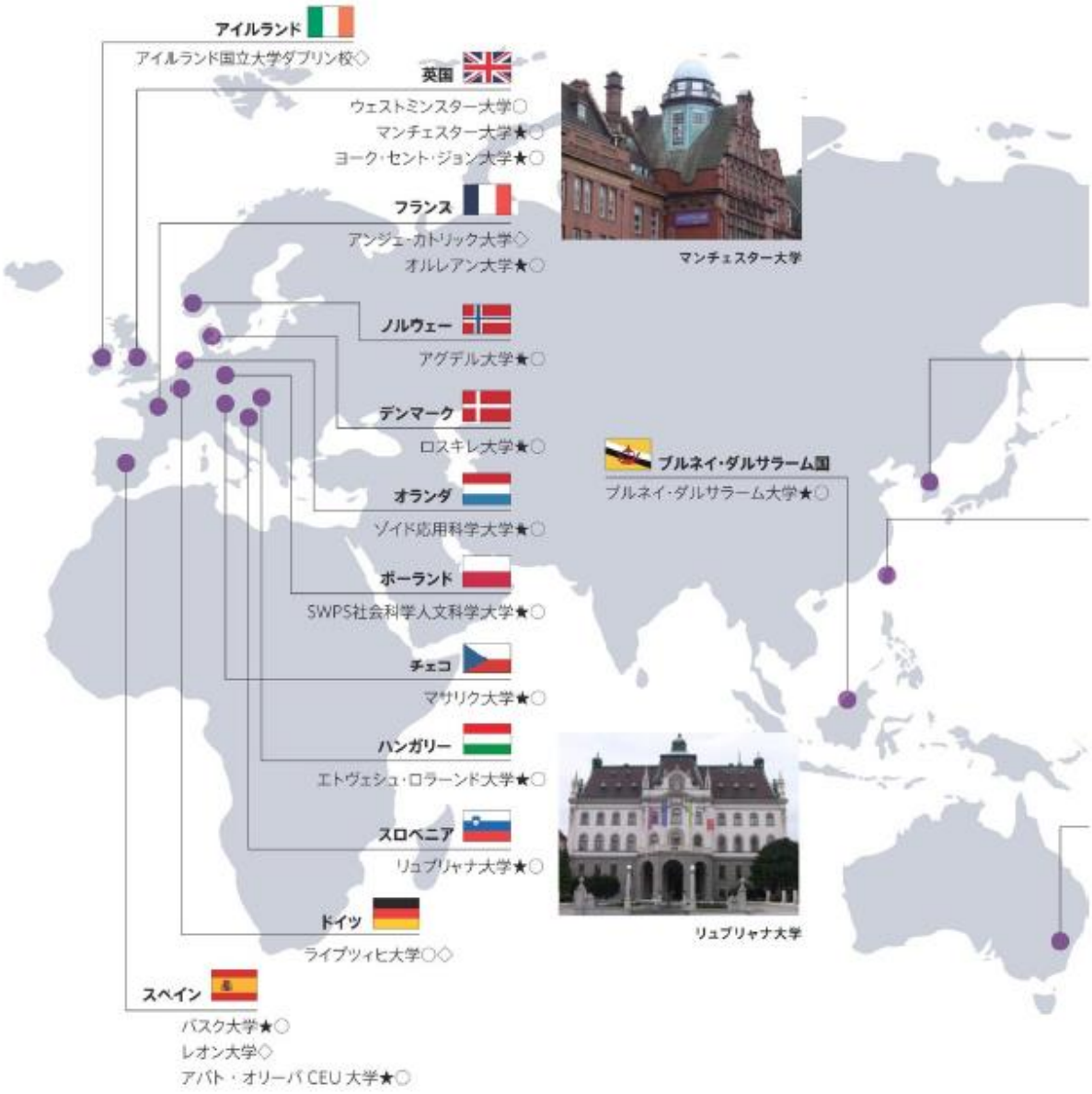


澤田 賢太
異文化コミュニケーション学部4年
立教新座高等学校(埼玉県)出身

留学先は、アジア、北アメリカ、オセアニア、ヨーロッパなど19ヵ国47校の提携先大学。(2022年1月時点)

★ 学部間協定校　○ Academic course program　◇ Language program

立教大学と国際交流協定を結んでいる海外の大学、世界26ヵ国・地域の95校(大学間協定校)へ留学することも可能です。(2022年1月時点)



語学スコア基準

英語圏への留学および英語圏以外の大学で英語での授業を履修する場合、IELTSまたはTOEFLのスコアが必要となります。異文化コミュニケーション学部では、IELTS受験料補助制度を設け、留学に必要となるスコアの取得をサポートします。また、IELTS／TOEFL受験申込には有効なパスポートが必要で、取得スコア有効期限は受験日より2年間です。(留学先大学への出願は、例年1年次の2月～2年次の5月※です) ※春出発(2月頃～)の場合は11月

留学に必要な語学スコア(一例)

以下のスコアはあくまで参考(スコア基準が変更となる場合もあります)

ヨーク・セント・ジョン大学(イギリス)	IELTS 6.0(各セクション5.5以上)/ TOEFL iBT 75(R18, L17, W20, S20以上)
オハイオ州立大学(アメリカ)	IELTS 6.5/TOEFL iBT 79
マッコーリー大学(オーストラリア)	IELTS 6.5(各セクション6.0以上)/ TOEFL iBT 83(R13, L12, W21, S18以上)
オルレアン大学(フランス)	IELTS 5.5/TOEFL iBT 70
ブルネイ・ダルサラーム大学(ブルネイ)	IELTS 6.0/TOEFL iBT 79



留学費用へのサポート

2年次秋学期に原則全員参加の「海外留学研修」という科目があります。「海外留学研修」履修者は、2年次の授業料が減額(※239,000円減額)されるとともに、立教大学グローバル奨学金申請者で、所定の支給基準を満たした者には、選考の上、最大600,000円が支給されます。ただし、家計収入が多く基準を超える場合は支給されません。なお、留学費用は、右記のとおり留学先によって異なります。

※減免額は過年度の実績。大学間協定校へ留学する場合、減額は適用されません。

〈学部間協定校へ留学する場合〉

留学先の学費は免除になりますが(私費留学を除く)、滞在費、食費、大学指定の保険加入などで半期の場合150,000円～2,300,000円、1年間の場合は340,000～2,600,000円(2022年度受込額。派遣先大学により異なる。渡航費は除く。為替による変動あり。)が別途必要になります。

〈パートナー大学へ留学する場合〉

約4～6か月間で実習費1,110,000円～5,270,000円(2022年度見込額。渡航費を除いた基本プログラム費、宿泊費など。研修先により異なる。為替の変動、留学先大学学費値上げなどで変動あり。)が別途必要になります。なお、実習費の一部(2022年度見込額で50,000円～330,000円)は1年次の3月までに納入していただく予定です。

※異文化コミュニケーション学部　学部案内 2023（P11～14）

資料 14　現場での実践



TOPIC 1　海外インターンシップ



自分の将来やりたいことを体験させてもらった国際協働プロジェクト



鈴木 沙季　異文化コミュニケーション学部3年
光ヶ丘女子高等学校（愛知県）出身

私が日本語教育に興味を持ったのは高校生の頃です。オーストラリアに長期留学したときに、現地の学生と一緒に日本語の授業を受けたことで、将来、オーストラリアの日本語教育に関わりたいと思うようになりました。今回の交流授業の話を聞いたときに、まさに私がやりたいことと重なっていたので、本当にびっくりしました。この交流授業では、マードック大学の学生の日本語学習を支援しました（eBuddy※）。日本に住む私たちが、ふだん当たり前に思っていることにもマードック大学の学生は疑問を持ち、彼らから思いもよらない質問を受けて答えに悩むことも多々ありました。最後の発表の場で、関わった学生が日本語ですらすら質問に答えている姿を見たり、終わった後に「楽しかった」と言われたりしたことがとても嬉しかったです。この経験を生かして、日本語教育をもっと学んでいきたいです。

■海外インターンシップ　eBuddy※プロジェクト レビュー



Jake Chaloner　マードック大学

日本語を学ぶ上での好きな点の一つは、日本文化だけでなく自国の文化についても、より深い理解が得られるということです。eBuddyプログラムの期間中は、eBuddyと共に取り組んだ課題のおかげで、日本語のスキルが上達するとともに、互いの経験や興味を共有することによって、友人関係も築くことができました。お互いの文化や歴史、社会などを比較、対比しながら、いつの間にか話題が本題から逸れていることもしばしば。ほとんど知られていない（そしてどこかおかしな）オーストラリア文化の側面をeBuddyと共有できたことは、素晴らしい経験でした。また、会話の録音を聞き返すことにより、自分の日本語の不自然な癖に気づいて、改善につなげることができるということも分かりました。

※eBuddy
オーストラリアのマードック大学と異文化コミュニケーション学部が協働してオンラインで日本語・日本文化を学ぶプロジェクト。マードック大学の学生とバディを組み、マードック大学の学生がプログラム終了時に日本語でプレゼンテーションできるよう、原稿のチェックやアドバイスを行う。また、プレゼンテーションにも参加し、質問・コメント・評価を行う。

海外インターンシップ

海外に数週間滞在し、現地の学生の日本語学習を支援し、日本語教育について学ぶ実践型プログラム。清華大学（中国）、天主教輔仁大学（台湾）、モンゴル文化教育大学、ブルネイ・ダルサラーム大学で行っています。また、マードック大学とのオンラインでのプログラムが正課科目「海外インターンシップ（CIC）A」として展開されています。

TOPIC 2 English Camp

コロナ禍に負けずに オンラインで 英語と触れ合う場をつくる



Er Jie Na　異文化コミュニケーション学部4年
Sri Emas International School(Malaysia)出身

私自身が、英語を第2外国語として習得したので、日本の子どもたちにはEnglish Campを通して、英語でコミュニケーションする楽しさを体験してもらいたいと思っていました。特に、私が日本語を学び始めたとき、一緒に日本語を話してくれる人と出会う機会をとても嬉しく感じたので、英語を学ぶ日本の子どもたちに同じような経験をしてもらえたらと考えていました。

1年生のときは日本語があまりできなかったこともあり、緊張しながら参加しましたが、繰り返し参加していくうちにより深く関わりたいと思うようになり、3年次にはオーガナイザーを引き受けました。私は主に情報発信と、参加学生や事務と連絡を取りあう役割を務めていました。

2021年のEnglish Campはオンライン開催となったこともあり、パソコンの操作に不慣れな子どもたちにオンラインミーティングソフトの操作方法を教えるのが大変でした。うまく操作できなくて泣き出してしまう子がいたり、対面と比べて発言しにくかったりと、みんなの反応や雰囲気を直接感じにくいこともあって、進行にはとても気を使いました。大学生参加者を募るのにも苦労しましたが、一方で、母国に帰国した留学生がオンラインで参加できたので、そういう機会をつくることができたのはよかったと感じています。

Engl sh Campに参加することは、私自身にとって癒やしの機会になっていました。というのも、私は母国のマレーシアで、両親や兄弟・親戚含めて30人くらいの大家族の中で育ちました。小さな甥や姪などの面倒を見ていたこともあって、子どもと接することは昔から好きでした。ですので、友だちからEnglish Campに誘われ参加して、多くの子どもたちと触れ合えたことは、家族の元を離れてひとりで日本に来ていた私にとって、大家族で生活していた母国での生活を思い出すような体験でした。

繰り返しになりますが、English Campが、子どもたちが楽しみながら英語を学ぶきっかけや動機付けになればとても嬉しいです。



English Camp

豊島区の小中学生および岩手県陸前高田市の中学生を対象に、異文化コミュニケーション学部の日本人学生と外国人留学生が一緒に英語で様々なアクティビティを企画。英語の楽しさに触れるきっかけづくりをお手伝いしています。2020年度からは「サービスラーニングC」として正課科目となり、学びの実践の場として取り組んでいます。

※異文化コミュニケーション学部　学部案内 2023（P4）

日本語教員養成プログラム

日本語を母語としない人々に日本語を教えるスキルと専門知識を身につけることを目的としたプログラムです。所定の科目を修得した学生には修了証が授与され、これまで多くの学生が本プログラムを修了しています。海外で日本語教員として働いている先輩も輩出しており、国内外で仕事ができるチャンスが広がっています。また、豊島区と連携して日本語学習支援を行う学生の活動「立教日本語教室」の取り組みは、サービスラーニングA・B（正課科目）として本プログラムの選択必修科目となっており、教室での学びと実践の両輪で展開しています。



「立教日本語教室」

たくさんの人たちと交流し広がった視野

大神 凪世
異文化コミュニケーション学部3年
桃山学院高等学校（大阪府）出身

友だちに誘われたことがきっかけで、日本語教室のボランティアをするようになりました。コロナ禍でオンライン授業が続き、同級生と話す機会がほとんどなくなっていた中で、日本語教室の活動は先輩や同級生と知り合うよいきっかけとなりました。日本語教室で実際に人に教えたことで、日本語教育関係の授業の理解度が上がり、学んだ知識がよりしっかりと身につくようになったと思います。私は海外経験があまりないのですが、この活動を通してたくさんの人たちと交流することができ、視野が広がりました。また、日本で暮らす外国の人たちのことが気になるようになり、国内フィールドスタディの授業に参加し、移民や難民の方々の生活について理解を深めるきっかけにもなりました。今後は、日本語教育能力検定試験を受けるなどして日本語の知識を増やしていきたいと思っています。

通訳・翻訳者養成プログラム

学部から大学院まで一貫性のある養成プログラムを設置しています。所定の科目を修得した学生には、修了証が授与されます。修了するには、母語と外国語の極めて高い運用能力が必要ですが、通訳者・翻訳者のニーズは年々高まっており、チャレンジする価値のあるプログラムです。通訳者は、病院、警察署、裁判所等での日本語の力が十分でない人々への通訳など、日常の様々な場面で必要とされています。また、本プログラムで学ぶ学生は、RiCoLaS（立教コミュニティー通訳翻訳サービス）で実際の通訳・翻訳プロジェクトに取り組むなど幅広く活動しています。



「RiCoLaS」
（立教コミュニティー通訳翻訳サービス）

実務経験を通して通訳・翻訳への道が見えた

久保 舞菜美
異文化コミュニケーション学部3年
桃山学院高等学校（大阪府）出身

大学卒業時までに通訳・翻訳者養成プログラム修了証の取得を目標に、勉強を進めています。RiCoLaSへの参加を決めたのもその一環で、実務的な通訳、翻訳の経験を積めると考えたからです。RiCoLaSではこれまで留学生のキャンパスの案内や通訳をしていましたが、コロナ禍でその仕事が減り、代わりに外部の人たちからの依頼を受けるようになりました。私は東日本大震災を語り継ぐ動画に英語の音声をつけるプロジェクトで、翻訳の一部を担当しています。授業でも翻訳の実習をしますが、実際に社会で発表される作品の一部に関わることの重みをひしひしと感じました。入学当初は通訳者や翻訳者になろうとは特に思っていなかったのですが、勉強をしているうちに、通訳者になりたいと思うようになり、RiCoLaSの活動を通して、通訳者、翻訳者への具体的な道がはっきりと見えてきました。

※異文化コミュニケーション学部　学部案内 2023（P10）

〇資料 15　令和３年度文部科学白書（第５章該当部分抜粋）

１　書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 15

２　出典

文部科学省ウェブサイト

３　書類等の利用範囲

第５章第４節

https://www.mext.go.jp/content/20220719-mxt_soseisk02-000024040_205.pdf

４　その他の説明

社会や経済のグローバル化が進展する我が国において、優秀な外国人留学生の獲得、個々の能力を高めグローバル化した社会で活躍する人材を育成すること等が喫緊の課題となっていることを示すため、上記資料を引用した。

別記様式第１号

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

立教大学文学部，経済学部，社会学部，
異文化コミュニケーション学部及び情報社会デザイン学部
特定地域内学部収容定員増加　届出書

令和５年２月３日

文　部　科　学　大　臣　殿

学校法人立教学院　　理事長　福田　　裕昭

学校法人立教女学院　理事長　大澤　　眞木子

このたび，立教大学文学部，経済学部，社会学部，異文化コミュニケーション学部及び情報社会デザイン学部の特定地域内学部収容定員を増加させることについて，地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律施行令第４条第１項の規定により，別紙書類を添えて届け出ます。なお，届出の上は，確実に届出に係る計画を履行します。

本届出は，令和３年３月 23 日付の届出の内容を変更するものです。

適用を受けようとする除外規定及びその適用を受けることができる理由の概要	＜適用を受けようとする除外規定＞ 地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律第13条第２号 ＜適用を受けることができる理由の概要＞ 杉並区に所在する立教女学院短期大学を廃止して，適切に算定した数の範囲内で立教大学の１～４年次の特定地域内学部収容定員を増加させるため。			
特定地域内学部収容定員の変更の状況		学部等の名称	変更前	変更後
	増加させる学部等	立教大学		
		文学部(※１)	3,600人	3,672人
		キリスト教学科	196人	200人
		史学科	856人	860人
		教育学科	400人	404人
		文学科	2,148人	2,208人
		経済学部（※１）	2,720人	2,736人
		経済学科	1,320人	1,328人
		会計ファイナンス学科	700人	704人
		経済政策学科	700人	704人
		社会学部（※１）	2,040人	2,076人
		社会学科	680人	692人
		現代文化学科	680人	692人
		ﾒﾃﾞｨｱ社会学科	680人	692人
		異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部（※２）	580人	840人
		異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	580人	840人
		情報社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ学部（※３）	0人	816人
		情報社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	0人	816人
		（いずれも修業年限４年）		
	大学全体	－	13,988人	15,188人
特定地域内学部収容定員を増加させる時期	（※１）令和４年４月（文学部，経済学部及び社会学部） （※２）令和６年４月（異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部） （※３）令和７年４月（情報社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ学部）			
校舎の所在地	東京都豊島区西池袋3-34-1（池袋キャンパス）			
学校教育法に基づく認可申請又は届出の状況	（※１）令和３年６月収容定員関係学則変更認可申請書提出済み（令和３年10月認可） （※２）令和５年３月収容定員関係学則変更認可申請書提出予定 （※３）令和６年３月末収容定員関係学則変更認可申請書提出予定 令和６年６月末情報社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ学部設置届出書提出予定			

（注）

1　記載内容を証する書類を添付すること。

2　特定地域外から特定地域内への校舎の移転その他学校教育法第４条第１項の規定により文部科学大臣の認可を受けなければならないこととされている事項以外の事項によって，特定地域内学部収容定員を増加させる場合は，同法の規定により届け出なければならない事項の例に準じて内容の分かる書類を添付すること。

別記様式第２号

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

法第 13 条第１号・第２号　説明書

特定地域内学部等収容定員を減少させる学部等	大学の名称	立教女学院短期大学					
	学部等の名称	修業年限	入学定員（編入学定員）	減少前の特定地域内学部等収容定員（収容定員）	減少させる特定地域内学部等収容定員（収容定員）	減少後の特定地域内学部等収容定員（収容定員）	校舎の所在地
	現代コミュニケーション学科	2年	150人（-人）	300人（300人）	300人（300人）	0人（0人）	東京都杉並区久我山4-29-23
	幼児教育科	2年	150人（-人）	300人（300人）	300人（300人）	0人（0人）	
	減少させる事由	2018 年 4 月に募集停止を行い，2020 年 3 月末をもって在籍者が 0 名となったため。					
	予定時期	2020年７月					
特定地域内学部収容定員を増加させる学部等	大学の名称	立教大学					
	学部等の名称	修業年限	入学定員（編入学定員）	増加前の特定地域内学部収容定員(収容定員)	増加させる特定地域内学部収容定員（収容定員）	増加後の特定地域内学部収容定員（収容定員）	校舎の所在地
	文学部（※１）	４年	900人（-人）	3,600人（3,600人）	72人（72人）	3,672人（3,672人）	東京都豊島区西池袋3-34-1
	キリスト教学科		49人（-人）	196人（196人）	4人（4人）	200人（200人）	
	史学科		214人（-人）	856人（856人）	4人（4人）	860人（860人）	
	教育学科		100人（-人）	400人（400人）	4人（4人）	404人（404人）	
	文学科		537人（-人）	2,148人（2,148人）	60人（60人）	2,208人（2,208人）	
	経済学部（※１）	４年	680人（-人）	2,720人（2,720人）	16人（16人）	2,736人（2,736人）	同上
	経済学科		330人（-人）	1,320人（1,320人）	8人（8人）	1,328人（1,328人）	
	会計ファイナンス学科		175人（-人）	700人（700人）	4人（4人）	704人（704人）	
	経済政策学科		175人（-人）	700人（700人）	4人（4人）	704人（704人）	
	社会学部（※１）	４年	510人（-人）	2,040人（2,040人）	36人（36人）	2,076人（2,076人）	同上
	社会学科		170人（-人）	680人（680人）	12人（12人）	692人（692人）	
	現代文化学科		170人（-人）	680人（680人）	12人（12人）	692人（692人）	
	メディア社会学科		170人（-人）	680人（680人）	12人（12人）	692人（692人）	
	異文化コミュニケーション学部（※２）	４年	145人（-人）	580人（580人）	260人（260人）	840人（840人）	同上
	異文化コミュニケーション学科		145人（-人）	580人（580人）	260人（260人）	840人（840人）	

	情報社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ学部（※３） 情報社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	４年	0人（-人） 0人（-人）	0人（0人） 0人（0人）	816人（816人） 816人（816人）	816人（816人） 816人（816人）	同上
	増加させる事由	収容定員の増加及び学部の新設					
	予定時期	（※１）令和４年４月（文学部，経済学部及び社会学部） （※２）令和６年４月（異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部） （※３）令和７年４月（情報社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ学部）					

法第 13 条第２号の規定の適用を受けようとする場合のみ	合併・統廃合等，共同教育課程の別	■合併・統廃合等　　□共同教育課程
	協議の内容	「地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律」第 13 条第２号に基づき，学校法人立教女学院が設置する立教女学院短期大学の廃止に際し，同短期大学の収容定員を 600 名（年次あたり 300 名）減少させ，学校法人立教学院が設置する立教大学の収容定員を 1,200 名（年次あたり 300 名）増加させる。 また，学校法人立教女学院及び学校法人立教学院の創立者であるチャニング・ムーア・ウィリアムズ主教の意思を受け継ぎ，建学の精神であるキリスト教に基づく教育実践と，両法人の発展に資する相互協力・連携体制を構築するために，「学校法人立教女学院と学校法人立教学院との相互協力・連携協定書」を締結する。

2023 年 2 月
立 教 大 学

特定地域内学部収容定員増加届出書の変更点等について

【別記様式第１号】

◯理事長名

（変更点）

法人名	今回	令和３年３月 23 日付け届出
①立教学院	福田　　裕昭	戸井田　和彦
②立教女学院	大澤　眞木子	糸魚川　　順

（変更理由）

①令和４年８月１日付で理事長が交代したため。

②令和３年４月１日付で理事長が交代したため。

◯鑑文

今回	令和３年３月 23 日付け届出
（略）本届出は，令和３年３月 23 日付の届出の内容を変更するものです。	（略）本届出は，令和２年７月１日付の届出の内容を変更するものです。

（変更理由）

今回で２度目の変更届出となるため。なお、当初届出は令和２年７月１日付けで行ったが、令和３年３月 23 日付けで１回目の変更届出を行った。

◯特定地域内学部収容定員の変更の状況（学部等の名称）

（変更点）

変更届出	令和３年３月 23 日付け届出
情報社会デザイン学部（※３） 情報社会デザイン学科	情報社会デザイン学部（※２） 情報社会デザイン学科

（変更理由）

情報社会デザイン学部の開設時期を遅らせることに伴う表記の変更。

◯特定地域内学部収容定員を増加させる時期

（変更点）

今回	令和３年３月 23 日付け届出
（※２）令和６年４月（異文化コミュニケーション学部）	（※２）令和６年４月（異文化コミュニケーション学部及び情報社会デザイン学部）
（※３）令和７年４月（情報社会デザイン学部）	（追加）

（変更理由）

昨今の社会状況の変化及び大学に対する社会からの期待（環境教育、社会と連携した実践的（PBL）教育、遠隔授業の大胆な活用、文理横断教育等）に応えることができる学部とするため、オンラインの活用による遠隔授業の導入等のコロナ禍を踏まえた高等教育の変化への対応、教育未来創造会議、骨太の方針 2022 等で言及されているデジタル及びグリーン人材の育成、文理横断的な学びへの転換等について、時間をかけてより丁寧かつ慎重な検討を行った上で、設置することとしたいため。

また、令和４年 10 月の大学設置基準の改正に伴って新設された、教育課程等に係る特例制度の活用の可否について検討を行いたいため。

◯学校教育法に基づく認可申請又は届出の状況

（変更点）

変更届出	令和３年３月 23 日付け届出
（※１）令和３年６月収容定員関係学則変更認可申請書提出済（同年 10 月認可）	（※１）令和３年６月収容定員関係学則変更認可申請書提出予定
（※２）令和５年３月末収容定員関係学則変更認可申請書提出予定	（※２）令和５年３月末収容定員関係学則変更認可申請書提出予定
（削除）	令和５年４月末情報社会デザイン学部設置届出書提出予定
（※３）令和６年３月末収容定員関係学則変更認可申請書提出予定	（追加）
令和６年６月末情報社会デザイン学部設置届出書提出予定	

（変更理由）

【再掲】昨今の社会状況の変化及び大学に対する社会からの期待（環境教育、社会と連携した実践的（PBL）教育、遠隔授業の大胆な活用、文理横断教育等）に応えることができる学部とするため、オンラインの活用による遠隔授業の導入等のコロナ禍を踏まえた高等教育の変化への対応、教育未来創造会議、骨太の方針 2022 等で言及されているデジタル及びグリーン人材の育成、文理横断的な学びへの転換等について、時間をかけてより丁寧かつ慎重な検討を行った上で、設置することとしたいため。

また、令和４年 10 月の大学設置基準の改正に伴って新設された、教育課程等に係る特例制度の活用の可否について検討を行いたいため。

【別記様式第２号】

◯特定地域内学部収容定員を増加させる学部等（学部等の名称）

変更届出	令和３年３月 23 日付け届出
情報社会デザイン学部（※３） 情報社会デザイン学科	情報社会デザイン学部（※２） 情報社会デザイン学科

（変更理由）

情報社会デザイン学部の開設時期を遅らせることに伴う表記の変更。

◯特定地域内学部収容定員を増加させる学部等（予定時期）

今回	令和３年３月 23 日付け届出
（※２）令和６年４月（異文化コミュニケーション学部） （※３）令和７年４月（情報社会デザイン学部）	（※２）令和６年４月（異文化コミュニケーション学部及び情報社会デザイン学部）

（変更理由）

【再掲】昨今の社会状況の変化及び大学に対する社会からの期待（環境教育、社会と連携した実践的（PBL）教育、遠隔授業の大胆な活用、文理横断教育等）に応えることができる学部とするため、オンラインの活用による遠隔授業の導入等のコロナ禍を踏まえた高等教育の変化への対応、教育未来創造会議、骨太の方針 2022 等で言及されているデジタル及びグリーン人材の育成、文理横断的な学びへの転換等について、時間をかけてより丁寧かつ慎重な検討を行った上で、設置することとしたいため。

また、令和４年 10 月の大学設置基準の改正に伴って新設された、教育課程等に係る特例制度の活用の可否について検討を行いたいため。

【除外規定を受けることができることを証するための添付書類】

令和２年７月１日付届出書（当初届出）から変更なし。

資料 17　本学既設学部と異文化コミュニケーション学部（増加後）の S/T 比

学部名	収容定員	教員数	S/T比
理学部	1,168	75	15.57
異文化コミュニケーション学部（増後）	840	34	24.71
スポーツウエルネス学部	920	25	36.80
文学部	3,672	85	43.20
経営学部	1,540	35	44.00
現代心理学部	1,276	29	44.00
コミュニティ福祉学部	1,400	30	46.67
法学部	2,340	50	46.80
観光学部	1,480	29	51.03
社会学部	2,076	40	51.90
経済学部	2,736	52	52.62
合計	19,448	484	40.18

資料 18　競合校と異文化コミュニケーション学部（増加後）の S/T 比

大学等名	収容定員	教員数	S/T比
青山学院大学国際政治学部国際コミュニケーション学科	296	14	21.14
法政大学国際文化学部	996	47	21.19
異文化コミュニケーション学部（増後）	840	34	24.71
早稲田大学国際教養学部	2,400	90	26.67
明治大学国際日本学部	1,600	49	32.65
上智大学総合グローバル学部	880	26	33.85
合計	7,012	260	26.97

※各大学のウェブサイト又は大学ポートレートから引用

資料 19　大学設置基準における校地面積及び校舎面積と本学の校地面積及び校舎面積

（１）大学設置基準における校地面積及び校舎面積と本学の校地面積及び校舎面積（一覧）

	大学設置基準	大学全体	池袋キャンパスのみ
校地面積	194,480 ㎡	257,945 ㎡	69,830 ㎡
校舎面積	87,898 ㎡	176,406 ㎡	126,230 ㎡

※池袋キャンパスのみで、大学設置基準における校舎面積を上回っている

（２）大学設置基準における校地面積及び校舎面積の算出方法

◯設置基準上の校地面積　⇒　収容定員合計×10　⇒　19,448×10=194,480

◯設置基準上の校地面積

・基準校舎面積　⇒　14,449.96（文学部）

学部名	収容定員数	学部の種類	算定式	基準校舎面積
文学部	3,672	文学関係	(3672-800) ×1322/400+4958	14,449.96
経済学部	2,736	経済学関係	(2736-800) ×1322/400+4958	11,356.48
理学部	1,168	理学関係	(1168-800) ×3140/400+8925	11,813.8
社会学部	2,076	社会学・社会福祉学関係	(2076-800) ×1322/400+4958	9,175.18
法学部	2,340	法学関係	(2340-800) ×1322/400+4958	10,047.7
観光学部	1,480	社会学・社会福祉学関係	(1,480-800)×1,322/400+4,958	7,205.4
コミュニティ福祉学部	1,400	社会学・社会福祉学関係	(1400-800) ×1322/400+4958	6,941
経営学部	1,540	経済学関係	(1540-800) ×1322/400+4958	7,403.7
現代心理学部	1,276	文学関係	(1,276-800) ×1,322/400+4,958	6,531.18
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部	840	文学関係	(840-800) ×1322/400+4958	5,123.3
スポーツウエルネス学部	920	体育関係	(920-800) ×1,983/400+6,280	7,414.9

・加算校舎面積　⇒　73,448（文学部を除く 10 学部の合計）

学部名	収容定員数	学部の種類	算定式	基準校舎面積
文学部	–	文学関係	–	–
経済学部	2,736	経済学関係	7768+((7768-7107) ×4	10,412
理学部	1,168	理学関係	大学設置基準別表第三ハをそのまま適用（1,200 人まで）	10,147
社会学部	2,076	社会学・社会福祉学関係	7768+(7768-7107)	8,429
法学部	2,340	法学関係	7768+(7768-7107) ×2	9,090
観光学部	1,480	社会学・社会福祉学関係	別表第三ハをそのまま適用（1,600 人まで）	6,446
コミュニティ福祉学部	1,400	社会学・社会福祉学関係	別表第三ハをそのまま適用（1,400 人まで）	5,785
経営学部	1,540	経済学関係	別表第三ハをそのまま適用（1,600 人まで）	6,446
現代心理学部	1,276	文学関係	別表第三ハをそのまま適用（1,400 人まで）	5,785
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部	840	文学関係	別表第三ハをそのまま適用（1,000 人まで）	4,462
スポーツウエルネス学部	920	体育関係	別表第三ハをそのまま適用（1,000 人まで）	6,446
			合計	73,448

・基準校舎面積と加算校舎面積の合計　⇒　87,898

別表２の４（第 41 条関係）　　（単位　円）

学部学科プログラム	学年	授業料	実験・実習費	合計
文学部 （教育学科初等教育専攻を除く）	１年次	1,128,000	―	1,128,000
	２年次	1,128,000	―	1,128,000
	３年次	1,128,000	―	1,128,000
	４年次	1,078,000	―	1,078,000
	(*) ４年次	1,028,000	―	1,028,000
	(**) ４年次	988,000	―	988,000
文学部 教育学科初等教育専攻	１年次	1,128,000	―	1,128,000
	２年次	1,128,000	―	1,128,000
	３年次	1,128,000	10,000	1,138,000
	４年次	1,078,000		1,078,000
	(*) ４年次	1,028,000	―	1,028,000
	(**) ４年次	988,000	―	988,000
文学部 グローバル ・リベラルアーツ ・プログラム	１年次	1,850,000	―	1,850,000
	２年次	1,850,000	―	1,850,000
	３年次	1,850,000	―	1,850,000
	４年次	1,800,000	―	1,800,000
経済・法・観光学部 （国際ビジネス法学科グローバルコースを除く）	１年次	1,121,000	―	1,121,000
	２年次	1,121,000	―	1,121,000
	３年次	1,121,000	―	1,121,000
	４年次	1,071,000	―	1,071,000
	(*) ４年次	1,021,000	―	1,021,000
	(**) ４年次	981,000	―	981,000
法学部 （国際ビジネス法学科グローバルコース）	１年次	1,221,000	―	1,221,000
社会学部	１年次	1,121,000	15,000	1,136,000
	２年次	1,121,000	15,000	1,136,000
	３年次	1,121,000	15,000	1,136,000
	４年次	1,071,000	15,000	1,086,000
	(*) ４年次	1,021,000	15,000	1,036,000
	(**) ４年次	981,000	15,000	996,000
理学部 数学科	１年次	1,548,000	―	1,548,000
	２年次	1,548,000	―	1,548,000
	３年次	1,548,000	―	1,548,000
	４年次	1,498,000	―	1,498,000
	(*) ４年次	1,448,000	―	1,448,000
理学部 物理学科	１年次	1,548,000	10,000	1,558,000
	２年次	1,548,000	60,000	1,608,000
	３年次	1,548,000	40,000	1,588,000
	４年次	1,498,000	120,000	1,618,000
	(*) ４年次	1,448,000	120,000	1,568,000
理学部 化学科	１年次	1,548,000	40,000	1,588,000
	２年次	1,548,000	80,000	1,628,000
	３年次	1,548,000	―	1,548,000
	４年次	1,498,000	80,000	1,578,000
	(*) ４年次	1,448,000	80,000	1,528,000

（単位　円）

学部学科プログラム	学年	授業料	実験・実習費	合計
理学部	1年次	1,548,000	70,000	1,618,000
生命理学科	2年次	1,548,000	40,000	1,588,000
	3年次	1,548,000	80,000	1,628,000
	(***) 4年次	1,498,000	80,000	1,578,000
	(****) 4年次	1,498,000	—	1,498,000
	(*) 4年次	1,448,000	—	1,448,000
コミュニティ福祉学部	1年次	1,128,000	3,000	1,131,000
福祉学科	2年次	1,128,000	3,000	1,131,000
ｺﾐｭﾆﾃｨ政策学科	3年次	1,128,000	—	1,128,000
	4年次	1,078,000	—	1,078,000
	(*) 4年次	1,028,000	—	1,028,000
	(**) 4年次	988,000	—	988,000
コミュニティ福祉学部	1年次	1,128,000	15,000	1,143,000
ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学科	2年次	1,128,000	15,000	1,143,000
	3年次	1,128,000	15,000	1,143,000
	4年次	1,078,000	15,000	1,093,000
	(*) 4年次	1,028,000	15,000	1,043,000
	(**) 4年次	988,000	15,000	1,003,000
経営学部	1年次	1,121,000	30,000	1,151,000
	2年次	1,121,000	15,000	1,136,000
	3年次	1,121,000	15,000	1,136,000
	4年次	1,071,000	15,000	1,086,000
	(*) 4年次	1,021,000	15,000	1,036,000
	(**) 4年次	981,000	15,000	996,000
現代心理学部	1年次	1,165,000	15,000	1,180,000
心理学科	2年次	1,165,000	15,000	1,180,000
	3年次	1,165,000	15,000	1,180,000
	4年次	1,115,000	15,000	1,130,000
	(*) 4年次	1,065,000	15,000	1,080,000
	(**) 4年次	1,050,000	15,000	1,065,000
現代心理学部	1年次	1,190,000	15,000	1,205,000
映像身体学科	2年次	1,190,000	15,000	1,205,000
	3年次	1,190,000	15,000	1,205,000
	4年次	1,140,000	15,000	1,155,000
	(*) 4年次	1,090,000	15,000	1,105,000
	(**) 4年次	1,075,000	15,000	1,090,000
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部	1年次	1,128,000	10,000	1,138,000
	2年次	1,128,000	3,000	1,131,000
	3年次	1,128,000	3,000	1,131,000
	4年次	1,078,000	1,000	1,079,000
	(*) 4年次	1,028,000	1,000	1,029,000
	(**) 4年次	988,000	1,000	989,000

(*)：2012～2014年度以前入学者
(**)：2011年度以前入学者
(***)：2016～2019年度入学者
(****)：2015年度入学者
備　考

1　授業料は在籍料120,000円（半期60,000円）を含むものとし，休学の場合は在籍料のみ徴収する。

２　文学部教育学科初等教育専攻の者は実験・実習費 10,000 円を納めなければならない。

３　理学部において､履修要項の定めるところにより実験を履修しない者および在学留学中の者は実験・実習費は不要とする。同様に、物理学科、化学科、生命理学科のすべての年度入学者において､配当年次以外の年次に実験科目を履修する場合は､各実験科目に定められた金額を加えて徴収する。
理学部物理学科において、2015 年度以前入学者のうち 4 年次卒業研究として理論物理学を選択する者、2016 年度以降入学者のうち 4 年次卒業研究 1、2 として理論物理学を選択する者は、実験・実習費は不要とする。また、理学部物理学科において、3・4 年次配当の選択実験（物理学実験 2）を履修する者については 1 科目あたり 40,000 円を、2 年次必修科目の化学実験(物)･生物学実験(物)を 3 年次以降に履修する者については 1 科目あたり 20,000 円を、それぞれ徴収する。
理学部化学科において、2016 年度以降入学者のうち、3・4 年次に配当されている選択実験（研究実験 1, 研究実験 2）を履修する者については 1 科目あたり 40,000 円を、物理学実験（化）を履修する者については 10,000 円を、生物学実験（化）を履修する者については 1 科目あたり 20,000 円を、それぞれ徴収する。
理学部生命理学科において、2016 年度以降入学者のうち、1 年次必修科目の物理学実験（生）を 2 年次以降に履修する者については 10,000 円を、化学実験（生）を 2 年次以降に履修する者については 20,000 円を履修年度ごとに徴収する。

４　コミュニティ福祉学部の「ソーシャルワーク実習指導１」若しくは「精神保健福祉援助実習指導１」を履修する者は，上記納入金に加えて実習登録費 3,000 円を，「ソーシャルワーク実習」を履修する者は､上記納入金に加えて実習費 62,000 円を，「精神保健福祉援助実習」を履修する者は，上記納入金に加えて実習費 50,000 円を納めなければならない。

５　NEXUS プログラム 4.5 年コースの 1 年次第 1 学期目の学費は，別表２の５に定める。

６　異文化コミュニケーション学部の海外留学研修を履修する者の授業料は､履修する年次の授業料を減免し，次の通りとする。(2022 年度以降入学者は大学間協定校へ留学する場合を除く)
2，3 年次　889,000 円
※新型コロナウイルス感染拡大に係る特例として，4 年次に海外留学研修を履修する者の授業料は 839,000 円とする。

別表２の５（第 41 条関係）
NEXUS プログラム 4.5 年コースの 1 年次第 1 学期目学費

（単位　円）

学部　学科	授業料
文学部	564,000
経済学部	560,500
社会学部	560,500
法学部	560,500
コミュニティ福祉学部	564,000
経営学部	560,500
現代心理学部 心理学科	582,500
現代心理学部 映像身体学科	595,000

備　考
１　授業料は在籍料 120,000 円（半期 60,000 円）を含むものとし，休学の場合は在籍料のみ徴収する。

２　１年次第２学期目以降は，所属学部学科の授業料を適用する。

３　実験・実習費は、1年次第2学期目より，所属学部学科で定められた実験・実習費を徴収することとする。学部カリキュラムへの合流が1年次第2学期目より遅れる場合，学部カリキュラムに合流するまでの期間，実験・実習費は徴収しない。

別表３（第 47 条関係）

教育職員免許状取得に必要な教職に関する専門科目の受講料	35,000 円
学芸員の資格取得に必要な博物館に関する科目の受講料	35,000 円
司書の資格取得に必要な図書館に関する科目の受講料	35,000 円
司書教諭の資格取得に必要な学校図書館に関する科目の受講料	15,000 円
社会教育主事の資格取得に必要な社会教育に関する科目の受講料	30,000 円

備　考

１　社会教育主事課程の講座登録料は，次の学部・学科の学生に限り，20,000 円とする。
　文学部教育学科，観光学部，コミュニティ福祉学部，現代心理学部

２　次の者は，講座登録料は不要とする。
　文学部教育学科に所属し，初等教育専攻在籍(予定)の者で，小学校教員免許状取得（予定）の者。
　大学院博士課程後期課程の大学院学生で，大学院博士前期課程（修士課程）在学時に講座登録をし，空白の期間なくして後期課程に進学した者。

別表４　　削除

別表５（第 49 条関係）

項　　目		邦　文	英　文
入学証明書	(1通につき)	300 円	400 円
退学証明書	(1通につき)	300 円	400 円
在学証明書	(1通につき)	300 円	400 円
卒業（見込）証明書	(1通につき)	300 円	400 円
成績証明書	(1通につき)	300 円	400 円
修了証明書	(1通につき)	300 円	
単位修得証明書	(1通につき)	300 円	
学力に関する証明書	(1通につき)	300 円	
教育職員免許状取得見込証明書	(1通につき)	300 円	
社会福祉士指定科目履修（見込）証明書	(1通につき)	300 円	
精神保健福祉士指定科目履修（見込）証明書	(1通につき)	300 円	
公認心理師試験卒業証明書・科目履修証明書	(1通につき)	300 円	
科目等履修証明書	(1通につき)	300 円	400 円
聴講証明書	(1通につき)	300 円	400 円
学士号証明書	(1通につき)	300 円	400 円
調査書	(1通につき)	300 円	
学生証再発行	(1通につき)	2,000 円	
通学定期乗車券発行控	(1通につき)	300 円	
科目等履修生証再発行	(1通につき)	2,000 円	
教育職員免許状大学一括申請手数料	(1通につき)	800 円	
学校図書館司書教諭講習申込手数料	(1通につき)	800 円	
学位記等再発行	(1通につき)	20,000 円	
その他の証明書	(1通につき)	300 円	400 円

別表６（第 51 条，第 52 条関係）

選考料	12,000 円
登録料	40,000 円（年額）
受講料（1単位につき）	36,000 円

備　考

１　第 51 条第２項の規定による科目等履修生に限り選考料及び登録料は第２年目においてはこれを徴収しない。

２　本学の学部又は大学院研究科を卒業,修了したことがある者及び特別外国人学生として在籍したことがある者の選考料及び登録料については 2 分の 1 額とする。

資料 21　競合校との学生納付金比較

○五十音順

	入学金	授業料等の学生納付金（諸会費を除く）				総額
		1年次	2年次	3年次	4年次	
本学部	200,000	1,138,000	1,131,000 (892,000)	1,131,000	1,138,000	4,738,000 (4,499,000)
（A）青山学院大学 国際政治経済学部 国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	200,000	1,192,000	1,195,000	1,199,000	1,203,000	4,989,000
（B）上智大学 総合ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ学部	200,000	1,150,000	1,053,000	1,053,000	1,053,000	4,509,000
（C）法政大学 国際文化学部	240,000	1,365,000	690,000	1,065,000	1,040,000	4,400,000
（D）明治大学 国際日本学部	200,000	1,281,000	1,286,000	1,291,000	1,326,000	5,384,000
（E）早稲田大学 国際教養学部	200,000	1,390,000	1,590,000	1,590,000	1,590,000	6,360,000

※各大学のウェブサイトから引用

○金額降順

	入学金	授業料等の学生納付金（諸会費を除く）				総額
		1年次	2年次	3年次	4年次	
（E）早稲田大学 国際教養学部	200,000	1,390,000	1,590,000	1,590,000	1,590,000	6,360,000
（D）明治大学 国際日本学部	200,000	1,281,000	1,286,000	1,291,000	1,326,000	5,384,000
（A）青山学院大学 国際政治経済学部 国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	200,000	1,192,000	1,195,000	1,199,000	1,203,000	4,989,000
本学部	200,000	1,138,000	1,131,000 (892,000)	1,131,000	1,138,000	4,738,000 (4,499,000)
（B）上智大学 総合ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ学部	200,000	1,150,000	1,053,000	1,053,000	1,053,000	4,509,000
（C）法政大学 国際文化学部	240,000	1,365,000	690,000	1,065,000	1,040,000	4,400,000

※各大学のウェブサイトから引用

資料 22　アスリート選抜入試　入試概要

「アスリート選抜入試」は、立教大学の建学の精神に基づいて、知性・感性・身体のバランスが取れた、幅広い視野と総合的な判断力を備えた人材の育成を目的としています。スポーツ競技の実績が優秀であるだけでなく、人格的にも優れ学業に対する高い意欲を持つ者を選抜し、立教大学体育会各部をリードするとともに立教大学生の模範と成り得る学生を育てたい、と考えています。

» 全学部

募集人員	出願資格
全学部 全学部とも若干名	次の１～４の条件をすべて満たす者。ただし、文学部文学科英米文学専修、経営学部国際経営学科、異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科は次の１．２．３．５の条件を満たす者。 １．本学への入学を強く希望し、入学後、学業と体育会でのスポーツ活動とを両立させる強い意欲を持つ者。 ２．次の (a)・(b) のいずれかに該当する者。 (a) 2022年４月から2023年３月までに高等学校（中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部を含む。以下同じ）を卒業する者で、高等学校第２学年末までの全体の評定平均値が3.5以上のもの。 ※ 理学部各学科を志望する者は、(a) の条件に加え、各学科が指定する下記の科目のうち、高等学校第２学年末までに履修した科目の評定平均値が、当該学科の定める評定平均値以上の者。 ① 数学科：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ａ、数学Ｂを指定科目とする。理数数学Ⅰ、理数数学Ⅱ、理数数学特論履修者は上記科目に相当する科目に置き換えることができる（理数数学特論を履修していない場合は、出願前に問い合わせてください）。履修した科目の評定平均値が 4.2 以上の者。 ② 物理学科：物理基礎、物理を指定科目とする。理数物理履修者は上記科目に相当する科目に置き換えることができる。履修した科目の評定平均値が 4.0 以上の者。 ③ 化学科：化学基礎、化学を指定科目とする。理数化学履修者は上記科目に相当する科目に置き換えることができる。履修した科目の評定平均値が 4.0 以上の者。 ④ 生命理学科：化学基礎、化学、生物基礎、生物を指定科目とする。理数化学、理数生物履修者は上記科目に相当する科目に置き換えることができる。履修した科目の評定平均値が 4.0 以上の者。 ※ 理学部入学後の授業は、「数学Ⅲ」の履修を前提として行います。 (b) 本学において、個別の入学資格審査により、上記 (a) に準ずると認められる者（詳細は、下記を参照すること）。 ３．募集競技種目において、高等学校等上記出願条件２に該当する教育課程在学中の競技実績が次の (a) ～ (d) のいずれかに該当する者。 (a) オリンピック、世界選手権、IF（インターナショナル・フェデレーション）主催の国際大会、およびこれらに相当する国際大会に出場した者。 (b) 全国高等学校総合体育大会、全国高等学校選手権大会、全国高等学校選抜大会、国民体育大会、およびこれらに相当する全国大会において、16位以上の成績を収めた者。団体競技の場合は、16位以上の成績を収めたチームで、正選手として出場した者。 (c) 各地域のブロック大会において、８位以上の成績を収めた者。団体競技の場合は、８位以上の成績を収めたチームで、正選手として出場した者。 ※各地域のブロック大会とは、北海道（ただし、都道府県大会と同等の大会は除く）、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州などの地区大会を指す。 (d) その他、上記 (a) ～ (c) と同等以上の実績を、公式競技記録等により証明できる者。 ※ (a) ～ (c) について、国公立高等学校大会、私立高等学校大会などは競技実績の対象とはなりません。 ※ (a) ～ (d) について、パラリンピック種目の競技大会は競技実績の対象とはなりません。 ※ 出願条件３.に該当しない競技実績についても、自由選抜入試で出願できる場合があります。 ４．次の英語資格・検定試験のいずれかを受験し、スコアを提出できる。 ▶利用できる英語資格・検定試験については、詳細を別途参照すること。 (a) ケンブリッジ英語検定 (b) 実用英語技能検定［英検］ (c) GTEC (d) IELTS（Academic Module） (e) TEAP (f) TEAP CBT (g) TOEFL iBT ※ 英語資格・検定試験の成績は４技能スコアのみ有効とする。 ※ いずれも出願期間の初日から遡って２年以内に受験したものを有効とする。 ５．次の英語資格・検定試験のいずれかの成績を取得している者。 ▶利用できる英語資格・検定試験については、詳細を別途参照すること。 (a) ケンブリッジ英語検定スコア140点以上 (b) 実用英語技能検定［英検］スコア1,950点以上 (c) GTECスコア960点以上 (d) IELTS（Academic Module）オーバーオール・バンド・スコア4.0以上 (e) TEAPスコア225点以上 (f) TEAP CBTスコア420点以上 (g) TOEFL iBTスコア42点以上 ※ 英語資格・検定試験の成績は４技能スコアのみ有効とする。 ※ いずれも出願期間の初日から遡って２年以内に受験したものを有効とする。 【出願条件２ (b) の詳細内容について】 （１）外国において、学校教育における12年の課程を2022年４月から2023年３月31日までに修了見込みの者。 （２）日本国内において、高等学校に対応する外国の学校の課程（その修了者が当該外国の学校教育における12年の課程を修了したとされるものに限る。）と同等の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設の当該課程を2022年４月から2023年３月31日までに修了見込みの者。 （３）文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2022年４月から2023年３月31日までに修了見込みの者。 （４）文部科学大臣が指定する国際的な評価団体（WASC、CIS、ACSI）の認定を受けた教育施設の12年の課程を2022年４月から2023年３月31日までに修了見込みの者。 （５）その他、本学において、2022年４月から2023年３月31日までに高等学校を卒業した者と同等以上の学力が備わる見込みがあると認めた者で、2023年３月31日までに満18歳に達するもの。 ※ここでいう「高等学校を卒業した者と同等以上の学力が備わる見込みがあると認めた者」には、高等専門学校の３年次を修了見込みの者、専修学校の高等課程を修了見込みの者、高等学校卒業程度認定試験に合格見込みの者は含めない。

募集競技種目 ※五十音順

合気道	水泳競技	バレーボール（男子）
アイスホッケー（男子）	スキー	バレーボール（女子）
アメリカンフットボール（男子）	スピードスケート	ハンドボール（男子）
空手道	相撲	フィギュアスケート
弓道	ソフトテニス	フェンシング
剣道	体操競技（新体操を含む）	ボート
硬式野球（男子）	卓球（男子）	ボクシング（男子）
ゴルフ	卓球（女子）	ホッケー
サッカー（男子）	テニス	洋弓（アーチェリー）
山岳	軟式野球（男子）	ヨット
自転車競技	日本拳法	ラグビー（男子）
射撃	馬術	ラクロス（男子）
柔道	バスケットボール（男子）	ラクロス（女子）
重量挙（ウエイトリフティング）	バスケットボール（女子）	陸上競技
準硬式野球（男子）	バドミントン（男子）	レスリング
少林寺拳法	バドミントン（女子）	

選考方法

第１次選考
- 出願書類をもとに書類選考

第２次選考
- 小　論　文：与えられたテーマについて書かれた小論文から、論理的構成力・文章表現力・知的素養・独創的発想などを総合的に評価します。
- 面接試験

【出願書類】入学志願票／志望理由書／調査書／競技実績証明書および証明資料／証明書類

資料 23　都内私立大学で学部名に「国際」等を含む学部一覧

大学名	学部名	備　考
立教大学	異文化コミュニケーション学部	
青山学院大学	国際政治経済学部	競合校
上智大学	国際教養学部	学部名に「国際」
上智大学	総合グローバル学部	競合校
法政大学	国際文化学部	競合校
法政大学	グローバル教養学部	学部名に「グローバル」
明治大学	情報コミュニケーション学部	学部名に「コミュニケーション」
明治大学	国際日本学部	競合校
早稲田大学	国際教養学部	競合校
中央大学	国際情報学部	学部名に「国際」／2019 設置
中央大学	国際経営学部	学部名に「国際」／2019 設置
学習院大学	国際社会科学部	学部名に「国際」
国際基督教大学	教養学部	SGU 選定校
明治学院大学	国際学部	学部名に「国際」
創価大学	国際教養学部	学部名に「国際」
東洋大学	国際観光学部	学部名に「国際」
東洋大学	国際学部	学部名に「国際」

※一般社団法人日本私立大学連盟データライブラリから抽出

○資料 24　中教審大学振興部会【第７回／参考資料１】18 歳人口と高等教育機関への進学率等の推移

１　書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 24

２　出典

文部科学省ウェブサイト

３　書類等の利用範囲

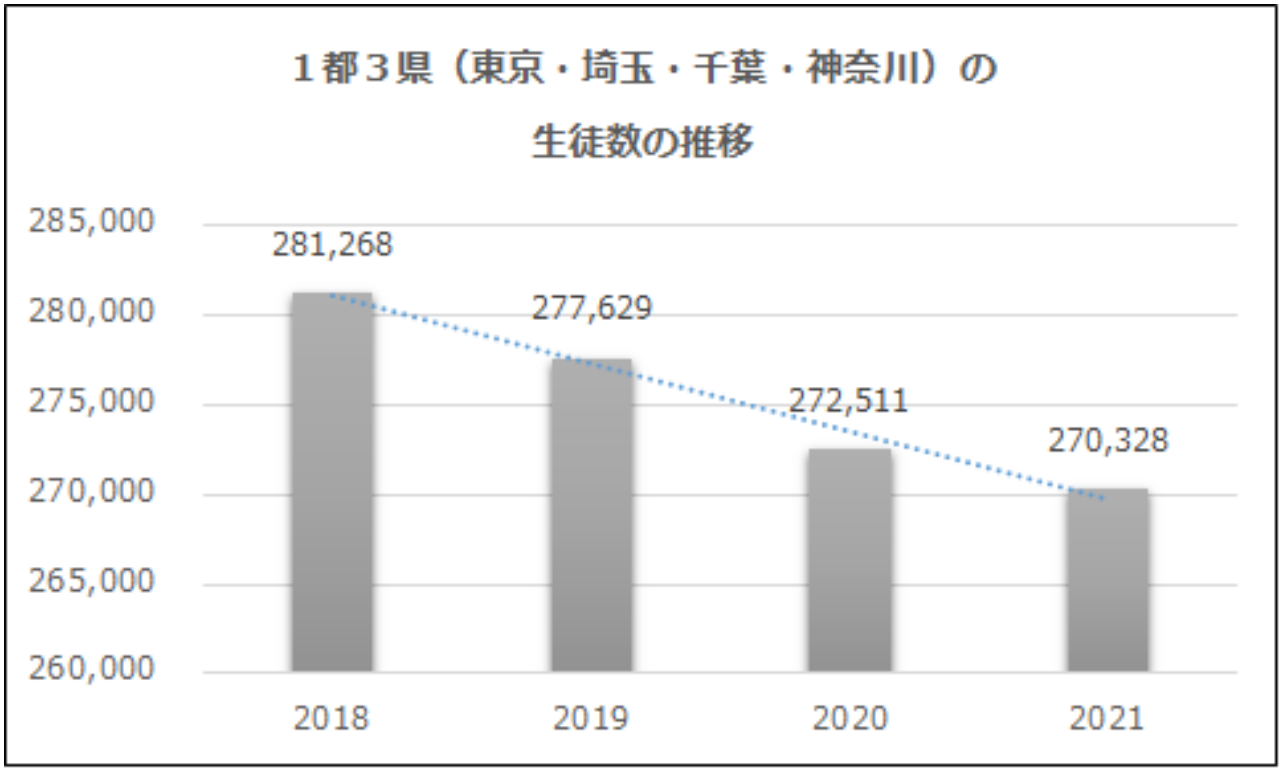
中央教育審議会大学分科会大学振興部会【第７回／参考資料１（P161)】

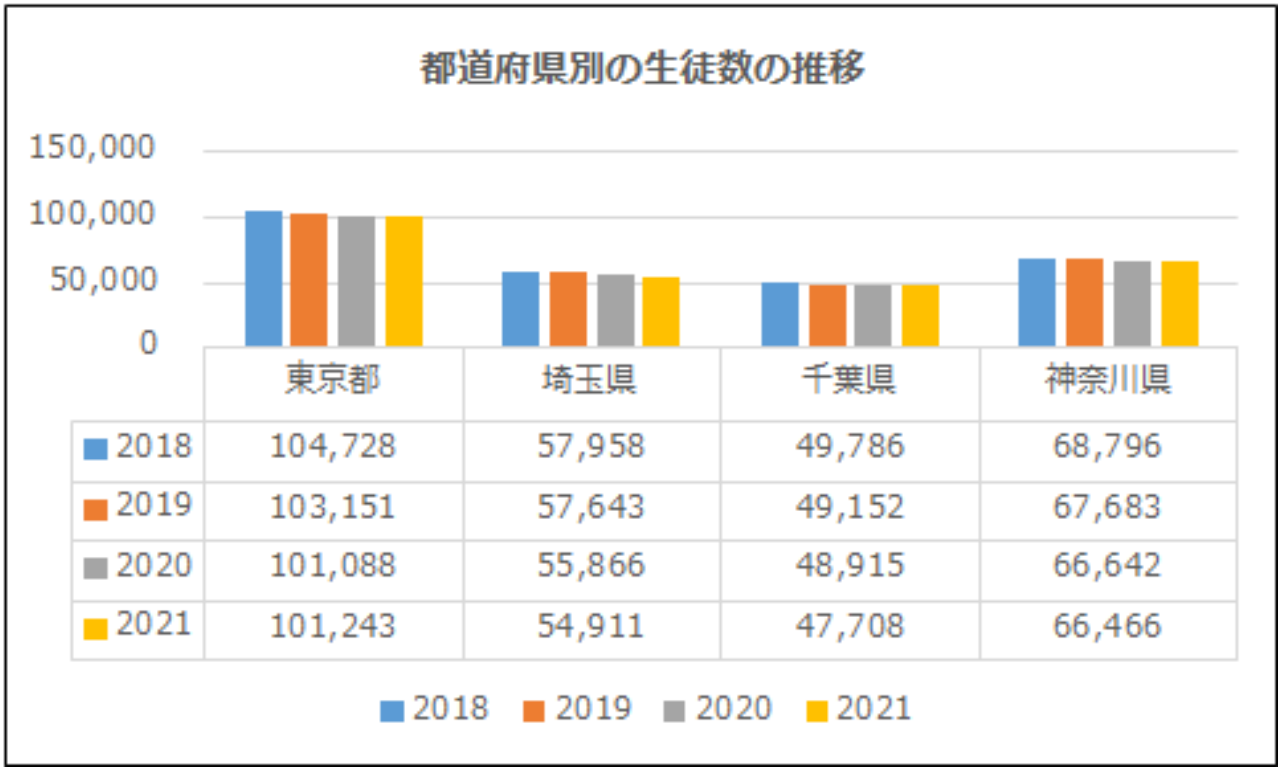
https://www.mext.go.jp/kaigisiryo/content/221205-mxt_koutou01-000026276_8.pdf

４　その他の説明

18 歳人口の推移を説明するため、上記資料を引用した。

資料 25　東京、埼玉、千葉及び神奈川の生徒数の推移
（第３学年及び第４学年。全ての科を含む。）

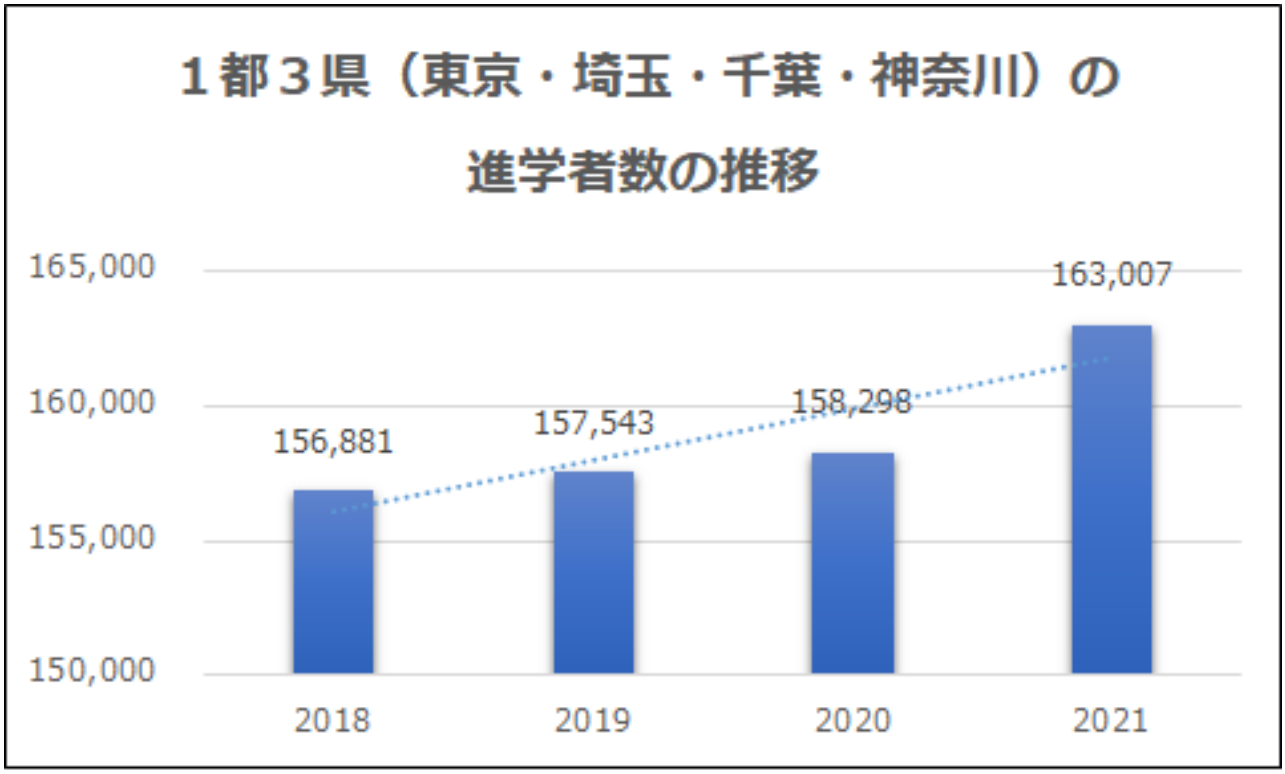


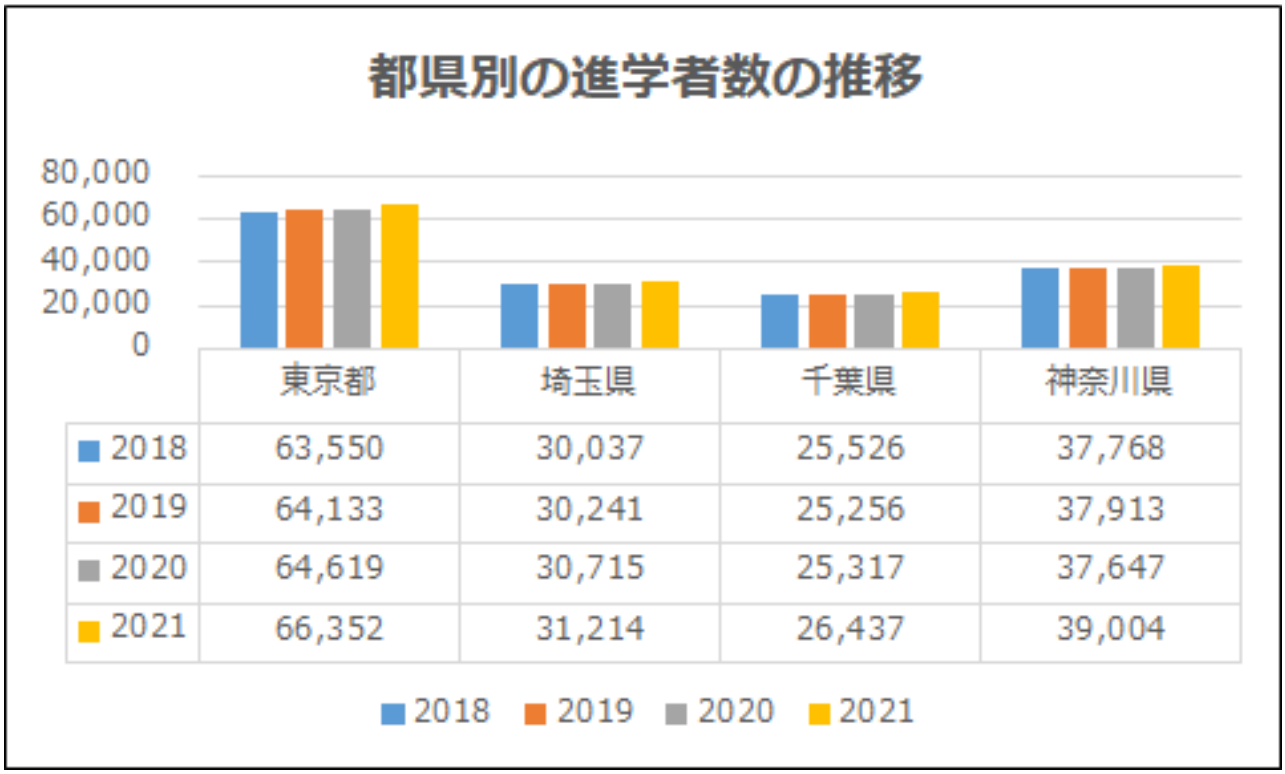


	東京都	埼玉県	千葉県	神奈川県
2018	104,728	57,958	49,786	68,796
2019	103,151	57,643	49,152	67,683
2020	101,088	55,866	48,915	66,642
2021	101,243	54,911	47,708	66,466

※学校基本調査「都道府県別　学科別学年別生徒数（本科）」から抽出

資料 26　東京、埼玉、千葉及び神奈川の進学者数の推移





	東京都	埼玉県	千葉県	神奈川県
2018	63,550	30,037	25,526	37,768
2019	64,133	30,241	25,256	37,913
2020	64,619	30,715	25,317	37,647
2021	66,352	31,214	26,437	39,004

※学校基本調査「都道府県別大学・短期大学等への進学者数」から抽出

資料 27　競合校の教育研究分野、留学の有無、併願者

大学名	教育研究分野	留学	併願者 （受験者）
【参考】本学部	言語、通訳翻訳、コミュニケーション、グローバル・スタディーズ（国際協力・開発、多文化共生、文化人類学等）	２年次秋学期に海外留学が必修	―
（A）青山学院大学 国際政治経済学部 国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	言語、地域文化・比較文化、 コミュニケーション	毎年 40 名程度の学生が学部及び大学の留学制度を利用 （収容定員 296 名）	75 名
（B）上智大学 総合グローバル学部	グローバル・スタディ―ズ （国際関係論（国際政治論、市民社会・国際協力論）、地域研究（アジア研究、中東・アフリカ研究））	毎年 60 名程度の学生が学部及び大学の留学制度を利用 （収容定員 880 名）	126 名
（C）法政大学 国際文化学部	国際文化、言語文化、表象文化、情報文化	２年次秋学期に海外の教育機関への留学が必修	192 名
（D）明治大学 国際日本学部	日本の産業・社会・文化、 世界の文化・思想と国際関係	毎年 60 名程度の学生が学部及び大学の留学制度を利用 （収容定員 1,600 名）	288 名
（E）早稲田大学 国際教養学部	リベラルアーツ、幅広い分野の基礎的な教養、多元的な視点、論理的思考力、倫理観、 国際感覚、優れた語学力	１年間の海外留学が必修	160 名

※各大学のウェブサイトから引用

○資料 28　異文化コミュニケーション学部受験者の併願状況（私立大学）

１　書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 28

２　出典

本学が株式会社 KEI アドバンスに依頼した調査報告書

３　書類等の利用範囲

異文化コミュニケーション学部の受験者の併願状況（私立大）

４　その他の説明

公表することを前提とした調査報告書ではないため、公表を差し控える。

資料29　本学部及び競合校（計６大学）の2018年度～2022年度における入学志願状況等

大学名	学部学科名	2018年度							2019年度						
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質倍率	定員充足率	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質倍率	定員充足率
立教大学	異文化コミュニケーション学部	145	2,711	2,563	354	152	7.24	1.05	145	2,683	2,502	290	143	8.63	0.99
青山学院大学	国際政治経済学部 国際コミュニケーション学科	74	1,431	1,213	148	76	8.20	1.03	74	1,366	1,136	158	68	7.19	0.92
上智大学	総合グローバル学部	220	2,727	2,666	467	228	5.71	1.04	220	2,268	2,204	488	224	4.52	1.02
法政大学	国際文化学部	249	4,115	3,844	533	270	7.21	1.08	249	4,482	4,193	555	246	7.55	0.99
明治大学	国際日本学部	400	6,565	6,424	1,193	338	5.38	0.85	400	5,525	5,363	1,314	372	4.08	0.93
早稲田大学	国際教養学部	600	4,390	4,138	1,160	654	3.57	1.09	600	4,682	4,228	961	508	4.40	0.85

大学名	学部学科名	2020年度							2021年度						
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質倍率	定員充足率	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質倍率	定員充足率
立教大学	異文化コミュニケーション学部	145	2,107	1,858	366	150	5.08	1.03	145	3,064	2,769	427	140	6.48	0.97
青山学院大学	国際政治経済学部 国際コミュニケーション学科	74	1,220	1,083	130	71	8.33	0.96	74	646	535	169	73	3.17	0.99
上智大学	総合グローバル学部	220	2,520	2,464	574	220	4.29	1.00	220	2,567	2,491	722	231	3.45	1.05
法政大学	国際文化学部	249	4,052	3,725	586	250	6.36	1.00	254	3,750	3,511	691	251	5.08	0.99
明治大学	国際日本学部	400	6,538	6,289	1,603	348	3.92	0.87	400	6,796	6,549	1,750	347	3.74	0.87
早稲田大学	国際教養学部	600	4,295	4,040	1,172	658	3.45	1.10	600	3,301	3,127	833	409	3.75	0.68

大学名	学部学科名	2022年度						
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質倍率	定員充足率
立教大学	異文化コミュニケーション学部	145	2,744	2,463	465	162	5.30	1.12
青山学院大学	国際政治経済学部 国際コミュニケーション学科	74	995	816	194	78	4.21	1.05
上智大学	総合グローバル学部	220	2,275	2,215	703	226	3.15	1.03
法政大学	国際文化学部	254	4,595	4,277	748	259	5.72	1.02
明治大学	国際日本学部	400	7,555	7,343	2,128	408	3.45	1.02
早稲田大学	国際教養学部	600	3,371	2,997	1,051	516	2.85	0.86

※出典：日本私立大学連盟データライブラリ「学生・教職員数等調査　Ⅱ-08学部別入学状況」
→学部別集計であるため、青山学院大学については、同大学ウェブサイトから引用
→5月1日現在の調査であるため、秋入学者が反映されておらず、他の資料の数字と一致しないことがある。

※青山学院大学の各年度の受験者数は、ウェブサイトで確認不可能のため「一般選抜」及び「共通テスト利用」のみ。

※青山学院大学の2020年度の志願者数及び合格者数は、ウェブサイトで確認不可能のため「一般選抜」及び「共通テスト利用」のみ。

資料 30　競合校の一般選抜・共通テスト（大学入試センター試験）利用入試 志願者（募集人員）

大学名	一般選抜・共通テスト（大学入試センター試験）利用入試 志願者・募集人員・倍率					
	区分	2018年度入試	2019年度入試	2020年度入試	2021年度入試	2022年度入試
（A）青山学院大学 国際政治経済学部 国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	志願者	1,351	1,269	1,220	573	932
	募集人員	約62	約62	約62	約62	約62
	倍率	21.79	20.47	19.68	9.24	15.03
（B）上智大学 総合グローバル学部	志願者	2,371	1,863	2,129	2,113	1,847
	募集人員	140	140	140	140	140
	倍率	16.94	13.31	15.21	15.09	13.19
（C）法政大学 国際文化学部	志願者	3,775	4,189	3,744	3,589	4,356
	募集人員	152	152	147	150	150
	倍率	24.84	27.56	25.47	23.93	29.04
（D）明治大学 国際日本学部	志願者	6,567	6,226	6,145	6,392	7,161
	募集人員	288	288	288	288	288
	倍率	22.80	21.62	21.34	22.19	24.86
（E）早稲田大学 国際教養学部	志願者	2,749	2,994	2,578	1,622	1,521
	募集人員	175	175	200	200	200
	倍率	15.71	17.11	12.89	8.11	7.61

※各大学のウェブサイトから引用

資料 31　既設学部の入試実施状況

◯2018 年度～2022 年度入試結果まとめ

・延べ志願者

入学年度	延べ志願者									
	本学部	文	経済	理	社会	法	観光	ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉	経営	現代心理
2018	2,706	13,713	10,157	6,362	9,998	7,690	6,503	6,161	7,336	4,988
2019	2,677	11,966	11,467	6,335	9,021	7,972	5,118	6,378	6,783	5,017
2020	2,098	11,604	9,460	6,847	8,872	6,503	4,736	3,966	6,912	4,446
2021	3,062	13,590	9,135	6,549	9,586	7,477	4,463	5,108	6,213	4,591
2022	2,743	12,951	8,480	6,391	8,885	9,236	4,124	4,447	5,293	4,392

・延べ志願者／入学定員

入学年度	延べ志願者／入学定員									
	本学部	文	経済	理	社会	法	観光	ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉	経営	現代心理
2018	18.7	15.2	14.9	21.8	19.6	13.1	17.6	14.7	19.1	15.6
2019	18.5	13.3	16.9	21.7	17.7	13.6	13.8	15.3	17.6	15.7
2020	14.5	12.9	13.9	23.4	17.4	11.1	12.8	9.5	18.0	13.9
2021	21.1	15.1	13.4	22.4	18.8	12.8	12.1	12.2	16.1	14.4
2022	18.9	14.1	12.4	21.9	17.1	15.8	11.1	10.6	13.7	13.8

・実志願者

入学年度	実志願者									
	本学部	文	経済	理	社会	法	観光	ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉	経営	現代心理
2018	1,994	9,678	8,270	4,210	7,278	5,845	4,662	4,594	5,534	3,326
2019	1,990	8,695	9,403	4,239	6,586	5,983	3,841	4,843	5,222	3,345
2020	1,607	8,493	7,872	4,576	6,656	4,998	3,605	3,102	5,409	2,971
2021	1,986	8,267	6,454	4,046	5,971	4,861	2,737	3,368	4,217	2,664
2022	1,841	7,942	5,927	3,970	5,537	6,034	2,584	2,968	3,650	2,591

・実志願者／入学定員

入学年度	実志願者／入学定員									
	本学部	文	経済	理	社会	法	観光	ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉	経営	現代心理
2018	13.8	10.8	12.2	14.4	14.3	10.0	12.6	11.0	14.4	10.4
2019	13.7	9.7	13.8	14.5	12.9	10.2	10.4	11.6	13.6	10.5
2020	11.1	9.4	11.6	15.7	13.1	8.5	9.7	7.4	14.0	9.3
2021	13.7	9.2	9.5	13.9	11.7	8.3	7.4	8.1	11.0	8.4
2022	12.7	8.7	8.7	13.6	10.7	10.3	7.0	7.1	9.5	8.1

・併願者の割合等

入学年度	実志願者	併願者	併願者の割合
2018	55,554	28,336	51.0%
2019	54,147	28,173	52.0%
2020	49,289	24,722	50.2%
2021	44,571	19,977	44.8%
2022	43,044	19,717	45.8%

・定着率

入学年度	合格者	入学者	定着率
2018	11,292	4,519	40.0%
2019	11,886	4,580	38.5%
2020	12,793	4,535	35.4%
2021	13,378	4,579	34.2%
2022	14,032	4,654	33.2%

◯2022 年度入試結果

学部	学科・専修	志願者			受験者			合格者			入学者
		延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	実人数
文	キリスト教	515	324	167	494	315	162	128	98	35	50
	史	2,693	1,604	528	2,584	1,568	512	766	579	119	214
	教育	1,905	1,068	302	1,850	1,046	294	459	320	52	111
	文	7,838	4,946	2,212	7,613	4,863	2,142	2,167	1,673	469	540
	合計	12,951	7,942	3,209	12,541	7,792	3,110	3,520	2,670	675	915
経済	経済	4,672	3,178	1,390	4,541	3,124	1,360	1,589	1,263	339	322
	会計ﾌｧｲﾅﾝｽ	1,673	1,129	579	1,638	1,115	568	610	477	144	174
	経済政策	2,135	1,620	1,048	2,109	1,607	1,030	729	616	283	187
	合計	8,480	5,927	3,017	8,288	5,846	2,958	2,928	2,356	766	683
理	数	1,370	884	110	1,336	869	108	435	336	21	63
	物理	1,707	1,040	112	1,664	1,023	110	543	404	29	80
	化	1,686	1,067	109	1,648	1,051	108	581	447	27	68
	生命理	1,628	979	127	1,592	963	124	536	380	27	76
	合計	6,391	3,970	458	6,240	3,906	450	2,095	1,567	104	287
社会	社会	3,399	2,170	1,093	3,303	2,133	1,065	842	664	247	188
	現代文化	2,713	1,659	948	2,643	1,626	928	632	466	202	167
	ﾒﾃﾞｨｱ社会	2,773	1,708	819	2,728	1,694	809	623	477	178	184
	合計	8,885	5,537	2,860	8,674	5,453	2,802	2,097	1,607	627	539
法	法	4,903	3,060	1,219	4,747	3,005	1,183	1,375	1,059	270	314
	政治	1,506	1,041	587	1,466	1,020	572	441	369	143	107
	国際ビジネス法	2,827	1,933	1,339	2,771	1,918	1,317	639	546	249	161
	合計	9,236	6,034	3,145	8,984	5,943	3,072	2,455	1,974	662	582
観光	観光	1,964	1,237	697	1,920	1,220	686	554	430	157	194
	交流文化	2,160	1,347	942	2,121	1,336	928	539	426	167	171
	合計	4,124	2,584	1,639	4,041	2,556	1,614	1,093	856	324	365
ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉	福祉	1,518	1,026	635	1,479	1,009	624	506	389	157	150
	ｺﾐｭﾆﾃｨ政策	1,488	1,092	753	1,462	1,086	744	458	386	177	150
	ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ	1,441	850	315	1,415	843	310	321	251	58	109
	合計	4,447	2,968	1,703	4,356	2,938	1,678	1,285	1,026	392	409
経営	経営	3,529	2,468	1,209	3,434	2,432	1,178	649	554	203	231
	国際経営	1,764	1,182	694	1,720	1,167	684	407	340	111	158
	合計	5,293	3,650	1,903	5,154	3,599	1,862	1,056	894	314	389
現代心理	心理	1,990	1,299	435	1,941	1,281	421	367	317	81	141
	映像身体	2,402	1,292	501	2,338	1,277	492	440	352	89	180
	合計	4,392	2,591	936	4,279	2,558	913	807	669	170	321
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	2,743	1,841	847	2,679	1,802	829	468	413	123	164
	合計	2,743	1,841	847	2,679	1,802	829	468	413	123	164
総　計		66,942	43,044	19,717	65,236	42,393	19,288	17,804	14,032	4,157	4,654

※実人数は、入試種別に限らず、同じ学科を複数回受験した場合を１名としてカウントした
※他学科併願者数は、実人数の内、他学科も受験している人数を算出した
※アスリート選抜・自由選抜・国際コース選抜は、１次が書類選考になるため、志願者＝受験者とした。
※各種推薦・外国人留学生（書類選考）入試は選考がないため、志願者＝受験者＝合格者＝入学者となっている。
※アスリート選抜入試受験者148名は出願学科が決まっていないため、志願者数に含まれていない。
※指定校観光・異文化で各１名辞退あり
※指定校推薦で9月入学者2名（異文化）を含む

◯2021 年度入試結果

学部	学科・専修	志願者			受験者			合格者			入学者
		延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	実人数
文	キリスト教	430	281	163	416	277	160	126	103	32	47
	史	2,868	1,726	577	2,790	1,703	563	694	546	114	209
	教育	2,022	1,118	358	1,959	1,093	349	457	333	72	110
	文	8,270	5,142	2,318	8,049	5,055	2,275	2,002	1,576	441	533
	合計	13,590	8,267	3,416	13,214	8,128	3,347	3,279	2,558	659	899
経済	経済	5,207	3,576	1,522	5,043	3,508	1,479	1,421	1,175	285	322
	会計ﾌｧｲﾅﾝｽ	1,767	1,201	617	1,733	1,192	606	522	427	137	159
	経済政策	2,161	1,677	1,015	2,112	1,649	991	605	530	202	188
	合計	9,135	6,454	3,154	8,888	6,349	3,076	2,548	2,132	624	669
理	数	1,131	739	92	1,107	730	88	452	336	20	73
	物理	1,908	1,160	100	1,860	1,152	100	556	428	20	78
	化	1,703	1,053	144	1,661	1,042	143	552	421	31	84
	生命理	1,807	1,094	143	1,759	1,078	142	561	418	28	73
	合計	6,549	4,046	479	6,387	4,002	473	2,121	1,603	99	308
社会	社会	3,580	2,304	1,148	3,475	2,267	1,121	758	584	192	168
	現代文化	3,067	1,884	1,110	2,999	1,863	1,092	656	506	242	168
	ﾒﾃﾞｨｱ社会	2,939	1,783	872	2,875	1,761	861	560	427	162	169
	合計	9,586	5,971	3,130	9,349	5,891	3,074	1,974	1,517	596	505
法	法	4,950	3,093	1,191	4,809	3,046	1,165	1,549	1,156	295	329
	政治	1,537	1,014	515	1,496	1,001	504	494	382	129	122
	国際ビジネス法	990	754	502	975	746	494	383	325	139	130
	合計	7,477	4,861	2,208	7,280	4,793	2,163	2,426	1,863	563	581
観光	観光	2,883	1,734	936	2,816	1,703	917	540	403	125	204
	交流文化	1,580	1,003	650	1,550	993	643	488	374	125	166
	合計	4,463	2,737	1,586	4,366	2,696	1,560	1,028	777	250	370
ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉	福祉	1,562	1,056	631	1,533	1,041	623	500	389	140	153
	ｺﾐｭﾆﾃｨ政策	2,299	1,599	1,052	2,224	1,565	1,029	469	392	180	146
	ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ	1,247	713	217	1,228	707	213	321	230	37	108
	合計	5,108	3,368	1,900	4,985	3,313	1,865	1,290	1,011	357	407
経営	経営	4,513	3,021	1,513	4,416	2,973	1,474	607	520	190	239
	国際経営	1,700	1,196	685	1,666	1,178	675	373	319	110	142
	合計	6,213	4,217	2,198	6,082	4,151	2,149	980	839	300	381
現代心理	心理	2,126	1,339	469	2,071	1,319	458	422	329	68	134
	映像身体	2,465	1,325	566	2,415	1,316	561	521	385	104	181
	合計	4,591	2,664	1,035	4,486	2,635	1,019	943	714	172	315
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	3,062	1,986	871	2,990	1,962	859	431	364	122	144
	合計	3,062	1,986	871	2,990	1,962	859	431	364	122	144
総　計		69,774	44,571	19,977	68,027	43,920	19,585	17,020	13,378	3,742	4,579

※実人数は、入試種別に限らず、同じ学科を複数回受験した場合を１名としてカウントした

※他学科併願者数は、実人数の内、他学科も受験している人数を算出した

※アスリート選抜・自由選抜・国際コース選抜は、１次が書類選考になるため、志願者＝受験者とした。

※各種推薦・外国人留学生（書類選考）入試は選考がないため、志願者＝受験者＝合格者＝入学者となっている。

※アスリート選抜入試受験者159名は出願学科が決まっていないため、志願者数・受験者数に含まれていない。

※指定校GLAPで１名辞退あり

※指定校推薦で9月入学者1名（異文化）を含む

◯2020 年度入試結果

学部	学科・専修	志願者			受験者			合格者			入学者
		延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	実人数
文	キリスト教	540	416	251	521	412	242	134	122	39	47
	史	2,636	1,885	743	2,554	1,849	712	615	562	115	211
	教育	1,591	1,098	405	1,531	1,073	389	417	355	82	109
	文	6,837	5,094	2,442	6,626	4,981	2,349	1,724	1,527	443	515
	合計	11,604	8,493	3,841	11,232	8,315	3,692	2,890	2,566	679	882
経済	経済	5,113	4,165	2,270	4,909	4,034	2,166	1,182	1,090	272	326
	会計ﾌｧｲﾅﾝｽ	1,981	1,642	953	1,919	1,606	922	493	459	130	172
	経済政策	2,366	2,065	1,476	2,300	2,015	1,415	510	474	165	169
	合計	9,460	7,872	4,699	9,128	7,655	4,503	2,185	2,023	567	667
理	数	1,187	840	82	1,149	817	77	310	262	11	59
	物理	1,981	1,269	110	1,914	1,237	107	503	418	15	77
	化	1,928	1,300	148	1,890	1,281	147	524	430	32	79
	生命理	1,751	1,167	101	1,686	1,134	97	476	379	19	67
	合計	6,847	4,576	441	6,639	4,469	428	1,813	1,489	77	282
社会	社会	3,343	2,500	1,354	3,180	2,388	1,268	629	555	183	167
	現代文化	2,629	2,022	1,303	2,530	1,968	1,259	526	455	175	172
	ﾒﾃﾞｨｱ社会	2,900	2,134	1,158	2,780	2,066	1,107	470	415	135	167
	合計	8,872	6,656	3,815	8,490	6,422	3,634	1,625	1,425	493	506
法	法	3,975	2,979	1,264	3,877	2,923	1,215	1,278	1,098	204	331
	政治	1,410	1,120	659	1,375	1,099	643	457	414	116	138
	国際ビジネス法	1,118	899	584	1,103	892	571	323	295	111	109
	合計	6,503	4,998	2,507	6,355	4,914	2,429	2,058	1,807	431	578
観光	観光	2,376	1,820	1,197	2,305	1,773	1,148	454	401	153	189
	交流文化	2,360	1,785	1,269	2,299	1,746	1,238	419	380	148	176
	合計	4,736	3,605	2,466	4,604	3,519	2,386	873	781	301	365
ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉	福祉	1,283	1,035	601	1,243	1,009	583	352	322	97	154
	ｺﾐｭﾆﾃｨ政策	1,398	1,174	830	1,358	1,145	802	376	352	132	148
	ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ	1,285	893	349	1,254	873	335	220	198	35	106
	合計	3,966	3,102	1,780	3,855	3,027	1,720	948	872	264	408
経営	経営	4,717	3,717	2,122	4,568	3,622	2,032	544	518	156	231
	国際経営	2,195	1,692	1,005	2,128	1,663	973	321	303	102	151
	合計	6,912	5,409	3,127	6,696	5,285	3,005	865	821	258	382
現代心理	心理	2,149	1,499	571	2,084	1,463	543	332	301	59	143
	映像身体	2,297	1,472	682	2,221	1,444	653	437	369	112	174
	合計	4,446	2,971	1,253	4,305	2,907	1,196	769	670	171	317
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	2,098	1,607	793	2,059	1,583	773	364	339	103	148
	合計	2,098	1,607	793	2,059	1,583	773	364	339	103	148
総　計		65,444	49,289	24,722	63,363	48,096	23,766	14,390	12,793	3,344	4,535

※実人数は、入試種別に限らず、同じ学科を複数回受験した場合を１名としてカウントした

※他学科併願者数は、実人数の内、他学科も受験している人数を算出した

※アスリート選抜・自由選抜・国際コース選抜は、１次が書類選考になるため、志願者＝受験者とした。

※各種推薦・外国人留学生（書類選考）入試は選考がないため、志願者＝受験者＝合格者＝入学者とした。

※アスリート選抜入試受験者216名は出願学科が決まっていないため、志願者数・受験者数に含まれていない。

※指定校推薦で2020年9月入学者はなし。

※文学部以外個別学部日程廃止

◯2019 年度入試結果

学部	学科・専修	志願者			受験者			合格者			入学者
		延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	実人数
文	キリスト教	471	356	178	463	351	176	114	106	34	46
	史	2,653	1,848	674	2,570	1,822	651	696	589	107	211
	教育	1,725	1,225	361	1,672	1,198	343	334	302	32	114
	文	7,117	5,266	2,360	6,904	5,164	2,288	1,669	1,464	380	533
	合計	11,966	8,695	3,573	11,609	8,535	3,458	2,813	2,461	553	904
経済	経済	5,170	4,200	2,401	4,993	4,089	2,306	1,028	944	214	319
	会計ﾌｧｲﾅﾝｽ	3,640	2,954	1,899	3,573	2,919	1,850	509	472	164	192
	経済政策	2,657	2,249	1,621	2,585	2,204	1,575	501	478	153	165
	合計	11,467	9,403	5,921	11,151	9,212	5,731	2,038	1,894	531	676
理	数	1,074	742	74	1,050	730	70	260	218	12	60
	物理	1,721	1,139	78	1,668	1,117	74	456	371	17	80
	化	1,585	1,074	111	1,539	1,053	106	438	351	25	71
	生命理	1,955	1,284	128	1,891	1,252	127	442	365	27	70
	合計	6,335	4,239	391	6,148	4,152	377	1,596	1,305	81	281
社会	社会	3,921	2,846	1,697	3,765	2,755	1,629	521	458	144	169
	現代文化	2,470	1,802	1,226	2,407	1,769	1,192	434	376	143	167
	ﾒﾃﾞｨｱ社会	2,630	1,938	1,107	2,549	1,891	1,076	431	381	124	171
	合計	9,021	6,586	4,030	8,721	6,415	3,897	1,386	1,215	411	507
法	法	5,031	3,656	1,631	4,903	3,591	1,579	1,130	993	184	344
	政治	1,614	1,236	678	1,578	1,211	658	411	370	91	107
	国際ビジネス法	1,327	1,091	768	1,304	1,079	750	304	284	87	129
	合計	7,972	5,983	3,077	7,785	5,881	2,987	1,845	1,647	362	580
観光	観光	3,242	2,368	1,548	3,162	2,318	1,495	454	419	140	198
	交流文化	1,876	1,473	1,135	1,825	1,432	1,097	408	356	123	171
	合計	5,118	3,841	2,683	4,987	3,750	2,592	862	775	263	369
ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉	福祉	2,537	1,965	1,268	2,461	1,928	1,230	401	361	114	152
	ｺﾐｭﾆﾃｨ政策	1,989	1,655	1,251	1,947	1,626	1,219	351	329	137	155
	ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ	1,852	1,223	490	1,816	1,210	480	231	205	40	111
	合計	6,378	4,843	3,009	6,224	4,764	2,929	983	895	291	418
経営	経営	4,943	3,802	2,151	4,803	3,714	2,085	533	504	160	236
	国際経営	1,840	1,420	855	1,792	1,396	827	307	291	83	149
	合計	6,783	5,222	3,006	6,595	5,110	2,912	840	795	243	385
現代心理	心理	2,722	1,867	783	2,624	1,826	750	313	287	39	144
	映像身体	2,295	1,478	677	2,226	1,448	654	400	338	80	171
	合計	5,017	3,345	1,460	4,850	3,274	1,404	713	625	119	315
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	2,677	1,990	1,023	2,626	1,965	995	292	274	59	145
	合計	2,677	1,990	1,023	2,626	1,965	995	292	274	59	145
総　計		72,734	54,147	28,173	70,696	53,058	27,282	13,368	11,886	2,913	4,580

※実人数は、入試種別に限らず、同じ学科を複数回受験した場合を１名としてカウントした

※他学科併願者数は、実人数の内、他学科も受験している人数を算出した

※アスリート選抜・自由選抜・国際コース選抜は、１次が書類選考になるため、志願者＝受験者とした。

※各種推薦・外国人留学生（書類選考）入試は選考がないため、志願者＝受験者＝合格者＝入学者となっている。

※アスリート選抜入試一次選考受験者203名は出願学科が決まっていないため、志願者数・受験者数に含まれていない。

※指定校推薦で9月入学者2名（異文化）を含む

◯2018 年度入試結果

学部	学科・専修	志願者			受験者			合格者			入学者
		延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	実人数
文	キリスト教	514	403	251	501	394	249	101	95	27	47
	史	2,523	1,718	554	2,461	1,693	543	617	518	70	203
	教育	2,013	1,335	475	1,958	1,313	459	335	285	48	110
	文	8,836	6,385	3,077	8,633	6,292	2,989	1,687	1,502	387	531
	合計	13,886	9,841	4,357	13,553	9,692	4,240	2,740	2,400	532	891
経済	経済	6,495	5,165	2,920	6,337	5,056	2,824	893	839	186	327
	会計ﾌｧｲﾅﾝｽ	1,392	1,123	669	1,367	1,110	654	313	284	52	165
	経済政策	2,270	1,982	1,405	2,220	1,941	1,362	404	391	93	174
	合計	10,157	8,270	4,994	9,924	8,107	4,840	1,610	1,514	331	666
理	数	1,291	886	80	1,255	869	80	266	232	15	64
	物理	1,852	1,171	76	1,778	1,145	73	463	393	19	76
	化	1,629	1,091	81	1,562	1,062	78	373	323	13	75
	生命理	1,590	1,062	116	1,543	1,042	113	421	355	18	70
	合計	6,362	4,210	353	6,138	4,118	344	1,523	1,303	65	285
社会	社会	4,025	2,920	1,712	3,873	2,840	1,643	571	499	157	181
	現代文化	2,510	1,883	1,234	2,426	1,840	1,197	383	348	108	169
	ﾒﾃﾞｨｱ社会	3,463	2,475	1,340	3,374	2,431	1,302	415	369	111	164
	合計	9,998	7,278	4,286	9,673	7,111	4,142	1,369	1,216	376	514
法	法	5,341	4,007	1,779	5,205	3,926	1,723	1,247	1,127	198	350
	政治	1,201	910	453	1,173	895	440	332	305	67	103
	国際ビジネス法	1,148	928	583	1,131	918	571	294	273	72	113
	合計	7,690	5,845	2,815	7,509	5,739	2,734	1,873	1,705	337	566
観光	観光	3,455	2,486	1,563	3,384	2,442	1,524	435	395	117	192
	交流文化	3,048	2,176	1,604	2,988	2,148	1,569	372	346	112	174
	合計	6,503	4,662	3,167	6,372	4,590	3,093	807	741	229	366
ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉	福祉	2,123	1,582	974	2,051	1,536	942	349	306	73	152
	ｺﾐｭﾆﾃｨ政策	2,318	1,892	1,337	2,272	1,866	1,309	334	319	105	148
	ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ	1,720	1,120	404	1,684	1,099	390	222	194	25	107
	合計	6,161	4,594	2,715	6,007	4,501	2,641	905	819	203	407
経営	経営	5,485	4,155	2,331	5,335	4,060	2,246	447	419	110	224
	国際経営	1,851	1,379	776	1,810	1,364	762	250	239	51	138
	合計	7,336	5,534	3,107	7,145	5,424	3,008	697	658	161	362
現代心理	心理	2,513	1,724	697	2,406	1,686	664	310	285	54	142
	映像身体	2,475	1,602	748	2,405	1,570	723	374	330	77	168
	合計	4,988	3,326	1,445	4,811	3,256	1,387	684	615	131	310
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	2,706	1,994	1,097	2,665	1,973	1,074	354	321	84	152
	合計	2,706	1,994	1,097	2,665	1,973	1,074	354	321	84	152
総　計		75,787	55,554	28,336	73,797	54,511	27,503	12,562	11,292	2,449	4,519

※実人数は、入試種別に限らず、同じ学科を複数回受験した場合を１名としてカウントした

※他学科併願者数は、実人数の内、他学科も受験している人数を算出した

※アスリート選抜（一次選考免除者）および自由選抜・国際コース選抜は、１次が書類選考になるため、志願者＝受験者とした。

※各種推薦・外国人留学生（書類選考）入試は選考がないため、志願者＝受験者＝合格者＝入学者となっている。

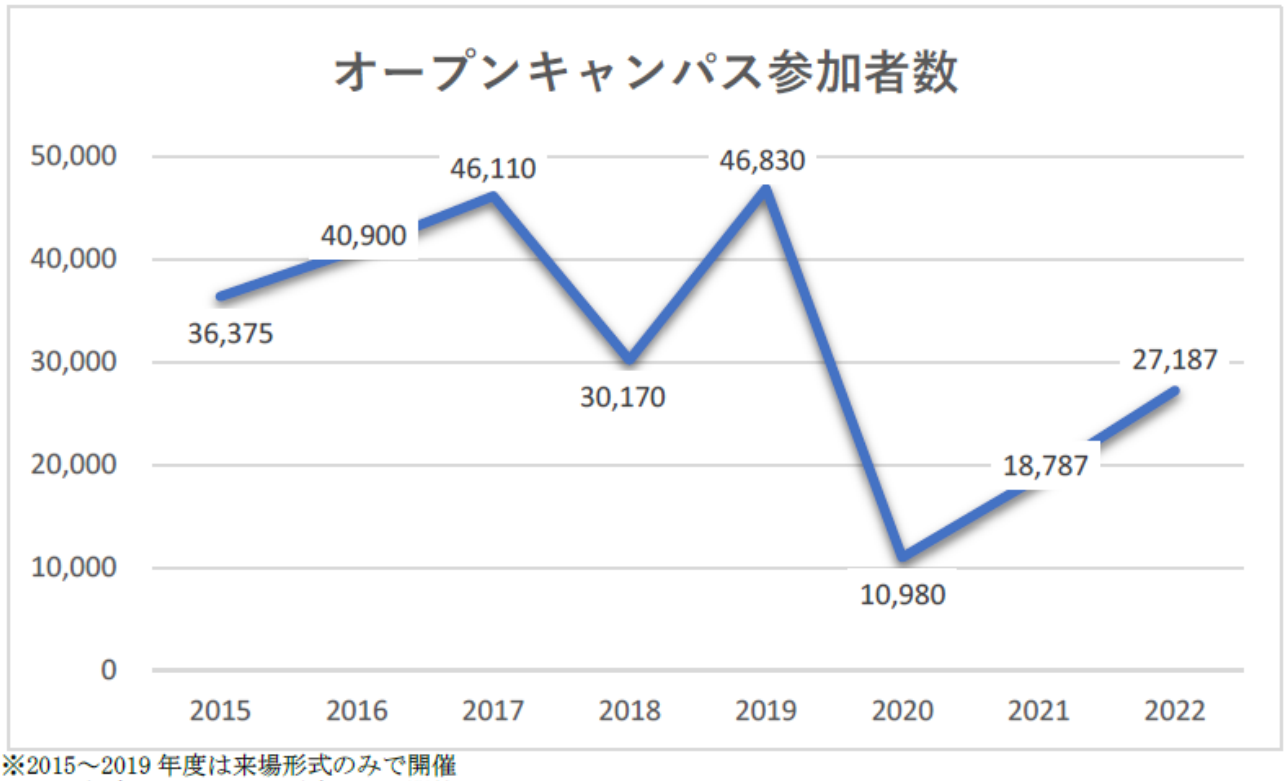
※アスリート選抜入試一次選考受験者214名は出願学科が決まっていないため、志願者数・受験者数に含まれていない。

※指定校推薦で9月入学者1名（異文化）を含む

資料 32　大学案内等の URL 一覧

種類	URL	本学部掲載ページ
大学案内	https://www.d-pam.com/rikkyo/206095/index.html#target/page_no=1	P90～93
学部案内	https://www.d-pam.com/rikkyo/206134/index.html#target/page_no=1	–
大学ウェブサイト内の本学部紹介ページ	https://www.rikkyo.ac.jp/undergraduate/ic/	–
学部ウェブサイト	http://icc.rikkyo.ac.jp/	–

資料 33　2022 年度オープンキャンパス参加者数



※2015～2019 年度は来場形式のみで開催
※2020 年度はオンライン形式のみで開催
※2021 年度・2022 年度は来場形式とオンライン形式のハイブリッド型開催

資料 34　2022 年度オープンキャンパスにおけるオンデマンド配信及び LIVE 授業（異文化コミュニケーション学部）

◯オンデマンド配信

タイトル	教員名	視聴者数
異文化コミュニケーション学部紹介	異文化コミュニケーション学部　浜崎 桂子教授	729
異文化コミュニケーションへのアプローチ	異文化コミュニケーション学部　丸山 千歌教授 × 学生	124
Communication and Social Reality	異文化コミュニケーション学部　石黒 武人准教授	192
世界への扉は１つじゃない！あなたはどの扉を開けますか？―日本語教育の多様性・多面性から世界を見てみよう―	異文化コミュニケーション学部　池田 伸子教授	153
Life of a Dual Language Pathway (DLP) Student	異文化コミュニケーション学部　MARTIN,RON R.准教授	132
コミュニケーションを学問する（8/1 LIVE配信アーカイブ）	異文化コミュニケーション学部　師岡 淳也教授	127
多様性の尊重とはーまずジェンダーから考えるー（8/2 LIVE配信アーカイブ）	異文化コミュニケーション学部　浜崎 桂子教授	106
立教生とチャット de TALK！異文化コミュニケーション学部編（8/2 LIVE配信アーカイブ）	オープンキャンパス学生スタッフ	96

◯LIVE 授業

開催日	学部	タイトル	教員名	視聴者数
LIVE授業（8/1）	異文化コミュニケーション学部	コミュニケーションを学問する	異文化コミュニケーション学部 師岡 淳也教授	304
LIVE授業（8/2）	異文化コミュニケーション学部	多様性の尊重とはーまずジェンダーから考えるー	異文化コミュニケーション学部 浜崎 桂子教授	179
LIVE授業（8/3）	異文化コミュニケーション学部	同時通訳ってどうやるの？　通訳トレーニングを体験しよう！	異文化コミュニケーション学部 松下 佳世教授	33

資料 35　オンデマンド配信及び LIVE 授業における 1 回あたりの視聴回数
（2022 年度オープンキャンパス）

◯オンデマンド配信

オンデマンド配信	本数	視聴回数（計）	1 回あたり	収容定員（2023）
社	2	968	484.00	2,076
営	3	1,037	345.67	1,540
済	4	1,087	271.75	2,736
現	7	1,893	270.43	1,276
観	3	806	268.67	1,480
文	11	2,688	244.36	3,672
異	8	1,659	207.38	580
理	7	871	124.43	1,168
法	10	1,209	120.90	2,340
ス	6	557	92.83	920
コ	13	832	64.00	1,400

◯LIVE 授業

LIVE授業	本数	視聴回数（計）	1 回あたり	収容定員（2023）
現	1	454	454.00	1,276
社	2	589	294.50	2,076
観	2	414	207.00	1,480
文	3	520	173.33	3,672
異	3	516	172.00	580
理	4	277	69.25	1,168
法	20	1,133	56.65	2,340
コ	8	344	43.00	1,400
営	4	63	15.75	1,540
済	0	0	0.00	2,736
ス	0	0	0.00	920

○資料 36　2022 年度オープンキャンパス分析報告書

１　書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 30

２　出典

本学が株式会社フロムページに依頼した調査報告書

３　書類等の利用範囲

基本集計、都道府県別集計、高校ランク×エリア集計等

４　その他の説明

公表することを前提とした調査報告書ではないため、公表を差し控える。

2023 年 1 月 19 日
（入試委員会資料）

2023 年度オープンキャンパスの「開催内容･日程」について

入学センター

2023 年度オープンキャンパスの「開催内容･日程」については、第 10 回入試委員会（2022 年 12 月 1 日）で協議し、その後 2023 年 1 月 10 日を期限に各学部に回答を依頼した。ご意見を踏まえて、2023 年度のオープンキャンパスの開催日程を下記のとおりとすることを提案する。なお、回答でいただいたご意見は今後のオープンキャンパスの運営や次年度以降のオープンキャンパスの開催日程の検討の際の参考とさせていただきたい。

記

１．開催形態【2022 年 12 月 1 日了承内容確認】

● 池袋キャンパス・新座キャンパスでの対面開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を注視しつつ、可能な限りコロナ禍前の実施形態に戻し、来場型プログラムをメインとしたオープンキャンパスとする。キャンパス内への入構については制限をかけず、プログラム単位で予約する形態とする。学部説明や体験授業は事前予約制とするが、キャンパスツアーや職員相談コーナーは事前予約不要の当日参加申込型のプログラムとして実施する。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、入構制限をする場合もあることを想定して準備を進める。

● 学部説明と体験授業の実施

各学部には学部説明と体験授業の実施をお願いする。体験授業は学科・専修単位で各日２回（新座４学部は合計６回）の実施をお願いしたい。

２．開催日時・プログラム【再提案】

池袋キャンパス：8 月 3 日（木）～5 日（土）　10:00～17:00
新座キャンパス：8 月 7 日（月）～8 日（火）　10:00～17:00

<table>
<tr><th>月日</th><th>会場</th><th>時間</th><th>開催学部</th><th>プログラム内容</th></tr>
<tr><td>8/3（木）</td><td rowspan="3">池袋</td><td rowspan="5">10：00
～
17：00</td><td>理、社会、法、観光</td><td rowspan="3">・大学説明会、入試説明会
・学部説明、体験授業（学科・専修単位）
・学生相談
・キャンパスツアー、資料配布コーナー
・職員相談コーナー　等</td></tr>
<tr><td>8/4（金）</td><td>文、異文化コミュニケーション、
現代心理、GLAP</td></tr>
<tr><td>8/5（土）</td><td>経済、経営、コミュニティ福祉、
スポーツウエルネス</td></tr>
<tr><td>8/7（月）</td><td rowspan="2">新座</td><td>観光、コミュニティ福祉、
現代心理、スポーツウエルネス</td><td rowspan="2">・大学説明会、入試説明会
・学部説明、体験授業（学科単位）
・学生相談
・キャンパスツアー、資料配布コーナー
・職員相談コーナー　等</td></tr>
<tr><td>8/8（火）</td><td>観光、コミュニティ福祉、
現代心理、スポーツウエルネス</td></tr>
</table>

３．各日の開催内容（案）

（１）８月３日（木）池袋キャンパス

	1	2	3	4	5
	10:00～10:50	11:00～11:50	12:40～13:30	14:00～14:50	15:10～16:00
理	学部説明		学部説明		学部説明
		数学体験	物理体験	数学体験	物理体験
		化学体験	生命理学体験	化学体験	生命理学体験
社会	学部説明	社会体験	学部説明	社会体験	学部説明
		現代文化体験	メディア体験	現代文化体験	メディア体験
法	学部説明	法体験	学部説明	法体験	学部説明
		国際体験	政治体験	国際体験	政治体験
観光	学部説明	観光体験	学部説明	観光体験	学部説明
		交流体験		交流体験	

（２）８月４日（金）池袋キャンパス

	1	2	3	4	5
	10:00～10:50	11:00～11:50	12:40～13:30	14:00～14:50	15:10～16:00
文	学部説明	キリスト教体験	学部説明	キリスト教体験	学部説明
		英米体験	ドイツ体験	英米体験	ドイツ体験
		フランス体験	日本文学体験	フランス体験	日本文学体験
		文芸・思想体験		文芸・思想体験	
		世界史体験	日本史体験	世界史体験	日本史体験
			超域文化体験		超域文化体験
		教育体験		教育体験	
異文化	学部説明	異文化体験	学部説明	異文化体験	学部説明
現代心理	心理説明	心理体験	心理説明	心理体験	心理説明
	映像身体説明	映像身体体験	映像身体説明	映像身体体験	映像身体説明
GLAP	GLAP説明	GLAP体験	GLAP説明	GLAP体験	GLAP説明

（３）８月５日（土）池袋キャンパス

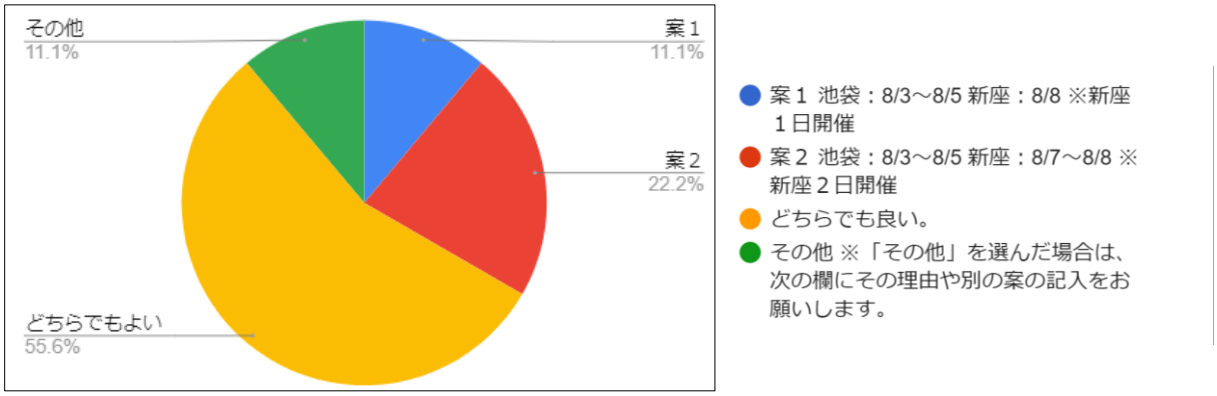
	1	2	3	4	5
	10:00～10:50	11:00～11:50	12:40～13:30	14:00～14:50	15:10～16:00
経済	学部説明	経済体験	学部説明	経済体験	学部説明
		経済政策体験	会計体験	経済政策体験	会計体験
経営	学部説明	経営体験	学部説明	経営体験	学部説明
		国際経営体験		国際経営体験	
コミュニティ福祉	学部説明	福祉体験	学部説明	コミ政体験	学部説明
			コミ政体験		福祉体験
スポーツウエルネス	学部説明	体験授業	学部説明	体験授業	学部説明

（4）8 月 7 日（月）・8 日（火）新座キャンパス

	1	2	3	4	5
	10:00～10:50	11:00～11:50	12:40～13:30	14:00～14:50	15:10～16:00
観光	学部説明	観光体験	学部説明	観光体験	学部説明
		交流体験		交流体験	
コミュニティ福祉	学部説明	福祉体験	学部説明	コミ政体験	学部説明
			コミ政体験		福祉体験
現代心理	心理説明	心理体験	心理説明	心理体験	心理説明
	映像身体説明	映像身体体験	映像身体説明	映像身体体験	映像身体説明
スポーツウエルネス	学部説明	体験授業	学部説明	体験授業	学部説明

4．回答内容

（1）開催日程について



※「その他」を選択したご意見

新座は２日開催を希望いたします。 その場合、８月３日（木）、４日（金）を新座、８月５日・７日・８日を池袋開催ということでご検討をお願いできますでしょうか。

理由：

①新座を月曜日・火曜日の連日開催にしても効果が薄いのではないか。

②池袋で開催される前に新座で開催することで来客を増やすことが可能になるのではないか。

（2）2023 年度のオープンキャンパス開催に向けてご意見

・予定されている模擬授業 2 つの他に、もう一つ DLP 用の模擬授業を実施したい。
・コロナ前に実施していたポスター発表を実施したい。
・オンデマンド動画を配信・掲載したい。
・学部独自のオンラインコンテンツも実施したい。
・学部独自のプログラムを行うかについては検討中です。
・学部説明・模擬授業以外の学部独自プログラムも実施したい。
・具体的に来年度に向けて協議したわけでないが、学部独自のプログラム、例えば、施設ツアーを実施したい。
・学部説明と模擬授業以外に学部独自のプログラムの実施を検討している。
・学部独自のオンラインコンテンツの作成を検討している。
・オンラインコンテンツ（たとえば動画）について，新たに作成することには消極的です。とくに本年度のような春休み中（2022 年 3 月）の出演教員・出演学生募集には無理があったためです。ただし，これまでに作成した動画等が有効に活用できるのであれば使用することに反対はありません。
・日曜日の開催は難しいでしょうか。事務体制上のご負担が大きくなることは考慮しなけれ

ばなりませんが、最も効果が高いのは日曜日であるように思いますので、新座で日曜日開催　できるのであれば期待したいところです。日曜日の開催が難しい場合、土曜日の開催を、池袋・新座で隔年で実施するというのはどうか、という意見も出されました。

以上



トピックス
2023
2022
2021
2020
2019
2018
2017
2016
2015

2022年度講演会・シンポジウム（開催情報）

2023年2月19日

公開講演会

～言語と社会や文化を＜つなぐ＞：世界と切り結ぶ異文化コミュニケーション～

2022年10月14日（金）17:30～19:30 開催終了
「翻訳：実務者と研究者の関係を再考する」
詳細はこちら

2022年12月15日（木）18:00～19:40 開催終了
公開講演会「自分事として考えるロヒンギャ難民問題」
詳細はこちら

2023年2月18日（土）14:00～16:30 開催終了
公開講演会「演劇と抵抗：48/イスラエルでパレスチナ人のナラティヴを表現する取り組み」
詳細はこちら

キャリアシンポジウム

2022年10月29日（土）9:30～12:30
「問われる異文化コミュニケーションのカー国際協力×通訳・翻訳ー」
詳細はこちら

キャリア講演会

2023年1月21日（土）13:30～15:00
「グローバルに働くって何？～異文化体験のその先にあるキャリア～」
詳細はこちら

学部案内
学部について
教育の特色

カリキュラム
カリキュラム構成
Dual Language Pathway
取得できる資格（専門職への道）
授業紹介

教員・研究
教員紹介
教員インタビュー
学部紀要

海外留学
多様な留学制度
留学レポート

キャリア
キャリアサポート
インタビュー

キャンパスライフ
地域貢献
実践的な活動
学生生活
異文化コミュニケーション学部の学生団体

入学案内
入試案内
5年一貫プログラム
奨学金
資料請求
オープンキャンパス
デジタルパンフレット

©2023 The College of Intercultural Communication, Rikkyo University

公開講演会「翻訳：実務者と研究者の関係を再考する」

異文化コミュニケーション学部 主催

使用言語：英語（通訳なし）

INFORMATION

2022年10月14日（金）17:30～19:30

池袋キャンパス マキムホール（15号館）2階 M202教室

公開講演会「翻訳：実務者と研究者の関係を再考する」
～学部公開講演会『言語と社会や文化を＜つなぐ＞：世界と切り結ぶ異文化コミュニケーション』の一環として～

異文化コミュニケーション学部・研究科では、2016年度より通訳者・翻訳者を養成するカリキュラムを実施する一方、通訳翻訳研究分野で活発な研究活動を展開してきた。研究対象とする事象に自ら実践者として関与する研究者が大多数を占めるという特徴を持つ通訳翻訳研究（Translation and Interpreting Studies）では、「理論・研究と実践の架橋」が主題の一つとなってきた。翻訳理論家のチェスタマン（Andrew Chesterman）と欧州委員会翻訳者のワグナー（Emma Wagner）との対話に基づくCan Theory Help Translators?: A Dialogue Between the Ivory Tower and the Wordface（2002年）が刊行されて20年。機械翻訳の急速な展開やコロナ禍で加速したネット上のコミュニケーションの進展を背景とし、翻訳をとりまく環境は大きく変化した。翻訳の「民主化」、プロでない翻訳者（non-professional translators）、災害やパンデミックなどの危機に対応する翻訳（crisis translation）、機械翻訳と人手翻訳の関係などに注目が集まる中、翻訳の実務者コミュニティと研究者コミュニティの関係についてあらためて議論する機会を設ける。本講演会では、本学国際学術研究交流制度2022年度招へい研究員であるアンソニー・ピム教授（メルボルン大学）に、「翻訳者と研究者との『正しい』関係」についてお話しいただく。ピム教授は世界で最も影響力のある翻訳研究者の一人として、常に刺激的な議論を先導してきた。学生、研究者だけでなく、実務者、一般参加者にとっても、示唆に富む講演会になると考える。

講師

メルボルン大学言語・言語学部教授

Anthony Pym（アンソニー・ピム） 氏

オーストラリア・パース出身。1985年、フランス・社会科学高等研究院（École des hautes études en sciences sociales）で社会学博士号を取得。現在、メルボルン大学言語・言語学部教授。元・欧州翻訳学会会長。世界で最も著名な翻訳研究者の一人。書籍・論文の引用件数の多さでも翻訳研究分野では比類のない存在。代表的著作として*Exploring Translation Theories*（2010/2014）（邦訳『翻訳理論の探究』）、*On Translator Ethics*（2012）、*Method in Translation History*（1998/2014）など。

詳細情報

名称

公開講演会「翻訳：実務者と研究者の関係を再考する」

内容

＜プログラム＞
17:30～19:00　アンソニー・ピム教授による講演
使用言語：英語（通訳なし）、後日ビデオ配信
「On the correct relation between translators and academics」
要旨：国際的に見て、現在、大学・大学院の翻訳通訳プログラム卒業生の3分の2は翻訳者・通訳者以外の仕事に従事している。また、世界で日々生み出される翻訳のうちプロ翻訳者によるものは1％に満たない。つまり、翻訳に関する論考から恩恵を受けるかもしれない人々はプロ翻訳者だけでなく広範囲に及ぶ可能性がある。こうした状況に留意した新たな角度から翻訳の歴史的・文化的側面を考察することで、研究者・実務者両方に恩恵をもたらす関係を築く道筋が模索できる。

19:00～19:30　質疑応答
使用言語：英語（通訳なし）

対象者

本学学生、教職員、校友、一般

申し込み

事前申し込み 不要
参加費 無料

主催

異文化コミュニケーション学部

お問い合わせ

学部事務4課　異文化コミュニケーション学部担当

E-mail:ibunkagakubu@rikkyo.ac.jp
TEL:03-3985-4824

Copyright © Rikkyo University. All Rights Reserved.

RIKKYO'S SOCIAL MEDIA

公開講演会「自分事として考えるロヒンギャ難民問題」

異文化コミュニケーション学部 主催

事前申込要

INFORMATION

2022年12月15日（木）18:00～19:40

ハイブリッド型開催（対面・オンライン）
池袋キャンパス マキムホール（15号館）3階 M301教室

公開講演会「自分事として考えるロヒンギャ難民問題」
～学部公開講演会『言語と社会や文化を＜つなぐ＞：世界と切り結ぶ異文化コミュニケーション』の一環として～

UNHCRによると、2022年、難民や国内避難民などの強制移動者数は1億人を突破し、過去70年間で最大となった。国民国家からの庇護を前提とした社会秩序から外れた人びとの不安や不満、厳しい生活状況を放置すれば、民族間・宗教間の断絶が深まり、国際社会全体が不安定化する恐れがあることから、複合的な難民研究の重要性が高まりを見せている。
日本においてもウクライナやアフガニスタンからの難民受け入れを巡り、難民制度や受入実施体制に関する議論が熱を帯びている。しかしながら一方で、日本の難民認定者数が極めて限られていることなどの理由から、実際に難民となって日本で暮らす人びとのストーリーを直に聞く機会は限られている。それゆえ、国際的には極めて大きな課題でありながら、日本では難民問題を身近な問題として捉えることが困難な状況が生まれている。
本公開講演会は、難民として日本に暮らす長谷川留理華氏をお招きし、ロヒンギャ難民を事例に、難民となった人びとが母国を離れ、第三国へとたどり着き、社会に適応するまでの軌跡を当事者の視点から論じ、日本の難民受入課題とともに理解を深めることを目的とする。また、日本の移民・難民研究を専門とする武庫川女子大学の加藤丈太郎氏の発表、および異文化コミュニケーション学部・研究科の学生らとの討論を通じて、どうすれば難民問題を日本社会が「自分事」として捉えることが可能になるのか、議論を深めたい。

講師

在日ロヒンギャ難民、ロヒンギャ語翻訳家、無国籍ネットワーク理事

長谷川　留理華 氏

ミャンマー北西のラカイン州（アラカン）に生まれる。1992年に首都ヤンゴンに家族とともに移る。身の安全のためロヒンギャ民族であることを公にせずに生活を送る。2001年に度重なる迫害や差別から家族とともに来日。2013年に日本人となる。現在、在日ビルマ・ロヒンギャ協会、無国籍ネットワーク理事。ロヒンギャ語の翻訳等の業務を行うかたわら、早稲田大学、立教大学、上智大学、獨協大学等で講演。NHK ETV、OUTUBEの報道チャンネル等の番組に出演して自身の体験した社会問題を広く伝える活動を行っている。

武庫川女子大学専任講師

加藤　丈太郎 氏

1981年東京都生まれ。武庫川女子大学文学部英語文化学科専任講師。早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士後期課程修了。博士（学術）。専門は移民研究、国際労働移動、国際社会学、多文化共生論。2017年3月までNGOにおいて非正規移民に在留資格を求める活動に従事。2017年4月に研究の道に転じ、現在は主にベトナムから日本への国際労働移動による日本・ベトナム社会への影響を研究している。また、大学生と共に国際移動・多文化共生のあり方を考えている。主な著作に、『日本の非正規移民ー「不法性」はいかにつくられ維持されるか』（単著、2022、明石書店）、『多文化共生 人が変わる、社会を変える』（共著、2018年、凡人社）『ロヒンギャ問題とは何か――難民になれない難民』（日下部尚徳・石川和雅編著、第6章分担執筆、2019、明石書店）がある。

本学異文化コミュニケーション学部4年次

リュウ　イオギ（LIU YIDI） さん

本学大学院異文化コミュニケーション研究科博士課程前期課程2年次

川野　優希 さん

詳細情報

名称

公開講演会「自分事として考えるロヒンギャ難民問題」

内容

＜プログラム＞
18:00～18:15
ロヒンギャ難民問題の概要説明ークーデター以降の動向も踏まえてー
（日下部尚徳）
18:15～18:45
ミャンマーの少数民族ロヒンギャとして生まれたわたしが日本で生きて、今語りたいことーいじめと差別を乗り越えてー（長谷川留理華氏）
18:45～19:10
移民・難民との共生に向けてー私たちにできることを考える ー（加藤丈太郎氏）
19:10～19:25
異文化コミュニケーション学部・研究科の学生との討論

19:25～19:40
質疑応答

対象者

本学学生、教職員、校友、一般

申し込み

事前申し込み 必要
参加費 無料

以下のwebサイトよりお申し込みください。

→ 申込みはこちら

主催

異文化コミュニケーション学部

お問い合わせ

学部事務4課 異文化コミュニケーション学部担当

E-mail:ibunkagakubu@rikkyo.ac.jp
TEL:03-3985-4824
開室時間：平日9:00～17:00、土曜9:00～12:30

Copyright © Rikkyo University. All Rights Reserved.

RIKKYO'S SOCIAL MEDIA

公開シンポジウム「演劇と抵抗：48/イスラエルでパレスチナ人のナラティヴを表現する取り組み」

科学研究費学術変革領域研究(A)「紛争影響地域における信頼・平和構築」主催

使用言語：英語（通訳あり） 事前申込要

INFORMATION

2023年2月18日（土）14:00～16:30（13:30開場）

池袋キャンパス 5号館1階 5125教室

イスラエル国内で、パレスチナ人のナラティヴをどうしたら語ることができるのか。テルアヴィヴを拠点に活動する劇作家で俳優のエイナット・ヴァイツマン氏をゲストに迎え、演劇を通してパレスチナ人の声をイスラエル社会に響かせる活動を事例に考える。エイナット氏は、「パレスチナ・イヤーゼロ（Palestine, Year Zero）」（2016年）や「占領の囚人たち（Prisoners of the Occupation）」（2019年）、「革命の作り方（How to Make a Revolution）」（2021～22年）など、イスラエル軍によるパレスチナ自治区への軍事侵攻や、パレスチナ人政治囚、イスラエルとパレスチナ自治政府の治安協力をテーマとした演劇を精力的に発表してきた。また、イスラエル南部ネゲヴのベドウィンの村で、アートを通した人権活動にも関与している。パレスチナ／イスラエルを舞台に、芸術を通して紛争を語り、社会を変えようとする活動について、講演と対談により報告する。

講師

劇作家、俳優、人権活動家

エイナット・ヴァイツマン（Einat Weizman） 氏

1973年生まれ。イスラエルのテルアヴィヴを拠点に、イスラエル社会で顧みられることが稀な社会問題を演劇活動のなかで扱う。演者としてイスラエル国内の映画やテレビで活動するにとどまらず、パレスチナ人の人権状況を扱った演劇を多数演

出。2017年には演出作『パレスチナ・イヤーゼロ』が東京でも上演された。テルアヴィヴ大学で修士号取得、大学等で演劇のコースも担当し、2022年11月イスラエル総選挙ではアラブ系政党バラドからリスト第6位で出馬。「占領の囚人たち」は、2023年2月17日から26日まで、東京下北沢の「劇」小劇場で上演される。

通訳者

日英アラビア語通訳者・翻訳者

渡辺　真帆 氏

東京外国語大学アラビア語専攻卒。パレスチナ・ヨルダン川西岸地区ビールゼイト大学留学。2016年よりフリーランスで通訳を行う。芸術・文化交流・学術イベント等の通訳実績多数。エイナット・ヴァイツマン作の演劇作品『パレスチナ、イヤーゼロ』『占領の囚人達』翻訳。

詳細情報

名称

公開シンポジウム「演劇と抵抗：48/イスラエルでパレスチナ人のナラティヴを表現する取り組み」

対象者

本学学生、教職員、校友、一般

申し込み

事前申し込み 必要
参加費 無料

【定員】
60名

以下のwebサイトよりお申し込みください。

申込みはこちら

主催

科学研究費学術変革領域研究（A）「紛争影響地域における信頼・平和構築」

共催

異文化コミュニケーション学部

備考

イスラーム信頼学

お問い合わせ

アジア地域研究所所長、異文化コミュニケーション学部教授
石井　正子

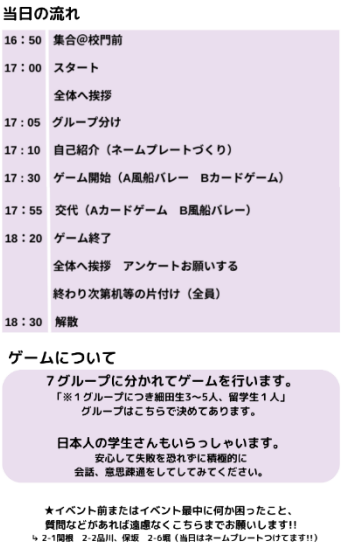
E-mail:masang@rikkyo.ac.jp

Copyright © Rikkyo University. All Rights Reserved.

RIKKYO'S SOCIAL MEDIA

特外生イベント実施報告（細田学園高校との共同イベント）

イベント名：International Exchange Event with High School Students
日時：2023 年 1 月 20 日（金）17:00～18:30
場所：立教大学池袋キャンパス　5209、5210 教室
参加者：立教　7 名（内特外生 5 名（学部間 4 名・大学間 1 名））
　　細田学園　34 名（生徒 32 名、引率教員 2 名）











〇資料 40　日本企業のグローバル戦略に関する研究
（独立行政法人労働政策研究・研修機構（190329））【抜粋】

１　書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 40

２　出典

独立行政法人労働政策研究・研修機構ウェブサイト

３　書類等の利用範囲

調査シリーズ No. 190 日本企業のグローバル戦略に関する研究（P1, 28, 47, 90 等）
https://www.jil.go.jp/institute/research/2019/190.html

４　その他の説明

異文化コミュニケーション学部の教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

〇資料 41　日本企業のグローバル戦略に関する研究（２）
（独立行政法人労働政策研究・研修機構（200307））【抜粋】

１　書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 41

２　出典

独立行政法人労働政策研究・研修機構ウェブサイト

３　書類等の利用範囲

資料シリーズ No.229 日本企業のグローバル戦略に関する研究（２）（P5,23～25 等）
https://www.jil.go.jp/institute/siryo/2020/229.html

４　その他の説明

異文化コミュニケーション学部の教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

〇資料 42　2021 年度日本企業の海外事業展開に関するアンケート調査（JETRO）【抜粋】

１　書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 42

２　出典

独立行政法人日本貿易振興機構ウェブサイト

３　書類等の利用範囲

［報告書版］2021 年度ジェトロ海外ビジネス調査　日本企業の海外事業展開に関するアンケート調査（P2, 15, 21 等）

https://www.jetro.go.jp/ext_images/_Reports/01/12f5036312ce9e76/20210064rev2.pdf

４　その他の説明

異文化コミュニケーション学部の教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

〇資料 43　人手不足に対する企業の動向調査（2022 年 10 月）

１　書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 43

２　出典

TDB Economic Online

３　書類等の利用範囲

人手不足に対する企業の動向調査（2022 年 10 月）

https://www.tdb-di.com/special-planning-survey/sp20221130.php

４　その他の説明

異文化コミュニケーション学部の教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

〇資料 44　日経新聞記事（2022 年 10 月 21 日）

１　書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 44

２　出典

日経新聞（2022 年 10 月 21 日）

３　書類等の利用範囲

記事見出し「宿泊・飲食の人手不足 深刻」

４　その他の説明

異文化コミュニケーション学部の教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

○資料 45　人手不足に対する企業の動向調査（東京都）

１　書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 45

２　出典

TDB Economic Online

３　書類等の利用範囲

人手不足に対する企業の動向調査（東京都）

https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/s180301_98.pdf

４　その他の説明

異文化コミュニケーション学部の教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

○資料 46　観光関連産業の需要回復に向けた人材確保支援（東京都）

１　書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 46

２　出典

東京都ウェブサイト

３　書類等の利用範囲

報道発表資料『新規事業「観光関連産業の需要回復に向けた人材確保支援事業」を実施します』
https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2022/12/15/11.html

４　その他の説明

異文化コミュニケーション学部の教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

〇資料 47　東京グローバル人人材育成指針（東京都教育委員会）（令和４年３月）（抜粋）

１　書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 47

２　出典

東京都ウェブサイト

３　書類等の利用範囲

東京グローバル人人材育成指針（東京都教育委員会）（令和４年３月）（P2, 3, 6～8 等）

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/administration/general/regular_meeting/2022/files/announcement20220322/04_2.pdf

４　その他の説明

異文化コミュニケーション学部の教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

○資料 48　公立学校教員採用候補者選考結果（東京都）

１　書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 48

２　出典

東京都ウェブサイト

３　書類等の利用範囲

報道発表資料『令和 4 年度東京都公立学校教員採用候補者選考（5 年度採用）の結果について』

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/administration/general/regular_meeting/2022/files/announcement20220322/04_2.pdf

４　その他の説明

異文化コミュニケーション学部の教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

〇資料 49　教員確保策充実の方向性について（東京都教育委員会）

１　書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 49

２　出典

東京都ウェブサイト

３　書類等の利用範囲

報道発表資料『教員確保策充実の方向性について』

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/press/press_release/2023/files/release20230112_02/bessi.pdf

４　その他の説明

異文化コミュニケーション学部の教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

資料 50　学位授与の方針の学修成果と「東京グローバル人材育成方針」が掲げる「４つの TARGET」との関係

学位授与の方針の学修成果	「東京グローバル人材育成方針」が掲げる「４つの TARGET」
①論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。	2　国内外の課題を解決する創造的･論理的思考力の育成 3　世界の中の一員としての自覚と自己の確立
②自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。	3　世界の中の一員としての自覚と自己の確立 4　多文化共生の精神の涵養と協働する力の育成
③グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。	1　主体的に学び続ける態度と総合的な英語力の育成
④多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来､より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、それを踏まえて行動することができる。	1　主体的に学び続ける態度と総合的な英語力の育成 4　多文化共生の精神の涵養と協働する力の育成
⑤日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	3　世界の中の一員としての自覚と自己の確立 4　多文化共生の精神の涵養と協働する力の育成
⑥異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間･国家間･地域間･世代間･個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	2　国内外の課題を解決する創造的･論理的思考力の育成 4　多文化共生の精神の涵養と協働する力の育成
⑦教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	3　世界の中の一員としての自覚と自己の確立
⑧文化や言語の多様性を理解し､多様な他者とよりよい関係性を築き､ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことできる。	3　世界の中の一員としての自覚と自己の確立 4　多文化共生の精神の涵養と協働する力の育成

〇資料 51　外国人留学生の就職関係（文部科学省）

１　書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 50

２　出典

東京都ウェブサイト

３　書類等の利用範囲

外国人留学生の就職関係

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1370919.htm

４　その他の説明

異文化コミュニケーション学部の教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

〇資料 52　新輸出大国コンソーシアム事業　高度外国人材活用資料集（JETRO）（抜粋）

１　書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 52

２　出典

独立行政法人日本貿易振興機構ウェブサイト

３　書類等の利用範囲

高度外国人材活用資料集（P2, 4 等）

https://www.jetro.go.jp/ext_images/theme/hr/data/data.pdf

４　その他の説明

異文化コミュニケーション学部の教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　　長　　の　　氏　　名　　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
―	学長	ニシハラ　レンタ 西原　廉太 ＜令和3年4月1日＞	61	博士 (神学)		立教大学学長 （令和3.4～令和7.3）